

# 摂津における中世城館の調査

2022年3月

大阪府教育委員会



## はしがき

大阪府は摂津、河内、和泉の三国からなり、それぞれの地域が密接にかかわりながら、多様な歴史・文化が育まれてきました。旧摂津国は大阪府北部から兵庫県東部にあたり、現在の大坂の中心地である大阪市をはじめ府下 11 市町が含まれます。

摂津国は、中世を通じて京と西国をむすぶ地域として重要な位置を占めました。南北朝時代の動乱においては南河内が主たる戦場となりましたが、摂津においても城館や古戦場址の伝承などが残されています。南北朝合一後には細川氏が摂津国を支配するに至りましたが、その後、細川家の家督争いをはじめとする戦国の騒乱のなかで、「最初の天下人」とも称される三好長慶が居城とした芥川城、織豊系城郭の典型である豊臣秀吉の大坂城など、諸大名や国人層により大小の城館や砦などが次々と築かれました。これらの中には往時の在り様を物語る遺跡として、現在でもその姿を今に遺しているものもあります。

大阪府教育委員会では、これらの歴史的に重要な遺跡について、計画的な保存と活用をはかるべく、中世城館等の調査を進めてきました。これまでに河内地域の中世城館について調査を実施し、すでに『南河内における中世城館の調査』・『北・中河内における中世城館の調査』を刊行しています。

今回は、大阪北部にあたる摂津地域の中世城館等について、資料収集等の調査を行いました。すでに報告した河内地域の中世城館と合わせ、大阪府のみならず、日本の歴史を解明するための基礎資料となるものです。本書が本地域の中世史研究、ならびに文化財保護行政に活用されるものと期待しています。

最後になりましたが、調査にご協力いただきました各市町文化財保護行政主管課、ならびに調査にご指導、ご協力いただいた皆様に対して厚く御礼申し上げます。

令和 4 年 3 月

大阪府教育庁 文化財保護課長  
稻田 信彦



## 例　言

- 1 本書は、大阪府の摂津地域における中世城館等の分布調査報告書である。
- 2 調査は、大阪府教育委員会の依頼により、旧摂津国に属する、大阪市、豊中市、池田市、吹田市、高槻市、茨木市、箕面市、摂津市、島本町、豊能町、能勢町の文化財保護行政主管課の協力によって、令和元年度から令和3年度に実施した。
- 3 本書は、各市町文化財保護行政主管課により作成された「城館・城郭一覧表」および「城館跡詳細調査台帳」の内容をもとに、大阪府教育庁文化財保護課 小泉 翔太・市川 創・北川 咲子が編集作業を行った。本書中の城館等については、主として各市町の担当者が台帳に記載したものに依拠しているが、必要に応じて編者が追加、加筆、補足等を行った。
- 4 各市町文化財保護行政主管課の担当者・担当機関は下記のとおりである。本書作成において多大な協力をいただきました。深謝申し上げます（順不同、敬称略）。

大阪市教育委員会	櫻田 小百合	豊中市教育委員会	橘田 正徳
池田市教育委員会	中西 正和	吹田市教育委員会	田中 充徳
高槻市街にぎわい部	中西 裕樹・早川 圭	茨木市教育委員会	清水 邦彦・坂田 典彦
箕面市教育委員会	泉谷 英雄	摂津市教育委員会	八田 邦敏
島本町教育委員会	木村 友紀	豊能町教育委員会	小嶋 均
能勢町教育委員会	今村 浩・川上 拓真		

- 5 第4章第1節は大阪府教育庁文化財保護課 原田 昌浩・小泉 翔太が執筆した。第2節は高槻市街にぎわい部 早川 圭が執筆した。
- 6 資料の掲載等にあたっては、各市町のほか、下記の機関のご配慮を賜りました。深謝申し上げます。  
大阪府立公文書館、大阪府立中之島図書館、堺市立博物館、吹田市立博物館、広島市立中央図書館（順不同）
- 7 第3章に掲載した空中写真のうち、出典の明示がないものはすべて国土地理院撮影である。

## 目 次

第1章 調査の目的と経過.....	1
1 調査の目的 .....	1
2 調査の経過 .....	1
第2章 地理的・歴史的環境.....	5
1 地理的環境 .....	5
2 歴史的環境 .....	6
第3章 中世城館調査資料.....	7
1 城館等一覧表および分布図 .....	7
(1) 城館等一覧表 .....	7
(2) 分布図 .....	7
2 調査資料 .....	39
(1) 城館等資料一覧表 .....	39
(2) 各城館等資料 .....	48
大阪市域 .....	49
豊中市域 .....	88
池田市域 .....	93
吹田市域 .....	100
高槻市域 .....	106
茨木市域 .....	140
箕面市域 .....	177
摂津市域 .....	182
豊能町域 .....	184
能勢町域 .....	203
第4章 摂津における中世城館の様相.....	225
1 豊能郡能勢町・豊能町域における中世城館の分布・測量調査報告 .....	225
2 芥川山城（芥川城）について .....	246
第5章 総括.....	249
1 摂津における中世城館の分布の概要 .....	249
2 時期別の特徴 .....	249
3 摂津における中世城館の様相 .....	250
引用・参考文献.....	251

## 図目次

図1 城館等調査台帳(1) ······	2	図48 「東摂城址図誌」より「我孫子城跡」·····	60
図2 城館等調査台帳(2) ······	3	図49 仮製二万分の一地形図にみる我孫子城 ···	60
図3 大阪府北部の中世遺跡および街道遺跡 ···	5	図50 堀城跡伝承地 位置図 ······	61
図4 分布図配置図および凡例(現在地図) ······	13	図51 「堀村地籍図」·····	61
図5 摂津地域の中世城館等分布図(1) ······	14	図52 「東摂城址図誌」より「堀城跡」·····	61
図6 摂津地域の中世城館等分布図(2) ······	15	図53 三津屋城跡伝承地 位置図 ······	62
図7 摂津地域の中世城館等分布図(3) ······	16	図54 「三津屋村字堀之内の図」·····	62
図8 摂津地域の中世城館等分布図(4) ······	17	図55 仮製二万分の一地形図にみる三津屋城 ···	62
図9 摂津地域の中世城館等分布図(5) ······	18	図56 「東摂城址図誌」より「三津屋城跡」·····	62
図10 摂津地域の中世城館等分布図(6) ······	19	図57 大和田城跡伝承地 位置図 ······	63
図11 摂津地域の中世城館等分布図(7) ······	20	図58 「大和田村字城垣内の図」·····	63
図12 摂津地域の中世城館等分布図(8) ······	21	図59 仮製二万分の一地形図にみる大和田城 ···	63
図13 摂津地域の中世城館等分布図(9) ······	22	図60 「東摂城址図誌」より「大和田塁」·····	63
図14 摂津地域の中世城館等分布図(10) ······	23	図61 茶臼山陣城 位置図・調査地図 ······	65
図15 摂津地域の中世城館等分布図(11) ······	24	図62 「浅野文庫所蔵 諸国古城之図」より 「茶臼山御陣城図」·····	65
図16 摂津地域の中世城館等分布図(12) ······	25	図63 「茶臼山御陣城図」をもとにした復元図 ···	65
図17 分布図配置図および凡例(明治期地図) ···	26	図64 葱生城推定地 位置図 ······	66
図18 摂津地域の中世城館等分布図(1) ······	27	図65 葱生城 小字図 ······	66
図19 摂津地域の中世城館等分布図(2) ······	28	図66 平野環濠 位置図・調査図 ······	67
図20 摂津地域の中世城館等分布図(3) ······	29	図67 「摂州平野大絵図」·····	67
図21 摂津地域の中世城館等分布図(4) ······	30	図68 「平野区小字地図・平野」·····	68
図22 摂津地域の中世城館等分布図(5) ······	31	図69 浦江城推定地 位置図 ······	69
図23 摂津地域の中世城館等分布図(6) ······	32	図70 浦江城 小字図 ······	69
図24 摂津地域の中世城館等分布図(7) ······	33	図71 瓜破城 位置図 ······	70
図25 摂津地域の中世城館等分布図(8) ······	34	図72 瓜破城 小字図 ······	71
図26 摂津地域の中世城館等分布図(9) ······	35	図73 瓜破城跡(全田家文書) ······	71
図27 摂津地域の中世城館等分布図(10) ······	36	図74 江口城推定地 位置図 ······	73
図28 摂津地域の中世城館等分布図(11) ······	37	図75 「東摂城址図誌」より「江口城跡」·····	73
図29 摂津地域の中世城館等分布図(12) ······	38	図76 穢多埼砦推定地 位置図 ······	74
図30 大坂城(豊臣氏) 位置図 ······	50	図77 喜連環濠 位置図 ······	74
図31 大坂城(豊臣氏) 繩張図 ······	50	図78 喜連環濠 小字図 ······	75
図32 特別史跡大坂城跡(南西から) ······	51	図79 仮製二万分の一地形図にみる喜連城 ······	75
図33 毛馬城跡 位置図 ······	52	図80 「東摂城址図誌」より「喜連城跡」·····	75
図34 仮製二万分の一地形図にみる毛馬城跡 周辺の旧地形 ······	52	図81 正覚寺城 位置図 ······	76
図35 榎並城跡 位置図 ······	53	図82 正覚寺城 小字図 ······	76
図36 野田城跡伝承地 位置図及び調査地 ···	54	図83 仮製二万分の一地形図にみる正覚寺城 ···	76
図37 野田城跡伝承地 小字図 ······	54	図84 新庄城推定地 位置図 ······	77
図38 寺岡砦 位置図 ······	55	図85 異城推定地付近 位置図 ······	78
図39 仮製二万分の一地形図にみる寺岡環濠 ·	55	図86 異城推定地付近 小字図 ······	78
図40 柴島城 位置図 ······	56	図87 天王寺城推定地付近 位置図 ······	79
図41 「大阪府西成郡西中島村大字柴島領 地図」·····	57	図88 大阪実測図にみる天王寺城 ······	79
図42 「東摂城址図誌」より「柴嶋城跡」·····	57	図89 「東摂城址図誌」より「天王寺城址」·····	79
図43 仮製二万分の一地形図にみる柴島城跡 周辺の旧地形 ······	57	図90 天満寺内町 位置図・調査地図 ······	81
図44 新堀城跡伝承地 位置図 ······	58	図91 天満寺内町の町割 ······	81
図45 仮製二万分の一地形図にみる新堀城跡 ·	58	図92 難波砦推定地 位置図 ······	82
図46 我孫子城 位置図 ······	59	図93 三津寺砦 位置図 ······	82
図47 「我孫子村絵図」·····	60	図94 横の岸砦推定地 位置図・調査地図 ···	83
		図95 大坂本願寺 位置図 ······	84
		図96 大坂本願寺の各種復元案 ······	84

図97	桑津環濠 位置図・調査地図	85
図98	桑津環濠集落	85
図99	遠里小野環濠 位置図	86
図100	遠里小野村大絵図	87
図101	原田城(北城)・原田城(南城) 位置図	88
図102	原田城(北城) 縄張図	89
図103	原田城(南城) 城域復元図	90
図104	原田城(南城) 堀跡検出状況	90
図105	今西氏屋敷 位置図	91
図106	今西氏屋敷 全体図	92
図107	今西氏屋敷 主要発掘調査区 遺構配置図	92
図108	池田城 位置図	93
図109	池田城 縄張図	94
図110	池田城 小字図	95
図111	池田城 航空写真(南から)	96
図112	池田城 近景(南から)	96
図113	池田城 近景(北から)	96
図114	『東摂城址図誌』より「吹田城跡」	100
図115	吹田城推定地 位置図	100
図116	吹田城推定地 大字・小字図	101
図117	吹田城 位置図	102
図118	『東摂城址図誌』より「山田城跡」	102
図119	山田城 位置図	103
図120	山田城周辺大字・小字図	103
図121	神境町環濠 遠景	103
図122	神境町環濠 位置想定図	104
図123	『橋本家文書』より「吹田村絵図」	105
図124	芥川山城 小字図	106
図125	芥川山城 位置図	106
図126	芥川山城 遺構概要図	107
図127	芥川山城 赤色立体図	107
図128	芥川山城 航空写真	108
図129	『東摂城址図誌』より「原城址」	108
図130	芥川山城 大手石垣	108
図131	芥川山城 曲輪⑦石垣	108
図132	芥川山城 曲輪①礎石建物(西から)	109
図133	秀吉本陣 位置図	110
図134	秀吉本陣 小字図	110
図135	秀吉本陣 航空写真	110
図136	高槻城 位置図	111
図137	高槻城 絵図	112
図138	高槻城 近世推定復元図	112
図139	高槻城三の丸 近世以前の遺構図	112
図140	高槻城 本丸・二ノ丸	113
図141	高槻城 航空写真	113
図142	田能城 位置図	114
図143	田能城 縄張図	114
図144	田能城 小字図	114
図145	田能城 航空写真	114
図146	田能城 遠望(南東から)	114
図147	田能城 絵図	115
図148	富田寺内町 位置図	116
図149	富田寺内町 小字図	116
図150	富田寺内町 航空写真	116
図151	富田寺内町 富田東岡宿絵図	117
図152	富田寺内町 江戸時代前期の富田	117
図153	帶仕山城 位置図	118
図154	帶仕山城 小字図	118
図155	帶仕山城 航空写真	118
図156	帶仕山城 概要図	119
図157	今城 位置図	120
図158	今城 縄張図	120
図159	今城 小字図	121
図160	今城 航空写真	121
図161	『東摂城址図誌』より「今城古跡」	121
図162	松永久秀屋敷 位置図	122
図163	松永久秀屋敷 小字図	122
図164	松永久秀屋敷 航空写真	122
図165	松永久秀屋敷 絵図	122
図166	上田部遺跡 位置図	123
図167	上田部遺跡 小字図	123
図168	上田部遺跡 航空写真	123
図169	上田部遺跡 航空写真(西から)	123
図170	上田部遺跡 屋敷地写真(南西から)	123
図171	上田部遺跡 遺構図	124
図172	神内遺跡 位置図	125
図173	神内遺跡 小字図	125
図174	神内遺跡 航空写真	125
図175	神内遺跡 屋敷地遺構写真 (南西から)	126
図176	神内遺跡 屋敷地遺構図	126
図177	宮田遺跡 位置図	127
図178	宮田遺跡 小字図	127
図179	宮田遺跡 航空写真	127
図180	宮田遺跡 遺構図	127
図181	芥川城 位置図	129
図182	芥川城 小字図	129
図183	芥川城 航空写真	129
図184	『東摂城址図誌』より「芥川城址」	129
図185	岡本砦 小字図	130
図186	岡本砦 航空写真	130
図187	岡本砦 位置図	130
図188	上牧砦 位置図	131
図189	上牧砦 小字図	131
図190	上牧砦 航空写真	131
図191	下村砦 位置図	132
図192	下村砦 小字図	132
図193	下村砦 航空写真	132
図194	高槻砦 小字図	133
図195	高槻砦 位置図	133
図196	田中城 位置図	134
図197	田中城 小字図	134
図198	田中城 航空写真	134
図199	柱本城 小字図	135
図200	柱本城 位置図	135

図201 服部砦 位置図	136	図254 穂積城 位置図	160
図202 服部砦 小字図	136	図255 穂積城 地籍図	161
図203 服部砦 航空写真	136	図256 穂積城 周辺地形図・標高断面図	161
図204 真上城 位置図	137	図257 水尾砦 位置図	162
図205 真上城 小字図	137	図258 水尾砦 地籍図	162
図206 真上城 航空写真	137	図259 『東摂城址図誌』より「水尾砦址」	162
図207 普門寺城 位置図	138	図260 『東摂城址図誌』より「耳原砦址」	163
図208 普門寺城 小字図	138	図261 耳原砦 位置図	163
図209 普門寺城 航空写真	138	図262 耳原砦 地籍図	164
図210 普門寺城 普門寺境内測量図	139	図263 目垣城 位置図	165
図211 『東摂城址図誌』より「泉原城跡」	140	図264 目垣城 地籍図	165
図212 泉原城 位置図	140	図265 池上砦 位置図	166
図213 泉原城 繩張図	141	図266 池上砦 地籍図	166
図214 泉原城 地籍図	141	図267 宿久城 位置図	167
図215 『東摂城址図誌』より「安威城跡」	142	図268 清水城 位置図	168
図216 安威城 位置図	142	図269 清水城 地籍図	168
図217 安威城 繩張図	143	図270 西河原砦 位置図	169
図218 安威城 地籍図	143	図271 西河原砦 地籍図	170
図219 茨木城 位置図	144	図272 総持寺砦 位置図	171
図220 茨木城 地籍図	144	図273 総持寺砦 地籍図	171
図221 『東摂城址図誌』より「茨木城址」	144	図274 下音羽城 位置図	172
図222 『東摂城址図誌』より「太田城址」	145	図275 下音羽城 繩張図	172
図223 太田城 発掘調査状況	145	図276 下音羽城 地籍図	172
図224 太田城 位置図	146	図277 郡遺跡・倍賀遺跡 位置図	173
図225 太田城 地籍図	146	図278 郡遺跡・倍賀遺跡 発掘調査状況	173
図226 『東摂城址図誌』より「佐保砦址」	147	図279 郡遺跡・倍賀遺跡 地籍図	174
図227 佐保城 位置図	147	図280 西福井遺跡 位置図	175
図228 佐保城 繩張図	148	図281 西福井遺跡 地籍図	175
図229 佐保城 地籍図	148	図282 西福井遺跡 遺構配置図	176
図230 福井城 位置図	149	図283 西福井遺跡 発掘調査状況	176
図231 福井城 繩張図	149	図284 塩山城 位置図	177
図232 『東摂城址図誌』より「福井城址」	150	図285 塩山城 繩張図	178
図233 福井城 航空写真(南より)	150	図286 塩山城 遠景	178
図234 『東摂城址図誌』より「蔵垣内城址」	151	図287 塩山城 発掘調査全景	178
図235 三宅城 位置図	151	図288 善福寺原城 位置図	179
図236 三宅城 繩張図	152	図289 粟生間谷城 位置図	180
図237 三宅城 地籍図	152	図290 黒丸城 近景	182
図238 安威砦 遠景(北より)	152	図291 黒丸城 位置図	182
図239 安威砦 位置図	153	図292 幣ノ木城 繩張復元図	184
図240 安威砦 繩張図	153	図293 幣ノ木城 遠景	184
図241 『東摂城址図誌』より「安威砦跡」	153	図294 幣ノ木城・余野本城・余野城(平地遺構)・大平土居・城之越城 位置図	185
図242 安威砦 地籍図	154	図295 幣ノ木城周辺 小字図	186
図243 佐保栗栖山砦 発掘調査状況(東より)	155	図296 余野城(平地遺構) トレンチ配置図	187
図244 『東摂城址図誌』より「佐保砦跡」	155	図297 余野城(平地遺構) 遠景	187
図245 佐保栗栖山砦 位置図	155	図298 余野本城 繩張図	188
図246 佐保栗栖山砦 地籍図	156	図299 『東摂城址図誌』より「余野城跡」	189
図247 佐保栗栖山砦 遺構配置図	156	図300 余野本城 写真	189
図248 『東摂城址図誌』より「郡山城址」	157	図301 大平土居 繩張図	190
図249 郡山城・郡山寺内町 位置図	157	図302 大平土居 写真	190
図250 郡山城・郡山寺内町 地籍図	158	図303 城之越城 繩張図	191
図251 沢良宜城 位置図	159	図304 城之越城 写真	191
図252 沢良宜城 地籍図	159	図305 余野山上星 繩張図	192
図253 『東摂城址図誌』より「沢良宜城跡」	160		

図306 余野山上墨 写真	192
図307 野間口鳥坂城・水牢古城 位置図	193
図308 野間口鳥坂城 写真	194
図309 水牢古城 繩張図	194
図310 水牢古城 写真	195
図311 吉川城 位置図	195
図312 吉川城 繩張図	196
図313 吉川城 写真	196
図314 吉川井戸城 位置図	197
図315 吉川井戸城 繩張図	197
図316 吉川井戸城 小字図	198
図317 吉川井戸城 出土遺物	198
図318 吉川井戸城 写真	199
図319 高山城・高山向山城 位置図	199
図320 高山城 繩張図	200
図321 高山城 写真	200
図322 高山城・高山向山城 小字図	201
図323 高山向山城 繩張図	202
図324 高山向山城 写真	202
図325 山辺城 位置図	204
図326 山辺城 繩張図および表採資料	204
図327 「東摂城址図誌」より「鷹爪城跡」「吉村古城」「森上城跡」「今西城跡」	205
図328 森上城・今西城・森上館 位置図	206
図329 森上城・今西城・森上館 繩張図	206
図330 吉村城 位置図	208
図331 片山城 位置図	208
図332 片山城 繩張図	209
図333 山田城 位置図	210
図334 山田城 繩張図	210
図335 平通城 位置図	210
図336 上杉城 位置図	211
図337 上杉城 繩張図	212
図338 長谷館 位置図	212
図339 宿野城 位置図	213
図340 宿野城 繩張図	213
図341 丸山城 位置図	214
図342 丸山城 繩張図	214
図343 「東摂城址図誌」より「上杉城跡」「長谷城跡」「宿野城跡」「地黄古城跡」「片山城址」	215
図344 野間城・野間氏居館・野間屋敷・野間中城 位置図	217
図345 野間城・野間氏居館・野間屋敷 繩張図、野間氏居館 表採遺物	218
図346 野間氏居館の石組遺構全景(北西から)	219
図347 吉野城・吉野居館 位置図	220
図348 田尻城 位置図	222
図349 杉原城 位置図	223
図350 為楽山城 位置図	224
図351 分布調査対象の位置	227
図352 丸山城の測点位置図と繩張図	229
図353 地黄陣屋の測点位置図と繩張図	230
図354 山辺城の測点位置図と繩張図	230
図355 森上城・今西城・森上館の踏査軌跡図と繩張図	231
図356 長谷屋敷の踏査軌跡図と繩張図	232
図357 杉原城の踏査軌跡図と繩張図	232
図358 平通城の踏査軌跡図と繩張図	233
図359 野間中城の踏査軌跡図と繩張図	233
図360 田尻城の踏査軌跡図と繩張図	234
図361 田尻御所の踏査軌跡図と繩張図	234
図362 山辺城 地形測量図	236
図363 吉野城・吉野居館の踏査軌跡図と繩張図	239
図364 為楽山城の踏査軌跡図	239
図365 水牢古城の踏査軌跡図と繩張図	240
図366 余野本城の踏査軌跡図と繩張図	240
図367 大平土居の踏査軌跡図	241
図368 吉川城の踏査軌跡図と繩張図	241
図369 高山城の踏査軌跡図と繩張図	242
図370 高山向山城の踏査軌跡図と繩張図	242
図371 山辺城の現況及び作業風景	243
図372 山辺城 立体地形図	244
図373 山辺城 俯瞰図(南西から)	245
図374 山辺城 俯瞰図(東から)	245
図375 芥川山城(芥川城)と西国街道・高槻城の位置	247
図376 芥川山城(芥川城)主郭からの南側の眺望と検出された塼列建物	247

## 表目次

表1 城館等一覧表(1)	8
表2 城館等一覧表(2)	9
表3 城館等一覧表(3)	10
表4 城館等一覧表(4)	11
表5 城館等一覧表(5)	12
表6 城館等資料一覧表(1)	40
表7 城館等資料一覧表(2)	41
表8 城館等資料一覧表(3)	42
表9 城館等資料一覧表(4)	43
表10 城館等資料一覧表(5)	44
表11 城館等資料一覧表(6)	45
表12 城館等資料一覧表(7)	46
表13 城館等資料一覧表(8)	47
表14 池田城主要発掘調査一覧(1)	97
表15 池田城主要発掘調査一覧(2)	98
表16 池田城主要発掘調査一覧(3)	99
表17 GNSS機器観測点一覧	229

# 第1章 調査の目的と経過

## 1 調査の目的

本州のほぼ中央に位置する大阪府は、その西を大阪湾、北を北摂山地、東を生駒山地と金剛山地、南を和泉山脈によって囲まれている。その面積は約 1,905km<sup>2</sup> と全国でも 2 番目に狭い都道府県であるが、「摂河泉」と通称されるように、旧国では摂津国（東部）、河内国、和泉国の三国からなり、日本の歴史において重要な位置を占めてきた。

大阪府域は、南北朝時代や戦国時代において騒乱の大きな舞台となり、多くの城館が築かれた。中世城館として周知されている埋蔵文化財は府内で約 200 箇所に及ぶ。またこれらの城館以外にも、地域において城館跡と伝える場所、それを示唆する地名、所在は不明ながら文献に記載される城館、時に城館としても機能した寺院、寺内町、環濠集落等も数多く所在している。しかしながら、これら中世城館及びその関連遺跡については、時代や範囲、構造などの実態がいまだ十分に把握されているとは言い難い。

そこで、大阪府教育委員会では、大阪府内に所在する中世城館について、その現状を把握し、その保存と活用を図るための基礎資料とすべく、既往の調査資料、文献史料、地籍図等を集成し、検討するとともに、これを台帳として整備することとした。

## 2 調査の経過

大阪府における中世城館の調査は、上記の目的のもとで平成 18 年度より開始した。調査にあたっては、大阪府において摂津、北河内、中河内、南河内、和泉の 5 地域を設定した。そして平成 18・19 年度にまず南河内の中世城館調査を実施し、報告書『南河内における中世城館の調査』を刊行した（大阪府教育委員会 2008）。次いで、平成 27、28 年度の二ヶ年度事業として北・中河内地域の中世城館調査を実施し、報告書『北・中河内における中世城館の調査』を刊行した（大阪府教育委員会 2017）。これらにより、河内地域の中世城館調査は完了した。

今回は、文化庁の国庫補助金を受け、摂津地域の中世城館調査を実施した。調査事業は大阪府教育庁文化財保護課が中心となり、摂津地域の 11 市町（大阪市・豊中市・池田市・吹田市・高槻市・茨木市・箕面市・摂津市・島本町・豊能町・能勢町）の文化財保護行政主管課の協力を得て、令和元～3 年度の三ヶ年度事業として実施した。

事業内容としては、二つの調査をおこなった。一つは、城館・城郭一覧表および城館跡詳細調査台帳（図 1・2）の作成による悉皆調査である。調査にあたっては、上記 11 市町に対して調査への協力と、一覧表および台帳の作成を依頼した。集成された摂津の中世城館及びその関連遺跡は計 151 箇所にのぼった。本書第 3 章で詳述する各城館等の状況については、主としてこの一覧表および台帳に基づくものである。

もう一つは、令和元～2 年度に大阪府教育庁文化財保護課が主体となって実施した、豊能郡における中世城館の分布・測量調査である。この調査成果については第 4 章第 1 節に詳述する。

## 城館等詳細調査台帳

### 1. 調査項目 (※記入時には注意書きは削除してください)

① 名称	城館等については機能時の名称とし、「跡」は付さない。 別名がある場合は括弧書きで記入する。
② 指定の有無	国・府・市町村における史跡等の文化財指定の有無
③ 所在地	代表の所在地について、原則小字まで、わかれれば地番まで記入
④ 立地	城郭跡の占地を記入、「山頂部」「尾根先端」「山裾」「段丘」「平野」その他
⑤ 標高	1/25,000地形図の読み取り値を記入
⑥ 比高	山城は裾の平坦部からの比高を1/25,000地形図の読み取り値で記入
⑦ 保存状況	完存：城館等（遺跡）の全体的な状況が目視で確認できるもの。 半壊：城館等（遺跡）の存在は確認できるが、大半が削平、または著しい地形改変等により、全体的な状況までは確認できないもの。 全壊：城館等（遺跡）の痕跡が認められる、または伝承等により遺跡の存在が知られているが、現況では確認できないもの。地下に遺構が存在する可能性があるものを含む。 消滅：城館等（遺跡）が地形改変等により現存しないことが確実なもの。
⑧ 現状	現在の土地利用状況、植生  例：「宅地」「水田」「畑地」「果樹園」「山林」「道路」「寺社地（名称）」「墓域」その他
⑨ 調査歴	発掘調査、測量調査の実施年度と報告書名
⑩ 遺構	遺構の種別と数  例：「郭」「堀切」「横堀」「豎堀」「土塁」「石垣」「虎口」「櫓台」「土橋」その他
⑪ 遺物	採取遺物、出土遺物を列記
⑫ 伝承	城館跡にまつわる伝承について、市町村史等の資料や聞き取りから記入
⑬ 関連地名	周辺の城館関連地名について記入
⑭ 城主	文献史料等から判明しているものについて記入
⑮ 時期	文献史料や発掘調査の内容より記入
⑯ 特記事項	近隣の関連遺構や古道等の情報について記入
⑰ 緯度	中心の1点について記入、単位を明記すること
経度	〃
⑱ 参考文献	関連する研究論文等を列記

図1 城館等調査台帳（1）

城館等詳細調査台帳																	
2. 位置図	4. 繩張り図																
<p>・貴市町村所有の地図(大縮尺が望ましい)に位置を示す            ・城郭範囲(確定な範囲:赤実線と塗り潰し、不確定な範囲:赤破線と塗り潰し)            ・城郭周辺の中世遺跡、寺院跡などの関連遺跡についても記入</p>	<p>・既存の調査資料、研究成果の図を出典を明記したうえで転載</p>																
3. 写真	5. 道構の概要																
<p>・貴市町村所有の既存写真            ・遠景写真            ・郭や堀切等の道構状況写真            ・赤色立体図</p>	<p>・道構の概要について100~200字程度で記入</p>																
6. 地図	8. 関連史料(市町村史、その他市町村刊行物より記入)																
<p>・既存刊行物より関連場所について転載</p>	<table border="1"> <tr><td>① 名称</td><td>文献等の表題、古文書の場合 古文書名/古文書群名 を記入</td></tr> <tr><td>② 作者</td><td></td></tr> <tr><td>③ 年代</td><td>和暦(西暦)で記入 例: 明徳3年(1392)</td></tr> <tr><td>④ 出典</td><td>刊行物から抜き出した場合はその書名、ページ数を記載</td></tr> <tr><td>⑤ 所蔵者</td><td></td></tr> <tr><td>⑥ 関連記述</td><td></td></tr> <tr><td>⑦ 城主</td><td>想定城主を記入</td></tr> <tr><td>⑧ 存続期間</td><td>史料により分かる城郭の存続期間</td></tr> </table>	① 名称	文献等の表題、古文書の場合 古文書名/古文書群名 を記入	② 作者		③ 年代	和暦(西暦)で記入 例: 明徳3年(1392)	④ 出典	刊行物から抜き出した場合はその書名、ページ数を記載	⑤ 所蔵者		⑥ 関連記述		⑦ 城主	想定城主を記入	⑧ 存続期間	史料により分かる城郭の存続期間
① 名称	文献等の表題、古文書の場合 古文書名/古文書群名 を記入																
② 作者																	
③ 年代	和暦(西暦)で記入 例: 明徳3年(1392)																
④ 出典	刊行物から抜き出した場合はその書名、ページ数を記載																
⑤ 所蔵者																	
⑥ 関連記述																	
⑦ 城主	想定城主を記入																
⑧ 存続期間	史料により分かる城郭の存続期間																
7. 小字図	9. その他																
<p>・市町村刊行小字図、既存刊行物より関連場所について転載</p>	<p>・絵図などの参考資料で刊行物となっているものがあれば出典を明記の上、転載</p>																

図2 城館等調査台帳（2）



## 第2章 地理的・歴史的環境

### 1 地理的環境

旧摂津国は、現在の大阪府北西部および兵庫県南東部にまたがる地域である。東を淀川に区切られて河内国と接し、北東では天王山を介して山城国と通じる。北は丹波国、西は播磨国と接する。南には大阪湾が広がり、海浜部は港湾として発展してきた。現在の行政区では、大阪府下では大阪市の一部、豊中市、池田市、吹田市、高槻市、茨木市、箕面市、摂津市、島本町、豊能町、能勢町が該当し、兵庫県下では神戸市、尼崎市、西宮市、芦屋市、伊丹市、川西市、宝塚市、三田市、猪名川町が該当する。本書では大阪府下の8市3町を対象とし、以下においても主としてこの範囲について記述を進めることとする。

当該地域の地形的な条件としては、南北に大きく二分できる。北側は北摂山地から丹波高地へ通じる山塊から派生する山地によって構成され、小規模な盆地が点在する。剣尾山（784m）、妙見山（660m）、ポンポン山（679m）などを頂点として、猪名川、箕面川、安威川、芥川などが複雑に河谷を形成して流下し、淀川へ合流して大阪湾にそそぐ。南側ではこれらの河川が形成した扇状地、自然堤防と後背湿地が発達し、淀川を挟んで南北に千里丘陵と上町台地があるほかは低平な大阪平野が広がる。

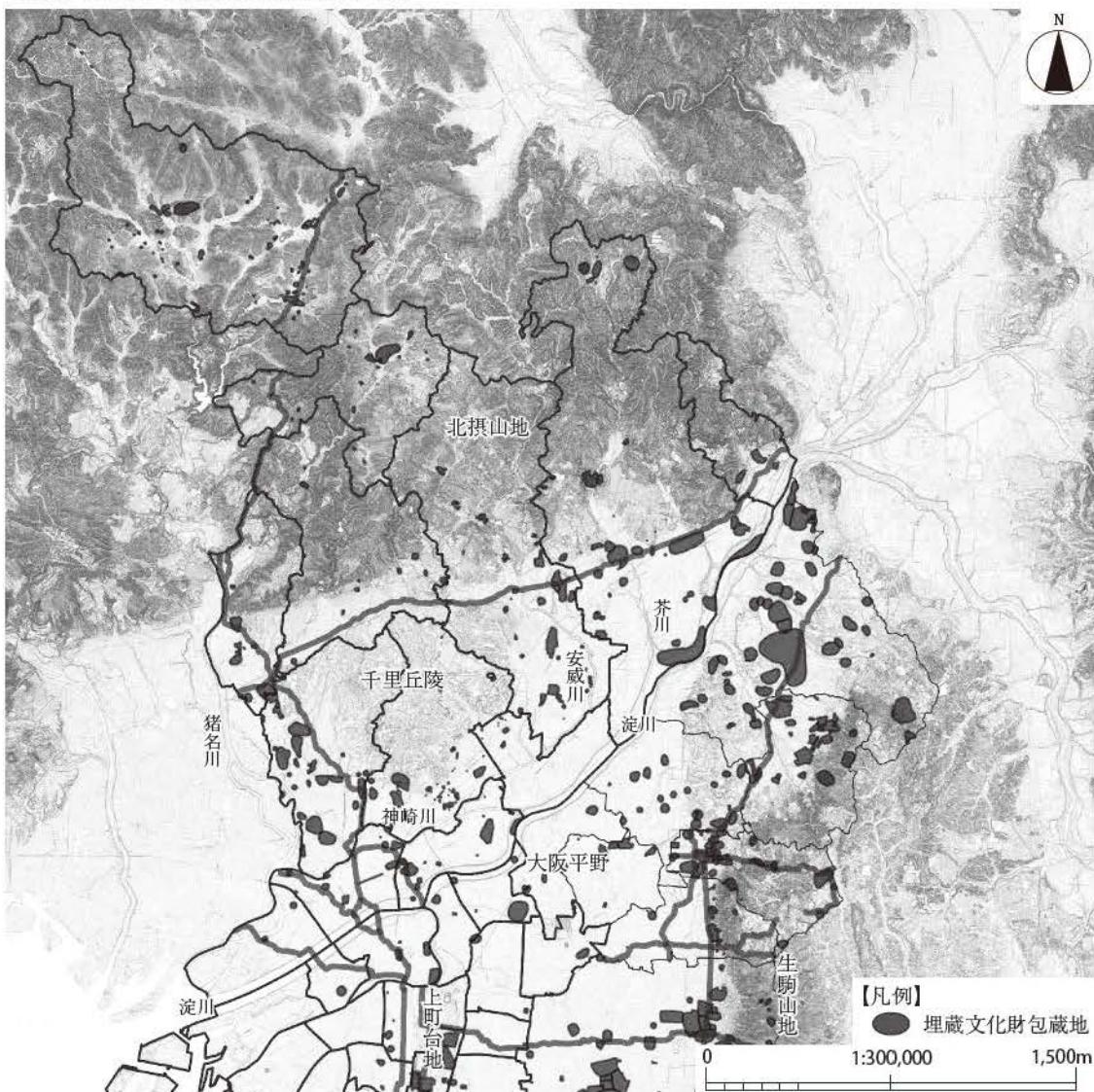


図3 大阪府北部の中世遺跡および街道遺跡（地理院タイル（傾斜量図）を用いて作成）

現在の土地利用も上記した地形条件によっておおむね二分され、北側の山間地域では山林や農地が大半を占める一方、南側では居住地が圧倒的に多い。これに対応して、南側では交通網も集中しており、鉄路としてJR東海道本線、東海道新幹線、阪急電鉄京都線が通り、高速道路では名神高速道路、中国自動車道等が通る。いっぽう北側では新名神高速道路が南端を掠めるように東西に通るほかは旧来の街道を踏襲した道路網があるのみで、鉄道も能勢電鉄妙見線が通る程度である。

## 2 歴史的環境

摂津は、上述した地理的な特性のもと、淀川舟運を介して京都と瀬戸内海が通じ、陸路では京都と西国をむすぶ西国街道が通り、中世を通じて西国から畿内への玄関口として機能した。

鎌倉時代には、大阪府下が主たる戦場となった争乱は乏しく、城や砦に関する史資料も数少ない。むしろ、水無瀬離宮（島本町）や吹田殿（吹田市）、江口（大阪市）に代表されるように、御幸や遊行の地としてあらわれるものが多い。摂津に守護が置かれるのは承久3年（1221）の長沼政宗の補任をはじめとするが、鎌倉幕府による支配力は乏しかった。これは、既存の公家・寺社などの荘園領主勢力が強固であったことが要因とされる。そうした中で、承久3年（1221）の承久の乱を契機に、能勢氏や芥河氏が土豪層として勢力を拡大していった。

元徳3年／元弘元年（1331）、皇位継承に端を発する朝廷と幕府との対立から、後醍醐天皇による倒幕運動が具体化し、これに呼応した楠木正成が南河内を拠点として挙兵して幕府軍と合戦が繰り広げられた（元弘の乱）。摂津においても、幕府軍が築城したとされる天王寺城（大阪市）をはじめ、関連する城郭や古戦場の記録が散見される。正慶2年／元弘3年（1333）には幕府軍から離反した足利尊氏により六波羅探題が、新田義貞により鎌倉の北条氏が滅ぼされ、鎌倉幕府は終焉を迎えた。後醍醐天皇は天皇親政の新政を敷くものの、建武3年／延元元年（1336）に尊氏が光明天皇を擁して武家政権を樹立し（北朝）、後醍醐天皇の南朝と分裂して動乱が続いた。

明徳3年／元中9年（1392）、足利義満の時に南北朝の合一が成り、動乱は一定の終息を見せた。しかし、足利義政没後の義視・義尚の將軍繼嗣問題に、畠山長政・義就の対立が加わり、応仁元年（1467）には内乱に発展した（応仁・文明の乱）。戦乱は長期にわたり、河内守護を担っていた畠山氏は幕政への影響力を縮小する結果となった。いっぽう、摂津守護は14世紀末には一国を複数の守護が支配する状況であったが、永徳2～3年（1382～83）にかけて、細川頼基が八部郡・兎原郡・武庫郡・豊島郡・島上郡・島下郡および川辺郡の一部の守護に補任されたことを契機に細川氏が徐々に勢力を拡大し、15世紀を通じて細川京兆家が摂津国の支配圏を拡大していった。細川家には惣領たる京兆家のほかにも和泉守護家、阿波守護家、典厩家など有力な分家が成立し、大きな勢力を誇った。明応2年（1493）、細川政元が日野富子・伊勢貞宗と謀って足利清晃（のちの義澄）を擁立して挙兵し、河内に出陣していた將軍・足利義材と畠山政長・尚慶は正覚寺（大阪市）で拿捕された（明応の政変）。これを契機に足利將軍家に分裂が生じ、細川氏も京兆家と阿波守護家の対立や、高国派と澄元派の対立が顕となった。細川氏の被官・三好氏はこの間に勢力を強め、畿内情勢を掌握した京兆家の細川晴元が本願寺勢力との戦いで支配を弱めたことを契機に、三好長慶が晴元方を制し、細川氏に代わって芥川城（高槻市）から畿内支配をおこなった。長慶は永禄3年（1560）に飯盛城（大東市・四條畷市）へ本拠を移したが、没後に三好家および家臣団で勢力争いが発生し、三好政権は長くは続かなかった。永禄11年（1568）、織田信長が足利義昭を奉じて芥川城へ入城したのち、上洛した。摂津は側近の和田惟政が支配し、三好氏の摂津での支配域は欠郡のみとなった。元亀4年（1573）、信長が將軍義昭を京から追放し、室町幕府も終焉を迎えることとなった。

## 第3章 中世城館調査資料

### 1 城館等一覧表および分布図

本調査は旧摂津国に属するうち大阪府下に存する大阪市・豊中市・池田市・吹田市・高槻市・茨木市・箕面市・摂津市・島本町・豊能町・能勢町の城館を中心に実施した。調査にあたっては、第1章で述べたとおり、各市町文化財部局の協力を得て、各市町域における城館等について「城館・城郭一覧表」および「城館等詳細調査台帳」(図1・2)を作成し、基礎資料の収集、一覧表及び分布図の作成にあたった。

調査は中世の城館を中心に実施した。それに加え、城郭に利用された（可能性を含め）寺院（跡）、および中世の城館と考えられる遺構を検出している遺跡の発掘調査事例のうち、主要なものについても、一覧表および分布図の作成を行った。

#### (1) 城館等一覧表

- 1) 城館等一覧表（表1～5）には、これまでの学史も考慮し、伝承性の高いもの、遺構の未確認のもの、所在地不明のものも挙げた。
- 2) 城館等の番号は、本地域での分布状況に鑑み、任意に番号を付した。番号には、城館（所在の明らかなもの、および推定されるもの）には単純に番号を付したが、それ以外については下記のとおりとした。

・所在不詳の城館	: 番号の前に「F」を付与
・寺内町および環濠集落	: 番号の前に「K」を付与
・遺跡	: 番号の前に「S」を付与
・寺社	: 番号の前に「T」を付与
- 3) 城館等の規模については、城館等資料一覧表（表6～13）で示した関連資料や既往の調査成果から記載した。
- 4) 保存状況については、下記のとおりとした。
  - ・完存 : 城館等（遺跡）の全体的な状況が目視で確認できるもの。
  - ・半壊 : 城館等（遺跡）の大半が削平、または著しい地形改変等により、その存在は確認できるが、全体的な状況までは確認できないもの。
  - ・全壊 : 城館等（遺跡）の痕跡は認められるが、現況では確認できないもの。地下に遺構が存在する可能性があるものを含む。
  - ・消滅 : 城館等（遺跡）が地形改変等により存在しないことが確実なもの。
- 5) 文化財保護法・条例等による文化財指定の有無、および所在地（推定含む）が周知の埋蔵文化財に含まれる場合はその名称を記した。

#### (2) 分布図

- 1) 分布図は「城館等一覧表」（表1～5）に掲載されているもののうち、所在の明確なものについて図示した。また寺院、寺内町、環濠集落、関連遺跡についても図示している。詳細については凡例を参照されたい。
- 2) 当該地域は開発が著しく進んでおり、現在の地形図では城館等の地形環境が不明確となる場合もあるため、城館分布の基本図として調査対象地域の揃う最も古い地形図として、明治期の地形図を使用した（図17参照）。また現況と対照できるよう国土地理院地形図（地理院タイル淡色地図（電子国土基本図）、令和4年2月25日参照）を併せて掲載した。掲載に際しては、両者とも縮尺を1/50,000とした。

表1 城館等一覧表（1）

番号	名称			所在地	種別	時代	土地の状況	立地	遺構の規模(m)		保存状況	指定の有無	周知の埋蔵文化財包蔵地名	本書掲載頁
	城館名	ふりがな	別名						標高	規模				
1	大坂城 (豊臣氏)	おおさかじょう		大阪市中央区大阪城	平城	織豊～江戸	その他	台地	5～33	2200×2000	半壊	特別史跡	大坂城跡	49
2	毛馬城	けまじょう		大阪市都島区毛馬町	平城	織豊？	宅地	平野	2	不明	全壊		毛馬城跡	49
3	榎並城	えなみじょう		大阪市都島区内代町・城東区野江	平城	戦国？	宅地	平野	1	不明	全壊		榎並城跡伝承地	51
4	野田城	のだじょう		大阪市福島区野田・玉川	平城	戦国～織豊	宅地	平野	-1～0	不明	全壊		野田城跡伝承地	51
5	寺岡砦	てらおかとりで		大阪市住吉区長居西	環濠集落	南北朝～戦国	宅地	台地	7～8	不明	全壊		寺岡砦跡	53
6	柴島城	くにじまじょう		大阪市東淀川区柴島	平城	戦国～織豊	宅地	平野	3～4	不明	全壊		柴島城跡伝承地	56
7	新堀城	しんぼりじょう		大阪市住吉区長居東	平城	戦国～織豊	宅地	台地	9	不明	全壊		新堀城跡伝承地	56
K8	我孫子環濠	あびこかんごう		大阪市住吉区遠里小野	環濠集落	戦国～江戸	宅地	台地	10～11	240×300	全壊		我孫子城跡伝承地	58
9	堀城	ほりじょう		大阪市淀川区十三本町	平城	戦国	宅地	平野	-1～1	不明	全壊		堀城跡伝承地	59
10	三津屋城	みつやじょう		大阪市淀川区三津屋中	平城	南北朝～戦国	宅地	平野	0～1	不明	全壊		三津屋城跡伝承地	60
11	大和田城	おおわだじょう		大阪市西淀川区大和田	平城	戦国～織豊	宅地	平野	-1～0	不明	全壊		大和田城跡伝承地	64
12	茶臼山陣城	ちゃうすやまじんじろ	大塚城	大阪市天王寺区茶臼山町	丘城	戦国～江戸	その他	台地	不明	250×130	半壊	府史跡	茶臼山古墳	64
13	葱生城	なぎじょう		大阪市旭区生江	平城	戦国～織豊	宅地	平野	2	不明	全壊			65
K14	平野環濠	ひらのかんごう		大阪市平野区平野宮町・平野上町・平野本町・平野市町・平野東	環濠集落	戦国～江戸	宅地	平野	5～6	約900×1000	半壊		平野環濠都市遺跡	68
15	浦江城	うらえじょう	手好城	大阪市北区大淀中・大淀南？	平城？	戦国	宅地	平野	0	不明	全壊			70
16	宇利和利城	うりわりじょう		大阪市平野区瓜破東	平城？	南北朝	宅地	台地	9～10	不明	全壊		瓜破遺跡	72
F17	江口城	えぐちじょう		大阪市東淀川区南江口	平城？	戦国	宅地	平野	不明	不明	全壊			72
F18	磯多崎砦	えたさきとりで		大阪市大正区三軒家？	平城？	戦国～江戸	宅地	平野	不明	不明	全壊			72
F19	木津砦	きづとりで		不明	平城？	戦国～織豊？	宅地	平野	不明	不明	全壊			-
20	喜連川城	きれかわじょう		大阪市平野区喜連？	環濠集落	南北朝～江戸	宅地	平野	不明	不明	全壊			76
21	正覚寺城	しょうかくじょう		大阪市平野区加美正覚寺	平城？	戦国	宅地	平野	5～6	不明	全壊			77
F22	新庄城	しんじょうじょう		大阪市東淀川区下新庄	平城？	戦国～織豊？	宅地	平野	不明	不明	全壊			77
F23	巽城	たつみじょう		大阪市平野区長吉長原？	？	南北朝	宅地	平野	不明	不明	全壊			79
F24	天王寺城	てんのうじじょう		大阪市天王寺区生王寺町／大阪市天王寺区伶人町・逢坂	平城	南北朝～織豊	宅地	台地	21／20	不明	全壊		伶人町遺跡	80
K25	天満寺内町	てんまじないまち		大阪市北区天満・東天満・松ヶ枝町	寺内町	織豊	宅地	平野	4～5	800×840	全壊		天満本願寺跡・天神橋遺跡	80
F26	難波砦	なにわとりで？		大阪市浪速区浪速西？	平城？	戦国～織豊？	宅地	平野	不明	不明	全壊			80
F27	三津寺砦	みつでらとりで		大阪市中央区心斎橋筋・西心斎橋？	平城	戦国～織豊？	宅地	平野	不明	不明	全壊			83
F28	櫻の岸砦	さくらのきとりで？		大阪市中央区石町付近	平城	戦国～織豊？	宅地	平野	不明	不明	全壊			83
K29	大坂本願寺	おおさかほんがんじ	大坂寺内	大阪市中央区大阪城	寺内町	戦国～織豊	その他	台地	25～33	不明	全壊		大坂城跡	85
K30	桑津環濠	くわづかんごう		大阪市東住吉区桑津	環濠集落	戦国～江戸？	宅地	台地	4～7	約200×300	全壊		桑津遺跡	86
K31	遠里小野環濠	おりおのかんごう		大阪市住吉区遠里小野	環濠集落	戦国～江戸？	宅地	台地	5～7	330×260	全壊		遠里小野遺跡	87
32	原田城 (北城)	はらだじょう (きたじろ)		豊中市曾根西町4丁目	丘城	鎌倉～戦国	宅地	丘陵	12	120×235	半壊	市史跡	原田城跡(北城)	88
33	原田城 (南城)	はらだじょ う(みなみじろ)		豊中市原田元町2丁目	丘城	鎌倉～戦国	宅地	丘陵	7	130×100	全壊		原田城跡(南城)	89
34	今西氏屋敷	いまにししゃしき		豊中市浜1丁目	居館	鎌倉～戦国	宅地	平野	3	216×216	完存	国史跡	今西氏屋敷跡	91
T35	石蓮寺廃寺	せきれんじはいじ		豊中市若竹町1丁目	社寺跡	鎌倉～室町	宅地	台地	18	不明	全壊		石蓮寺廃寺	-
36	柳橋城	くらはしじょう		豊中市庄本町1丁目	平城	戦国	宅地	平野	不明	不明	全壊			-

表2 城館等一覧表（2）

番号	名称			所在地	種別	時代	土地の状況	立地	遺構の規模		保存状況	指定の有無	周知の埋蔵文化財包蔵地名	本書掲載頁	
	城館名	ふりがな	別名						標高	規模					
F37	利倉城	とくらじょう		豊中市利倉	平城	織豊？	宅地	平野	不明	不明	全壙			-	
F38	刀根山城	とねやまじょう		豊中市刀根山	平城	織豊？	宅地	段丘	不明	不明	全壙			-	
F39	福井城	ふくいじょう		豊中市城山1丁目	平城	織豊？	宅地	段丘	不明	不明	全壙			-	
F40	穂積砦	ほづみとりで		豊中市稻津町	平城	織豊？	宅地	平野	不明	不明	全壙			-	
F41	箕輪砦	みのわとりで		豊中市箕輪	平城	織豊？	宅地	段丘	不明	不明	全壙			-	
42	池田城	いけだじょう		池田市建石町・城山町	丘城	南北朝～織豊	宅地	丘陵	51.8	450×550	半壙		池田城跡・横枕遺跡・城山遺跡	93	
F43	今在家砦	いまざいけとりで		池田市豊島南	平城	織豊？	宅地	平野	不明	不明	全壙			-	
F44	木部砦	きべとりで		池田市木部町	山城	織豊？	山林	不明	不明	不明	全壙			-	
F45	神田砦	こうだとりで		池田市神田	平城	織豊？	宅地	平野	不明	不明	全壙			-	
F46	西市場砦	にしいちばとりで		池田市豊島北	平城	中世	宅地	平野	不明	不明	全壙			-	
F47	八幡城	はちまんじょう		池田市伏尾町	山城	平安・南北朝？	山林	山頂部	不明	不明	全壙			-	
48	吹田城推定地	すいたじょううあとすいていち		石浦城	吹田市高城町	平城	室町～江戸	宅地	平野	3.9	不明	全壙		吹田城跡推定地	100
49	吹田城	すいたじょう		西庄城	吹田市西の庄町	丘城	室町～江戸	宅地	段丘	9.8	不明	消滅		吹田城跡	101
F50	山田城	やまだじょう		吹田市山田東2丁目	山城？	南北朝～戦国	宅地	山地？	38.5	270×145	全壙			102	
F51	石浦城	いそらじょうう？		不明	平城？	中世	宅地	平野？	不明	不明	全壙			-	
F52	佐井寺城	さいいでらじょう		吹田市佐井寺	山城	中世	宅地	不明	不明	東西約45×南北36	全壙			103	
K53	神境町環濠	しんけいちょうかんごう		吹田市南高浜町	環濠集落	鎌倉？～江戸	宅地	平野	5.4	不明	全壙		神境町遺跡、神境町遺跡B地点	104	
F54	西庄城	にしのしょうじょう？		吹田市西の庄町(推定)	平城？	中世	宅地	平野？	不明	不明	全壙			-	
55	芥川山城	あくたがわさんじょう		高槻市原	山城	戦国	山林	山頂部	182	500×400	完存		芥川山城跡	106	
56	秀吉本陣	ひでよしほんじん		高槻市芥川町1丁目・天神町1丁目他	丘城	織豊	宅地	平野	12	150×400	消滅		伝秀吉本陣跡	109	
57	高槻城	たかつきじょう		高槻市見町・城内町・出丸町他	平城	織豊～江戸	宅地	平野	8	600×700	半壙	府史跡(規則)	高槻城跡	109	
58	田能城	たのうじょう		高槻市田能	山城	戦国～織豊	山林	山頂部	478	550×500	完存		田能城跡	113	
K59	富田寺内町	とんだじないまち		高槻市富田町4・5・6丁目他	寺内町	南北朝～江戸	宅地	平野	14	800×700	半壙		富田寺内町	115	
60	帶仕山向城	おびしやまむかいじょう		高槻市原・清水台2丁目	山城	戦国	山林・宅地	山頂部	190	100×200	半壙		帶仕山向城跡	116	
61	今城	いましろ		高槻市郡家新町	丘城	戦国？	山林	台地	37	350×350	半壙	国史跡	今城塚古墳	119	
62	松永久秀屋敷	まつながひさひでやしき		高槻市東五百住町1丁目	居館・屋敷	戦国～織豊？	宅地	平野	13	50×50	半壙			121	
S63	土田部遺跡	かみたべいせき		高槻市桃園町	遺跡(居館・屋敷)	平安～鎌倉	宅地	平野	10	20～×20～	全壙		上田部遺跡	122	
S64	神内遺跡	こうないいせき		高槻市神内2丁目	遺跡(居館・屋敷)	戦国	宅地	平野	10	25～×20～	全壙		神内遺跡	124	
S65	宮田遺跡	みやたいせき		高槻市宮田町	遺跡(居館・屋敷)	平安～鎌倉	宅地	平野	20	20～×20～	全壙		宮田遺跡	125	
66	芥川城	あくたがわじょう		高槻市殿町・芥川町3・4丁目	平城	鎌倉～戦国	宅地	平野	16	不明	全壙			128	
67	岡本砦	おかもととりで		高槻市岡本町	平城	不明	宅地	平野	35	不明	全壙			128	
68	上牧砦	かんまきとりで		高槻市上牧	平城	不明	宅地	平野	9	不明	全壙			128	
69	下村砦	しもむらとりで		高槻市下・山手町	平城	不明	宅地	平野	15	不明	全壙			130	
70	高槻砦	たかつきとりで		高槻市春日町	平城	戦国？	宅地	平野	6	不明	全壙			133	
71	田中城	たなかじょう		高槻市見町	平城	室町	宅地	平野	16	不明	全壙			134	
72	柱本城	はしらもとじょう	柱本堡	高槻市柱本1丁目	平城	戦国	水田	平野	4	不明	全壙			135	
73	服部砦	はつとりとりで		高槻市大藏司	平城	不明	宅地	平野	25	不明	全壙			136	

表3 城館等一覧表（3）

番号	名称			所在地	種別	時代	土地の状況	立地	遺構の規模		保存状況	指定の有無	周知の埋蔵文化財包蔵地名	本書掲載頁
	城館名	ふりがな	別名						標高	規模				
74	真上城	まかみじょう		高槻市西真上1丁目	平城	南北朝	宅地	平野	20	不明	全壊			138
75	普門寺城	ふもんじじょう		高槻市富田町4丁目	寺院	南北朝～戦国	宅地	丘陵	16	150×100	半壊	国名勝	富田遺跡	139
76	泉原城	いずはらじょう	泉原砦	茨木市大字泉原字中山、上殿垣内	山城	不明	その他	山頂部	293	不明	半壊		泉原城跡	140
77	安威城	あいじょう		茨木市安威2丁目	山城	戦国～織豊	宅地	丘陵	36	不明	半壊		安威城跡	142
78	茨木城	いばらきじょう		茨木市片桐町・元町・本町・上泉町	平城	南北朝～江戸	宅地	平野	11	不明	全壊		茨木城跡・茨木遺跡	143
79	太田城	おおだじょう		茨木市太田1丁目	平城	平安～戦国	宅地	台地	21	不明	全壊		太田城跡	145
80	佐保城	さほじょう	里城？	茨木市大字佐保字馬場谷2621	山城	戦国	山林	山頂部	198	90×50	完存		佐保城跡	147
81	福井城	ふくいじょう	出張城、楠公砦城	茨木市東福井3丁目	丘城	南北朝～戦国	水田	段丘	45	290×410	半壊		福井城跡・福井城跡B地点	148
82	三宅城	みやけじょう		茨木市藏垣内3丁目・大正町	平城	戦国	宅地	平野	6.5	不明	全壊		三宅城跡	151
83	安威砦	あいとりで		茨木市安威4丁目	山城	平安／織豊	山林	山頂部	89	50×100	完存		安威砦跡	152
84	佐保栗柄山砦	さほくるすやまとりで		茨木市大字佐保字クルス	山城	戦国	山林	山頂部	176	150×70	完存		佐保栗柄山砦跡	154
85	郡山城	こおりやまじょう		茨木市郡山1丁目(諸説あり)	丘城	戦国～織豊	宅地	台地	63	不明	全壊		郡山城跡	157
K86	郡山寺内町	こおりやまじないちょう		郡山道場、郡山堂宇	茨木市郡山2丁目・新郡山1丁目	寺内町	戦国	宅地	52	不明	全壊		郡山遺跡	158
87	沢良宜城	さわらぎじょう		茨木市美沢町	平城	室町～戦国	宅地	平野	8	不明	全壊		沢良宜城跡	158
88	穂積城	ほづみじょう		茨木市中穂積	山城	戦国？	寺社地	尾根先端	46	不明	全壊		穂積城跡	160
F89	水尾砦	みずおとりで	水尾砦	茨木市水尾	平城？	戦国？	宅地	平野	不明	不明	全壊			161
F90	耳原砦	みのはらとりで	耳原砦	茨木市耳原3丁目	平城？	織豊	宅地	丘陵	不明	不明	全壊			163
F91	目垣城	めがきじょう		茨木市目垣	平城？	戦国？	宅地	平野	不明	不明	全壊			164
F92	池上砦	いけがみとりで		茨木市中総持寺町・総持寺2丁目	平城？	不明	宅地	平野	不明	不明	不明			164
F93	宿久城	しゅくじょう	シユク城	不明(茨木市宿久庄?)	平城？	戦国	宅地	平野	不明	不明	不明			167
F94	清水城	しみずじょう		茨木市清水	平城？	不明	宅地	平野	不明	不明	不明			167
F95	西河原砦	にしかわらとりで		茨木市西河原2丁目	平城？	戦国	宅地	平野	不明	不明	不明			169
96	総持寺砦	そうじじとりで		茨木市総持寺1丁目	平城	戦国～織豊	寺社地	段丘	18	不明	全壊		総持寺遺跡	170
97	下音羽城	しもおとわじょう		茨木市大字下音羽	山城	戦国	山林	尾根先端	313	不明	完存			171
S98	郡遺跡・倍賀遺跡	こおりいせき・へかいせき		茨木市松下町	遺跡(居館・屋敷)	平安～鎌倉	宅地	平野	15.5	不明	消滅		郡遺跡・倍賀遺跡	173
S99	西福井遺跡	にしふくいいせき		茨木市西福井3丁目	遺跡(居館・屋敷)	室町	その他	扇状地	31	不明	全壊		西福井遺跡	174
100	止々呂美城	ところみじょう	止々呂美古城	箕面市上止々呂美(所在不明)	山城？	不明	山林	山頂部	不明	不明	不明			177
101	塩山城	しおやまじょう	塩山古城、止々呂美城	箕面市下止々呂美	山城	平安	山林	平野	231	250×130	完存		止々呂美城跡	177
102	善福寺原城	ぜんぶくじはらじょう		箕面市粟生外院6	山城	戦国？	畠地	平野	127	50×60	完存		善福寺原城跡	179
103	粟生間谷城	あおまだにじょう	粟生谷城	箕面市粟生間谷西7	丘城	戦国？	宅地	丘陵	119	350×300	消滅		粟生間谷城跡	180
F104	新家城	しんけじょう	粟生堡	不明	山城？	南北朝？	不明	不明	不明	不明	不明			181
105	黒丸城	くろまるじょう	鳥飼砦	摂津市鳥飼中2丁目1245	平城	戦国	宅地	平野	不明	不明	全壊			182
F106	一津屋砦	ひとつやとりで		不明	平城	戦国	宅地	平野	不明	不明	全壊			183
F107	山崎砦	やまさきとりで		不明	平城？	織豊	不明	不明	不明	不明	全壊			-

表4 城館等一覧表（4）

番号	名称			所在地	種別	時代	土地の状況	立地	遺構の規模		保存状況	指定の有無	周知の埋蔵文化財包蔵地名	本書掲載頁
	城館名	ふりがな	別名						標高	規模				
108	幣ノ木城	じのきじょう	余野城、幣ノ木堀、余野支城	豊能町余野字シテノ木	丘城	戦国	学校敷地	尾根先端	360	150×170	全壊		幣ノ木城跡	184
109	余野城(平地遺構)	よのじょう(へいちいこう)		豊能町余野字シテノ木	その他城館跡	鎌倉～室町	学校グランド	平野	340	不明	全壊		余野城跡	186
110	余野本城	よのほんじょう	余野古城、余野城、水牢城	豊能町余野字城山	山城	戦国	山林	尾根先端	410	140×160	完存		余野本城跡	188
111	大平土居	おおなるどい	余野大平城、大平居館	豊能町余野字大平	その他城館跡	室町	山林	尾根先端	380	50×60	完存		余野城跡	189
112	城之越城(城ノ越城)	しろのこじょう	余野城ノ越城、越城	豊能町余野字梶ヶ谷	山城	室町	山林	尾根先端	360	130×90	完存		余野城ノ越城跡	191
113	余野山上塁	よのさんじょうとりで		豊能町余野字別所	山城	戦国？	山林	山頂部	550	20×15	完存			192
114	野間口島坂城	のまぐちとりさかじょう	鳥阪城	豊能町野間口字鳥阪山	山城	戦国	山林	山頂部	500	10×20	完存		野間口鳥坂城跡	192
115	水牢古城	すいろうじょう	野間口水牢古城、水牢城	豊能町野間字水牢古城山	山城	戦国	山林	山頂部	520	50×30	完存		野間口水牢城跡	194
116	吉川城	よしかわじょう	吉河城	豊能町吉川字高代	山城	室町～織豊	山林	山頂部	360	80×50	完存		吉川城跡	195
117	吉川井戸城	よしかわいどじょう	井戸城	豊能町吉川字川西	山城	平安？～織豊	山林	尾根先端	210	150×80	全壊		吉川井戸城跡	196
118	高山城	たかやまじょう		豊能町高山字城山	山城	戦国	山林	山頂部	480	30×60	半壊		高山城跡	200
119	高山向山城	たかやまむかいやまじょう	向山城	豊能町豊能町高山字イゴタニ	山城	戦国	山林	山頂部	500	60×50	完存		高山向山城跡	201
120	山辺城	やまべじょう	鷹爪城、小富士の城	能勢町山辺	山城	平安～戦国	山林	山頂部	433.3	300×200	完存		山辺城跡	203
121	森上城	もりがみじょう	枳根城、南面之城、樹形城	能勢町森上	山城	平安～戦国	山林	山頂部	328.2	95×46	完存		森上城跡	203
122	今西城	いまにしじょう	杵の城、森本城、今西砦	能勢町今西	山城	戦国	山林	山頂部	320	24.3×25	完存		今西城跡	205
123	森上館	もりがみやかた		能勢町森上	居館	戦国	その他(学校)	山裾	215	50×50	半壊			206
124	吉村城	よしむらじょう		能勢町栗栖	山城	戦国	山林	尾根先端	270	50×25	完存			207
125	栗栖城	くるすじょう	栗栖砦、塚口城	能勢町栗栖	山城	戦国	山林	尾根先端	270	不明	全壊			-
126	片山城	かたやまじょう	塙山城	能勢町片山	山城	戦国	山林	山頂部	314	100×30	完存		片山城跡	207
127	山田城	やまだじょう	亀ノ屋城	能勢町垂水・山田	山城	平安～戦国	山林	山頂部	370	155×30	完存		山田城跡	209
128	平通城	ひらどおりじょう	岡崎城	能勢町平通	山城	戦国	山林	尾根先端	307	85×20	完存			209
129	上杉城	うえすぎじょう	楳並城	能勢町上杉	山城	戦国	山林	尾根先端	200	50×50	完存		上杉城跡	211
130	長谷屋敷	ながたにやしき	殿屋敷、長谷居館	能勢町長谷	居館	戦国	山林、水田、宅地	山裾	284	90×80	半壊			212
131	宿野城	しゆくのじょう	七星城、撰見之館	能勢町宿野	丘城	平安～戦国	山林	尾根先端	244.6	18×42	完存		宿野城跡	213
132	丸山城	まるやまじょう	地黄古城、天王丸	能勢町地黄	丘城	平安～戦国	山林	尾根先端	278	30×155	完存		丸山城跡	214
133	野間城	のまじょう		能勢町野間中	山城	平安～織豊	山林	尾根先端	352.8	100×50	完存		野間城跡	216
134	野間氏居館	のましきょかん	野間館	能勢町野間中	居館	平安～織豊	山林	山裾	270	62×50	完存		野間氏居館跡	216

表5 城館等一覧表（5）

番号	名称			所在地	種別	時代	土地の状況	立地	遺構の規模		保存状況	指定の有無	周知の埋蔵文化財包蔵地名	本書掲載頁
	城館名	ふりがな	別名						標高	規模				
135	野間屋敷	のまやしき		能勢町野間中	居館	戦国？	宅地	平野	243	50×60	半壊			218
136	野間中城	のまなかじょう	小倉山城	能勢町野間中	山城	戦国	山林	山頂部	300	75×40	完存			219
137	吉野城	よしのじょう	藏王砦	能勢町吉野	山城	戦国	山林	尾根先端	290	55×40	完存		吉野城跡	220
138	吉野居館	よしのきょかん		能勢町吉野	居館	戦国	山林	山裾	290	24.3×25	完存			221
139	田尻城	たじりじょう		能勢町下田尻	山城	戦国	山林	尾根先端	283	85×50	完存			221
140	田尻御所	たじりごしょ	田尻東山城	能勢町野間出野・下田尻	山城	平安～戦国？	山林	山頂部	366	100×30	半壊			223
141	杉原城	すぎはらじょう		能勢町杉原	山城	戦国	山林	尾根先端	370	170×35	完存			223
142	為楽山城	いらくさんじょう	大空寺城	能勢町野間中	山城	織豊	寺社地	山頂部	660	20×60	半壊			224
143	天王砦	てんのうとりで		能勢町天王	山城	中世	山林	不明	594	18×10	半壊			－
144	吉良居館	きらきょかん		能勢町天王	山城	中世	山林	山裾	500	70×70	半壊			－
145	浮ノ城	うきのじょう		能勢町山辺	山城	中世	山林	尾根先端	290	110×30	完存			－
146	天神山陣地	てんじんやまじんち		能勢町稻地	山城？	中世	山林	不明	241	不明	全壊			－
147	垂水城	たるみじょう		能勢町垂水	山城	中世	山林	山頂部	350	35×20	半壊			－
148	上杉下所城	うえすぎしもんじょじょう	障子ヶ浦城	能勢町上杉	山城	中世	山林	尾根先端	300	175×35	完存			－
149	下水砦	したみとりで	下見砦	能勢町宿野	山城	中世	山林	尾根先端	279	90×15	半壊			－
150	井内城	いとうじょう		能勢町宿野	山城	中世	山林	尾根先端	290	70×50	完存			－
151	明月砦	めいげつとりで		能勢町大里	山城	中世	山林	尾根先端	260	15×30	半壊			－

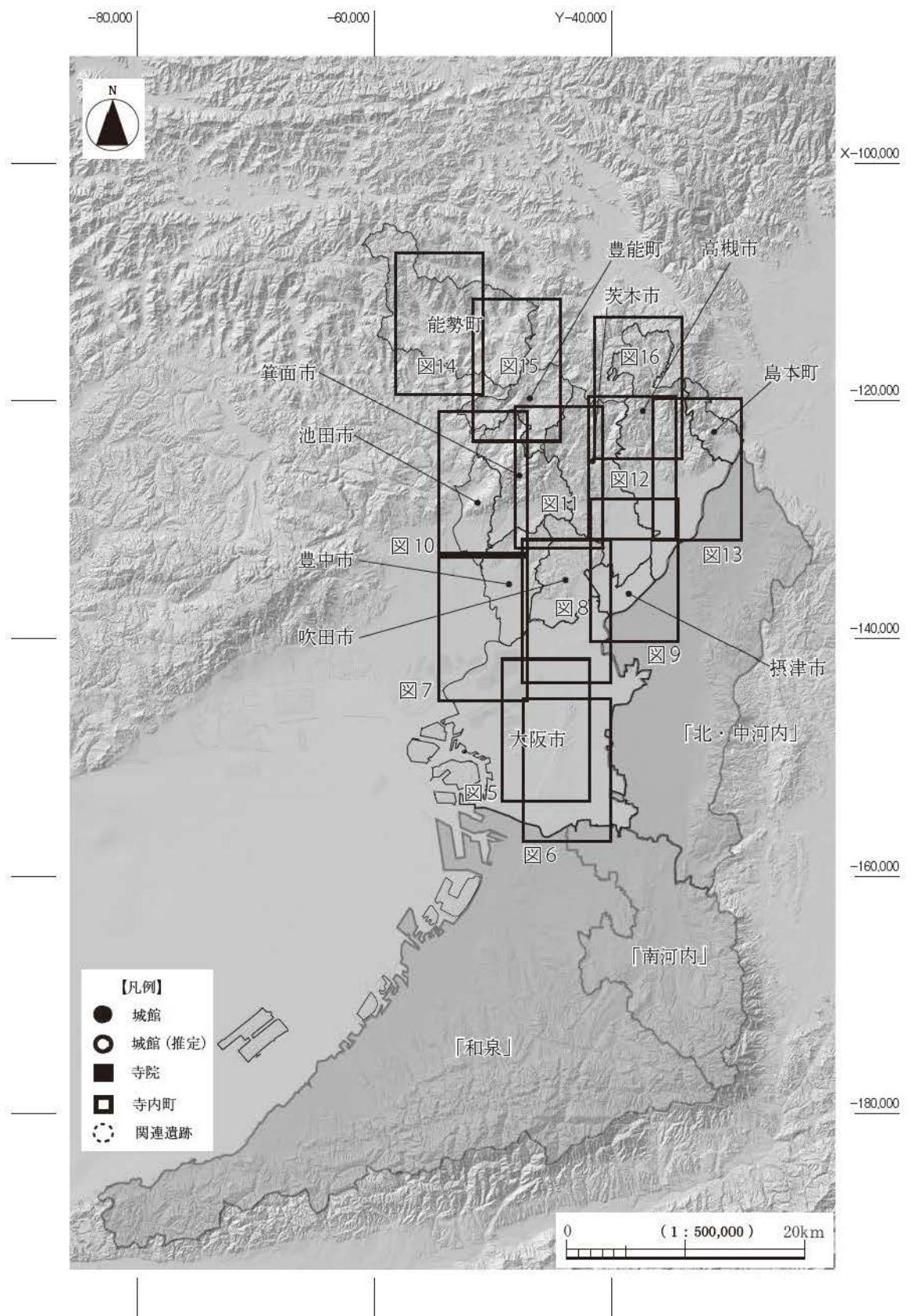


図4 分布図配置図および凡例（現在地図）

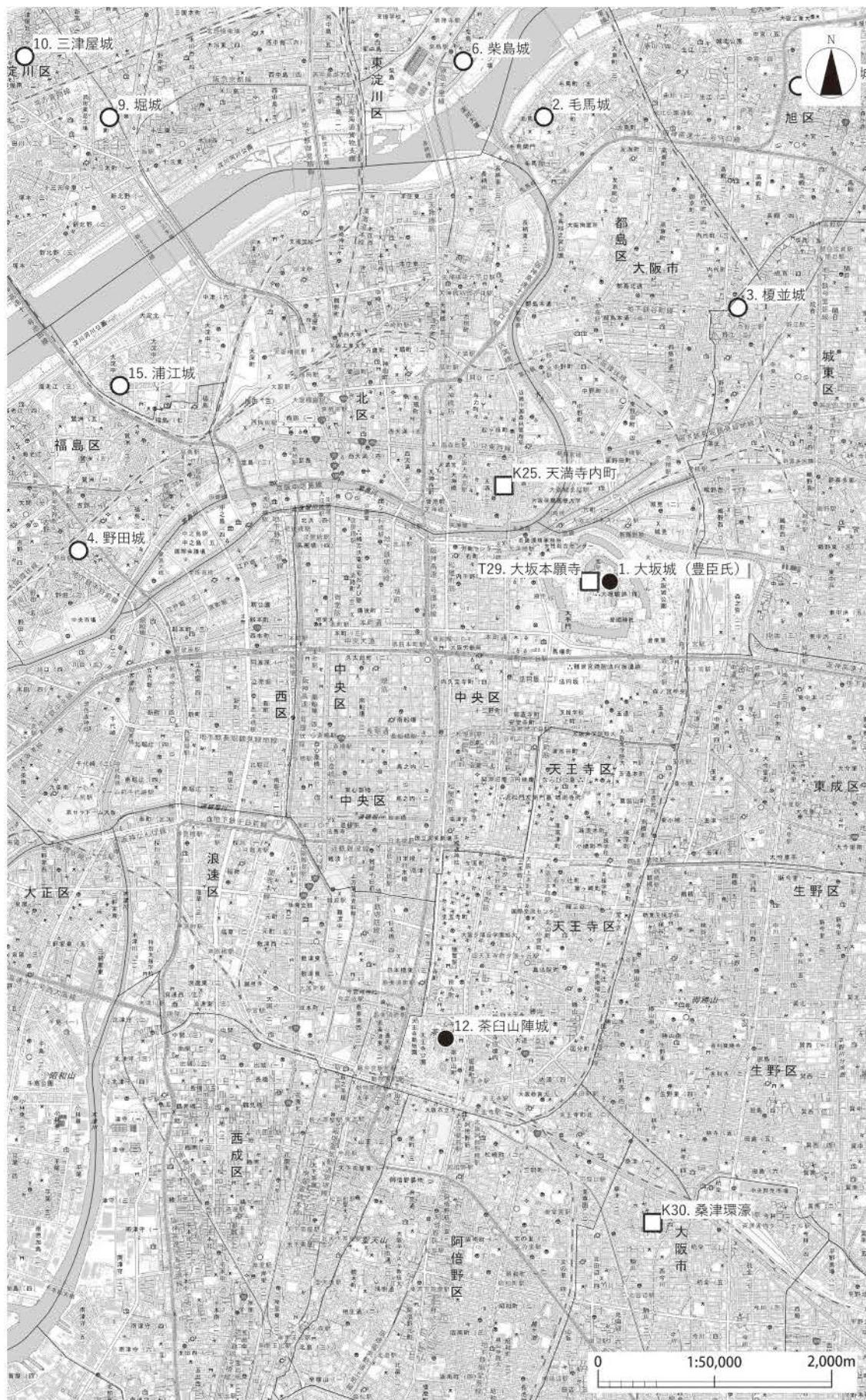


図5 摂津地域の中世城館等分布図（1）（現在地図、S=1/50,000）

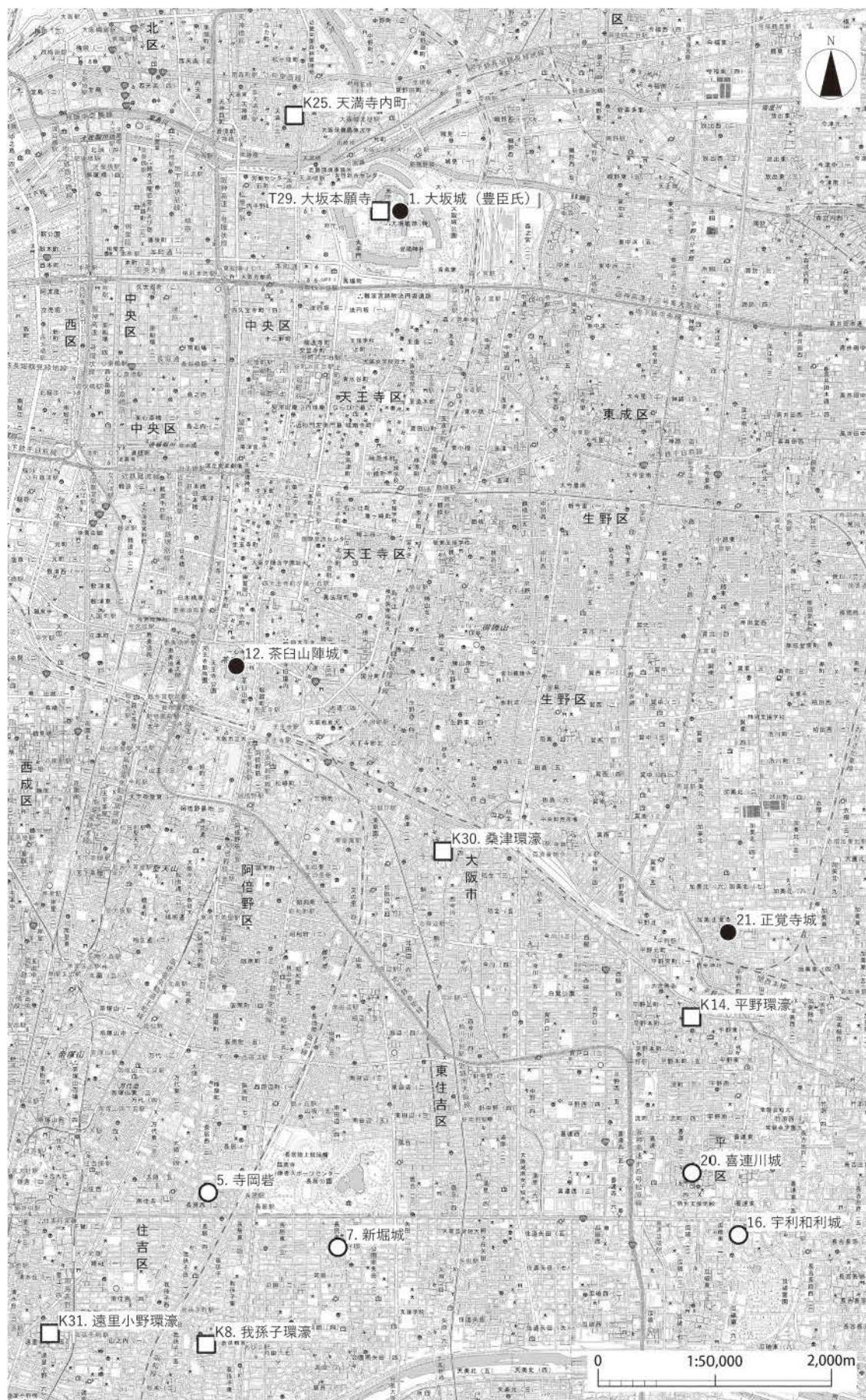


図6 摂津地域の中世城館等分布図（2）（現在地図、S=1/50,000）



図7 摂津地域の中世城館等分布図（3）（現在地図、S=1/50,000）

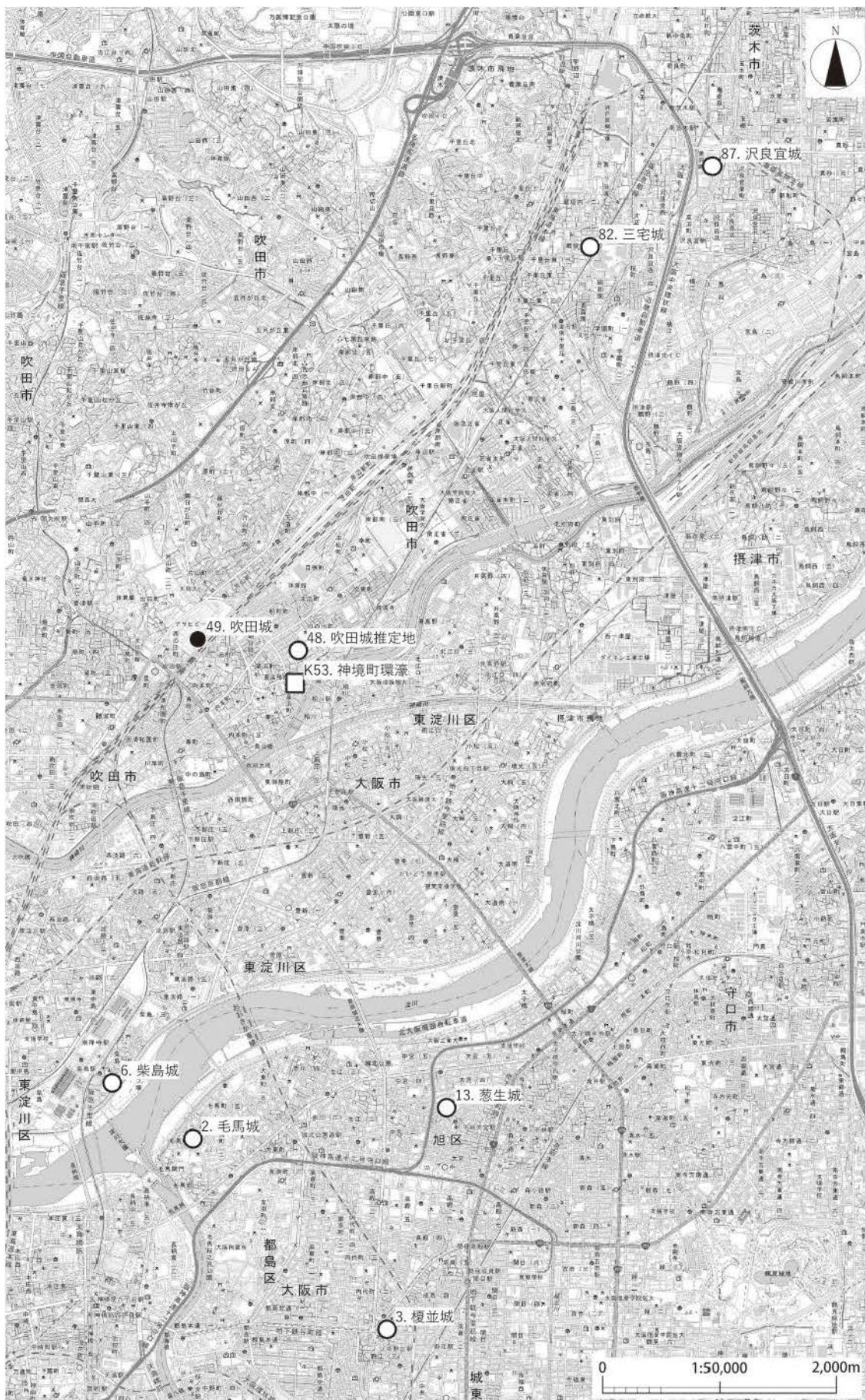


図8 摂津地域の中世城館等分布図（4）（現在地図、S=1/50,000）



図9 摂津地域の中世城館等分布図（5）（現在地図、S=1/50,000）



図 10 摂津地域の中世城館等分布図（6）（現在地図、S=1/50,000）

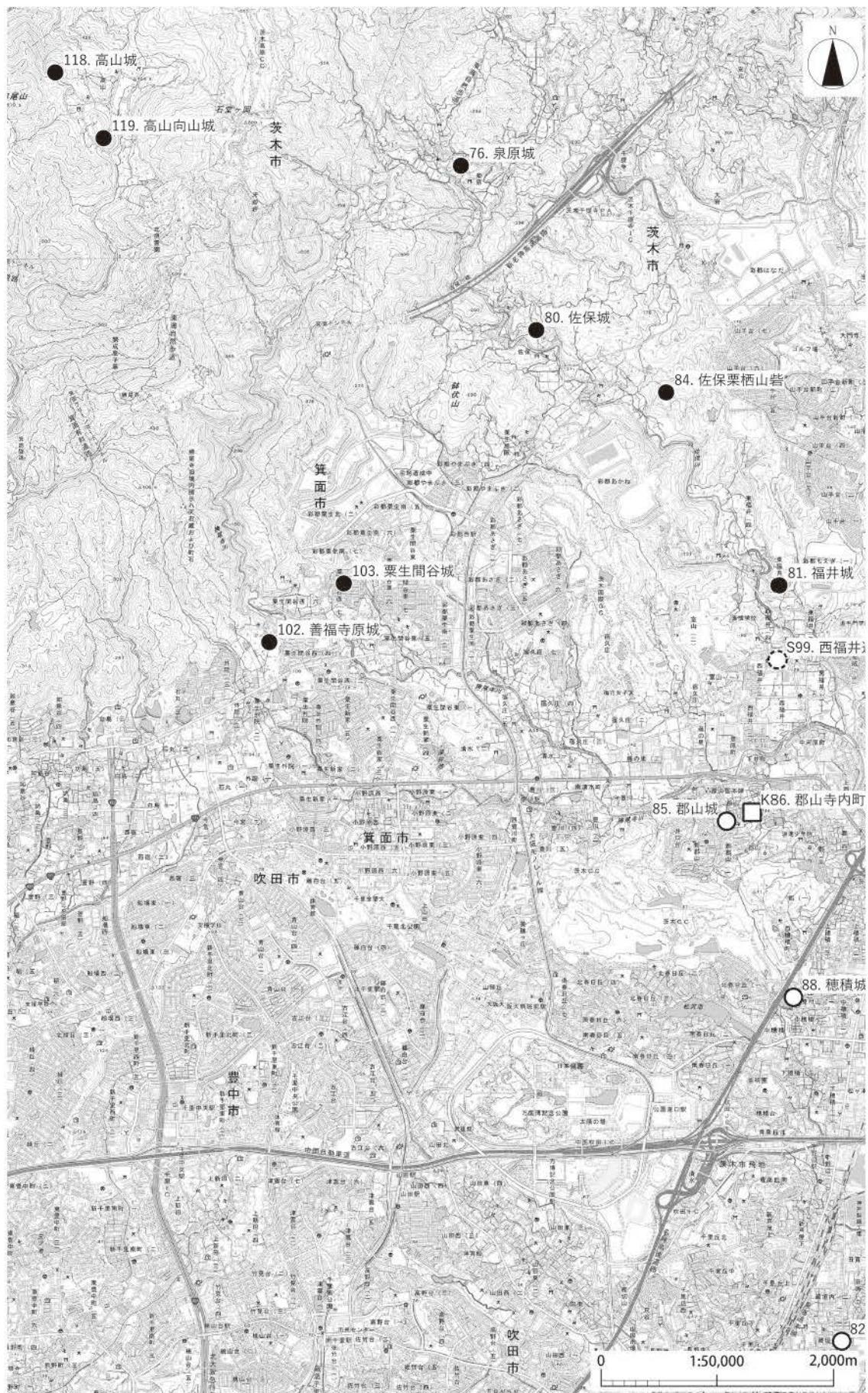


図 11 摂津地域の中世城館等分布図（7）（現在地図、S=1/50,000）

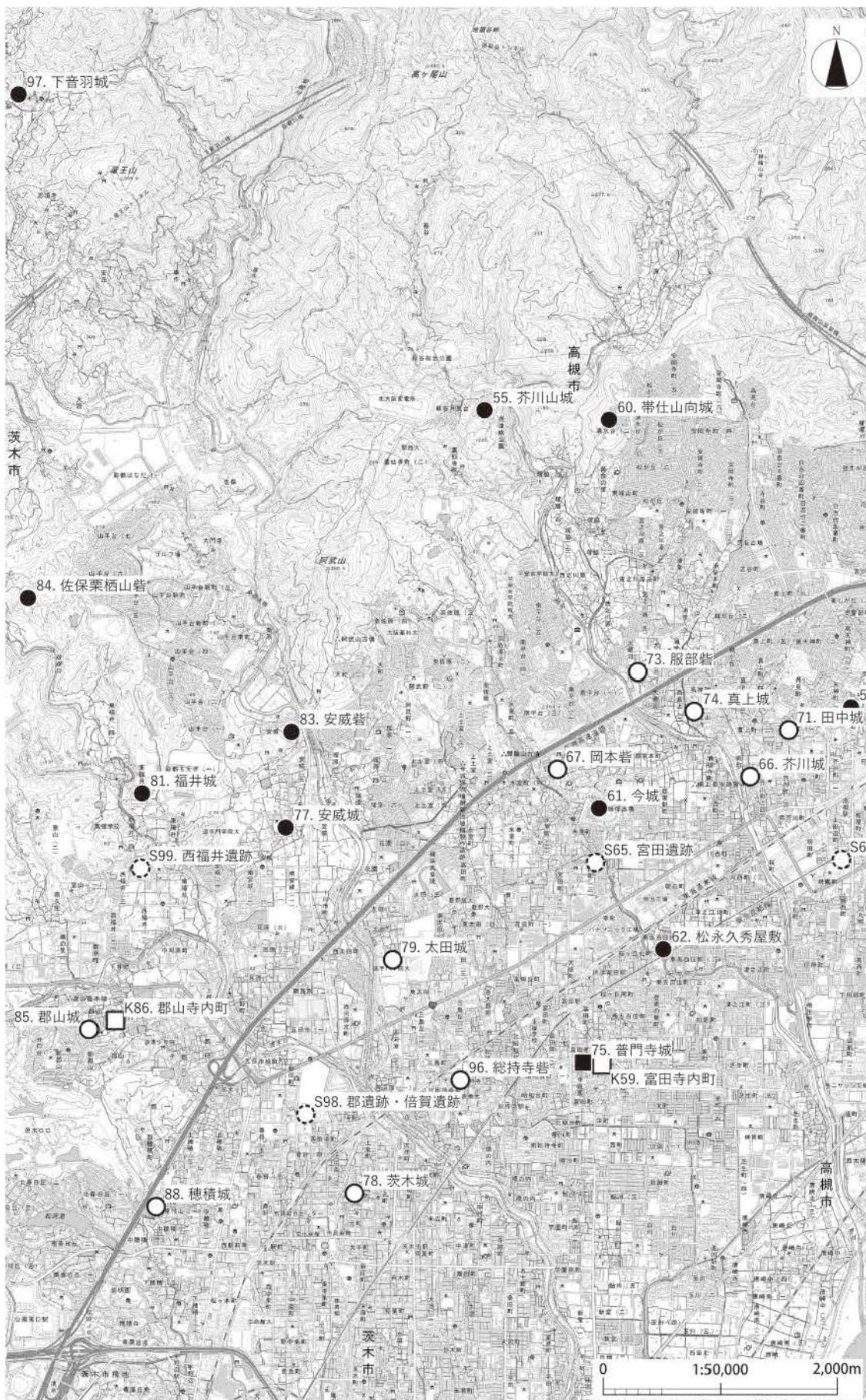


図 12 摂津地域の中世城館等分布図（8）（現在地図、S=1/50,000）

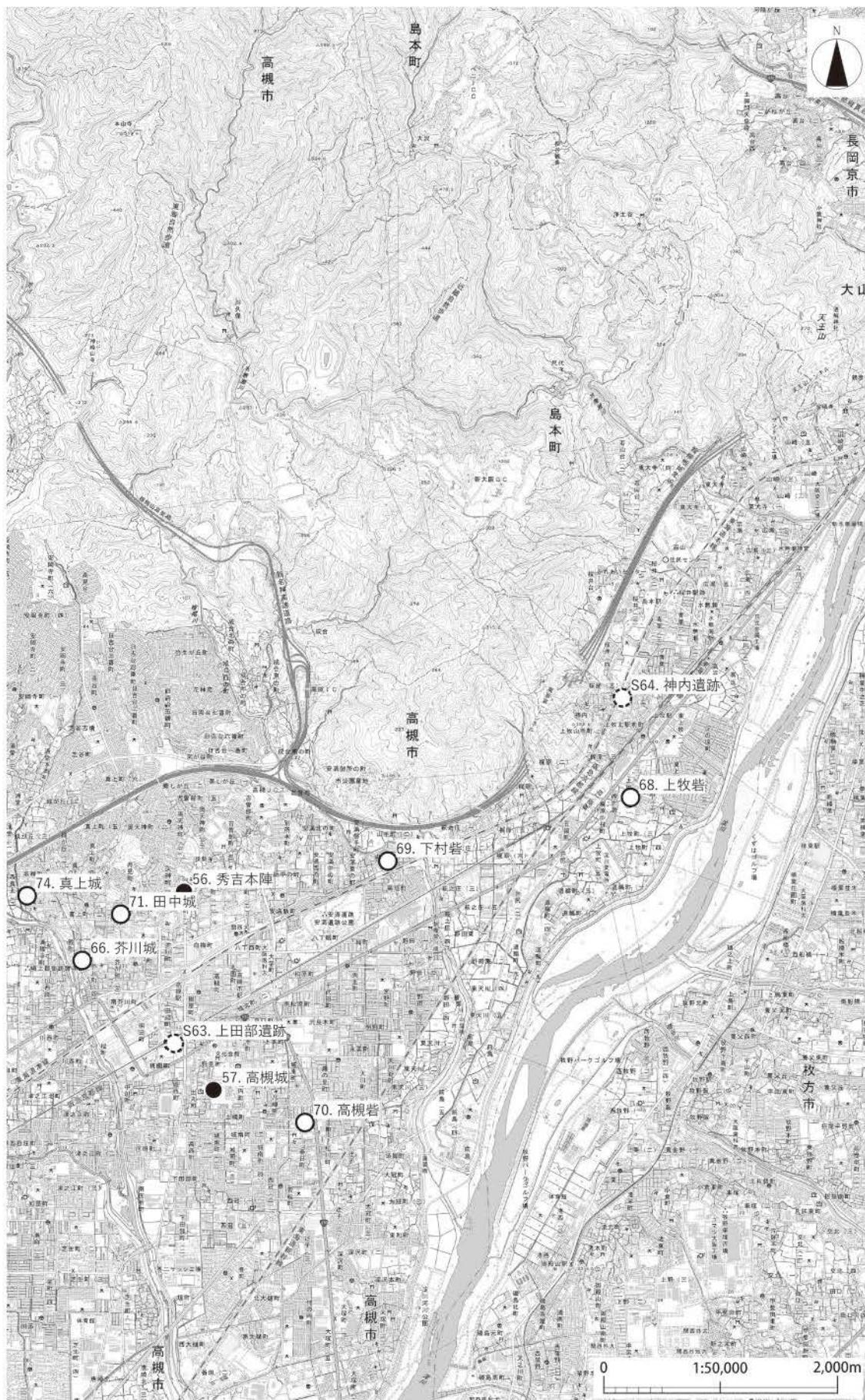


図 13 摂津地域の中世城館等分布図（9）（現在地図、S=1/50,000）

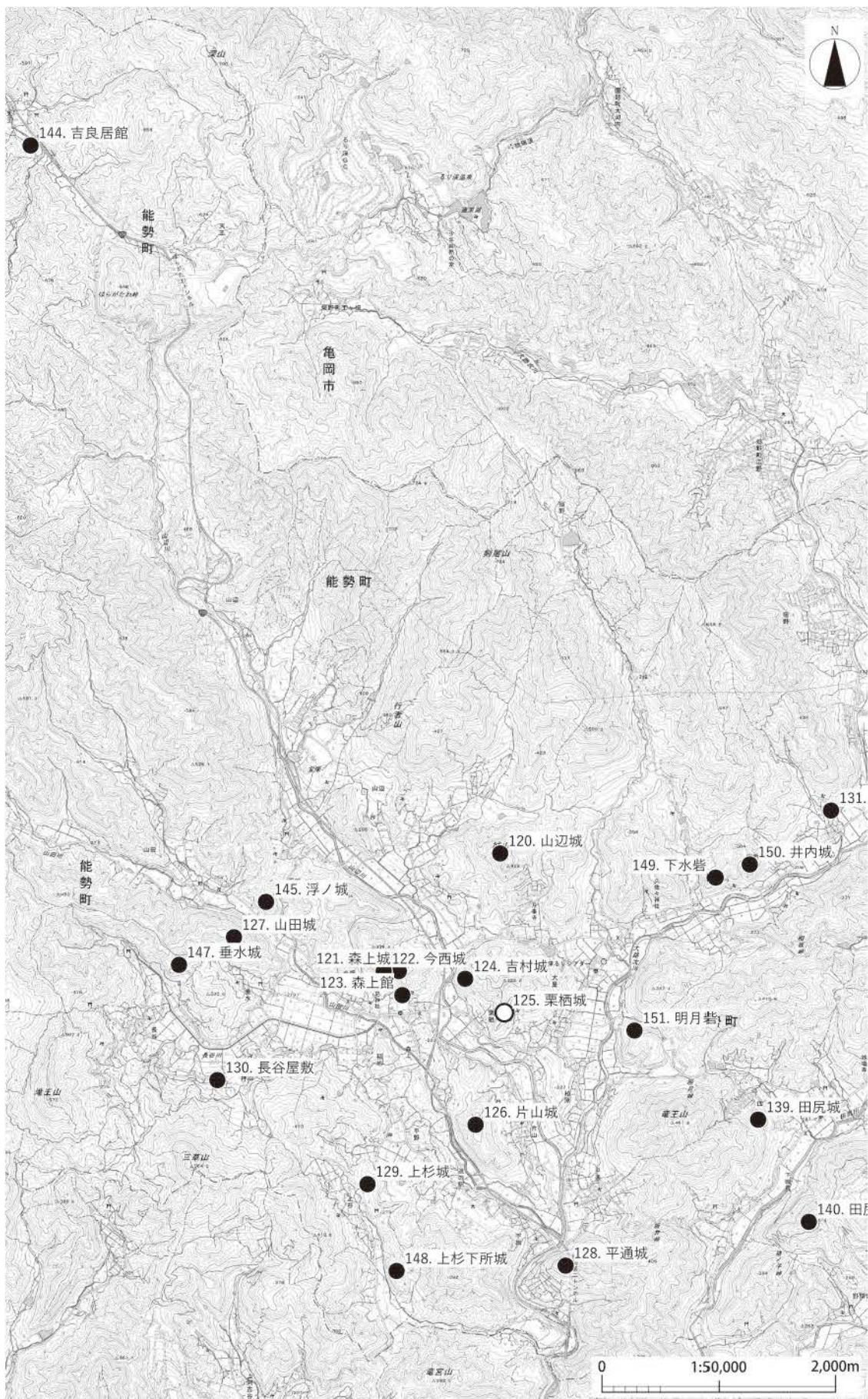


図 14 摂津地域の中世城館等分布図（10）（現在地図、S=1/50,000）

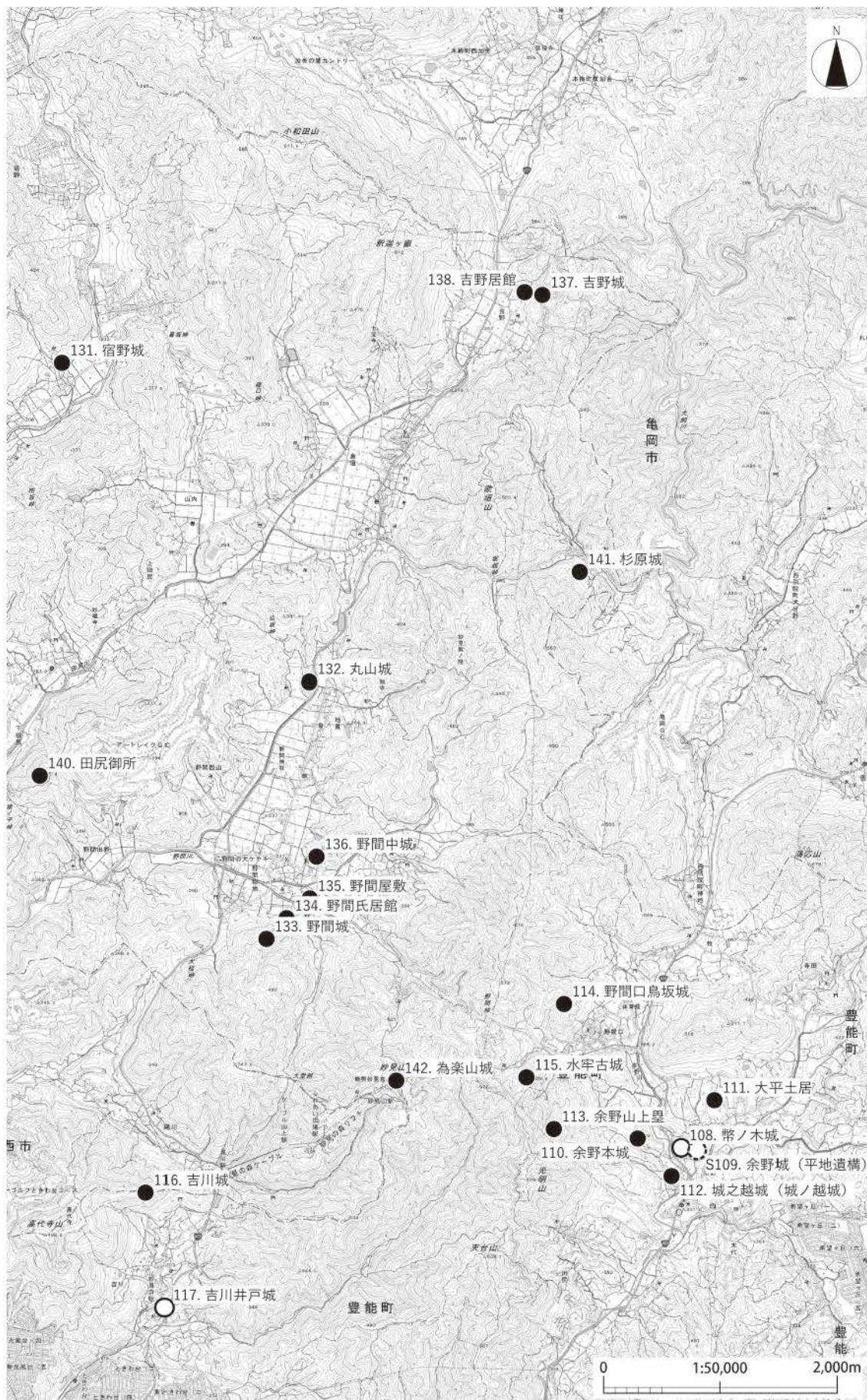


図 15 摂津地域の中世城館等分布図 (11) (現在地図、S=1/50,000)

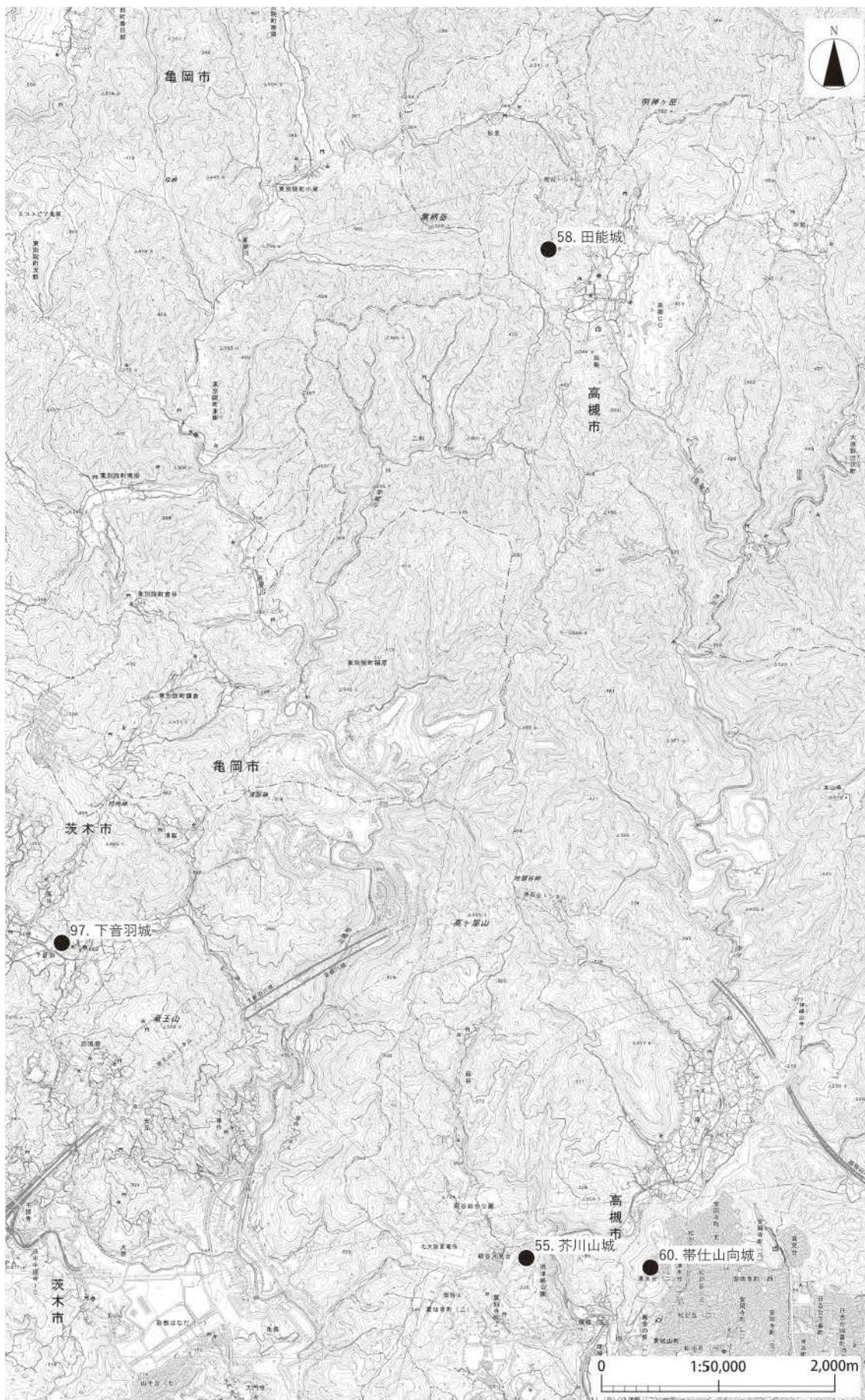


図 16 摂津地域の中世城館等分布図（12）（現在地図、S=1/50,000）

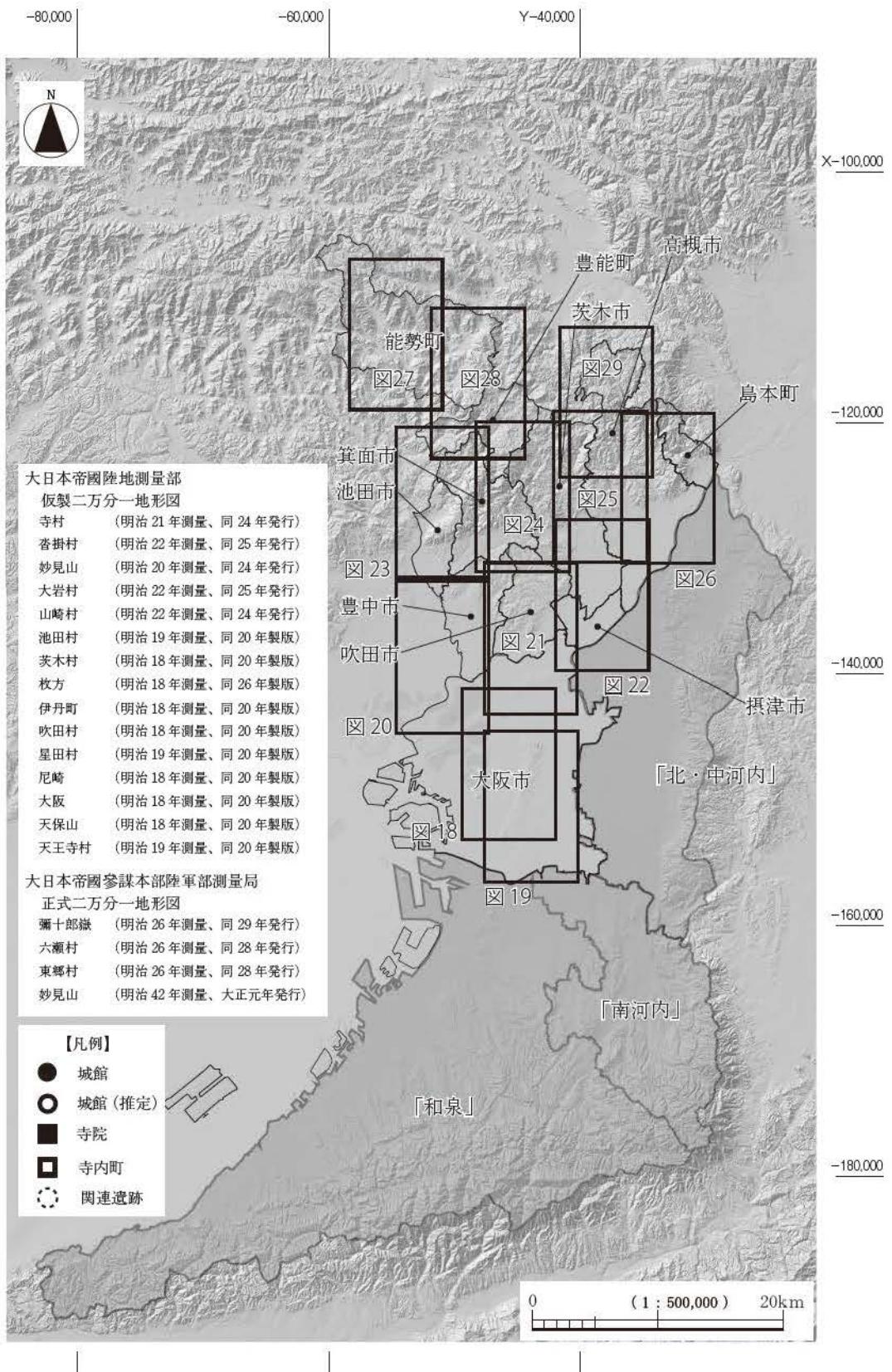


図 17 分布図配置図および凡例 (明治期地図)



図18 摂津地域の中世城館等分布図（1）（明治期地図、S=1/50,000）

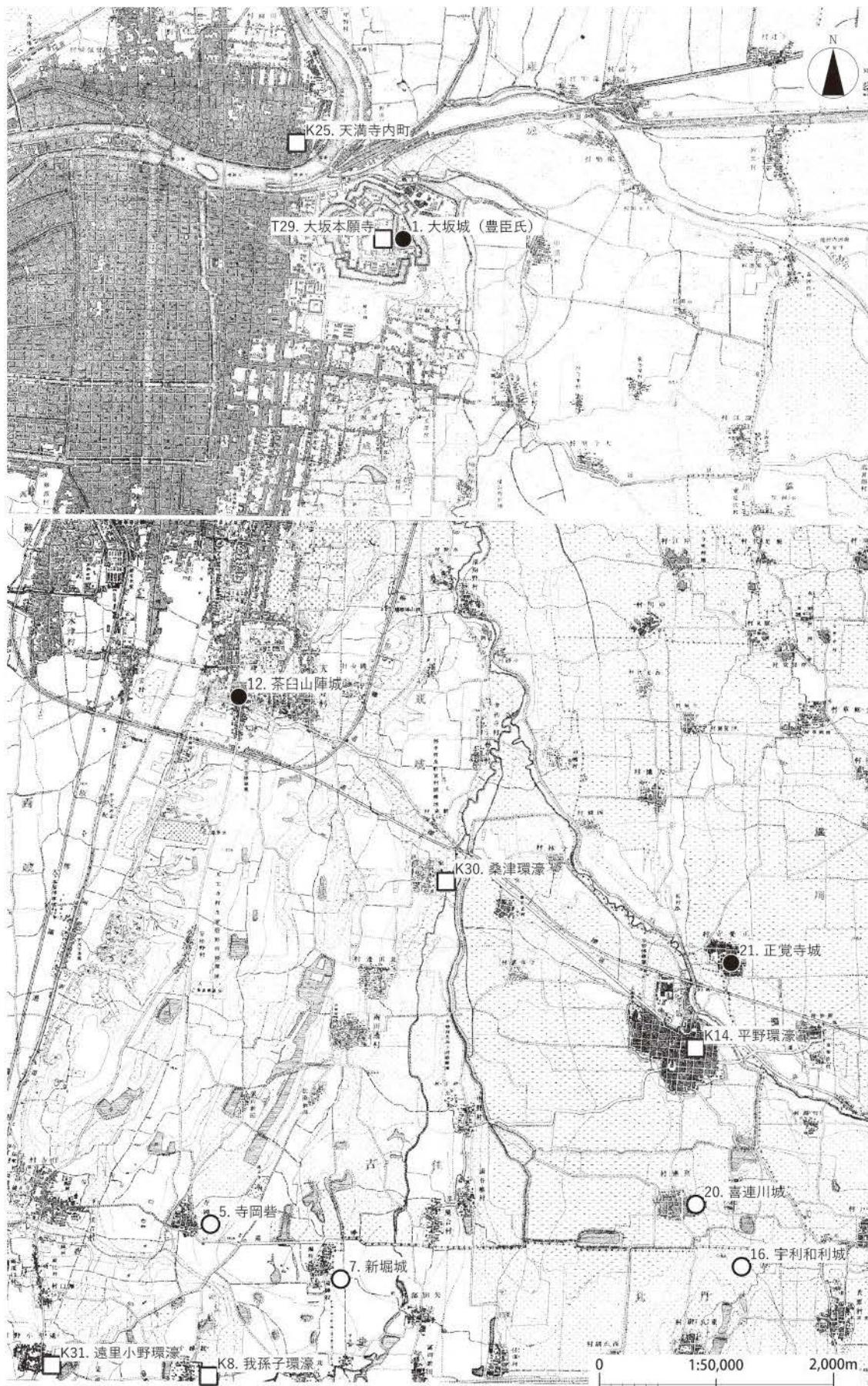


図 19 摂津地域の中世城館等分布図（2）（明治期地図、S=1/50,000）

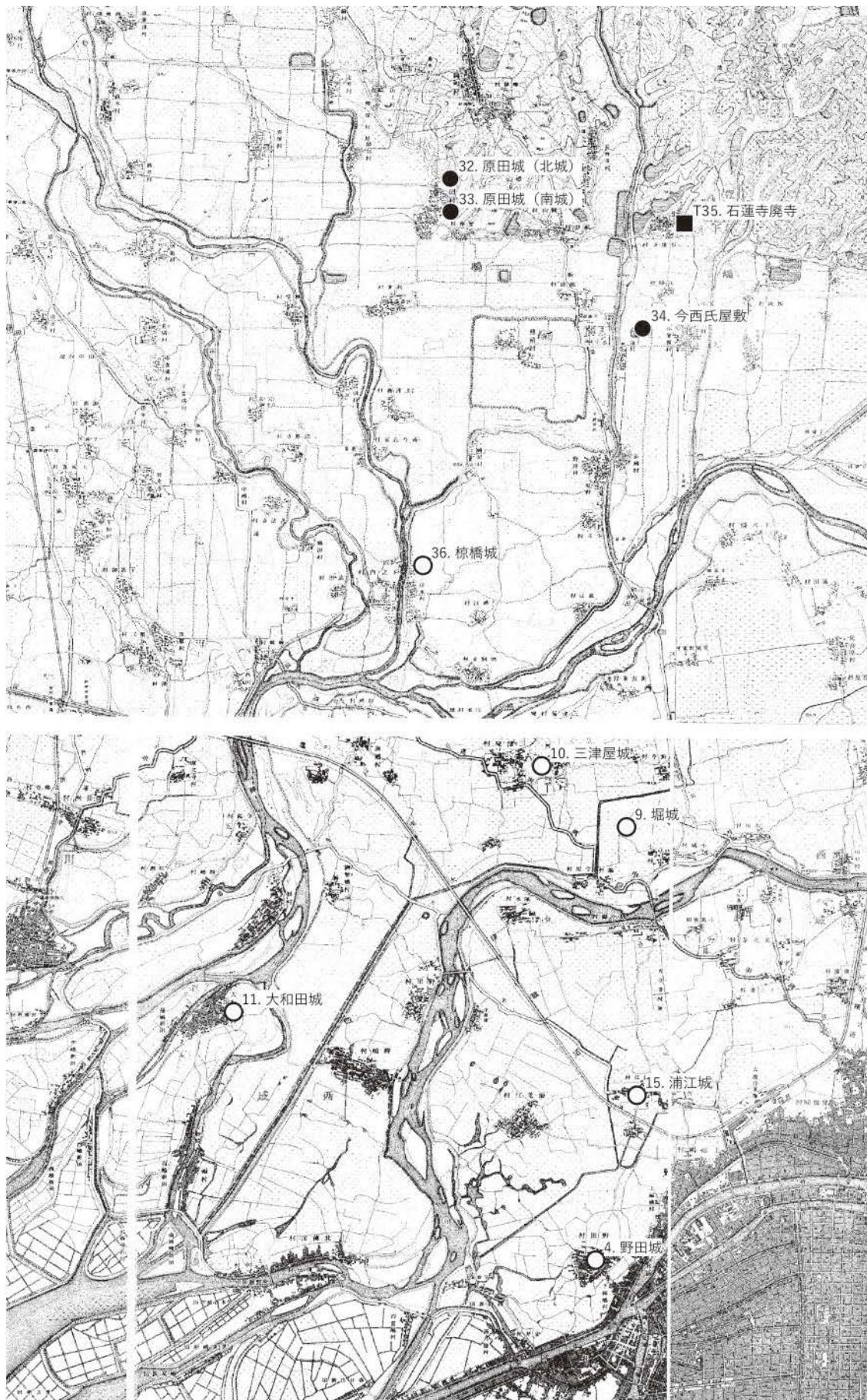


図 20 摂津地域の中世城館等分布図（3）（明治期地図、S=1/50,000）

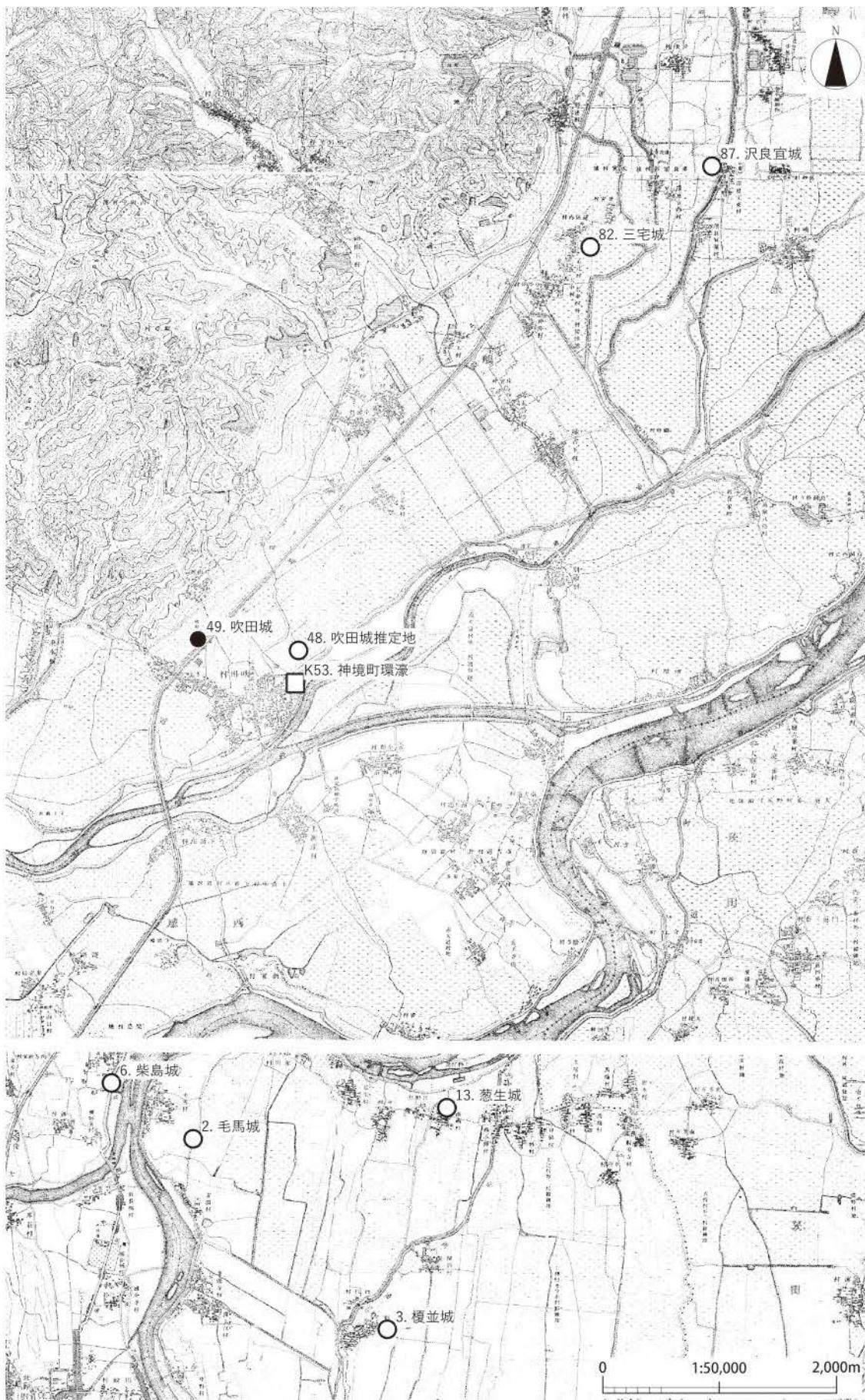


図 21 摂津地域の中世城館等分布図（4）（明治期地図、S=1/50,000）

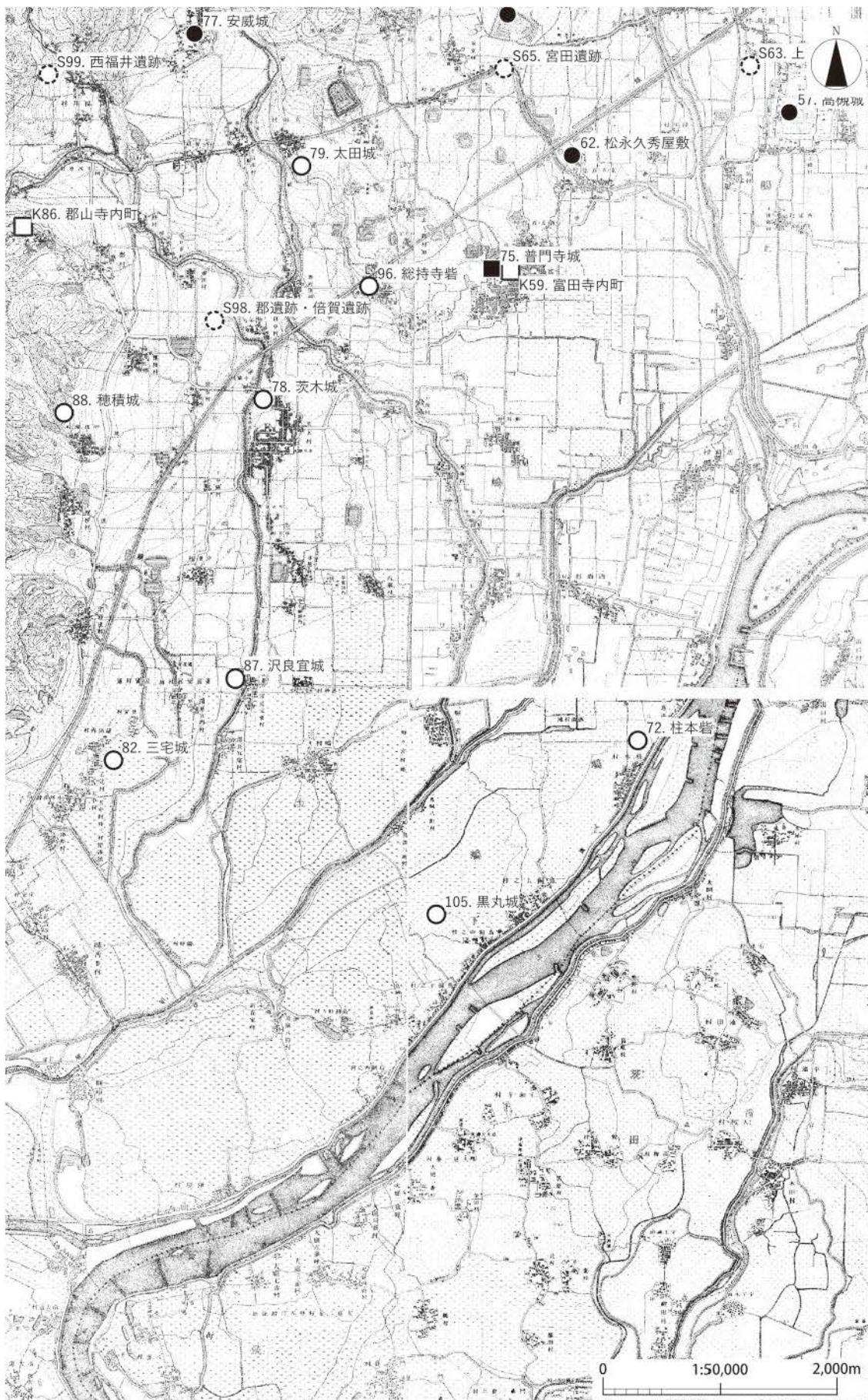


図22 摂津地域の中世城館等分布図（5）（明治期地図、S=1/50,000）

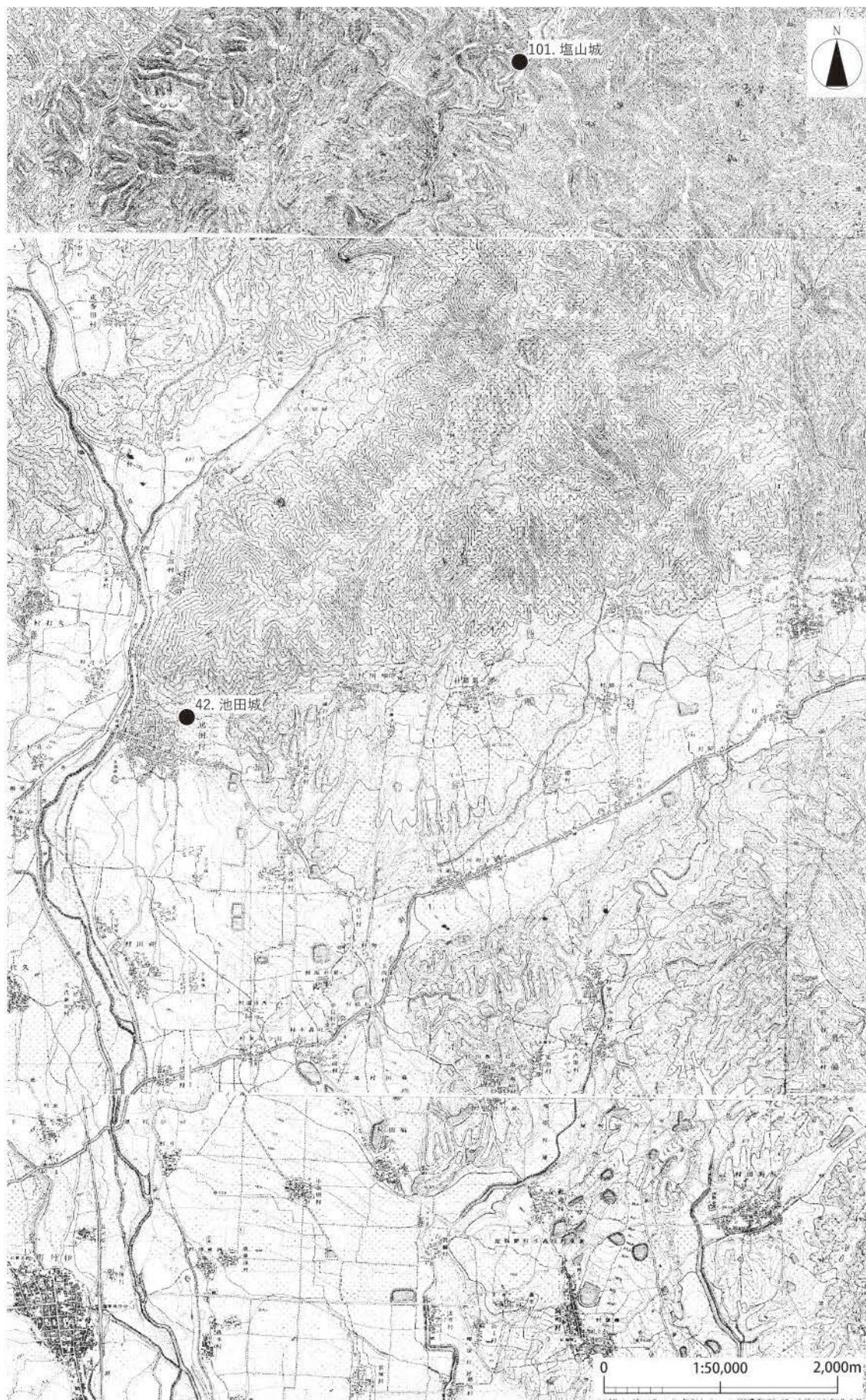


図 23 摂津地域の中世城館等分布図（6）（明治期地図、S=1/50,000）

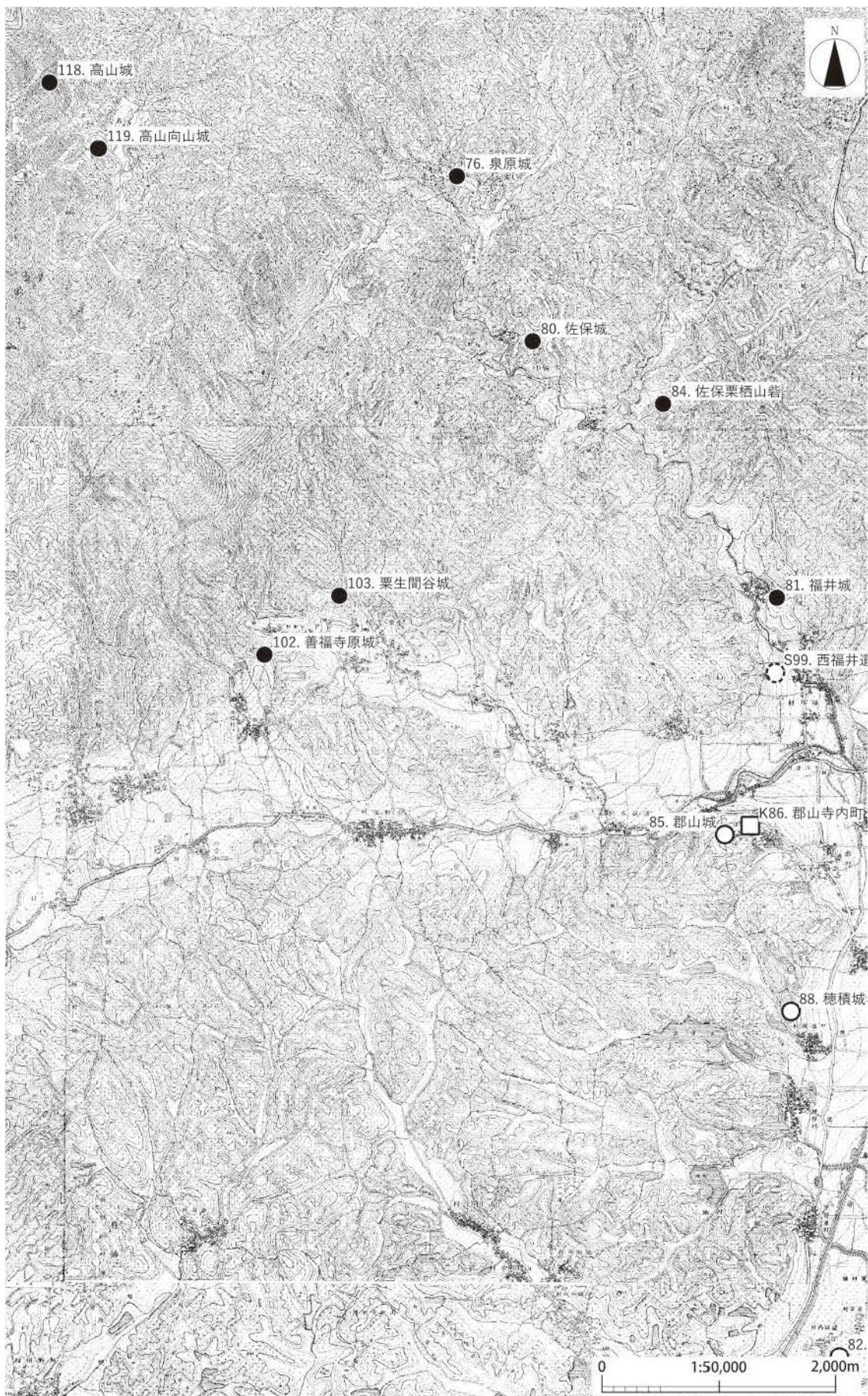


図24 摂津地域の中世城館等分布図（7）（明治期地図、S=1/50,000）

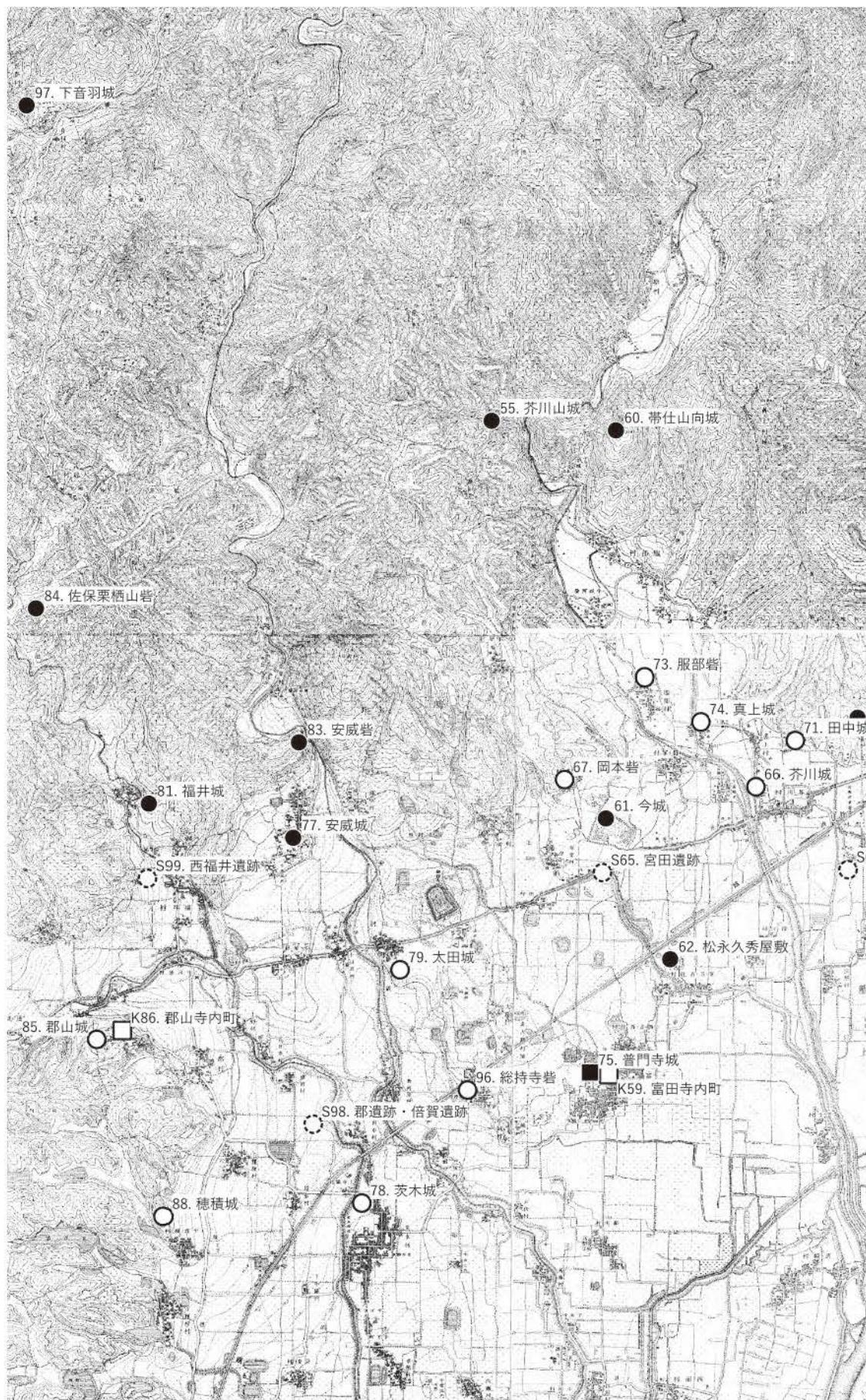


図 25 摂津地域の中世城館等分布図（8）（明治期地図、S=1/50,000）



図 26 摂津地域の中世城館等分布図（9）（明治期地図、S=1/50,000）

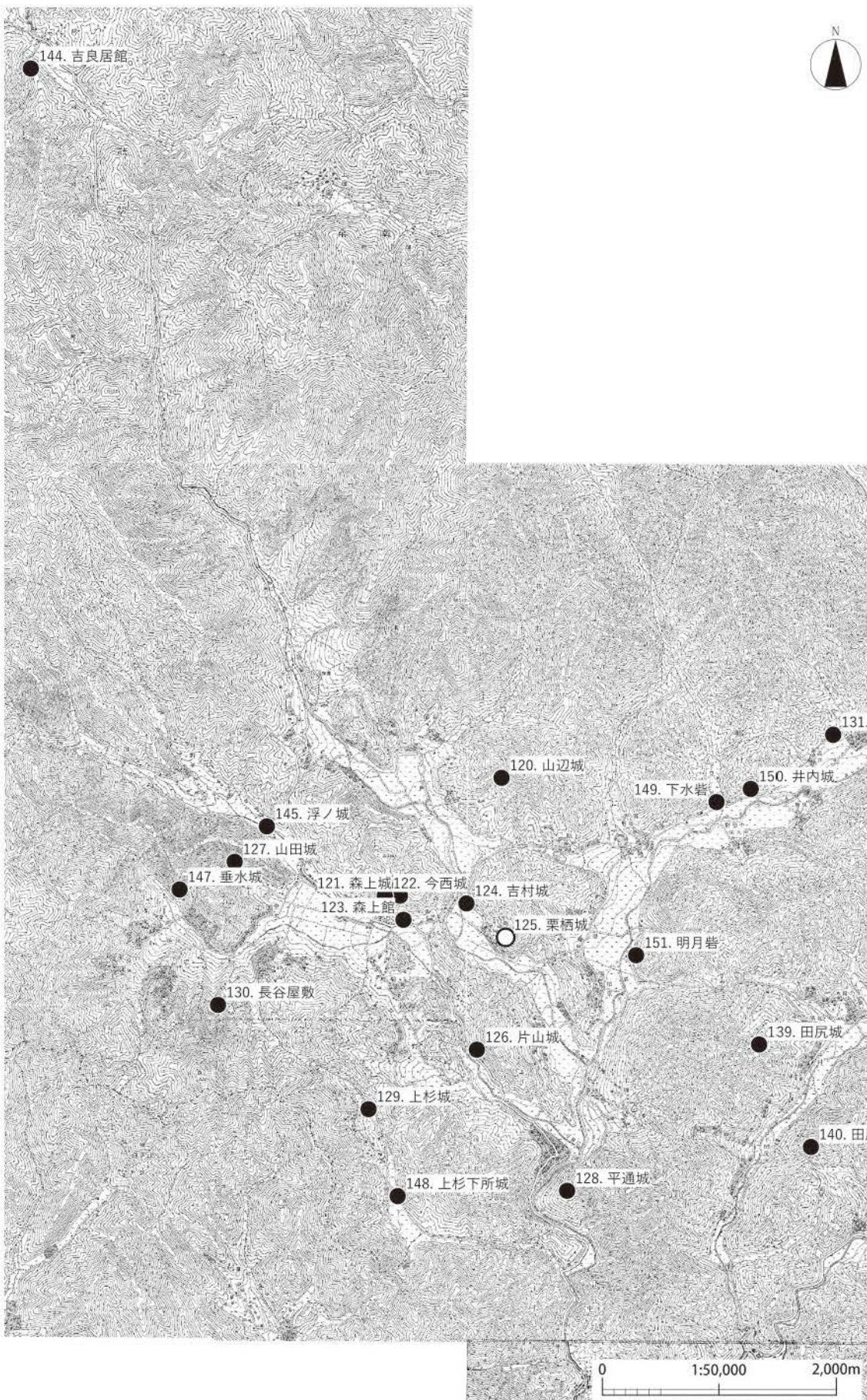


図 27 摂津地域の中世城館等分布図 (10) (明治期地図、S=1/50,000)

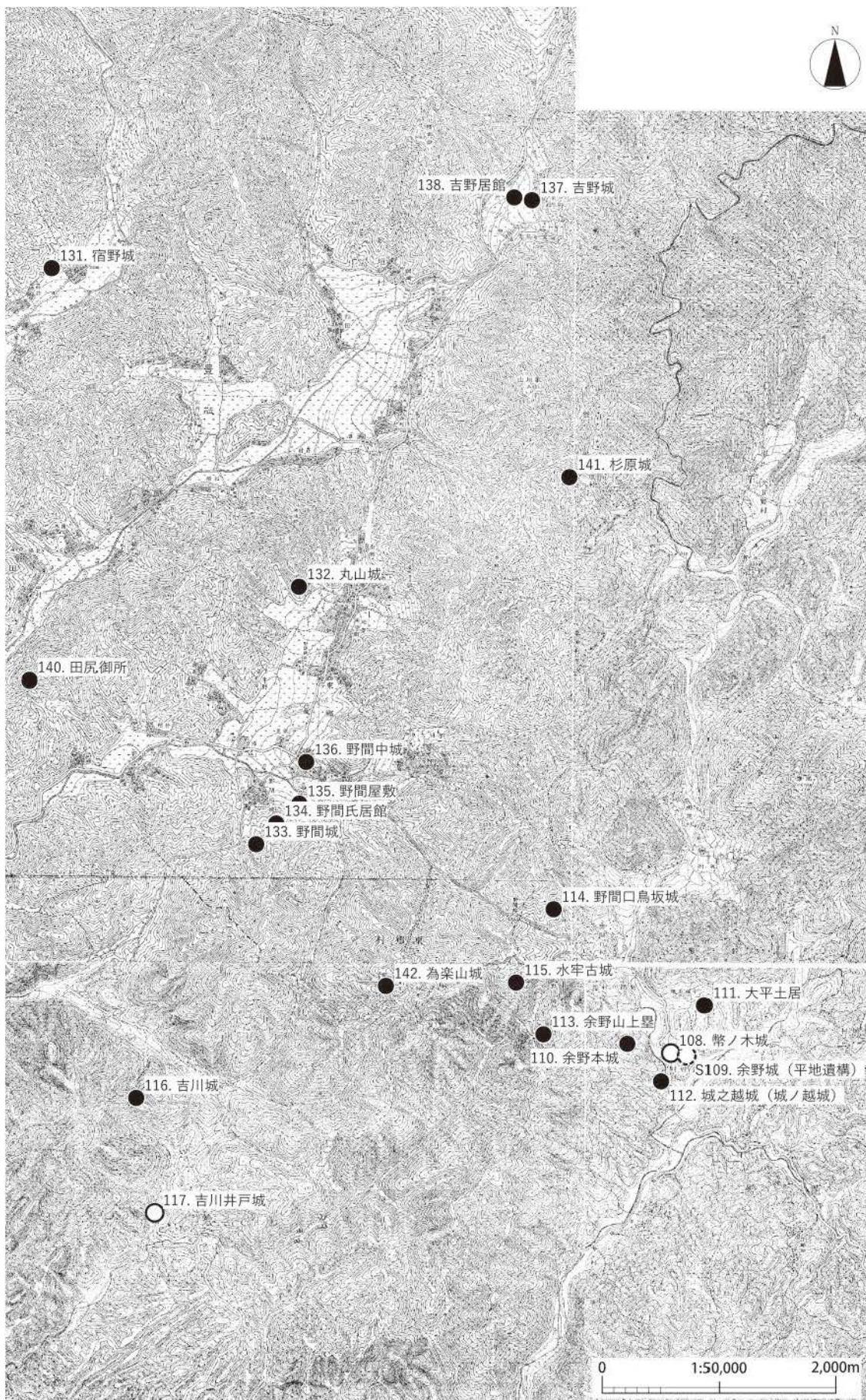


図 28 摂津地域の中世城館等分布図 (11) (明治期地図、S=1/50,000)

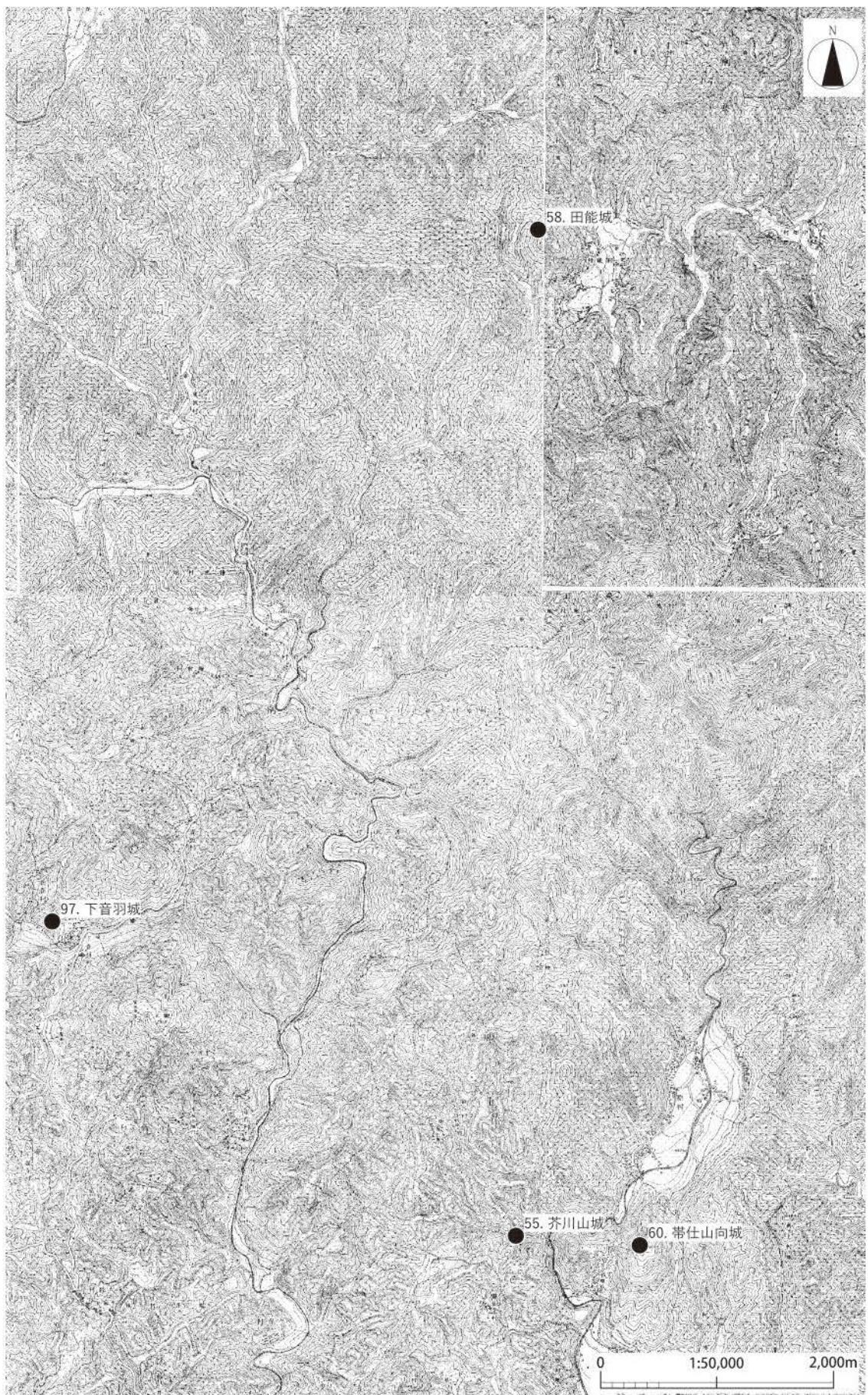


図 29 摂津地域の中世城館等分布図 (12) (明治期地図、S=1/50,000)

## 2 調査資料

### (1) 城館等資料一覧表

- 1) 城館等資料一覧表は、抽出した城館の資料を一覧するものである。
- 2) 「築城時期」には史資料から判明する時代（年代）を記した。実際の城館の時代（年代）が不明なものは、出土遺物や根拠となる史料の時代（年代）を記したものもある。
- 2) 「城主」には、文献等で判明する城主のうち主なものについて記した。
- 3) 「史料」には、近世までの文献史料のほか、絵図についても記載している。
- 4) 「大阪府全志」には、『大阪府全志』（井上 1922）に記載のあるものを「○」で示した。
- 6) 「市区町村史」には、各市区町村史に記載のある場合には下記の通り示した。

「大」 … 『新修大阪市史』	「平」 … 『平野区誌』
「豊中」 … 『豊中市史』	「豊新」 … 『新修豊中市史』
「池」 … 『新修池田市史』	「吹」 … 『吹田市史』
「高」 … 『高槻市史』	「茨」 … 『新修茨木市史』
「箕」 … 『箕面市史』	「摂」 … 『摂津市史』
「豊能」 … 『豊能町史』	「能」 … 『能勢町史』
- 7) 「日本城郭大系」には、「日本城郭体系」第12巻（田代・渡辺・石田（編）1981）に詳述がある場合は「○」、一覧表に記載のある場合は「○」で示した。
- 8) 「日本城郭全集」には、「日本城郭全集」第6（藤岡・桜井（編）1960）に記載のあるものを「○」で示した。
- 9) 「平凡社 地名事典」には、『大阪府の地名 I・II』（平凡社地方資料センター（編）1986）に記載のある場合は「○」で示した。
- 10) 「その他中世城館関連」には、以下に挙げた各城館等の集成研究文献について、記載のあるものについて示した。

「図説」 … 村田修三（編）1987 『図説中世城郭事典』 第3巻 新人物往来社  
「談」 … 高田徹（編）2004 『図説近畿中世城郭事典』 城郭談話会  
「図解（巻名）」 … 中井均（監修）2014 『図解近畿の城郭』 I、同 2015 『図解近畿の城郭』 II、同 2016 『図解近畿の城郭』 III、同 2017 『図解近畿の城郭』 IV、同 2018 『図解近畿の城郭』 V、いずれも戎光祥出版  
「中」 … 中西裕樹 2015 『大阪府中世城館事典』 戎光祥出版
- 11) 「関連地名」には、「各城館等資料」で示した地名と同じものを挙げた。

表6 城館等資料一覧表（1）

番号	城館名	築城時期	城主	史料	大阪府全志	市区町村史	日本城郭大系	日本城郭全集	地平名凡辞典社	中世城館関連他	関連地名	備考
1	大坂城 (豊臣氏)	天正11年 (1583)	豊臣秀吉・豊臣秀頼			◎	○			「談」「中」「図解I」		
2	毛馬城	16世紀				◎		○				
3	榎並城	15世紀か	三好政長、三好正勝	摂津志	○	大	◎		○			
4	野田城	16世紀	三好三人衆、荒木村重、大野道犬	細川両家記、摂陽群談	○		◎		○		城之内	
5	寺岡砦	14世紀か				◎	○	○			櫓の下	
6	柴島城	16世紀	十河一政、稻葉氏	摂津志	○		◎		○	「中」「図解II」		
7	新堀城	16世紀				○		○				
K8	我孫子環濠	16世紀	今井兵部	東摂城址図誌		○	○			「中」「図解IV」		
9	堀城	永禄9年 (1566)	細川藤賢	東摂城址図誌		○	○				堀之内	
10	三津屋城	正平年間 (1346~70)	楠木正行、細川晴賢、三好長慶	摂津志	○		○	○	○		堀之内	
11	大和田城	16世紀	下間氏、阿波仁右衛門	東摂城址図誌	○		○		○		城垣内	
12	茶臼山陣城	天文15年 (1546)	山中又三郎、徳川家康、真田幸村	諸国古城之図	○		○		○	「談」「中」「図解I」		
13	葱生城	16世紀				◎					殿屋敷	
K14	平野環濠	16世紀		イエズス会日本年報、兼見卿記、攝州平野大絵図	○	平	○			「中」「図解III」		
15	浦江城	16世紀	細川常植、三好長慶？		○		○		○			
16	宇利和利城	14世紀	楠木正儀	花喰三代記、全田家文書		平	○		○		城山	
F17	江口城	16世紀	三好政長、中川重清	摂陽群談、摂津志、東摂城址図誌		大	○				宮の城	
F18	穢多崎砦	16世紀		摂津志	○		○					
F19	木津砦	16世紀			○	大	○				出城	
20	喜連川城	14世紀	喜連川氏、細川氏綱、桃井氏、平井氏	摂津志、東摂城址図誌	○	平	○		○	「中」「図解V」	馬場埼、馬場口	
21	正覚寺城	15世紀	畠山政長	大乗院寺社雜事記、多聞院日記		平	○	○	○			
F22	新庄城	16世紀	中川清秀		○		○		○		城置山	

表7 城館等資料一覧表（2）

番号	城館名	築城時期	城主	史料	大阪府全志	市区町村史	日本城郭大系	日本城郭全集	地平名凡辞典社	中世城館の関連他	関連地名	備考
F23	翼城	14世紀	楠木氏			平	○			タツミジョウ		
F24	天王寺城	元弘3年(1333)／16世紀	／原田直政	摂津志、東摂城址図誌	○		○	○	○	「図解III」	北ノ丸、中ノ丸、南ノ丸	
K25	天満寺内町	天正13年(1585)					○	○				
F26	難波砦	16世紀					○					
F27	三津寺砦	16世紀					○					
F28	楼の岸砦	元亀元年(1570)	稻葉通朝		○		○					
T29	大坂本願寺	15世紀末	蓮如、証如、顕如				○			「中」「図解V」		
K30	桑津環濠	16世紀か								「中」「図解V」		
K31	遠里小野環濠	16世紀か		遠里小野村大絵図					○	「中」「図解V」		
32	原田城(北城)	13世紀末頃		足利季世記摂津志	○	豊中 豊新	○	○		「中」「図解II」		
33	原田城(南城)	13世紀代		摂陽群談			○	○		「図解II」		
34	今西氏屋敷	14世紀前半	今西氏	今西春章「延享録」、今西家所蔵絵図		豊中 豊新	○			「図解IV」		
T35	石蓮寺廃寺	13世紀代か			○	豊中 豊新			○			古代寺院を復興か
36	椋橋城	応仁2年(1468)以前	夜久主計允、三好長慶	足利季世記		豊中	○					
F37	利倉城	天正年間(1573-93)か		摂津志	○		○	○			城の堀	
F38	刀根山城	天正年間(1573-93)か		信長公記卷十一			○	○			矢倉の下、東門口	
F39	福井城	天正年間(1573-93)か		摂津志			○				城山	
F40	穂積砦	天正年間(1573-93)か		摂津志	○		○					
F41	箕輪砦	天正6年(1578)	木下氏	摂津志	○		○				東城の前、西城の前	
42	池田城	建武3年(1336)頃	池田充正、池田貞正、池田正盛、池田正棟、池田久宗、池田信正、池田長正、池田勝正、池田知正	中西八百樹家所蔵摂津国御家人芥河氏文書、大乘院尋尊大僧正記、細川両家記、永禄記、元亀二年記、穴織宮拾要記、中書家久公御上京日記、信長公記、荒木略記、安政四年池田村絵図	池		○			「中」「図解II」	城山町、城南、城ノ口、弓場、前垣内、堀	

表8 城館等資料一覧表（3）

番号	城館名	築城時期	城主	史料	大阪府全志	市区町村史	日本城郭大系	日本城郭全集	地平名凡辞典社	中世城館関連他	関連地名	備考
F43	今在家砦	天正年間(1573-93)か	池田保之	摂津志		○				城の内、城の淵		
F44	木部砦	天正年間(1573-93)か		摂津志		○			「図解IV」	城ヶ前、土居		
F45	神田砦	天正年間(1573-93)か	池田保之	摂津志	○	○						
F46	西市場砦	不明	瓦林越後守	摂津志		○						
F47	八幡城	承平天慶年間(931-46)、元弘年間(1331-33)	藤原仲光、赤松則祐	摂陽群談		○				城山		
48	吹田城推定地	永享年間(1429-41)	吹田氏	崇禪寺文書、吉川家文書、応仁記、大乗院寺社雜事記、摂津志、吹田志稿、吹田村絵図(延宝7年)、東摂城址図誌	○	吹	○	○		城ヶ前		
49	吹田城	永享年間(1429-41)	吹田河内守重道	崇禪寺文書、吉川家文書、応仁記、大乗院寺社雜事記、摂津志、吹田志稿、吹田村絵図(延宝7年)	○	吹	○	○		城ヶ脇、城ヶ前		
F50	山田城	元弘年間(1331-33)か	赤松則祐、香西玄蕃	摂津志、東摂城址図誌	○	○		○		大手橋、櫓の前、古城、角矢		
F51	石浦城	15世紀		崇禪寺文書							吹田城推定地に比定	
F52	佐井寺城	不明	山田兵庫頭		○	○						
K53	神境町環濠	鎌倉期か		吹田志稿、吹田寺内町絵図		吹	○			新境町		
F54	西庄城	15世紀		崇禪寺文書							吹田城に比定	
55	芥川山城	永正12年(1515)	能勢氏、細川高国、細川晴元、三好長慶、三好義興	足利季世記、瓦林正頼記、東摂城址図誌		高	○	○	「図説」「談」「中」「図解I」	城山		
56	秀吉本陣	16世紀		信長公記		○				馬場前		
57	高槻城	大永7年(1527)	入江氏、和田惟政、近藤忠範	細川両家記、高槻叢書、高槻城絵図、摂津志	○	○			「中」			
58	田能城	16世紀	田野村在城衆／杉生坊、灰方伊予守、渡辺上野介	愛宕尾崎坊文書、桑下漫録		○			「中」	城山		
K59	富田寺内町	南北朝期		私心記、証如上人日記、言継卿記、富田寺内絵図、富田東岡宿絵図	○	○			「中」			
60	蒂仕山向城	天文22年(1533)	三好長慶	細川両家記					「談」「中」「図解I」	城山		
61	今城	16世紀か		摂陽群談、東摂城址図誌、摂津志	○	○			「談」「中」「図解I」	今城		

表9 城館等資料一覧表（4）

番号	城館名	築城時期	城主	史料	大阪府全志	市区町村史	日本城郭大系	日本城郭全集	地平名凡辞典社	中世城館の関連他	関連地名	備考
62	松永久秀屋敷	15世紀	松永久秀	郡家村・東五百住村境見分絵図、摂津名所図会	○					「中」「図解IV」	城垣内	
S63	上田部遺跡	12世紀									城ノ垣内、城ノ後、糀屋垣内、東殿垣内、西殿垣内	
S64	神内遺跡	15世紀後半										
S65	宮田遺跡	12世紀										
66	芥川城	鎌倉後期か	芥川氏、三好氏	足利季世記、瓦林正頼記、西国街道絵図、摂陽群談、東摂城址図誌、摂津志	○		○		○		殿ノ内	
67	岡本砦	不明		摂陽群談	○		○				中垣内、西垣内	
68	上牧砦	不明		摂津志	○		○	○			上城垣内、下城垣内、堀池、奥殿垣内	元治元年~明治元年に關所
69	下村砦	不明				○		○			構口、奥殿脇、御所ノ内、土井ノ前	
70	高槻砦	永禄11年(1568)	和田惟政、大津伝十郎長昌	東摂城址図誌、摂津志	○		○				小高ノ内(-小高槻・古高槻・小ノ内)	
71	田中城	宝徳元年(1449)	真上政資			高	○					
72	柱本城	16世紀		東摂城址図誌、摂津志	○		○	○			城之内	
73	服部砦	不明		摂陽群談	○		○	○			南垣内	
74	真上城	14世紀か	真上氏	摂津国真上村田地注文、文明6年3月付野田泰忠軍忠状		高	○					
75	普門寺城	明徳元年(1390)	僧説巖		○		◎	○				
76	泉原城	不明	泉原氏か	摂津志、東摂城址図誌			○			「図解IV」		
77	安威城	永正年間(1504-21)か	安威弥四郎、安威五左衛門了佐	足利季世記、細川両家記、東摂城址図誌	○		◎					
78	茨木城	建武年間(1334-36)か	楠木正成?、安富氏?、福富氏?、細川政元、薊師寺元長、薊師寺長忠、茨木家俊、茨木長隆、茨木四郎右衛門、茨木左衛門、茨木佐渡重朝、荒木新五郎村次、中川瀬兵衛清秀、中川秀政、中川秀成、安威五左衛門了佐、川尻肥後守秀長、片桐主膳正貞隆、片桐市正且元、間宮三郎衛門光信	野田泰忠軍忠状、晴富宿禰記、蓮成院記録、言繼卿記、多聞院日記、細川両家記、信長公記、元和四年九月茨木御城址開改之帳、(日本)武城舊(IJ)記、摂津志、茨木町故事雜記	○		◎			「談」「中」「図解I」		

表 10 城館等資料一覧表（5）

番号	城館名	築城時期	城主	史料	大阪府全志	市区町村史	日本城郭大系	日本城郭全集	地名辞典社	中世城館関連	関連地名	備考
79	太田城	治承4年(1180)頃	太田太郎頼基(太田野太郎)	細川両家記、平家物語卷12、玉葉卷43、足利季世記、続本朝通鑑、摂津志、摂陽群談、東摂城址図誌	○		◎			「図解V」	城ノ口、城ノ前	
80	佐保城		佐保氏か	尋憲記、東摂城址図誌、摂津志			◎	○		「中」「図解II」	堀切、宮ノ上	
81	福井城	建武元年(1334)か	楠木正成か、秋庭元明	細川両家記、足利季世記、東摂城址図誌、摂津志、新屋大社俗縁起	○		◎			「図解IV」	本丸、城ノ内、城ノ畠(畠)、城ノ谷、大手跡、搦手跡、出丸、構、西ノ堀、出張、矢上	
82	三宅城	15世紀か	三宅五郎左衛門尉宗村、三宅政明、三宅清明、三宅國政、三宅國広、三宅國村、香西元成	細川両家記、後法興院(政家)記、足利季世記、三宅落城艦鷹、東摂城址図誌	○		◎	○		「中」「図解V」	城ノ内	
83	安威砦	織豊期か	安威氏(安威左衛門尉了佐)	東摂城址図誌、摂津志						「談」「中」「図解I」		
84	佐保栗栖山砦	15世紀末~16世紀中葉		東摂城址図誌						「談」「中」		
85	郡山城	15世紀	郡兵太夫宗弘(高利平太夫)、郡主馬宗保	信長公記、郡氏由緒書、陰徳太平記、摂津志、摂陽群談	○		○			「中」	門口、物見塚、城ノ内	
K86	郡山寺内町	大永元年(1521)	郡宗弘	言継卿記、天文(御)日記、東摂城址図誌						「中」	門口、物見塚、城ノ内	
87	沢良宜城	15世紀前半か	藤井三位	応永記、摂津志			○				防領、宮西、野村垣内、北垣内、北中垣内、南中垣内、南垣内、殿田	
88	穂積城	戦国期か		摂津志	○		○				城ノ堀、東垣内、南垣内	
F89	水尾砦	戦国期か		摂津志、東摂城址図誌			○					
F90	耳原砦	天正年間(1573-93)	明智光秀、織田辰之助(信勝)	摂陽群談、摂津志、東摂城址図誌、武城旧記、耳原村誌	○		○	○				
F91	目垣城	不明		摂津志			○	○				
F92	池上砦	不明	池上氏か				○				中城、北中城	
F93	宿久城	16世紀	宿久氏か	尋憲記								
F94	清水城										上のドイ、下のドイ	
F95	西河原砦	天文18年(1549)以前	香西与四郎	細川両家記								
96	總持寺砦	天正6年(1578)	津田信澄	信長公記								

表 11 城館等資料一覧表（6）

番号	城館名	築城時期	城主	史料	大阪府全志	市区町村史	日本城郭大系	日本城郭全集	地平名凡辞典社	中世城館の他関連	関連地名	備考
97	下音羽城									「中」		
S98	郡遺跡・倍賀遺跡	10世紀後葉～13世紀前半										
S99	西福井遺跡	14世紀									宮山、宮(ノ)下	
F100	止々呂美城		馬場兵衛信高	摂陽群談	○		◎			「中」「図解Ⅲ」	止々呂美	
101	塩山城	承安年間(1299-1302)か	塩山景信か		○		○	○		「中」「図解Ⅲ」		
102	善福寺原城	室町後期か		摂津志、東摂城址図誌、栗生村誌	○		◎					
103	栗生間谷城		栗生谷兵衛尉氏晴								栗生	
F104	新家城	元弘年間(1331-33)か	赤松則祐	摂津志、東摂城址図誌、栗生村誌	○		○				栗生新家、新家	
105	黒丸城	永禄2年(1559)頃		長享年後畿内兵乱記、総見記(織田軍記)			◎				城ノ前、内殿、地殿	
F106	一津屋砦	16世紀後半か		陰徳太平記、信長公記、東摂城址図誌、摂津志	○		◎	○			濱城	
F107	山崎砦	天正10年(1582)	明智光秀		○		○					
108	幣ノ木城	明応年間(1492-1501)、永禄年間	余野頼幸、余野山城守	岸本家文書、永尾家系図、日本史、摂陽群談、東摂城址図誌	○	豊能	◎	○			市場垣内、城山	
S109	余野城(平地遺構)										城山	
110	余野本城		余野頼幸、余野山城守	岸本家文書、永尾家系図、日本史、摂陽群談、東摂城址図誌	○	豊能	◎	○		「中」	城之越橋、城山、堀殿、市場垣内	
111	大平土居	永享年間(1429～1441)廃絶	平賴言	岸本家文書		豊能					だいら山	
112	城之越城(城ノ越城)	延文年間(1356～61)、応安年間(1368～75)、応永年間(1394～1428)	泉ノ太郎	岸本家文書、永尾家系図、日本史、摂陽群談、東摂城址図誌							丸山、城之越橋	
113	余野山上墨	文治年間(1185-90)	能勢氏支流								城山、水牢古城山	
114	野間口鳥坂城	16世紀	山口左近			豊能	○	○			土城下、城山、城山橋	
115	水牢古城					豊能		○		「中」	水牢古城山	
116	吉川城	15世紀末	吉川定満、吉川長仲	高代寺日記、東摂城址図誌、日本奥地通志畿内部摂津国		豊能	○	○		「中」	高代寺、馬場	

表 12 城館等資料一覧表（7）

番号	城館名	築城時期	城主	史料	大阪府全志	市区町村史	日本城郭大系	日本城郭全集	地平名凡辞典社	中世城館の関連他	関連地名	備考
117	吉川井戸城	平安時代	藤原仲光、養子源治丸、吉川定満、吉川長仲	高代寺日記、東摂城址図誌、日本輿地通志巻内部摂津国		豊能	○				城山、字城ノ本、城下橋	
118	高山城	16世紀	高山氏				◎			「中」	城山、弓場、殿所、木戸口、侍所、的場	
119	高山向山城	16世紀	高山飛驒守							「中」	弓場、殿所、木戸口、侍所、的場	
120	山辺城	寛弘年間(1004-12)か	大町氏	摂陽群談、中川氏御年譜、慶長十年摂津国絵図、東摂城址図誌		能	◎	○	「図説」「中」「図解Ⅱ」	城山		
121	森上城	天暦7年(953)か	多田滿政か	摂陽群談、摂津志	○		◎	○	「中」「図解Ⅱ」	城山		
122	今西城	天文年間(1532-55)	森本氏	摂陽群談、摂津志			◎		「中」「図解Ⅱ」	城山		
123	森上館								「中」			
124	吉村城	天文年間(1532-55)	吉村盛光	摂陽群談			○		「中」「図解Ⅳ」			
125	栗栖城	天文年間(1532-55)	水原盛景	多田家旧記			○					
126	片山城	応仁年間(1467-69)か	塩山肥前守景信／片山備後守	摂陽群談、摂津志			◎		「中」「図解Ⅲ」			
127	山田城	治安2年(1022)か／文明9年(1477)	山田忠国、忠重／三田三之丞景明	多田社記、摂陽群談、摂津志	○		◎	○	「中」「図解Ⅳ」	城山		
128	平通城	天正7年(1579)廃城	岡崎左衛門尉宗盛				○	○	「中」「図解Ⅴ」			
129	上杉城	16世紀	小塙氏か	摂陽群談、東摂城址図誌	○		◎		「中」「図解Ⅱ」			
130	長谷屋敷	16世紀	長谷景綱			○		○	「中」			
131	宿野城	永延年間	多田氏	摂陽群談			◎		「中」			
132	丸山城	長元年間(1028-37)	能勢頼国	摂陽群談、東摂城址図誌		能	◎	○	「中」			
133	野間城	仁安3年(1168)	野間高頼	摂陽群談、東摂城址図誌			◎	○	「談」「中」「図解Ⅰ」			
134	野間氏居館			摂陽群談、東摂城址図誌			◎		「談」「中」「図解Ⅰ」			
135	野間屋敷			(野間氏系図)			◎		「談」「中」「図解Ⅰ」			
136	野間中城			(野間氏系図)					「中」「図解Ⅳ」			
137	吉野城	天正年間に陣没	横川正広		○		○		「中」「図解Ⅴ」			

表 13 城館等資料一覧表（8）

番号	城館名	築城時期	城主	史料	大阪府全志	市区町村史	日本城郭大系	日本城郭全集	地平名凡辞典社	中世城館の関連他	関連地名	備考
138	吉野居館				○		○			「中」「図解V」		
139	田尻城									「中」「図解III」		
140	田尻御所	永承年間 (1046-53)	仁和寺		○		○			「中」「図解IV」		
141	杉原城				○					「中」「図解II」		
142	為楽山城	天正9-10年 (1581-82)	能勢頼次		○		○	○				
143	天王砦											
144	吉良居館		吉良氏？									
145	浮ノ城											
F146	天神山陣地											
147	垂水城									「図解V」		
148	上杉下所城											
149	下水砦											
150	井内城											
151	明月砦											

## (2) 各城館等資料

- 1) 本資料は、各市町文化財部局から提出された城館詳細調査台帳（以下、「台帳」という。）を基に編集したものである。内容は台帳に依拠しているが、適宜編者により追加、補足等を行っている。
- 2) 【位置図】は、下図となる地形図は都市計画図を基本とし、掲載にあたって縮尺は1/5000を基本とし作成した。
- 3) 【縄張図】は「城館等資料一覧表」に示した諸資料に公表されているものから、出典を明記した上で掲載した。発掘調査が行われている城館等については、あわせて遺構の【平面図】を掲載しているものもある。
- 4) 【小字図】は、各市史・町史等で刊行されているものは、そのまま活用することに努めた。縮尺については位置図と同様としたが、やむを得ず縮尺任意のものもある。
- 5) 【遺構】は曲輪、土塁等の現地表面に認められる遺構のほか、発掘調査で確認された遺構についても列記している。
- 6) 【主な調査歴】は自治体等で行われた発掘調査について、調査年次、次数、報告書を列記した。
- 7) 【主な出土遺物】は上記6)の調査で出土したものや踏査により採集されたもののうち、主なものを列記している。
- 8) 【関連地名】には、城館等周辺に、関連すると考えられる小字名が存在する場合は表記した。現在の小字名には見られないが、通称地名や「城館等資料一覧表」の諸資料に記述がある場合も記載した。
- 9) 【史料】には文献史料と絵図を列記した。なお文献史料が掲載されている書名については割愛した。
- 10) 【参考文献】は城館等について記載のある文献のうち参考としたものについて列記した。
- 11) 【写真】は特に断りのない限り、各市町からの提供によるものを掲載した。

## 【大阪市域】

### 〔No. 1〕 大坂城（豊臣氏）

所在地 大阪市中央区大阪城ほか 位置 東経 135.5262 北緯 34.6873  
立地 台地 標高 5～33m 比高 28m 城域 2,200m × 2,000m  
時期 16～17世紀

### 【城館の概要】

大坂城は、大阪市中央区大阪城ほかに所在する平山城。築城時期は天正11年（1583）であり、城主は豊臣秀吉、秀吉没後は豊臣秀頼である。慶長20年（1615）、大坂夏ノ陣により落城した。発掘調査により検出された遺構として、本丸では詰ノ丸外郭東南隅石垣、中ノ段外郭石垣（昭和34年（1959）大阪城総合学術調査）、山里丸では石組溝が検出されている。そのほか、各馬出曲輪に伴う可能性が高い遺構として、生玉口では堀（堀障子あり／慶長3年（1598）掘削か）が、京橋口では虎口を構成する可能性がある石垣、玉造口では石垣・堀が確認されている。このほか、大阪市立大学によるサウンディング調査の成果により、本丸の状況について解明が進んでいる。中心部は特別史跡大坂城跡として指定されている。

### 【主な調査歴】

#### <本丸>

大阪城総合学術調査（村山1984）、OS84～17次調査（大阪市文化財協会2002）、OS15～4次調査（大阪市教育委員会・大阪文化財研究所2017）

#### <山里丸>

OS09～10次調査（大阪市教育委員会・大阪文化財研究所2011）、OS11～10次調査（大阪市教育委員会・大阪文化財研究所2013）

#### <生玉口>

大阪府警察本部棟新築工事に伴う発掘調査（大阪府文化財センター2006）、OS82～16次調査（大阪市文化財協会2002）、OS11～20次調査（大阪文化財研究所2013）

#### <京橋口>

OS83～15次調査（大阪市文化財協会1988）、OS87～93次調査（大阪市文化財協会2002）、OS88～78次調査（大阪市文化財協会2002）、OS07～2次調査（大阪市教育委員会・大阪市文化財協会2008）

#### <玉造口>

NW153次調査（大阪市文化財協会1981）、NW162次調査（大阪市文化財協会2002）、OS83～3次調査（大阪市文化財協会2002）、NW158～5次調査（大阪市文化財協会2002）、OS88～23次調査（大阪市文化財協会2002）

#### <その他>

大阪市立大学によりサウンディング調査（大阪市立大学豊臣期大坂研究会2017）

### 【主な出土遺物】

陶磁器・瓦

### 【参考文献】

跡部2014、大阪市立大学豊臣期大坂研究会（編）2015、大阪歴史博物館・大阪文化財研究所（編）2015、岡本（編）1985、笠谷・黒田2015、中村2008、宮上1967、渡辺1983

### 〔No. 2〕 毛馬城／飯満

所在地 大阪市都島区毛馬町 位置 東経 135.5206 北緯 34.7233  
立地 平野部 標高 約2m 比高 不明 城域 不明 時期 16世紀

### 【城館の概要】

毛馬城は、大阪市都島区毛馬町に所在する平城。築城時期は16世紀、石山合戦の際に大坂

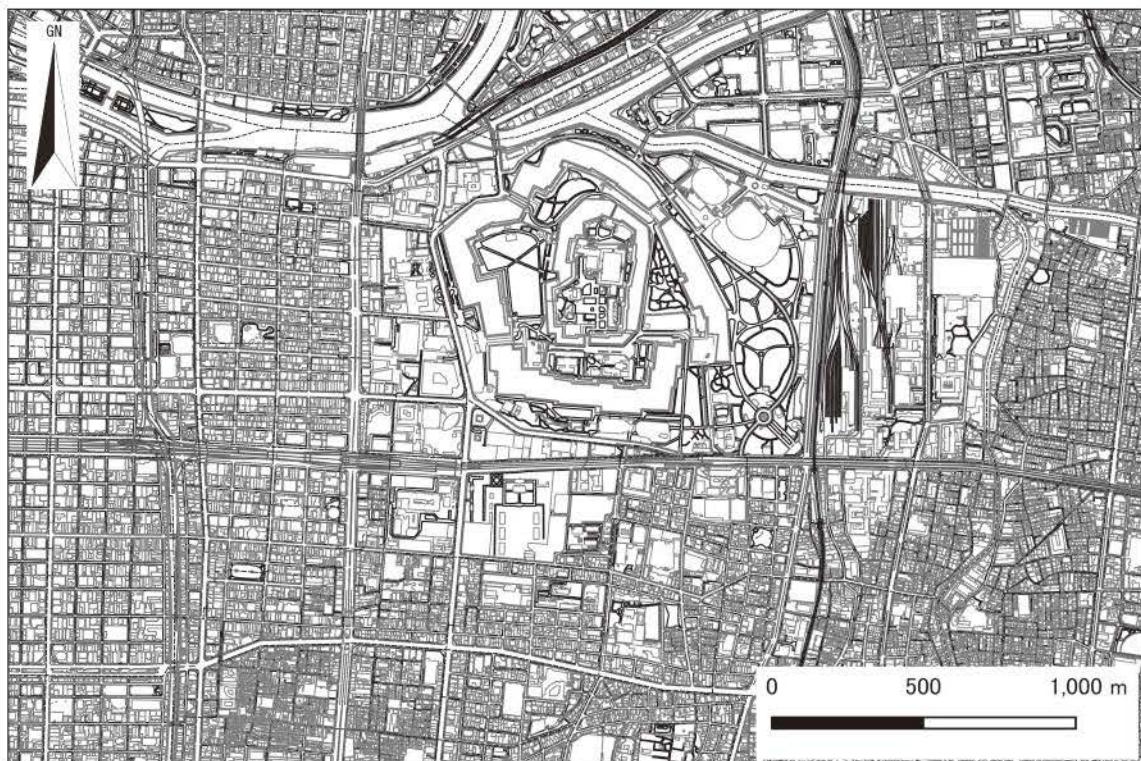
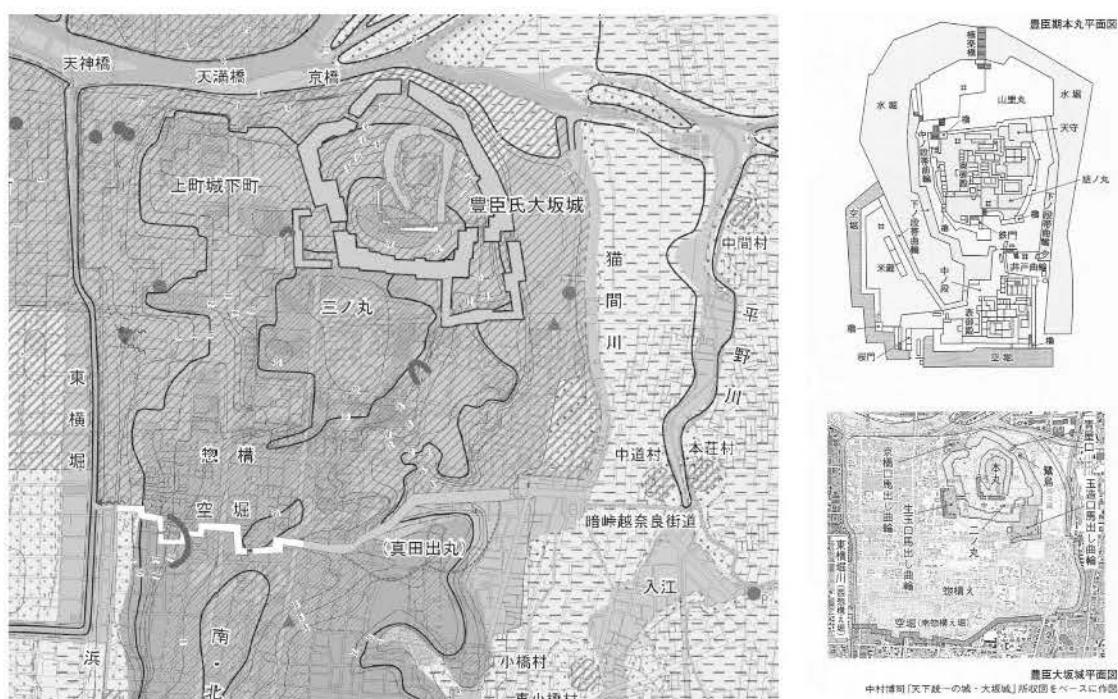


図 30 大坂城（豊臣氏）位置図（S=1/25,000、背景地図は大阪市地形図を使用）



豊臣氏大坂城  
(趙哲済ほか 2014、「上町台地とその周辺低地における地形と古地理変遷の概要」:  
『大阪上町台地の総合的研究－東アジア史における都市の誕生・成長・再生の一  
類型－』より転載)

（跡部信 2014、『豊臣秀吉と大坂城』、  
吉川弘文館 より転載）

図 31 大坂城（豊臣氏）縄張図



図32 特別史跡大坂城跡（南西から／大阪歴史博物館10階より）

本願寺が築いた51城砦の1つに「飯満」があり、これが毛馬城の起源とされる。

【参考文献】

田代・渡辺・石田（編）1981、平凡社地方資料センター（編）1986

〔No. 3〕 榎並城

所在地 大阪市城東区野江 位置 東経 135.5389 北緯 34.7086  
立地 平野部 標高 約 1.5m 比高 不明 城域 不明 時期 16世紀

【城館の概要】

榎並城は、大阪市城東区野江に所在するとされる。三好政長が榎並城築城時に、その一画に水難除けの水神社を勧請して祀ったと伝えられることから、榎並城の位置は野江水神社のあたりと推定される。石山合戦の際に大坂本願寺によって築かれた51城砦の1つに野江の名がみえ、この時の野江城／野江砦が榎並城跡を利用したものであった可能が強い（田代・渡辺・石田（編）1981）。

【関連史料】

摂津志

【参考文献】

井上 1922、新修大阪市史編纂委員会（編）1988、大阪市文化財協会（編）1997、大阪府東成郡役所（編）1922、田代・渡辺・石田（編）1981

〔No. 4〕 野田城

所在地 大阪市福島区玉川 位置 東経 135.4772 北緯 34.6895 立地 平野部  
標高 - 1 ~ 0 m 比高 不明 城域 不明 時期 16世紀

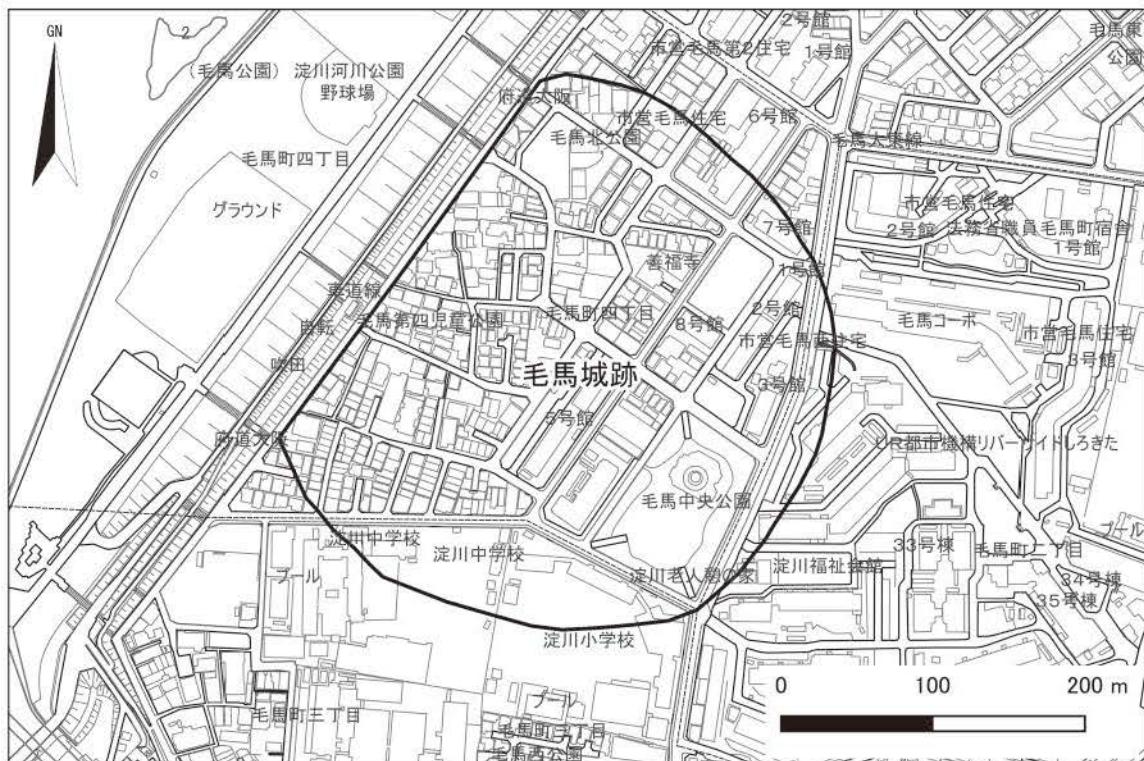


図33 毛馬城跡 位置図 (S=1/5,000、背景地図は大阪市地形図を使用)

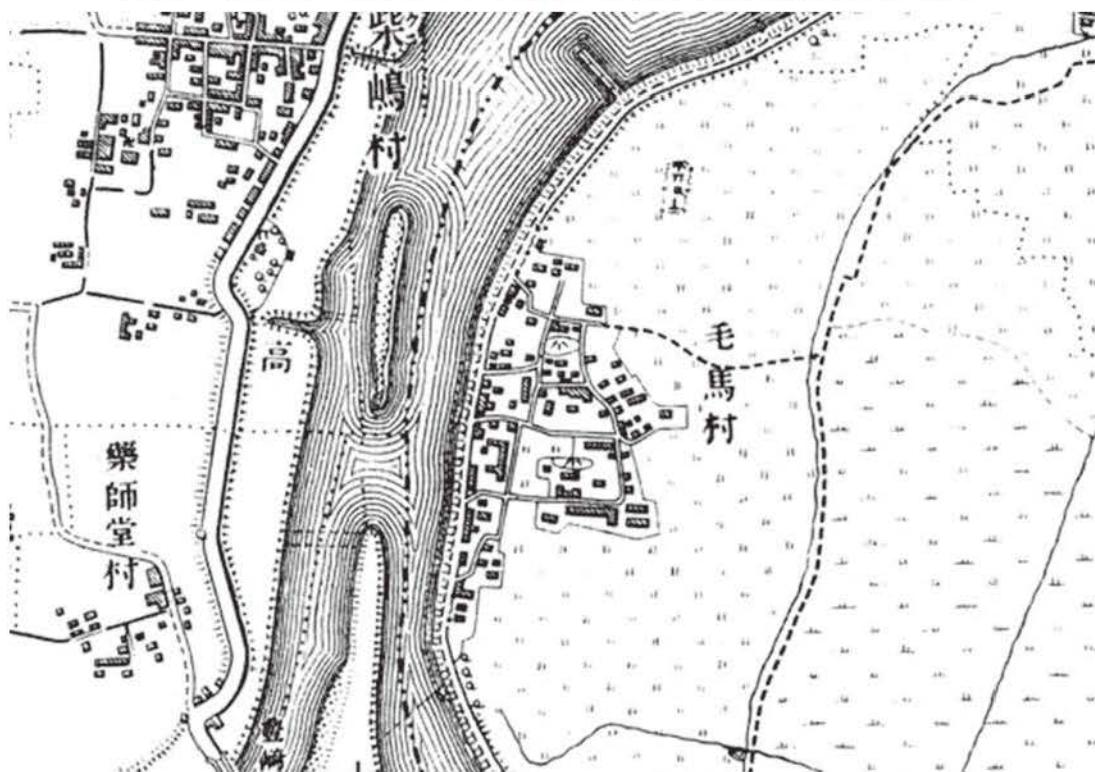


図34 仮製二万分の一地形図にみる毛馬城跡周辺の旧地形  
(参謀本部陸軍部測量局 1885 より転載)

### 【城館の概要】

野田城は、大阪市福島区玉川に所在する平城。築城時期は16世紀、享禄4～5年（1531～1532）に細川晴元と三好元長が対立抗争した際に三好方の浦上掃部により砦が築かれたものとみられている。元亀元年（1570）には畿内での勢力奪回を狙った三好三人衆が、野田・福

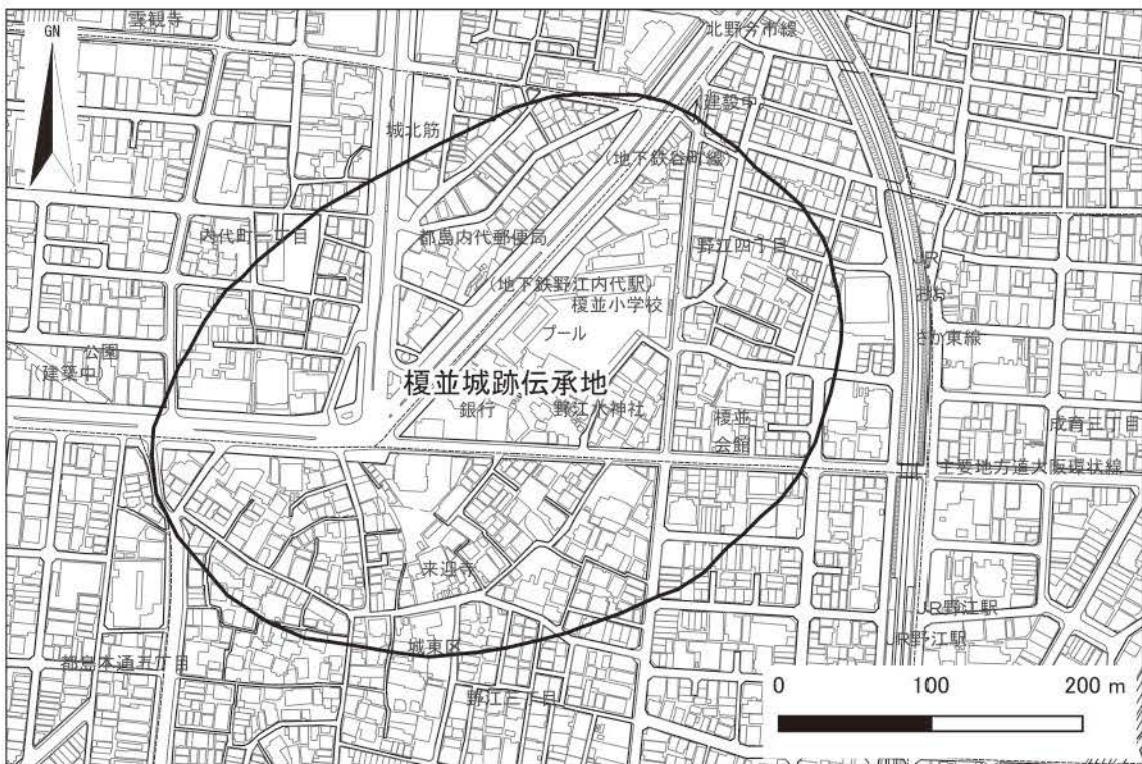


図35 楳並城跡 位置図 (S=1/5,000、背景地図は大阪市地形図を使用)

島の砦の補強工事を行って立て籠もり、織田信長との合戦に至った（田代・渡辺・石田（編）1981）。その後、大坂冬の陣では大坂方の大野道犬がこの砦を守ったという（井上1922）。遺構は堀状遺構が確認されている。

#### 【主な調査歴】

- NO12 - 2次調査：16世紀代に埋没したと推定される幅4.4m以上、深さ1.3m以上の南北方向の堀状遺構を確認（大阪市教育委員会・大阪文化財研究所2014a）。
- NO07 - 1次調査：17世紀初頭に埋められた幅3.0m以上、深さ1.0m以上の北西-南東方向の堀状遺構を確認。野田城が大坂の陣の際に砦とされたとすれば、その時期に存在したものとみられる（大阪市教育委員会・大阪市文化財協会2008）。

#### 【関連地名】

字城之内

#### 【関連史料】

16世紀に生嶋宗竹が著した『細川両家記』に、「野田・福島に猶以て堀をほり、壁を付け、櫓を上げさせ、河浅き所に乱株・逆茂木引き、当初へ楯籠らるるなり」との記述がある。

#### 【参考文献】

井上1922、大阪市文化財協会（編）1997、岡田1701、田代・渡辺・石田（編）1981、平凡社地方資料センター（編）1986

#### 〔No. 5〕寺岡砦

所在地 大阪市住吉区長居西	位置 東経 135.5094	北緯 34.6111
立地 台地部	標高 約7~8m	比高 不明
		城域 不明
		時期 南北朝～戦国

#### 【城館の概要】

寺岡砦は、大阪市住吉区長居西に所在したとされる。築城時期は南北朝～戦国時代とみられ、近世の環濠集落としても知られる。戦国時代には畠山・三好・細井・桃井氏らの抗争が続くな

かで付近で合戦が行われ、当該地もしばしば陣所となり、一時は砦が築かれたといわれる。この頃に濠が掘られて環濠集落に引き継がれた可能性があるが不詳。

【関連地名】

「櫓の下」の字名が残り、砦と関連する可能性がある。

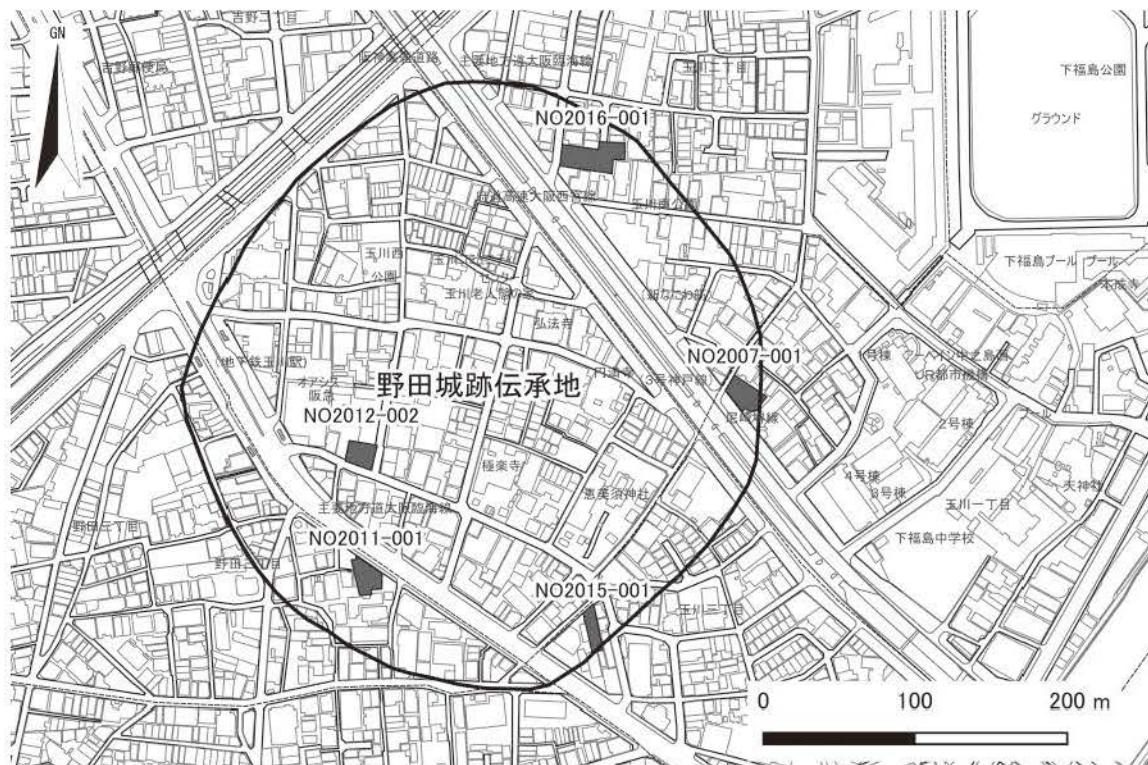


図36 野田城跡伝承地 位置図及び調査地 (S=1/5,000、背景地図は大阪市地形図を使用)



図37 野田城跡伝承地 小字図 (内務省地理局測量課 1890 より転載)

【参考文献】

田代・渡辺・石田（編）1981、平凡社地方資料センター（編）1986

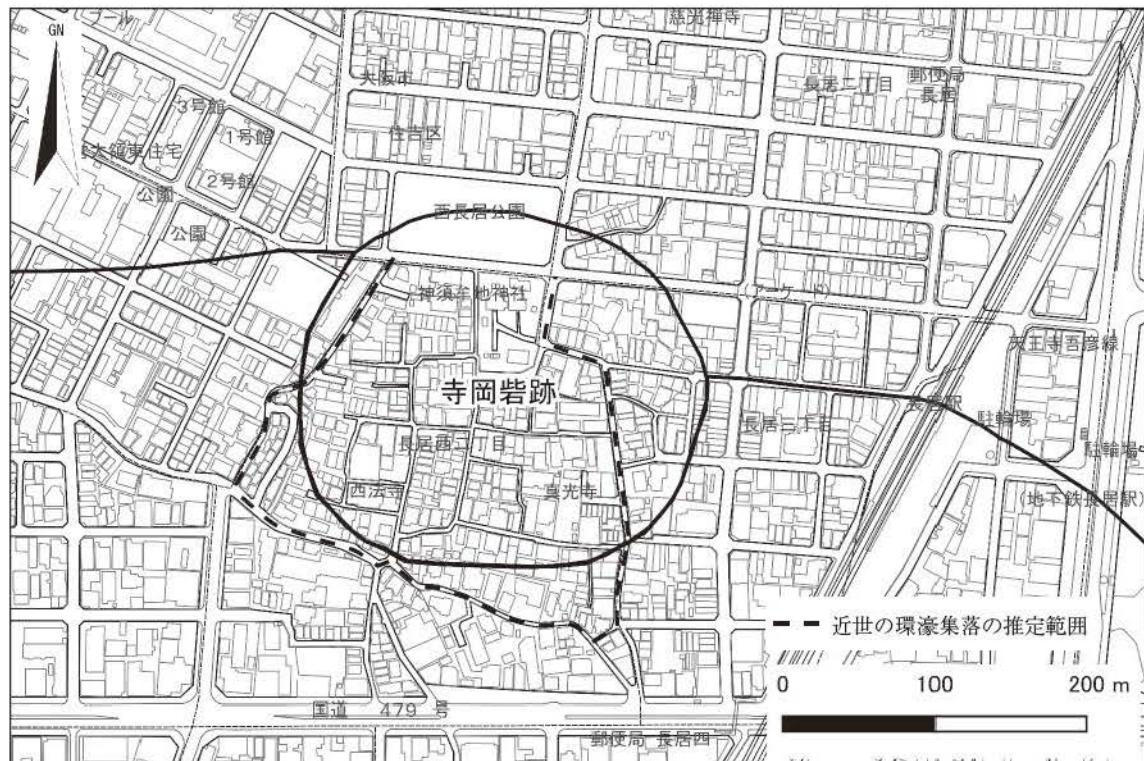


図38 寺岡砦 位置図 (S=1/5,000、背景地図は大阪市地形図を使用)



図39 仮製二万分の一地形図にみる寺岡環濠 (参考本部陸軍部測量局 1886・1887 より転載)

### 〔No. 6〕 柴島城

所在地 大阪市東淀川区柴島 位置 東経 135.5130 北緯 34.7276 立地 平野部  
標高 3~4m 比高 不明 城域 不明 時期 16~17世紀

#### 【城館の概要】

柴島城は、大阪市東淀川区柴島に所在するとされる。築城時期は16世紀で、十河一政が初めてここに城を築いて拠点とし、その後、大坂夏の陣に際して稻葉氏がここに拠ったとされる（田代・渡辺・石田（編）1981）。図40における字本丸の位置は、「字一筆限地図帳 柴島邑領」（明治8年／大阪府立中之島図書館所蔵）と大阪市固定資産地籍地図をもとに位置を比定した。なお、中之島図書館図書館所蔵資料は明治8年作製の『明治八年第五月改正 字一筆限地図帳 摂津国第六大区四小区 二番組 柴島邑』を明治13年に写したものである。

#### 【関連地名】

字本丸

#### 【関連史料】

摂津志

#### 【参考文献】

石川2015、井上1922、大阪府学務部（編）1931、田代・渡辺・石田（編）1981、中西2015、平凡社地方資料センター（編）1986、前田1989

### 〔No. 7〕 新堀城

所在地 大阪市住吉区長居東 位置 東経 135.5216 北緯 34.6069  
立地 台地部 標高 8.5~9.5m 比高 不明 城域 不明 時期 16世紀

#### 【城館の概要】

新堀城は、住吉区長居東に所在するとされる。築城時期は16世紀で、大坂本願寺の支城の

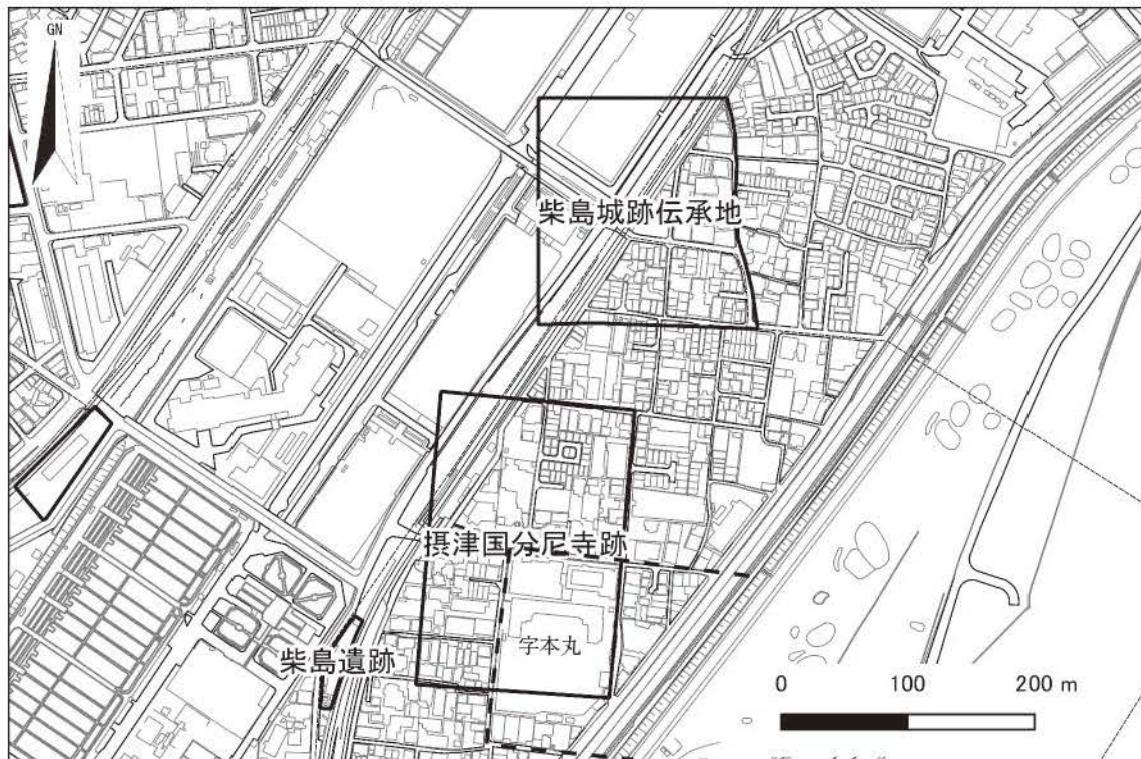


図40 柴島城 位置図 (S=1/6,000、背景地図は大阪市地形図を使用)

1つ。天正13年（1575）に織田信長により攻め落とされた（田代・渡辺・石田（編）1981）。

【参考文献】

田代・渡辺・石田（編）1981、平凡社地方資料センター（編）1986

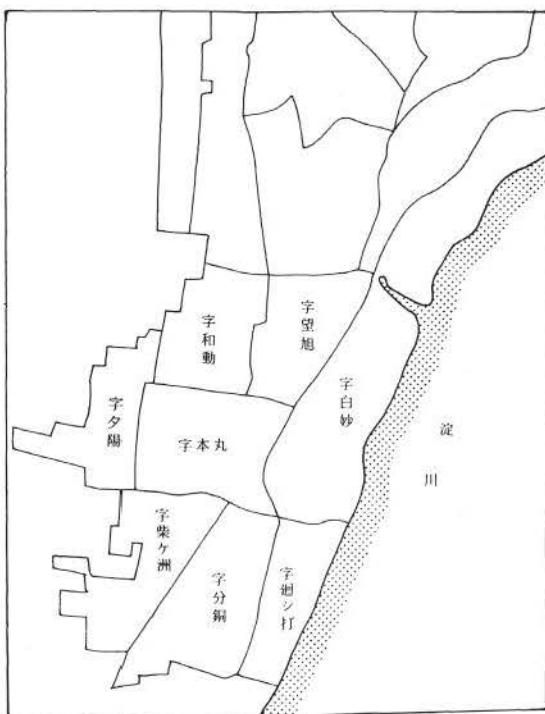


図41 「大阪府西成郡西中島村大字柴島領地図」（明治25年2月編）  
(前田1989より転載)

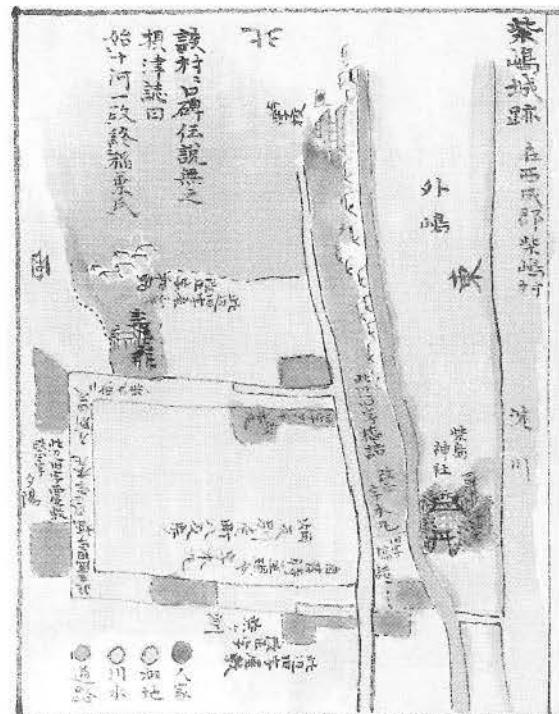


図42 「東摶城址図誌」より「柴嶋城跡」  
(大阪府立中之島図書館 所蔵)

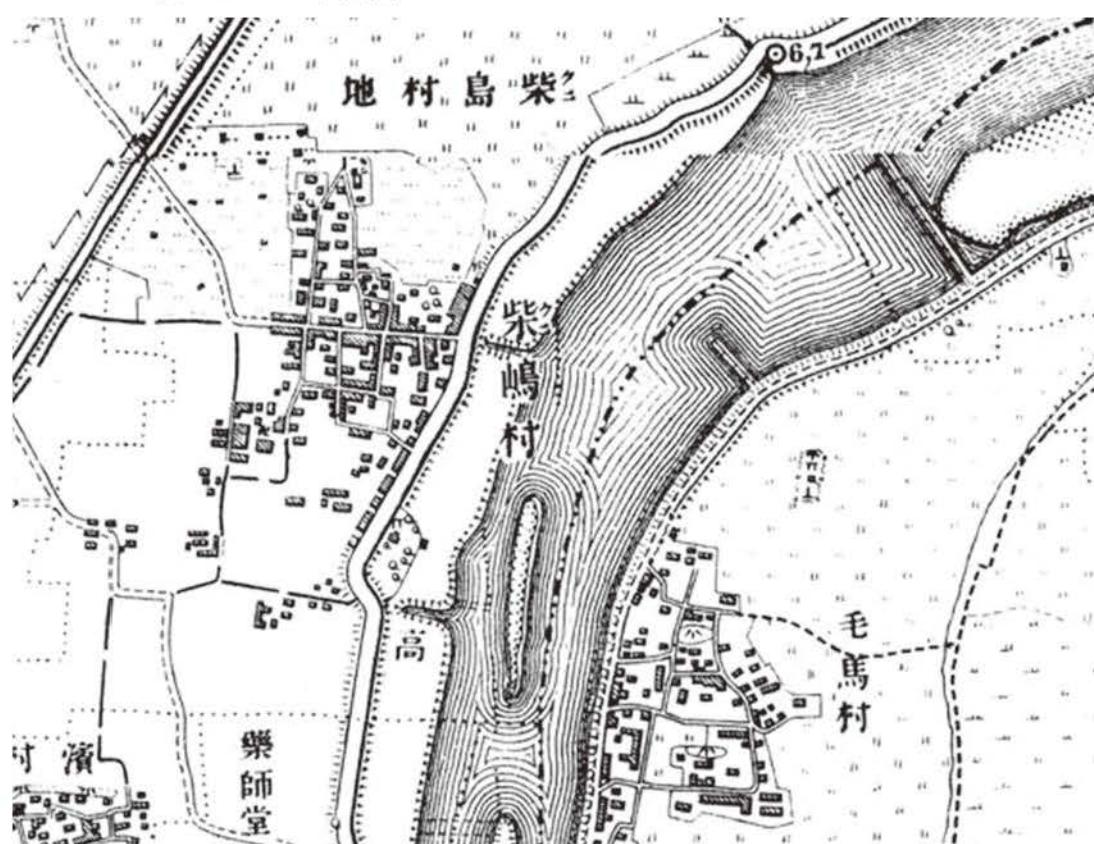


図43 仮製二万分の一地形図にみる柴島城跡周辺の旧地形  
(参謀本部陸軍部測量局 1885 より転載)

〔No. 8〕 我孫子城／我孫子環濠

所在地 大阪市住吉区我孫子 位置 東経 135.5093 北緯 34.5993

立地 台地部 標高 9.5～11m 比高 不明 城域 240m × 300m 時期 戦国期～近世

【城館の概要】

『明応二年御陣図』（『福智院家文書』）にみえる「アイコ」という集落が我孫子を示すものと推定され、また我孫子には戦国期にたびたび陣が置かれたという。環濠集落は戦国期には成立

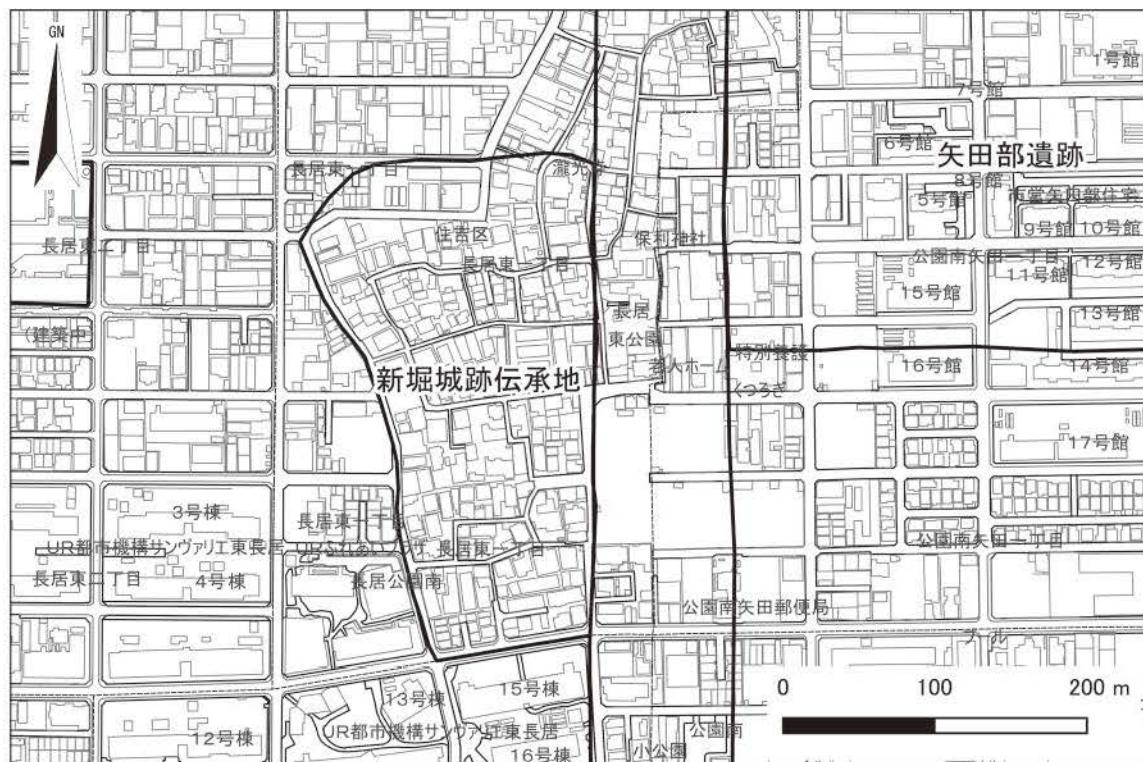


図 44 新堀城跡伝承地 位置図 (S=1/5,000、背景地図は大阪市地形図を使用)



図 45 仮製二万分の一地形図にみる新堀城跡 (参謀本部陸軍部測量局 1886・1887 より転載)

していたものと想定されている（中西 2015）。石山合戦に際して大坂本願寺の支城として今井兵部により築かれたと伝える（田代・渡辺・石田（編）1981）。我孫子城は、大阪市住吉区我孫子にある大聖觀音寺付近に比定されている。明治時代まで残存した堀は当城の遺構と伝わる。

#### 【参考文献】

大阪府東成郡役所（編）1922、田代・渡辺・石田（編）1981、中井（監）2017、中西 2015

#### 〔No. 9〕堀城

所在地 大阪市淀川区十三本町 位置 東経 135.4799 北緯 34.7231

立地 平野部 標高 - 0.5 ~ 0.5m 比高 不明 城域 不明 時期 16世紀

#### 【城館の概要】

堀城は、大阪市淀川区十三本町に所在するとされる。築城時期は16世紀である。『西成郡史』では永禄9年（1566）に細川藤賢が築城したとされるが、永禄9年よりも古く、享禄3年（1530）の大物崩れ合戦の時にはすでに存在していたとの見解もあり（前田 1989）、天文18年（1549）の江口の戦いの時には細川晴賢の居城であったが、その後、三好長慶が入城し、長慶没後は細川藤賢が在城したが、三好三人衆により無血退城させられたという（新修大阪市史編纂委員会（編）1988）。元亀元年（1570）、織田信長による野田・福島攻めの際には、將軍足利義昭が入城したという（田代・渡辺・石田（編）1981）。

#### 【関連地名】

字堀之内

#### 【参考文献】

大阪府西成郡役所（編）1915、新修大阪市史編纂委員会（編）1988、田代・渡辺・石田（編）1981、前田 1989

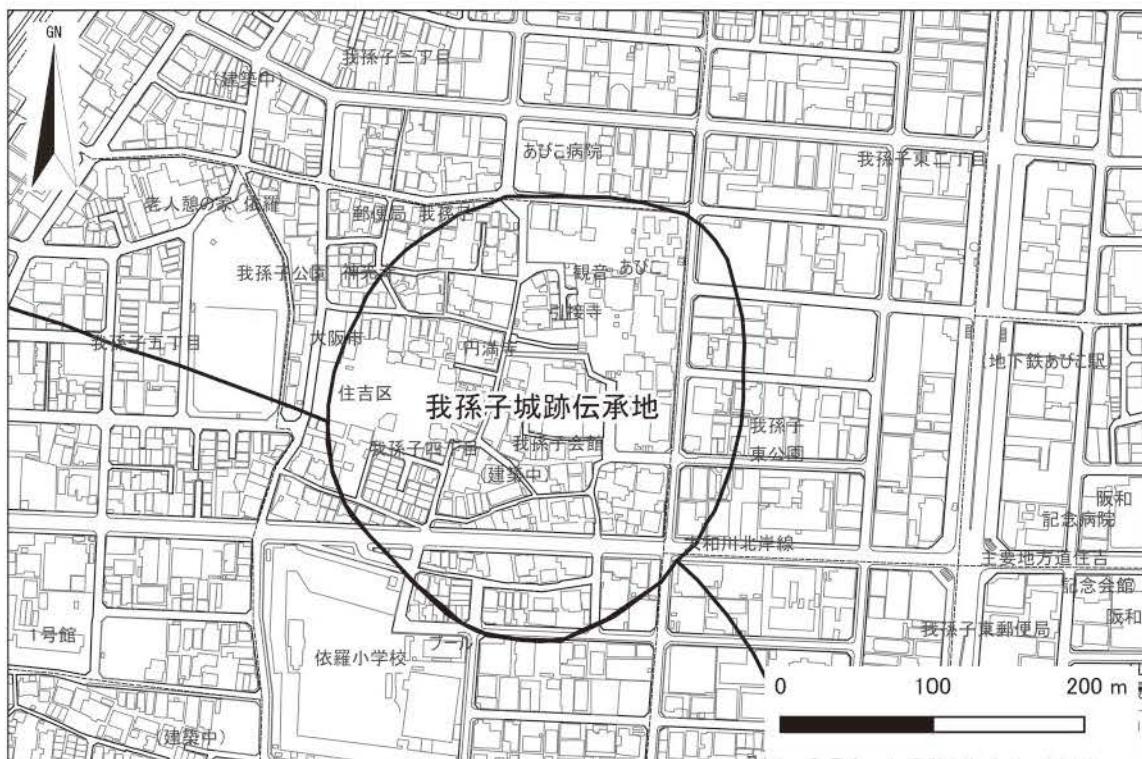


図 46 我孫子城 位置図 (S=1/5,000、背景地図は大阪市地形図を使用)

〔No.10〕三津屋城

所在地 大阪市淀川区三津屋中 位置 東経 135.4719 北緯 34.7278  
立地 平野部 標高 - 0.5 ~ 1 m 比高 不明 城域 不明 時期 14 ~ 16世紀

【城館の概要】

三津屋城は、大阪市淀川区三津屋中に所在するとされる。正平年間に楠木正行が築き、天文



図 47 「我孫子村繪図」(1690～1695年前後)  
(川内 2005 より転載)

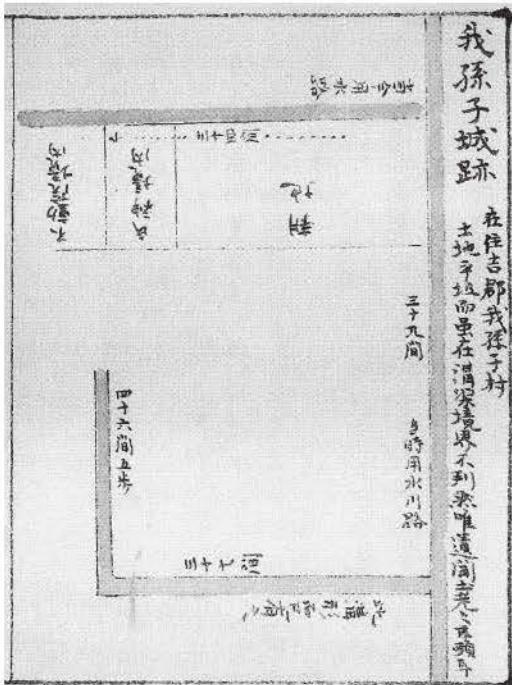


図 48 「東摶城址図誌」より「我孫子城跡」  
(大阪府立中之島図書館 所蔵)

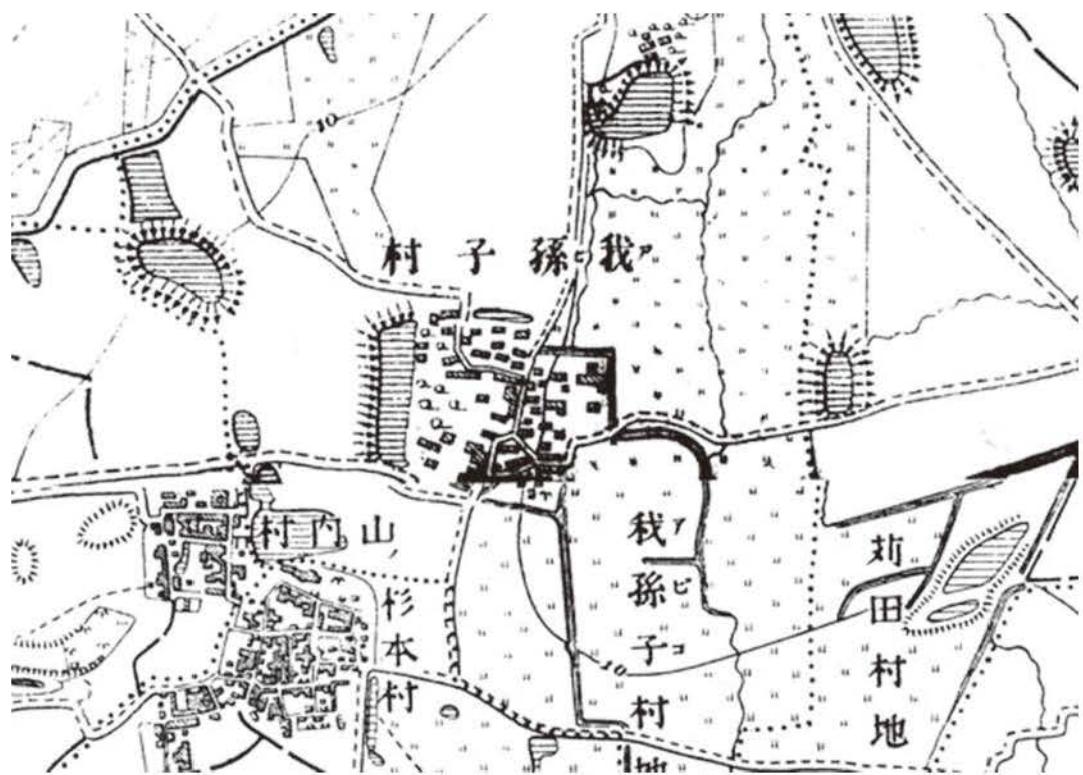


図 49 仮製二万分の一地形図にみる我孫子城 (参謀本部陸軍部測量局 1886・1887 より転載)

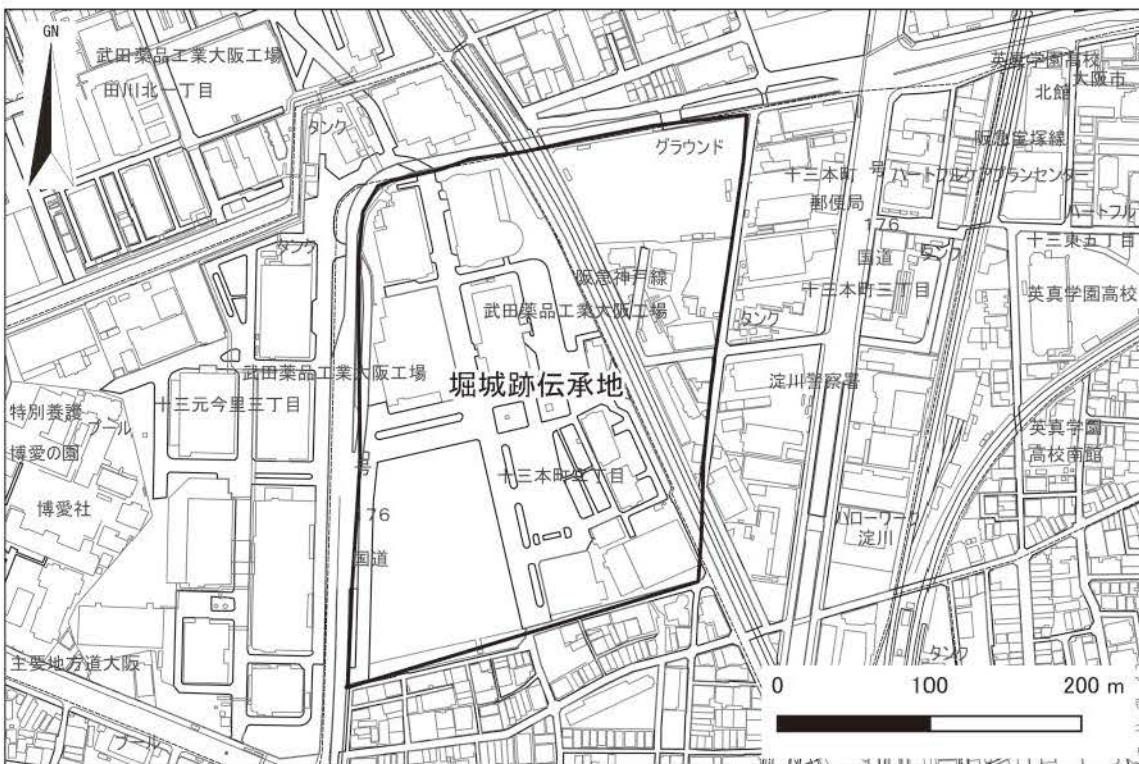


図 50 堀城跡伝承地 位置図 (S=1/5,000、背景地図は大阪市地形図を使用)

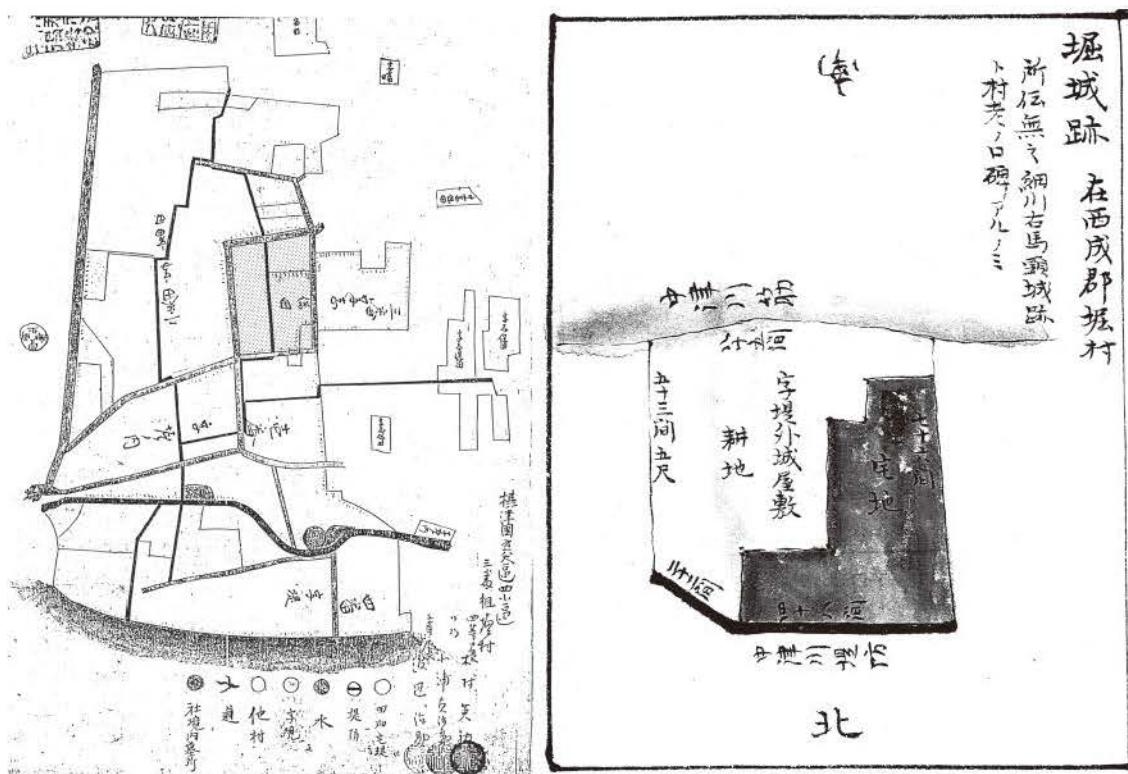


図 51 『堀村地籍図』(明治 8 年)  
(前田 1989 より転載)

図 52 『東摶城址図誌』より「堀城跡」  
(大阪府立中之島図書館 所蔵)

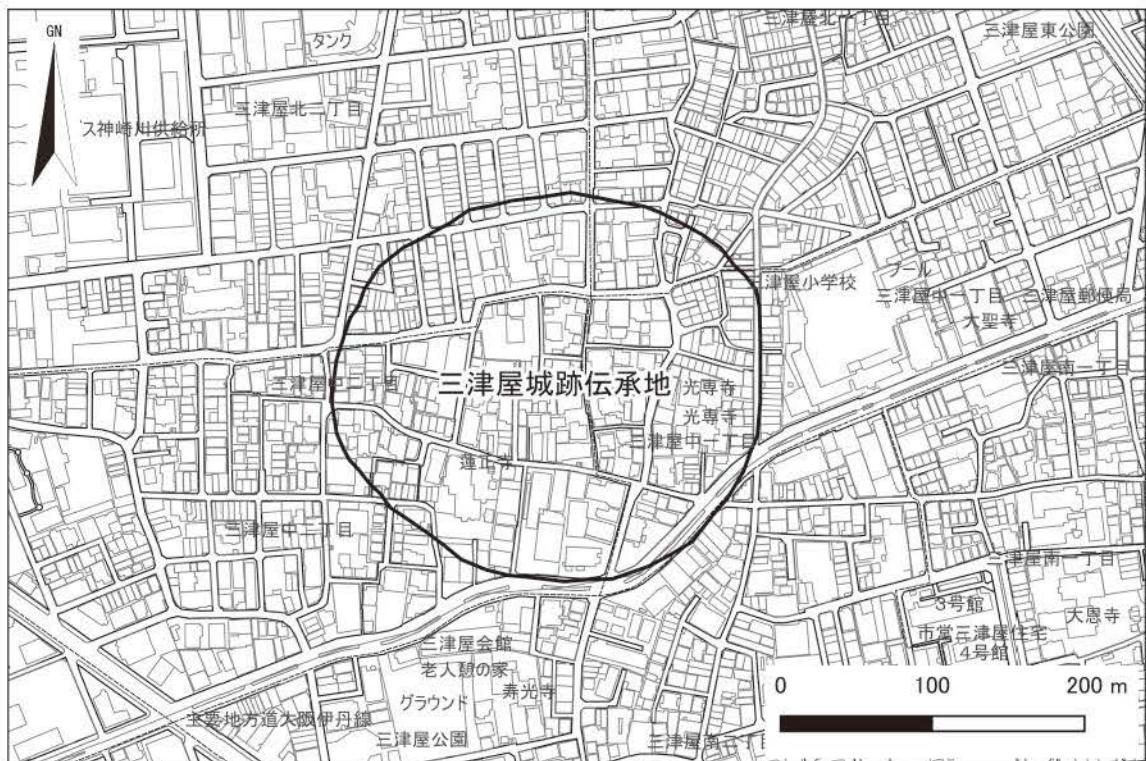


図 53 三津屋城跡伝承地 位置図 (S=1/5,000、背景地図は大阪市地形図を使用)

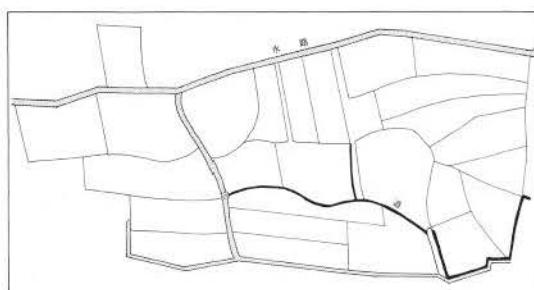


図 54 『三津屋村字堀之内の図』  
(前田 1989 より転載)



図 55 仮製二万分の一地形図にみる三津屋城  
(参考本部陸軍部測量局 1886・1887 より転載)

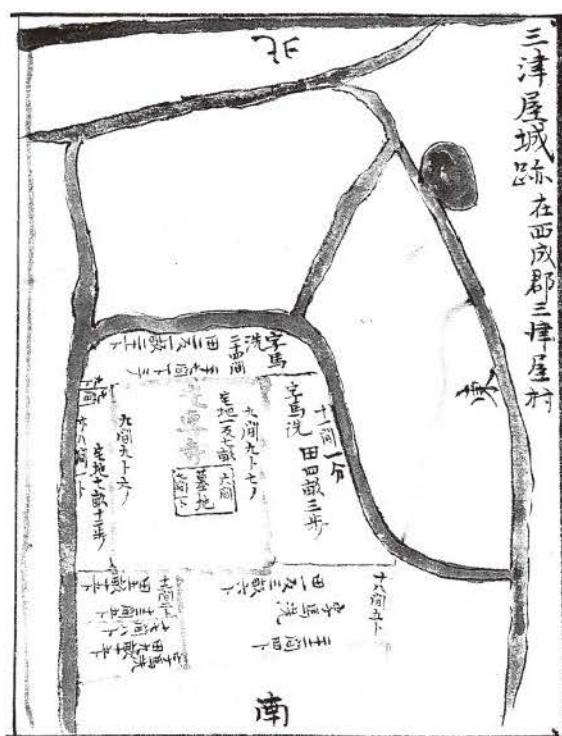


図 56 『東摂城址図誌』より「三津屋城跡」  
(大阪府立中之島図書館 所蔵)



図57 大和田城跡伝承地 位置図 (S=1/5,000、背景地図は大阪市地形図を使用)

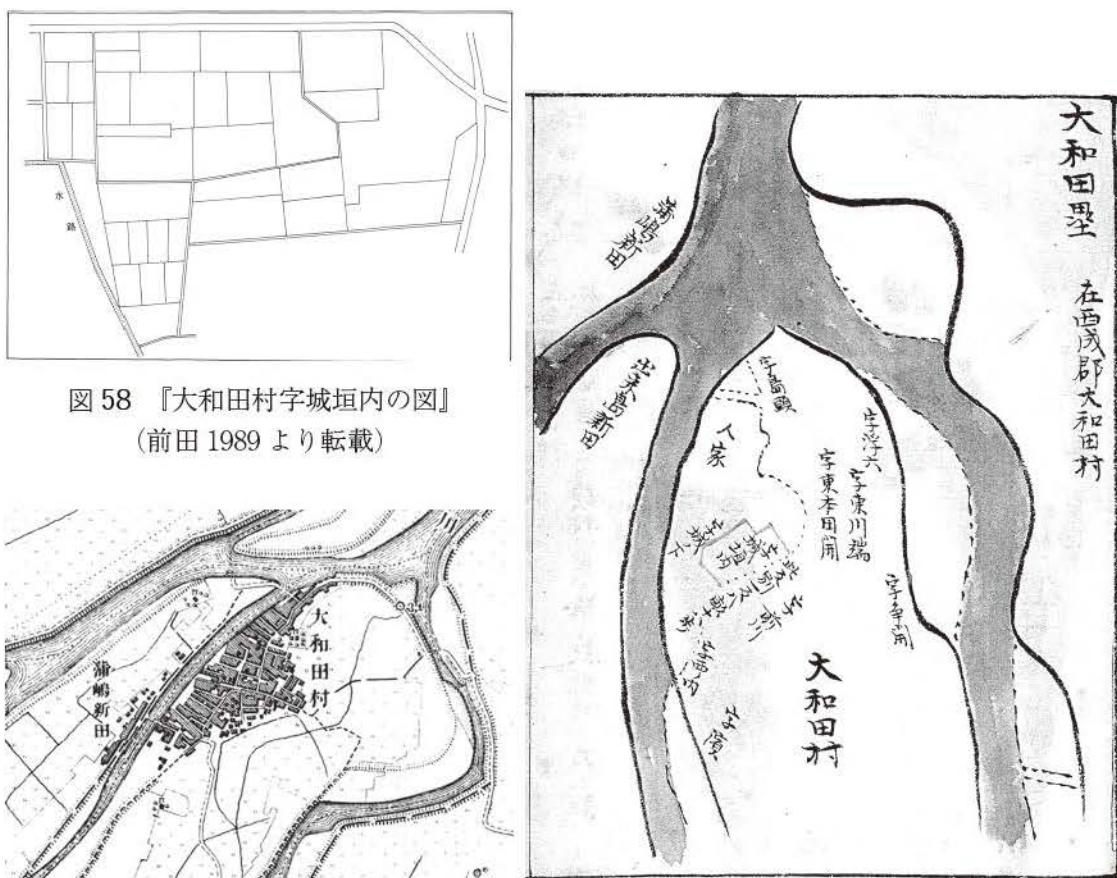


図 59 仮製二万分の一地形図にみる大和田城（参考本部陸軍部測量局 1886・1887 より転載）

図 60 『東摂城址図誌』より「大和田塙」  
(大阪府立中之島図書館所蔵)

年間には細川晴賢が居城したが、天文18年(1549)に三好長慶に攻められ、その後は長慶が在城。元亀年間に織田信長に攻められ、廃城したという(田代・渡辺・石田(編)1981)。

【関連地名】

字堀之内

【史料】

摂津志

【参考文献】

井上1922、大阪府西成郡役所(編)1915、田代・渡辺・石田(編)1981、平凡社地方資料センター(編)1986、前田1989、三善1986

〔No.11〕大和田城

所在地 大阪市西淀川区大和田 位置 東経 135.4431 北緯 34.7086

立地 平野部 標高 -1~0m 比高 不明 城域 不明 時期 16世紀

【城館の概要】

大和田城は、大阪市西淀川区大和田に所在するとされる。築城時期は16世紀で、城主は下間氏、阿波仁右衛門と伝わる。大坂本願寺の出城として築かれ、下間氏が守ったが、天正3年(1575)信長方の荒木村重に攻め落とされた(田代・渡辺・石田(編)1981)。その後、天正8年(1580)に信長の命で阿波仁右衛門が再興した(三善1986)。

【関連地名】

字城垣内

【参考文献】

井上1922、大阪府西成郡役所(編)1915、田代・渡辺・石田(編)1981、平凡社地方資料センター(編)1986、前田1989、三善1986

〔No.12〕大塚城・茶臼山陣城

所在地 大阪市天王寺区茶臼山町 位置 東経 135.5118 北緯 34.6519

立地 台地部 標高 5.5~26.5m 比高 21m 城域 250m × 130m

時期 16~17世紀初頭

【城館の概要】

大塚城・茶臼山陣城は、大阪市天王寺区茶臼山町に所在する平山城である。天文15年(1546)に細川晴元の家臣の山中又三郎が大塚城を構えた。その後、慶長19年(1614)の大坂冬ノ陣では徳川家康が茶臼山陣城として本陣を構え、慶長20年(1615)の大坂夏ノ陣では真田幸村が陣を構えた。遺構は、家康本陣に伴うものとみられる遺構・遺物が確認されているほか、東裾部では堀割、北西裾部では建物跡や瓦敷、竈などの台所跡とみられる遺構が確認されている。遺物は金箔を貼った土師器皿や硯などが出土している。同地に所在する茶臼山古墳および河底池が大阪府指定史跡となっている。

【調査歴】

・CU85-1次(趙1986)

【参考文献】

井上1922、田代・渡辺・石田(編)1981、中井(監)2014、中西2015、平凡社地方資料センター(編)1986

(No.13) 葱生城

所在地 大阪市旭区大宮 位置 東経 135.5444 北緯 34.7258  
立地 平野部 標高 約2m 比高 不明 城域 不明 時期 16世紀?

【城館の概要】

葱生城は、大阪市旭区大宮に所在するとされる。築城者・時期は不明であるが、石山合戦の際に本願寺が築いた51城砦の1つではないかと考えられている（田代・渡辺・石田（編）

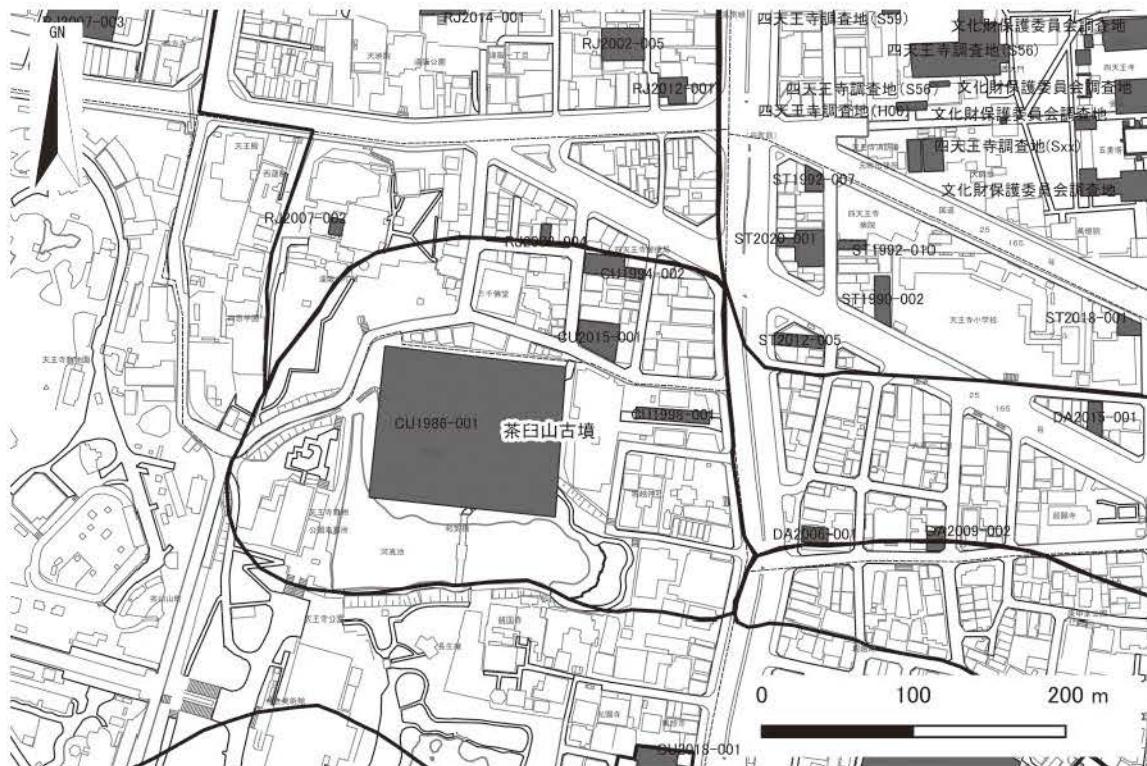


図 61 茶臼山陣城 位置図・調査地区 (S=1/5,000、背景地図は大阪市地形図を使用)

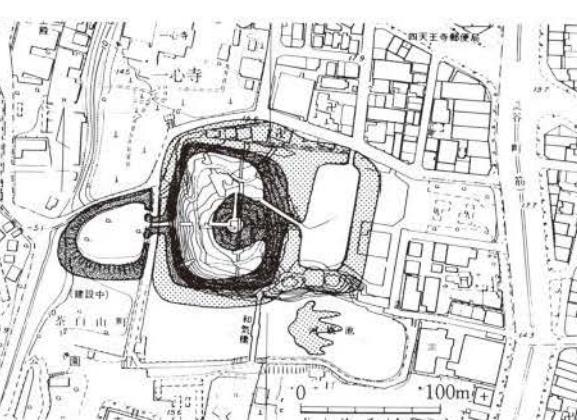
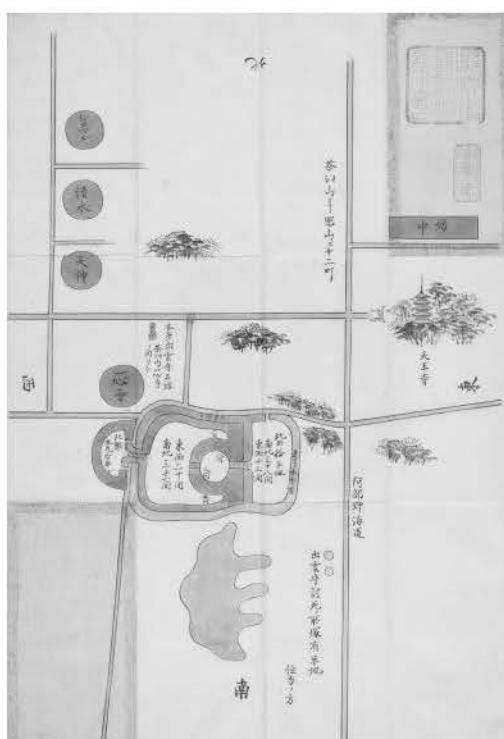


図 63 「茶臼山御陣城図」をもとにした復元図  
(趙 1986 より転載) (S=1/5,000)

図 62 『浅野文庫所蔵 諸国古城之図』より  
「茶臼山御陣城図」  
(広島市立中央図書館所蔵)

1981)。『東成郡史』には「大字荒生の東方に古城址ありと伝ふ」とあり(大阪府東成郡役所(編)1922)、『日本城郭全集』では大字荒生の東に続く大字中のもう1つ東隣の大字江野に含まれていた字殿屋敷を葱生城跡に比定している。

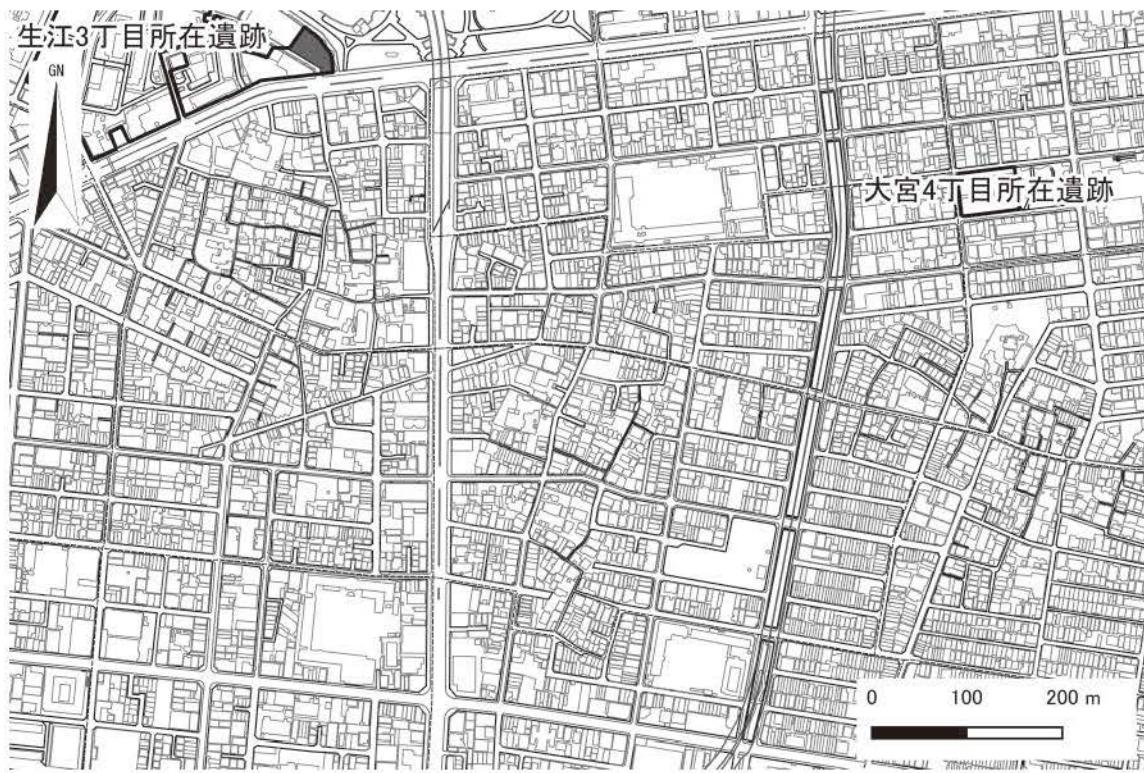


図64 葱生城推定地 位置図 (S=1/8,000、背景地図は大阪市地形図を使用)



図65 葱生城 小字図 (通信協会大阪支部 1919 より転載)

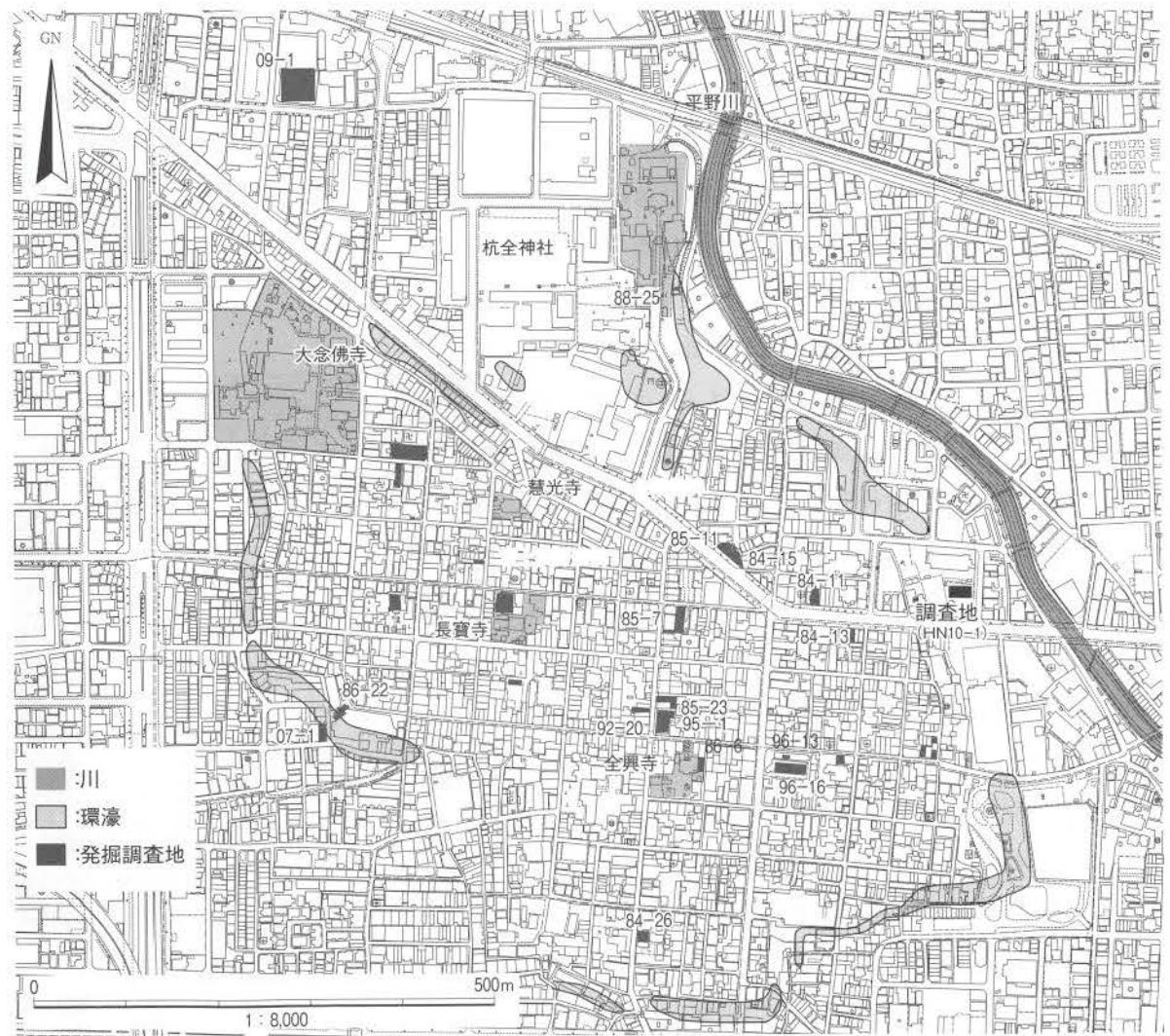


図 66 平野環濠 位置図・調査図 (S=1/8,000、大阪文化財研究所 2012 より転載)

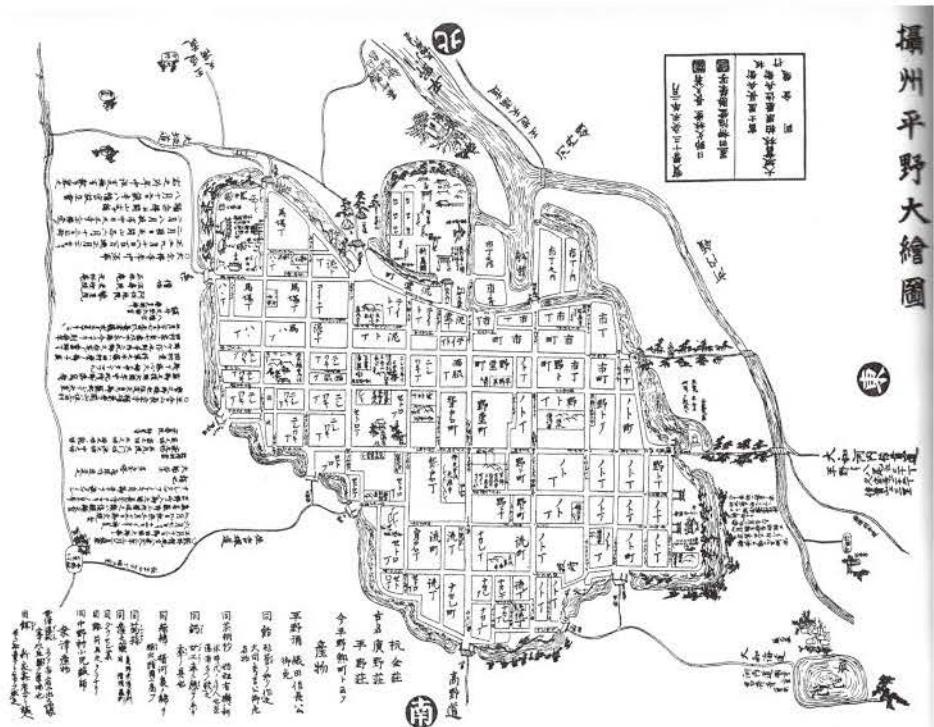


図 67 「摂州平野大繪圖」(宝暦 13 年 (1763)) (平野区誌編集委員会 (編) 2005 より転載)

### 【関連地名】

字殿屋敷

### 【参考文献】

大阪府東成郡役所（編）1922、田代・渡辺・石田（編）1981

(No.14) 平野環濠

所在地 大阪市平野区平野宮町・平野上町・平野本町・平野市町・平野東

位置 東經 135.5547 北緯 34.6249 立地 平野部 標高 5.5 ~ 7.5m 比高 不明

城域 約 900m × 1,000m 時期 中世～近世（16世紀～）

## 【城館の概要】

平野環濠は、大阪市平野区平野宮町・平野上町・平野本町・平野市町・平野東に所在する環濠都市。存続期間は中世（16世紀）～近世。『兼見卿記』より16世紀後半には環濠が成立し

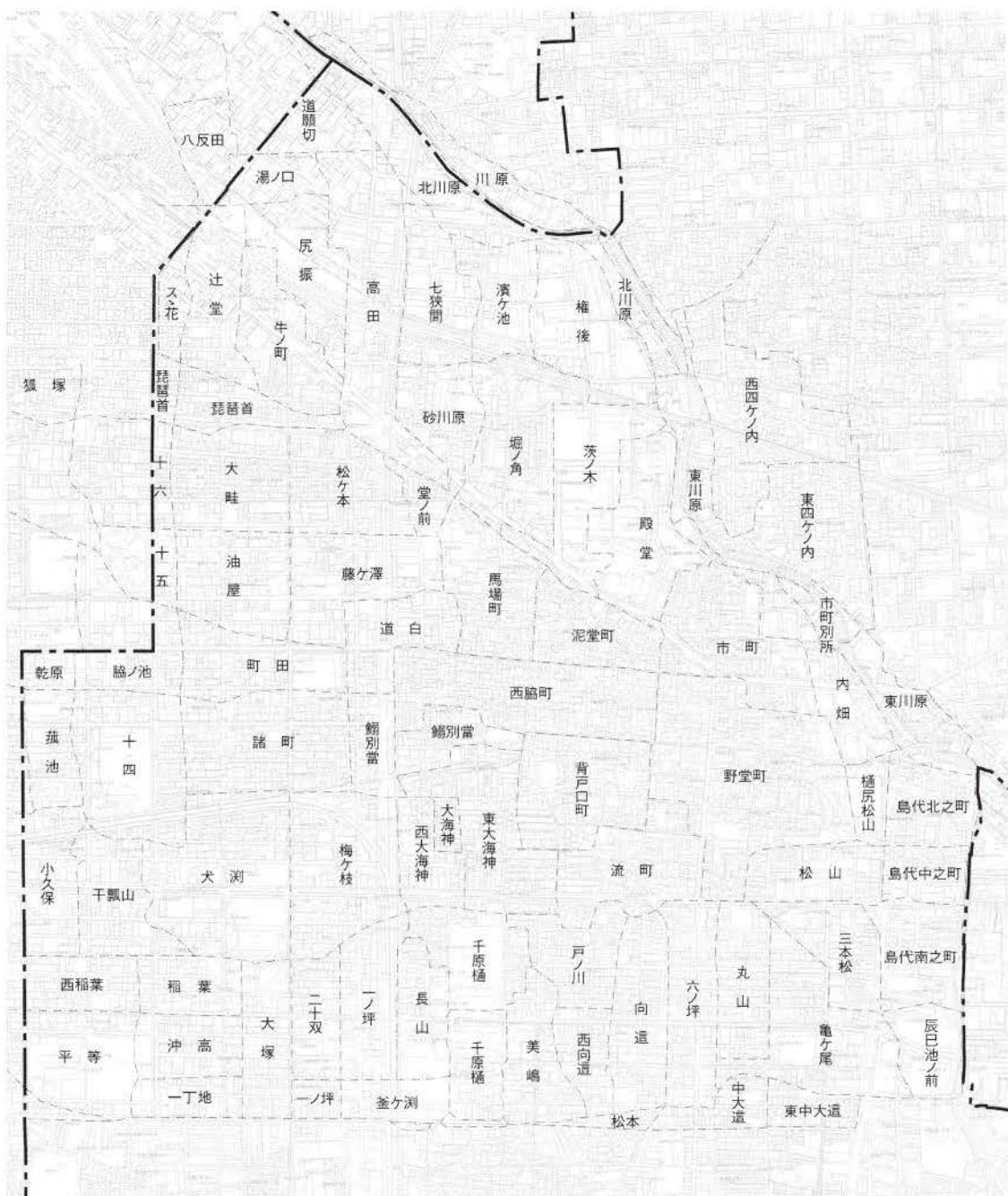


図 68 「平野区小字地図・平野」(平野区誌拾遺集編集委員会(編) 2011 より転載)

ていることが明らか。森毅氏は、上記の環濠が宝暦13年（1763）の『摂州平野大絵図』に描かれた環濠と同じ形状かは確認できないが、環濠内の町割は環濠外の地割と異なり、この町割が環濠の掘削に先行して存在したとは考えにくく、環濠の掘削が町割の施工と同時に行われたか、町割施工に先行したと考えられるとして、町割は発掘調査成果から16世紀中頃～後半に条理地割から現在の町割に変更されていることから、環濠の成立もこの時期と推定している（森2005）。



図69 浦江城推定地 位置図 (S=1/6,000、背景地図は大阪市地形図を使用)

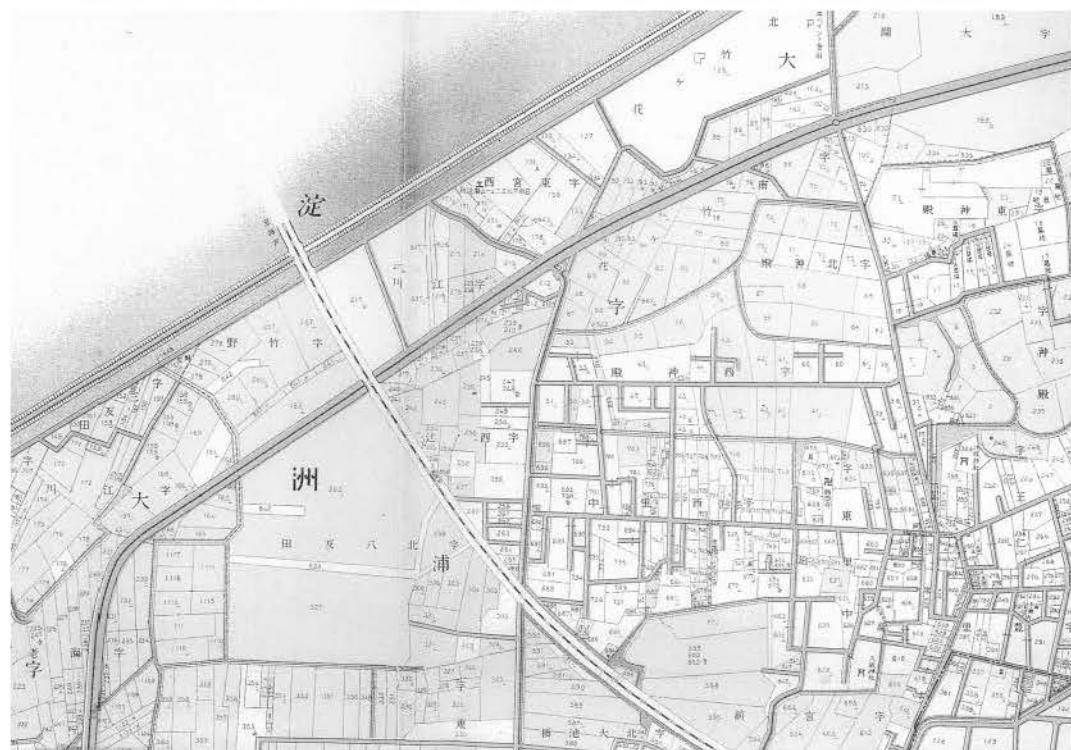


図70 浦江城 小字図 (通信協会大阪支部 1919 より転載)

### 【おもな調査歴】

HN10 – 1次調査において、平野郷を囲む環濠と考えられる溝（SD201・202・203）が確認されている（大阪文化財研究所 2012）。SD201 からは 16C 代の豊臣期の遺物が出土しており、16C 中頃～後半に環濠が成立したとする森毅氏の推定（森 2005）とも整合する。SD202・203 は SD201 の再掘削。

### 【史料】

①『イエズス会日本年報』上：イエズス会宣教師により天正 11 年（1583）に記された。平野環濠に関し、「悉く竹をもって囲まれ、城の如くなつてゐて、平野 Firano と称する。（中略）甚だ富んだ人達の村である」との記述がある。

②『兼見卿記』：吉田兼見により天正 11 年（1583）に著された。平野環濠に関し、「至平野見物、当庄所悉天王寺へ引寄也、竹木堀以下埋之也」との記述がある。

### 【参考文献】

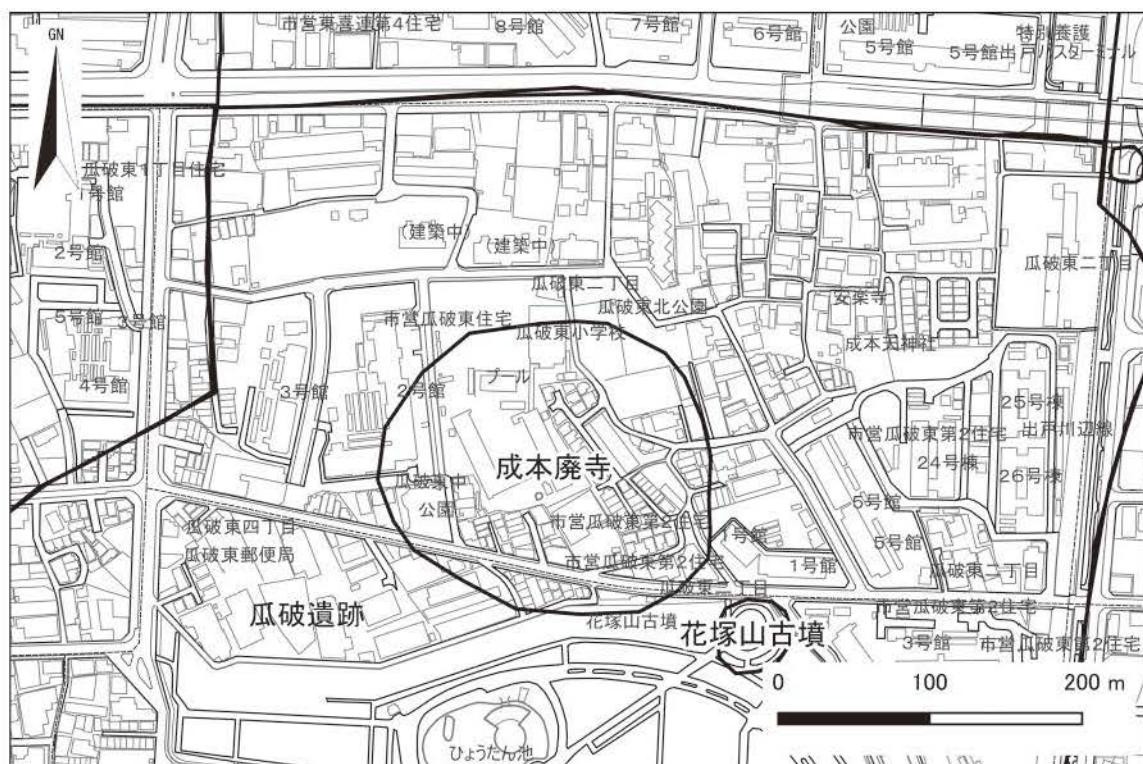
井上 1922、大阪市文化財協会（編）1997、大阪文化財研究所 2012、田代・渡辺・石田（編）1981、中井（監）2018、中西 2015、平野区誌編集員会（編）2005、平野郷公益会（編）1931、平凡社地方資料センター（編）1986、豆谷 1999、森 2005

### 〔No.15〕浦江城・手好城

所在地 大阪市北区大淀中・大淀南？ 位置 東経 135.4810 北緯 34.7023  
立地 平野部 標高 - 1 ~ 0.5m 比高 不明 城域 不明 時期 16世紀

### 【城館の概要】

浦江城・手好城は、字西里中にあったとされ（井上 1922、鷺洲町史編纂委員会（編）1925）、現在の大坂市北区大淀中・大淀南付近に所在するとみられる。享禄 4 年（1531）に三好長慶が拠った城とされ、元亀元年（1570）に織田信長が三好三人衆を討った際には將軍足利義昭が入城したという（田代・渡辺・石田（編）1981）。



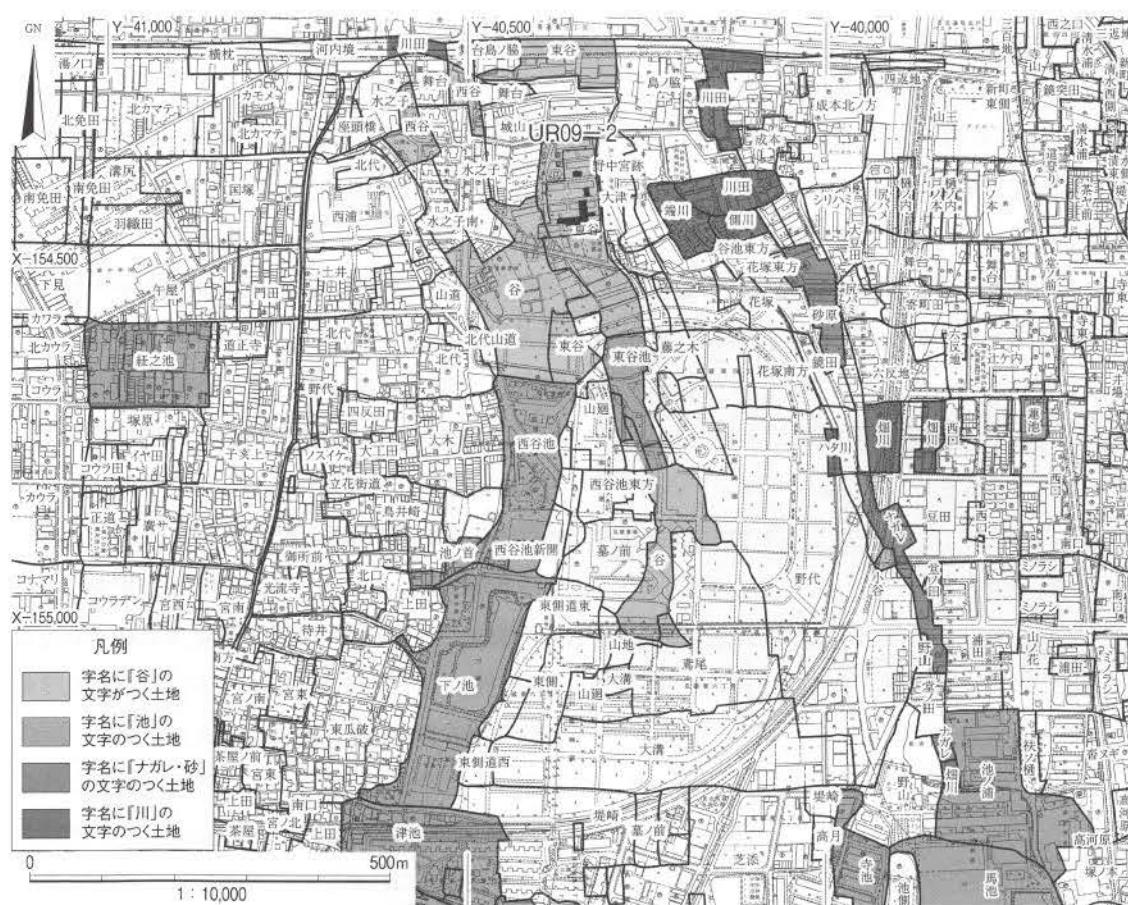


図 72 瓜破城 小字図（大阪文化財研究所 2011 より転載）

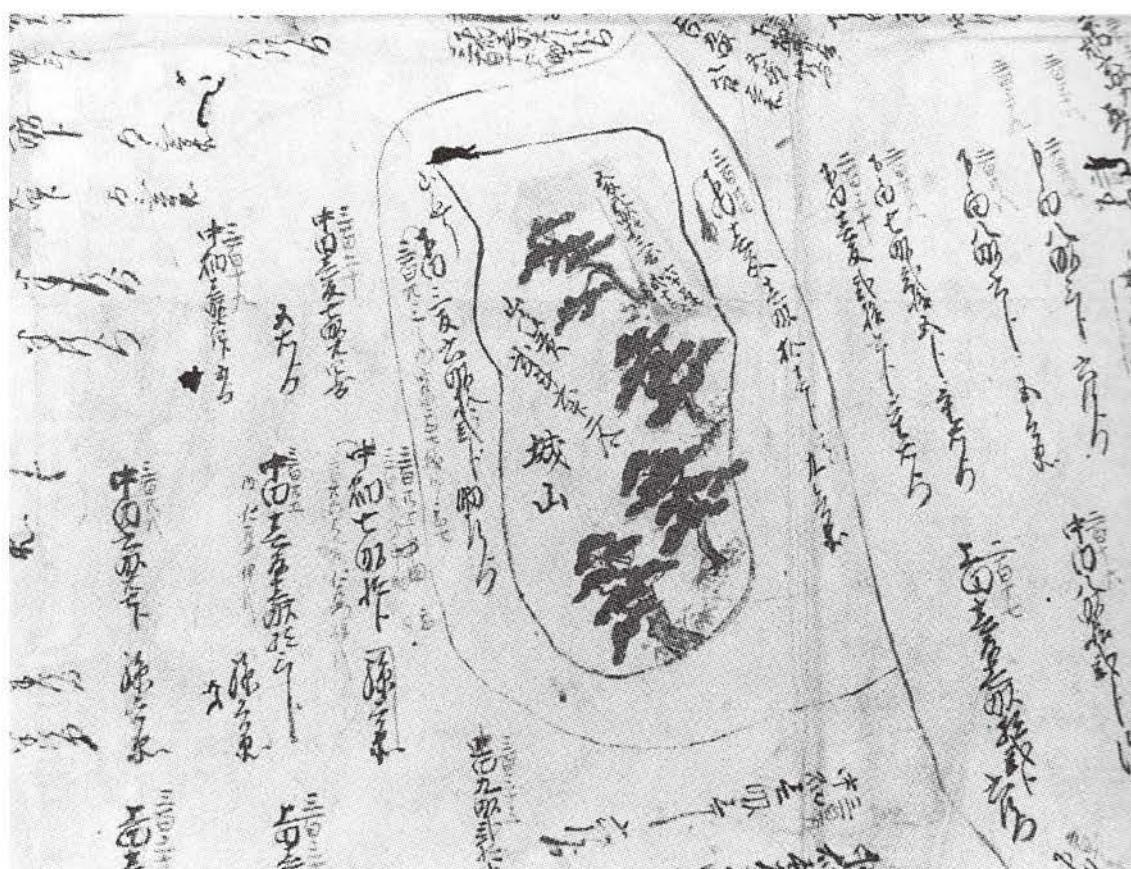


図 73 瓜破城跡（全田家文書）（平野区誌編集委員会（編）2005 より転載）

## 【参考文献】

井上 1922、鷺洲町史編纂委員会（編）1925、田代・渡辺・石田（編）1981

## 〔No.16〕 瓜破城・宇利和利城

所在地 大阪市平野区瓜破東 位置 東経 135.5591 北緯 34.6080

立地 台地部 標高 8～9m 比高 不明 城域 不明 時期 14世紀

## 【城館の概要】

瓜破城・宇利和利城は、大阪市平野区瓜破東に所在すると推定される。築城時期は14世紀で、城主は楠木正儀と伝わる（田代・渡辺・石田（編）1981）。

## 【関連地名】

「城山」の小字名あり

## 【史料】

応安4年（1371）に著された『花営三代記』に、「河州宇利和利城寄手南方勢引退云々」との記述がある。

## 【参考文献】

平野区誌編集委員会（編）2005、田代・渡辺・石田（編）1981、平凡社地方資料センター（編）1986

## 〔No.17〕 江口城

所在地 大阪市東淀川区南江口？ 位置 不明 立地 平野部 標高 不明

比高 不明 城域 不明 時期 16世紀

## 【城館の概要】

江口城は、大阪市東淀川区南江口付近に所在するとされる。築城時期は16世紀で、三好政長の築城とされる。天文18年（1549）に三好長慶の攻撃を受けて落城し、その後は長慶が囲い、中川氏に譲ったという（三善1986）。城内にあったと伝承されている狛犬が大隅神社に残されている。

## 【関連地名】

小字宮の城

## 【史料】

応安4年（1371）に著された『花営三代記』に、「河州宇利和利城寄手南方勢引退云々」との記述がある。ほか、『摂津志』に記載あり。

## 【参考文献】

大阪府学務部（編）1931、大阪府西成郡役所（編）1915、岡田 1701、新修大阪市史編纂委員会（編）1988、田代・渡辺・石田（編）1981、前田 1989、三善 1986

## 〔No.18〕 穢多城・穢多埼砦

所在地 大阪市浪速区幸町3丁目付近か 位置 不明 立地 平野部 標高 不明

比高 不明 城域 不明 時期 16～17世紀初頭

## 【城館の概要】

穢多城・穢多埼砦の所在地は諸説あるが、一説には大阪市浪速区幸町3丁目付近に所在するとされる。石山合戦の際に本願寺が築いた出城（穢多城）である。慶長19年（1614）大坂冬の陣の際には豊臣方の砦（穢多埼砦）が築かれ薄田兼相が守ったが、徳川方の蜂須賀至鎮に攻められ陥落した（井上1922）。

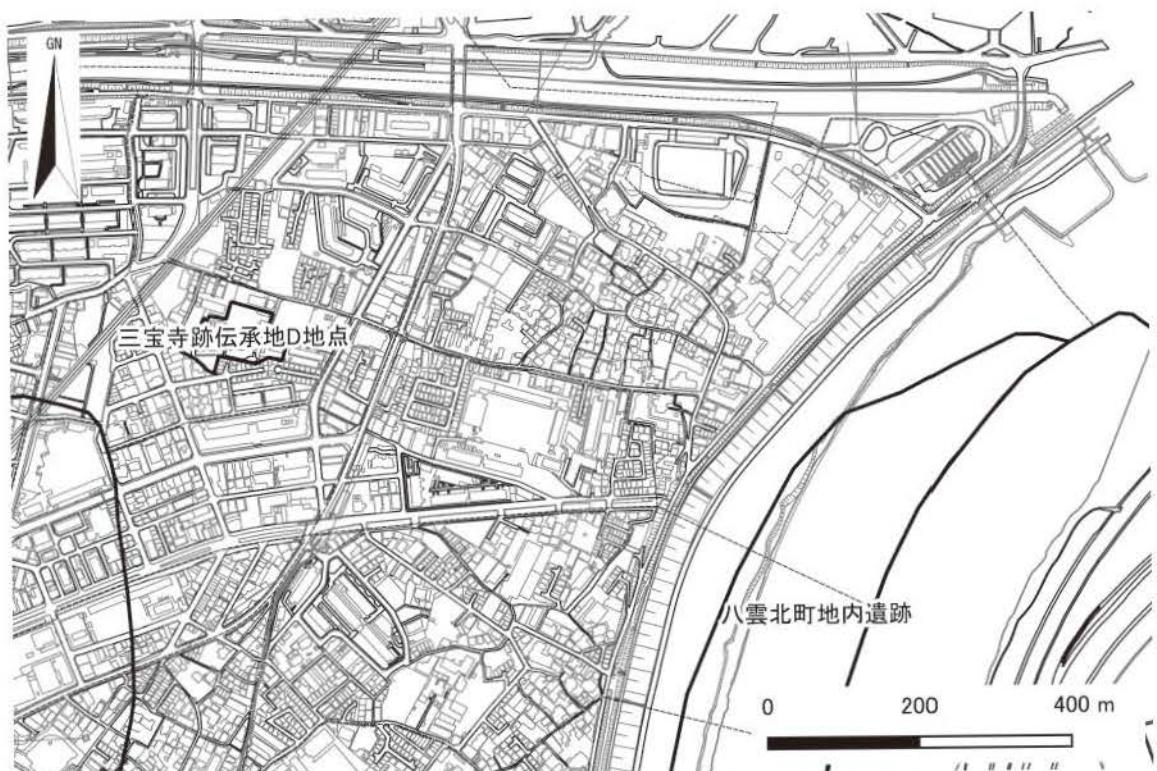


図 74 江口城推定地 位置図 (S=1/10,000、背景地図は大阪市地形図を使用)

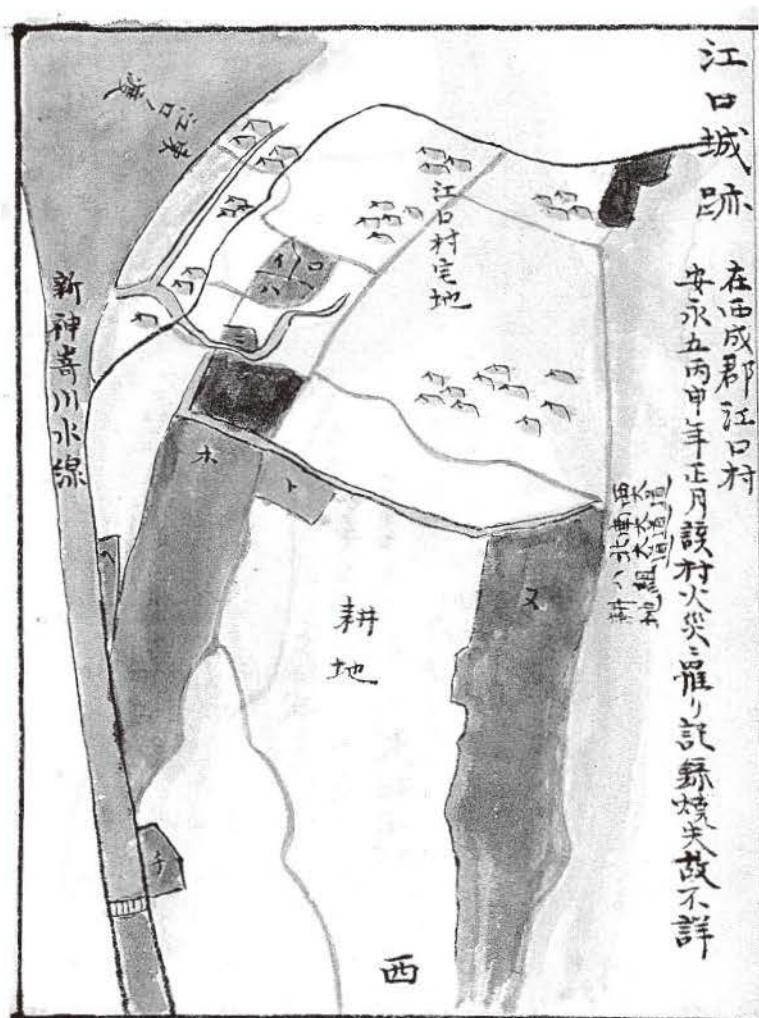


図 75 『東摂城址図誌』より「江口城跡」(大阪府立中之島図書館 所蔵)

【関連資料】

摂津志

【参考文献】

井上 1922、大阪府学務部（編）1931、田代・渡辺・石田（編）1981



図 76 穢多埼砦推定地 位置図 (S=1/6,000、背景地図は大阪市地形図を使用)

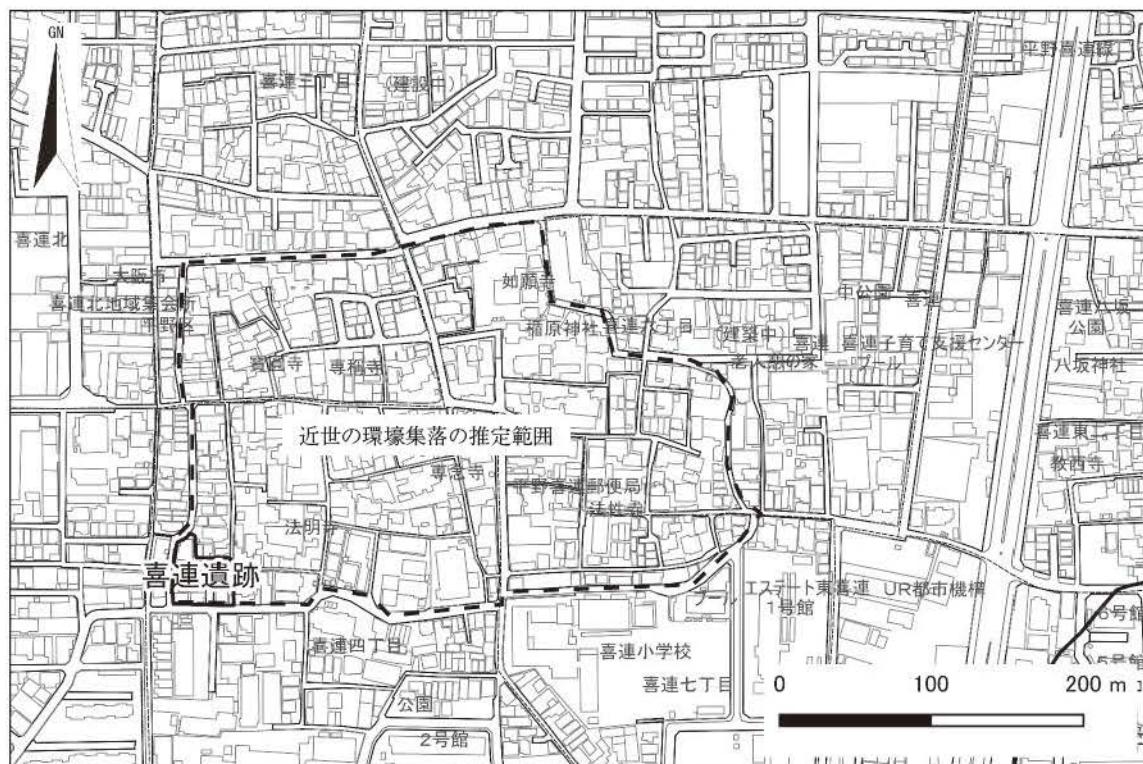


図 77 喜連環濠 位置図 (S=1/5,000、背景地図は大阪市地形図を使用)



図 78 喜連環濠 小字図（平野区誌拾遺集編集委員会（編）2011 より転載）

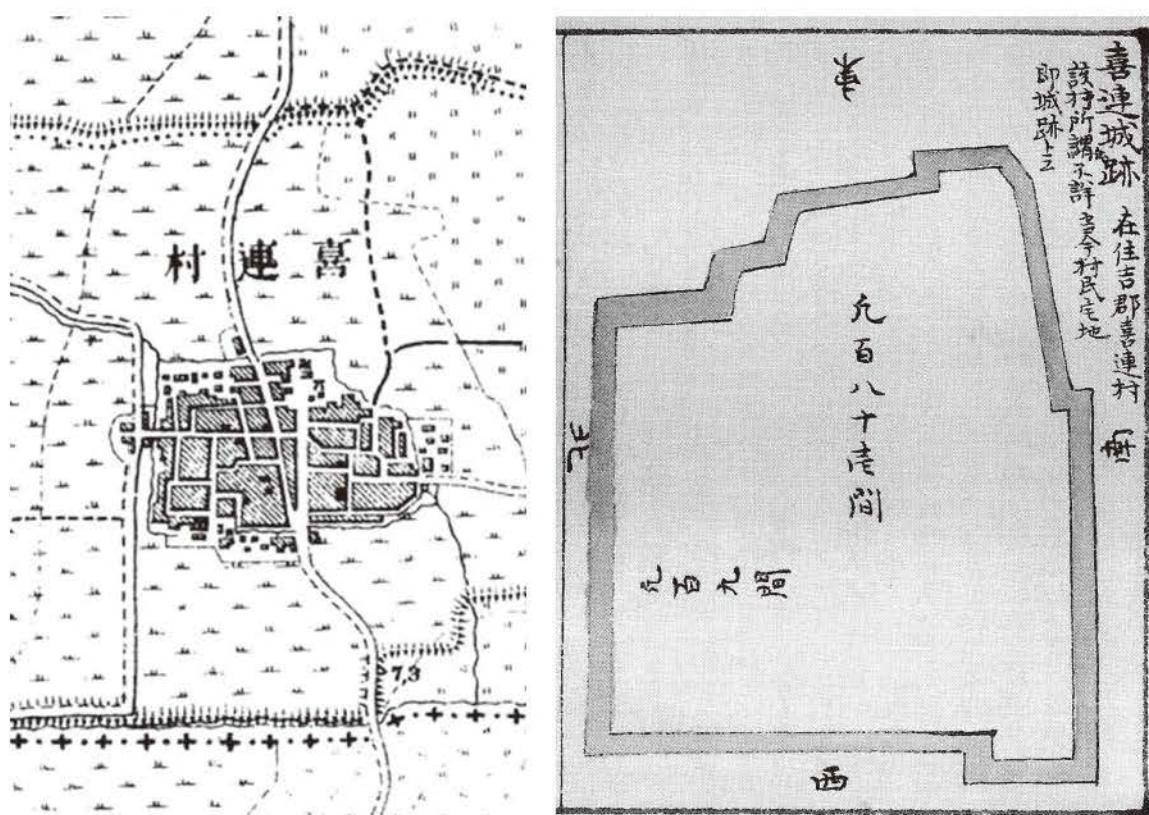


図 79 仮製二万分の一地形図にみる喜連城  
(参謀本部陸軍部測量局 1886・1887 より転載)

図 80 「東摂城址図誌」より「喜連城跡」  
(大阪府立中之島図書館 所蔵)

〔No.20〕喜連川城・喜連城・喜連環濠

所在地 大阪市平野区喜連 位置 東経 34.6128 北緯 135.5548 立地 平野部  
標高 約 6 m 比高 不明 城域 不明 時期 中世（14～16世紀）～近世（環濠集落）

## 【城館の概要】

喜連川城・喜連城・喜連環濠は、大阪市平野区喜連に所在するとされる。喜連川城は喜連川氏により築城されたとされるが、応仁の乱の際、細川勝元により落城。喜連城は天文元年(1532)細川氏綱が居城、続いて桃井氏、平井氏が城主となり、平井氏滅亡以後に廃城になったとされるが（田代・渡辺・石田（編）1981、三善1986）、環濠集落として近世にも存続する。

#### 【関連地名】

「馬場埼」「馬場口」の小字名あり。



図81 正覚寺城 位置図 (S=1/5,000、背景地図は大阪市地形図を使用)

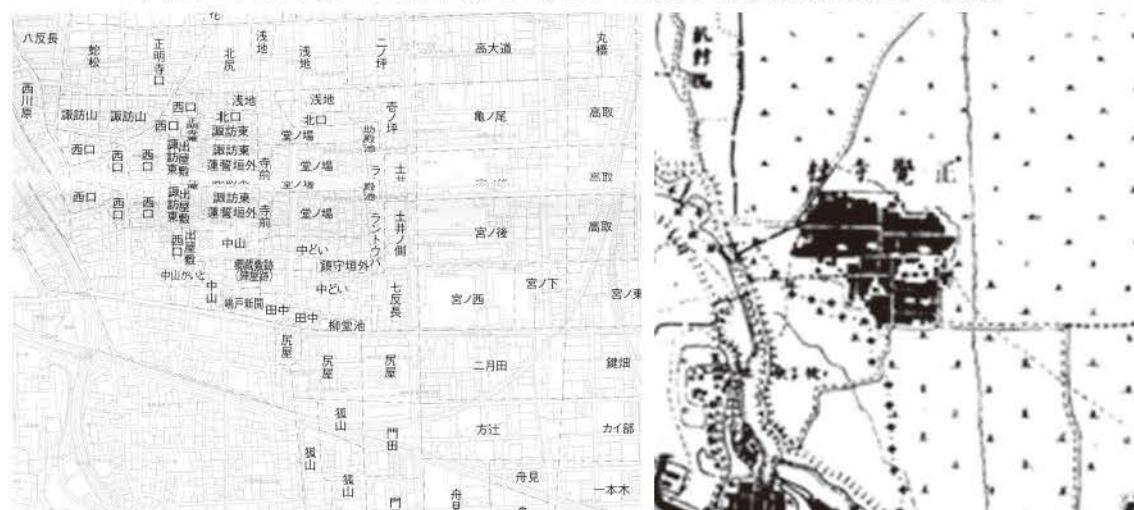


図82 正覚寺城 小字図  
 (平野区誌拾遺集編集委員会(編) 2011より転載)

図 83 仮製二万分の一地形図にみる正覚寺城  
(参考本部陸軍部測量局 1886 より転載)

【史料】

摂津志

【参考文献】

井上 1922、大阪府東成郡役所（編）1922、大阪府学務部（編）1931、中井（監）2018、中西 2015、平野区誌編集委員会（編）2005、田代・渡辺・石田（編）1981、平凡社地方資料センター（編）1986、三善 1986

〔No.21〕 正覚寺城

所在地 大阪市平野区加美正覚寺 位置 東経 34.6315 北緯 135.5580 立地 平野部  
標高 約 5.5m 比高 不明 城域 不明 時期 15世紀

【城館の概要】

正覚寺城は、大阪市平野区加美正覚寺に所在するとされる。15世紀に築かれ、城主は畠山政長とされる。文明9年（1477）、畠山政長が正覚寺に陣を置いて畠山義就と戦って以来、城郭化したものとされる。明応2年（1493）、正覚寺合戦で敗れた政長は自害し、正覚寺は炎上して廃寺となった（田代・渡辺・石田（編）1981）。

【関連史料】

『多聞院日記』（英俊ほか、文明10年（1478）～元和4年（1618）、興福寺所蔵）：文明一六年五月二十七日条に「正覚寺之城」との記述あり。

【参考文献】

平野区誌編集委員会（編）2005、田代・渡辺・石田（編）1981、平凡社地方資料センター（編）1986、三善 1986

〔No.22〕 新庄城

所在地 大阪市東淀川区下新庄 位置 不明 立地 平野部 標高 3.5～4.0m  
比高 不明 城域 不明 時期 16世紀

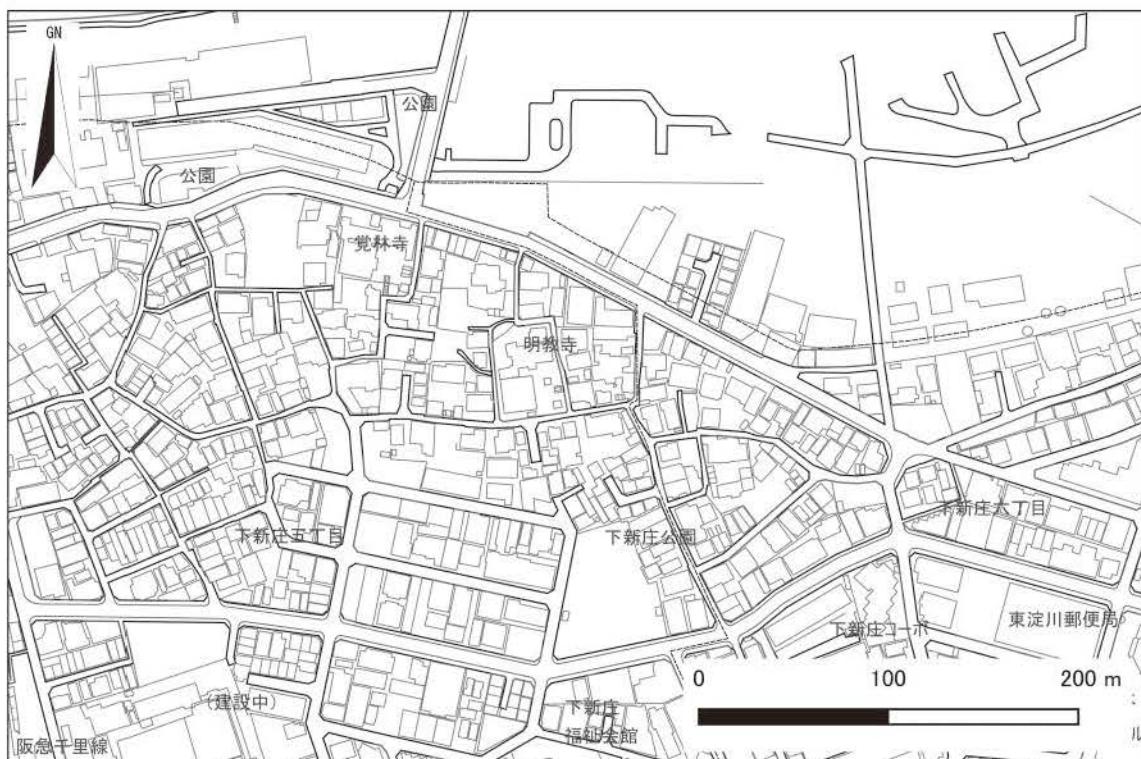


図 84 新庄城推定地 位置図 (S=1/4,000、背景地図は大阪市地形図を使用)

### 【城館の概要】

新庄城は、大阪市東淀川区下新庄に所在するとされる。天正年間、中川清秀が拠ったとされる（田代・渡辺・石田（編）1981）。

### 【関連地名】

明教寺の山号「城置山」は、中川清秀の城跡であることから付されたという（井上 1922）。

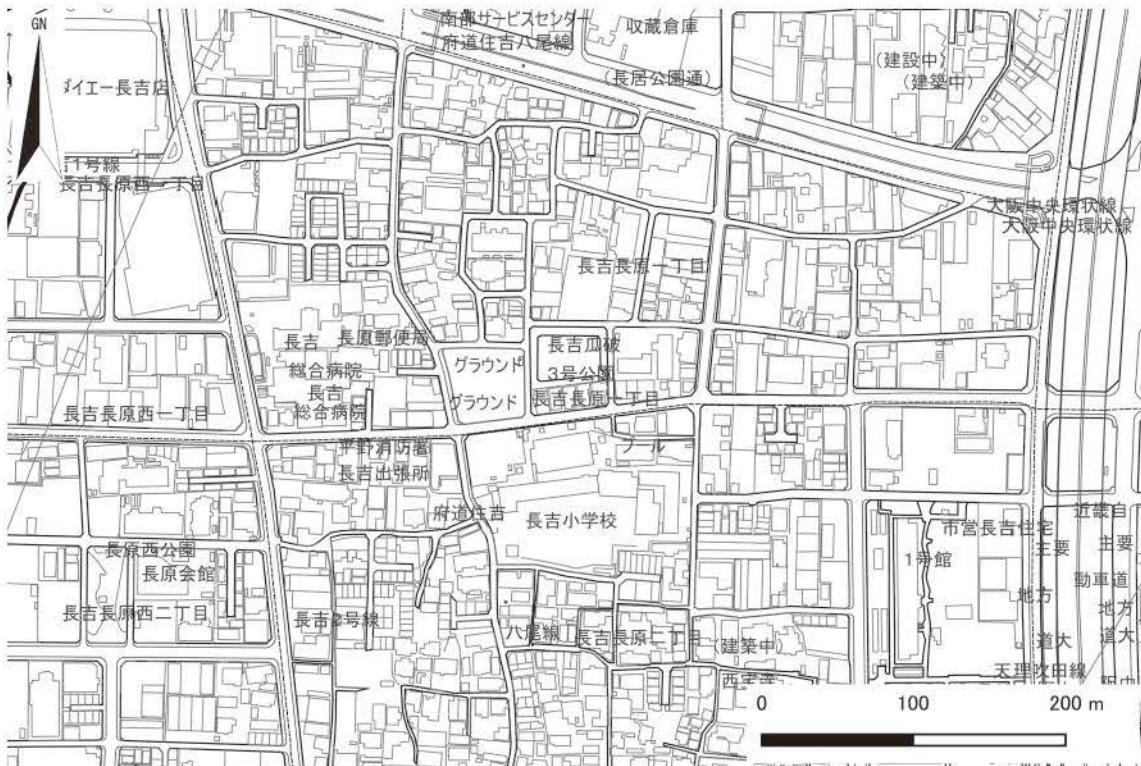


図 85 異城推定地付近 位置図 (S=1/5,000、背景地図は大阪市地形図を使用)

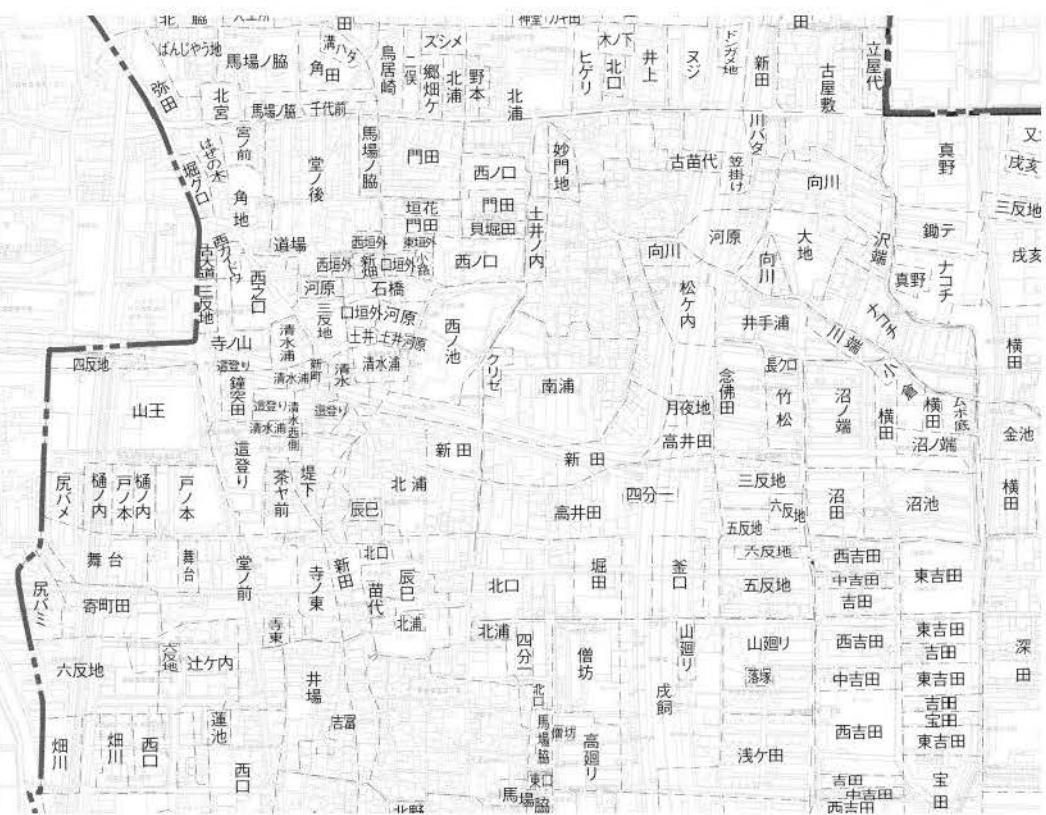


図 86 異城推定地付近 小字図 (平野区誌拾遺集編集委員会（編）2011 より転載)

## 【参考文献】

井上 1922、大阪府西成郡役所（編）1915、田代・渡辺・石田（編）1981、平凡社地方資料センター（編）1986、前田 1989

### 〔No.23〕 翼城

所在地 大阪市平野区長吉長原？ 位置 不明 立地 平野部 標高 不明  
比高 不明 城域 不明 時期 14世紀



図 87 天王寺城推定地付近 位置図 (S=1/9,000、背景地図は大阪市地形図を使用)

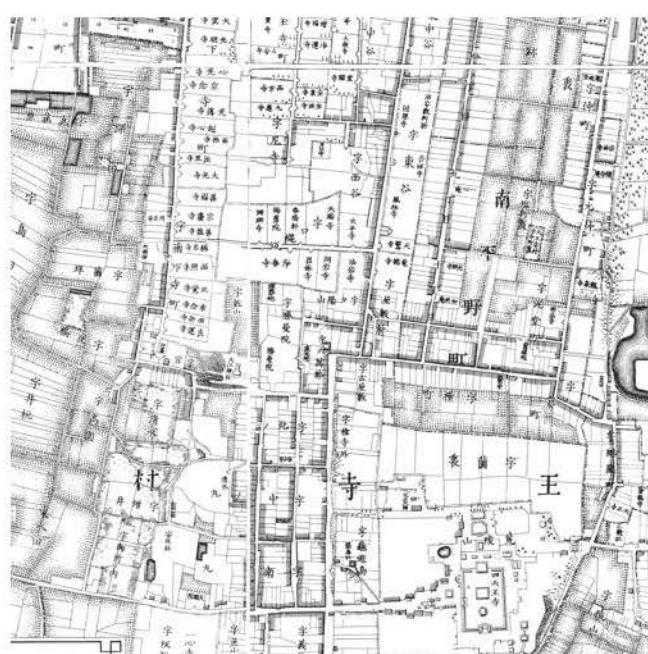


図 88 大阪実測図にみる天王寺城  
(清水（編）1995 より転載)

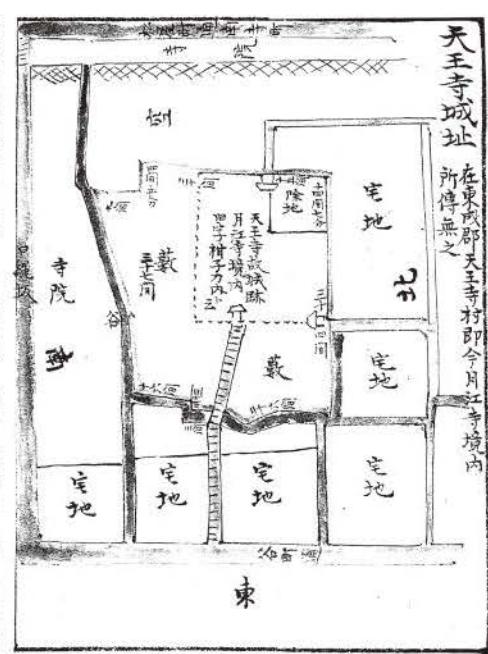


図 89 「東摂城址図誌」より「天王寺城址」  
(大阪府立中之島図書館 所蔵)

### 【城館の概要】

巽城は、大阪市平野区長吉長原付近に所在するとされる。14世紀に築かれた楠公十七城の1つとされる（田代・渡辺・石田（編）1981）。

### 【関連地名】

長吉地域の長原北部にかつて「タツミジョウ」という字地があり、これが楠氏の城塞「巽城」の跡だと伝えられている（平野区史編集委員会（編）2005）。平野区小字地図・長吉（平野区誌拾遺集編集委員会（編）2011）には、現在の長吉長原の北部に「辰巳」の小字名があるが、これとの関連は不明。

### 【参考文献】

平野区史編集委員会（編）2005、田代・渡辺・石田（編）1981、平野区誌拾遺集編集委員会（編）2011

## 〔No.24〕天王寺城

所在地 大阪市天王寺区生玉寺町／大阪市天王寺区伶人町・逢坂1丁目 位置 不明  
立地 台地部 標高 約20m 比高 不明 城域 不明 時期 14～16世紀

### 【城館の概要】

天王寺城は14～16世紀頃の城郭とされ、元弘3年（1333）に楠木正成に対応する六波羅探題の軍が天王寺に城郭を構えた（石川2016）、石山合戦の際に本願寺を攻める拠点として織田信長が原田直政に命じて築かせた（石川2016、田代・渡辺・石田（編）1981）などの記録がある。なお、天王寺城の比定地は、生玉寺町の月江寺付近とする説と、「北ノ丸」、「中ノ丸」、「南ノ丸」の字名が残る伶人町・逢坂1丁目付近とする説の2説がある。

### 【関連地名】

字「北ノ丸」、「中ノ丸」、「南ノ丸」

### 【史料】

摂津志

### 【参考文献】

石川2016、井上1922、田代・渡辺・石田（編）1981、平凡社地方資料センター（編）1986

## 〔No.25〕天満寺内町

所在地 大阪市北区天満 位置 東経 135.5170 北緯 34.6947 立地 平野部  
標高 3.5～5m 比高 不明 城域 800m×840m 時期 天正13年（1585）以降

### 【城館の概要】

天満寺内町は大阪市北区天満に所在する。天正13年（1585）の本願寺建設に伴い成立した。これまでの発掘調査により、天満寺内町建設時と推定される堤防跡が検出されている。

### 【主な調査歴】

- ・TW08－1次調査（大阪市教育委員会・大阪市文化財協会2010）
- ・TW12－1次調査（大阪市教育委員会・大阪文化財研究所2014b）

### 【参考文献】

伊藤1987、内田1989、豆谷・南2015

## 〔No.26〕難波砦

所在地 大阪市浪速区浪速西？ 位置 不明 立地 平野部 標高 不明  
比高 不明 城域 不明 時期 16世紀

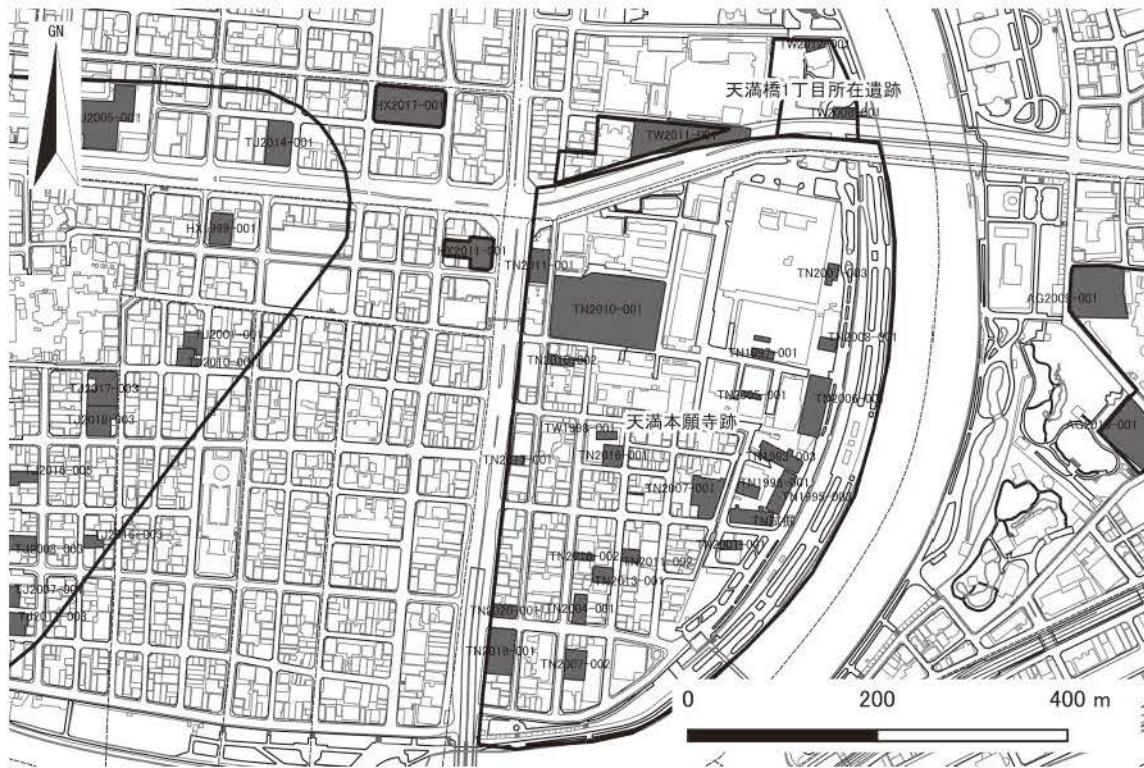


図 90 天満寺内町 位置図・調査地図 (S=1/8,000、背景地図は大阪市地形図を使用)



図 91 天満寺内町の町割 (豆谷・南 2015 より転載)

### 【城館の概要】

難波砦は大阪市浪速区浪速西付近に所在したとされる。木津川水運を守るために大坂本願寺勢により築かれたとされる（田代・渡辺・石田（編）1981）。

### 【参考文献】

田代・渡辺・石田（編）1981

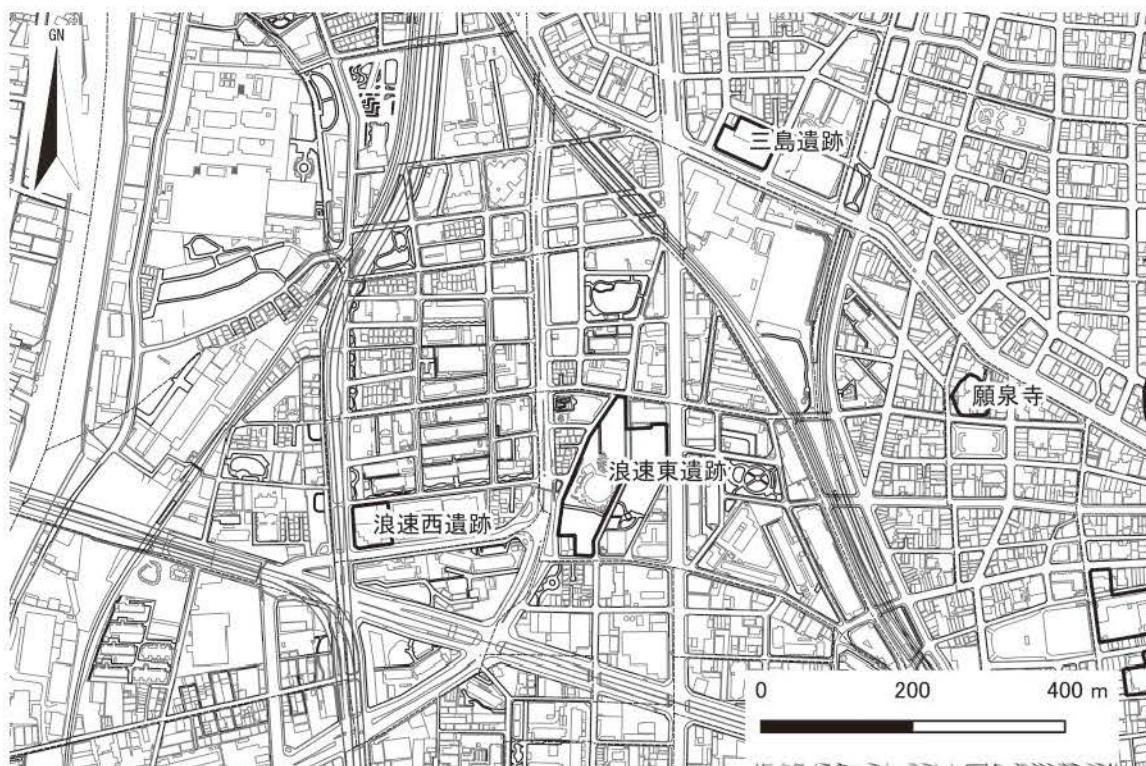


図 92 難波砦推定地 位置図 (S=1/10,000、背景地図は大阪市地形図を使用)

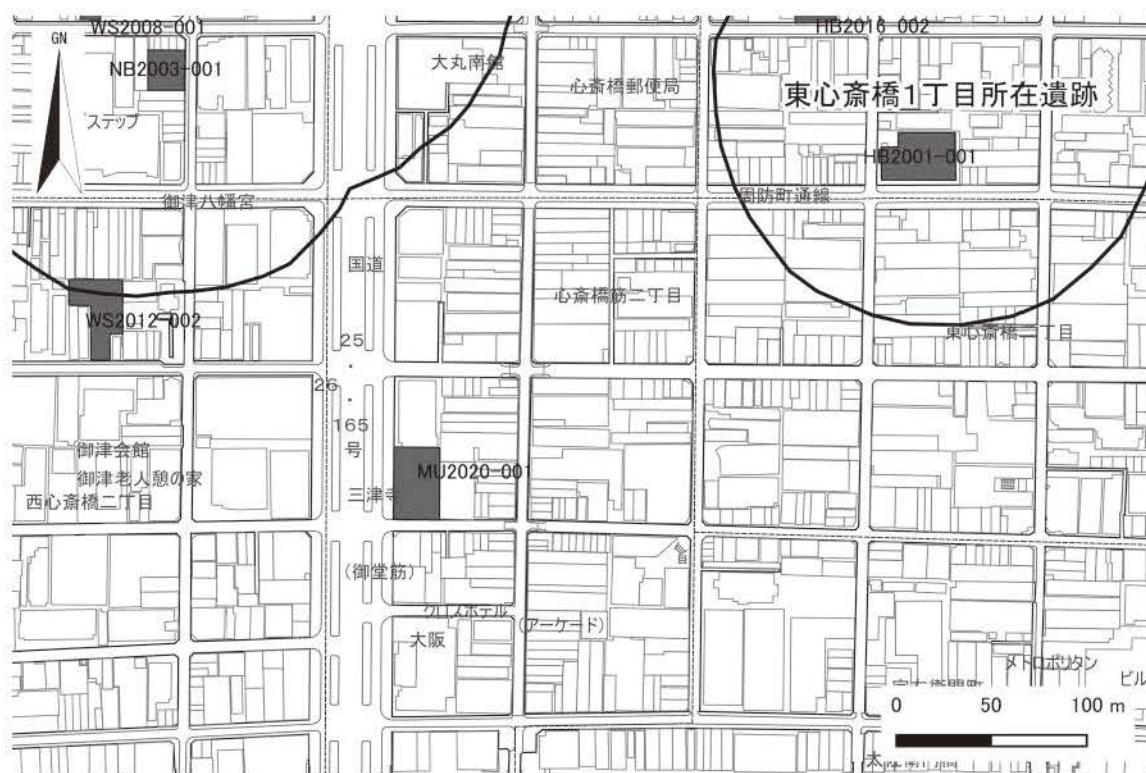


図 93 三津寺砦 位置図 (S=1/4,000、背景地図は大阪市地形図を使用)



図 94 横の岸壁推定地 位置図・調査地図 (S=1/3,000、背景地図は大阪市地形図を使用)

#### [No.27] 三津寺砦

所在地 大阪市中央区心斎橋筋 位置 不明 立地 平野部 標高 約 3 m  
比高 不明 城域 不明 時期 16世紀

##### 【城館の概要】

三津寺砦は大阪市中央区心斎橋筋に所在したとされる。16世紀に大坂本願寺が築いた支城の一つとされる。

##### 【主な調査歴】

MU 20 – 1次調査 (大阪市教育委員会・大阪市文化財協会 2022)

##### 【参考文献】

田代・渡辺・石田 (編) 1981

#### [No.28] 横の岸壁

所在地 大阪市中央区石町付近 位置 不明 立地 台地縁辺部 標高 不明  
比高 不明 城域 不明 時期 16世紀

##### 【城館の概要】

横の岸壁は大阪市中央区石町付近に所在したとされる。織田信長が元亀元年（1570）に本願寺に対して砦を築き、稻葉通朝に守らせたが、天正4年（1576）に大坂本願寺の支城として使われた（田代・渡辺・石田（編）1981）。

##### 【主な調査歴】

横の岸壁に関連するものであるかは不明であるが、推定地の周辺で同時期の堀状の大溝が確認されている。

- ・OS85 – 28次調査：本願寺期の幅8m、深さ2mの北北東–南南西方向の堀状の溝が確認されている（大阪市文化財協会 2003）。

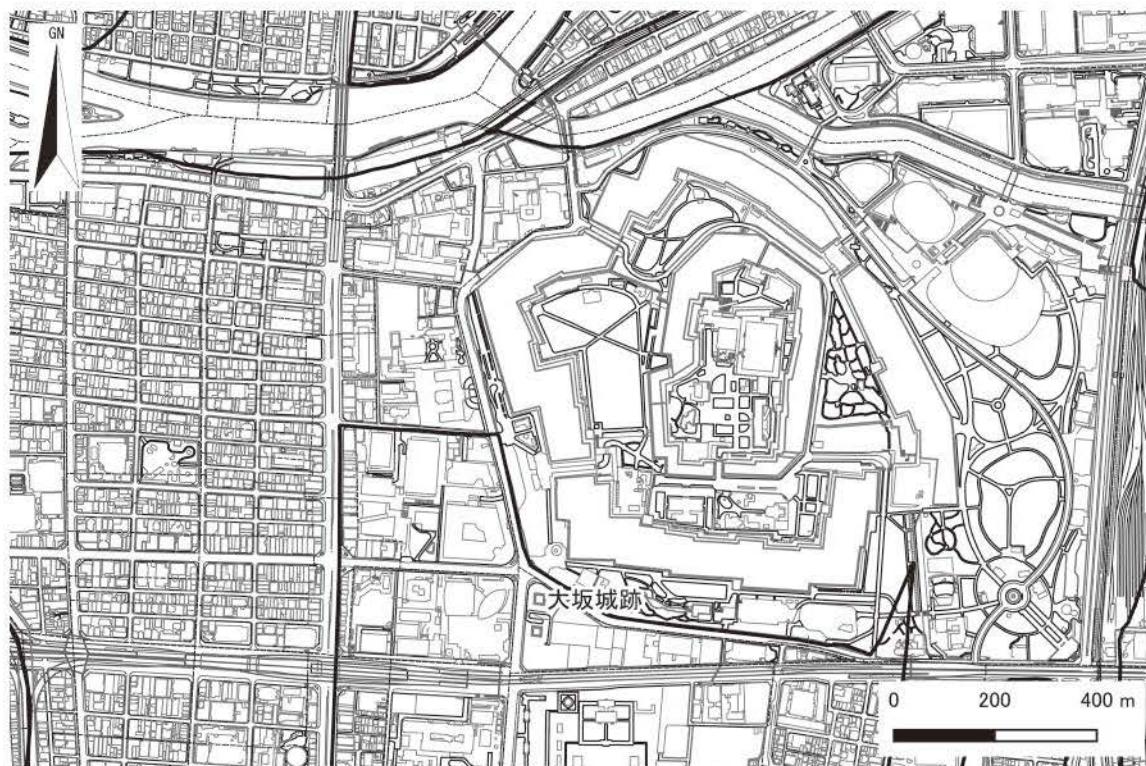
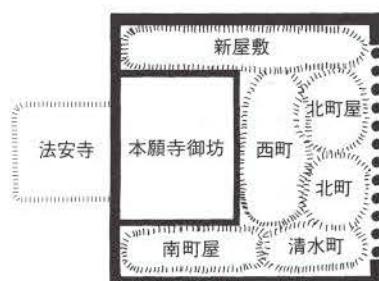
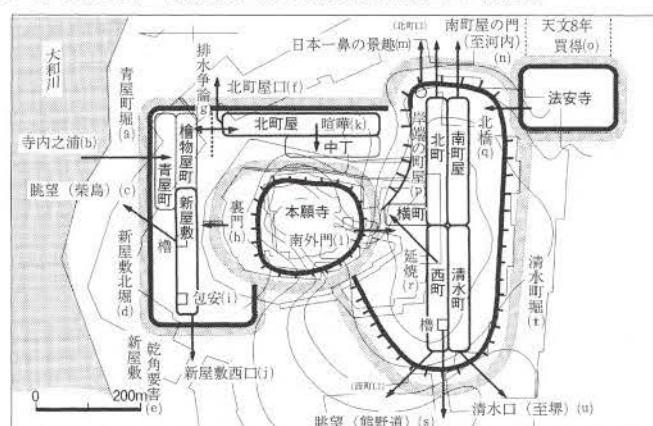


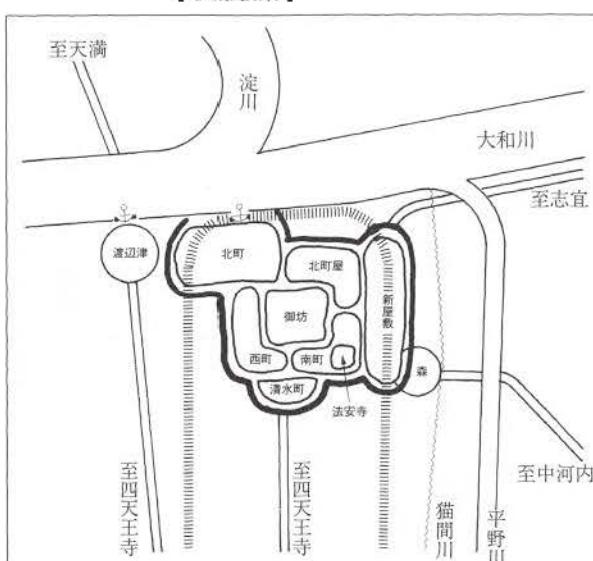
図 95 大坂本願寺 位置図 (S=1/15,000、背景地図は大阪市地形図を使用)



【伊藤毅案】



【藤田実案】



【仁木宏案】



【大澤研一案】

図 96 大坂本願寺の各種復元案 (いずれも大澤 2019 より転載)

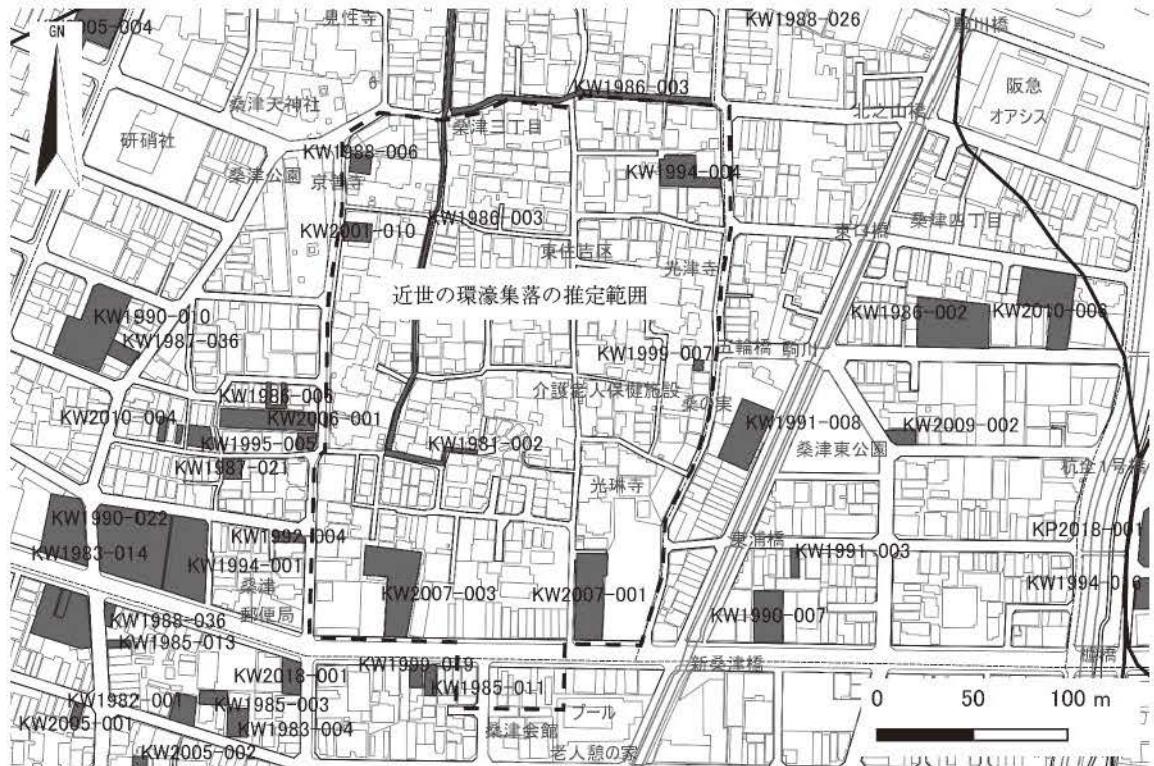


図 97 桑津環濠 位置図・調査地図 (S=1/5,000、背景地図は大阪市地形図を使用)

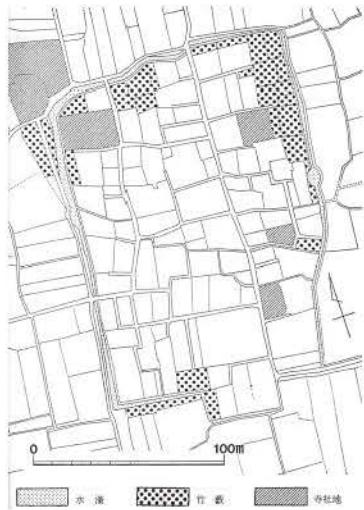


図 98 桑津環濠集落  
(藤田 1983 より転載)

・OS87 - 26 次調査：本願寺期の幅 0.7 ~ 2.5m、深さ 1.1 ~ 1.3 m の北東 - 南西方向の溝が 3 条確認されている（大阪市文化財協会 2003）。

・OS90 - 47 次調査：本願寺期の幅 1.0m、深さ 0.4 m の北西 - 南東方向の溝が確認されている（大阪市文化財協会 2003）。

#### 【参考文献】

井上 1922、大澤 2019、田代・渡辺・石田（編）1981

#### 〔No.29〕 大坂本願寺・大坂寺内

所在地 大阪市中央区大阪城ほか 位置 不明

立地 台地部 標高 不明

比高 不明 城域 不明 時期 15 世紀末～16 世紀

#### 【城館の概要】

大坂本願寺・大坂寺内は大阪市中央区大阪城ほかに所在したとされる。15 世紀末に本願寺により建立され、織田信長との抗争により立ち退くまでに蓮如・証如・顯如が拠った。比定地の一部は特別史跡大坂城跡として指定されている。

#### 【主な調査歴】

これまでの発掘調査により、大坂寺内に関わるとみられる遺構・遺物が検出されている。

- ・OS83 - 15 次調査：建物遺構を検出し、「永禄五天」銘の瓦が出土した（大阪市文化財協会 1988）。
- ・OS90 - 58 次・OS99 - 67 次調査：大川南岸の護岸石垣を検出した（大阪市文化財協会 2002、大阪市教育委員会・大阪市文化財協会 2001）。
- ・OS89 - 92 次：土壘状の高まりを検出した（大阪市文化財協会 2002）。

・NW87 - 21次・OS86 - 6次調査：断面がV字形となる大溝（薬研堀）を検出（大阪市文化財協会 2004・大阪市文化財協会 2003）。

また、特別史跡大坂城跡で実施された以下の発掘調査で、本願寺関連とみられる地層・遺物を検出している。

・OS06 - 8次調査（大阪文化財研究所・大阪市教育委員会 2018）：豊臣期大坂城築城時の盛土内に焼土・焼壁が含まれ、同層から出土した土師器皿の特徴が本願寺期のものに近いことから、同層の焼土・焼壁について本願寺退去時の火災に伴うものである可能性が高いとされている（佐藤 2008）。

#### 【参考文献】

天野 1996、伊藤 1987、大澤 2019、仁木 1994a・1994b、藤田 1996

#### 〔No.30〕桑津環濠

所在地 大阪市東住吉区桑津 位置 東経 135.5313 北緯 34.6377 立地 台地縁辺部  
標高 4～7m 比高 不明 城域 約 200m × 300m 時期 中世？～近世（環濠集落）

#### 【城館の概要】

桑津環濠は大阪市東住吉区桑津に所在したとされる。成立時期等は不明であるが、藤田実氏は明治期の地籍図をもとに軍事的自衛を重視した中世の環濠集落の特徴がよく現れていると指摘している（藤田 1983）。

#### 【おもな調査歴】

- ・KW07 - 1次調査：調査区南端部で幅 1.7m 以上、深さ 1.0m の近世の東西溝の北半部を検出。近世の環濠の可能性も想定される（大阪市教育委員会・大阪市文化財協会 2009）。
- ・KW07 - 3次調査：幅 5 m、深さ 2 m 以上の豊臣後期と推定される南北方向の大溝を検出（大阪市教育委員会・大阪市文化財協会 2008）。

#### 【参考文献】

中井（監）2018、中西 2015、藤田 1983

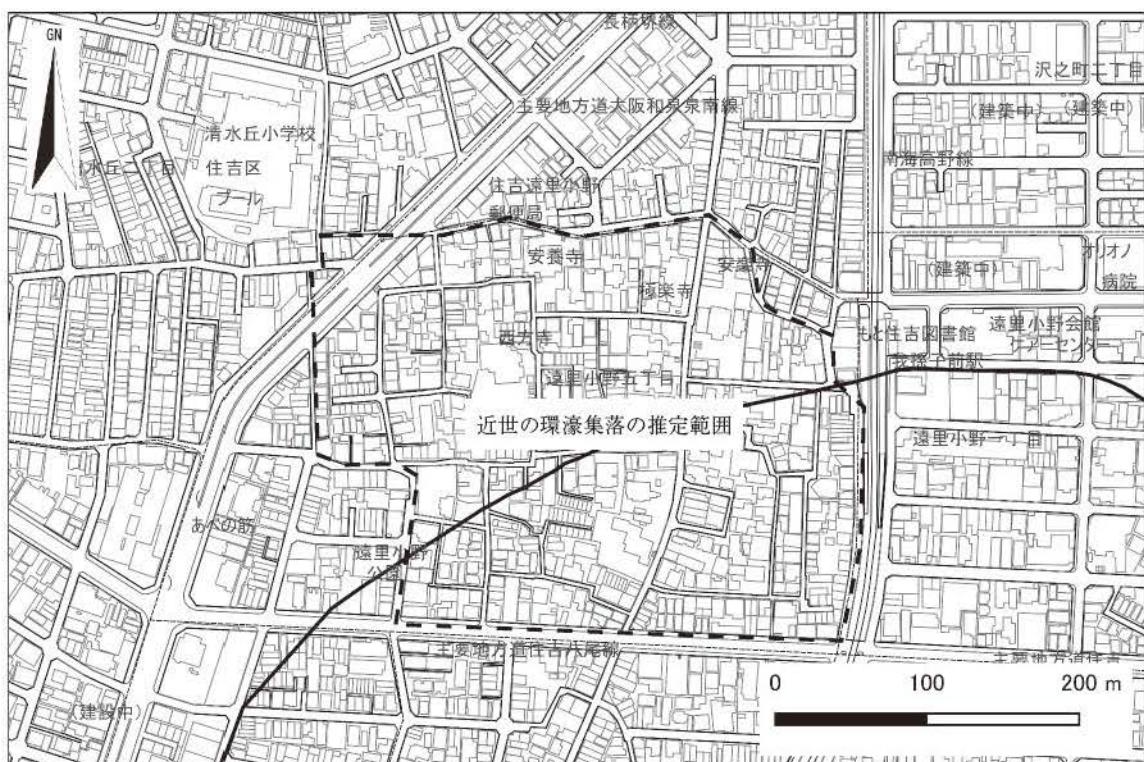


図 99 遠里小野環濠 位置図 (S=1/5,000、背景地図は大阪市地形図を使用)

〔No.31〕遠里小野環濠

所在地 大阪市住吉区遠里小野 位置 東経 135.4947 北緯 34.6001  
立地 台地縁辺部 標高 4～7.5m 比高 不明 城域 330m × 260m  
時期 中世？～近世（環濠集落）

## 【城館の概要】

遠里小野環濠は大阪市住吉区遠里小野に所在したとされる。中西裕樹氏は環濠集落の年代を示す資料を欠くとしたうえで、構造から戦国期の構築と推定している（中西 2015）。

### 【参考文献】

中井（監）2018、平凡社地方資料センター（編）1986、中西 2015

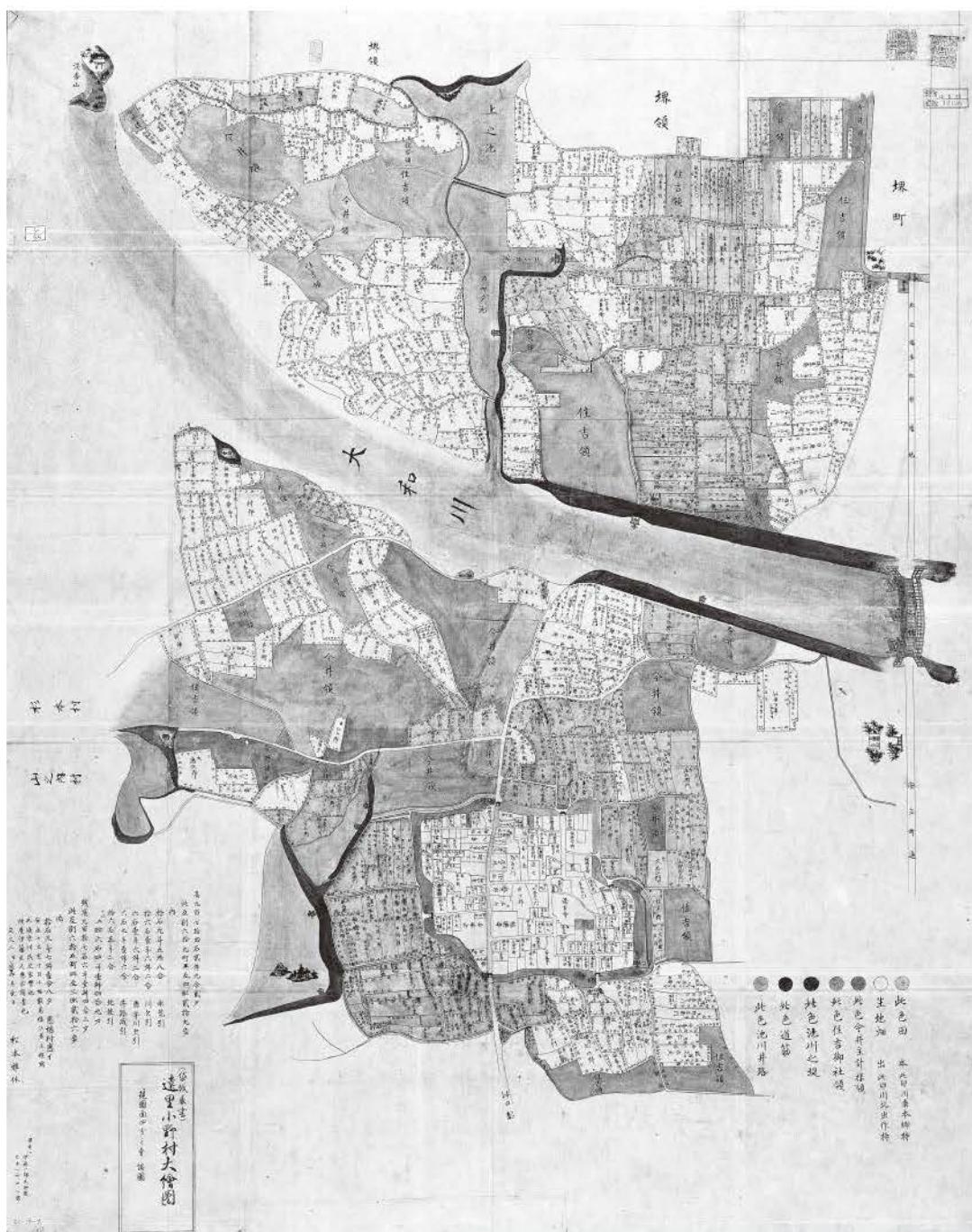


図 100 遠里小野村大絵図（安永 7 年（1778））  
(堺市立図書館所蔵)

## 【豊中市域】

### 〔No.32〕原田城（北城）

所在地 豊中市曾根西町4丁目 位置 東経 135.463024 北緯 34.773197  
立地 丘陵 標高 12m 比高 7m 城域 120m × 235m 時期 鎌倉期～戦国期

### 【城館の概要】

原田城（北城）は、豊中市曾根西町4丁目に所在する丘城である。国人原田氏の居城として築城されたと伝わる。築城時期は不詳であるものの、天文10年（1541）に木沢長政が原田城を攻撃したとする記述があり（『足利季世記』）、豊中市による発掘調査では13世紀末に遡る遺構・遺物が確認されている。城主も不詳であるが、『摂津誌』では三好日向守としている。

遺構は、平坦地、土塁、堀、礎石建物跡等が確認されている。また、周辺地区の発掘調査においても堀跡の一部が検出されており、丘陵上に土塁を巡らせる主郭を置き、三重程度の堀を周囲に巡らせた縄張りであったものと評価されている。

昭和62年（1987）9月1日に土塁および主郭の一部が市指定史跡に指定され、現在は旧羽室家住宅（登録文化財）とともに公開されている。

### 【主な調査歴】

平成7（1995）年 豊中市教育委員会（豊中市教育委員会 1996）

平成16（2004）年 豊中市教育委員会（豊中市教育委員会 2005）

### 【主な出土遺物】

陶磁器、瓦質土器、土師器

### 【関連地名】

城の内、二ノ丸

### 【史料】

『足利季世記』、『信長公記』

### 【参考文献】

豊中市教育委員会 1996・2005

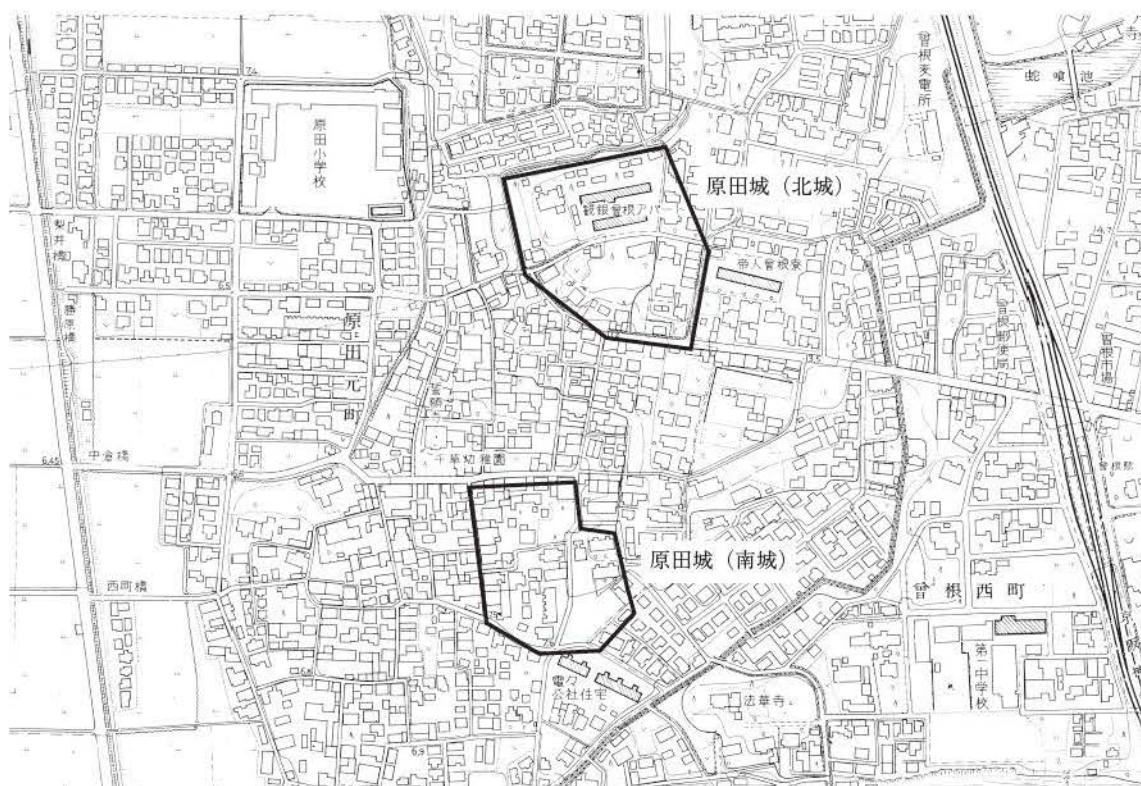


図 101 原田城（北城）・原田城（南城） 位置図 (S=1/5,000)

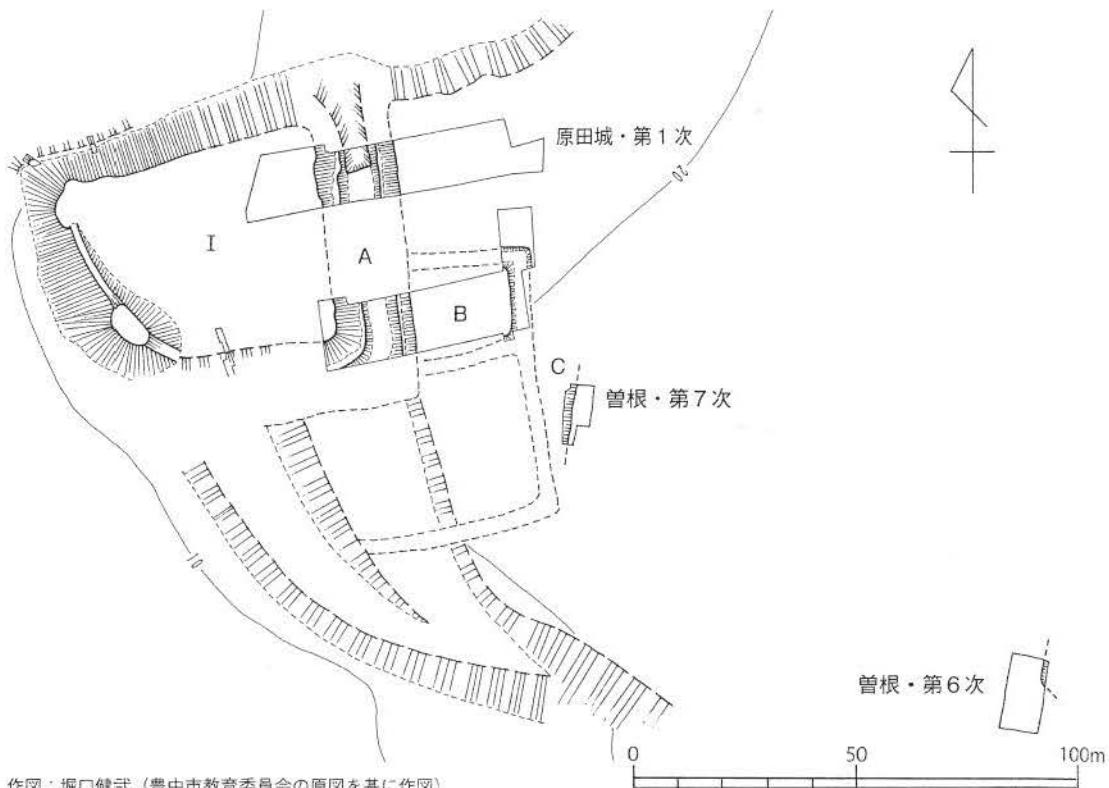


図 102 原田城（北城） 繩張図（中井（監） 2014 より転載）

### 〔No.33〕原田城（南城）

所在地 豊中市原田元町2丁目 位置 東経 135.463073 北緯 34.770641  
立地 丘陵 標高 7.5m 比高 0m 城域 130m × 100m 時期 鎌倉期～戦国期

#### 【城館の概要】

原田城（南城）は、豊中市原田元町2丁目に所在する平城。原田城（北城）の南西約300mにあり、『摂陽群談』には、原田帶刀による築城と伝わる。なお、天正6年（1578）の織田信長による荒木村重討伐に際して、原田郷にも砦が築かれたとする記述があり、これを原田城（南城）に想定する見解もある。

遺構は、内堀、外堀が確認されている。また、発掘調査では13世紀代に遡る区画溝状の遺構が確認されており、前身となる屋敷地が存在した可能性がある。

#### 【主な調査歴】

- 平成11（1999）年 豊中市教育委員会（豊中市教育委員会 2000）
- 平成12（2000）年 豊中市教育委員会（豊中市教育委員会 2001）
- 平成18（2006）年 豊中市教育委員会（豊中市教育委員会 2007）

#### 【主な出土遺物】

土師器、瓦器碗、瓦質羽釜

#### 【関連地名】

本陣山、城ヶ前

#### 【史料】

『足利季世記』、『信長公記』

#### 【参考文献】

豊中市教育委員会 2000・2001・2007

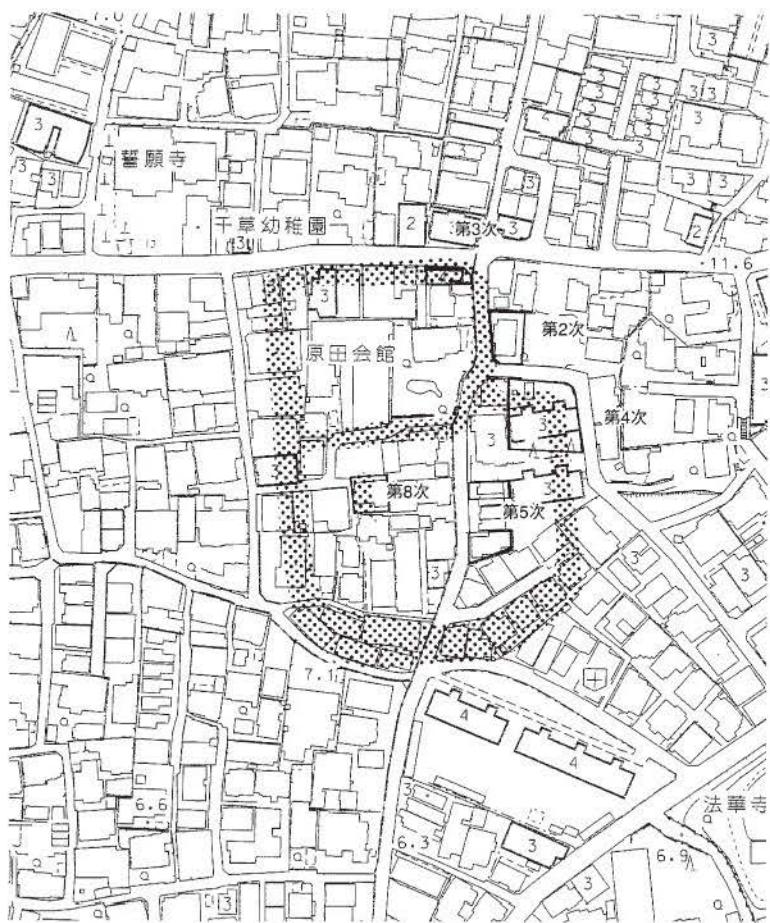


図 103 原田城（南城） 城域復元図（豊中市教育委員会 2007 より転載）



図 104 原田城（南城） 堀跡検出状況（豊中市教育委員会 2007 より転載）

### (No.34) 今西氏屋敷

所在地 豊中市浜1丁目 位置 東経 135.481167 北緯 34.761665  
立地 平地 標高 3m 比高 7m 城域 100m × 100m 時期 鎌倉期～戦国期

#### 【城館の概要】

今西氏屋敷は、豊中市浜1丁目に所在する居館である。今西氏は、奈良春日社領の荘園である垂水西牧南郷の社家目代として、現地において荘園経営・管理を担った荘官である。

遺構は、土塁、堀、溝、掘立柱建物、礎石建物等が確認されている。

今西氏屋敷は、中世以降近世・近代にいたるまで数百年にわたり継続してきたものであり、中世以降の豊富な文書を合わせて、中世の荘官屋敷の実態を知るうえで欠くことができない遺跡として、国史跡に指定されている。

#### 【主な調査歴】

平成4年 豊中市教育委員会（豊中市教育委員会 2005）  
平成6年 豊中市教育委員会（豊中市教育委員会 2005）  
平成8年 豊中市教育委員会（豊中市教育委員会 2005）  
平成9年 豊中市教育委員会（豊中市教育委員会 2005）  
平成13年 豊中市教育委員会（豊中市教育委員会 2005）  
平成17年 豊中市教育委員会（豊中市教育委員会 2005）ほか

#### 【主な出土遺物】

瓦器椀、瓦、備前焼、東播系須恵器、青白磁小壺、京都系土師器皿

#### 【関連地名】

なし

#### 【史料】

『康平記』、『中臣祐賢記』、『多田神社文書』、『今西家文書』、『和名類聚抄』、『勝尾寺文書』、『摂津名所図会』、『五畿内志』、『大東家文書』

#### 【参考文献】

田沼1966、西垣1966、福留1998、豊中市教育委員会2005・2008

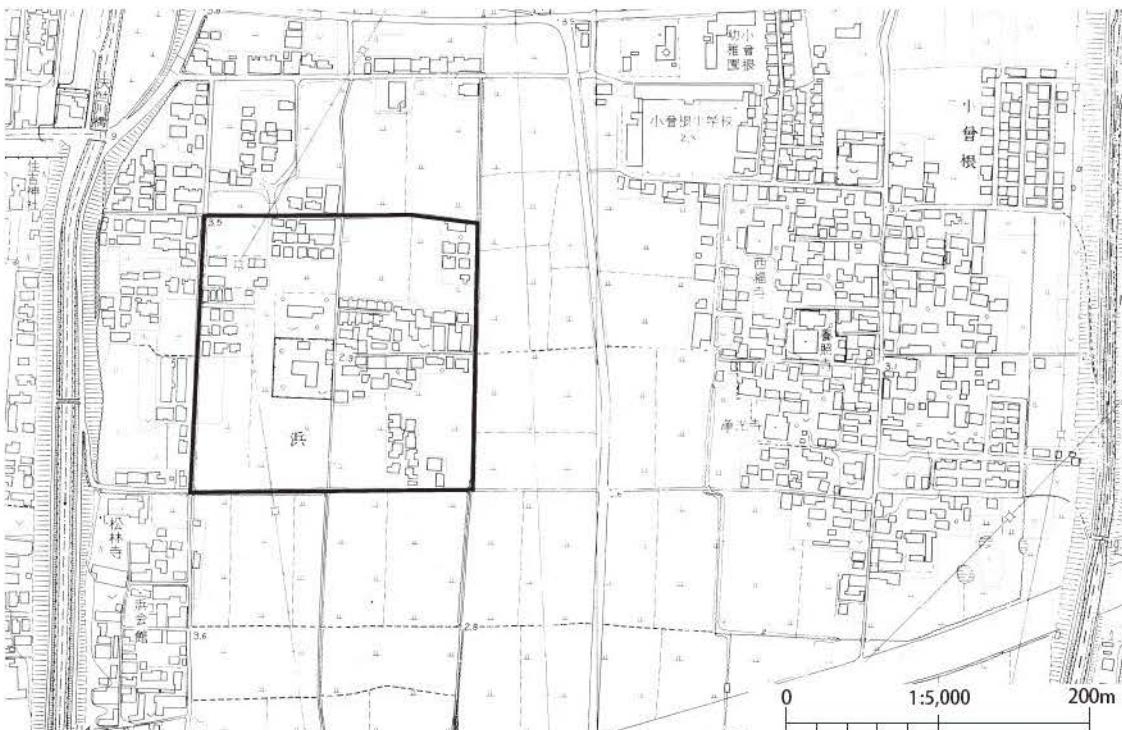


図105 今西氏屋敷 位置図 (S=1/5,000)

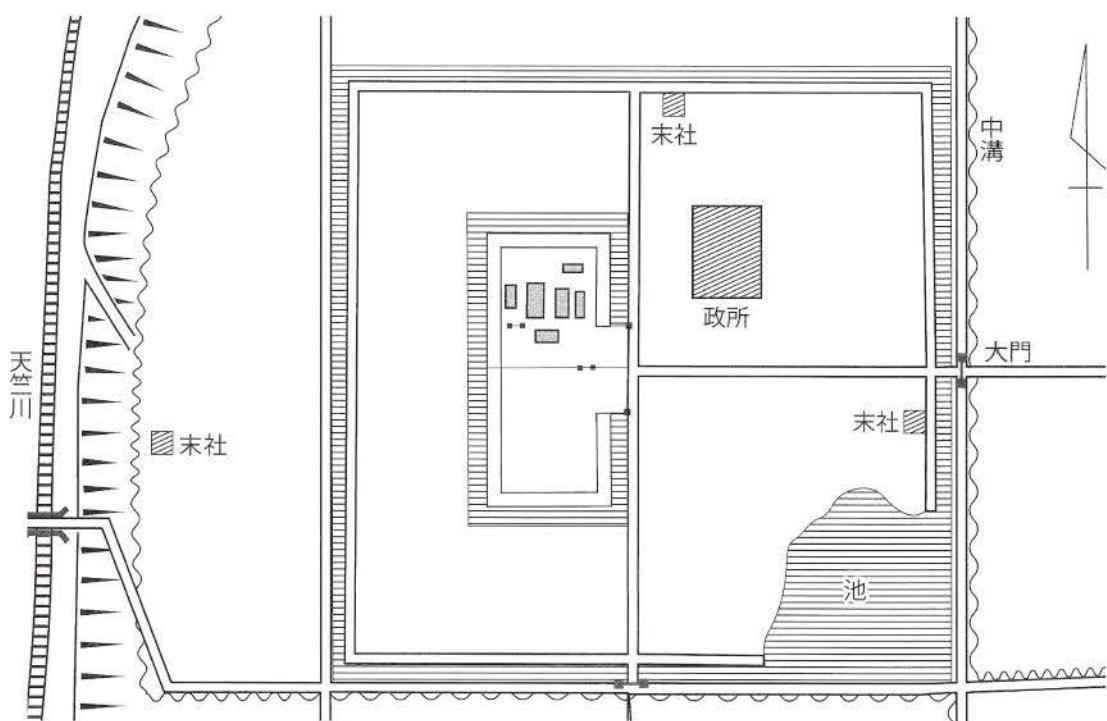


図 106 今西氏屋敷 全体図（豊中市教育委員会 2008 より転載、原図は豊中市 1961）

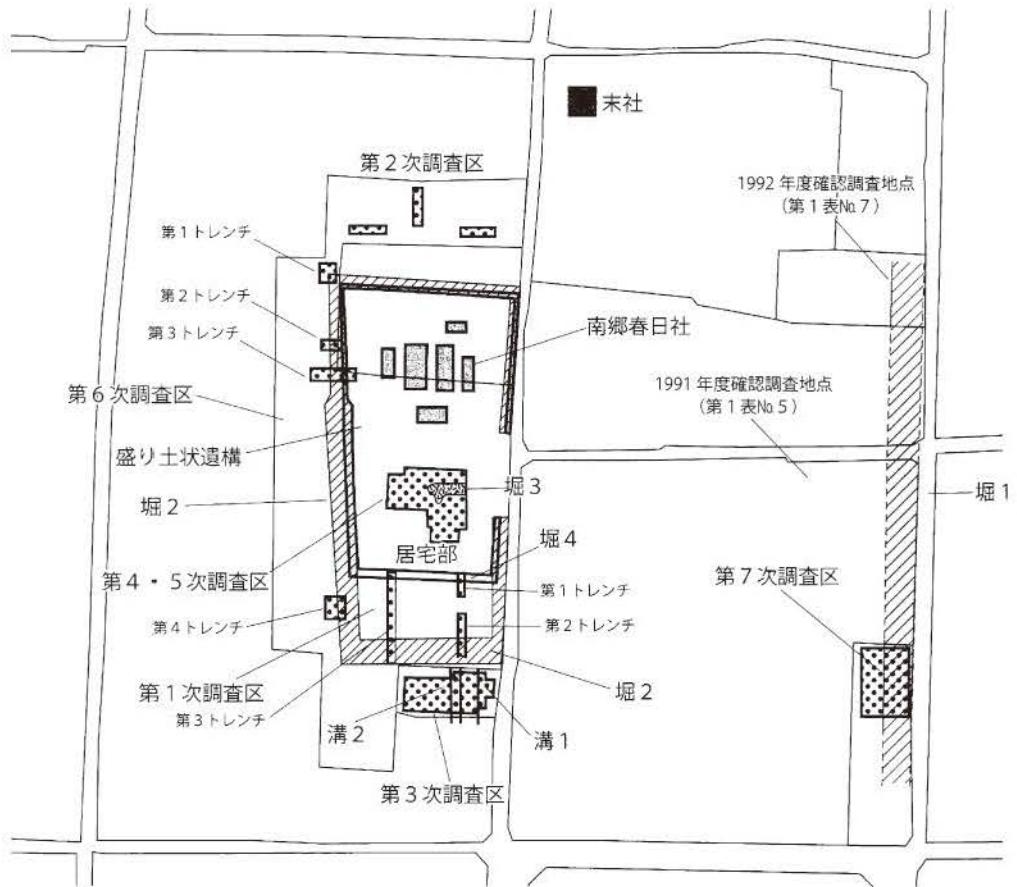


図 107 今西氏屋敷 主要発掘調査区・遺構配置図（豊中市教育委員会 2008 より転載）

## 【池田市域】

### 〔No.42〕 池田城

所在地 池田市城山町 140 - 1 · 3、2100 - 1 他 位置 東経 135.4284 北緯 36.8271

立地 山裾 標高 54.0m 比高 27.3m 城域 450m × 550m

時期 建武 3 年 (1336) ~ 天正 6 年 (1578)

### 【城館の概要】

池田城は、池田市城山町に所在する山城。存続期間は建武 3 年 (1336) から天正 6 年 (1578) であり、城主は池田充正、貞正、正盛、正棟、久宗、信正、長正、勝正、知正。主郭部で礎石建物跡、塹列建物跡、虎口、石列の排水溝、土壘跡や、最終段階の空堀等を検出している。また主郭部の周辺では、空堀（一部石列を確認）、掘立柱建物跡、杭列、土器溜まりなどを検出している。遺物としては土師器皿、瓦、陶磁器、古銭、硯、鉄砲玉などが出土している。

### 【おもな調査歴】

表 14 ~ 16 に掲載

### 【関連地名】

現地名：城山町、城南／昭和 19 年以前字名：城ノ口、弓場、前垣内、堀

### 【史料】

- ①『中西八百樹家所蔵摂津国御家人芥河氏文書』(建武 3 年 (1336)) : 「摂津国御家人芥河一族岡八郎国茂申 (中略) 九月三日可奉賀子宮内卿御手之由、自國大將被仰出問、於池田城送數日、致夜詰等軍節了」(後略)との記述がある。
- ②『大乘院尋尊大僧正記』:
  - ・文明元年 (1469) : 「摂津池田城一昨日没落、大内方より責落ち了んぬ。」
  - ・文明 19 年 (1487) : 「池田庭倉以下拝見之、驚目者也」
- ③『細川両家記 群書類従』:
  - ・永正 16 年 (1519) : 「摂津池田筑後守は澄元方をして我城に楯籠也」(当時の城主は池田貞正)
  - ・永正 16 年 (1519) : 「池田久宗、池田城奪還」
  - ・享禄 4 年 (1531) : 「3 月 6 日に池田城へ取懸則其日攻落す」
  - ・天文元年 (1532) : 「五日摂州一揆おこり池田城へ取懸責るといへども」
  - ・天文 15 年 (1546) : 「則その日池田へ取懸。西の口より一番に三好加助入る、」(当時の城主は池田信正)
  - ・天文 17 年 (1548) : 「宗三多田衆引催候て、池田市庭放火する也。」(当時の城主は池田長正)
- ④『永祿記 群書類従』(永祿 16 年 (1568)) : 「大軍を以て外構放火せられ。即池田降参。」との記述がある。当時の城主は池田勝正。
- ⑤『元亀二年記 大日本史料』(元亀 2 年 (1571)) : 「池田表相動押詰放火云々、相城原田表ニ

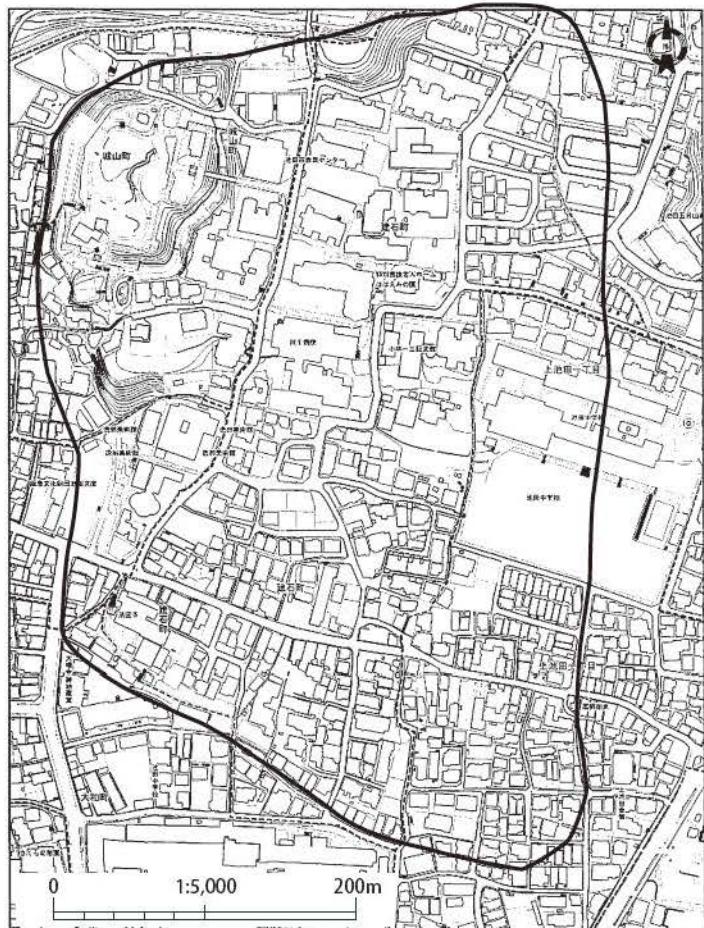
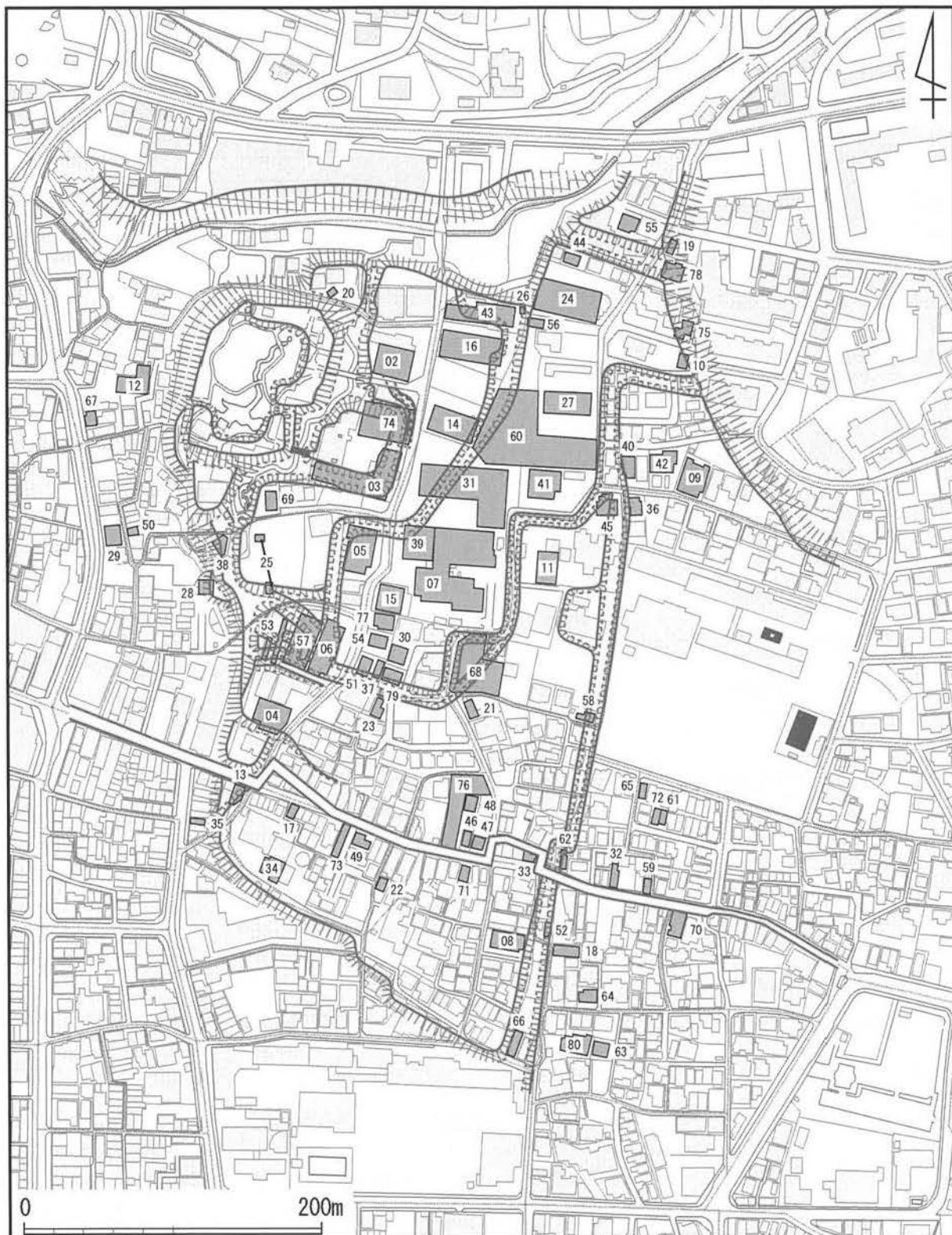


図 108 池田城 位置図 (S=1/5,000)

付ラレ、池田筑後入城、」との記述がある。当時の城主は池田勝正。

- ⑥『穴織宮拾要記末』(伊居太神社蔵、天正2年(1574))：「荒木摂津守池田城たたみ伊丹へ引候後」との記述がある。
- ⑦『中書家久公御上京日記 神道体系』(天正3年(1575))：「亦左方ニ池田といへる城有、今はわりて捨てられ候」との記述がある。
- ⑧『信長公記』(太田牛一(作)／天正6年(1578))：「古池田」との記述がある。



【参考文献】

池田市史編纂委員会（編）1997

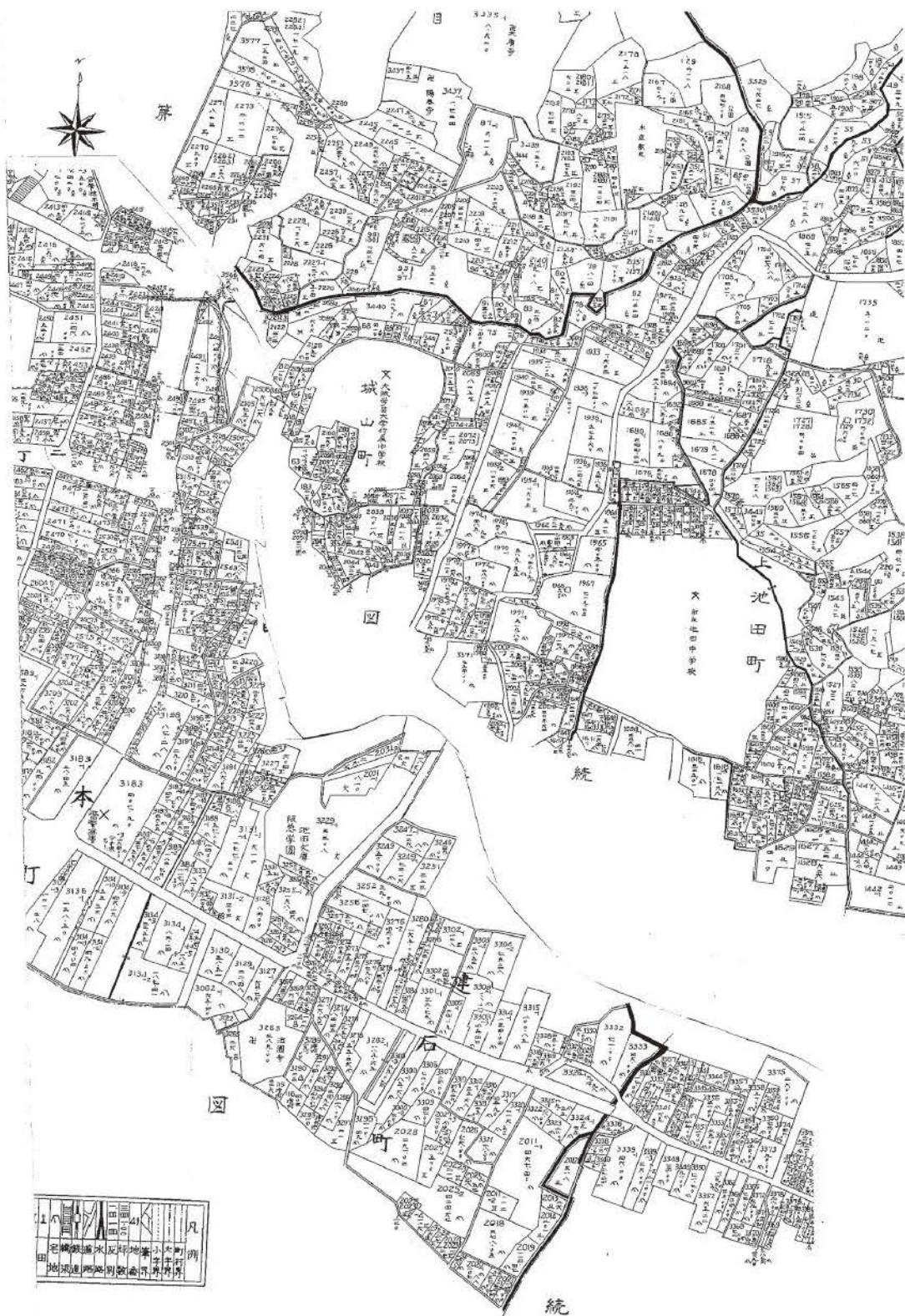


図 110 池田城 小字図

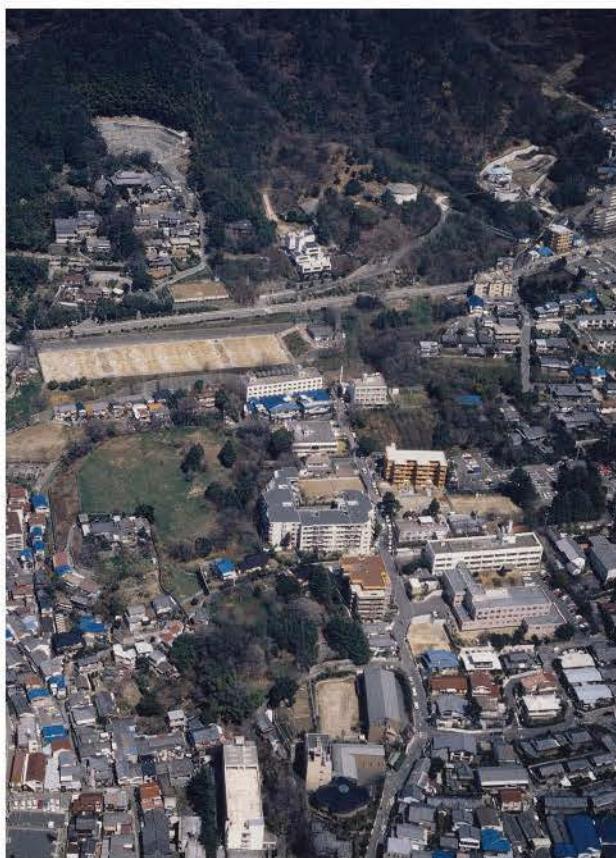


図 111 池田城 航空写真（南から）



図 112 池田城 近景（南から）

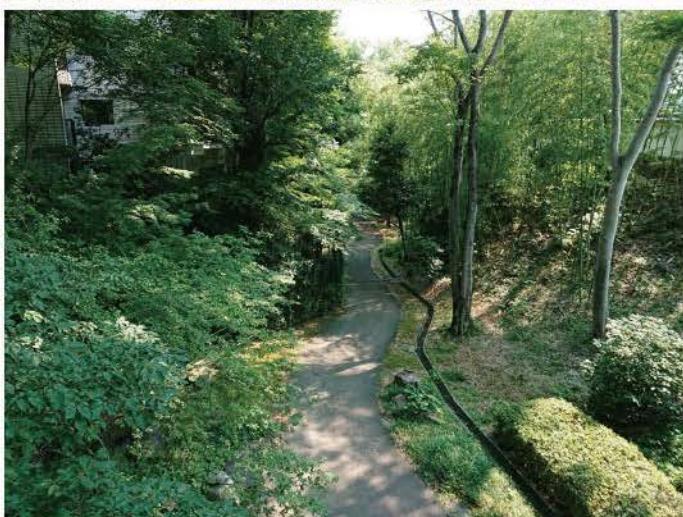


図 113 池田城 近景（北から）

表 14 池田城主要発掘調査一覧（1）

番号	調査名	調査地	開始	終了	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因	遺物	遺構	報告書名 (※)
1	第14次調査	建石町 1942-1	1986/9/29	1986/11/15	310	共同住宅		堀跡、建物跡	-
2	第15次調査	栄本町 3133	1986/8/25	1986/9/4	30	個人住宅		建物跡、焼土面	1986年度
3	第16次調査	建石町 1939	1988/5/10	1988/6/10	300	共同住宅		堀跡、建物跡	-
4	第17次調査	建石町 3270	1988/5/25	1988/6/2	30	個人住宅		建物跡	1988年度
5	第18次調査	上池田 1-397-1	1988/9/8	1988/9/17	32	個人住宅		曲輪跡	1988年度
6	第19次調査	五月丘 2-38-2	1989/1/9	1989/1/24	10	個人住宅		谷の跡	1988年度
7	主郭部 第1次	城山町 140	1989/11/15	1990/2/26	300	公園整備	土師器、陶磁器	庭園、土壘跡、建物跡	池田市教委 1994
8	第20次調査	城山町 3441	1990/9/4	1990/9/7	8	個人住宅		建物跡	1994
9	第21次調査	建石町 2002-3	1990/11/26	1990/12/3	55	共同住宅		土器溜り	-
10	第22次調査	建石町 3300-1	1991/1/18	1991/1/19	12	個人住宅		ゴミ穴	1990年度
11	主郭部 第2次	城山町 140	1990/8/2	1991/2/13	800	公園整備	土師器、陶磁器、瓦	虎口跡、排水溝、建物跡	池田市教委 1994
12	第23次調査	建石町 3246-1	1991/5/10	1991/5/17	10	個人住宅	土師器皿、磁器、弥生土器	堀跡	1991年度
13	第24次調査	建石町 1932-1	1991/5/26	1991/10/3	800	共同住宅		整地面、弥生堅穴住居	-
14	第25次調査	城山町 2036	1992/1/6	1992/1/7	8	遺跡事前 総合発掘 調査		焼土面・建物跡	池田市教委 1992
15	第26次調査	建石町 1934	1992/1/9	1992/1/10	3	遺跡事前 総合発掘 調査		堀跡	池田市教委 1992
16	主郭部第3次	城山町 140	1991/7/23	1992/1/30	1,200	公園整備	土師器、陶磁器、瓦	建物跡、堀跡	池田市教委 1994
17	第27次調査	建石町 1936-1	1992/7/13	1992/8/7	100	個人住宅	土師器皿	杭列	1992年度
18	主郭部第4次	城山町 2100-1	1992/4/28	1992/6/30	150	公園整備	埴、土師器、陶磁器	埴列建物跡、土壘跡	池田市教委 1994
19	第28次調査	城山町 2047	1993/10/5	1993/10/28	18	共同住宅		曲輪跡	1993年度
20	第29次調査	城山町 2-8	1994/10/11	1994/10/21	10	個人住宅		焼土層	1994年度
21	第30次調査	建石町 1978-8	1994/12/13	1994/12/26	42	個人住宅	弥生土器	井戸・柱穴	1994年度
22	第31次調査	建石町 1952-2	1995/4/10	1995/6/30	1,000	病院	土師器皿、弥生土器	堀、杭列、建物跡	-
23	第32次調査	上池田 1-3347	1995/7/7	1995/7/18	8	災害復旧	弥生土器	柱穴	1995年度
24	第33次調査	建石町 3326-5	1995/7/24	1995/8/11	14	災害復旧		整地層・堀	1995年度
25	第34次調査	建石町 3263-1	1996/1/8	1996/1/12	20	災害復旧		柱穴	1995年度
26	第35次調査	栄本町 3063-1	1996/10/7	1996/10/9	4	個人住宅		整地層	1996年度
27	第36次調査	上池田 1-1547-18	1997/4/17	1997/4/25	13	個人住宅		堀跡	1997年度
28	第37次調査	建石町 1978-10	1997/6/3	1997/6/13	6	個人住宅		堀跡、柱穴	1997年度
29	第38次調査	城山町 3603-2	1998/1/12	1998/1/20	8	個人住宅		平坦地	1997年度

表 15 池田城主要発掘調査一覧（2）

番号	調査名	調査地	開始	終了	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因	遺物	遺構	報告書名 (※)
30	第39次調査	建石町 1970-1他	1998/11/4	1998/12/1	140	病院	土師器皿、 陶器	堀跡	-
31	第40次調査	建石町 1575-5	1999/6/14	1999/6/17	6	個人住宅		整地層	1999年度
32	第41次調査	建石町 1954-2	2000/2/28	2000/3/3	6	個人住宅		堀跡	1999年度
33	第42次調査	建石町 1575-39	2001/12/11	2001/12/19	10	個人住宅		堀跡	2000年度
34	第43次調査	建石町 1934-1他	2003/4/15	2003/5/24		共同住宅		堀跡	-
35	第44次調査	建石町 1574-39・ 1931-3	2003/4/15	2003/4/18		個人住宅		整地層	2002年度
36	第45次調査	建石町 3315-3	2004/6/25	2004/7/2	4	建壳住宅			2003年度
37	第46次調査	建石町 3315-3	2004/7/29	2004/8/1	10	個人住宅			2003年度
38	第47次調査	建石町 1964-1	2004/9/1	2004/9/5	6	共同住宅		堀跡	-
39	第48次調査	建石町 3315-1	2004/10/8	2004/10/23	6	個人住宅			2003年度
40	第49次調査	建石町 22- 11	2005/1/13	2005/1/15	2	個人住宅			2003年度
41	第50次調査	城山町 3217-1	2005/2/23	2005/2/24	2	個人住宅			2004年度
42	第51次調査	建石町 1978-6	2005/6/3	2005/6/17	6	個人住宅		堀跡	2005年度
43	第52次調査	建石町 2012-2	2005/12/5	2005/12/16	6	個人住宅		堀跡	2006年度
44	第53次調査	栄本町 2031-1	2006/3/30	2006/4/12	52	図書館	土師器皿	堀跡	-
45	第54次調査	建石町 1978-5	2006/5/30	2006/6/6	6	個人住宅	土師器皿		2006年度
46	第55次調査	建石町 1928-1	2006/6/27	2006/6/30	3	個人住宅			2006年度
47	第56次調査	建石町 1936-3	2007/4/17	2007/4/20	8	共同住宅		柱穴	2007年度
48	第57次調査	栄本町 2031-5・7	2007/6/20	2007/9/10	480	美術館	土師器皿・ 陶磁器・ 瓦他	堀跡・土器溜 り	-
49	第57次・2 調査	栄本町 2031-5・7	2008/1/22	2008/1/31	40	遺構確認 調査	土師器皿	堀跡	2008年度
50	第58次調査	建石町 1998-3	2008/2/7		5	建壳住宅			2008年度
51	第59次調査	上池田 1-3354	2008/9/17	2008/9/18	30	個人住宅			2008年度
52	第60次調査	建石町 1936-2他	2008/10/20	2008/10/22	30	共同住宅	土師器皿・ 瓦器碗		2008年度
53	第61次調査	上池田 1-1638-14	2008/11/10		3	個人住宅			2008年度
54	第62次調査	上池田 1-3335-3・ 4	2009/5/21		24	個人住宅	土師器皿		2009年度
55	第63次調査	上池田 1-406	2009/12/21		9	共同住宅			2009年度
56	第64次調査	上池田 1-396-2	2010/5/20	2010/5/21	16	個人住宅	土師器皿	柱穴	2010年度
57	第65次調査	上池田 1638-4	2010/8/4		8	個人住宅	土師器皿・ 土師器		2010年度
58	第66次調査	建石町 2021-2	2010/9/9		16	個人住宅	土師器皿	水路	2010年度
59	第67次調査	城山町 2536	2011/2/7		2	建壳住宅	土師器皿		2010年度

表16 池田城主要発掘調査一覧（3）

番号	調査名	調査地	開始	終了	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因	遺物	遺構	報告書名 (※)
60	第68次調査	建石町 1991-1他	2011/4/4	2011/4/19	80	宅地開発	土師器皿・瓦	石列・堀跡	-
61	第68次-2 調査	建石町 1991-1他	2011/6/2		3	遺構確認 調査	土師器皿	柱穴・堀	2011年度
62	第69次調査	城山町 2057-2	2011/5/13	2011/5/19	16	個人住宅	備前丹波 櫛鉢・土 師器皿・ 弥生土器	堀跡	2011年度
63	第70次調査	上池田 1-3336-1	2011/10/5		6	個人住宅	土師器皿	堀跡	2011年度
64	第71次調査	建石町 3317-1	2012/1/12		6	個人住宅	土師器皿	堀跡	2011年度
65	第72次調査	上池田 1-1638-13	2012/7/31		6	個人住宅			2012年度
66	第73次調査	建石町 3278-1	2013/2/20		12	個人住宅			2012年度
67	第74次調査	城山町 2063-1	2014/4/14	2014/6/6	600	共同住宅	土師器皿・ 陶磁器	堀跡・土器溜 り	-
68	第75次調査	建石町 34-1	2014/4/25		12	建壳住宅			2014年度
69	第76次調査	建石町 1985-1・ 3314-1	2014/10/28	2014/11/4	78	共同住宅	弥生土器・ 瓦器・土 師器皿		2014年度
70	第77次調査	建石町 1978-4	2014/12/10		3	共同住宅			2014年度
71	第77次-2 調査	建石町 1978-4	2015/4/7		3	共同住宅			2015年度
72	第78次調査	五月丘 2-38-1	2016/8/22		4	共同住宅			2016年度
73	第79次調査	建石町 1978-72	2017/8/22		6	個人住宅			2017年度
74	第80次調査	上池田 1-398-1	2017/10/18		8	個人住宅			2017年度
75	第81次調査	上池田 1-401-1	2018/6/6		3	個人住宅			2018年度
76	第82次調査	五月丘 2-1678-1	2019/9/25		4	共同住宅			2019年度
77	第83次調査	建石町 2018の一部	2020/12/9		3	店舗			2020年度

※年度のみ記載したものは『池田市埋蔵文化財発掘調査概報』。

## 【吹田市域】

### 〔No.48〕吹田城推定地（石浦城）

所在地 吹田市高城町 位置 東経 135.5302 北緯 34.7611  
立地 平地 標高 3.9 m 比高 0 m 城域 不明 時期 室町期～江戸期

### 【城館の概要】

吹田城推定地（石浦城）は、吹田市高城町に所在するとされる平城。『東摂城址図誌』などの史料によると、吹田城は永享年間（1429～41）に存続し、城主は吹田河内守重通とされている。『東摂城址図誌』には字城ヶ前に接する地に吹田城址があったという伝承について記されている。『吹田市史』の付図では、字「城ヶ前」を吹田城推定地としている。

吹田城の位置は明らかになっておらず、二説がある。一つは、『崇禪寺文書』の「中嶋崇禪寺寺領目録」に記されている「石浦城」を吹田城と見なすもので、吹田城推定地と呼ばれる。もう一つは同史料の「西庄城」を吹田城に比定するものである。

### 【主な調査歴】

平成元年度（1989）吹田市教育委員会  
平成8年度（1996）吹田市教育委員会  
平成23年度（2011）吹田市教育委員会

### 【主な出土遺物】

なし

### 【関連地名】

城ヶ前



図 114 『東摂城址図誌』より「吹田城跡」  
(大阪府立中之島図書館 所蔵)

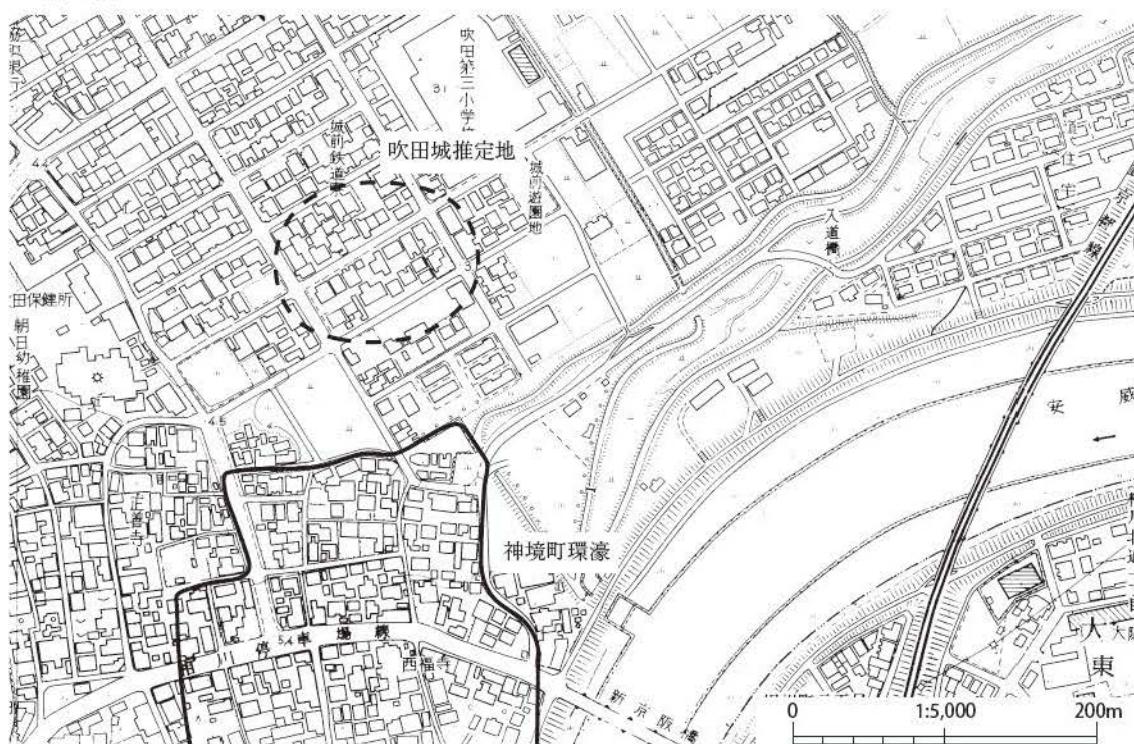


図 115 吹田城推定地 位置図 (S=1/5,000)



図 116 吹田城推定地 大字・小字図（吹田市史編さん委員会（編）1974 より転載）

#### 【史料】

『崇禪寺文書』、『吉川家文書』、『東摶城址図誌』、『日本輿地通志畿内部卷五十四』

#### 【参考文献】

角川日本地名大辞典編纂委員会 1983、吹田市教育委員会 1997・1999・2012、吹田市教育委員会（編）2012、吹田市史編さん委員会（編）1974、吹田市立博物館（編）2008、田代・渡辺・石田（編） 1981、平凡社地方資料センター（編）1986、亘 1976

#### 〔No.49〕吹田城（西庄城）

所在地	吹田市西の庄町	位置	東経 135.5583	北緯 34.8694	
立地	丘陵	標高	9.8 m	比高	4 m
				城域	不明
				時期	室町期～江戸期

#### 【城館の概要】

吹田城（西の庄城）は吹田市西の庄町に所在するとされる丘城。吹田城の築造時期及び城主、所在地については前項の吹田城推定地に記した通りである。地名として、「城ヶ脇」「城ヶ前」などが残っている。

#### 【主な調査歴】

なし

#### 【主な出土遺物】

なし

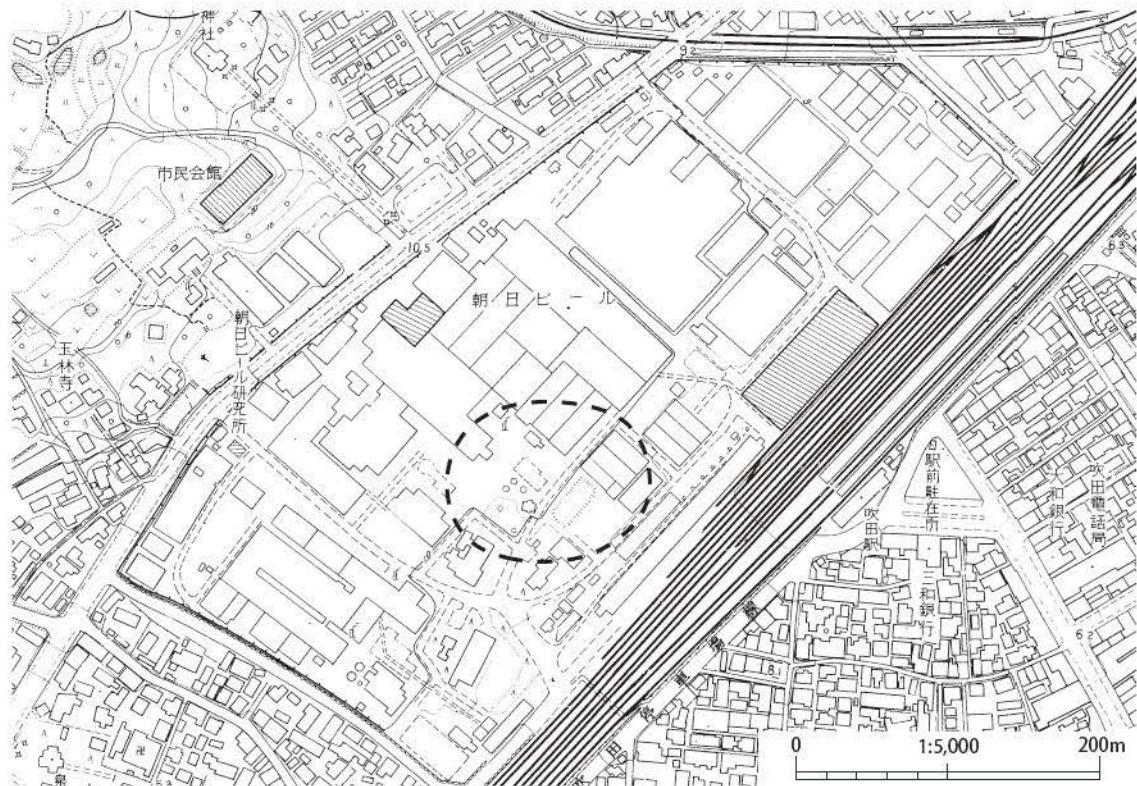


図 117 吹田城 位置図 (S=1/5,000)

#### 【関連地名】

城ヶ脇、城ヶ前

#### 【史料】

『崇禪寺文書』、『吉川家文書』、『日本輿地通志畿内部卷五十四』、『摂津志』

#### 【参考文献】

井上 1922、角川日本地名大辞典編纂委員会 1983、吹田市教育委員会（編）2012、吹田市史編さん委員会（編）1974、吹田市立博物館（編）2008、田代・渡辺・石田（編）1981、平凡社地方資料センター（編）1986、亘 1976

#### 〔No.50〕山田城

所在地 吹田市山田東2丁目 位置 不明  
立地 山地 標高 38.5 m 比高 17 m  
城域 270 × 145 m 時期 南北朝期～戦国期

#### 【城館の概要】

山田城は吹田山田東2丁目に所在すると推定される城館。築造時期は『大阪府全志』によると元弘年間（1331～34）に赤松則祐が築き、応仁年間（1467～69）には香西玄蕃が拠ったとされている。

#### 【主な調査歴】

なし

#### 【主な出土遺物】

なし

図 118 『東摂城址図誌』より「山田城跡」  
(大阪府立中之島図書館 所蔵)



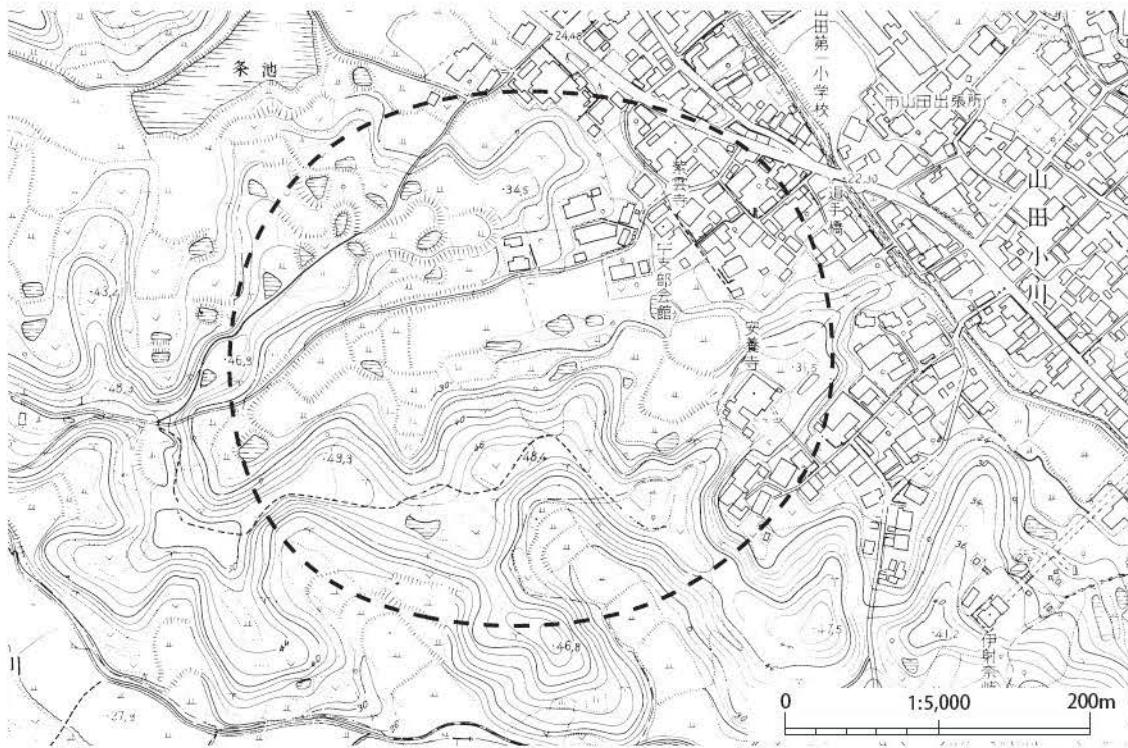


図 119 山田城 位置図 (S=1/5,000)

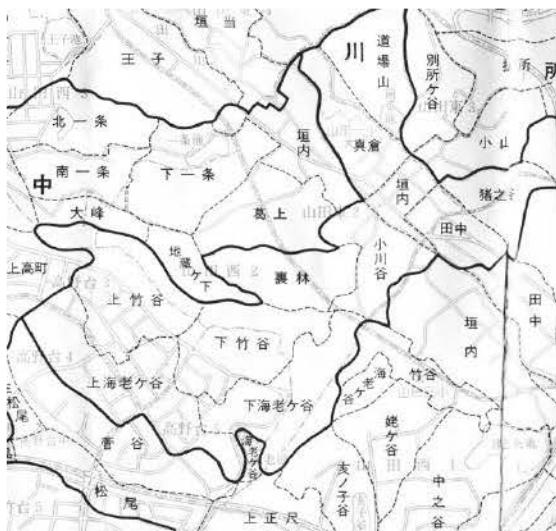


図 120 山田城周辺大字・小字図  
(吹田市史編さん委員会 1974 より転載)



図 121 神境町環濠 遠景

#### 【関連地名】

大手橋・櫓の前（大阪府全志）、古城・角矢（東摂城址図誌）

#### 【史料】

『東摂城址図誌』、『日本輿地通志畿内部卷五十四』、『摂津志』

#### 【参考文献】

田代・渡辺・石田（編） 1981、吹田市立博物館編 2008、井上 1922、平凡社地方資料センター（編） 1986

#### 〔No.52〕 佐井寺城

所在地 吹田市佐井寺

位置 不明

立地 不明

標高 不明

比高 不明

城域 不明

時期 中世

### 【城館の概要】

佐井寺城は、吹田市佐井寺に所在するとされる城館。『大阪府全志』では「山田兵庫頭の城址」とあるものの、所在地や築城時期等については不詳とされている。

### 【主な調査歴】

なし

### 【主な出土遺物】

なし

### 【関連地名】

なし

### 【史料】

なし

### 【参考文献】

井上 1922、田代・渡辺・石田（編）1981

### 〔No.53〕神境町環濠

所在地 吹田市南高浜町 位置 東経 135.5300 北緯 34.7586

立地 平地 標高 5.4 m 比高 0 m 城域 不明 時期 鎌倉期？～江戸期

### 【城館の概要】

神境町環濠は吹田市南高浜町に所在する寺内町である。築造時期については不明であるが、元和年間（1615～24）の『吹田村絵図』に「侍内」の記載がある。平成7年度（1995）に発掘調査を行っているが寺内町に関する遺構は確認されていない。

### 【主な調査歴】

平成7年度（1995）吹田市教育委員会

### 【主な出土遺物】

土師器皿、瓦質土器羽釜、備前焼擂鉢、青磁、宋銭等



図 122 神境町環濠 位置想定図 (S=1/5,000)

【関連地名】

神境町

【史料】

「吹田村絵図」（『橋本家文書』）

【参考文献】

金井 2006、吹田市史編さん委員会（編）1974、田代・渡辺・石田（編）1981、亘 1976

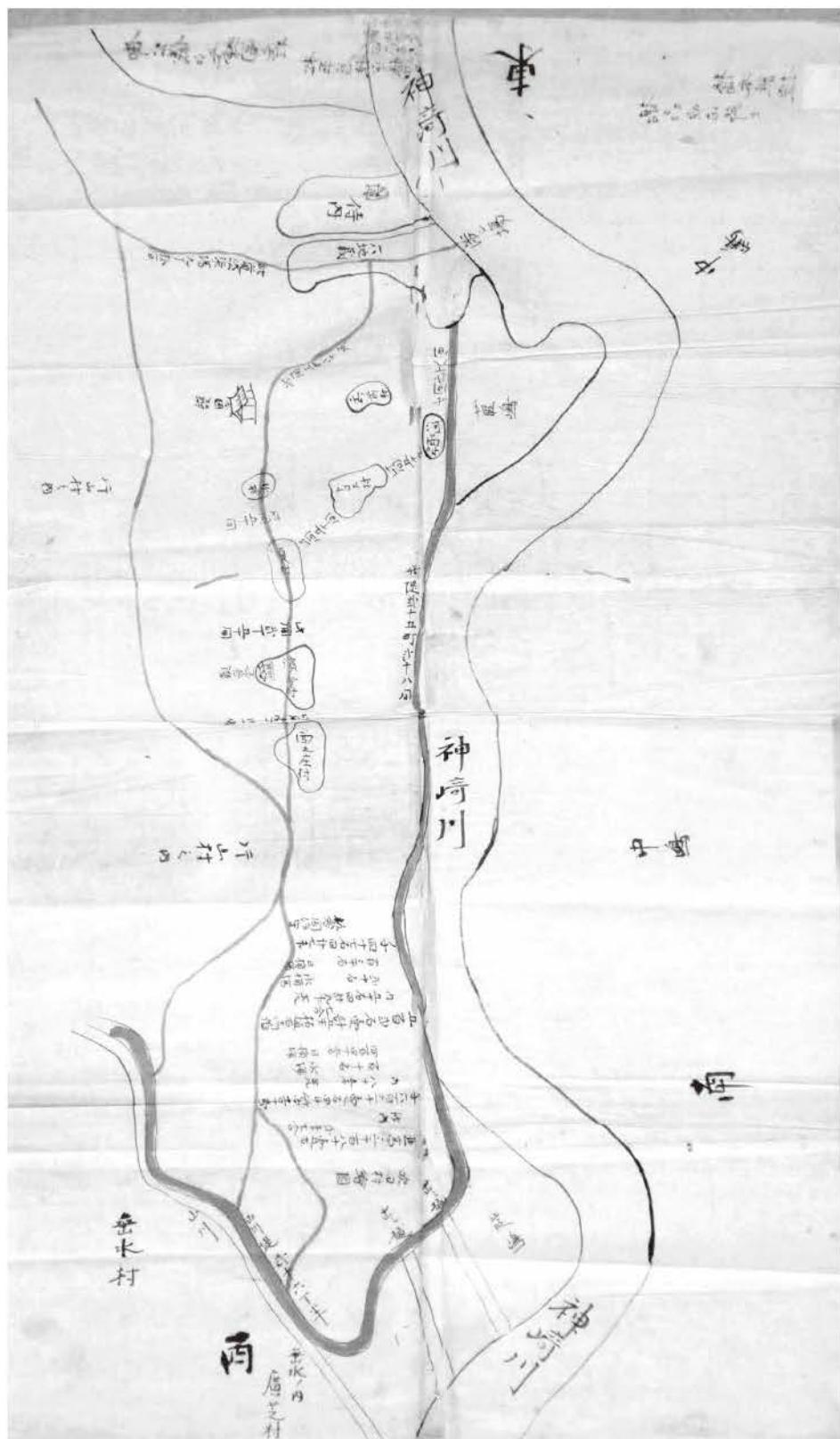


図 123 『橋本家文書』より「吹田村絵図」（個人蔵、吹田市立博物館保管）

## 【高槻市域】

### 〔No.55〕 芥川山城

所在地 高槻市原 位置 東経 135.5883 北緯 34.8811  
立地 山頂部 標高 182m 比高 110m 城域 500m × 400m 時期 16世紀

## 【城館の概要】

芥川山城は高槻市原に所在する山城で、築城時期は16世紀、城主は能勢氏、細川高国、細川晴元、三好長慶・義興。

芥川山城は標高182mの三好山に位置する。三好山は北摂山地と大阪平野が接する地点に所在し、北・西を芥川が流れ、三方を峡谷に囲まれた天然の要害にあたる。城はこの山全体を利用した東西500m、南北約400mの規模を測る大規模な山城である。

16世紀初頭の永正13年（1516）にはすでに築城されており、それには室町幕府管領で摂津国・丹波国守護の細川京兆家が関わっていた。天文22年（1553）には三好長慶が入城して永禄3年（1560）に飯盛城に移るまで居城とし、畿内近国支配の政庁としている。その後は長慶の嫡子・三好義興などを経て、永禄11年には足利義昭を擁した織田信長が上洛に先立って入城する。織田政権下では和田惟政らが入るが、平地の高槻城へ移行し当城は徐々に機能を停止したと考えられる。



図124 芥川山城 小字図

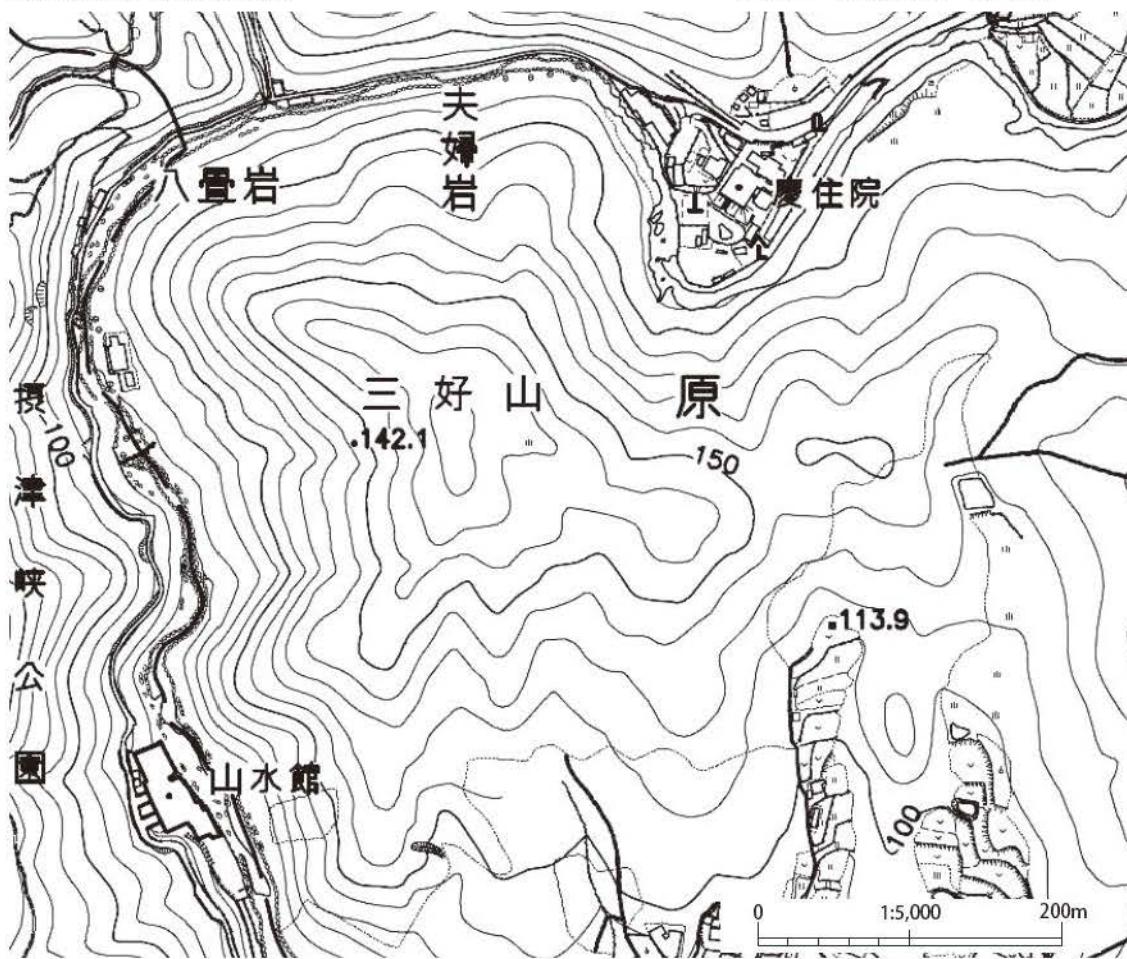


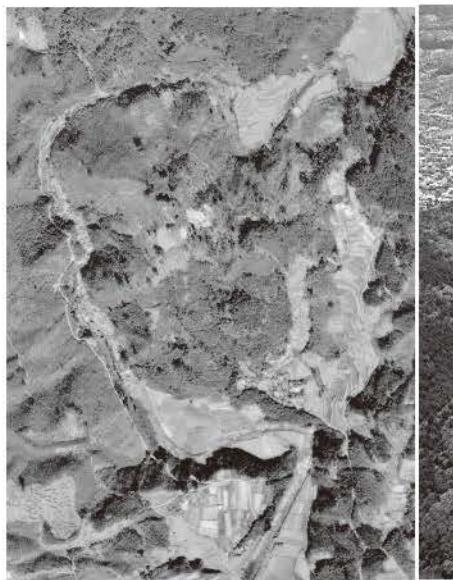
図125 芥川山城 位置図 (S=1/5,000)



図 126 芥川山城 遺構概要図（中井 1994 より転載）



図 127 芥川山城 赤色立体図



1948年撮影



北から撮影

図 128 芥川山城 航空写真

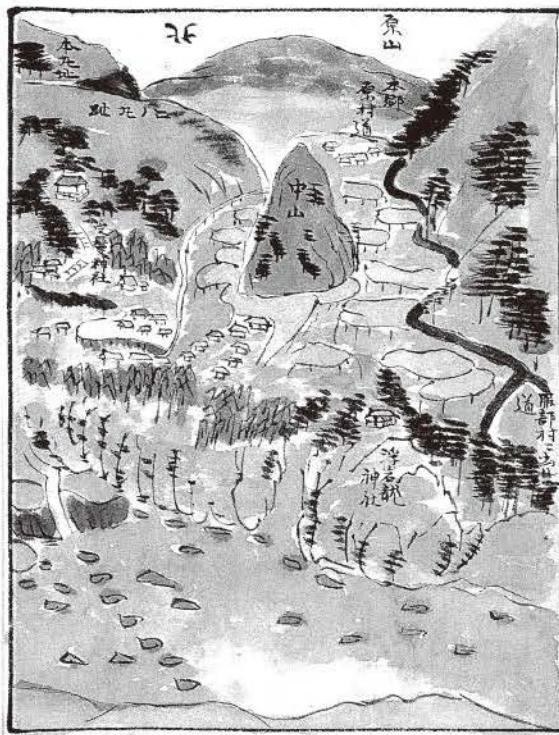
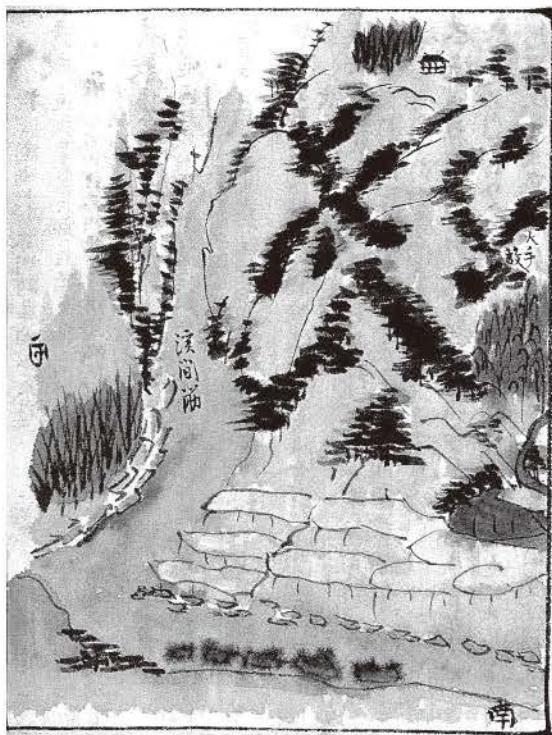


図 129 「東摶城址図誌」より「原城址」(大阪府立中之島図書館 所蔵)



図 130 芥川山城 大手石垣



図 131 芥川山城 曲輪⑯石垣



図 132 芥川山城 曲輪①礎石建物（西から）

城内には無数の曲輪が、西・中央・東に分かれて広がり、石垣・堀切・竪土塁・土塁・土橋などが良好に残っている。また、平成5年（1993）から令和2年（2020）にかけて断続的に行われた発掘調査によって、山頂の主郭周辺では焼土の上に建てられた大型の礎石建物や埠列建物の存在が明らかになっている。

#### 【主な調査歴】

平成5・6・28・29・30年度、令和2年度

#### 【主な出土遺物】

陶磁器、瓦、埠ほか

#### 【関連地名】

「城山」

#### 【参考文献】

田代・渡辺・石田（編）1981、高槻市2019・2021a・2021b、高槻市教育委員会1994a・1995・1996・2017・2018、中西2015、藤岡・桜井（編）1960

#### 〔No.56〕秀吉本陣

所在地 高槻市芥川町1丁目・天神町1丁目・白梅町 位置 東経 135.6177 北緯 34.8581

立地 平野部・丘陵先端部 標高 12m 比高 0m 城域 150m × 400m

時期 16世紀

#### 【城館の概要】

秀吉本陣は、高槻市芥川町1丁目・天神町1丁目・白梅町に所在するとされる平山城。築城時期は16世紀と伝わる。

旧西国街道の上の「天神馬場」として史料上に頻出し、天正10年（1582）の山崎合戦に際して、西国街道を上京する羽柴秀吉は当地に布陣している。これ以外にも西国街道を行きかう軍勢の通過点・陣所となったことが推定されるが、遺構については不明である。『日本城郭全集』では「天神山砦」として記載し、天正6年（1578）に高山右近の籠る高槻城を攻めた織田信長が天神馬場に布陣し「高槻へ差向天神山」に砦を構えたという『信長公記』の記述から、北方の天神山に陣城を推定している。

#### 【関連地名】

「馬場前」

#### 【史料】

『摂津名所図会』

#### 【参考文献】

田代・渡辺・石田（編）1981、藤岡・桜井（編）1960

#### 〔No.57〕高槻城

所在地 高槻市城内町・野見町・出丸町ほか 位置 東経 135.6206 北緯 34.8428

立地 平野部 標高 8m 比高 0m 城域 600m × 700m 時期 16世紀～幕末

#### 【城館の概要】

高槻城は、高槻市城内町・野見町・出丸町ほかに所在する平城。築城時期は16世紀、城主は和田惟政、高山右近、羽柴秀勝、江戸時代には永井家。

高槻城は北側から伸びる扇状地の端部に位置し、南・東側は淀川まで低地が広がっている。近世は譜代大名永井家の居城として幕末まで存続し廃城となった。現在、地上に地割などとして痕跡をとどめているのは、元和3年（1617）に江戸幕府による公儀修築として改修された近世高槻城で、本丸・二ノ丸・三ノ丸・出丸等から構成されていた。戦後しばらくは二ノ丸東側に高い土塁が残り、周辺には水田化した外堀が姿を留めていた。

一方、高槻城の史料上の初見は、「細川両家記」による大永7年（1527）「高槻入江城」である。当時の高槻には在地武士である入江氏の城館があったとみられる。織田信長の上洛後に没落し

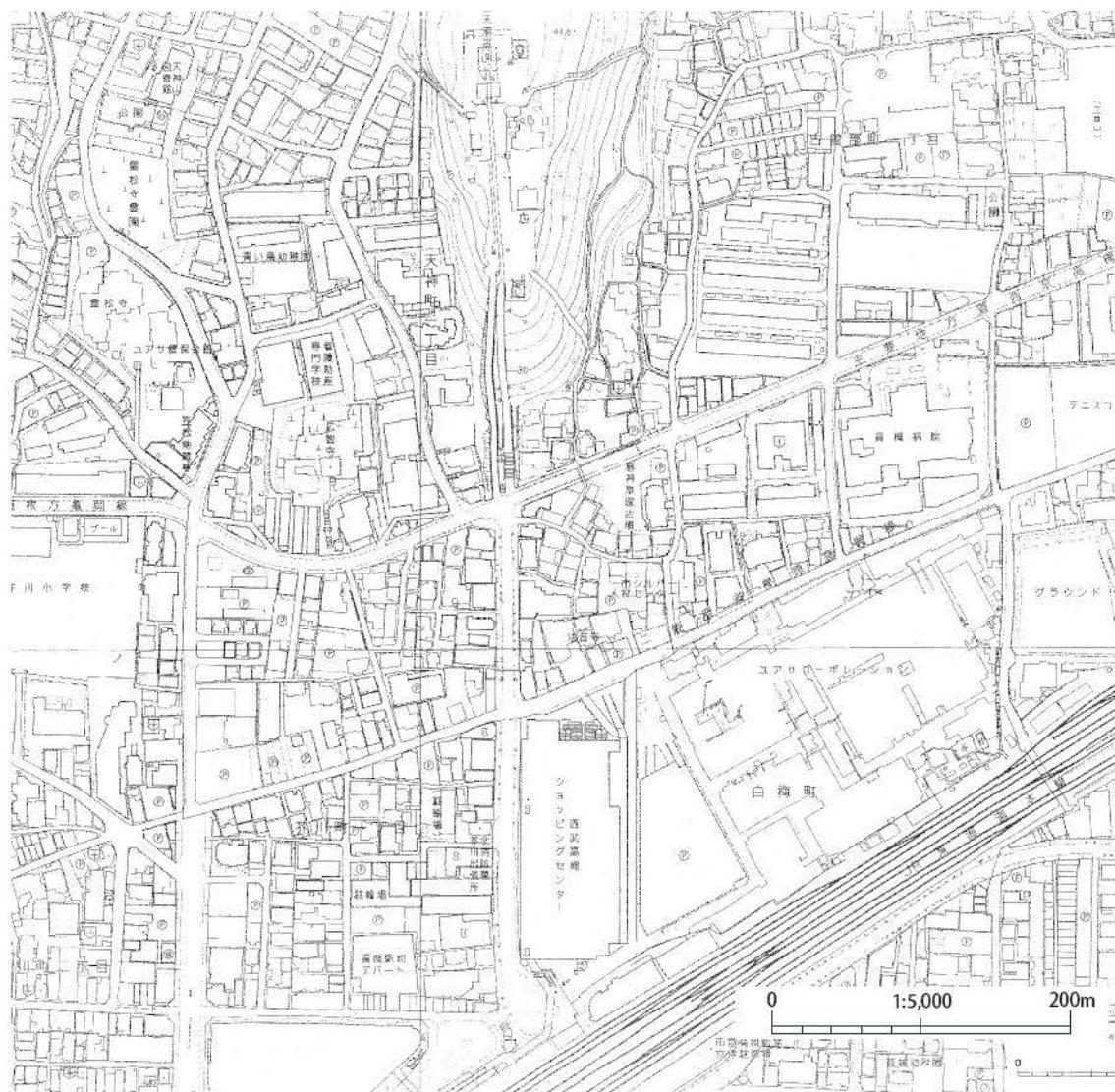


図 133 秀吉本陣 位置図 (S=1/5,000)



図 134 秀吉本陣 小字図



図 135 秀吉本陣 航空写真 (1948年撮影)

た入江氏に代わって和田惟政が芥川山城から入城し、摂津支配の拠点化を進め、「天主」を設けるなど城を大改修したとみられる。その後はキリストンとして有名な高山右近が入りキリストンの城下町を整備、豊臣政権下では右近が入封されたのち羽柴秀勝を経て直轄領となって代官が入っている。

高槻城跡の発掘調査では、近世遺構の下層から11～13・15世紀の輸入陶磁器が出土しており、入江氏に先立つ有力者層の存在がうかがわれる。また、近世二ノ丸・三ノ丸からは戦国時代や織豊期にあたる堀が屈曲するものも含めて検出されている。とりわけ織豊期の堀は近世の



図 136 高槻城 位置図 (S=1/5,000)

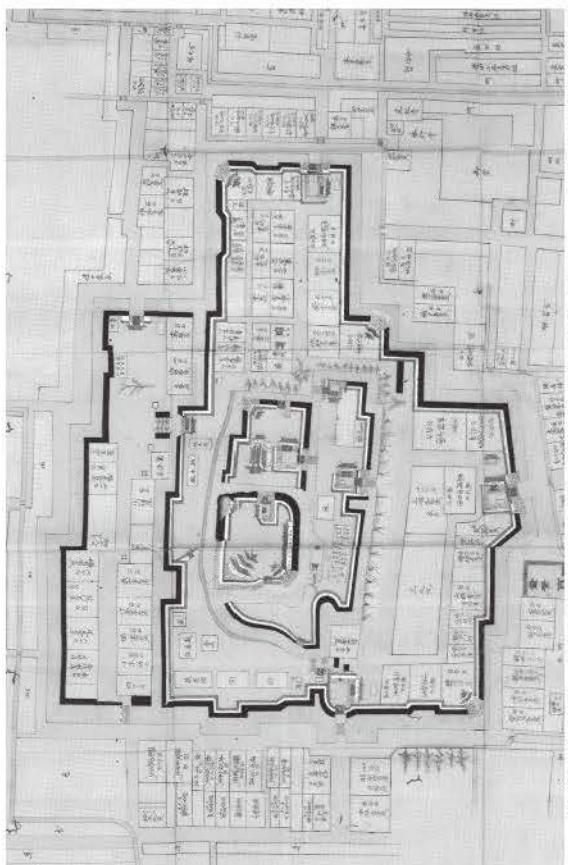


図 137 高槻城 絵図（高槻市蔵）

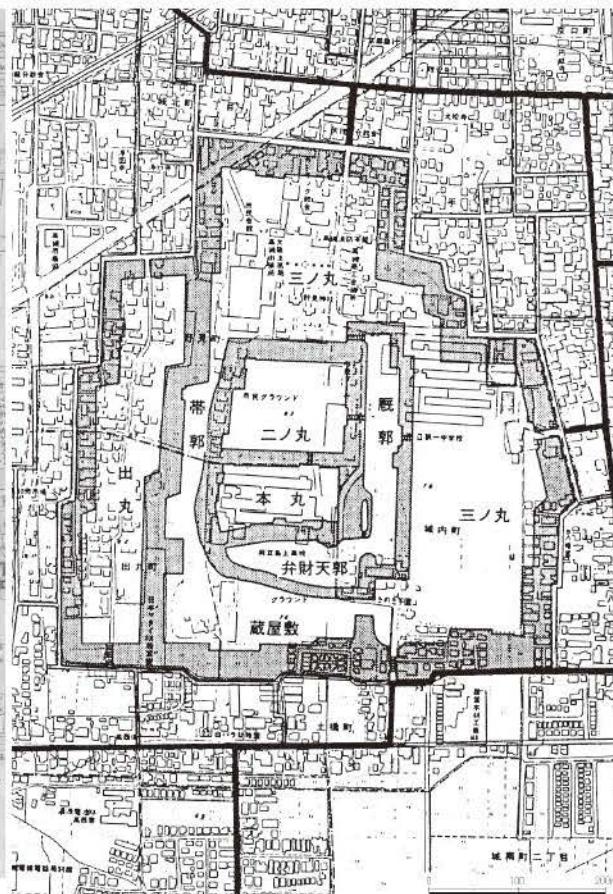


図 138 高槻城 近世推定復元図

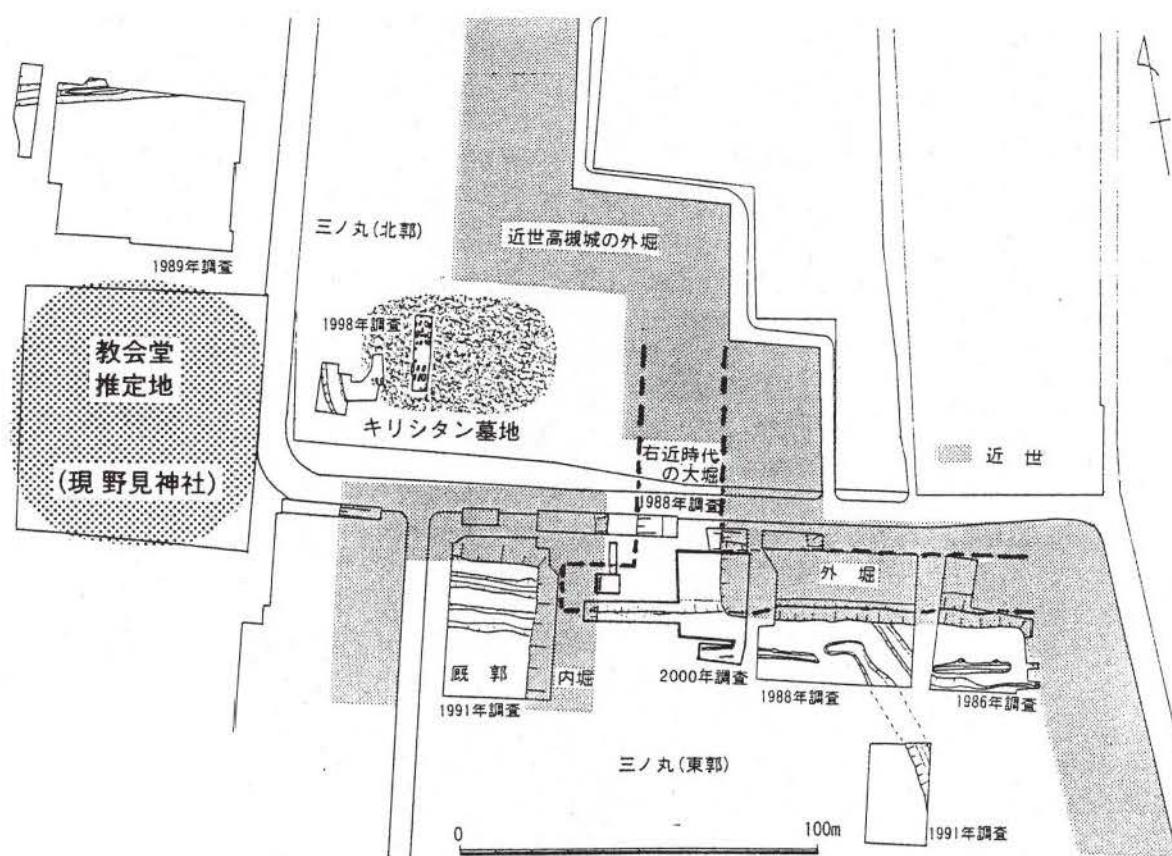


図 139 高槻城三の丸 近世以前の遺構図（高槻市教育委員会 2001b より転載）

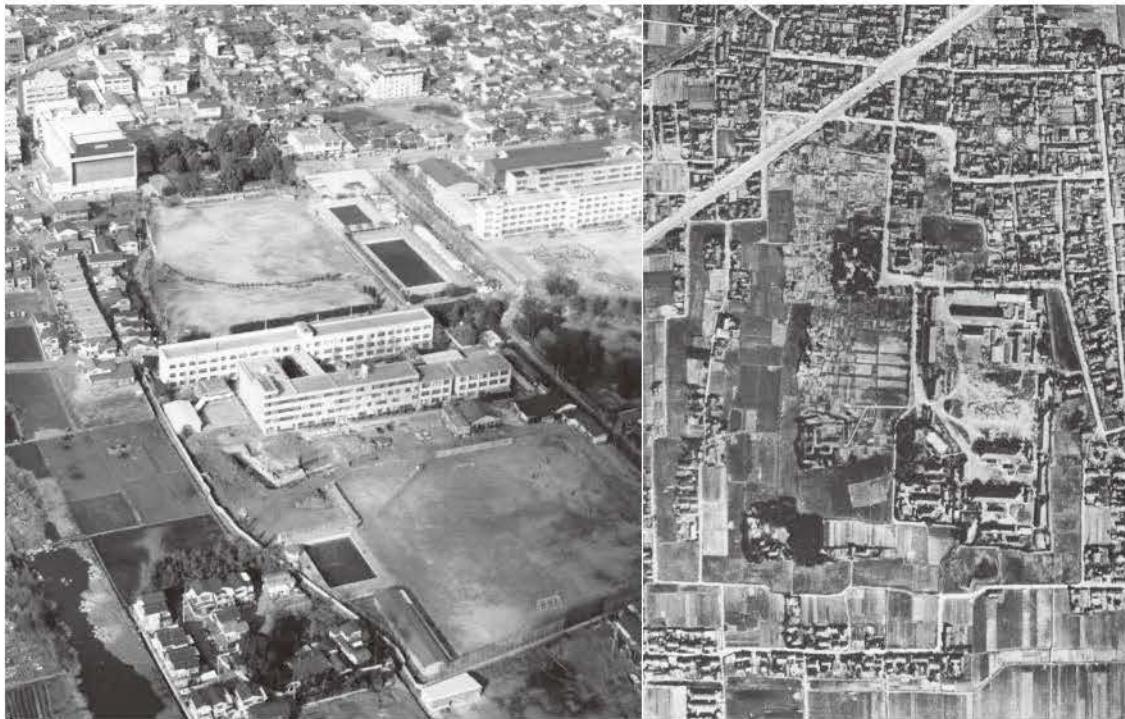


図140 高槻城 本丸・二ノ丸  
(1975年撮影、南西から、高槻市提供)

図141 高槻城 航空写真(1948年撮影)

それと重複あるいは並行した幅16m、深さ4mを測るものがあり、平城における普請規模の大きさがうかがえる。また、三ノ丸では木棺直葬のキリシタン墓地が確認されるなど、近世城郭遺構の下層にそれ以前の堀などの遺構が残されていることが明らかである。

#### 【主な調査歴】

昭和50・60・61・63年度、平成2・3・7・8・10・14・22・28・29・30・31年度

#### 【主な出土遺物】

土器・陶磁器、瓦、石垣石、胴木、橋脚、杭など

#### 【史料】

『摂津志』

#### 【参考文献】

井上1922、大阪府1903、高槻市教育委員会1984・1987・1991・1994b・1997・1998・2001b・2002・2003・2011、田代・渡辺・石田(編)1981、藤岡・桜井(編)1960

#### 〔No.58〕田能城

所在地	高槻市田能小字城山	位置	東経 135.5850	北緯 34.9592
立地	山頂部	標高	478 m	比高 130m
		城域	550m × 500m	時期 16世紀

#### 【城館の概要】

田能(櫻田)は高槻市域のうち、旧丹波国桑田郡に属する山間の小盆地で、東は山城国乙訓郡、西・南は摂津国島上・島下郡に接して各方面からの交通路が交差する。

田能城は、高槻市田能小字城山に所在する16世紀の山城で、標高478mの城山に所在し、山頂と南東に伸びる尾根上の曲輪で構成される。遺構は曲輪・帯曲輪・土塁・横堀・石積が確認されている。

総じて削平は不十分で、山頂主郭の周囲には一部で横堀になる帯曲輪がめぐる。一部で石材が散布していることから石積が構築されていた可能性があり、南側の横堀に虎口を想定する見解もある。横堀や帯曲輪による防御ラインの形成は、戦国期末における摂津周辺では臨時性の



図 142 田能城 位置図 (1:10,000)

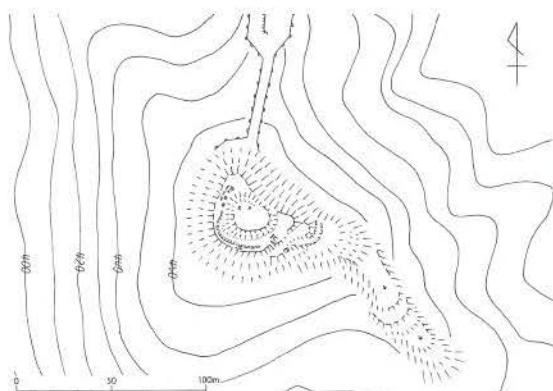


図 143 田能城 縄張図

(中西 2015 より転載)



図 144 田能城 小字図



図 145 田能城 航空写真

(1961～1969年撮影)



図 146 田能城 遠望 (南東から)

強い陣城での使用が多く、摂津・丹波の境目をまたいだ軍事行動に対応した城の機能を示していると考えられている。

『愛宕尾崎坊文書』の「柴田勝家・坂井政直連署状」には田野（田能）村の城郭の記述がある。文化・天保年間に編纂された桑田郡の地誌『桑下漫録』では山伏の杉生坊や、丹波守護代内藤備前守の使で「城州ノ徒士」灰方伊予守、渡辺上野介などを城主として伝えている。大正13年（1924）の『南桑田郡誌』では天正5年（1577）の明智光秀による丹波攻めの際に、乙訓勝龍寺城から細川藤孝が田能越えで亀岡方面に進んだとしている。

#### 【関連地名】

「城山」

#### 【史料】

「柴田勝家・坂井政直連署状」（京都大学総合博物館『愛宕尾崎坊文書』59-16/年代未詳も元亀2～3年（1571・1572）に比定）に「…田野村被構城郭候由、然者外畠村事…柴田修理亮勝家…田野村在城衆中」との記述あり。

#### 【参考文献】

大山崎町歴史資料館 2019、田代・渡辺・石田（編）1981、中井（監）2016、中西 2015

#### 〔No.59〕 富田寺内町

所在地 高槻市富田町4・5・6丁目

位置 東経 135.5946 北緯 34.8304

立地 山頂部 標高 138.6m 比高 38m

城域 800m × 700m 時期 16世紀

#### 【城館の概要】

富田寺内町は、高槻市富田町4・5・6丁目に所在する寺内町。築城時期は16世紀と伝わる。

富田寺内町は富田台地の先端に位置する。富田は室町時代には將軍家の御料所にあたり、臨済宗の普門寺が南北朝時代に開創され、文明8年（1467）に淨土真宗の蓮如が布教拠点を設けて後にこれが教行寺となる。天文元年（1532）に本願寺は細川京兆家の内紛に巻き込まれ、細川晴元方や法華一揆の焼討ちを受けるなどした後に復興している。

富田は普門寺で細川晴元が晩年を過ごし、永禄11年（1568）には足利義栄が同寺で征夷大將軍に就任、この前年には公家の山科言継らが宿泊するなど、富田寺内周辺が町場として発達し、公家の宿泊が可能な施設が整っていたことがうかがえる。一方、富田の内部は複数の地区に分かれしており、普門寺や西富田、教行寺周辺の南岡、北側の近世在郷町となった東岡などがある。史料上には「寺内」「寺外」があることから、寺内は南岡に寺外を東岡などにあてる説もある。

現在、遺構としては地上に残るのは、別掲する普門寺城の土壘と堀以外は、地形と地割のみである。なお、近世地誌の『摂津志』等では「富田堡」、「日本城郭全集」、「日本城郭大系」では「富田砦」と記載している。

#### 【参考文献】

井上 1922、大阪府 1903、田代・渡辺・石田（編）1981、藤岡・桜井（編）1960、小林 1984、中西 2015、福島 2000

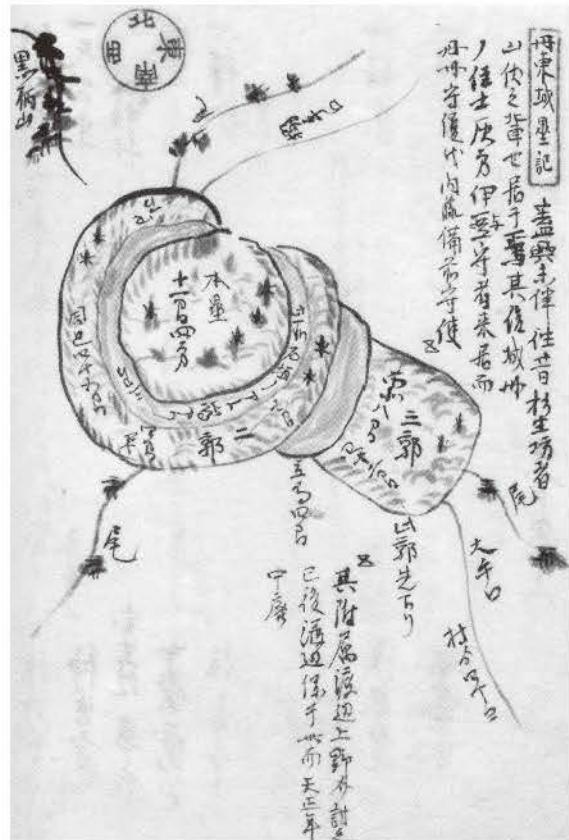


図 147 田能城 絵図（矢部 1984 より転載）

〔No.60〕 帯仕山向城

所在地 高槻市原・清水台二丁目

位置 東經 135.5950 北緯 34.8803

### 立地 山頂部 標高

比高 120m

城域  $100m \times 200m$

北緯 34.8803

時期 16世紀

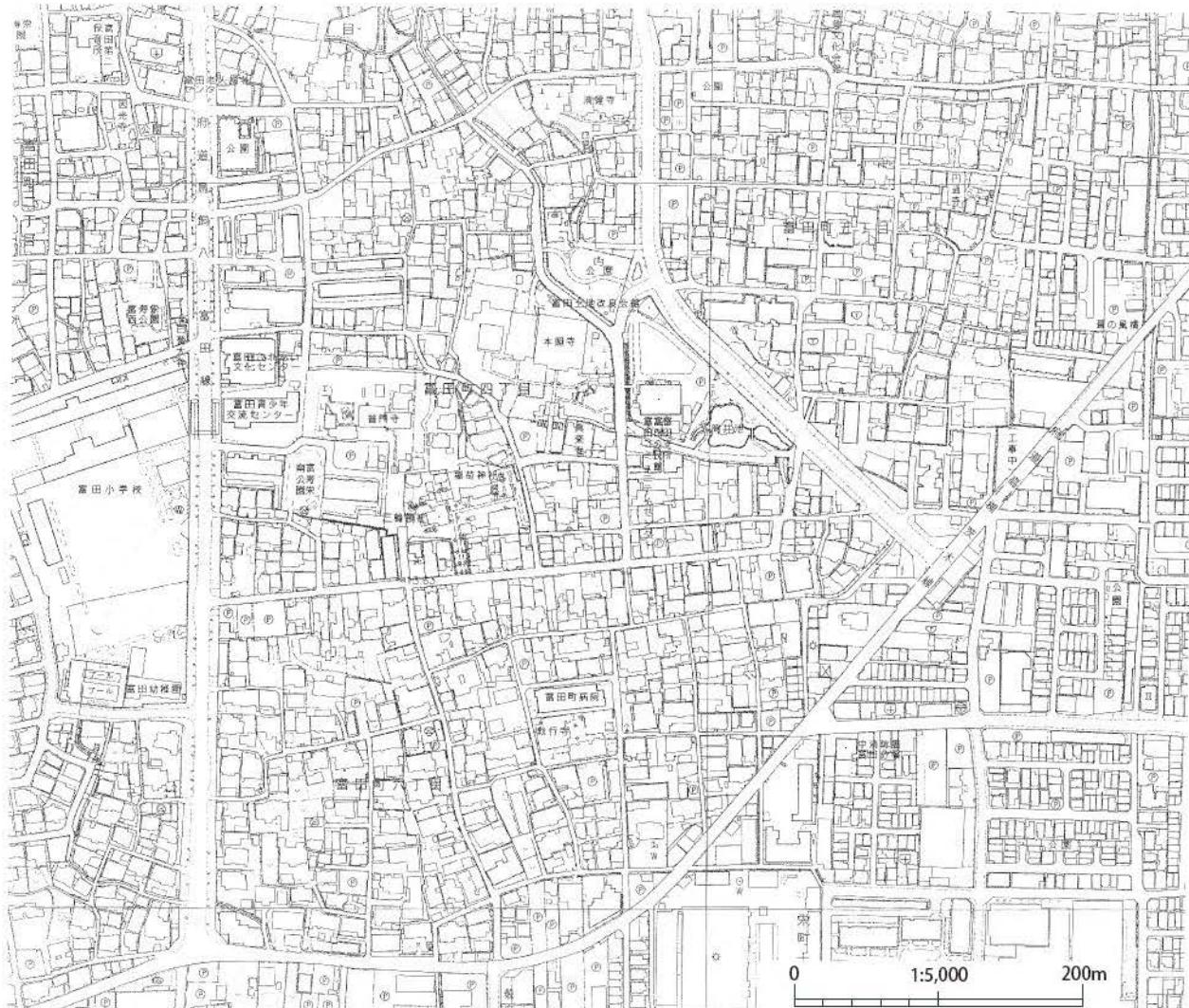


図 148 富田寺内町 位置図 (1 : 5,000)



図 149 富田寺内町 小字図



図 150 富田寺内町 航空写真

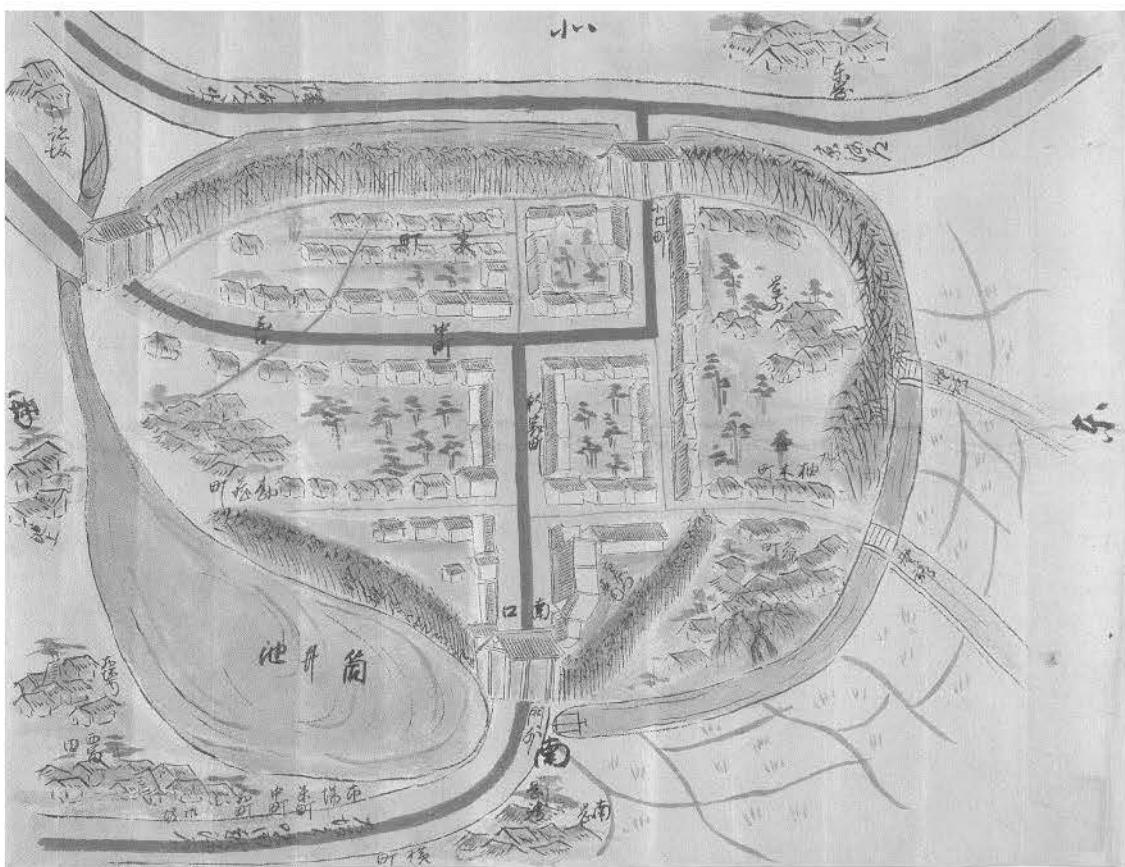


図 151 富田寺内町 富田東岡宿絵図（しろあと歴史館 2011 より転載）

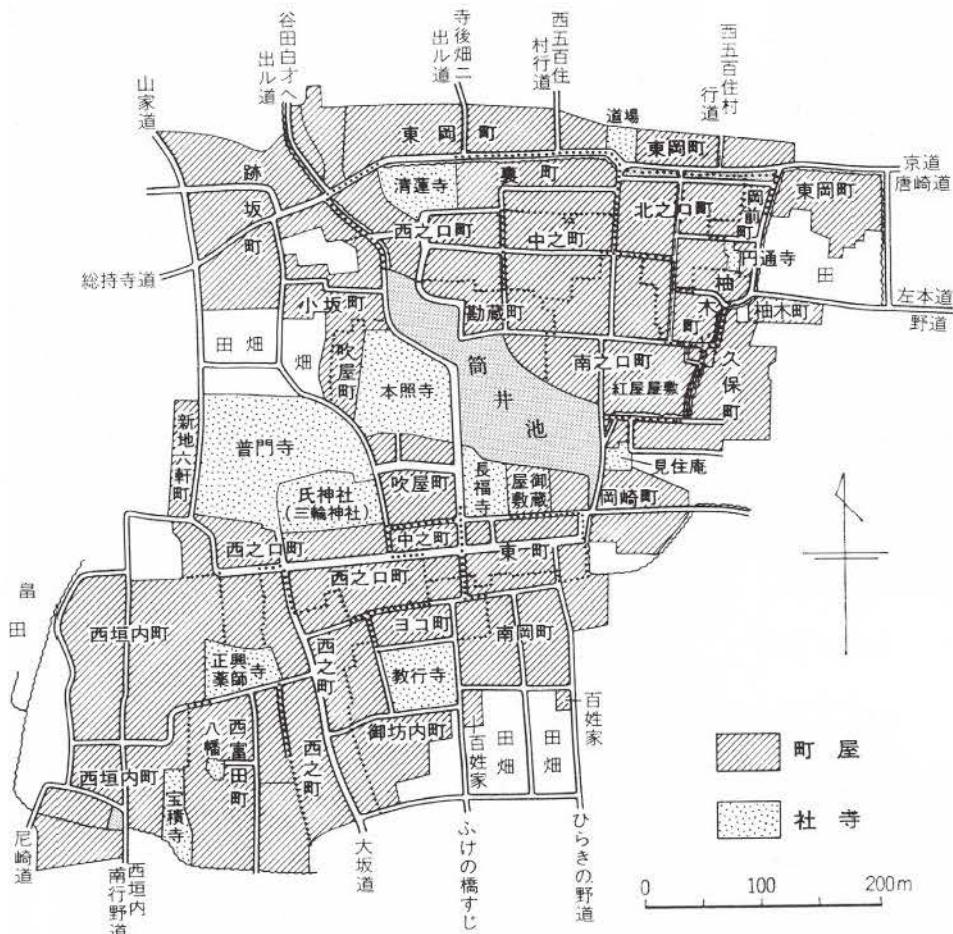


図 152 富田寺内町 江戸時代前期の富田（しろあと歴史館 2011 より転載）

### 【城館の概要】

帶仕山向城は、高槻市原・清水台二丁目に所在する山城。築城時期は16世紀、城主は三好長慶である。遺構は、土塁が確認されている。

標高190mの帶仕山山頂に位置する。史料上には『細川両家記』に天文22年(1553)、三好長慶が西側に隣接する芥川城(芥川山城)を攻略する際に陣城(付城・向城)を設けたと記されている。

遺構は山頂の南側緩斜面に土塁と横堀状の堀切が東西方向に確認できる一方、明瞭な曲輪は設けられず山頂部分も自然地形を呈している。曲輪を設けず横堀や土塁・帯曲輪で城域を設定する戦国期畿内周辺の陣城遺構の特徴に近似することから、当城の遺構は史料上にみえる年代の遺構である可能性が高い。

### 【関連地名】

「城山」

### 【参考文献】

中西 2015



図153 帯仕山城 位置図 (1:10,000)



図154 帯仕山城 小字図



図155 帯仕山城 航空写真 (1948年撮影)

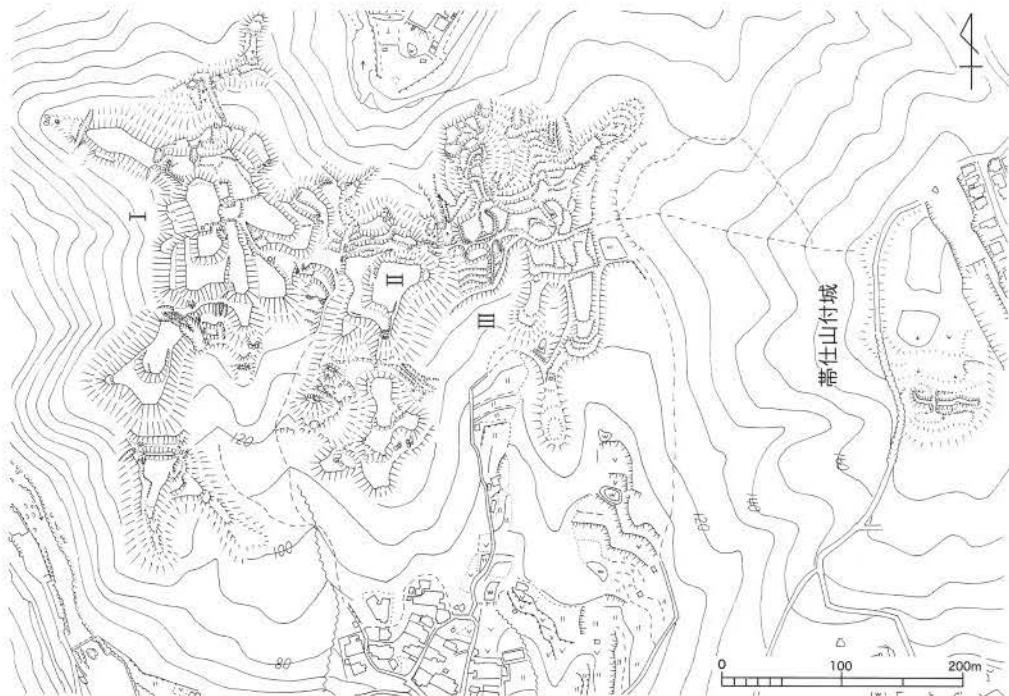


図 156 帯仕山城 概要図（中西 2015 より転載）

#### 〔No.61〕今城（今城塚古墳）

所在地 高槻市郡家新町 位置 東経 135.5942 北緯 34.8503  
立地 平野部 標高 37m 比高 17m 城域 350m × 350m 時期 16世紀か

#### 【城館の概要】

今城は、高槻市郡家新町に所在する平山城。時期は16世紀である。

6世紀前半に築造された前方後円墳・今城塚古墳（国史跡）の墳丘部にあたる。「今城」の地名や墳丘本体に残る土壘や横堀状の地形、その周囲をめぐる内・外堀、周堤から城郭遺構と考えられていた。今城塚古墳で行われた発掘調査により、これらは慶長元年（1596）の地震によって墳丘が崩壊したことで生じた地形であることが明らかになる一方、鉄砲玉等の遺物が出土している。南方を西国街道が通過し、地形的にも高所であることから、遺構は未確認ながら、地名や出土遺物から城館が存在した可能性が高い。なお、近世地誌『摂陽群談』には「郡家古城」、『東摂城址図誌』には「今城古跡」として記載されている。

#### 【主な調査歴】

平成8～18年度 今城塚古墳確認調査

#### 【主な出土遺物】

鉄砲玉、天目茶碗、土師器皿

#### 【関連地名】

「今城」

#### 【史料】

『摂津志』

#### 【参考文献】

井上 1922、大阪府 1903、岡田 1701、高槻市教育委員会 2000・2001a・2002、田代・渡辺・石田（編）1981、中西 2015、中村（編）2007、藤岡・桜井（編）1960

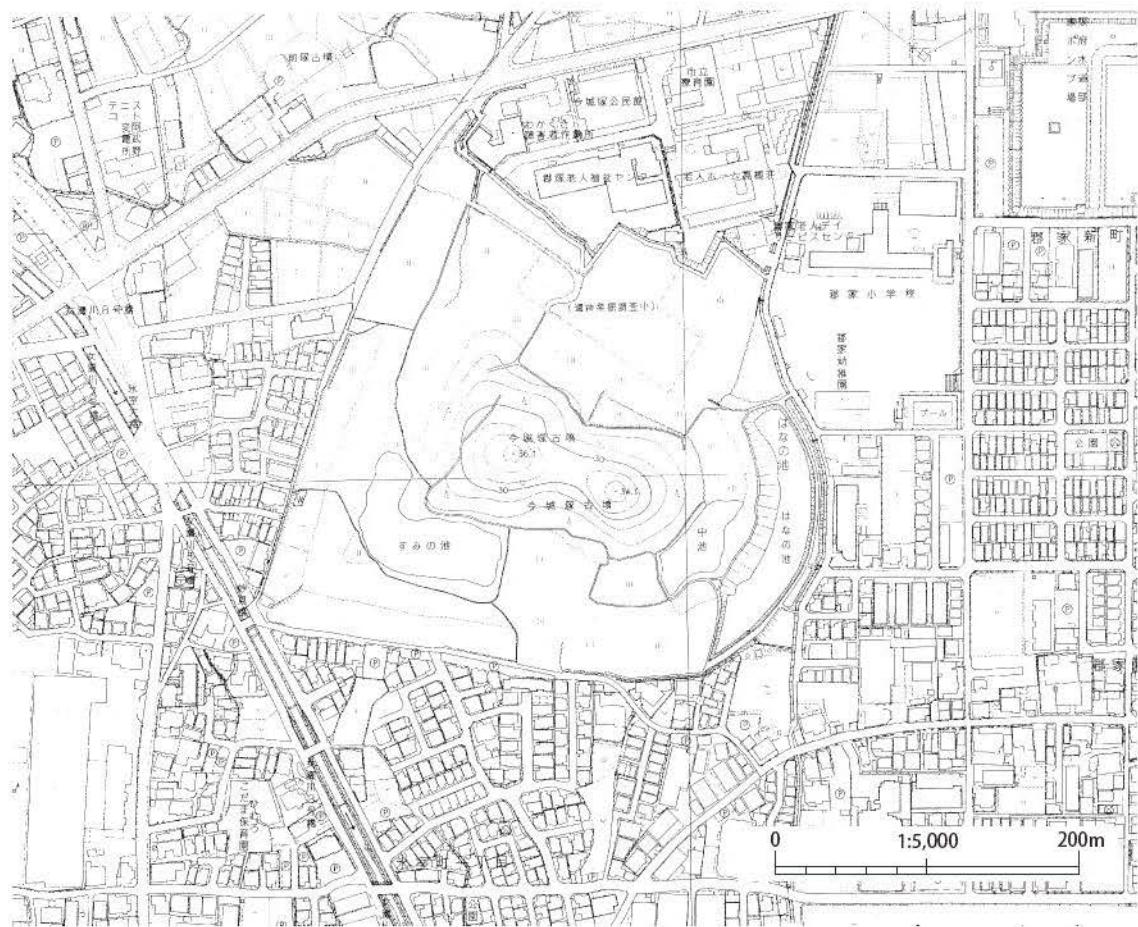


図 157 今城 位置図 (1:5,000)

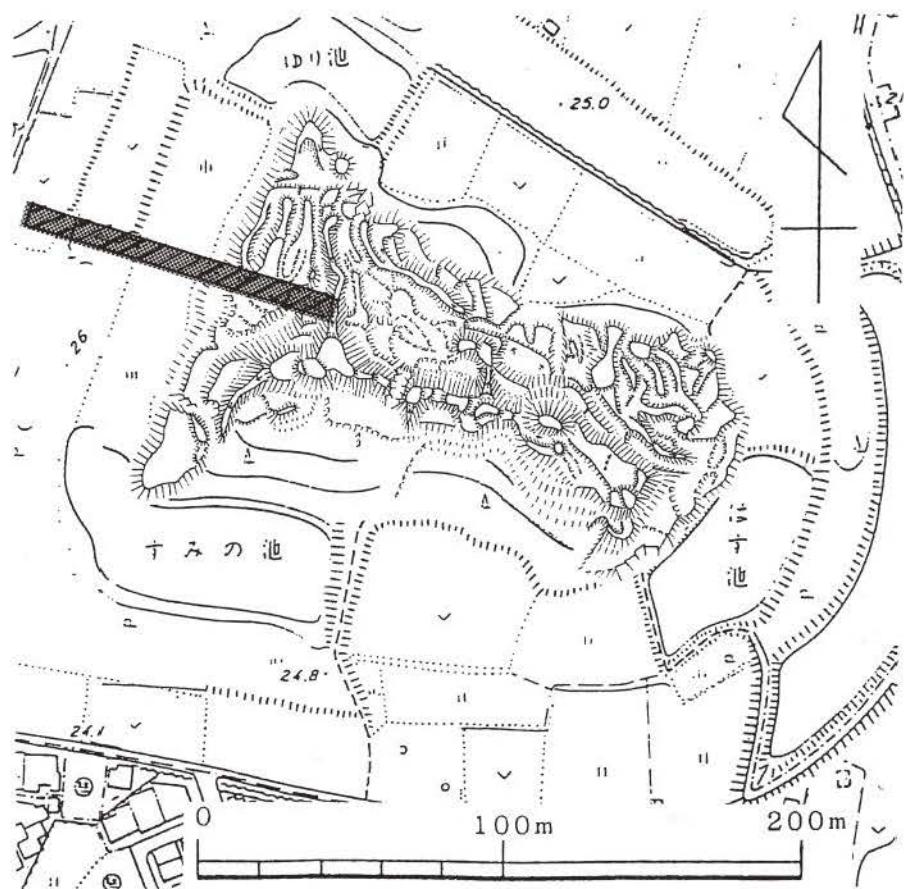


図 158 今城 繩張図 (中西 2015 より転載)



図 159 今城 小字図



図 160 今城 航空写真 (1948 年撮影)

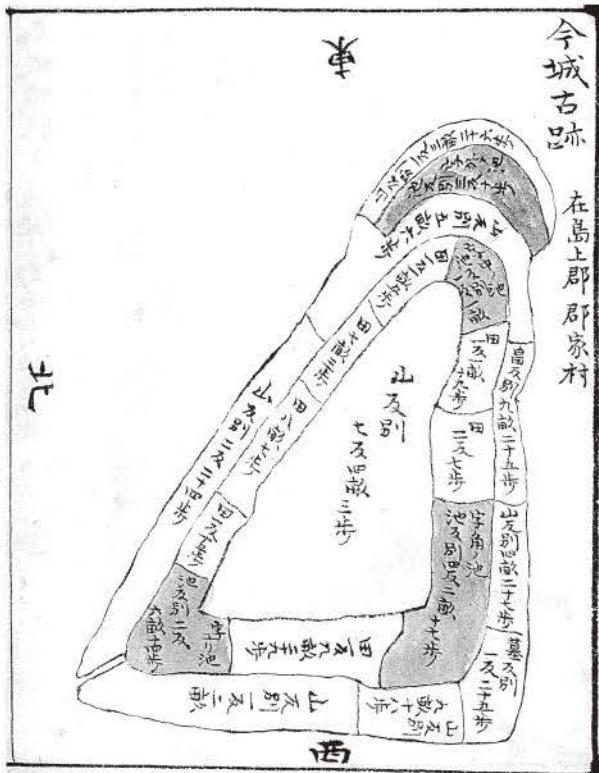


図 161 『東摂城址図誌』より「今城古跡」  
(大阪府立中之島図書館 所蔵)

### (No.62) 松永久秀屋敷

所在地 高槻市東五百住町 1 丁目 位置 東経 135.6003 北緯 34.8394  
立地 平野部 標高 13m 比高 0m 域域 50m × 50m 時期 15・16世紀

#### 【城館の概要】

松永久秀屋敷は、高槻市東五百住町 1 丁目に所在し、小字「城垣内」が集落の中心部に残る。「摂津名所図会」など近世地誌に紹介されているが、遺構は消滅しており、絵図や地割から推定されている。

享保 14 年 (1729) の「郡家村・東五百住村境見分絵図」(郡家村財産区蔵) に「松永久秀屋敷跡畠田」が描かれている。絵図と小字「城垣内」を照合すると、規模は土豪クラスの一般的な城館規模である半町四方と思われる。絵図では北と南に家屋が描かれ、その間の畠・田地に「屋敷跡」は位置している。周囲の溝は北と東の幅が広く、東側に「とで」という池が描かれている。また隅丸方形の屋敷跡区画の南辺にある樹木のような表現は土塁等の区画施設の可能性がある。「とで」の北側の「若宮」は城館と一体となった祭祀施設かもしれない。地上に遺構は残らないが、湧水池とみられる田地が残り、区画の比定地は周囲より若干高い。このような状況から、在地土豪層の城館跡と推定される。

一方、松永久秀の出自は五百住である可能性が高いと考えられ、高槻城主であった入江氏の一族であったとされている。

#### 【関連地名】

「城垣内」

#### 【史料】

『摂津名所図会』

#### 【参考文献】

井上 1922、大阪府 1903、中西 2012、中西 2015

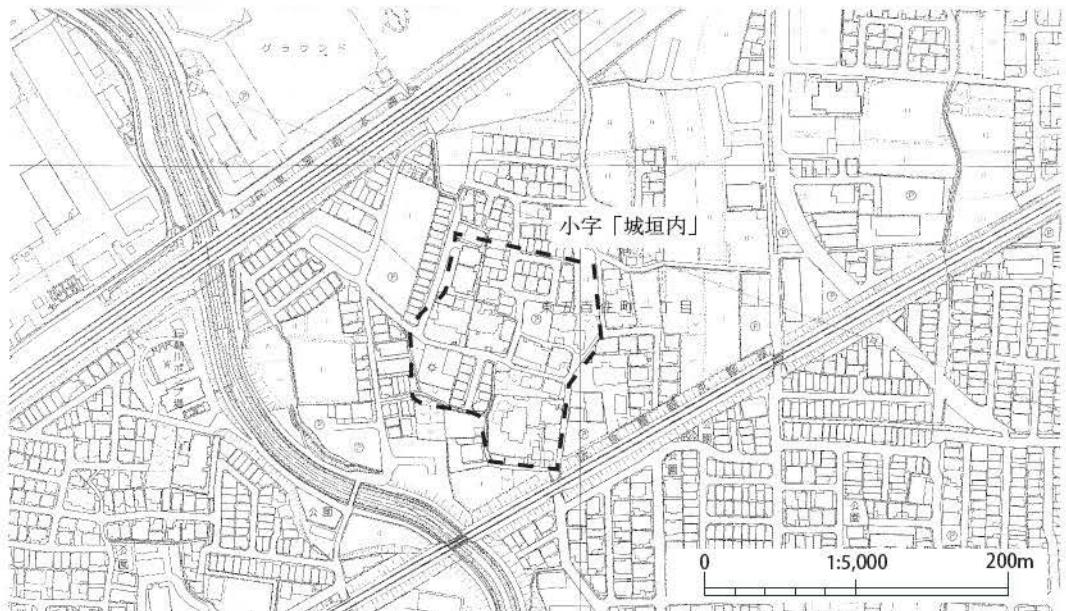


図 162 松永久秀屋敷 位置図 (1:5,000)



図 163 松永久秀屋敷 小字図



図 164 松永久秀屋敷 航空写真 (1948 年撮影)

### 〔No.63〕上田部遺跡

所在地 高槻市桃園町

位置 東経 135.6169 北緯 34.8464

立地 平野部 標高 10m

比高 0 m 城域 20 m 以上 × 20 m 以上

時期 12世紀

### 【城館の概要】

上田部遺跡は、高槻市桃園町に所在する12世紀の居館。発掘調査により屋敷地・溝・建物（礎石・柱穴）・井戸・墓・水田跡が検出されている。

平成3年度（1991）の高槻市教育委員会による発掘調査において、調査区の北西部から12世紀を中心とする大溝に囲まれた東西20m・南北25mの屋敷地を検出した。大溝は幅3.5m、深さは0.3～1.2mを測り一部で屈曲する。屋敷地内からは東西

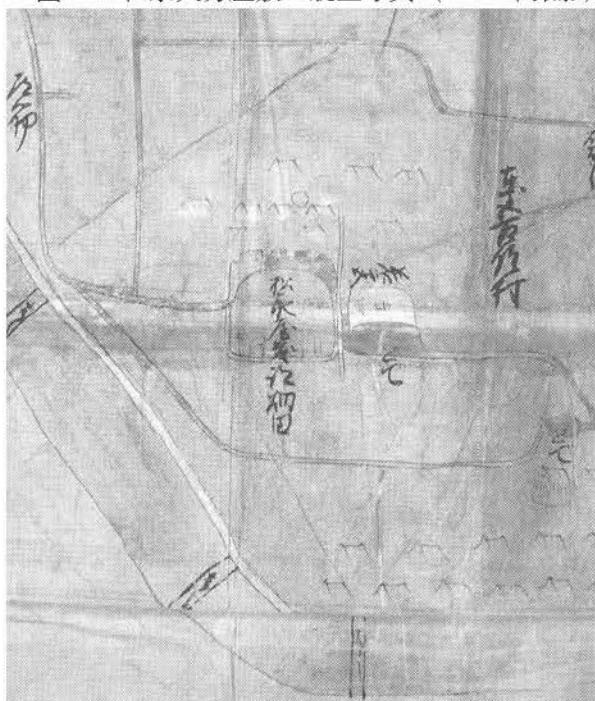


図 165 松永久秀屋敷 絵図 (高槻市提供)

『郡家村・東五百庄村境見分絵図』部分

9.6m、南北9mの礎石建物1棟、井戸、溝、土坑、墓が検出されている。屋敷地の周囲には水田が広がっていたとみられる。なお、調査地周辺には北西に「城ノ垣内」「城ノ後」「粂屋垣内」、南方に「東殿垣内」「西殿垣内」などが分布している。

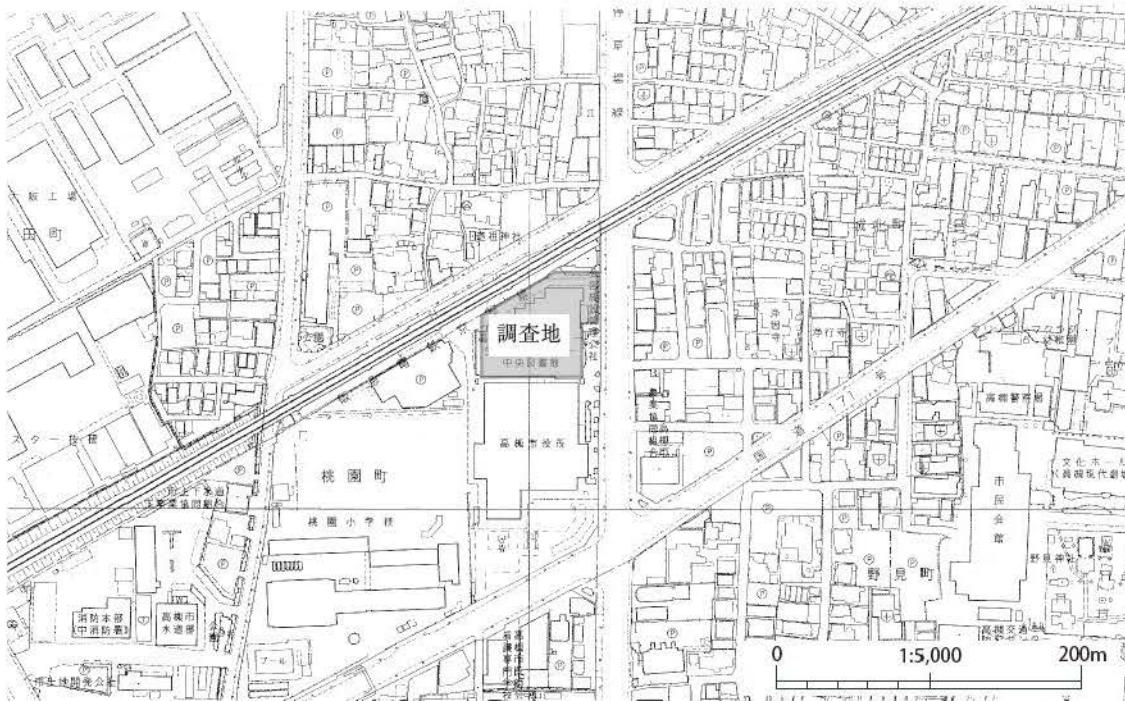


図 166 上田部遺跡 位置図 (1 : 5,000)



図 167 上田部遺跡 小字図

図 168 上田部遺跡 航空写真（1948年撮影）



図 169 上田部遺跡 航空写真  
(高槻市提供、西から)

図 170 上田部遺跡 屋敷地写真  
(高槻市提供、南西から)

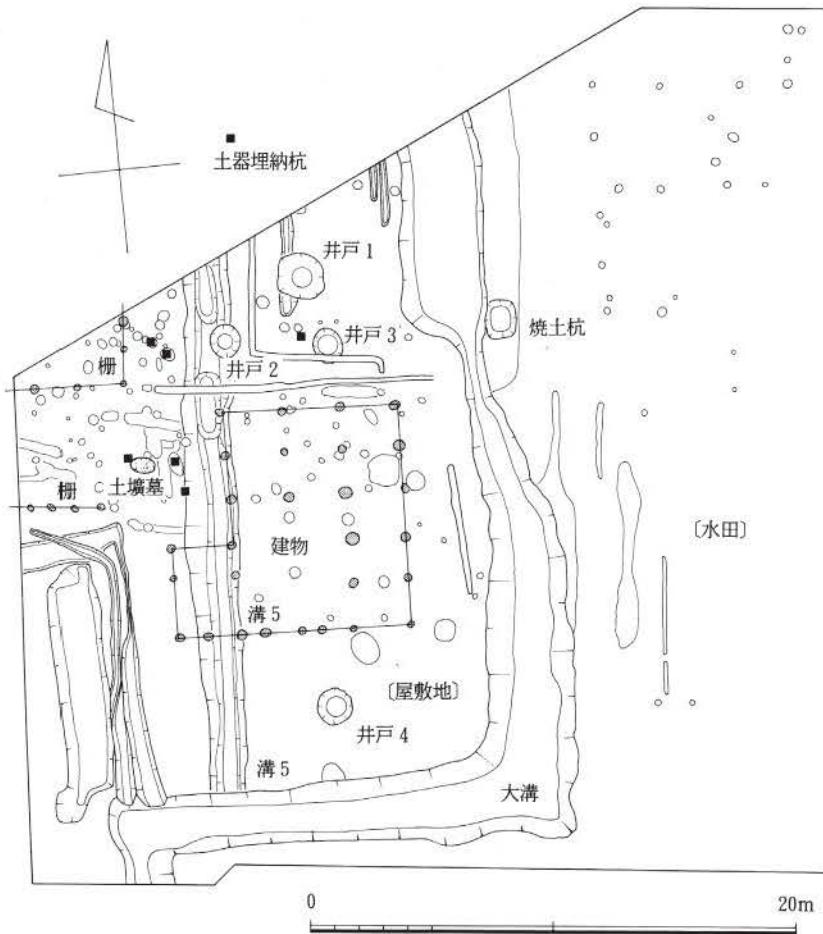


図 171 上田部遺跡 遺構図（高槻市教育委員会 1993 より転載）

**【主な調査歴】**

平成 3 年度 高槻市教育委員会 1993『高槻市文化財年報 平成 3 年度』

**【関連地名】**

「城ノ垣内」、「城ノ後」、「糀屋垣内」、「東殿垣内」、「西殿垣内」

**【参考文献】**

高槻市教育委員会 1993

**〔No.64〕 神内遺跡**

所在地 高槻市神内 2 丁目 位置 東経 135.6589 北緯 34.8733 立地 平野部  
標高 13m 比高 0 m 城域 25 m 以上 × 20 m 以上 時期 15 世紀

**【城館の概要】**

神内遺跡は、高槻市神内 2 丁目に所在する居館。時期は 15 世紀で、屋敷地・溝・礫群・土坑が確認されている。

平成 11・12 年度（1999・2000）の高槻市教育委員会による発掘調査において、I 区の北西部から 15 世紀後半を中心とする溝に囲まれた屋敷地の南東隅を検出した。溝は幅 3～4 m、深さは 0.5～0.7 m を測り、東西 25 m・南北 20 m にわたる。屋敷地は調査区外へ北・西へ広がっている。屋敷地内からは土坑や礫群が検出されており、15 世紀後半を中心とする多量の土器・陶磁器が投棄された状態で出土している。

**【主な調査歴】**

平成 11・12 年度 高槻市教育委員会（高槻市教育委員会 2002）



図 172 神内遺跡 位置図 (1:5,000)



図 173 神内遺跡 小字図



図 174 神内遺跡 航空写真 (1948 年撮影)

#### 【主な出土遺物】

土器、陶磁器

#### 【参考文献】

高槻市教育委員会 2002

#### (No.65) 宮田遺跡

所在地 高槻市宮田町 位置 東経 135.5939 北緯 34.8461 立地 平野部  
標高 20m 比高 0 m 城域 20m 以上 × 20m 以上 時期 12世紀

#### 【城館の概要】

宮田遺跡は、高槻市宮田町に所在する居館。時期は12世紀で、遺構は屋敷地、溝、建物（柱穴）、井戸、柵が確認されている。

昭和46年度（1971）の高槻市教育委員会による発掘調査によって、12世紀の溝に囲まれた屋敷地を検出した。屋敷地は柵列や溝によって約20m四方に区画され、内部からは平面3.6m × 6.5m以下の建替を伴う掘立柱建物群や井戸・土坑墓などが検出されている。



図 175 神内遺跡 屋敷地遺構写真（南西から）

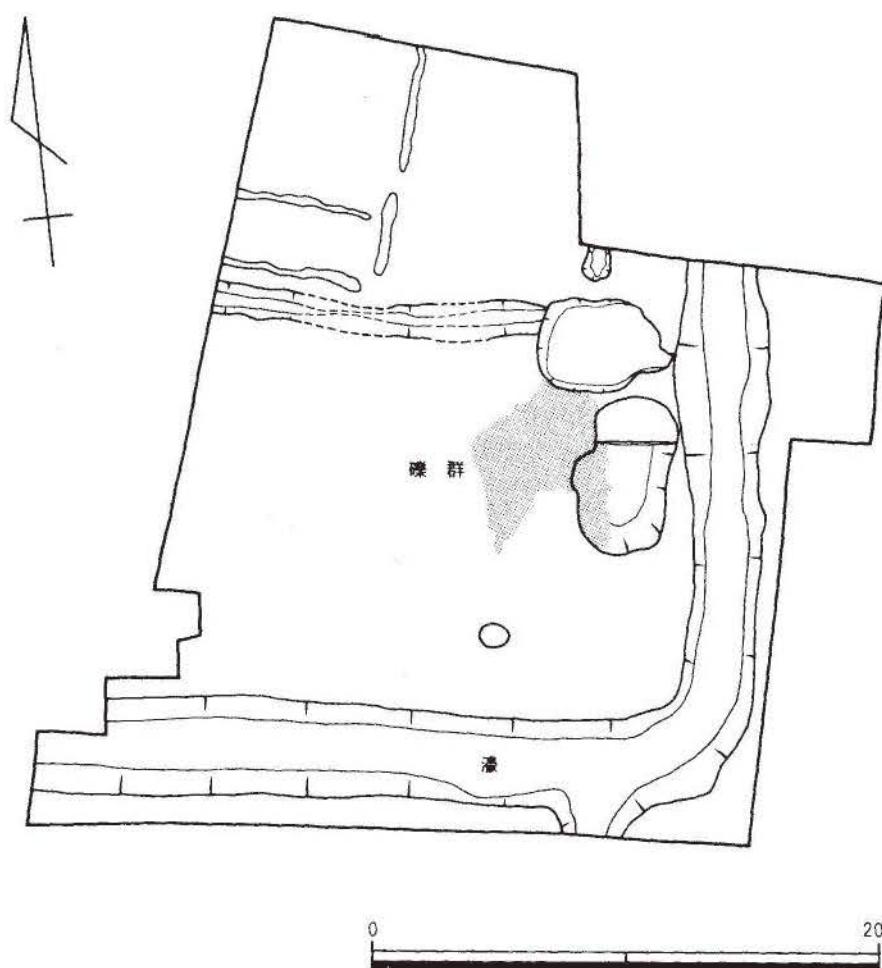


図 176 神内遺跡 屋敷地遺構図（1：300）（高槻市教育委員会 2002 より転載）

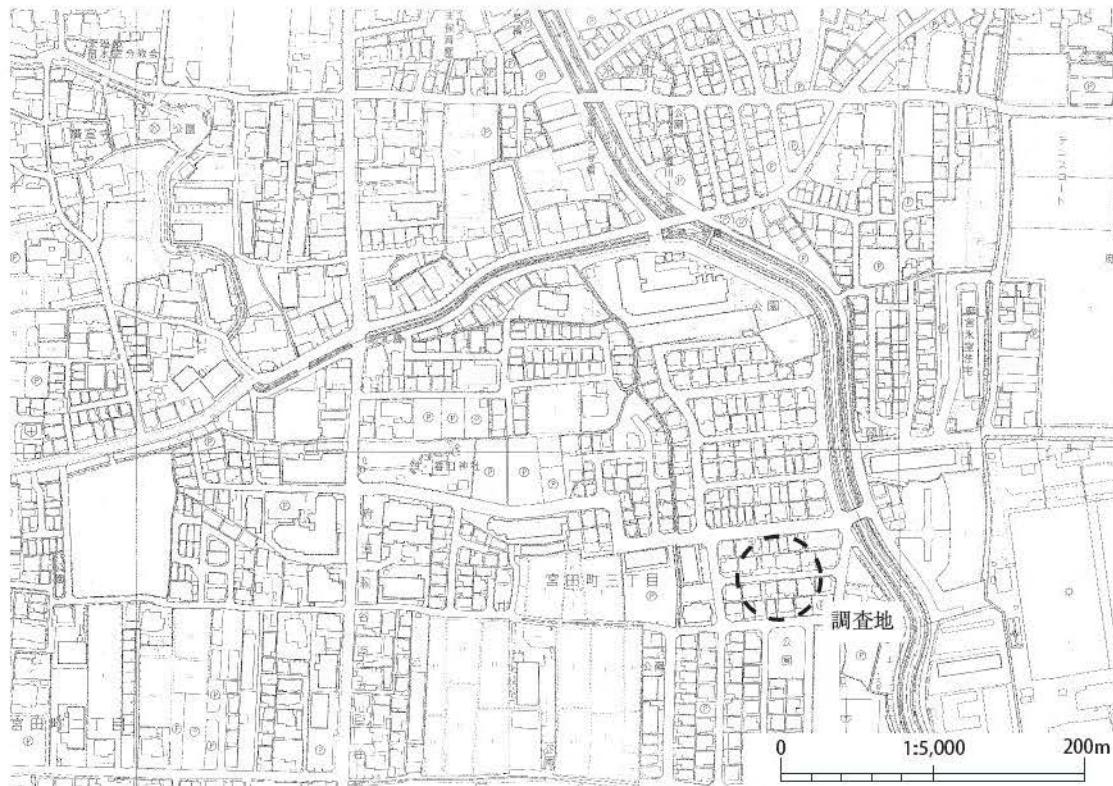


図 177 宮田遺跡 位置図 (1:5,000)



図 178 宮田遺跡 小字図



図 179 宮田遺跡 航空写真 (1948 年撮影)

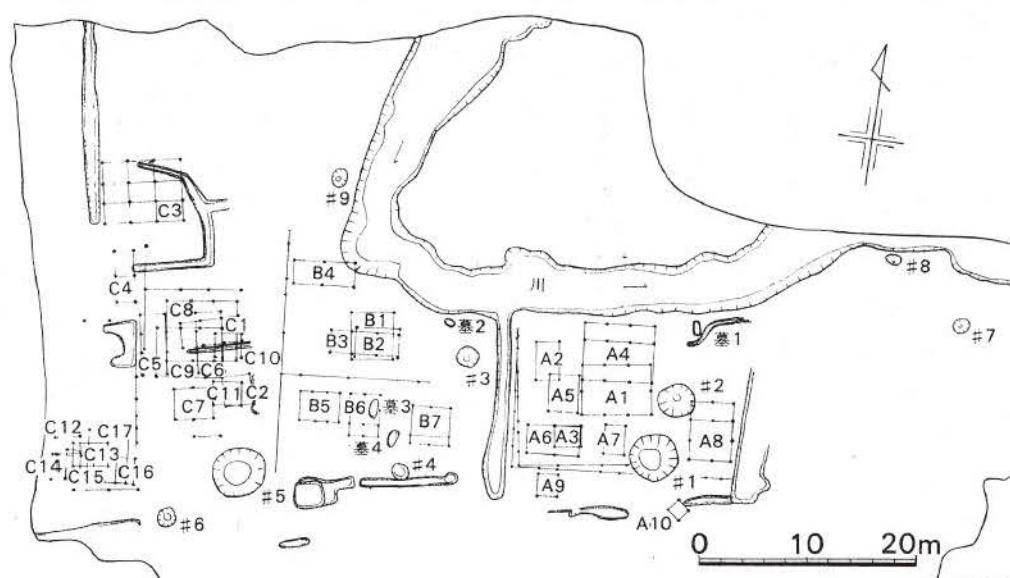


図 180 宮田遺跡 遺構図（高槻市 1977 より転載）

### 【主な調査歴】

昭和 46 年度（1971） 高槻市教育委員会（高槻市 1977）

### 【参考文献】

高槻市 1977

#### 〔No.66〕 芥川城

所在地 高槻市殿町、芥川町 3・4 丁目 位置 東経 135.6083 北緯 34.8528  
立地 平野部 標高 16m 比高 0m 城域 不明 時期 13～16 世紀か

### 【城館の概要】

芥川城は、高槻市殿町、芥川町 3・4 丁目に所在するとされる平城。時期は 13～16 世紀、城主は芥川氏・三好氏ほかと伝わる。

高槻市街の中心に近い、旧西国街道の芥川宿周辺に比定されてきた城館跡。近世以降の地誌や高槻市史にも記述されている。年代は鎌倉幕府御家人で当地の地名を関する国人・芥川（芥河）氏の存在より鎌倉時代後半から、史料上に「芥川」「芥川城」が頻出する戦国時代と考えられ、芥川氏の居館や幕府管領細川氏や三好長慶による城館の比定地とされてきた。ただし現在地上には遺構を留めておらず、周辺で行われた発掘調査でも城館に伴う明確な遺構は確認されていない。近年の研究の進展によって、史料上に頻出する芥川城は、当地から北西約 3 km にある三好山の山城（芥川山城）を示すことが明らかになっている。芥川氏の居館が存在する可能性を否定することは困難ながら、幕府管領細川高国・晴元や三好長慶が拠った城館は当地ではない可能性が極めて高い。

### 【関連地名】

「殿ノ内」

### 【史料】

『摂津志』

### 【参考文献】

井上 1922、大阪府 1903、岡田 1701、田代・渡辺・石田（編）1981、高槻市 1973・1977、中西 2020、中村（編）2007、藤岡・桜井（編）1960、平凡社地方資料センター（編）1986

#### 〔No.67〕 岡本砦

所在地 高槻市岡本町 位置 東経 135.5903 北緯 34.8533  
立地 丘陵・山裾部 標高 35m 比高 0m 城域 不明 時期 不明

### 【城館の概要】

岡本砦は、高槻市岡本町に所在する。小字「西垣内」「中垣内」が岡本集落に残るが遺構の詳細は不明。『大阪府全志』には「岡本城址」として「岡本の古城址ありと記すれども、是れ復た其の址定かならず」と記載。『摂陽群談』には「岡本古城」として「同郡（島上郡）岡本村にあり。城主未考」と記載。

### 【関連地名】

「中垣内」・「西垣内」

### 【参考文献】

井上 1922、岡田 1701、田代・渡辺・石田（編）1981

#### 〔No.68〕 上牧砦

所在地 高槻市上牧 位置 東経 135.6597 北緯 34.8656  
立地 平野部 標高 9m 比高 0m 城域 不明 時期 不明

## 【城館の概要】

上牧砦は、高槻市上牧に所在する。小字「上城垣内」「下城垣内」が上牧集落の西側に残る。他に集落南方に「堀池」、同南西の内ヶ池端に小字「奥殿垣内」が残るが遺構の詳細は不明。『大阪府全志』には「上牧堡のありし所なりといへども、其の縁由は詳らかならず」と記載。

### 【関連地名】

「上城垣内」・「下城垣内」・「堀池」・「奥殿垣内」

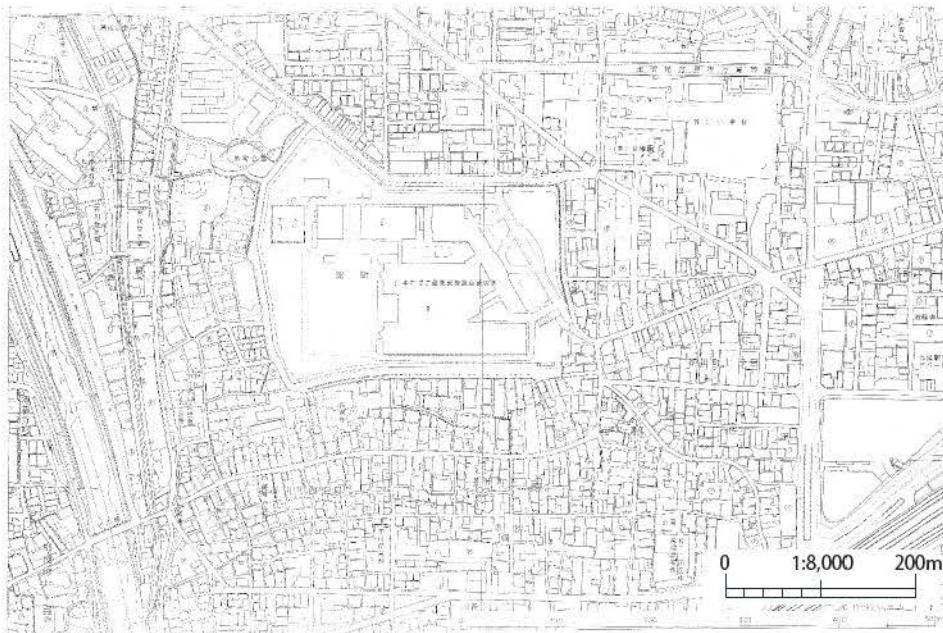


図 181 芥川城 位置図 (1 : 8,000)

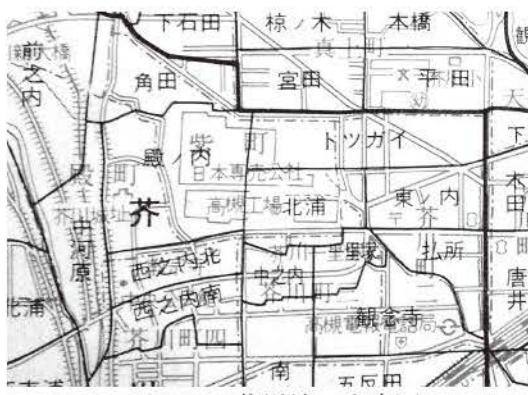


図 182 芥川城 小字図

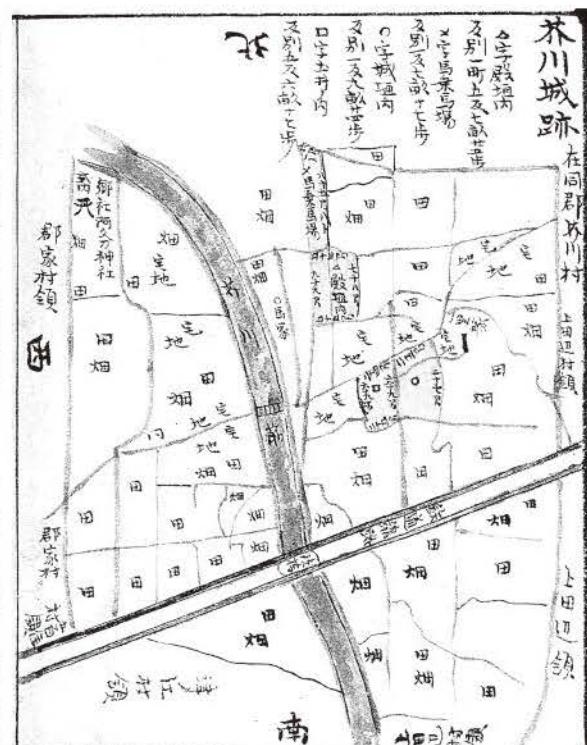


図 184 『東摂城址図誌』より「芥川城址」  
(大阪府立中之島図書館 所蔵)



図 183 芥川城 航空写真（1948年撮影）

【史料】

『攝津志』

## 【参考文献】

井上 1922、田代・渡辺・石田（編）1981、藤岡・桜井（編）1960

〔No.69〕 下村砦

所在地 高槻市下・山手町・高垣町 位置 東経 135.6369 北緯 34.8606  
立地 平野部 標高 15m 比高 0m 城域 不明 時期 不明



図 185 岡本砦 小字図



図 186 岡本砦 航空写真 (1948 年撮影)



図 187 岡本砦 位置図 (1 : 5,000)



図 188 上牧砦 位置図 (1:6,000)



図 189 上牧砦 小字図



図 190 上牧砦 航空写真 (1948年撮影)

## 【城館の概要】

下村砦は、高槻市下・山手町・高垣町に所在するとされる。小字「構口」・「奥殿脇」・「御所ノ内」・「土井ノ前」が旧下村集落の西側、旧西国街道より南側に残る。他にも「高垣」・「土井下」・「対馬」が残るが、遺構の詳細は不明。『大阪府全志』には「下村堡」として「檜尾川の北にあり、疆域及び縁由は詳らかならず、もと古碑を存せしも官設鉄道設置敷設に際し、土を此に採られて埋没し、其の所在明ならざるに至りしは惜しむべし。当時土中より古剣を得たりといふ」と記載。なお、『全志』では檜尾川以北に比定しているが、関連地名は檜尾川以南に分布している。

### 【主な出土遺物】

古劍（伝承）

### 【関連地名】

「構口」・「奥殿脇」・「御所ノ内」・「土井ノ前」ほか

## 【参考文献】

井上 1922、田代・渡辺・石田（編）1981、藤岡・桜井（編）1960

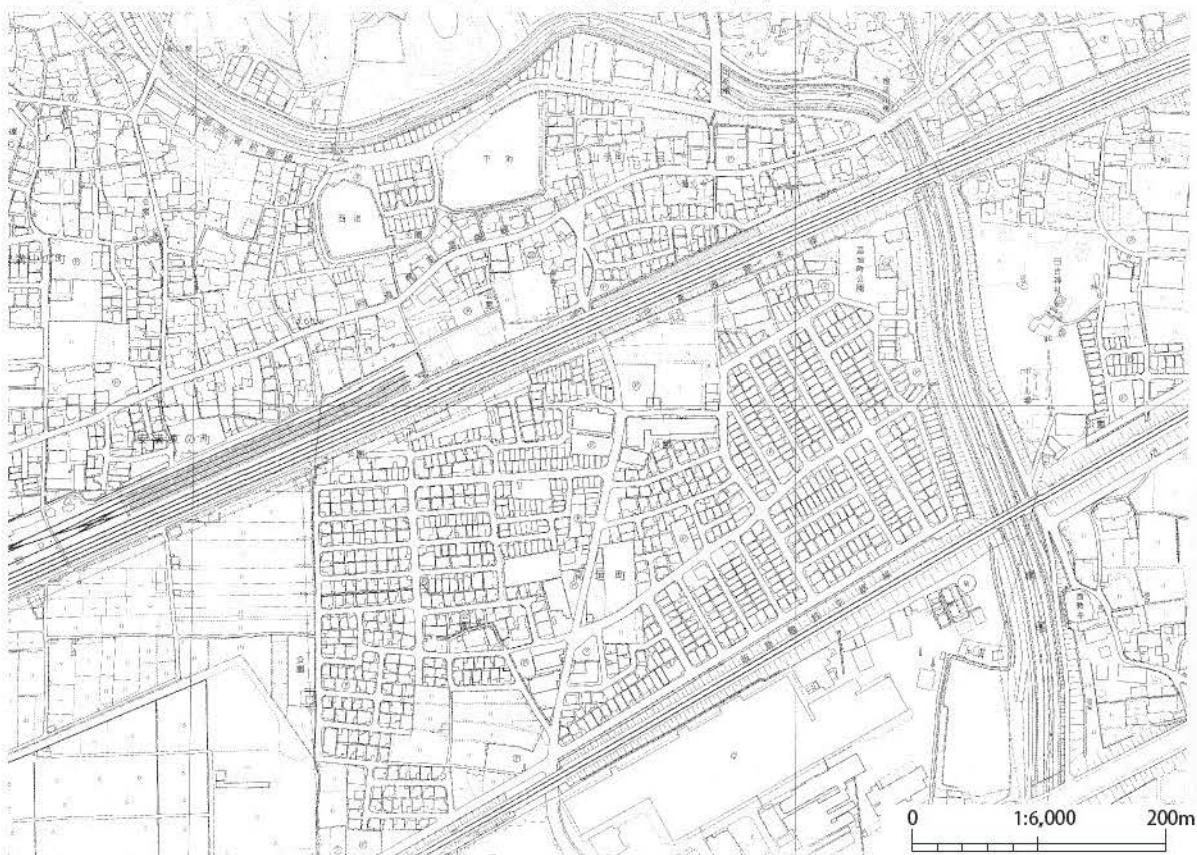


図 191 下村砦 位置図 (1:6,000)



図 192 下村砦 小字図



図 193 下村砦 航空写真（1948 年撮影）

### (No.70) 高槻砦（高槻堡）

所在地 高槻市春日町3ほか（旧西天川） 位置 東経 135.6292 北緯 34.8403  
立地 平野部 標高 7m 比高 0m 城域 不明 時期 16世紀

#### 【城館の概要】

高槻砦（高槻堡）は、高槻市春日町3ほか（旧西天川）に所在するとされる。築城時期は16世紀、城主は和田惟政・大津伝十郎長昌と伝わる。

『東摂城址図誌』に「高槻城跡」として天川村字小島ノ内を描いている。この字名は小字「古高ノ内」「小高槻」「古高槻」の転訛と考えられる。『大阪府全志』では「高槻堡」として、和田惟政による築城、大津長昌の入城を伝え、周囲16間、用水井路に内濠・外堀などの名を残すと記載がある。『大阪府誌』には「古高槻城址」、『日本城郭全集』・『日本城郭大系』は「高槻砦」と記載。いずれも近世以降の地誌の記載で、遺構は地上になく、詳細は不明。和田惟政・大津長昌の名が伝わることや近世高槻城の南西という立地等から戦国期の高槻城攻めの付城、または近世の旧有力庄屋層の屋敷地、という二つの可能性が指摘されている。

#### 【関連地名】

「小高ノ内」（＝「小高槻」「古高槻」「小島ノ内」）

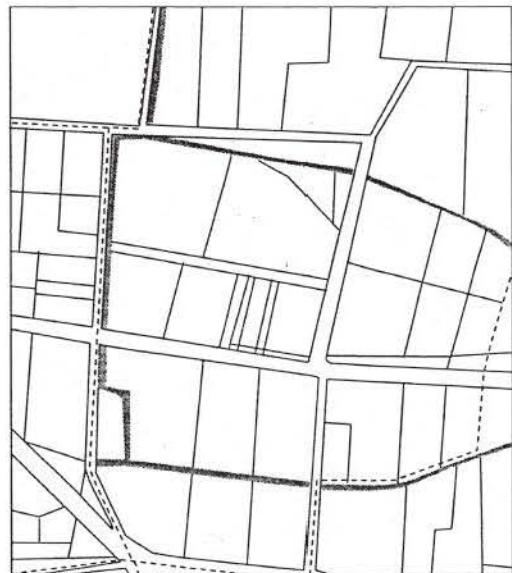


図 194 高槻砦 小字図

（中西 2014 より転載）

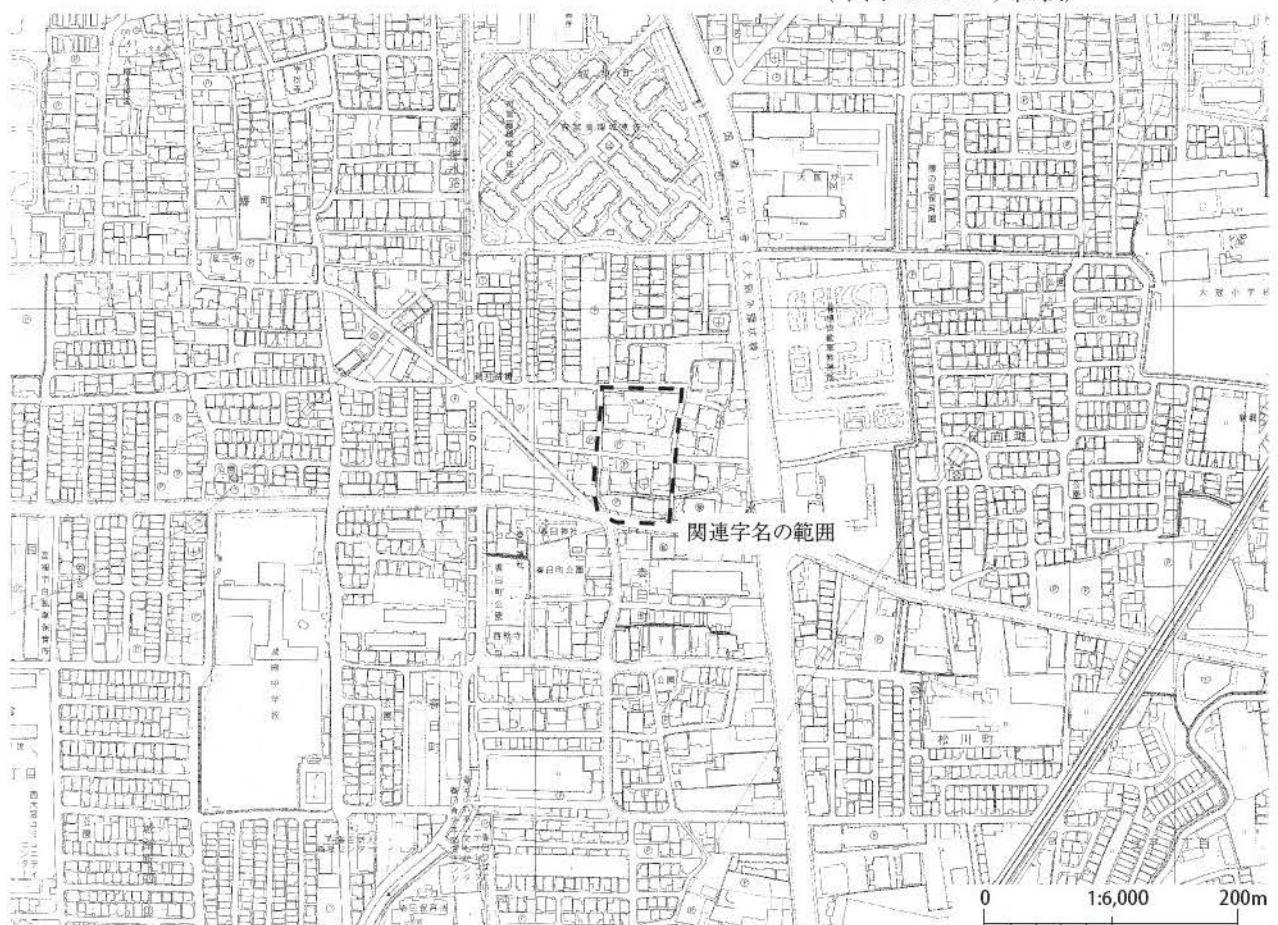


図 195 高槻砦 位置図 (1:6,000)

【史料】

『摂津志』

【参考文献】

井上 1922、大阪府 1903、田代・渡辺・石田（編）1981、中西 2014、中村（編）2007、藤岡・  
桜井（編）1960

〔No.71〕田中城

所在地 高槻市月見町・真上町1丁目 位置 東経 135.6119 北緯 34.8564  
立地 平野部 標高 16m 比高 0m 城域 不明 時期 宝徳元年（1449）

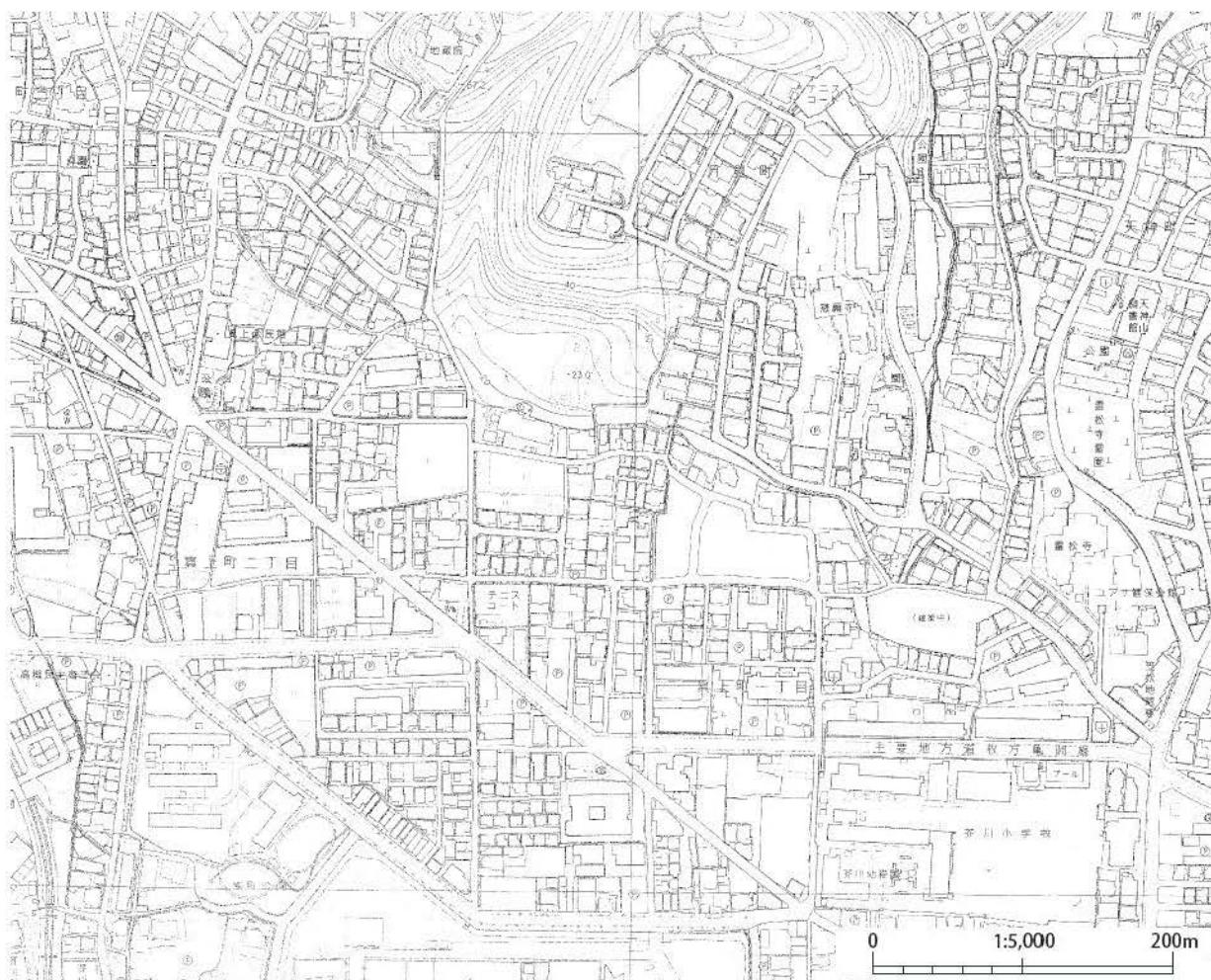


図 196 田中城 位置図 (1:5,000)



図 197 田中城 小字図



図 198 田中城 航空写真 (1948 年撮影)

### 【城館の概要】

田中城は、高槻市月見町・真上町1丁目に所在するとされる平城。築城時期は15世紀、城主は真上政資とされる。

近世地誌には記載されておらず、『高槻市史』所収の「真上氏子孫次第」(宝徳元年(1449))には真上氏の庶子家にあたる真上庄地頭の真上政資が「住真上田中城」と記されている。市史では比定地を真上氏の菩提寺地蔵院の丘の近くにあって江戸時代に真上庄村屋をつとめた田中家の地と推定している。文献史料上には「真上田中城」がみえるものの、位置・遺構については不明な点が多い。

### 【史料】

『真上氏子孫次第』(真上政資、宝徳元年(1449)、藤直幹氏蒐集文書):田中城に関して、「…三男政資、住真上田中城、政資正慶年中忍於東謫、一旦在摂州広田郷、…(中略)…修理亮護真上城三十余年、文和壬辰春讓嫡男政阿、…」との記載がある。

### 【参考文献】

高槻市 1973・1977、田代・渡辺・石田(編) 1981

### (No.72) 柱本城(柱本堡)

所在地 高槻市柱本1丁目

位置 東経 135.6067 北緯 34.7942

立地 平野部 標高 4m 比高 0m

城域 不明 時期 16世紀



図199 柱本城 小字図

### 【城館の概要】

柱本城(柱本堡)は、高槻市柱本1丁目に所在するとされる。築城時期は16世紀と伝わる。小字「城之内」が柱本集落の北方に残る。他に小字「中丸橋」「下丸橋」



図200 柱本城 位置図 (1:5,000)

が集落南西にあり、「東砦」「西丸」等の地名が残ると伝わるが詳細は不明。遺構は地上ではなく、年代等は不明ながら、戦国期の16世紀、高槻周辺の合戦の際に三好長慶、織田信長等の軍勢が柱本に在陣または通過している。『大阪府全志』には柱本堡と記載。

【関連地名】

「城之内」

【史料】

『摂津志』

【参考文献】

井上 1922、田代・渡辺・石田（編）1981、中村（編）2007、藤岡・桜井（編）1960

〔No.73〕 服部砦

所在地 高槻市大蔵司 位置 東経 135.5978 北緯 34.8612

立地 平野部 標高 25m 比高 0m 城域 不明 時期 不明

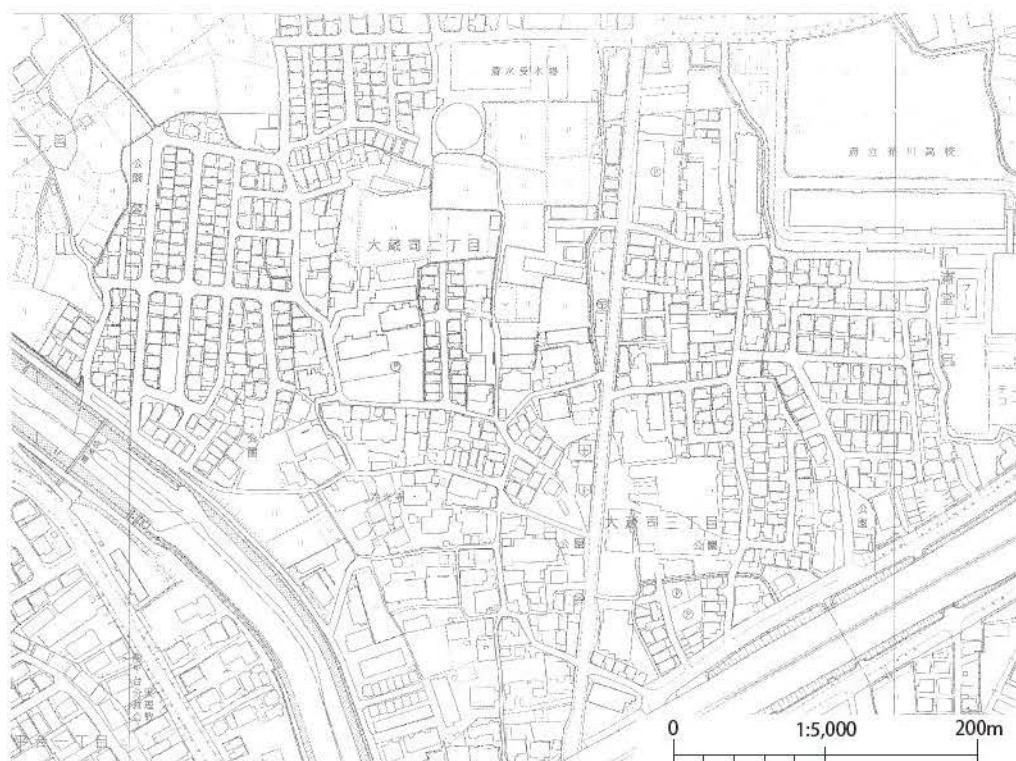


図 201 服部砦 位置図 (1:5,000)



図 202 服部砦 小字図



図 203 服部砦 航空写真 (1948年撮影)

### 【城館の概要】

服部砦は、高槻市大蔵司に所在するとされる砦。「南垣内」が大蔵司集落の西側に残るが遺構の詳細は不明。『大阪府全志』には「服部砦」として「服部砦の址は（大字服部の）西南字大蔵司にあり、三好長慶の支城を郡家に築くに当り、水利其の宜しきを得ざるを以て、水道を設けて服部の河水を郡家に引き、城の成るや其の地は其の水源なるを以て、砦を築いて兵士をして守らしめたる所なりといふ。今其の址は明に認め難けれども、郡家井戸といへる小池を存せり」と記載。『全志』の郡家用水に関する記述は、①史料・伝承による三好長慶による郡家村への水利の裁定や、②大蔵司の南西に接する芥川からの郡家の用水が取水されていること、に由来する可能性が高い。なお、「郡家井戸」の詳細は不明。

### 【関連地名】

「南垣内」



図 204 真上城 位置図 (1:6,000)



図 205 真上城 小字図



図 206 真上城 航空写真 (1948 年撮影)

## 【参考文献】

井上 1922、大阪府 1903、岡田 1701、田代・渡辺・石田（編）1981、藤岡・桜井（編）1960

## 〔No.74〕 真上城

所在地 高槻市西真上町 1 丁目 位置 東経 135.6031 北緯 34.8578

立地 平野部 標高 20m 比高 0m 城域 不明 時期 14世紀以降

## 【城館の概要】

真上城は、高槻市西真上町 1 丁目に所在するとされる平山城。時期は 14 世紀以降、城主は真上氏と伝わる。

近世地誌には記されていない城館で、現状では地上に遺構は留めていない。『高槻市史』所収の文和元年（1352）2月「摂津国真上村田地注文」に真上村の四至が記され、その文中に「真上城屋敷」がみえる。『市史』では城屋敷の四至の記述からは笠森神社に隣接する位置に比定している。ただし『市史』でも指摘しているとおり年号や語句の記述から史料の転写過程に不審な点もある。真上氏は鎌倉時代には西国御家人として活躍し、真上庄の地頭職を保有するなどしたが文明年間には衰亡している。文明 6 年（1474）3 月付野田泰忠軍忠状には「文明元年 7 月 11 日摂州安照寺之城破之」とあり、笠森神社の北東の丘陵先端に安照（性・正）寺があつたことから、これが真上城もしくは安照寺の位置にあった城館を示す可能性がある。

## 【史料】

『摂津国真上村田地注文』（文和元年（1352）、屋代弘賢氏所蔵「集古文書」）：「…一真上城屋

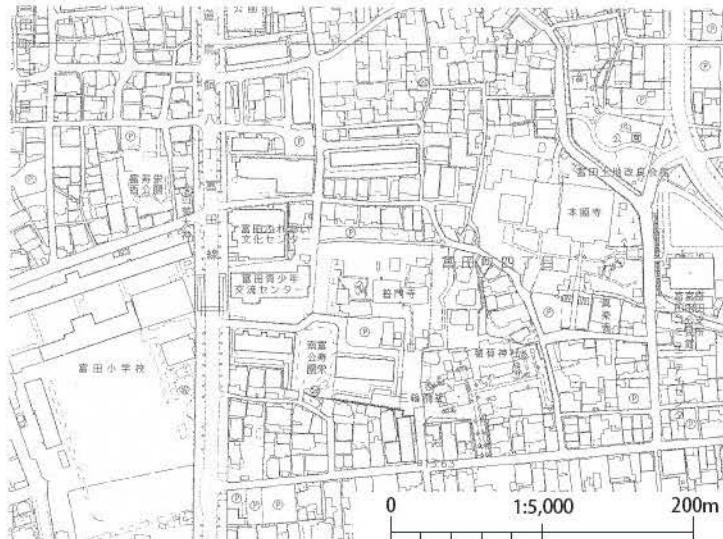


図 207 普門寺城 位置図 (1:5,000)



図 208 普門寺城 小字図



図 209 普門寺城 航空写真 (1948 年撮影)

敷 限東繩 限南堀笠懸馬場南 限西繩奈良方西方 屋敷 限北繩…」との記述あり。

### 【参考文献】

高槻市 1973、高槻市 1977、田代・渡辺・石田（編）1981、藤岡・桜井（編）1960

[No.75] 普門寺城

所在地 高槻市富田町 4 丁目 位置 東経 135.5928 北緯 34.8306  
立地 丘陵上 標高 16m 比高 0m 城域 不明 時期 16世紀

## 【城館の概要】

普門寺城は、高槻市富田町4丁目に所在するとされる平城。築城時期は16世紀。遺構は、土塁・堀が認められる。

富田寺内町の北西端に位置する普門寺は臨済宗の禅寺で、現在の境内全域が国指定名勝に指定されている。寺伝によれば明徳元年（1390）の開創で、当寺において室町幕府管領の細川晴元が病没、足利義栄が征夷大將軍に就任するなど幕府中枢とのつながりが深い。この名勝庭園の背後にあたる、境内の北・西辺には土塁とその外側に堀がめぐっている。

### 【参考文献】

井上 1922、大阪府 1903、高槻市教育委員会 2002、田代・渡辺・石田（編）1981、中西 2015、藤岡・桜井（編）1960

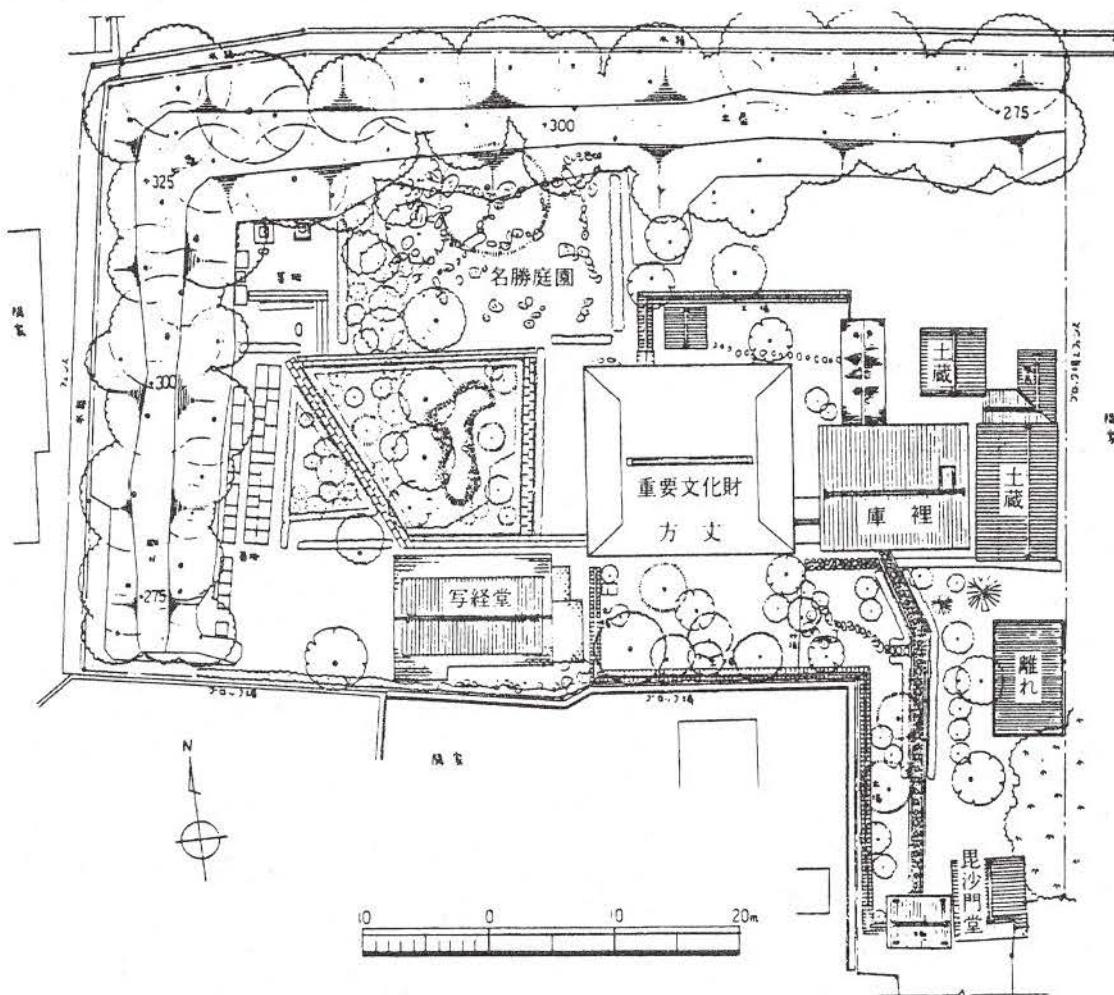


図 210 普門寺城 普門寺境内測量図（高槻市教育委員会 2002 より転載）

## 【茨木市域】

### 〔No.76〕 泉原城（泉原砦）

所在地 茨木市大字泉原字中山、上殿垣内

位置 東経 135.5211 北緯 34.8838

立地 山地 標高 293 m 比高 10 m

城域 不明 時期 中世

### 【城館の概要】

泉原城は茨木市大字泉原に所在する山城である。築城時期は中世と考えられるが詳細は不明で、城主は泉原氏と推定されている。茨木市立清渓小学校の敷地を中心として、東谷川と西谷川に挟まれた地形に築造された連郭式の城砦である。学校本館付近の茶臼山と呼ばれた周辺に、二段に削平された郭が存在したと考えられる。本丸に当たる部分は径 30 m 程の不整円形を呈し、その裾に二の丸が廻る。二の丸との比高は約 3 m である。二の丸は本丸の東部から北にかけて存在し、南北 50 m、東西 10 m 程である。三の丸は二の丸の東に位置し、南北 60 m、東西 30 ~ 50 m 程で、三方を急な傾斜に囲まれており、居館であったと考えられる。

### 【主な調査歴】

なし

### 【主な出土遺物】

なし

### 【関連地名】

なし

### 【史料】

『摂津誌』、『東摂城址図誌』

### 【参考文献】

茨木市・茨木市教育委員会（編）1987、大阪府

文化財調査研究センター（編）1999、中井（監）図 211 『東摂城址図誌』より「泉原城跡」  
2017  
(大阪府立中之島図書館 所蔵)

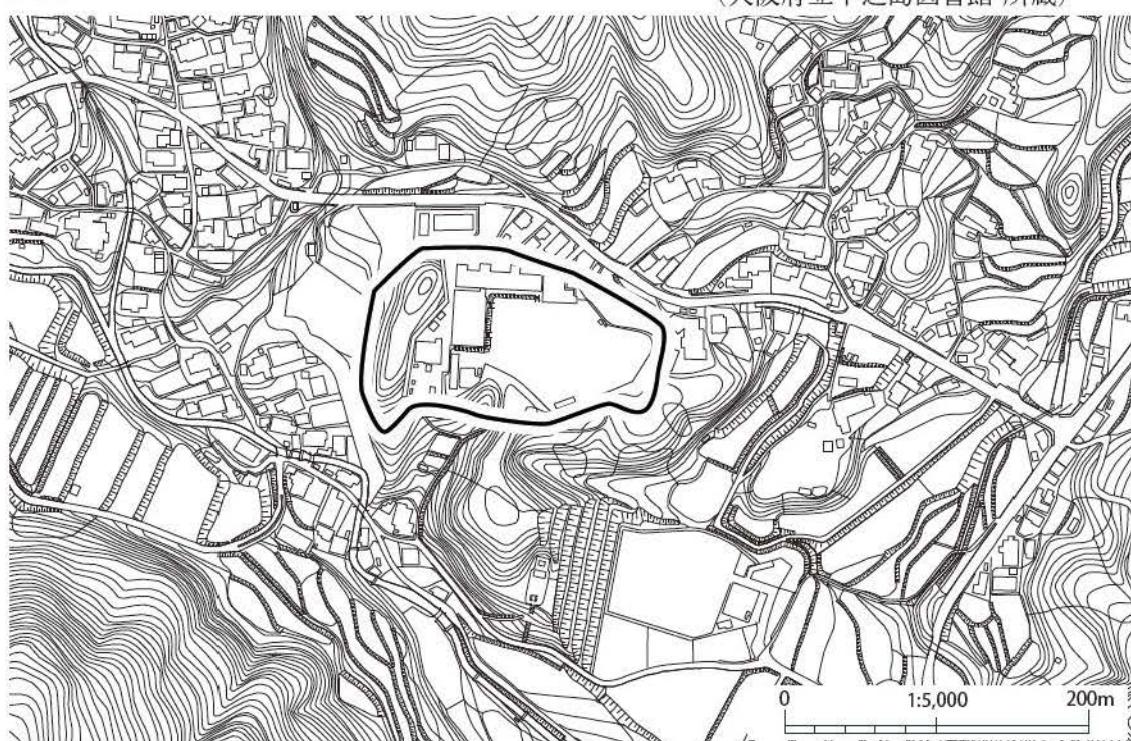


図 212 泉原城 位置図 (S=1/5,000)

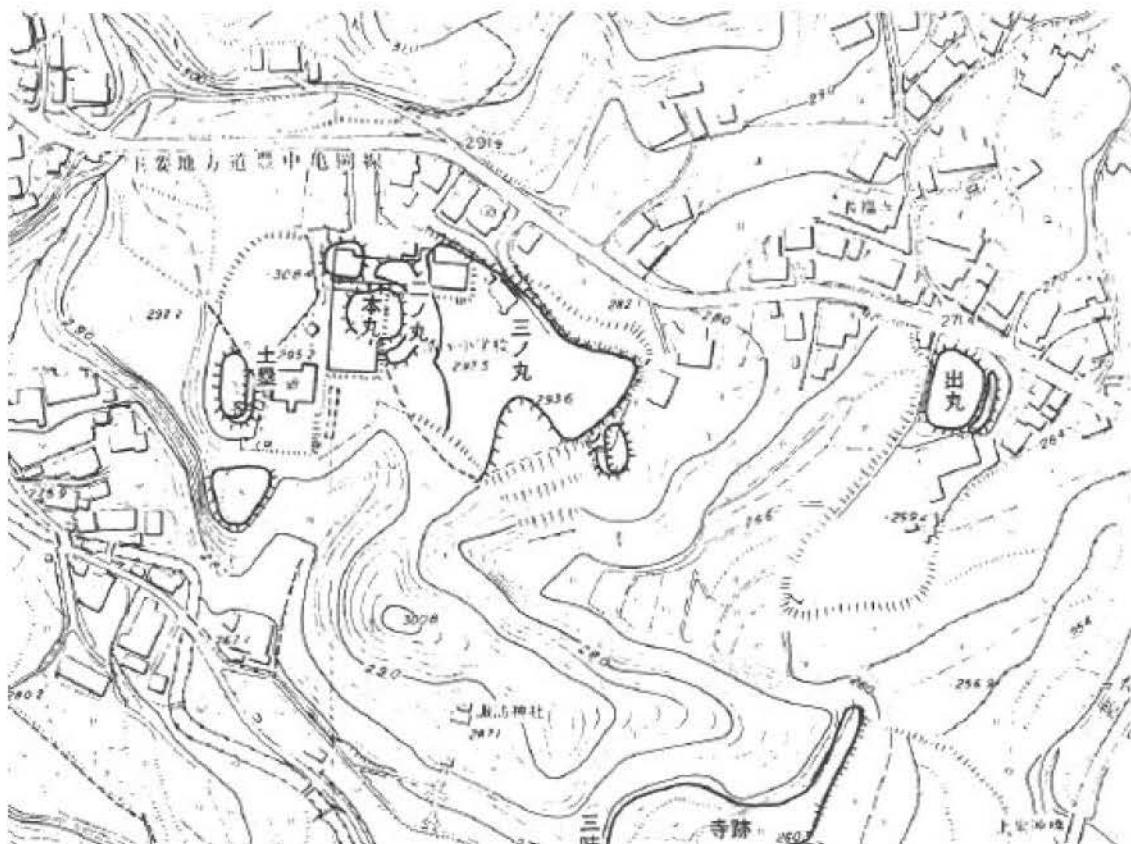


図 213 泉原城 繩張図（茨木市・茨木市教育委員会（編）1987 より転載）

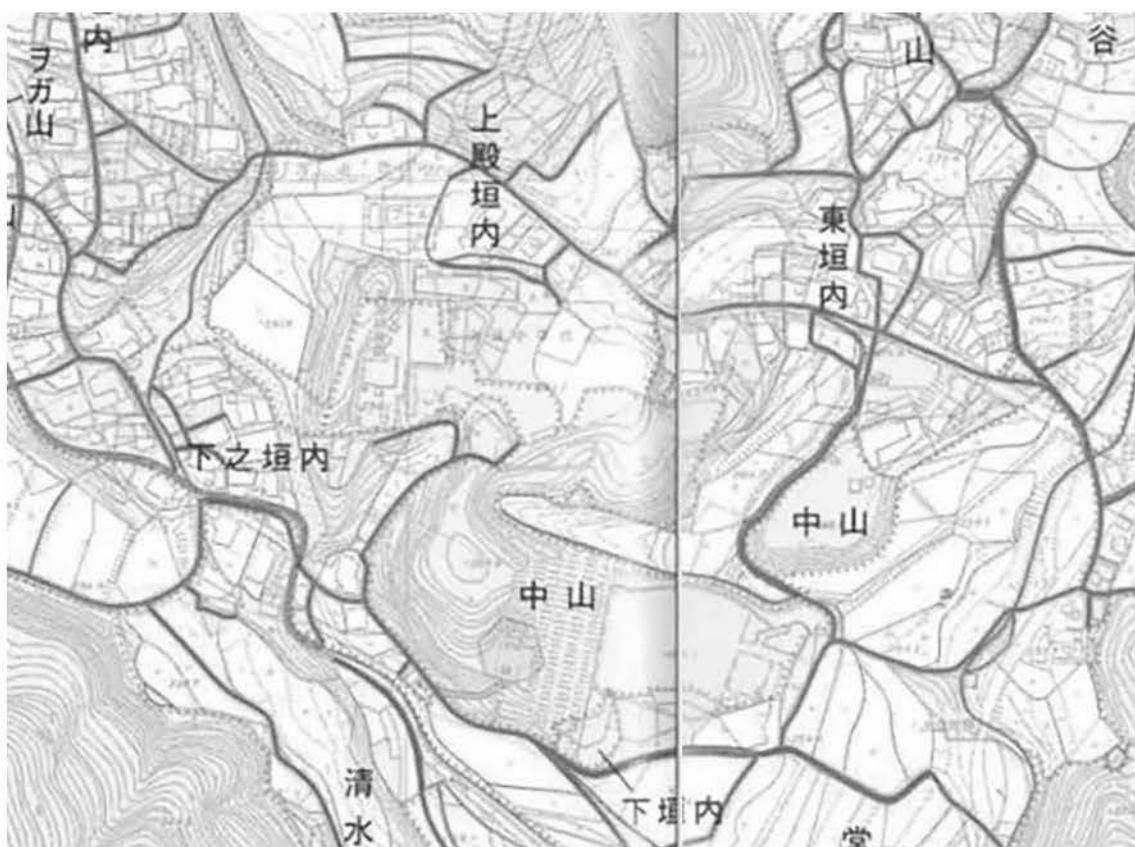


図 214 泉原城 地籍図（茨木市史編さん委員会（編）2008 より転載）

### 〔No.77〕 安威城

所在地 茨木市安威二丁目 位置 東経 135.5648 北緯 34.8487  
立地 丘陵 標高 36 m 比高 27 m 城域 不明 時期 16世紀

#### 【城館の概要】

安威城は茨木市安威二丁目に所在する山城である。築城時期は16世紀と考えられ、城主は安威弥（彌）四郎が築造し、その後は安威五左衛門了佐（重胤）と推定されている。

比高6mほどの段丘崖が安威川に沿って方角を変える箇所を利用して構築されている。東北方向の台地縁線に沿って長さ150m程の土塁の残存が認められる。地点によって規模に差が認められるが、北側の道路に沿う部分では、幅5m、高さ1.5mを測る。東北の隅には矢倉台状の箇所も確認できる。

#### 【主な調査歴】

平成16・17・19・23～25年度 大阪府教育委員会

平成14・22・23年度 茨木市教育委員会

#### 【主な出土遺物】

なし

#### 【関連地名】

なし

#### 【史料】

『東摂城址図誌』、『細川両家記』

#### 【参考文献】

茨木市・茨木市教育委員会(編)1987、田代・渡辺・石田(編)1981

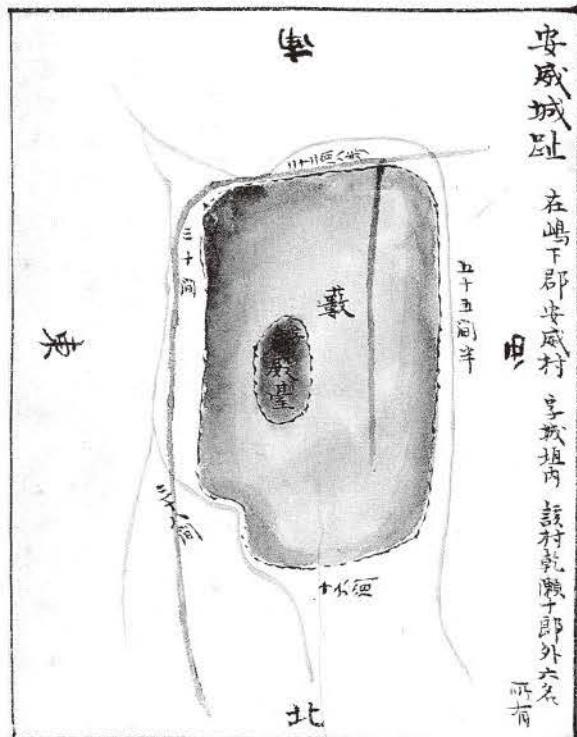


図215 『東摂城址図誌』より「安威城跡」  
(大阪府立中之島図書館 所蔵)

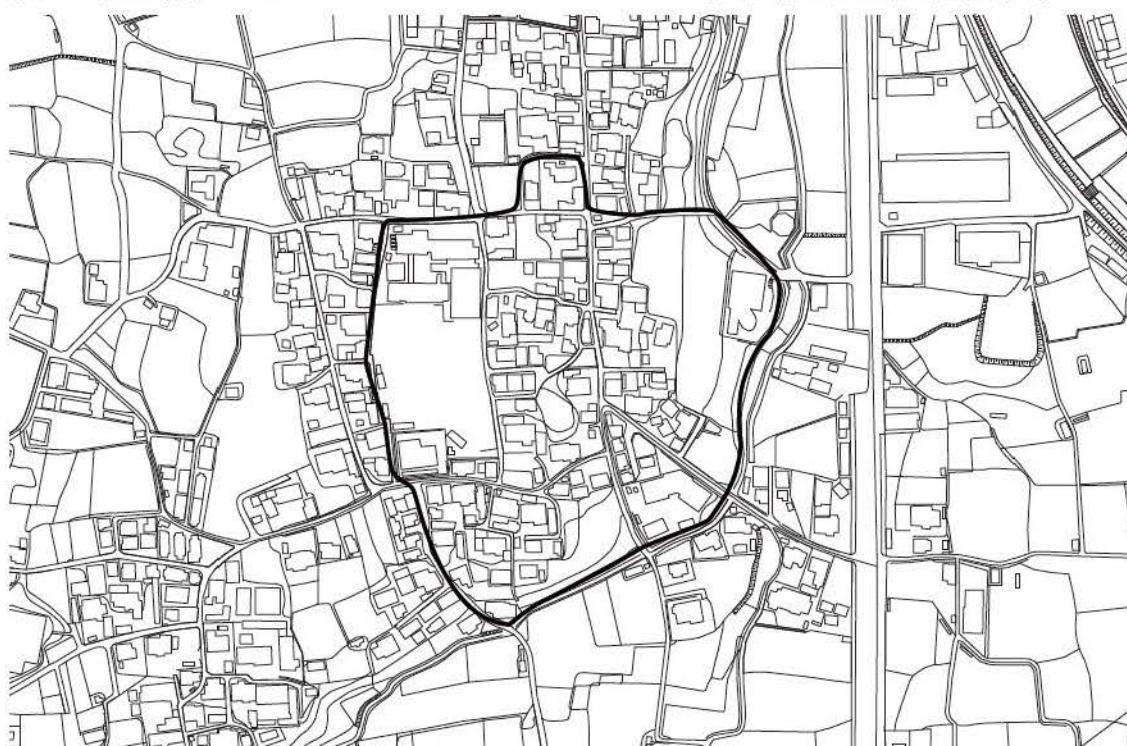


図216 安威城 位置図 (S=1/5,000)

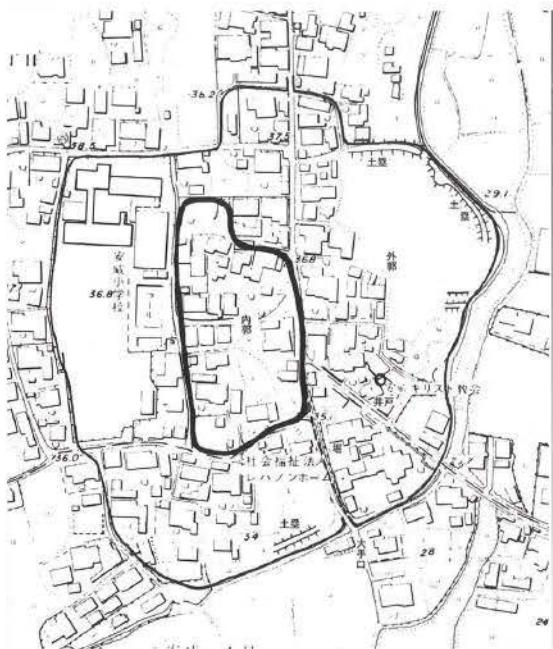


図 217 安威城 繩張図



図 218 安威城 地籍図

(茨木市・茨木市教育委員会(編) 1987 より転載) (茨木市史編さん委員会(編) 2008 より転載)

#### (No.78) 茨木城(茨木遺跡)

所在地 茨木市片桐町・元町・本町・上泉町

位置 東経 135.5714 北緯 34.8204

立地 平地 標高 11 m 比高 0 m 城域 不明 時期 南北朝期～元和3年(1617)

#### 【城館の概要】

茨木城は茨木市片桐町・元町・本町・上泉町の安威川南岸に所在する平城である。築城時期は建武年間(1334～36)に楠木正成が築いたとの説、あるいは安富氏が築いたとの説、また、福富氏が築いたとの説もあるが、詳細は不明である。城主は『東摂城址図誌』には天正元年(1573)から元和2年(1616)にかけての城主が記されている。大阪冬の陣後、元和元年(1615)に徳川家康の命により茨木城は破却され、本丸・二の丸・堀敷などの大部分が田畠に開墾された。現在では地上にほとんど痕跡がなく、江戸時代の絵図類でも城郭部分に関してはその構造をうかがわせるような記載がない。

平成18年(2006)、茨木城の東堀が想定されていた地点において発掘調査が行われ、流路跡から化粧板、遣り戸、篠欄間、明かり障子、短冊状板材、柱材等の建具類が出土した。特に篠欄間は建築史学的にみて格式高いものと評価できるが、茨木城に関連するものは不明である。

#### 【主な調査歴】

平成18年(2006)度 茨木市教育委員会(茨木市教育委員会 2007)

#### 【主な出土遺物】

建具(化粧板、遣り戸、篠欄間、明かり障子、柱材、曇)・瓦・陶磁器・鉄製鍬先等

#### 【関連地名】

旧字本丸、殿町、城ノ町

#### 【史料】

『晴富宿禰記』、『蓮成院記録』、『言継卿記』、『多聞院日記』、『細川両家記』、『信長公記』、『東摂城址図誌』、『茨木町故事雑記』、『茨木御城跡開改之帳』、『野田泰忠軍忠状』、『武城旧記』

#### 【参考文献】

茨木市・茨木市教育委員会(編) 1987、茨木市教育委員会 2007、茨木市史編さん委員会(編) 2016、茨木市立文化財資料館(編) 2016、大阪府学務部(編) 1928、高槻市立しろあと歴史館(編) 2014、田代・渡辺・石田(編) 1981、中井(監) 2017、中西 2015、中村(編) 2007

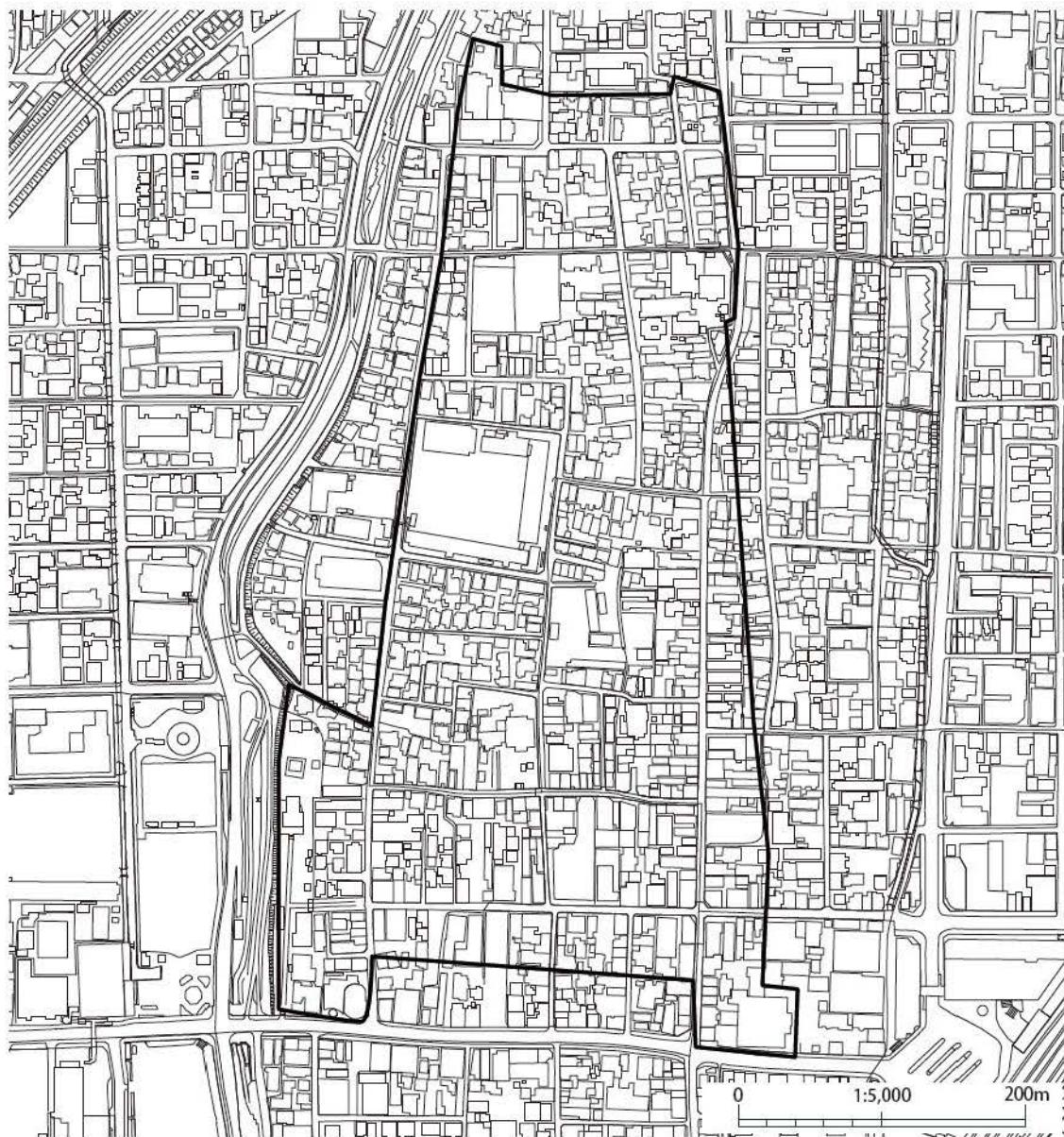


図 219 茨木城 位置図 (S=1/5,000)



図 220 茨木城 地籍図  
(茨木市史編さん委員会 (編) 2008 より転載)

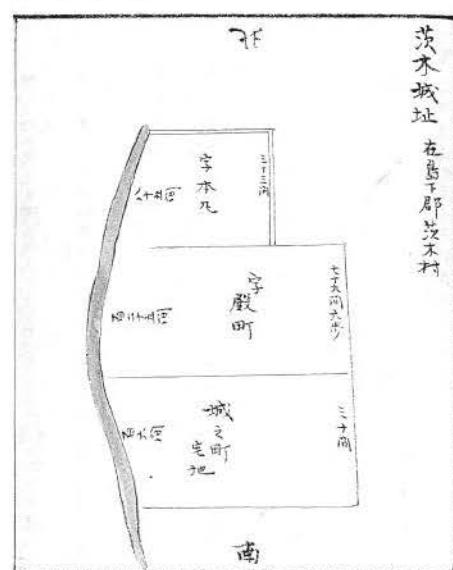


図 221 「東摶城址図誌」より「茨木城址」  
(大阪府立中之島図書館 所蔵)

### (No.79) 太田城

所在地 茨木市太田一丁目 位置 東経 135.5749 北緯 34.8385  
立地 台地 標高 21 m 比高 不明 城域 不明 時期 平安末期

#### 【城館の概要】

太田城は茨木市太田一丁目に所在する平城である。築城時期は治承4年（1180）頃とされ、大永7年（1527）落城と伝わる。城主は太田太郎頼基（太田野太郎）とされている。

平成29・令和元年度（2017・2019）に、旧字「城ノ口」で本発掘調査を実施している。当該地は太田城の主郭部と推測されている。調査の結果、太田城につながるような遺構・遺物は検出されなかった。以前、当該地で建設された工場の造成時に厚く盛土がされているが、それ以前にも中～近世頃の耕作地造成時に削平されたと思われる。

#### 【主な調査歴】

平成29・令和元年度（2017・2019） 茨木市教育委員会、公益財団法人大阪府文化財センター（茨木市教育委員会・大阪府文化財センター2020）

#### 【主な出土遺物】

なし

#### 【関連地名】

旧字城ノ口、城ノ前

#### 【史料】

『細川両家記』、『平家物語』、『玉葉』、『摂津誌』、『摂陽群談』、『続本朝通鑑』

#### 【参考文献】

井上1922、茨木市・茨木市教育委員会（編）（大阪府立中之島図書館所蔵）

1987、三島村誌編纂委員会（編）1990、中井（監）2017

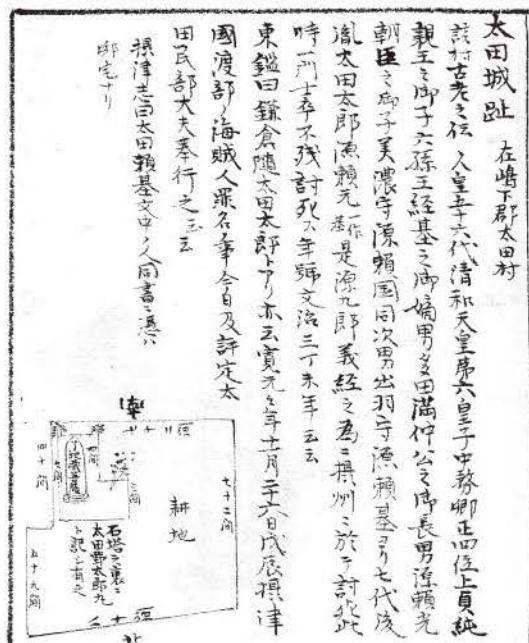


図 222 『東摂城址図誌』より「太田城址」



図 223 太田城 発掘調査状況（南より）

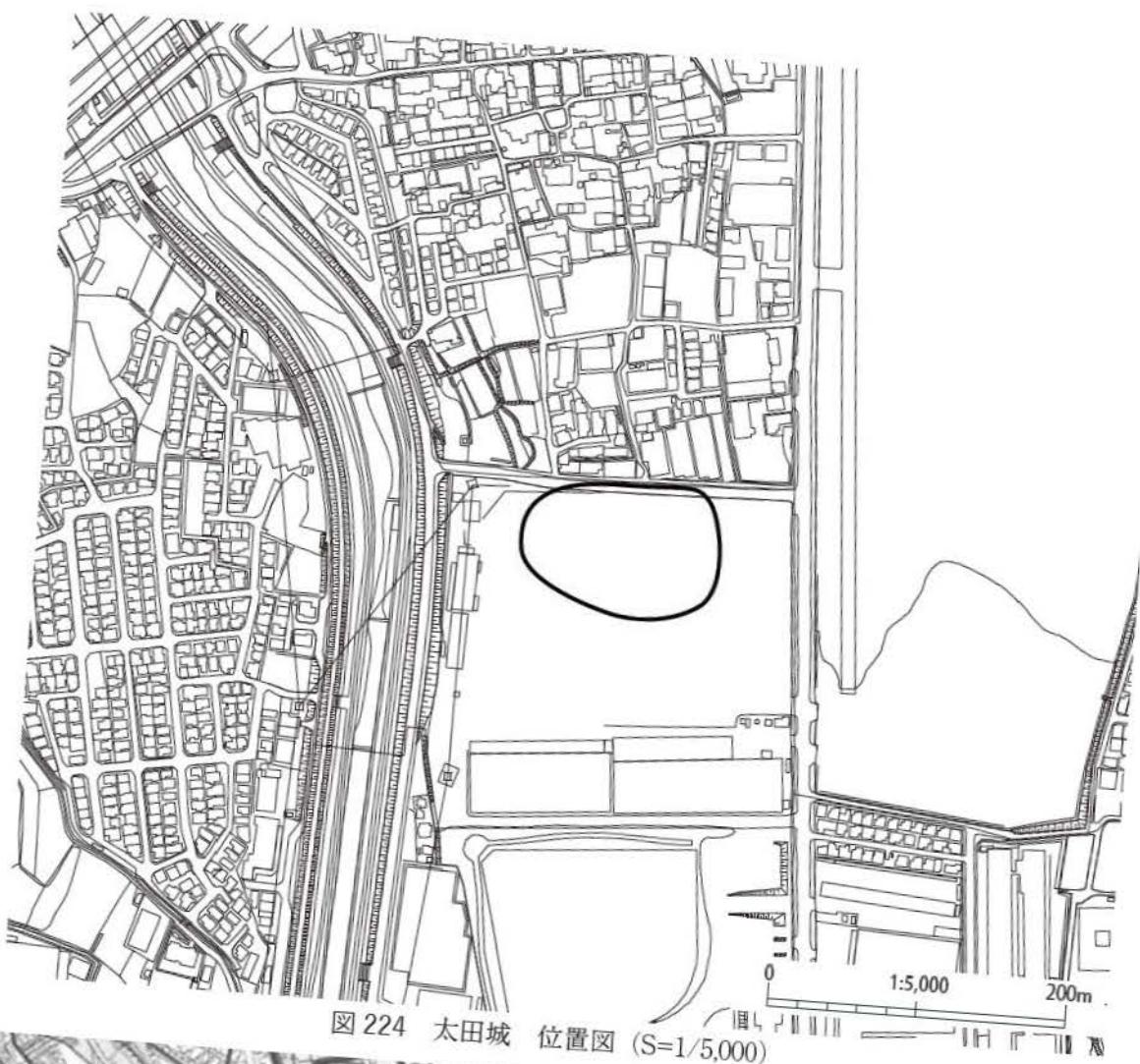


図224 太田城 位置図 ( $S=1/5,000$ )



図225 太田城 地籍図 (茨木市史編さん委員会 (編) 2004 より転載)

### (No.80) 佐保城（里城？）

所在地 茨木市大字佐保字馬場谷 2621

位置 東経 135.5283 北緯 34.8711

立地 山頂部 標高 198 m 比高 60m

城域 90 × 50m 時期 戦国期

#### 【城館の概要】

佐保城は茨木市大字佐保に所在する山城である。築城時期は不明であるが、『尋憲記』によると元亀2年（1571）8月28日に落居とされており、戦国期に機能していたと推定されている。城主は佐保氏と推定されているが、史料には記載がない。

標高198mの小丘を利用して築かれた、主軸をほぼ東西に長さ80m、幅30m程の楕円形とした単郭式の城である。東側の丘陵を堀切で遮断しており、曲輪は南を除く三方向に土塁を伴う小判型である。虎口は南側と北側にあり、南側は2か所の虎口跡が残る。

#### 【主な調査歴】

なし

#### 【主な出土遺物】

なし

#### 【関連地名】

旧字堀切、宮ノ上

#### 【史料】

『尋憲記』、『摂津誌』

#### 【参考文献】

茨木市・茨木市教育委員会（編）1987、大阪府文化財調査研究センター（編）1999、中井（監）

2017



図 226 『東摂城址図誌』より「佐保砦址」  
(大阪府立中之島図書館 所蔵)



図 227 佐保城 位置図 (S=1/5,000)



図 228 佐保城 繩張図（茨木市・茨木市教育委員会（編）1987 より転載）



図 229 佐保城 地籍図（茨木市史編さん委員会（編）2008）

### 〔No.81〕福井城（出張城・楠公砦城）

所在地 茨木市東福井三丁目 位置 東経 135.5513 北緯 34.8513

立地 段丘 標高 45 m 比高 7～8 m 城域 290 m × 410 m 時期 南北朝期～戦国期

#### 【城館の概要】

福井城は茨木市東福井三丁目に所在する山城である。築城時期は建武元年（1334）とされている。楠木正成が築城し、以降は赤松範資・佐々木秀詮・細川氏がそれぞれ守護代を置いたと考えられる。史料によると、大永7年（1527）に落城したとされている。

平成26・30年度（2014・2018）に発掘調査が行われており、平成26年度（2014）発掘調査は、福井城の三の丸とみられる旧字城ノ畠（畠）にて実施され、鍛冶炉跡3基・井戸・堀・石



図 230 福井城 位置図 (S=1/5,000)

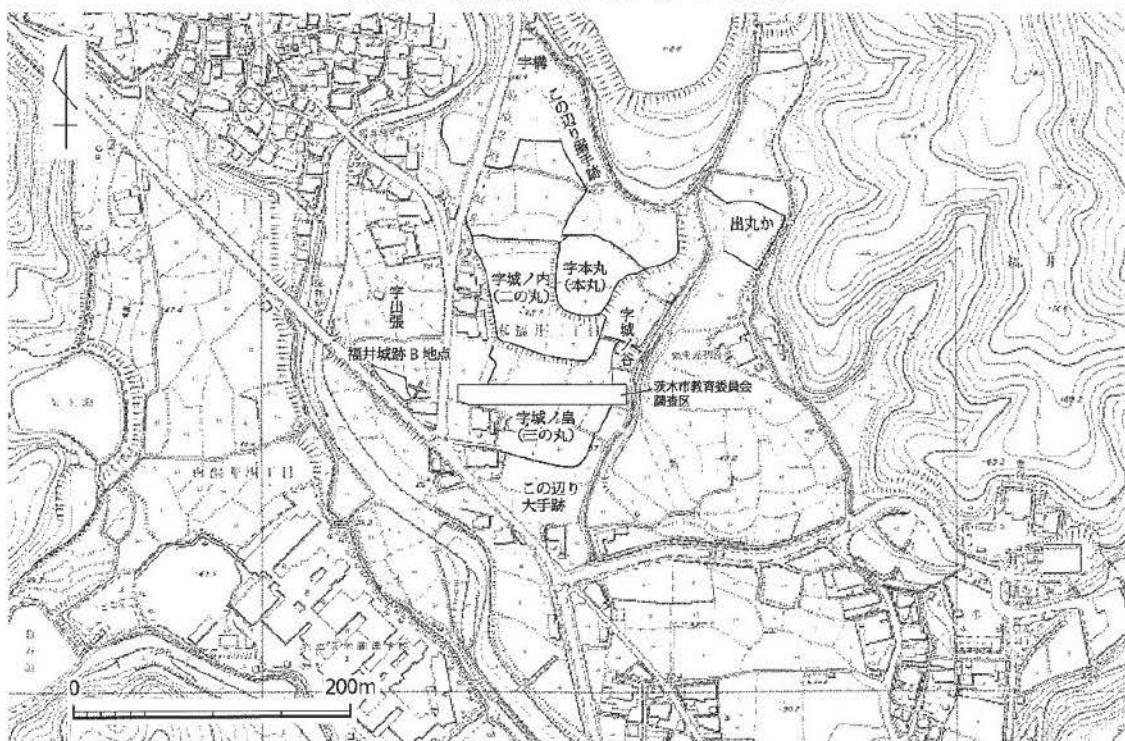


図 231 福井城 縄張図 (大阪府教育委員会 2020 より転載)

列などの遺構を確認した。時期は、13～14世紀とみられる。平成30年度（2018）の調査は、旧字出張にて実施された。調査の結果、火葬土坑墓などがみつかり、墓域が想定される。遺構は14世紀半ば～15世紀前半、遺物は13世紀後半～15世紀前半にかけてのものである。

#### 【主な調査歴】

平成26年度（2014） 茨木市教育委員会

平成30年度（2018） 大阪府教育委員会

#### 【主な出土遺物】

土師器、須恵器、瓦器、陶磁器、瓦、釘等

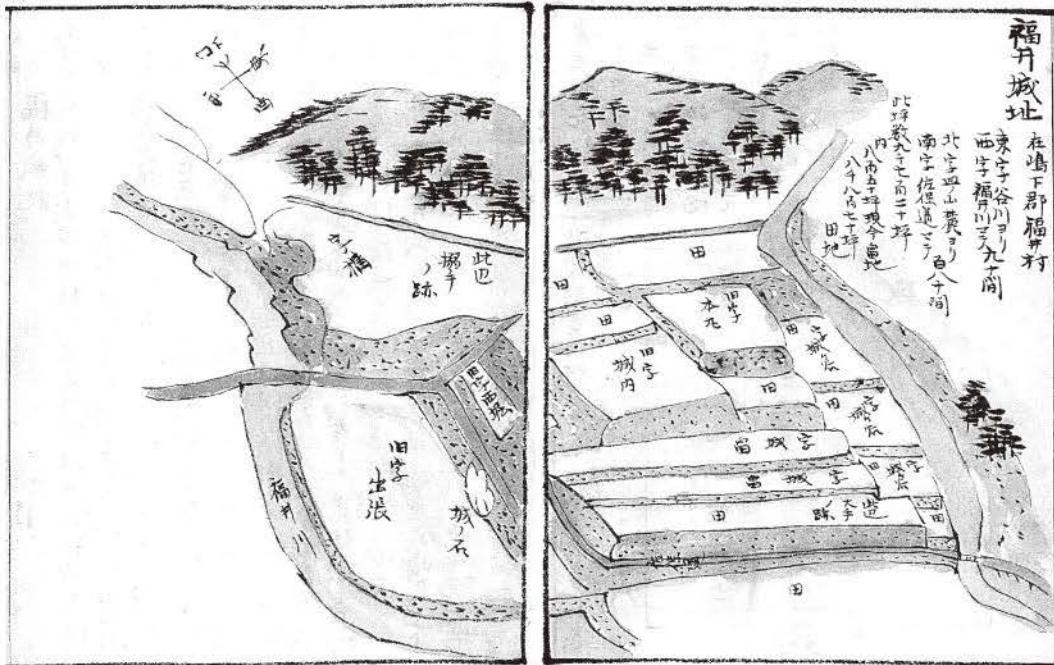


図 232 『東摂城址図誌』より「福井城址」(大阪府立中之島図書館 所蔵)



図 233 福井城 航空写真 (南より)

#### 【関連地名】

旧字本丸・城ノ内・城ノ畠（畠）・城ノ谷・大手跡、搦手跡、出丸、構、西ノ堀、出張、矢上

#### 【史料】

『福井村誌』、『新屋大社俗縁起』、『細川両家記』、『東摂城址図誌』、『摂津誌』

#### 【参考文献】

井上 1922、茨木市・茨木市教育委員会（編）1987、茨木市史編さん室（編）2000、茨木福井の歴史編纂委員会（編）1997、大阪府立近つ飛鳥博物館（編）2016、田代・渡辺・石田（編）1981、中井（監）2017

## (No.82) 三宅城

所在地 茨木市藏垣内三丁目、大正町

位置 東経 135.5575 北緯 34.7925

立地 平野 標高 6.5 m 比高 不明

城域 不明 時期 戦国期

### 【城館の概要】

三宅城跡は茨木市藏垣内三丁目、大正町に所在する平城である。築造時期は15世紀後半から16世紀とみられ、『後法興院記』には文明14年(1482)、三宅城が落城したという記載がある。一方で『三宅落城濫觴』では「天文18年(1549)3月29日、細川晴元の強襲により三宅国村夫妻自刃し、三宅城は落城」したという記載がある。前述したように城主は三宅氏であると考えられる。

現在、地表面には明瞭な痕跡が認められないが、昭和30年代以前には、堀跡や曲輪の輪郭が認められた。戦後撮影の米軍空中写真や近代の地籍図から窺える。主郭部は、小字「城ノ内」の南側一帯に復元されている。東西110m前後、南北90m前後の方形状を呈し、その外側に東西250m前後、南北300m前後の外郭部が存在したと推定される。外郭部の北・東・南には堀が比定されている。

### 【主な調査歴】

なし

### 【主な出土遺物】

なし

### 【関連地名】

旧字城ノ内

### 【史料】

『東摂城址図誌』、『細川両家記』、『摂津誌』、『後法興院記』、『三宅落城濫觴』、『三宅城址看板』

図234 『東摂城址図誌』より「藏垣内城址」

(大阪府立中之島図書館 所蔵)

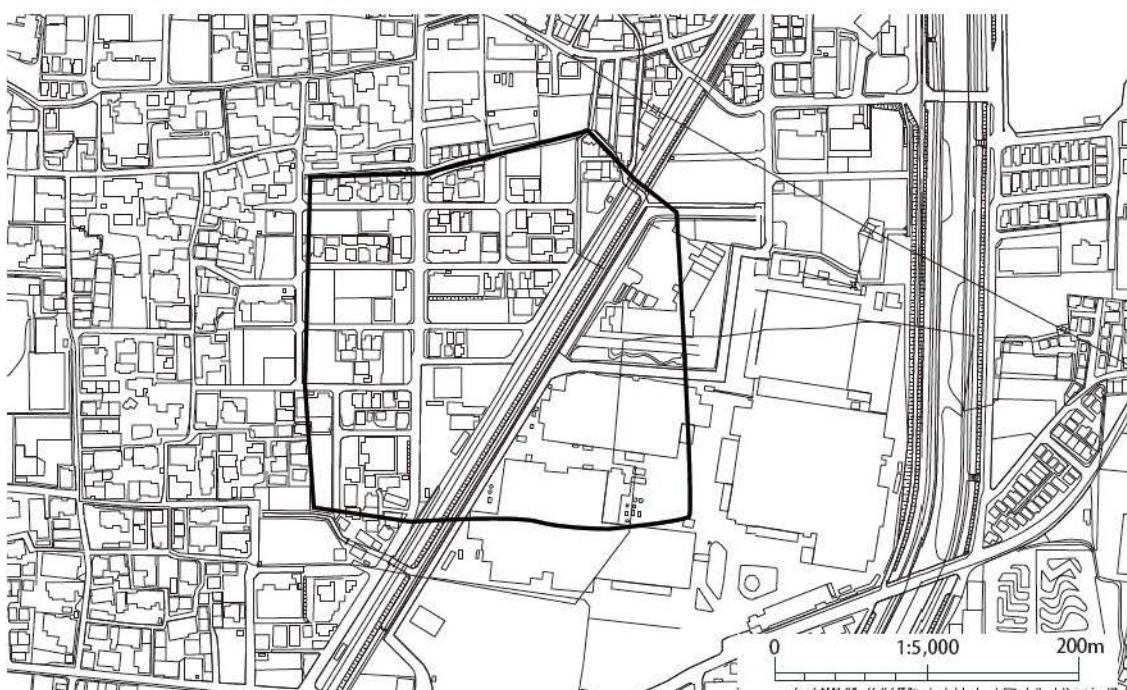
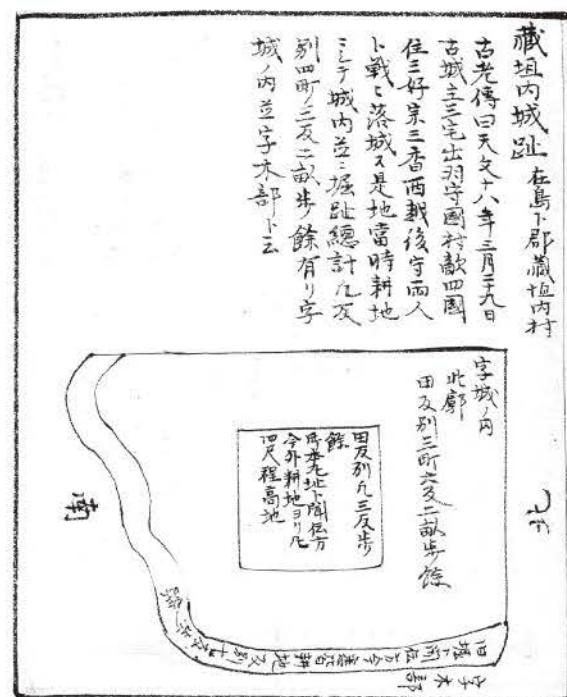


図235 三宅城 位置図 (S=1/5,000)

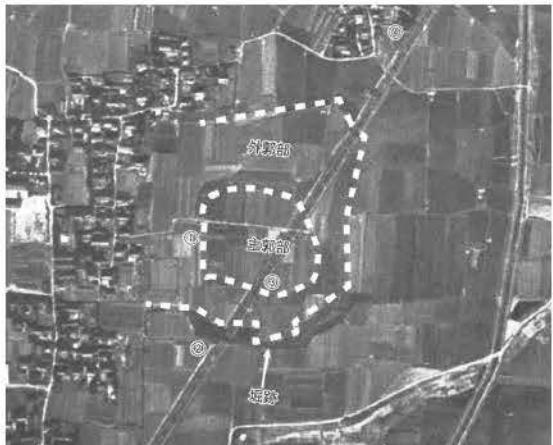


図 236 三宅城 繩張図  
(中井 (監) 2018 より転載)

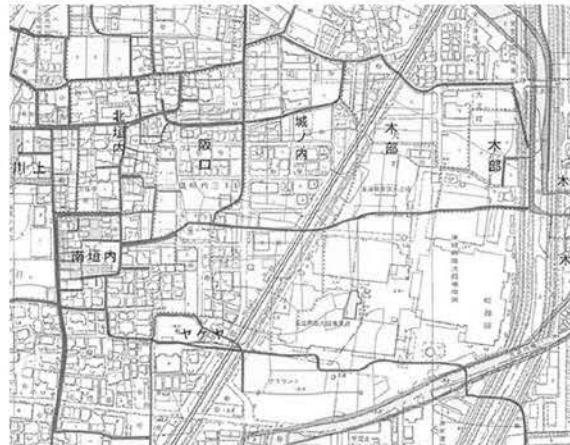


図 237 三宅城 地籍図  
(茨木市史編さん委員会 (編) 2004 より転載)

#### 【参考文献】

岡田 1977、大阪府学務部 1928、田代・渡辺・石田 (編) 1981、中井 (監) 2018、中西 2015

#### 〔No.83〕安威砦

所在地 茨木市安威4丁目 位置 東経 135.5653 北緯 34.8561  
立地 丘陵 標高 89 m 比高 40 m 城域 50 × 100 m 時期 織豊期か

#### 【城館の概要】

安威砦は茨木市安威4丁目に所在する山城である。築造時期は藤原鎌足の築城とする伝承はあるが、詳細については史料に記載がなく不明である。城主は安威氏（安威五左衛門了佐（重胤））と推定されている。

砦は3つの曲輪を中心に構成される（図240）。最も高い位置にあり、四方に土塁を巡らせるIが主郭である。Iの南側には櫓台が認められ、Iの虎口は、北西隅及び南東隅の2か所に認められる。IIは南及び西側に土塁を巡らす。IIの虎口は南東隅及び北東隅に認められる。IIIはIよりも4m低く、Iの南側の防御を目的とした曲輪と考えられる。

#### 【主な調査歴】

なし



図 238 安威砦 遠景 (北より)

【主な出土遺物】

なし

【関連地名】

なし

【史料】

『東摂城址図誌』、『摂津誌』

【参考文献】

中井（監）2017、中西 2015、仁木・福島（編）2015

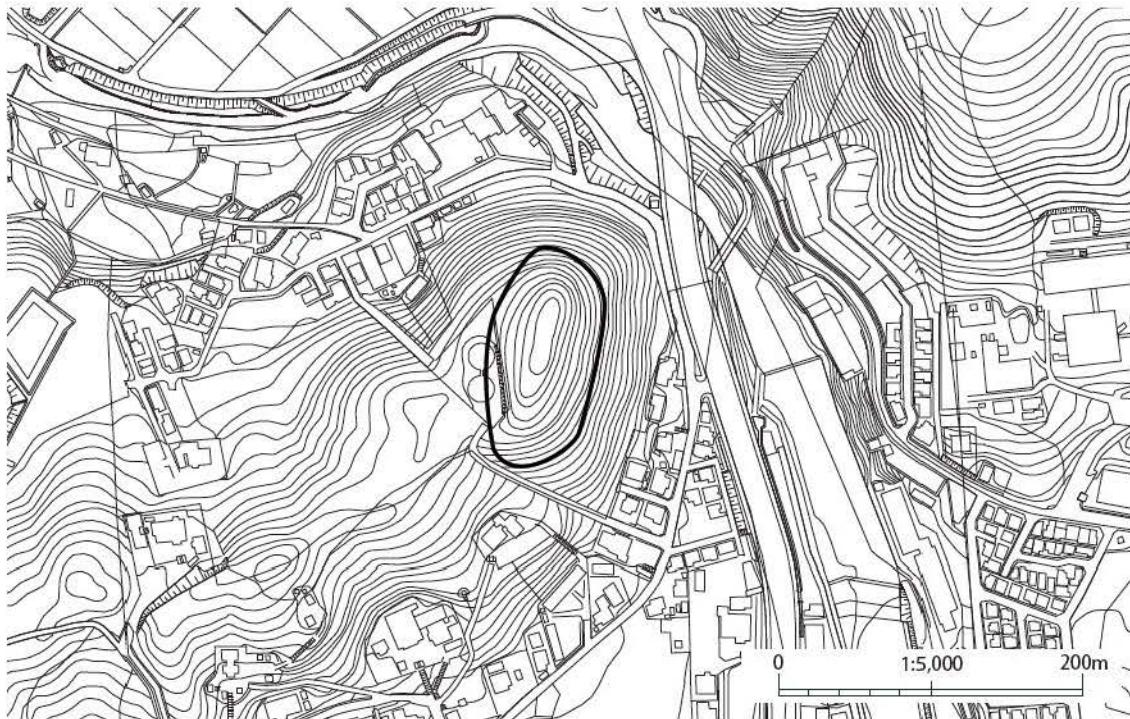


図 239 安威砦 位置図 (S=1/5,000)

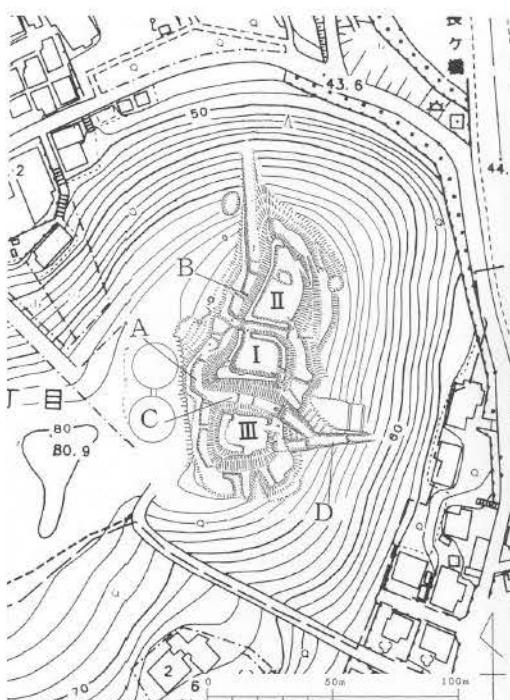


図 240 安威砦 繩張図  
(中井（監）2014 より転載)



図 241 『東摂城址図誌』より「安威砦跡」  
(大阪府立中之島図書館 所蔵)



図 242 安威砦 地籍図

#### 〔No.84〕佐保栗栖山砦

所在地 茨木市佐保字ケルス	位置 東経 135.5406 北緯 34.8663
立地 山頂部 標高 176 m	比高 70 m 城域 150 × 70 m 時期 戦国期

#### 【城館の概要】

佐保栗栖山砦は茨木市佐保字ケルスに所在する山城である。築造時期は出土遺物から15世紀末～16世紀中葉頃と考えられる。城主は不明である。

砦跡は、北東から南西へ伸びる尾根先端部に位置する。平成9年（1997）の調査により、尾根頂上部を中心となる曲輪1～3があり、これらを取り囲むように小規模の曲輪が配置されたことがわかった。曲輪は盛土と切土により造成されている。斜面には堀切、石積みが検出された。曲輪1では礎石建物と土塁、曲輪2では掘立柱建物、曲輪3では礎石建物が検出された。砦の改修・変遷や造成土木工事の様相などの成果を得ることができた。

#### 【主な調査歴】

平成9年度（1997） 大阪府文化財調査研究センター（大阪府文化財調査研究センター（編）  
2000）

#### 【主な出土遺物】

土師器小皿、瀬戸美濃皿・碗・水滴、青磁碗、白磁皿・碗、染付皿・碗、土師器鉢、瓦器擂鉢・火鉢・仏花瓶・香炉・風炉、備前擂鉢・甕・徳利・小壺、丹波擂鉢・壺、鉄釘、煽止金具、火

打ち金、鉄鍋、鉄鎌、鉄鎌、鉄刀、鉄小札、銅錢、砥石、石臼、碁石、火打ち石、土壁  
【関連地名】

なし

【史料】

『東摶城址図誌』

【参考文献】

大阪府文化財調査研究センター（編）2000、高槻市立しろあと歴史館（編）2014、中井（監）  
2017、中西 2015、仁木・福島（編）2015



図 243 佐保栗栖山砦 発掘調査状況(東より)  
(大阪府文化財調査研究センター（編）2000)

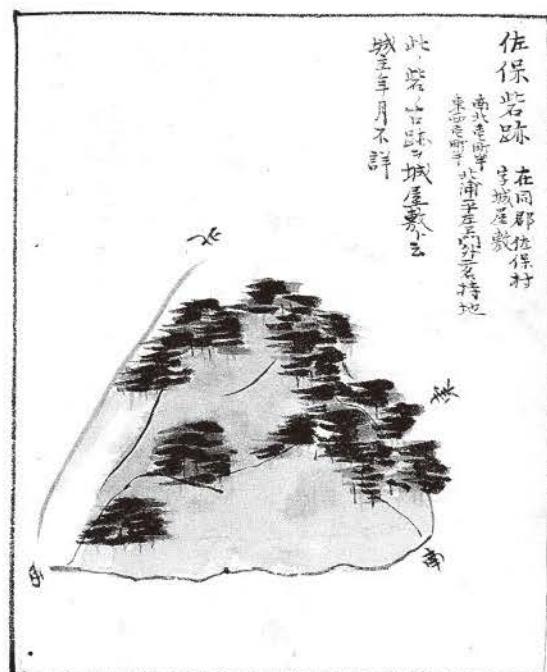


図 244 「東摶城址図誌」より「佐保砦跡」  
(大阪府立中之島図書館 所蔵)

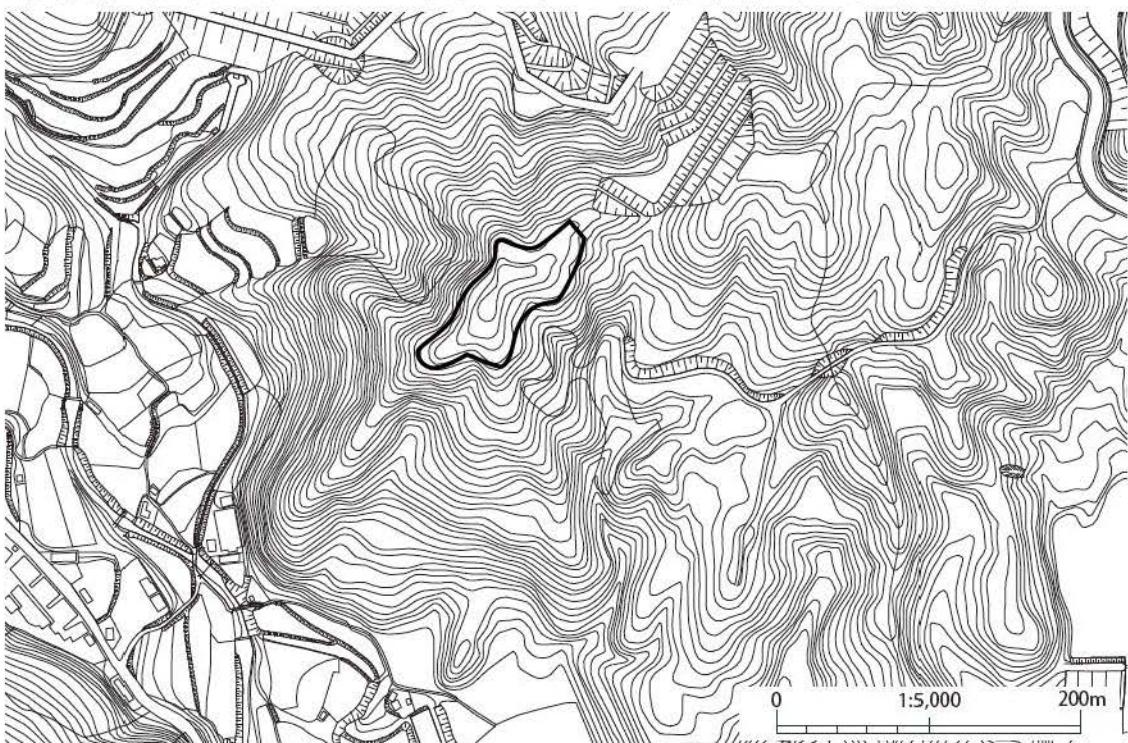


図 245 佐保栗栖山砦 位置図 (S=1/5,000)

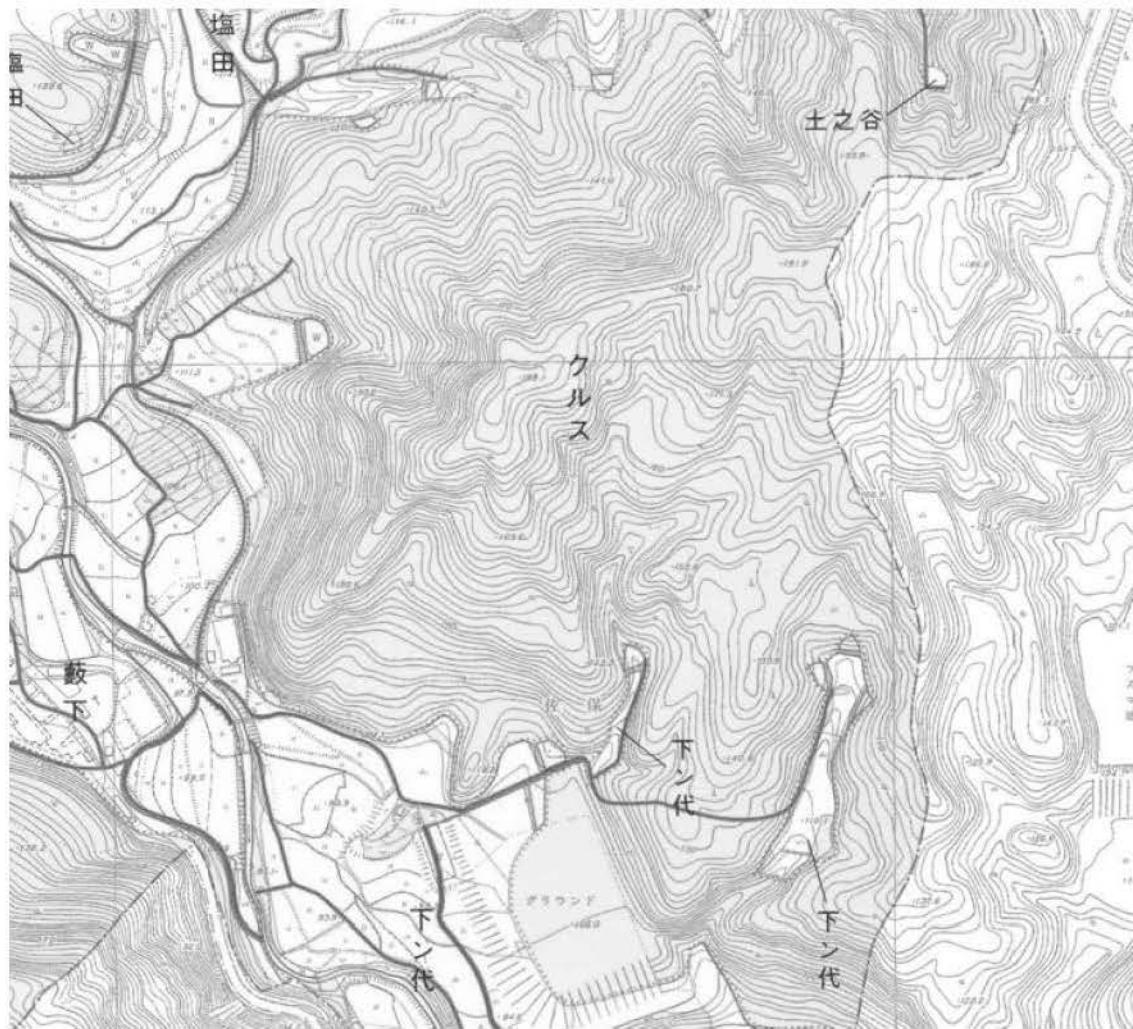


図 246 佐保栗栖山砦 地籍図（茨木市史編さん委員会（編）2004 より転載）



図 247 佐保栗栖山砦 遺構配置図（大阪府文化財調査研究センター（編）2000 より転載）

### (No.85) 郡山城

所在地 茨木市郡山1丁目（諸説あり）

位置 東経 135.5465 北緯 34.8330

立地 台地 標高 63 m 比高 不明

城域 不明 時期 15～16世紀

#### 【城館の概要】

郡山城跡は茨木市郡山1丁目に所在すると考えられる丘城である。築造時期は15世紀～16世紀と考えられるが詳細は不明である。史料によると城主は郡兵太夫宗弘（高利平太夫）、郡主馬宗保とされる。

#### 【主な調査歴】

なし

#### 【主な出土遺物】

なし

#### 【関連地名】

旧字門口、物見塚、城ノ内（現西之辻か）

#### 【史料】

『郡氏由緒書』、『陰徳太平記』、『摂津誌』、『摂陽群談』、『信長公記 卷十一』

#### 【参考文献】

井上 1922、高槻市立しろあと歴史館（編）  
2013、中西 2015



図 248 「東摂城址図誌」より「郡山城址」  
(大阪府立中之島図書館 所蔵)

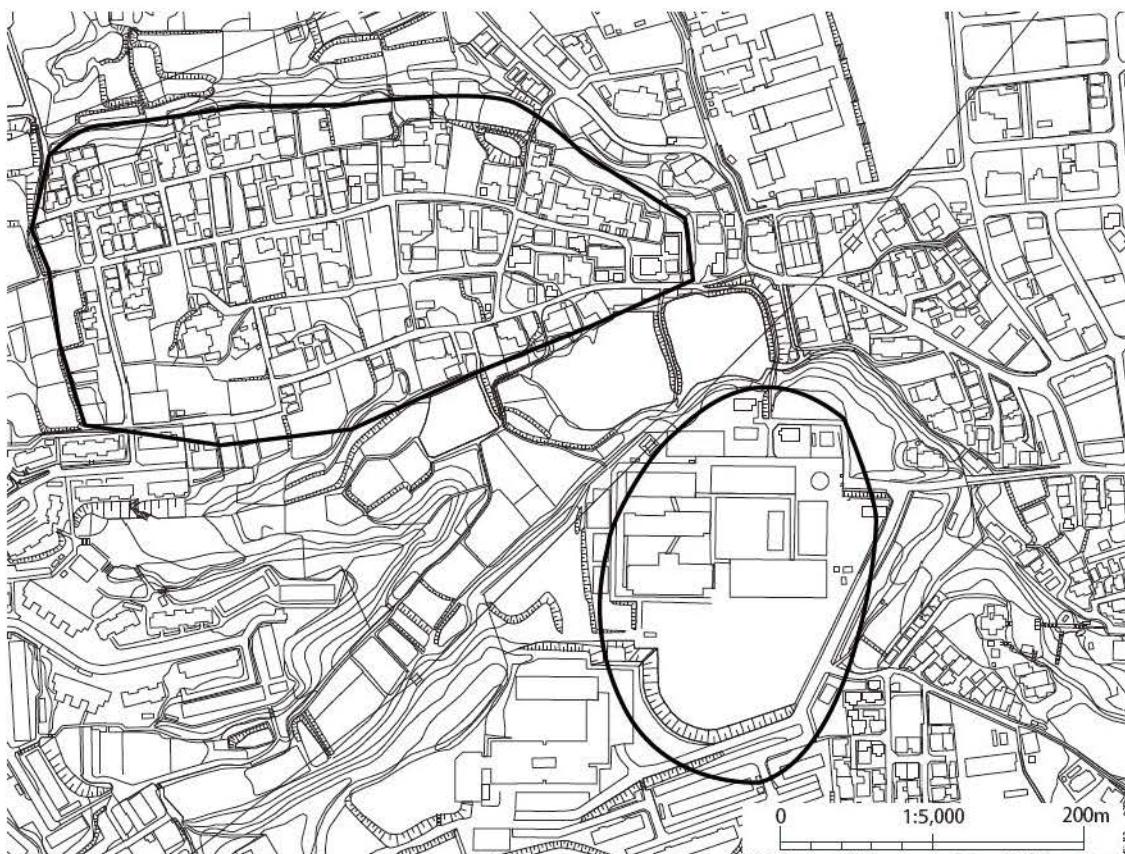


図 249 郡山城・郡山寺内町 位置図 (S=1/5,000)

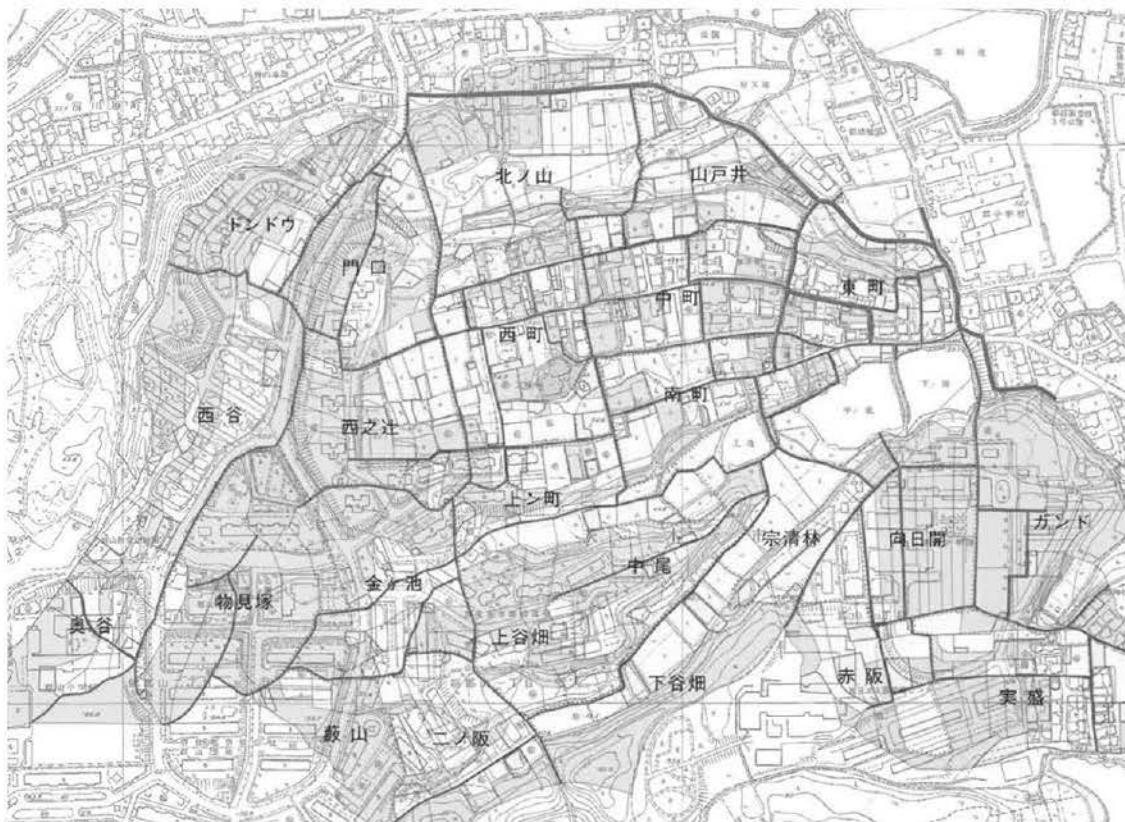


図 250 郡山城・郡山寺内町 地籍図（茨木市史編さん委員会（編）2004 より転載）

#### 〔No.86〕 郡山寺内町（郡山道場、郡山堂宇）

所在地 茨木市郡山2丁目、新郡山1丁目 位置 東経 135.5489 北緯 34.8337

立地 台地 標高 52 m 比高 不明 城域 不明 時期 中世

##### 【城館の概要】

郡山寺内町は茨木市郡山2丁目、新郡山1丁目に所在する正現寺の寺内町である。

大正11年（1922）、郡山寺内町の南東にある浪速少年院建設工事中に掘り出した多くの石の中に、「三ツ鱗」「三ツ星」印が入った城石が発見され、その一帯が郡山城の範囲とされた。しかし、実際の城郭部分については、郡山二丁目に位置する正現寺の西方に旧字「門口」「物見塚」の地名が残っており、また、東摂城址図誌に記載の郡山城跡が、正現寺西側の地形図と一致していることから、正現寺西方一帯を郡山城とする説もある。

##### 【主な調査歴】

なし

##### 【主な出土遺物】

なし

##### 【関連地名】

旧字門口・城ノ内（現 西之辻か）・物見塚は、郡山城跡とする説あり。

##### 【史料】

『天文（御）日記』、『言継卿記』、『東摂城址図誌』

##### 【参考文献】

茨木市・茨木市教育委員会（編）1987、中西 2015

#### 〔No.87〕 沢良宜城

所在地 茨木市美沢町 位置 東経 135.5689 北緯 34.7988

立地 平地 標高 8 m 比高 不明 城域 不明 時期 室町期～戦国期か



図 251 沢良宜城 位置図 (S=1/5,000)

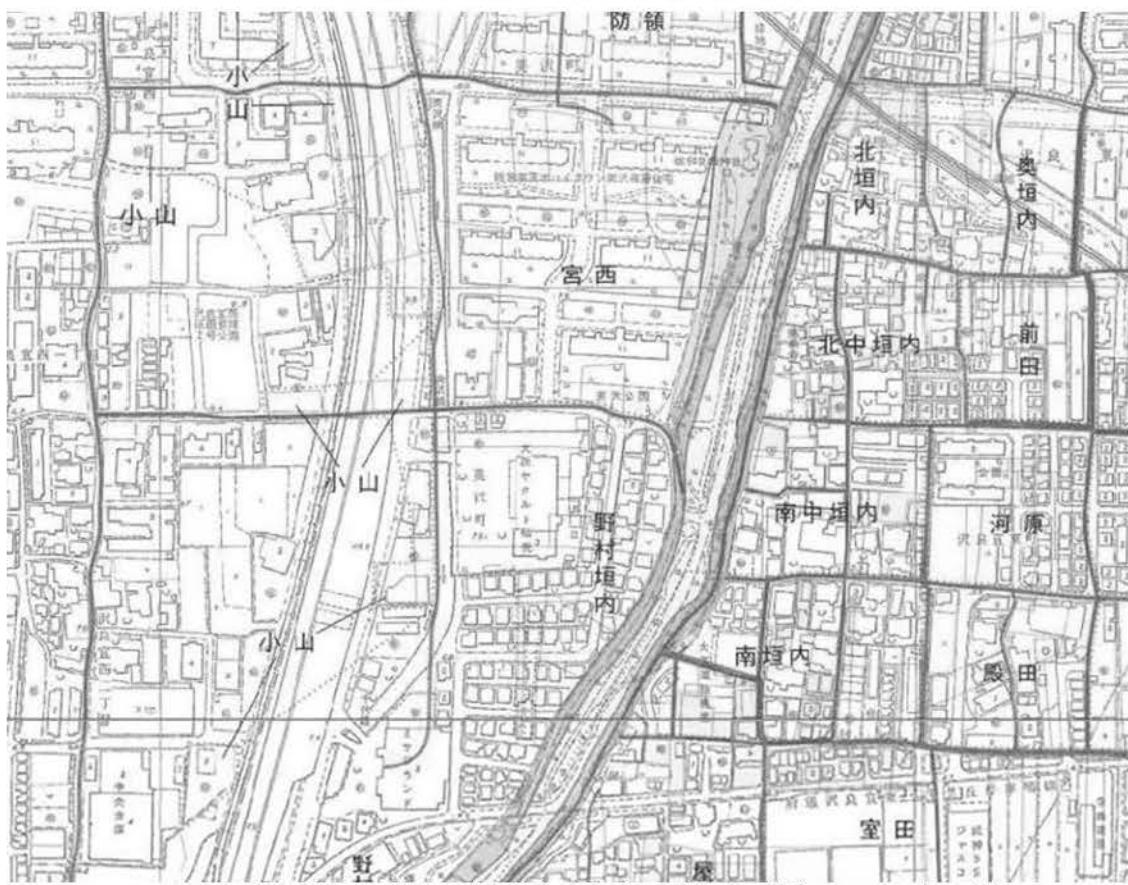


図 252 沢良宜城 地籍図 (茨木市史編さん委員会 (編) 2008 より転載)

### 【城館の概要】

沢良宜城は茨木市美沢町に所在する平城である。築造時期は中世と考えられるが詳細は不明である。城主については『応永記』一名大内義弘退治記によると藤井三位とされている。『摂津志』では吹田山田城の十三支城の一つとされる。

### 【主な調査歴】

なし

### 【主な出土遺物】

なし

### 【関連地名】

旧字防領、宮西、野村垣内、北垣内、北中垣内、南中垣内、南垣内、殿田

### 【史料】

『摂津志』、『応永記』一名大内義弘退治記

### 【参考文献】

茨木市・茨木市教育委員会（編）1987

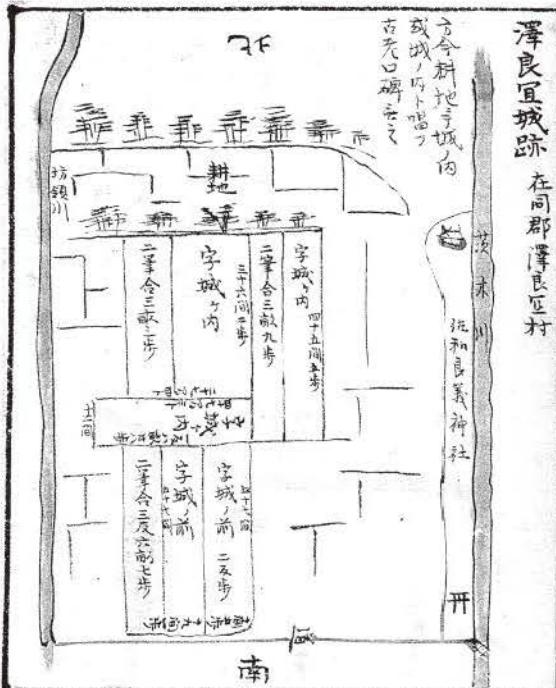


図 253 『東摂城址図誌』より「沢良宜城跡」  
(大阪府立中之島図書館 所蔵)

### 〔No.88〕 穂積城

所在地 茨木市中穂積 位置 東経 135.5528 北緯 34.8193

立地 丘陵 標高 46 m 比高 不明 城域 不明 時期 戦国期か

### 【城館の概要】

穂積城跡は茨木市中穂積に所在すると考えられる城館跡である。築造時期及び城主について詳細は不明である。『摂津志』では吹田山田城の十三支城の一つとされる。



図 254 穂積城 位置図 (S=1/5,000)

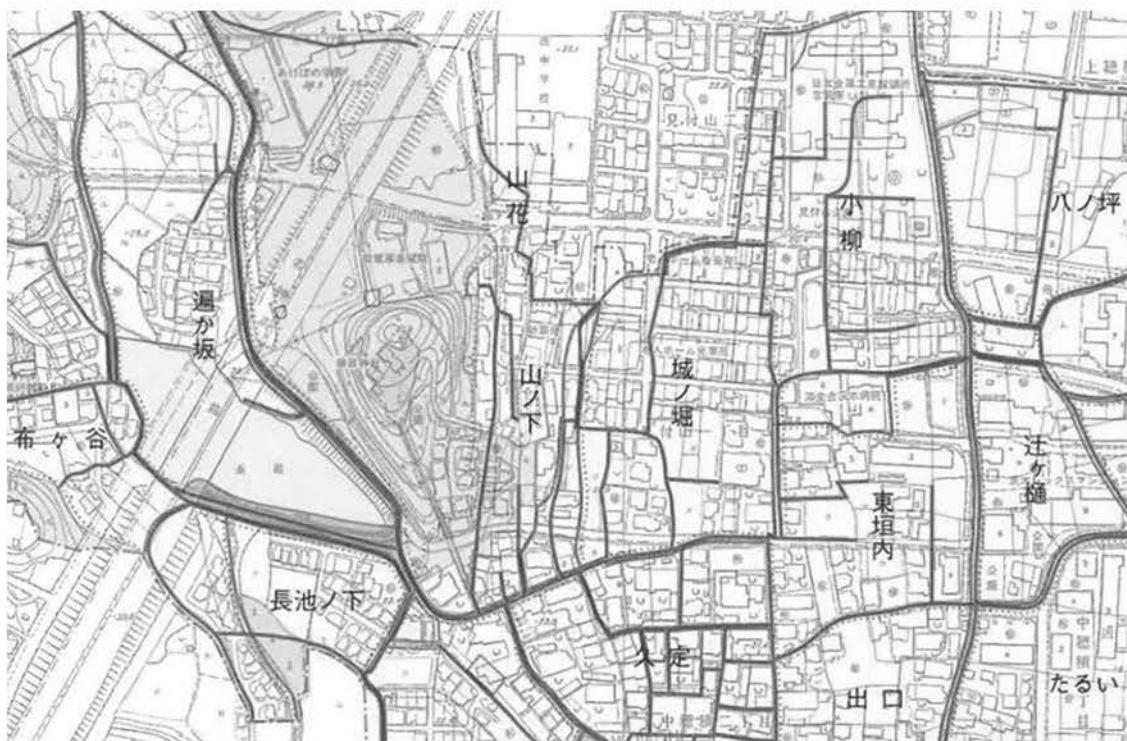


図 255 穂積城 地籍図（茨木市史編さん委員会（編）2008 より転載）

伝承によると茨木市中穂積の春日神社境内になっている小高い山林一帯が穂積城跡として伝えられており城館に関連する地名も残っているが、城館に関連する遺構・遺物は確認されていない。

#### 【主な調査歴】

なし

#### 【主な出土遺物】

なし

#### 【関連地名】

旧字城ノ堀、東垣内、南垣内

#### 【史料】

『摂津誌』

#### 【参考文献】

茨木市・茨木市教育委員会（編）1987

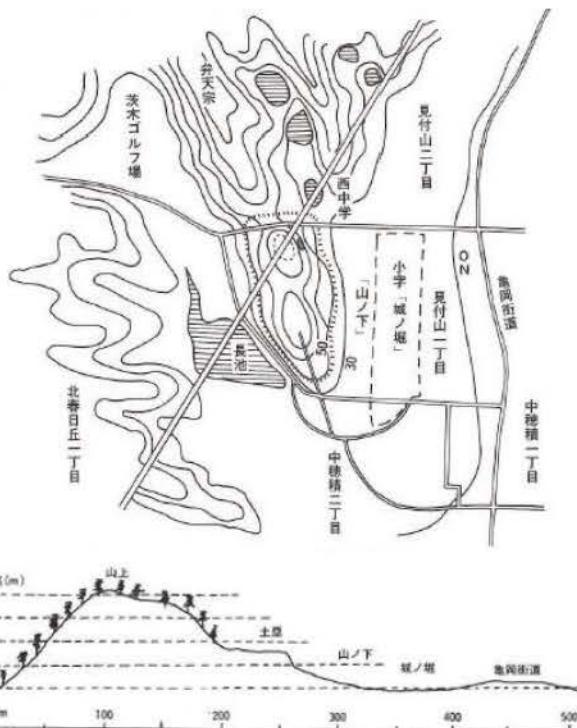


図 256 穂積城 周辺地形図・標高断面図

（茨木市・茨木市教育委員会（編）1987 より転載）

#### (No.89) 水尾砦

所在地 茨木市水尾 位置 不明

立地 平野 標高 不明 比高 不明 城域 不明 時期 不明

#### 【城館の概要】

水尾砦は茨木市水尾に所在すると考えられる城館跡である。築造時期及び城主について詳細は不明である。『東摂城址図誌』に「水尾城趾」の記載はあるがその所在については不明とされている。『摂津志』では吹田山田城の十三支城の一つとされる。

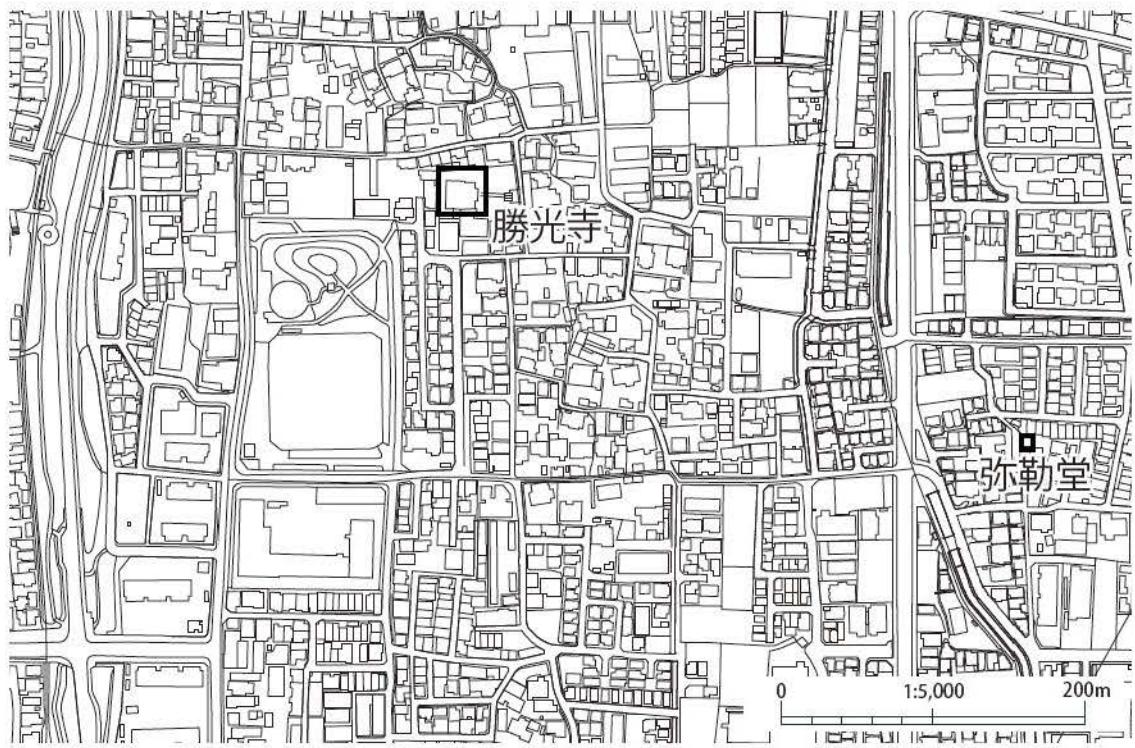


図 257 水尾砦 位置図 (S=1/5,000)



図 258 水尾砦 地籍図

(茨木市史編さん委員会 (編) 2004 より転載)

【主な調査歴】

なし

【主な出土遺物】

なし

【関連地名】

なし

【史料】

『東摂城址図誌』、『摂津誌』

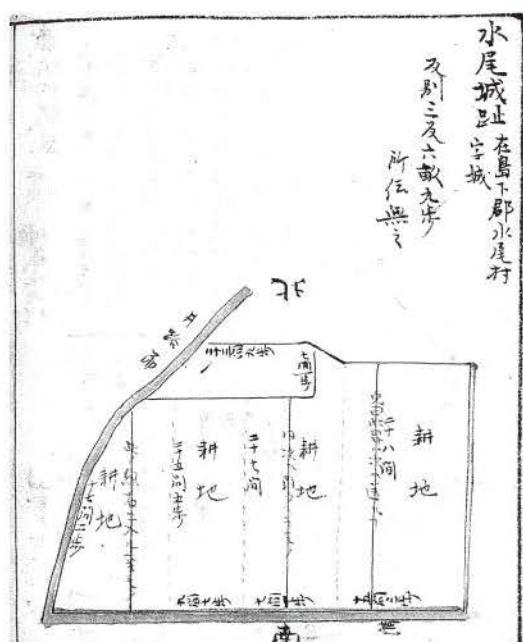


図 259 『東摂城址図誌』より「水尾砦址」

(大阪府立中之島図書館 所蔵)

【参考文献】

茨木市・茨木市教育委員会（編）1987

〔No.90〕耳原砦（皆原砦）

所在地 茨木市耳原3丁目 位置 不明  
立地 丘陵 標高 不明 比高 不明 城域 不明 時期 織豊期

【城館の概要】

耳原砦は茨木市耳原3丁目に所在すると考えられる城館跡である。『摂陽群談』などによると築造については天正年中（1573～1592）に明智光秀が築城し、その後は織田辰之助（信勝）が城主となったとされている。

関連する遺構・遺物は確認されておらず詳細は不明である。

【主な調査歴】

なし

【主な出土遺物】

なし

【関連地名】

なし

【史料】

『東摂城址図誌』、『摂陽群談』、『摂津誌』、「（日本）武城舊（旧）記」、「耳原村誌」

【参考文献】

茨木市・茨木市教育委員会（編）1987

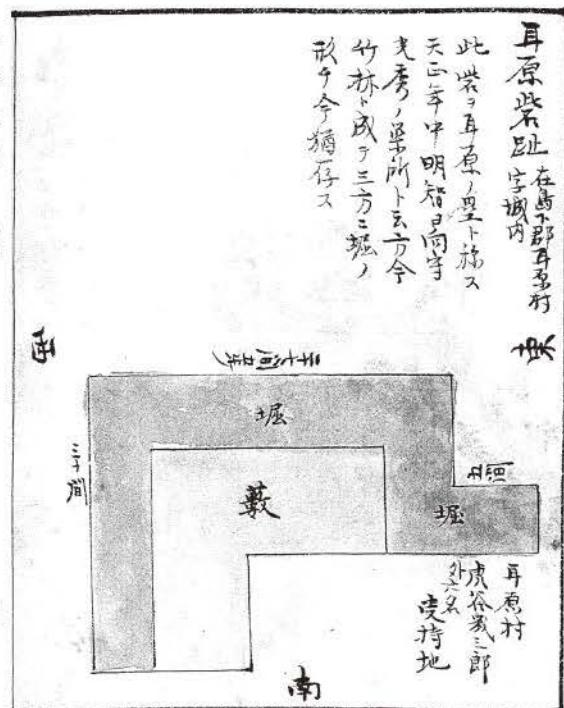


図 260 「東摂城址図誌」より「耳原砦址」  
(大阪府立中之島図書館 所蔵)

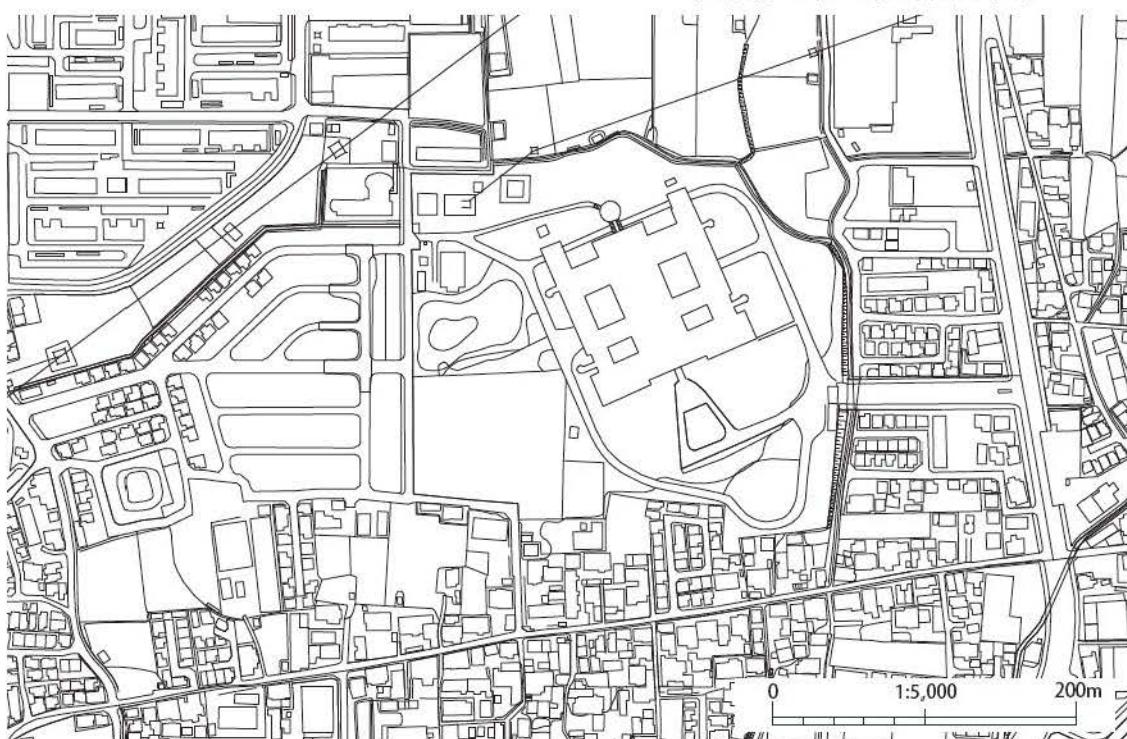


図 261 耳原砦 位置図 (S=1/5,000)



図 262 耳原砦 地籍図（茨木市史編さん委員会（編）2004 より転載）

〔No.91〕 目垣城

所在地 茨木市目垣

位置 不明

立地 平野 標高 不明

比高 不明

城域 不明

時期 戦国期か

## 【城館の概要】

目垣城は茨木市目垣に所在すると考えられる城館跡である。『摂津志』では吹田山田城の十三支城の一つとされる。築造時期及び城主について史料に見られず、また遺構・遺物も確認されていないことから詳細は不明である。

#### 【主な調査歴】

なし

## 【主な出土遺物】

なし

### 【関連地名】

なし

## 【史料】

『摂津誌』

## 【参考文献】

茨木市・茨木市教育委員会（編）1987、田代・渡辺・石田（編）1981

〔No.92〕 池上砦

所在地 茨木市中総持寺町、総持寺2丁目 位置 不明

立地 不明 標高 不明 比高 不明 城域 不明 時期 不明

## 【城館の概要】

池上砦は茨木市中総持寺町、総持寺2丁目に所在すると考えられる城館跡である。築造時期については詳細が不明である。城主については池上氏とされ、城館に関連する地名も残っている（茨木市・茨木市教育委員会（編）1987）、史料に見られず詳細は不明である。

【主な調査歴】

なし

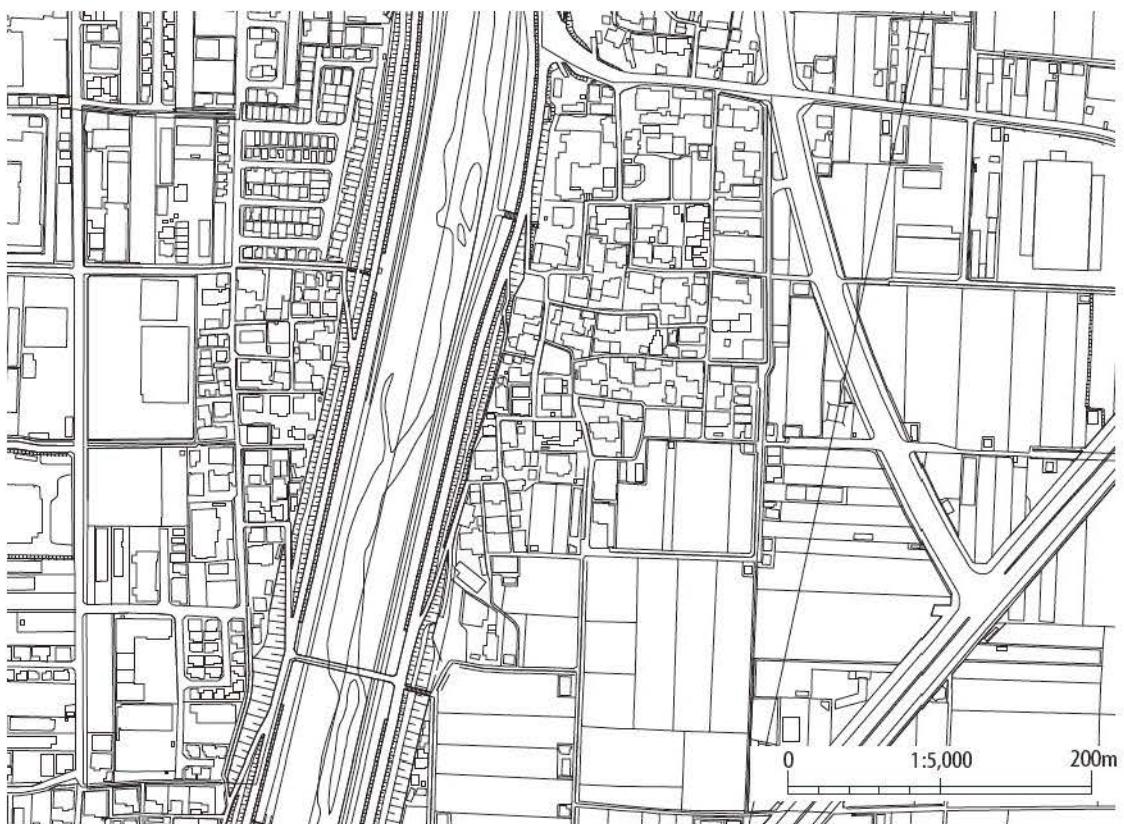


図 263 目垣城 位置図 (S=1/5,000)



図 264 目垣城 地籍図 (茨木市史編さん委員会 (編) 2004 より転載)

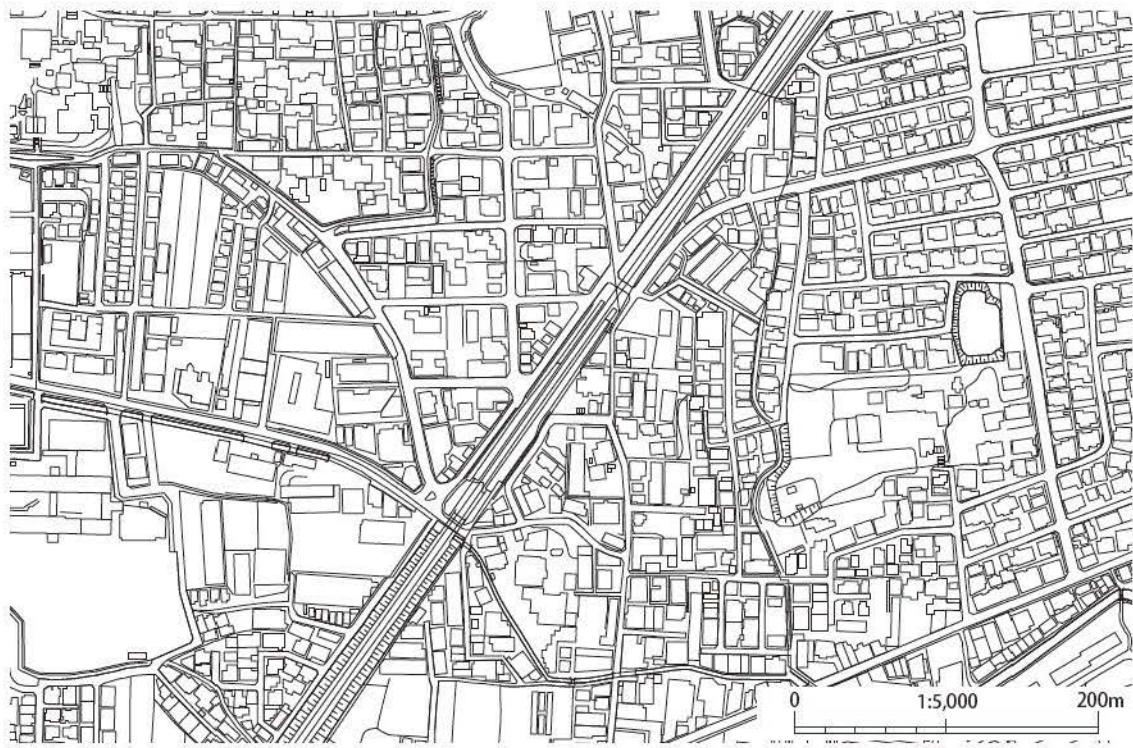


図 265 池上塚 位置図 (S=1/5,000)

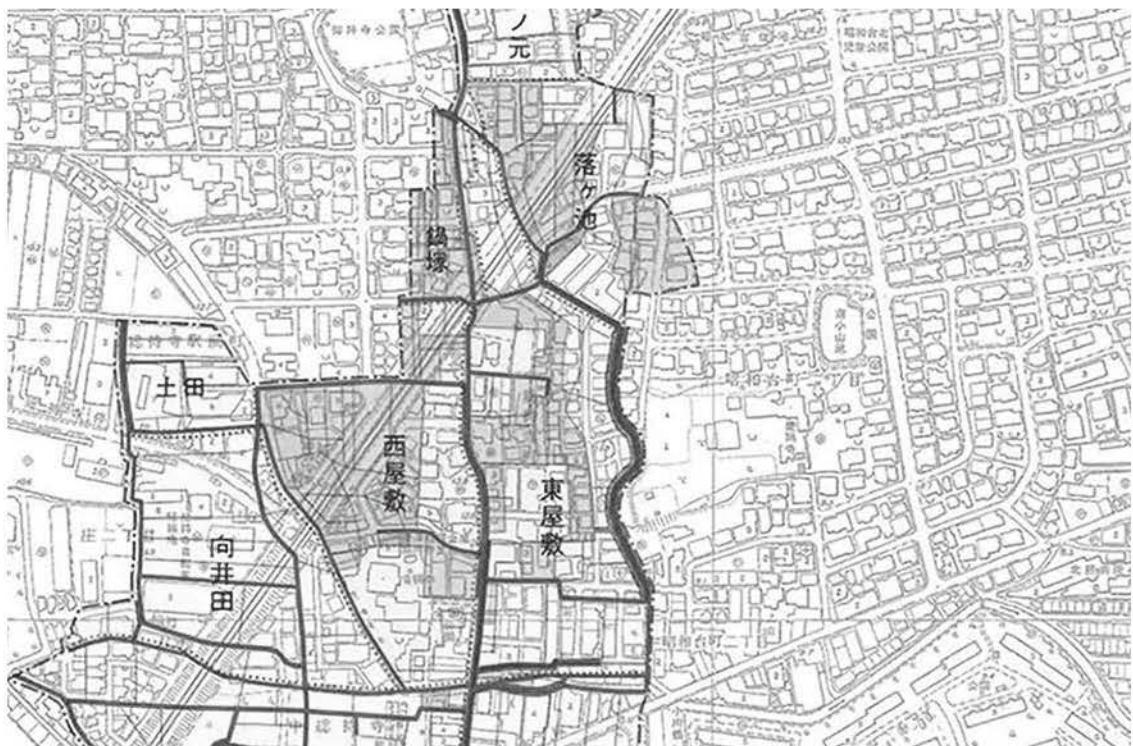


図 266 池上塚 地籍図 (茨木市史編さん委員会 (編) 2004 より転載)

【主な出土遺物】

なし

【関連地名】

旧字中城、北中城

【史料】

なし

【参考文献】

茨木市・茨木市教育委員会 (編) 1987、田代・渡辺・石田 (編) 1981

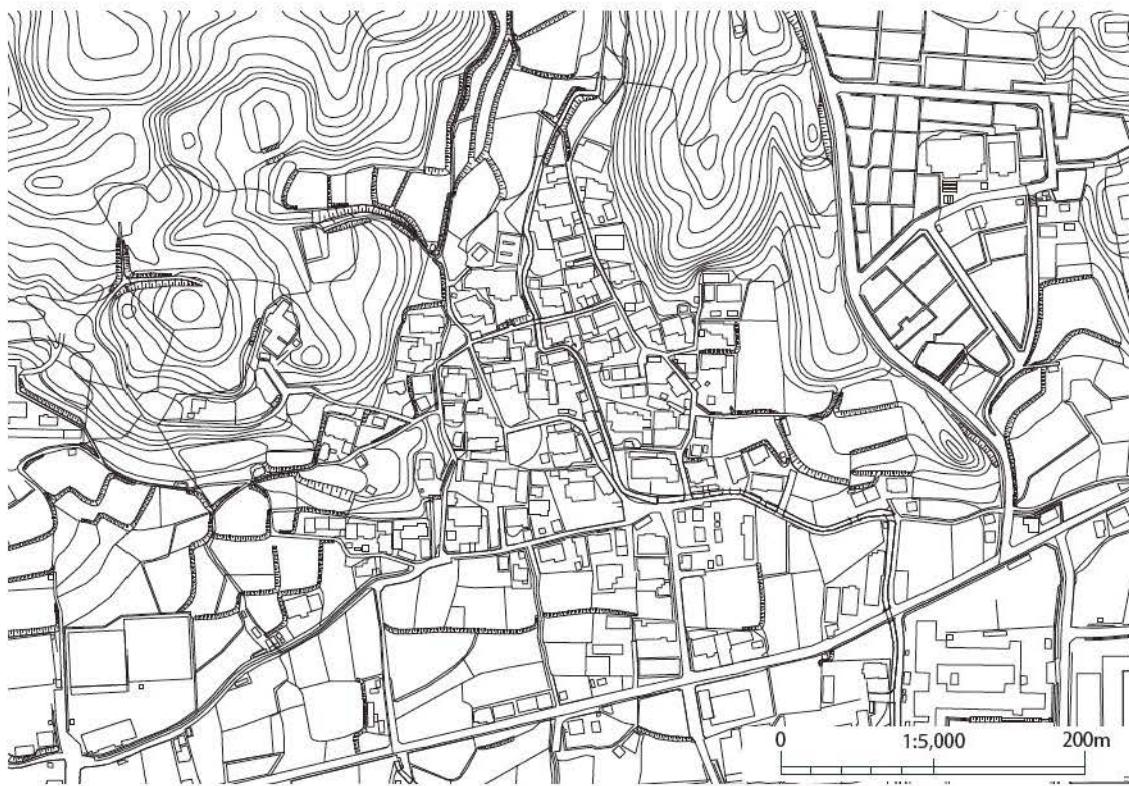


図 267 宿久城 位置図 (S=1/5,000)

**(No.93) 宿久城（シユク城）**

所在地 不明 (茨木市宿久庄か)	位置 不明
立地 不明 標高 不明 比高 不明	城域 不明 時期 戦国期か

**【城館の概要】**

宿久城は所在地不明であるが、茨木市宿久庄に所在したと考えられる城館跡である。『尋憲記』によると、「元亀2年（1571）8月28日に落居」したという記述があり、元亀2年（1571）以前に築城されたと考えられる。城主については宿久氏と推定されているが（茨木市・茨木市教育委員会（編）1987）、史料に記載は見られない。

**【主な調査歴】**

なし

**【主な出土遺物】**

なし

**【関連地名】**

宿久庄？

**【史料】**

『尋憲記』

**【参考文献】**

茨木市・茨木市教育委員会（編）1987、東京帝国大学文学部史料編纂掛（編）1938

**(No.94) 清水城**

所在地 茨木市清水	位置 不明
立地 不明 標高 不明 比高 不明	城域 不明 時期 中世

### 【城館の概要】

清水城は茨木市清水に所在したと考えられる城館跡である。築城及び城主については史料に記載がなく、遺構・遺物も確認されていないため詳細は不明である。旧字に「上のドイ」、「下のドイ」という地名が見られ、武士の屋敷地あるいは村落を囲繞した土塁があったことが推測されている（茨木市・茨木市教育委員会（編）1987）。

### 【主な調査歴】

なし



図 268 清水城 位置図 (S=1/5,000)



図 269 清水城 地籍図 (茨木市史編さん委員会（編）2004 より転載)

**【主な出土遺物】**

なし

**【関連地名】**

旧字上のドイ、下のドイ

**【史料】**

なし

**【参考文献】**

茨木市・茨木市教育委員会（編）1987

**(No.95) 西河原砦**

所在地 茨木市西河原2丁目 位置 不明  
立地 平地 標高 不明 比高 不明 城域 不明 時期 戦国期

**【城館の概要】**

西河原砦は茨木市西河原2丁目に所在したと考えられる城館である。『細川両家記』に天文18年（1549）に香西与四郎が砦を築いたという記述がある。天文18年（1549）芥川衆の三好日向守に攻められ落城したとされている（茨木市・茨木市教育委員会（編）1987）。

**【主な調査歴】**

なし

**【主な出土遺物】**

なし

**【関連地名】**

なし

**【史料】**

『細川両家記』



図 270 西河原砦 位置図 (S=1/5,000)

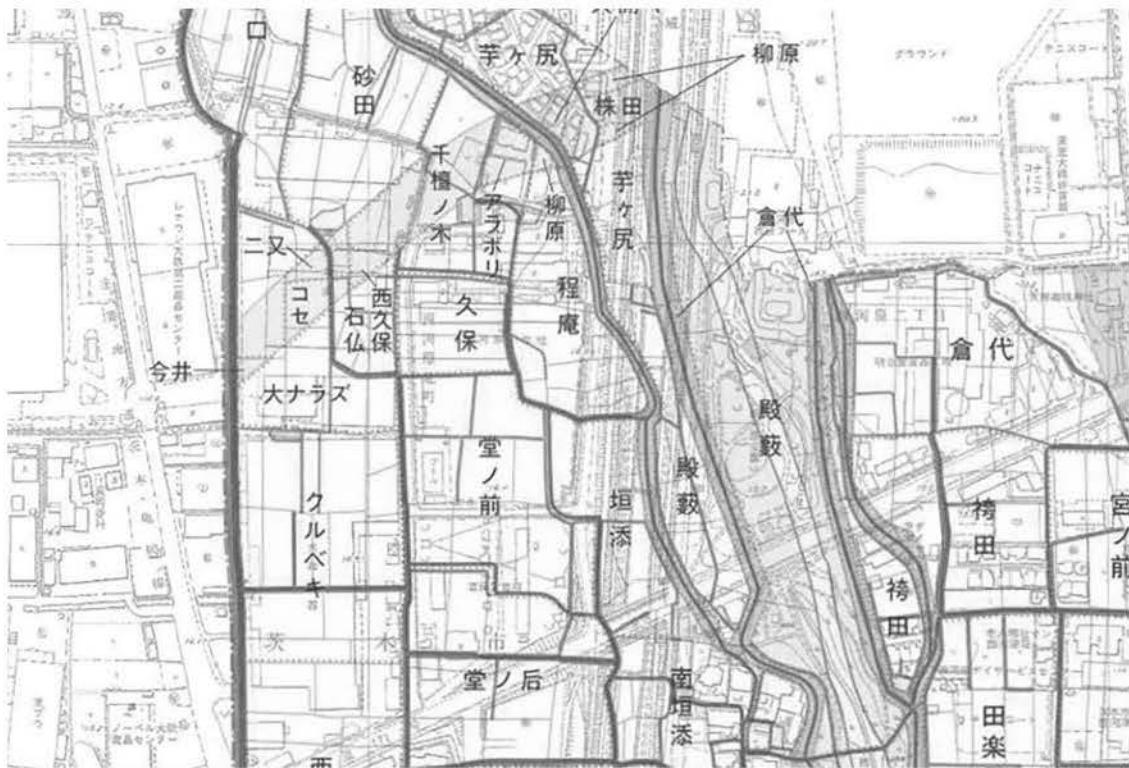


図 271 西河原砦 地籍図（茨木市史編さん委員会（編）2008 より転載）

## 【参考文献】

茨木市・茨木市教育委員会（編）1987

〔No.96〕 総持寺砦

所在地 茨木市総持寺1丁目 位置 東経 135.5813 北緯 34.8292

立地 段丘上 標高 18 m 比高 11 m 城域 不明 時期 16世紀

## 【城館の概要】

総持寺砦は茨木市総持寺1丁目に所在する城館跡である。『信長公記』などによると天正6年（1578）、戦災で焼失した総持寺の跡地に、織田信長が津田信澄に茨木城攻めの陣を設けさせた場所と考えられる。砦に関する遺構・遺物は確認されていない。

### 【主な調査歴】

昭和 62 年度（1987）、平成元・6・13・14・15・21 年度（1989・1994・1997・2001・2002・2003・2009）

### 【主な出土遺物】

### 些関連の遺物はない

【關連地名】

なし

【中料】

### 『信長公記』

#### 【参考文献】

萍本巿：萍本巿教育委員會（編）1987

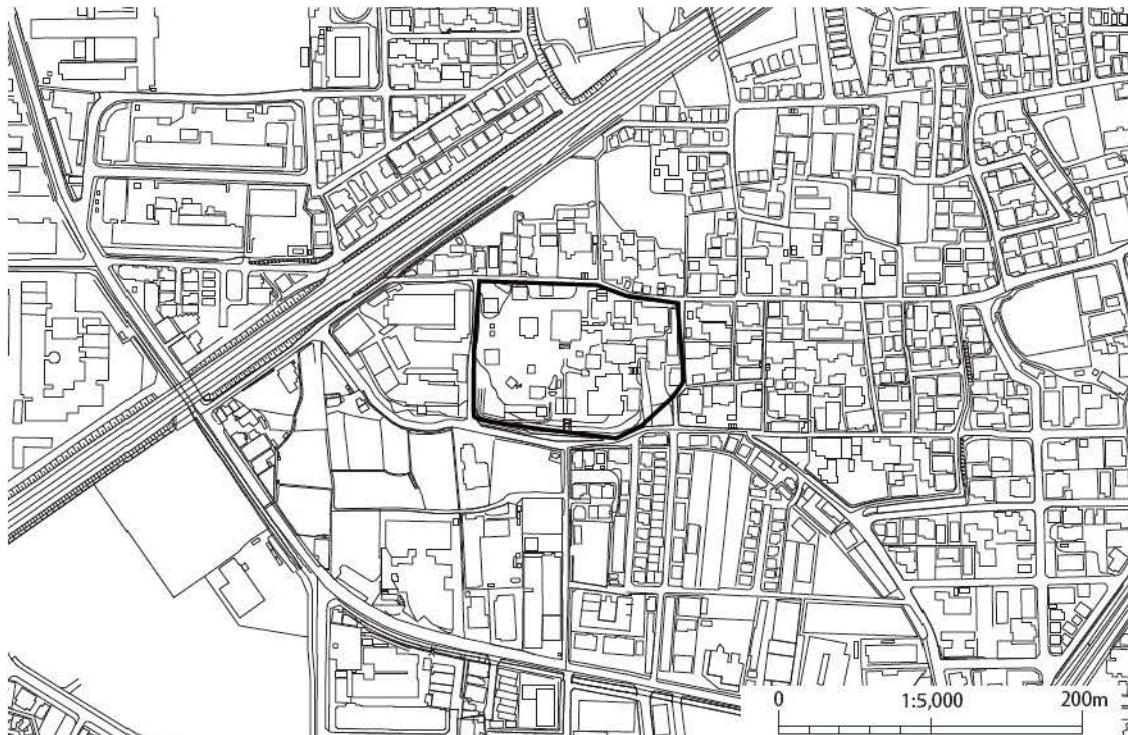


図 272 総持寺砦 位置図 (S=1/5,000)



図 273 総持寺砦 地籍図 (茨木市史編さん委員会(編) 2004 より転載)

#### (No.97) 下音羽城

所在地 茨木市大字下音羽	位置 東経 135.5395 北緯 34.9053			
立地 山頂部	標高 313 m	比高 20 m	城域 不明	時期 戦国期

#### 【城館の概要】

下音羽城は茨木市大字下音羽に所在する山城である。史料に記載はなく、築造時期及び城主については不明である。



図 274 下音羽城 位置図 (S=1/5,000)



図 275 下音羽城 縄張図

(中井 (監) 2016 より転載)



図 276 下音羽城 地籍図

(茨木市史編さん委員会 (編) 2008 より転載)

単郭で小規模な城郭であるが、背後を堀切、前面を横堀で囲み、規模に比して防備は厳重であると推察できる。主郭は東西8m、南北16m程の規模である。現状では、土壘が存在した形跡は認められない。北側尾根続きには上幅約9m、下幅約4m、深さ約4mの堀切を設けており、主郭の南側、約5m低い位置には横堀を巡らしている。横堀の外側は約1m高くなり、その先は緩やかに下る斜面となっている。

#### 【主な調査歴】

1990年頃に高橋成計氏によって発見

#### 【主な出土遺物】

なし

#### 【関連地名】

なし

【史料】

なし

【参考文献】

中井（監）2016、中西 2015

〔No.98〕郡遺跡・倍賀遺跡

所在地 茨木市松下町 位置 東経 135.5668 北緯 34.8265

立地 平地 標高 15.5 m 比高 不明 城域 不明 時期 10～13世紀

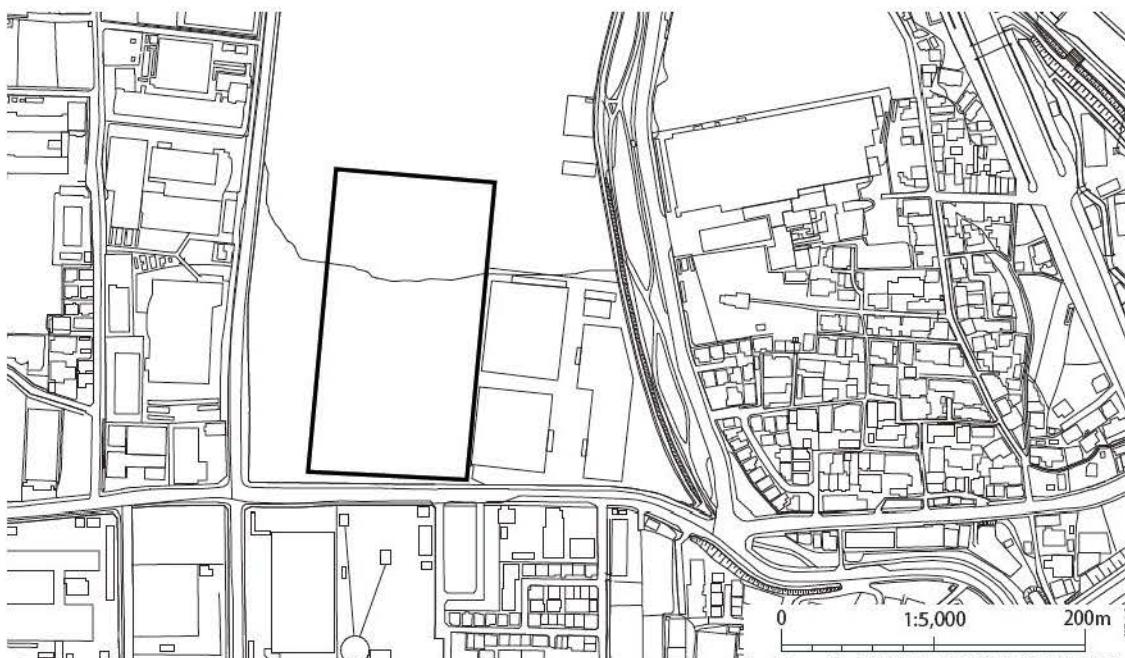


図 277 郡遺跡・倍賀遺跡 位置図 (S=1/5,000)



図 278 郡遺跡・倍賀遺跡 発掘調査状況 (北東より)



図 279 郡遺跡・倍賀遺跡 地籍図（茨木市史編さん委員会（編）2008 より転載）

#### 【城館の概要】

郡遺跡・倍賀遺跡は茨木市松下町に所在する屋敷と考えられる遺跡。

遺物包含層上面では、10世紀後葉～13世紀前半に建てられた掘立柱建物が多数検出された。その中には、廂や縁が付属するものや、周囲を細溝によって方形に区画された屋敷と呼ぶべき建物も確認された。遺物包含層下面では、弥生時代中期から古墳時代前期の集落域と墓域が検出された。

#### 【主な調査歴】

平成 28 年度（2016）茨木市教育委員会・大阪府文化財センター

#### 【主な出土遺物】

土師器、黒色土器、瓦器、瓦質土器、須恵器、陶器、磁器等

#### 【関連地名】

なし

#### 【史料】

なし

#### 【参考文献】

茨木市教育委員会・公益財団法人大阪府文化財センター（編）2018

#### 〔No.99〕西福井遺跡

所在地 茨木市西福井3丁目 位置 東経 135.5512 北緯 34.8455

立地 扇状地 標高 31 m 比高 29 m 城域 不明 時期 14世紀

#### 【城館の概要】

西福井遺跡は茨木市西福井3丁目に所在する居館と考えられる遺跡。

大阪府教育委員会が実施した発掘調査の結果、中世の居館跡が検出された。居館跡は四方を大溝で囲んでおり、北東部の一部は切れている。区画の内側で、東西 35 m、南北 42 m を測る。溝内より、「佛」の墨書きがされている土器片を確認した。この区画内では多数のピットを検出したが、建物跡は未確認である。他にも、区画内では石組井戸を 4 基確認した。また、東接地

でも「コ」の字型の区画溝が、南接地でも「L」字型の区画溝が検出されている。

【主な調査歴】

昭和 57・58 年度（1982～1983） 大阪府教育委員会

【主な出土遺物】

土師器、須恵器、瓦器、墨書き土器 等

【関連地名】

旧字宮山、宮（ノ）下

【史料】

なし

【参考文献】

岡田 2018



図 280 西福井遺跡 位置図 (S=1/5,000)



図 281 西福井遺跡 地籍図（茨木市史編さん委員会（編）2004 より転載）

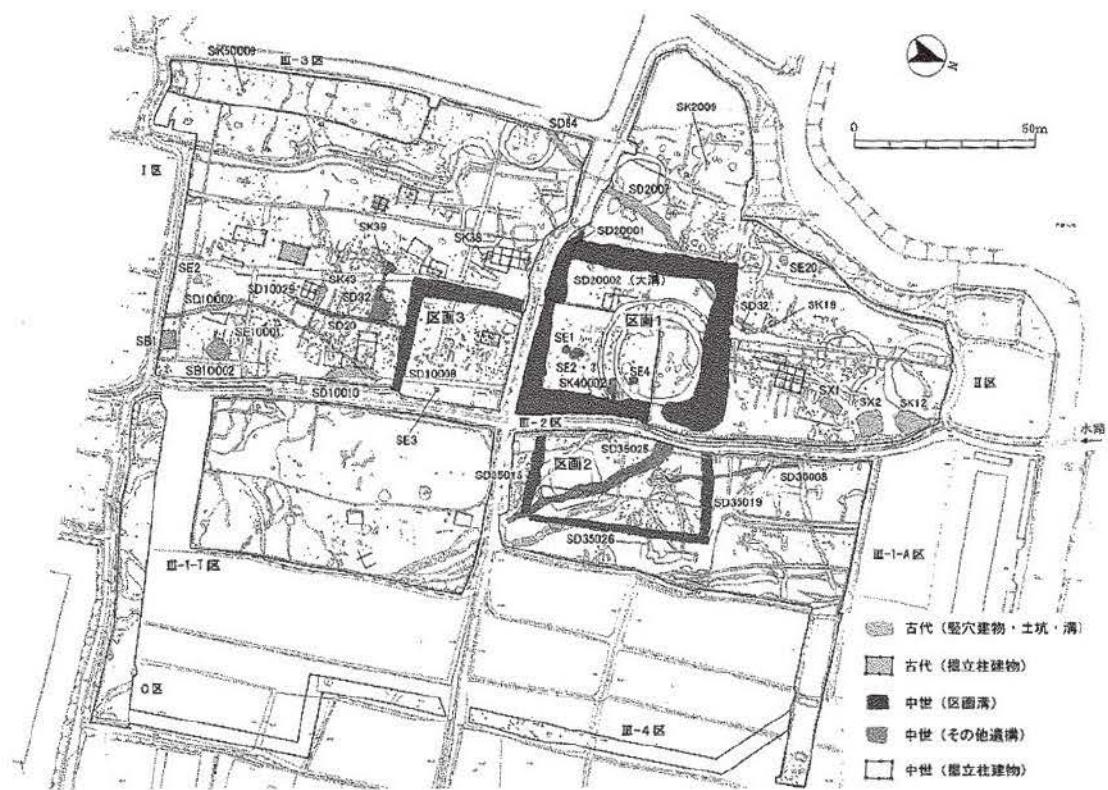


図 282 西福井遺跡 遺構配置図（岡田 2018 より転載）



図 283 西福井遺跡 発掘調査状況（臺上から、右が北）

## 【箕面市域】

### (No.100) 止々呂美城（止々呂美古城）

所在地 不明（箕面市上止々呂美）

位置 不明

立地 山地

標高 不明

比高 不明

城域 不明

時期 不明

### 【城館の概要】

止々呂美城は現在の所在は不明であるが、『摂陽群談』に豊島郡上止々呂美村にあり、多田満政公の苗裔、馬場兵衛信高の在城である旨の記載が見られる。築城時期や存続期間は不明である。大阪府文化財センターが行った現地踏査では城跡と思われる状況が確認できなかったため、遺跡分布図上では下止々呂美所在の塩山城を止々呂美城跡として扱っている。

### 【主な調査歴】

なし

### 【主な出土遺物】

なし

### 【関連地名】

止々呂美

### 【史料】

『摂陽群談』

### 【参考文献】

井上 1922、大阪府 1903、小上 1931、田代・渡辺・石田（編）1981、正宗（編）1930

### (No.101) 塩山城（塩山古城、止々呂美城）

所在地 箕面市下止々呂美 位置 東経 135.4585 北緯 34.8780

立地 山地 標高 231 m 比高 64 m 城域 250 m × 130 m 時期 平安

### 【城館の概要】

塩山城跡は箕面市下止々呂美に所在する山城である。北西方向に延びる尾根の頂上部に築造された。『摂陽群談』に豊島郡下止々呂美村にあり、城主は塩山肥前守源景信であるとされて

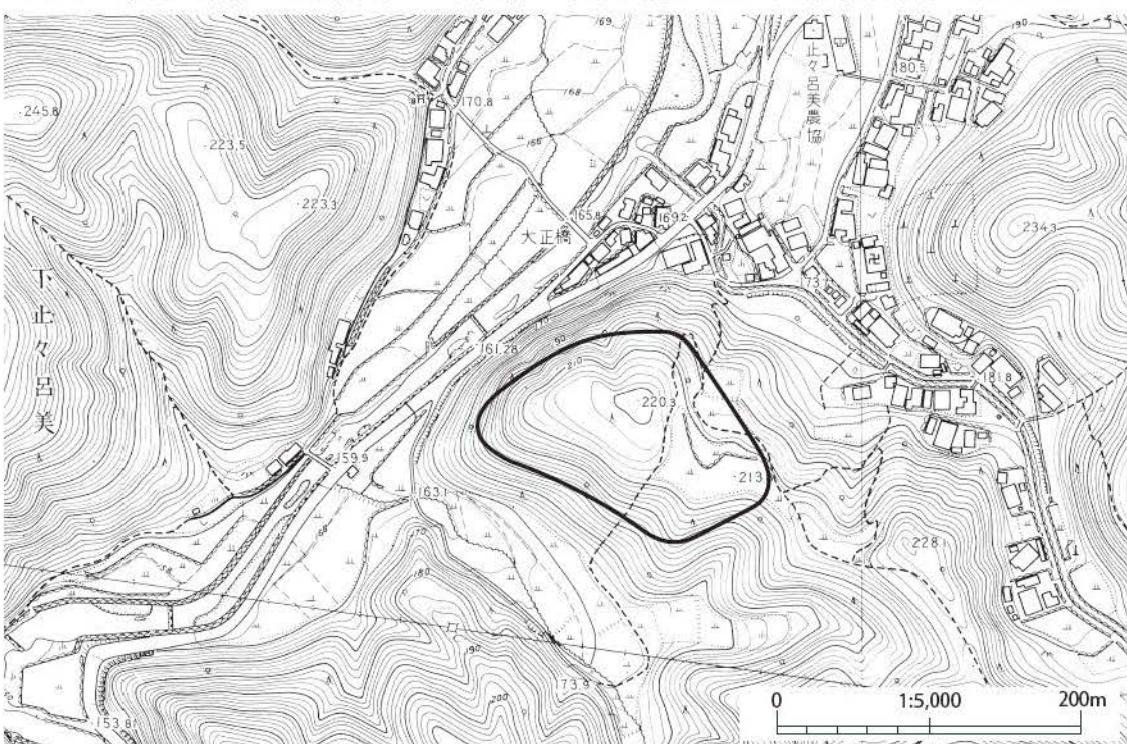


図 284 塩山城 位置図 (S=1/5,000)

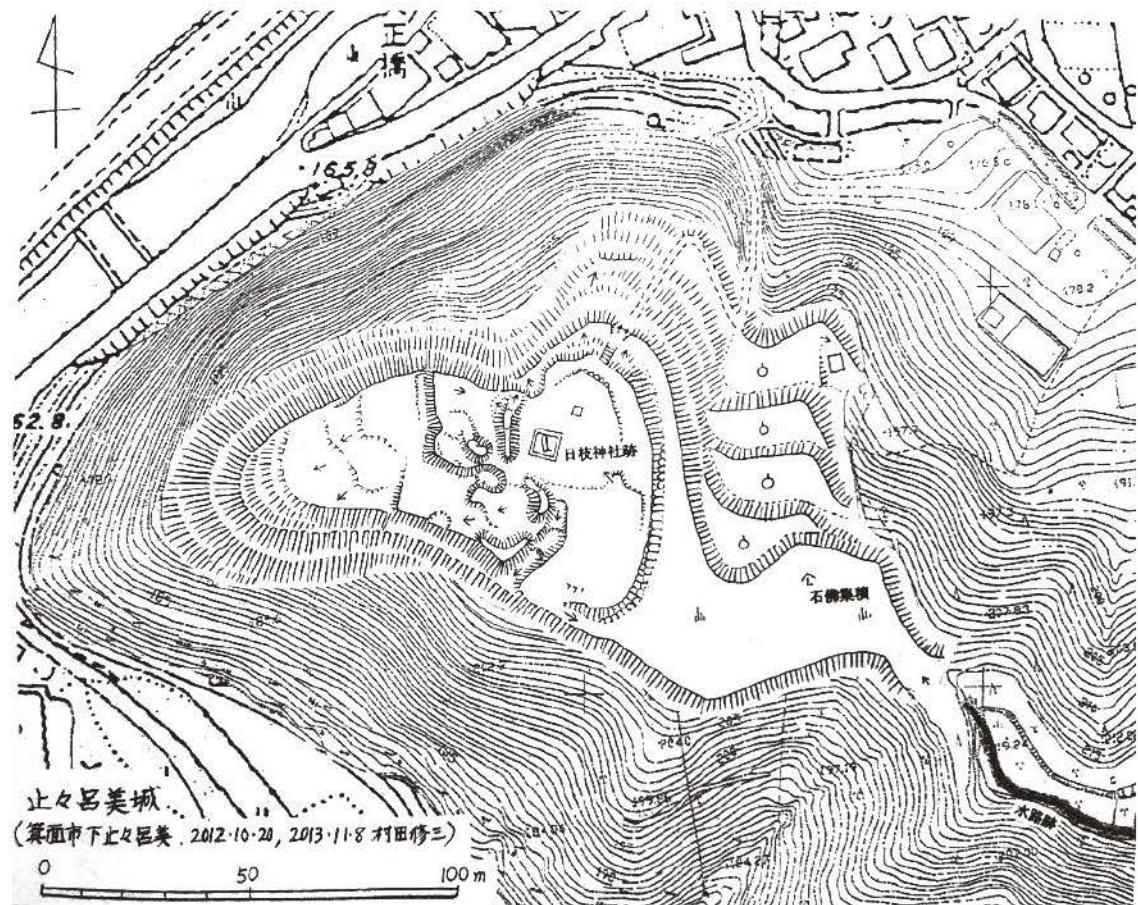


図 285 塩山城 繩張図（大阪府文化財センター 2014 より転載）

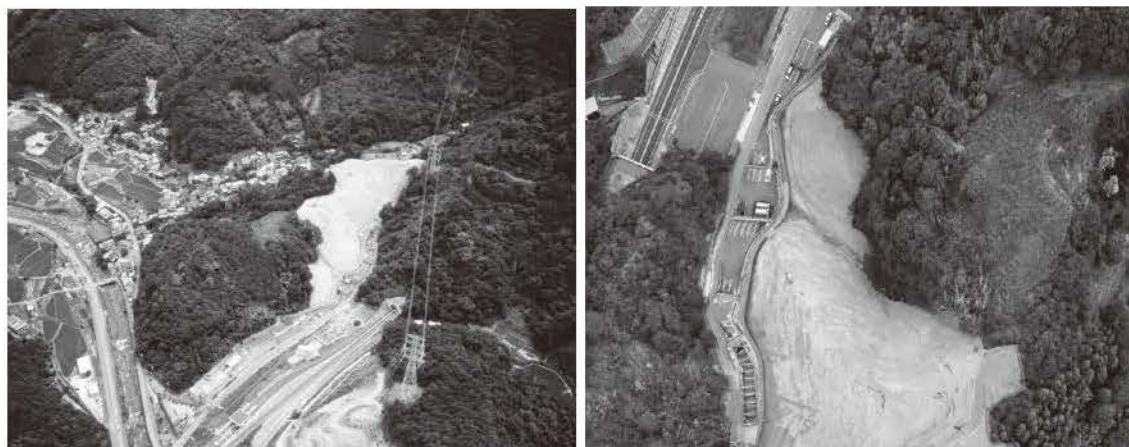


図 286 塩山城 遠景  
(大阪府文化財センター 2014 より転載)



図 287 塩山城 発掘調査全景  
(大阪府文化財センター 2014 より転載)

いる。築城時期や存続期間は不明である。

大阪府文化財センターが平成 21 年（2009）～平成 25 年（2013）に行った発掘調査により、南東の尾根筋状に堀切が 2 本検出され、止々呂美城の「遠構え」であると推定されている。

#### 【主な調査歴】

平成 21 年（2009）～平成 25 年（2013） 大阪府文化財センター（大阪府文化財センター 2014）

#### 【主な出土遺物】

土器、陶磁器、釘、古銭、伏鉢

#### 【関連地名】

なし

#### 【史料】

『摂陽群談』

#### 【参考文献】

井上 1922、小上 1931、田代・渡辺・石田（編）1981、正宗（編）1930

### 〔No.102〕 善福寺原城跡

所在地 箕面市粟生外院 6 丁目 位置 東経 135.5018 北緯 34.8426

立地 山地 標高 127 m 比高 16 m 城域 50 m × 60 m 時期 不明

#### 【城館の概要】

善福寺原城跡は箕面市粟生外院 6 丁目に所在する山城である。『粟生村誌』には東西 30 間、南北 30 間の回字形をなし堀の跡が残っていることが記載されているが、築造時期や城主については不詳であるとされている。

#### 【主な調査歴】

なし

#### 【主な出土遺物】

土器等

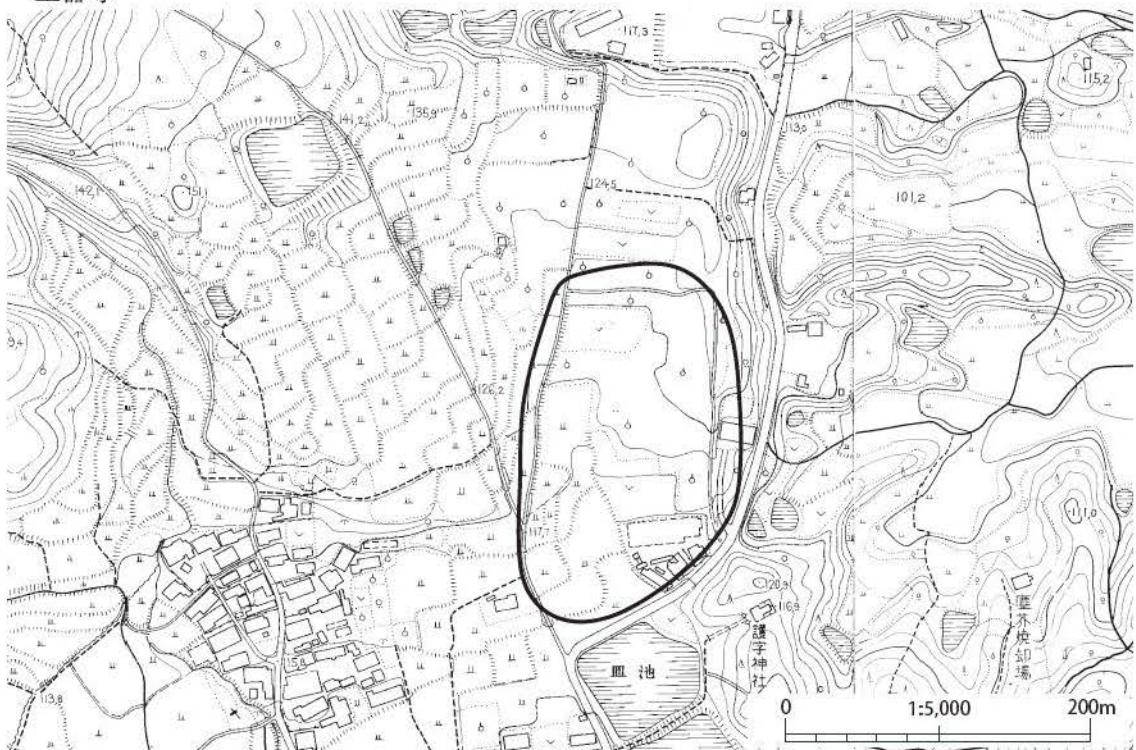


図 288 善福寺原城 位置図 (S=1/5,000)

【関連地名】

なし

【史料】

『粟生村誌』

【参考文献】

井上 1922、田代・渡辺・石田（編）1981

〔No.103〕粟生間谷城（粟生谷城）

所在地 箕面市粟生間谷西7丁目 位置 東経135.5071 北緯34.8500

立地 丘陵 標高 119m 比高 22m 城域 350m×300m 時期 不明

【城館の概要】

粟生間谷城跡は箕面市粟生間谷西7丁目に所在する丘城である。池田勝正が家臣の粟生谷兵衛尉氏晴に預けた城といわれているが、詳細については不明で、文献では見られない。

【主な調査歴】

なし

【主な出土遺物】

なし

【関連地名】

粟生

【史料】

なし

【参考文献】

なし

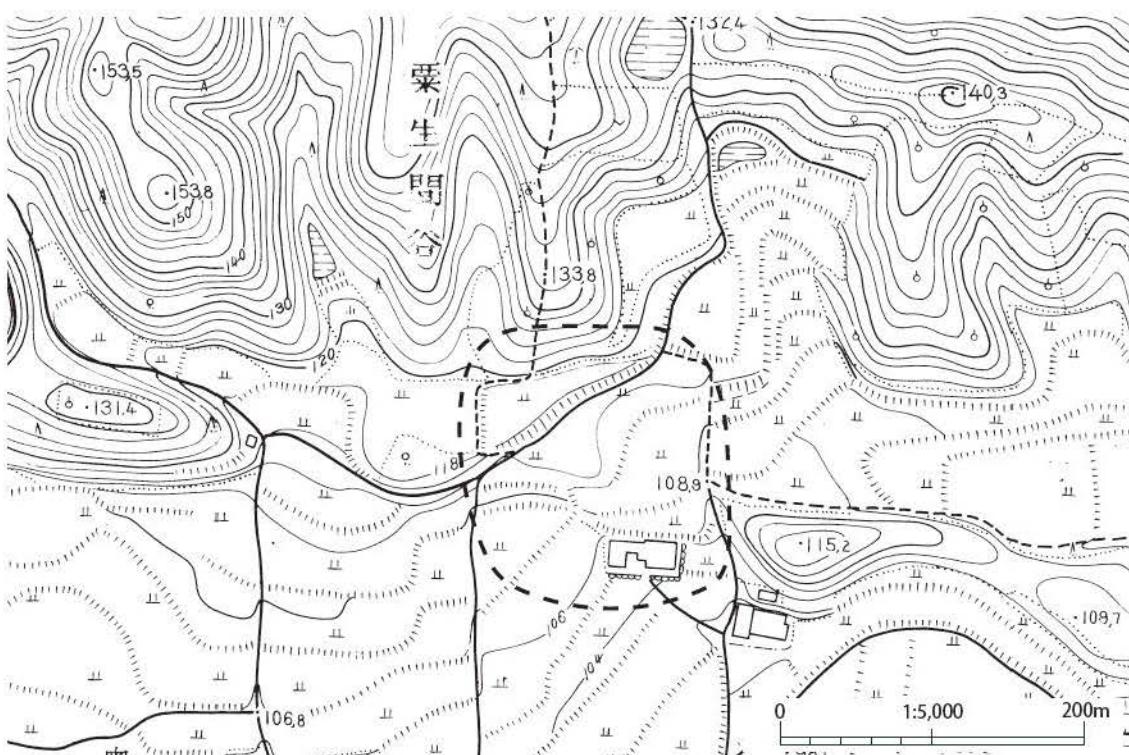


図289 粟生間谷城 位置図 (S=1/5,000)

**(No.104) 新家城（粟生堡）**

所在地 不明

位置 不明

立地 不明

標高 不明 比高 不明 城域 不明 時期 鎌倉・室町

**【城館の概要】**

新家城跡は『粟生村誌』には、字新家にあり東西30間、南北30間の回字形をなし、築造時期及び城主については不詳である旨の記載が見られる。『日本城郭体系』によると「城ノ口」という地名があるとされているが、『粟生村誌』には見られない。

**【主な調査歴】**

なし

**【主な出土遺物】**

なし

**【関連地名】**

粟生新家、新家

**【史料】**

『粟生村誌』

**【参考文献】**

井上1922、田代・渡辺・石田（編）1981、正宗（編）1930

【摄津市域】

(No.105) 黒丸城 (鳥飼砦)

所在地 摂津市鳥飼中2丁目1245

位置 不明

立地 平地 標高 不明 比高 不明

時期 中世

## 【城館の概要】

黒丸城は摂津市鳥飼中2丁目1245に所在する平城である。史料によると永禄2年（1559）や元亀元年（1570）に存在していた記載があるが、築造時期や城主については不明である。

### 【主な調査歴】

なし

### 【主な出土遺物】

なし

### 【関連地名】

城ノ前、内殿、地殿

【史料】

『長享年後畿内兵乱記』、『總見記（織田軍記）』

### 【参考文献】

近藤（編）1893、早稻田大学編  
輯部1913



図 290 黒丸城 近景



図 291 黒丸城 位置図 (S=1/5,000)

**(No.106) 一津屋砦**

所在地 不明 位置 不明

立地 平地？ 標高 不明 比高 不明 城域 不明 時期 中世

**【城館の概要】**

一津屋砦は所在や築造時期、城主について不明である。

**【主な調査歴】**

なし

**【主な出土遺物】**

なし

**【関連地名】**

浜城、高ノ城

**【史料】**

『陰徳太平記』、『信長公記』

**【参考文献】**

近藤（編）1901、早稲田大学編輯部 1913

## 【豊能町域】

### 〔No.108〕 幣ノ木城（余野城、幣ノ木塁、余野支城）

所在地 豊能町余野字シデノ木 位置 東経 135.4942 北緯 34.9238  
立地 尾根先端 標高 360m 比高 30m 城域 150m × 170m 時期 戦国

## 【城館の概要】

幣ノ木城は、豊能町余野字シデノ木に所在する丘城。永禄年間に余野本城の出丸を改修して築城したとされ、最終の城主は余野山城守。高山右近に組していたが、不和となり右近により滅ぼされたと伝わる。

戦後間もなく、村立学校建設のため遺構は破壊されたが、旧状を記憶していた住民等への聞き取りにより縄張り図が推定復元されている。これによると遺構は堀切、横堀、土塁、虎口、櫓台状遺構が想定される。城郭は丘陵南端部の丘陵状地形のほぼ全面を城域とする。主郭は不整形な長方形状を呈しており、虎口形態は余野本城より一段進化した防御形態となっている。主郭の北・西側には土塁・横堀等が、東側には土塁が配置され、南側は切岸を主とした防御構造となっている。虎口は主郭東側に設けられ、西側にも土橋で構築された出入り口が設けられている。築城年代は、墨線の直線化、直角化、虎口形態から、天正年代初期と推定されている。

## 【主な調査歴】

なし

## 【主な出土遺物】

なし

## 【関連地名】

市場垣内、城山（通称）

## 【史料】

『岸本家文書』のうち「摂津國能勢郡の内与野村古記改集」、「攝陽郡談」、「日本史」、「永尾家系図」

## 【参考文献】

井上 1922、高橋 1989、田代・渡辺・石田（編）  
1981、豊能町町史編纂委員会 1987、森 1919

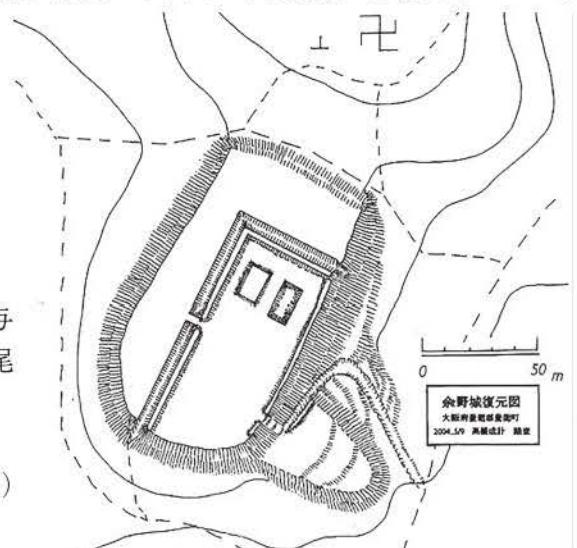


図 292 幣ノ木城 縄張復元図(高橋成計氏作成)



図 293 幣ノ木城 遠景

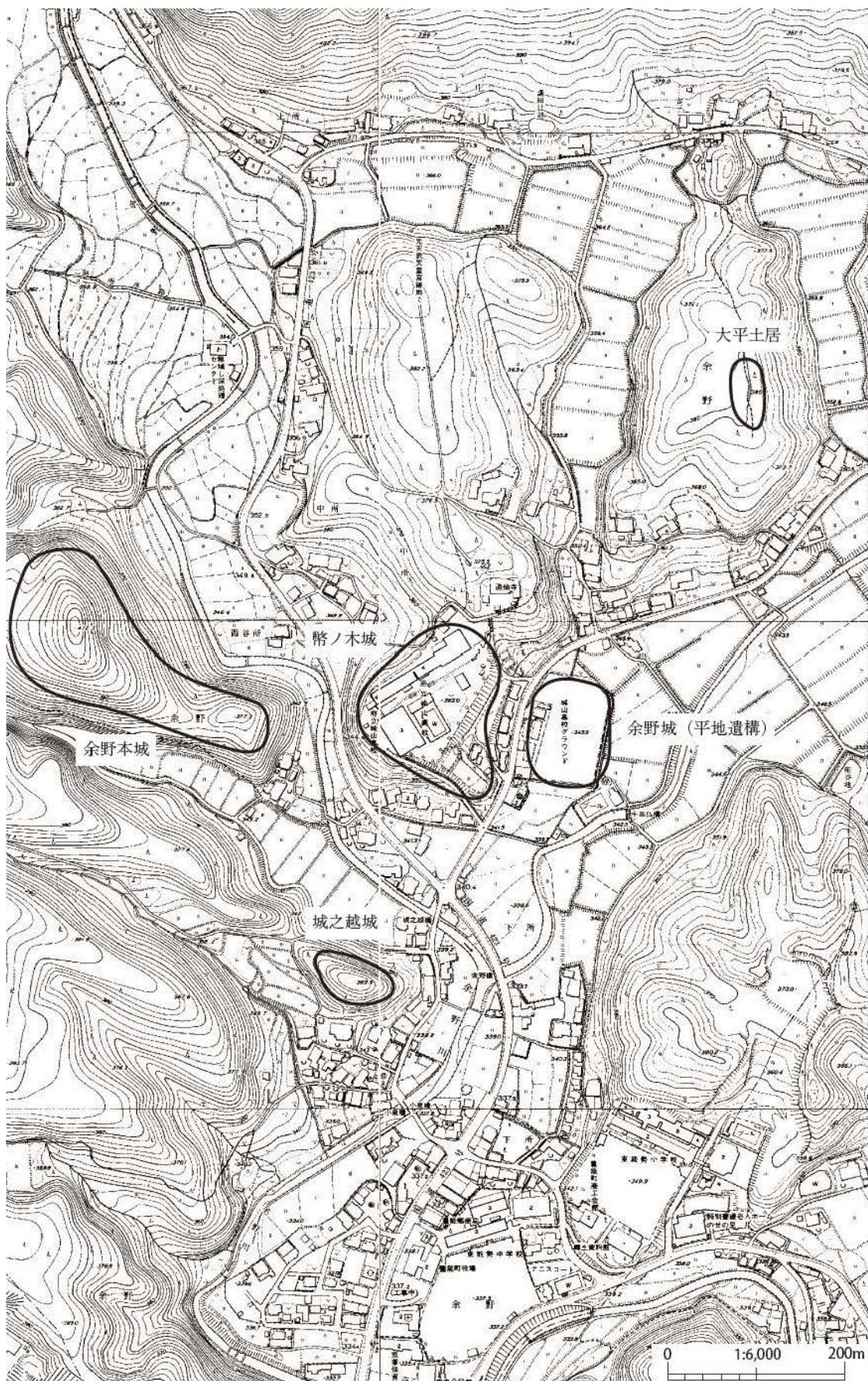


図 294 幣ノ木城・余野本城・余野城（平地遺構）・大平土居・城之越城 位置図 (S=1/5,000)



図295 幣ノ木城周辺 小字図

〔No.109〕 余野城（平地遺構）

所在地 豊能町余野字シデノ木 位置 東経 135.4957 北緯 34.9236  
立地 平地 標高 340m 比高 0m 城域 不明 時期 鎌倉～室町

【城館の概要】

余野城（平地遺構）は、豊能町余野字シデノ木に所在する城館。城主は不明である。当該地は幣ノ木城西側の平地にあたる。学校グラウンド建設工事に先だって発掘調査が行われ、13～14世紀を中心とする遺構・遺物が検出された。

遺構は大溝、掘立柱建物、塀、井戸などがある。大溝SD1は最大幅30m、深さ2mを測る。この大溝は幣ノ木城丘陵の裾を廻るように掘られている。掘立柱建物は複数検出され、全容が

わかる建物は $2 \times 2$ 間のものである。この建物の柱穴のひとつが、SD1 の埋土に掘り込まれていることから、大溝と建物とは時間差がある。また、堀跡と考えられる柱穴列や井戸が検出されている。大溝や堀の存在や、建物規模から城館としての機能が想定されている。

## 【主な調査歴】

昭和 60 年（1985）発掘調査 大阪府教育委員会（大阪府教育委員会 1985）

### 【主な出土遺物】

瓦器碗、土師器皿、甕、釜、須惠器碗、壺、美濃天目茶碗、中国製白磁、木製品、建築部材  
【関連地名】

城山

36



図 296 余野城（平地遺構） トレンチ配置図



図 297 余野城（平地遺構）遠景

【史料】

なし

【参考文献】

大阪府教育委員会 1985

〔No.110〕余野本城（余野古城、余野城、水牢城）

所在地 豊能町余野字城山 位置 東経 135.4901 北緯 34.9245

立地 尾根先端 標高 410m 比高 50m 城域 140m × 160m 時期 戦国

【城館の概要】

余野本城は、豊能町余野字城山に所在する山城。明応年間（1492～1501）に能勢氏の一族が余野本城を築城したとされる。最終の城主は余野山城守で、高山右近に組みしていたが、不和となり右近により滅ぼされたと伝わる。城主は余野山城守国綱（『東能勢村誌』）、余野山城守高綱（『大阪府全史』）、余野山城守頼保（『岸本家文書』）とされる。

遺構は非常に良好に遺存しており、堀切、横堀、土塁、虎口、櫓台状遺構、堅堀、井戸が確認されている。曲輪は単郭で、隅丸方形を二つ組み合わせたような南北に長い形をとる。主郭内は曲輪虎口をつなぐ凹状地で「北郭」「南郭」と区分される。北郭は西・北に逆L字型に土塁を配している。南郭中央部のやや南には、地山を掘り残した櫓台状遺構が存在する。城外から主郭に至る虎口形態には非常に工夫が凝らされている。主郭全周に横堀を備え、ここから堅堀につながる。郭西側部分のほぼ全面には、畝状空堀群が配されている。城外の虎口付近には石組み井戸がある。これらの城郭遺構から、永禄～天正前半期、若しくは天文末年～永禄年間の築城とする見解もある。

なお、余野地区には余野本城、幣ノ木城、城ノ越城という同規模の城郭が3城近接して存在している。古文書での「余野城」がどの城郭を指すのか明確でなく、それら相互の関係が注目される。また、フロイス『日本史』に登場する「余野の貴人クロン殿」と当城主の関係も、当地域を考える上で重要なものである。

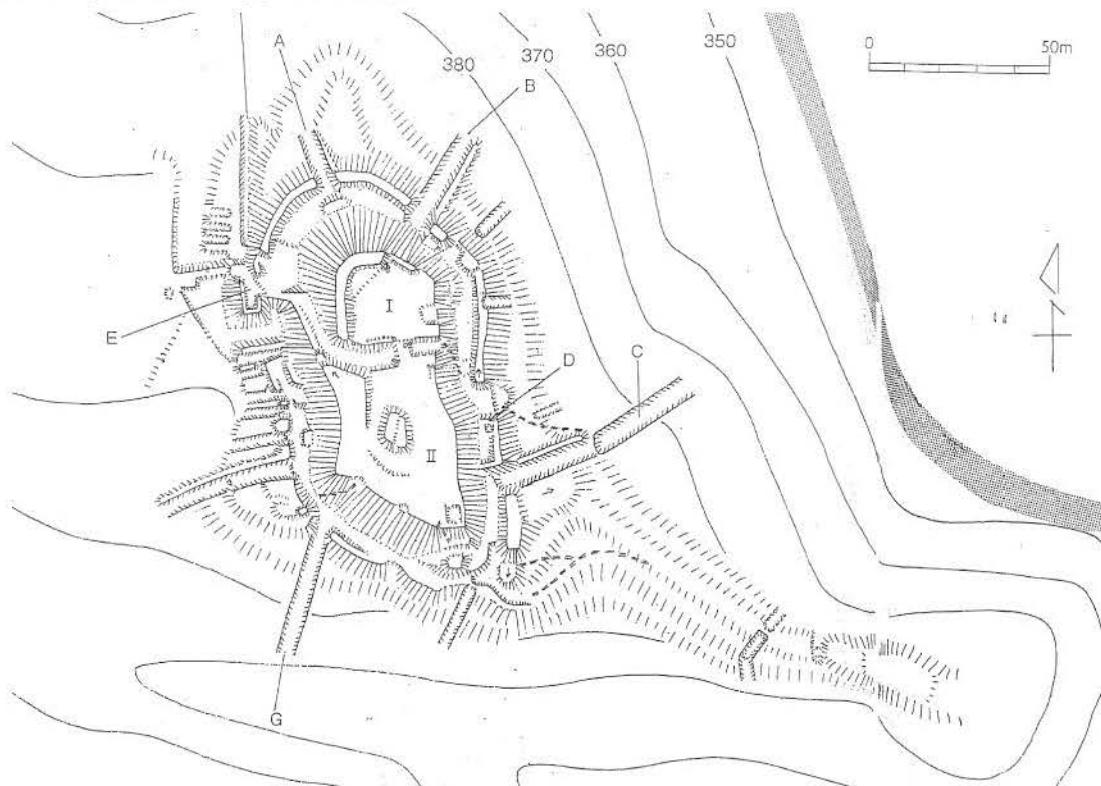


図298 余野本城 繩張図（高橋成計氏作成）

【主な調査歴】

なし

【主な出土遺物】

土師器、白磁、信楽焼、磚

【関連地名】

城山、堀殿、市場垣内、城之越橋（橋の名称）

【史料】

『岸本家文書』のうち「摂津國能勢郡之内与野村古記改集」、「攝陽郡談」、「日本史」、「永尾家系図」  
【参考文献】

井上 1922、高橋 1989、田代・渡辺・石田（編）  
1981、豊能町町史編纂委員会 1987、中西 2015、  
松岡 2015、村田 2002、森 1919、八上城研究会  
2000

図 299 『東摂城址図誌』より「余野城跡」  
(大阪府立中之島図書館 所蔵)



遠景



堀切



I郭



II郭

図 300 余野本城 写真

〔No.111〕大平土居（余野大平城、大平居館）

所在地 豊能町余野字大平 位置 東経 135.4973 北緯 34.9275

立地 尾根先端 標高 380m 比高 20m 城域 50m × 60m 時期 室町

【城館の概要】

大平土居は、豊能町余野字大平に所在する居館。築城時期は不明で、平頼言をはじめ平氏の一族が代々この地を本拠にしていたが、永享年中（1429～1441）に断絶したと伝わる。

遺構は土壘が確認されている。全体の形状は、約 25 m × 30m の不整長方形状を呈する。土壘のみで構成され、周囲に堅堀や堀切はみられない。土壘の高さは約 1 m で、土壘によって北曲輪、中央曲輪、南曲輪の 3 区域に分けられる。うち、中央曲輪の防備が手厚い。地表面上には遺物の散布は確認できない。西南角付近の土壘の開口部分が虎口に相当するものと考えられる。

【主な調査歴】

昭和 62 年（1987）測量調査 豊能町教育委員会（豊能町史編纂委員会 1987）

【主な出土遺物】

なし

【関連地名】

だいら山

【史料】

『岸本家文書』のうち「摂津國能勢郡の内与野村古記改集」

【参考文献】

高橋 1989、豊能町町史編纂委員会 1987

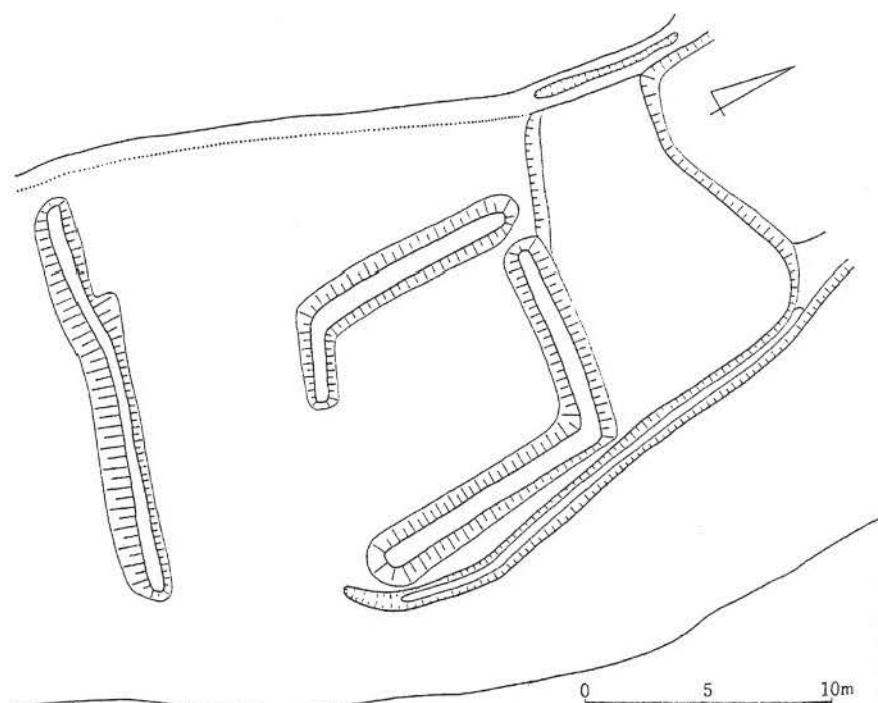


図 301 大平土居 繩張図（豊能町町史編纂委員会 1987 より転載）



遠景



土壘

図 302 大平土居 写真

**(No.112) 城之越城（城ノ越城、余野城ノ越城、越城）**

所在地 豊能町余野字梶ヶ谷 位置 東経 135.4933 北緯 34.9216

立地 尾根先端 標高 360m 比高 15m 城域 130m × 90m 時期 南北朝

**【城館の概要】**

城之越城（城ノ越城）は、豊能町余野字梶ヶ谷に所在する山城である。延文～応永年間に多田源氏の一族泉ノ太郎が丸山に堡を構えたとする伝承がある。

遺構は櫓台、切岸が確認されている。城郭としての規模は比較的大きく、主郭を中心として両翼を広げたような求心的な曲輪配置をもつ。多数の曲輪が構築されているが、明確な虎口や堅堀が見出せず、切岸を主体とした防御構造を採用しているようである。城郭北端部には櫓台状の遺構が存在する。堀切は存在しないが、櫓台状遺構の北面に沿う道路が、尾根を断ち切るものとなっていることから、この部分が本来は堀切であった可能性がある。当城郭近隣には同規模の城郭が3つ存在する。それらのうちでも、当城郭は遺構の様相および伝承から最も古相のものと考えられている。

**【主な調査歴】**

なし

**【主な出土遺物】**

瓦器、土師器

**【関連地名】**

城之越橋（橋の名称）、丸山（通称）

**【史料】**

『岸本家文書』のうち「摂津國能勢郡の内与野村古記改集」

**【参考文献】**

高橋 1989、田代・渡辺・石田（編）  
1981、高山地区文化財調査団 2001、中  
西 2015

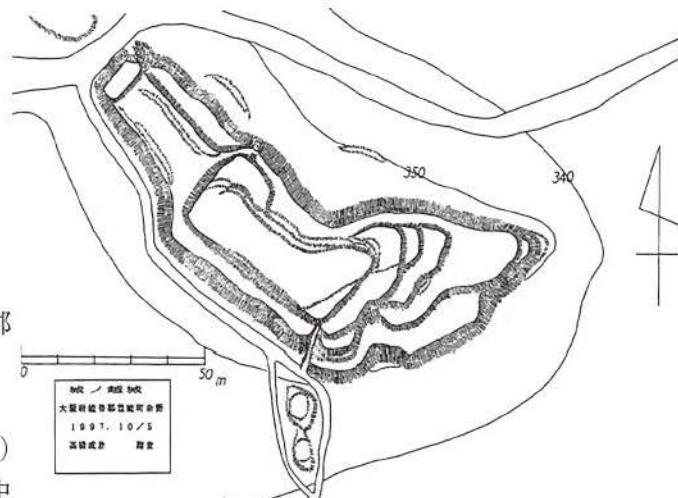


図 303 城之越城 繩張図（高橋成計氏作成）



遠景



主郭切岸



帶曲輪



附属曲輪・櫓台状遺構

図 304 城之越城 写真

### 〔No.113〕余野山上塁

所在地 豊能町余野字別所

位置 東経 135.4822 北緯 34.9252

立地 山頂部 標高 550m

比高 200m 城域 20m × 15m 時期 戦国？

#### 【城館の概要】

余野山上塁は、豊能町余野字別所に所在する山城。余野本城と水牢古城の双方を見通す光明山尾根突端のピーク上に位置する。能勢氏の支流の拠るところとされ、のろし場として利用されたと伝わる。築城時期や城主等は不明。

遺構も明確ではなく、平坦地も自然地形か人為的なものか判別が困難である。この平地東北端の法面部に地形を造成した痕跡がかろうじて認められる。この削平地から一段下がったところにも狭小な附属曲輪的な設備が存在する。これら以外には城郭に関する遺構は認められない。「のろし場」との伝承があるが、簡素な設備で自然地形に余り手を加えず活用したものであった可能性が考えられる。

#### 【主な調査歴】

なし

#### 【主な出土遺物】

なし

#### 【関連地名】

字城山、字水牢古城山

#### 【史料】

なし

#### 【参考文献】

森 1919

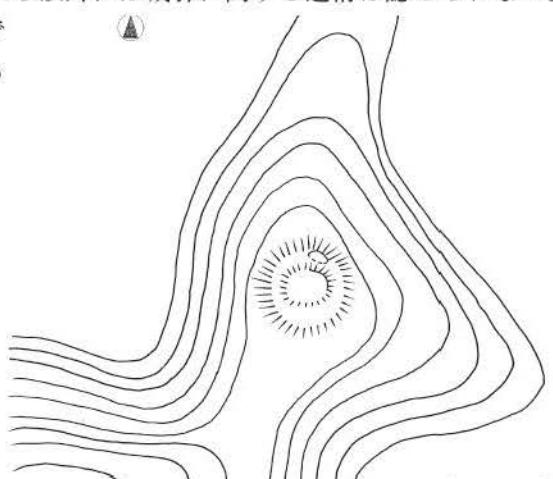


図 305 余野山上塁 繩張図



遠景



平坦地

図 306 余野山上塁 写真

### 〔No.114〕野間口鳥坂城（鳥坂城）

所在地 豊能町野間口字鳥坂山 位置 東経 135.4831 北緯 34.9349

立地 山頂部 標高 500m 比高 110m 城域 10m × 20m 時期 戦国

#### 【城館の概要】

野間口鳥坂城は、豊能町野間口字鳥坂山に所在する山城。山口左近の築城と伝わる。

遺構は不明瞭で、伝承はあるものの現状は自然地形のままで、造成痕跡は見出すことができない。当該地は摂津国と丹波国の境界上に位置し、当城郭の南方に位置する水牢古城とは峠道を挟んで並立している。この場所からは丹波方面がよく見通せ、監視の場としては適地となつ

ている。城郭であるならば、自然地形をそのまま利用したものと考えられる。また、山裾に字城山の地名があることから、こちらが本来の城郭であり、当該地は単なる見張り所的な場であった可能性もある。ただし、字城山の地でも城郭遺構は確認されておらず、実態は不明である。

【主な調査歴】

なし

【主な出土遺物】

なし

【関連地名】

土城下、城山、城山橋（橋の名称）

【史料】

なし

【参考文献】

高橋 1989、豊能町町史編纂委員会 1987、森 1919

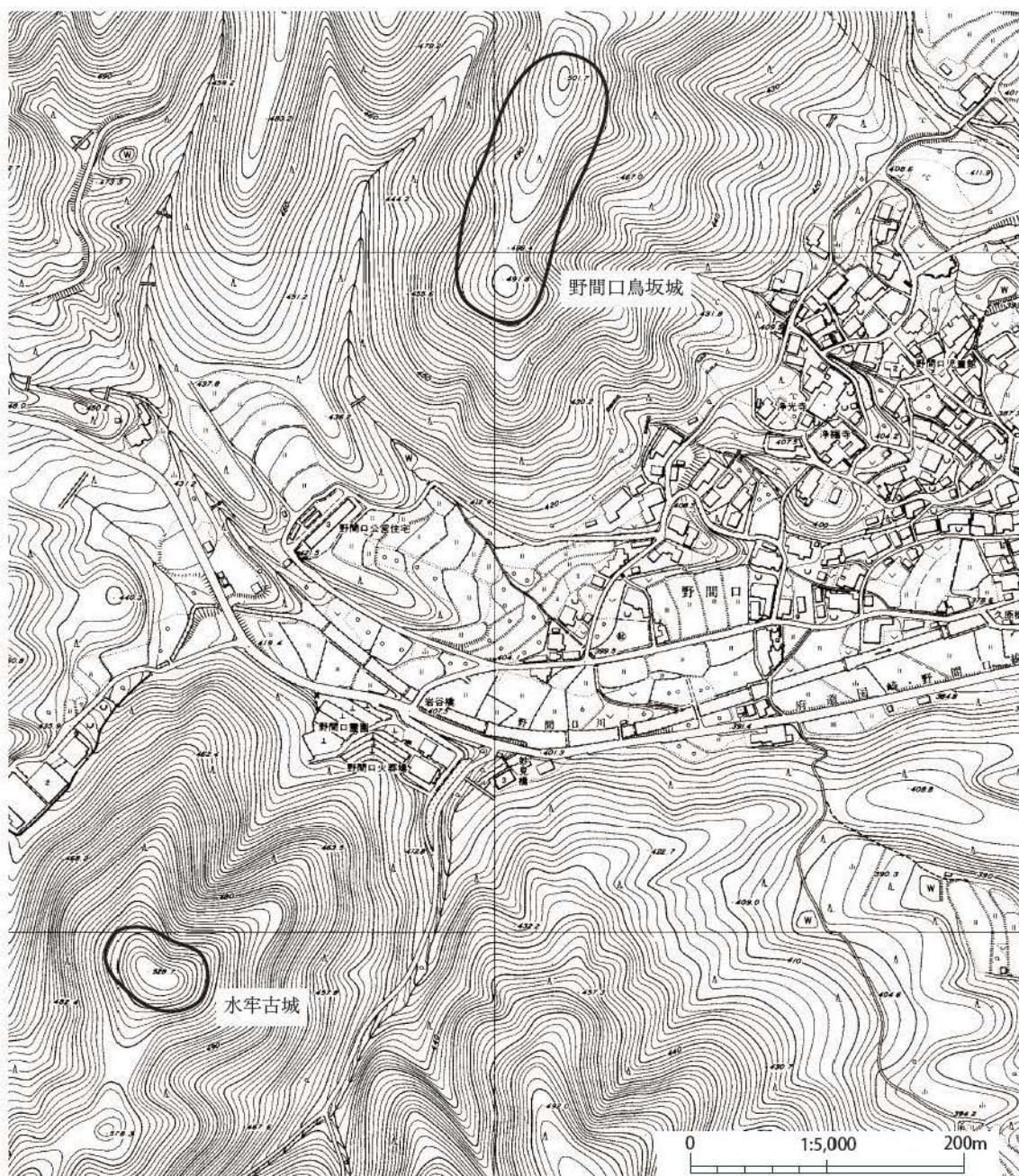


図 307 野間口鳥坂城・水牢古城 位置図



遠景



平坦地

図 308 野間口鳥坂城 写真

**(No.115) 水牢古城（野間口水牢古城、水牢城）**

所在地 豊能町野間字水牢古城山 位置 東経 135.4796 北緯 34.9292  
立地 山頂部 標高 520m 比高 120m 城域 50m × 30m 時期 戦国？

**【城館の概要】**

水牢古城は、豊能町野間字水牢古城山に所在する山城である。築城時期および城主は不明。遺構は土壘が確認されている。単郭で、40 m × 20 m程度の両長辺のややくびれた長方形状の平場となっている。曲輪の南側には土壘が配され、北側・西側にも不明瞭ながら土壘状の高まりが認められる。曲輪東側のやや下がった地点に土坑状の落ち込みがみられ、掘り抜き井戸等の貯水施設が存在した可能性がある。

**【主な調査歴】**

昭和 62 年（1987）測量調査 豊能町教育委員会（豊能町史編纂委員会 1987）

**【主な出土遺物】**

なし

**【関連地名】**

水牢古城山

**【史料】**

『岸本家文書』のうち「摂津國能勢郡の内与野村古記改集」

**【参考文献】**

高橋 1989、豊能町町史編纂委員会 1987

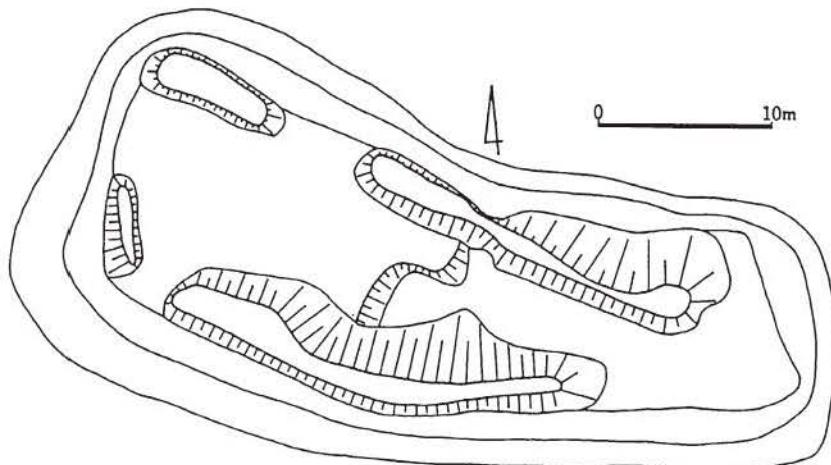


図 309 水牢古城 繩張図（豊能町町史編纂委員会 1987 より転載）



図 310 水牢古城 写真

(No.116) 吉川城（吉河城）

所在地 豊能町吉川字高代 位置 東経 135.4439 北緯 34.9201

立地 山頂部 標高 360m 比高 160m 城域 80m × 50m 時期 室町～戦国

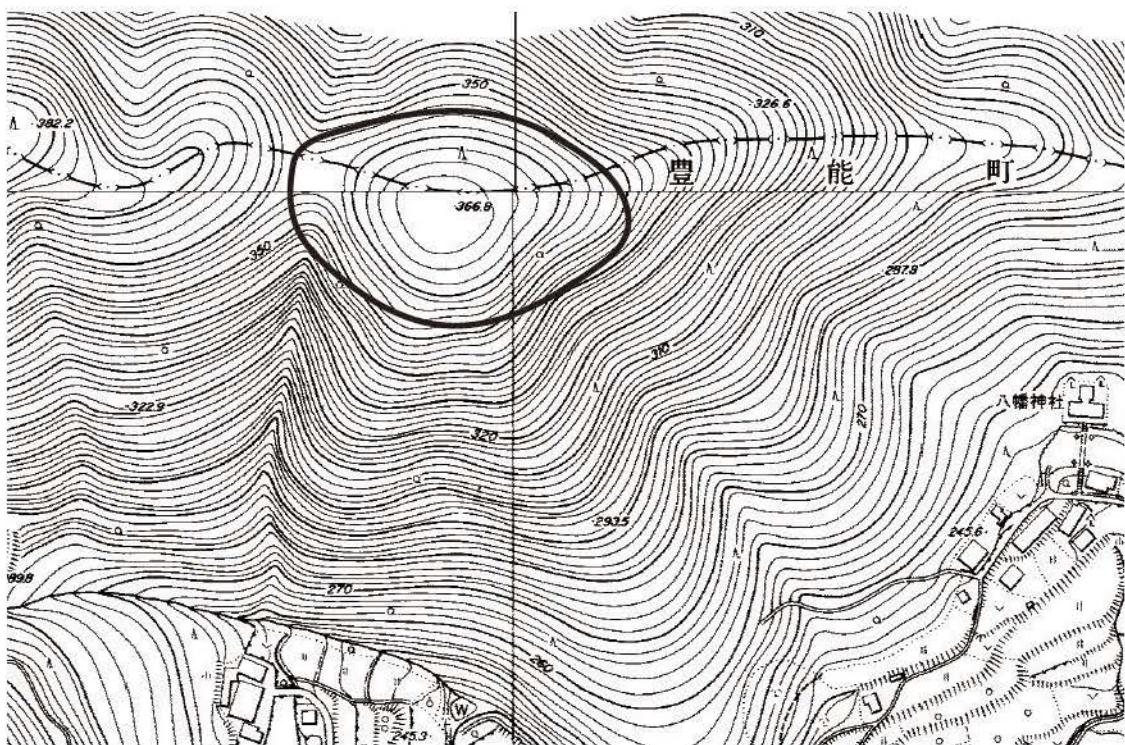


図 311 吉川城 位置図

### 【城館の概要】

吉川城は、豊能町吉川字高代に所在する山城で、高代寺山から東に伸びた尾根の突端上に位置する。15世紀末、吉川長仲築城とされ、城主は吉川長仲、吉川豊前守定満で、天正年間（1573～92）に塩川勢により落城したと伝わる。なお、『高代寺日記』には、天正元年（1573）「吉河城没落」の記事があるが、この「吉河城」は吉川井戸城に比定されるものと判断される。

遺構は、曲輪、帯曲輪、切岸が確認されている。単郭で、郭内の削平の状況も良好ではなく、恒常に活用された可能性は低い。主郭にはほぼ全周に帯曲輪を巡らし、西側には一段の付属曲輪を設ける。堅堀は存在せず、明瞭な虎口は確認できないが、帯曲輪の欠けた部分に虎口があった可能性がある。当城郭は、境目の城として、隣接する吉川井戸城の支城機能を担ったものであろう。また、その立地については、能勢氏の本拠地である丸山城と、隣接する吉川井戸城とを見通す中継所としての機能を配慮したものと考えられている。

### 【主な調査歴】

なし

### 【主な出土遺物】

なし

### 【関連地名】

高代寺、馬場

### 【史料】

『高代寺日記 下』

### 【参考文献】

高橋 1989、豊能町教育委員会 2003、豊能町史編纂委員会 1987、中西 2012、中西 2015、山田 1990

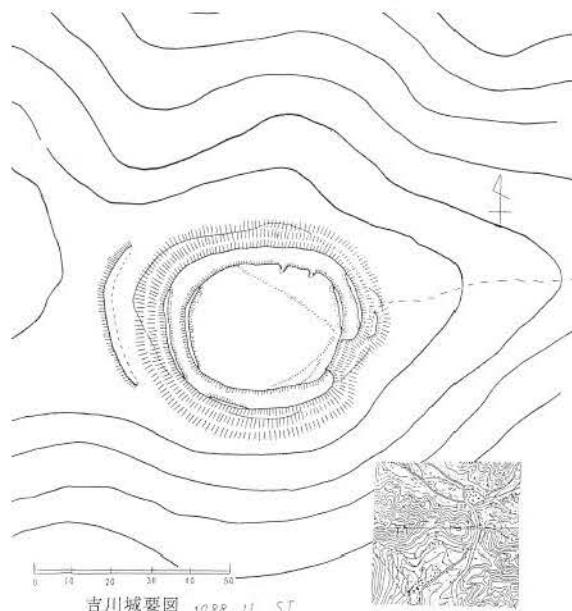


図 312 吉川城 繩張図（高橋成計氏作成）



遠景



帯曲輪・切岸

図 313 吉川城 写真

### 〔No.117〕 吉川井戸城（井戸城）

所在地 豊能町吉川字川西

位置 東経 135.4457 北緯 34.9112

立地 尾根先端 標高 210m

比高 20m 城域 150m × 80m 時期 平安？～戦国

### 【城館の概要】

吉川井戸城は、豊能町吉川字川西に所在する山城。伝承では、平安時代に源満仲の臣、藤原仲光が城郭を築いたと伝えられる。地元ではこの地を「城山」と呼んでいる。『高代寺日記』、『高代寺舊記』に記述される「吉川城（吉河城）」とは、当城郭に比定されるものと考えられる。

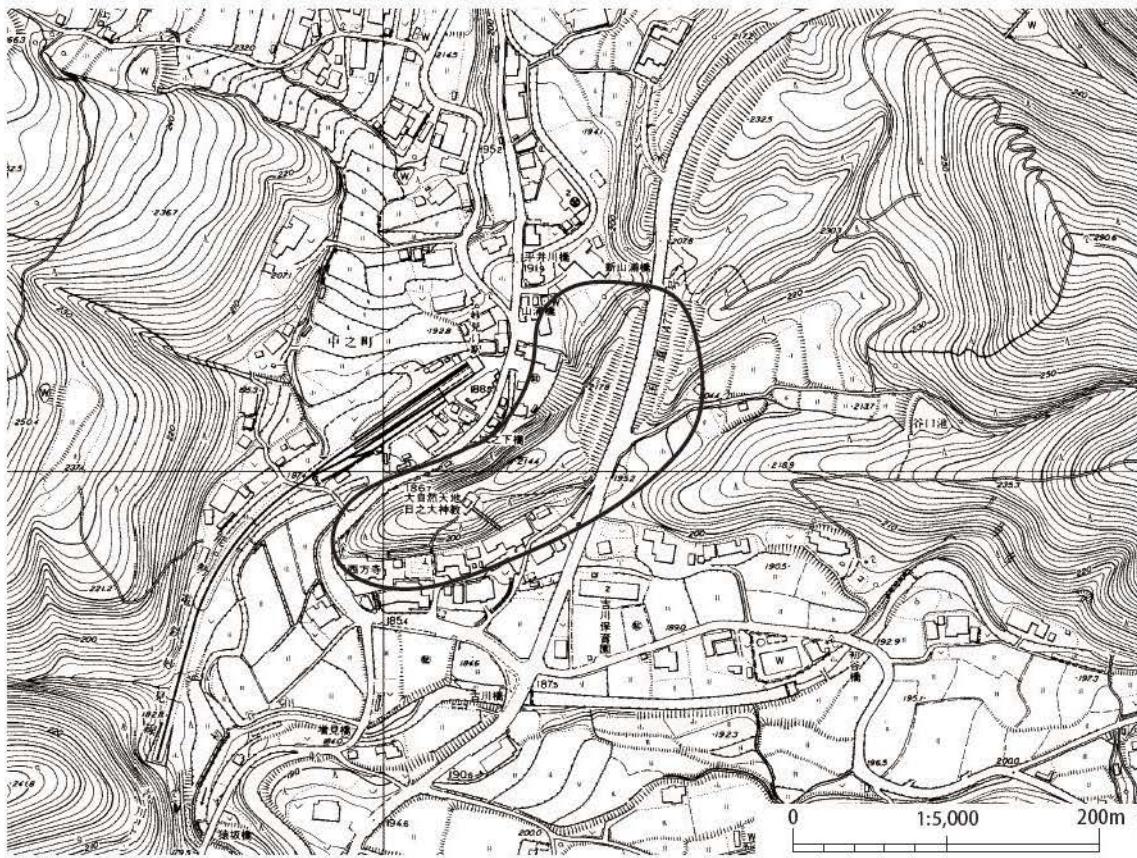


図 314 吉川井戸城 位置図 (S=1/5,000)

城主は藤原仲光、吉川長仲、吉川豊前守定満と伝わる。

遺構は、郭、切岸、帯曲輪、堀切、礎石、焼土層、石垣、石積が確認されている。2002年の調査では、石垣を備えた礎石建ちの瓦葺き建物が検出された。出土した瓦から、この建物の時期は天正時代後半期のものと考えられる。礎石建ち建築、瓦葺き、石垣の使用等から、この城郭の様相は近世城郭としての色合いが強いものと考えられる。虎口は検出されなかつたが、石材が散乱する状況から虎口が破却された可能性がある。主郭部からは炭層が検出され、この炭層から30cm程度の盛土によって主郭部が造成されている。これは、この地に存在していた中世城郭遺構の上に重ねてこの城郭が建設されたものであると解釈されている。堀切や堀切等は、本来は中世城郭に伴つたものであろう。なお、ここで検出された炭層面は、「高台寺日記」における天正元年の吉川城落城の記事に相当する可能性がある。

#### 【主な調査歴】

平成14年(2002) 豊能町教育委員会(豊能町教育委員会 2003)

#### 【主な出土遺物】

瓦、備前焼、土師器

#### 【関連地名】

城山、字城ノ本、城下橋（橋の名称）

#### 【史料】

高代寺日記 下、日本輿地通志畿内部攝津國

#### 【参考文献】

高橋 1989、豊能町教育委員会 2003、豊能町史編纂委員会 1987、中西 2012、山田 1990

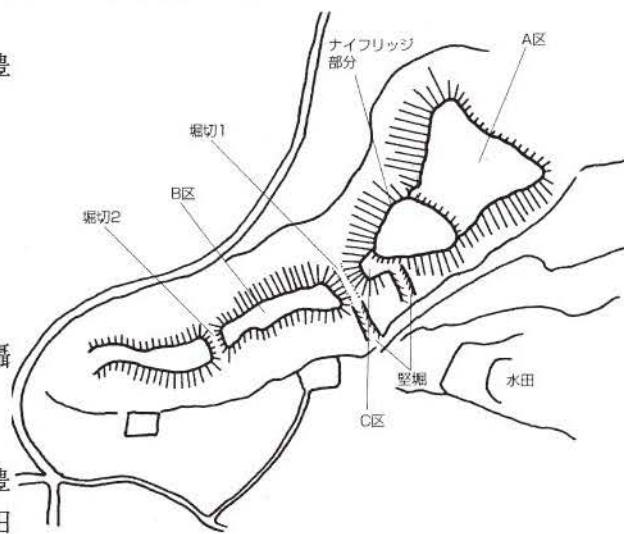


図 315 吉川井戸城 繩張図  
(豊能町教育委員会 2003 より転載)



図 316 吉川井戸城 小字図

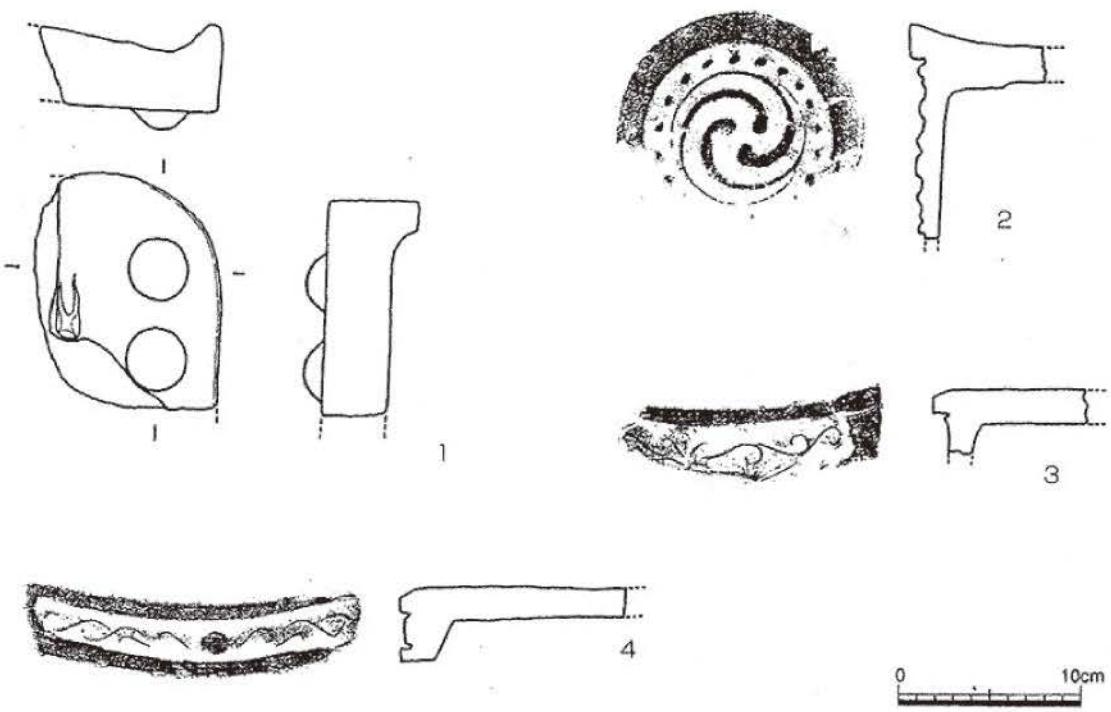


図 317 吉川井戸城 出土遺物 (S=1/4) (豊能町教育委員会 2003 より転載)



遠景

帶曲輪

図 318 吉川井戸城 写真

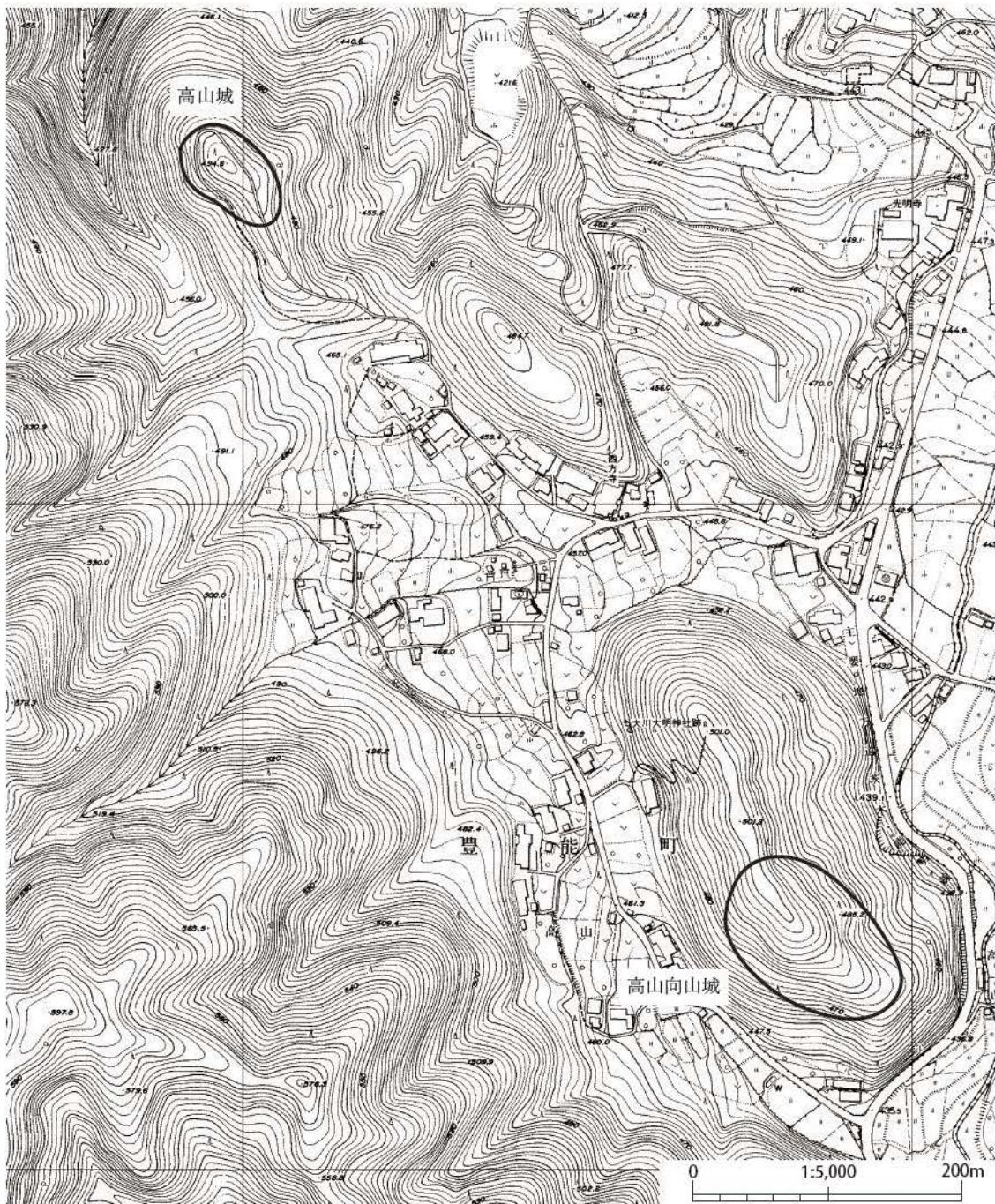


図 319 高山城・高山向山城 位置図 (S=1/5,000)

### 〔No.118〕高山城

所在地 豊能町高山字城山 位置 東経 135.4828 北緯 34.8910

立地 山頂部 標高 480m 比高 30m 城域 30m × 60m 時期 戦国

#### 【城館の概要】

高山城は、豊能町高山字城山に所在する山城である。地元では「ジョウヤマ」と呼ばれ、城として認識されてきた。高山向山城とは、現在の高山地区集落を挟んで相対する位置関係にある。16世紀の築城とされ、城主は高山氏と伝わる。

遺構は堀切、土塁と附属曲輪が確認されている。郭は単郭で、形状は不整形である。北側部分は境界が不明瞭で、曲輪か自然地形かの区分が明瞭ではない。簡素な構造であるが、主郭の東側斜面には附属曲輪が設けられている。主郭南側には堀切と土塁が設けられているが、堀切の主要部は林道建設のため埋められており、土塁は後世の改変が著しく、現状ではその痕跡が認められる程度である。堀切は東側斜面では堅堀らしき痕跡あり、それと連結しているように見えるが、西側斜面には伸びている痕跡がない。主郭の北よりには14.5m×8mの一段高くなった不整形橿円部分がある。築城の際に削平せずに残したものか、櫓の土台であったのか不明である。

#### 【主な調査歴】

なし

#### 【主な出土遺物】

なし

#### 【関連地名】

城山、弓場、殿所、木戸口、待所、的場

#### 【史料】

なし

#### 【参考文献】

田代・渡辺・石田（編）1981、高橋 1989、  
高山地区文化財調査団 2001、中西 2015

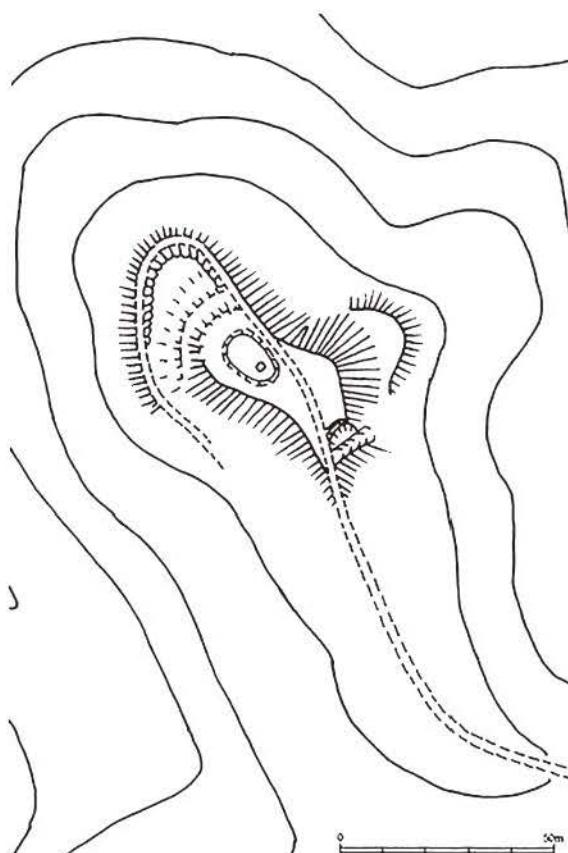


図 320 高山城 繩張図（高橋成計氏作成）



遠景



土塁・堀切

図 321 高山城 写真



図 322 高山城・高山向山城 小字図

**(No.119) 高山向山城（向山城）**

所在地 豊能町高山字イゴタニ 位置 東経 135.4874 北緯 34.8859

立地 山頂部 標高 500m 比高 50m 城域 60m × 50m 時期 戦国

**【城館の概要】**

高山向山城は、豊能町高山字イゴタニに所在する山城である。城主は高山飛驒守と伝わる。

遺構は堀切、横堀、帯曲輪、土橋、土塁、堅堀が確認されている。郭はやや不整形の隅丸長方形状を呈する。郭面には、比高差はほとんど認められないが、三段の壇状の遺構が見出せる。郭北側は幅約 5 m の堀切で遮断されており、この堀切は西延長においては堅堀と連結され、東延長では郭下段の帯曲輪状遺構に接続されている。帯曲輪状遺構は、一部分を除きほぼ郭を囲繞しており、南端には土橋が設けられている。土橋は、尾根を掘り残して構築された土塁と連結されており、この土塁により帯曲輪状遺構はこの部分で横堀状の遺構の様を呈している。郭南側の尾根を下った部分に自然の岩壁を切岸に活用した附属曲輪が設けられている。

**【主な調査歴】**

平成 13 (2001) 年 測量調査 高山地区文化財調査団 (高山地区文化財調査団 2001)

【主な出土遺物】

なし

【関連地名】

弓場、殿所、木戸口、待所、的場

【史料】

なし

【参考文献】

高橋 1989、高山地区文化財調査団 2001、  
中西 2015

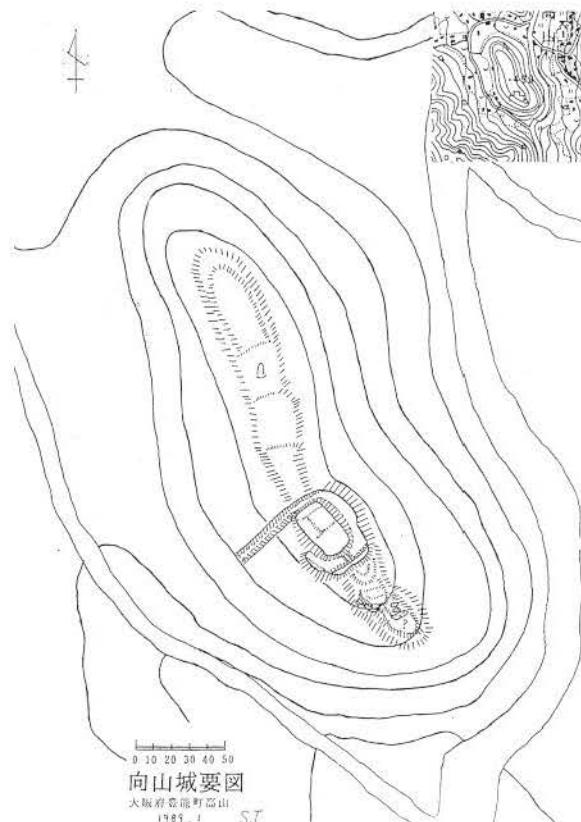


図 323 高山向山城 繩張図(高橋成計氏作成)



遠景



主郭・堀切



土塁・土橋



帶曲輪

図 324 高山向山城 写真

## 【能勢町域】

### 〔No.120〕 山辺城（鷹爪城、小富士の城）

所在地 能勢町山辺 位置 東経 135.404541 北緯 34.980828  
立地 山頂部 標高 320m 比高 433.3m 城域 300 × 200 時期 平安～戦国

#### 【城館の概要】

山辺城は、能勢町山辺に所在する山城。寛弘年間頃には築城が始まったとされ、大町氏の居城となった。天文年間には、大町右衛門尉宗長の居城であったと伝わる。天正7年(1579)8月、織田信澄・塩川伯耆守国満に攻められ、落城したとされる。

遺構は、帯曲輪・土壘・堀切・豊堀・横堀・虎口・石垣が確認されている。能勢郡において最も大規模な城郭であり、遺構も良好に残されている。

#### 【主な調査歴】

なし

#### 【主な出土遺物】

白磁・染付・土師器小皿・碁石・鉄製品（雁又鎌・釘）（いずれも表採資料）

#### 【関連地名】

城山

#### 【史料】

『摂陽群談』、『中川氏御年譜』、『慶長十年摂津国絵図』、『東摂城址図誌』

#### 【参考文献】

田代・渡辺・石田（編）1981、中谷1967、能勢町史編纂委員会（編）2001、中井（監）2015、中西2015

### 〔No.121〕 森上城（枳根城、南面之城、桝形城）

所在地 能勢町森上 位置 東経 135.395057 北緯 34.971654  
立地 山頂部 標高 328.2m 比高 100m 城域 95m × 46m 時期 平安～戦国

#### 【城館の概要】

森上城は、能勢町森上に所在する山城。天暦7年(953)に、多田出羽守満政の名とともにあらわれるが、明らかではない。『摂津志』では森上氏が、『大阪府全志』では能勢小重郎が本城に拠ったとされるが、隣接する今西城との重複や混同などが指摘されている。

遺構は、土壘・堀切・畝状空堀群・横堀・虎口が確認されている。東西に長い長方形の曲輪をもち、ほとんどを土壘で囲う。さらに、中央部には一段高い区画を設け、南辺を除いて土壘を巡らせている。曲輪の東側は山辺川に向けて尾根が下降してゆくが、ここには多重の堀切と豊堀群を設けて防御性を高めている。南側は土壘の切れ目に小曲輪をともなった虎口を設け、そのまま下降すると森上館に至る。同じ尾根上には今西城があり、東には丹州街道・山辺川を挟んで吉村城が築かれるなど、付近には小規模な城郭が密集している。また、北東方向に山辺城を、南東方向に片山城を望む位置にあたる。

#### 【主な調査歴】

なし

#### 【主な出土遺物】

なし

#### 【関連地名】

城山

#### 【史料】

『摂陽群談』、『摂津志』

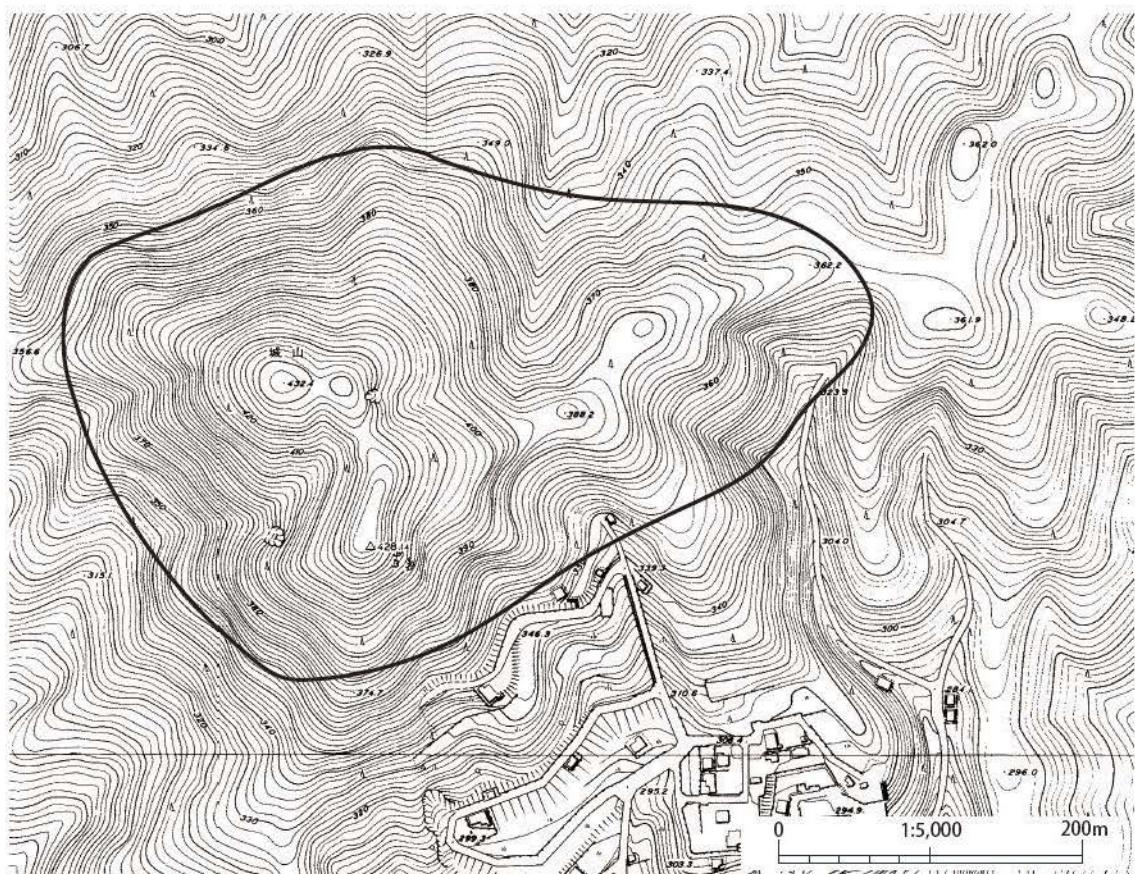


図 325 山辺城 位置図 (S=1/6,000)

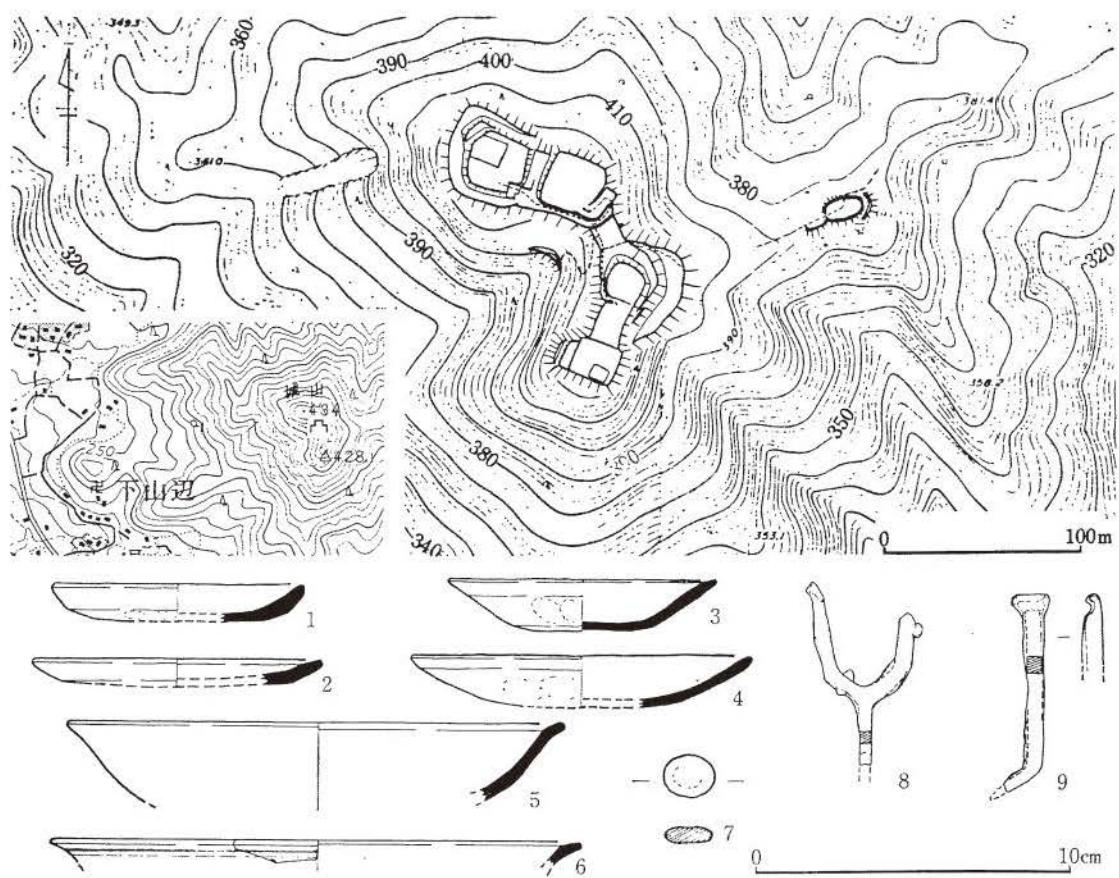


図 326 山辺城 繩張図および表採資料 (田代・渡辺・石田 (編) 1981 より転載)

【参考文献】

岡寺 1999、田代・渡辺・石田（編）1981、中西 1997、中西 2015、中井（監）2015

〔No.122〕今西城（杵の城、森本城、今西砦）

所在地 能勢町今西 位置 東経 135.39363 北緯 34.971637  
立地 山頂部 標高 320m 比高 100m 城域 24.3m × 25m 時期 平安？～戦国

【城館の概要】

今西城は、能勢町今西に所在する山城。天文年間に森本清左衛門尉景久が築城したものと伝わり、天文16年（1547）に塩川伯耆守と能勢小十郎等が戦った枳根宮合戦の際に、景久が塩屋勢と戦った砦とされる。また、長保2年（1000）、多田満政の三男山田兵部大輔満重の築城

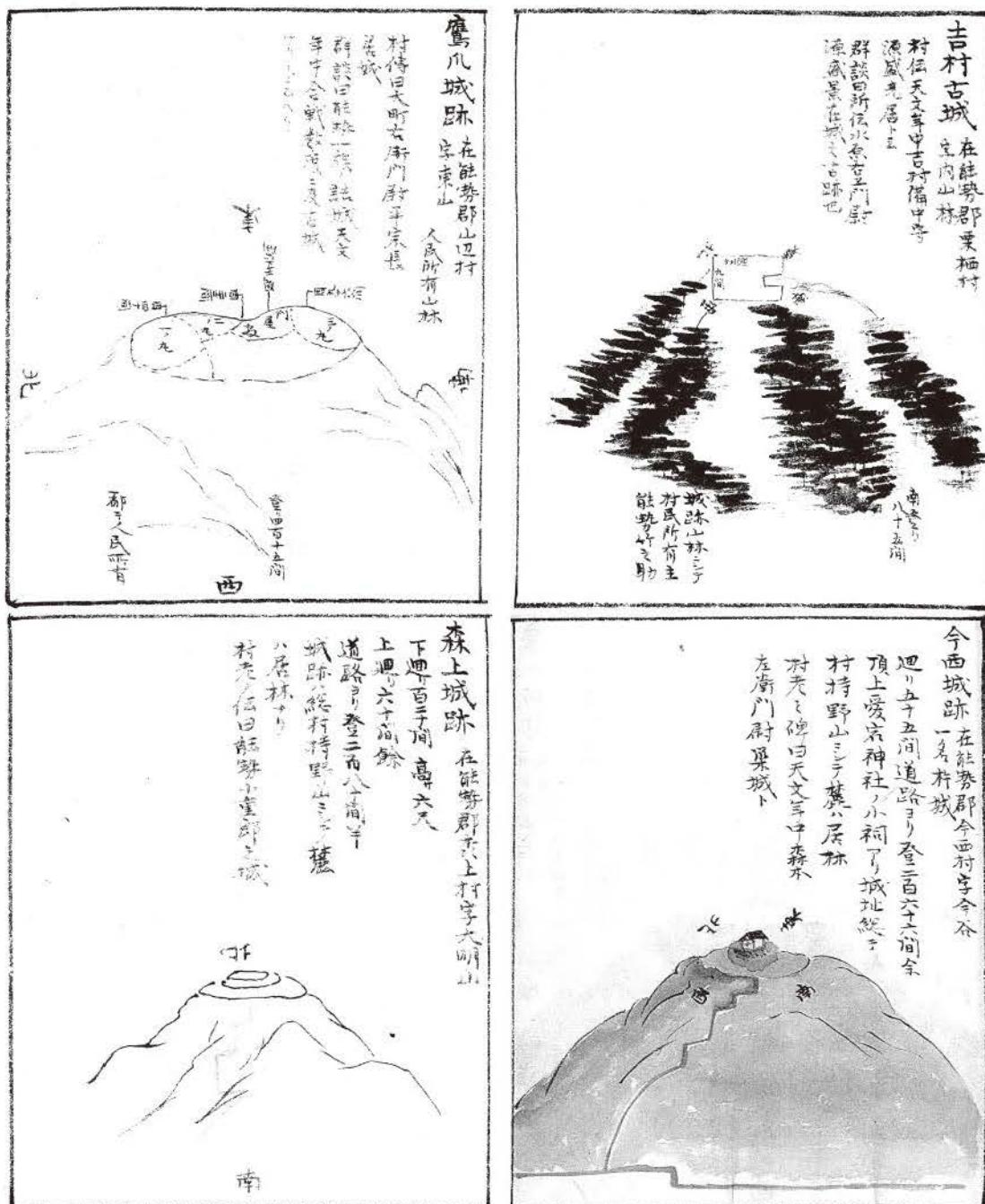


図 327 『東摂城址図誌』より「鷹爪城跡」「吉村古城」「森上城跡」「今西城跡」  
(大阪府立中之島図書館 所蔵)

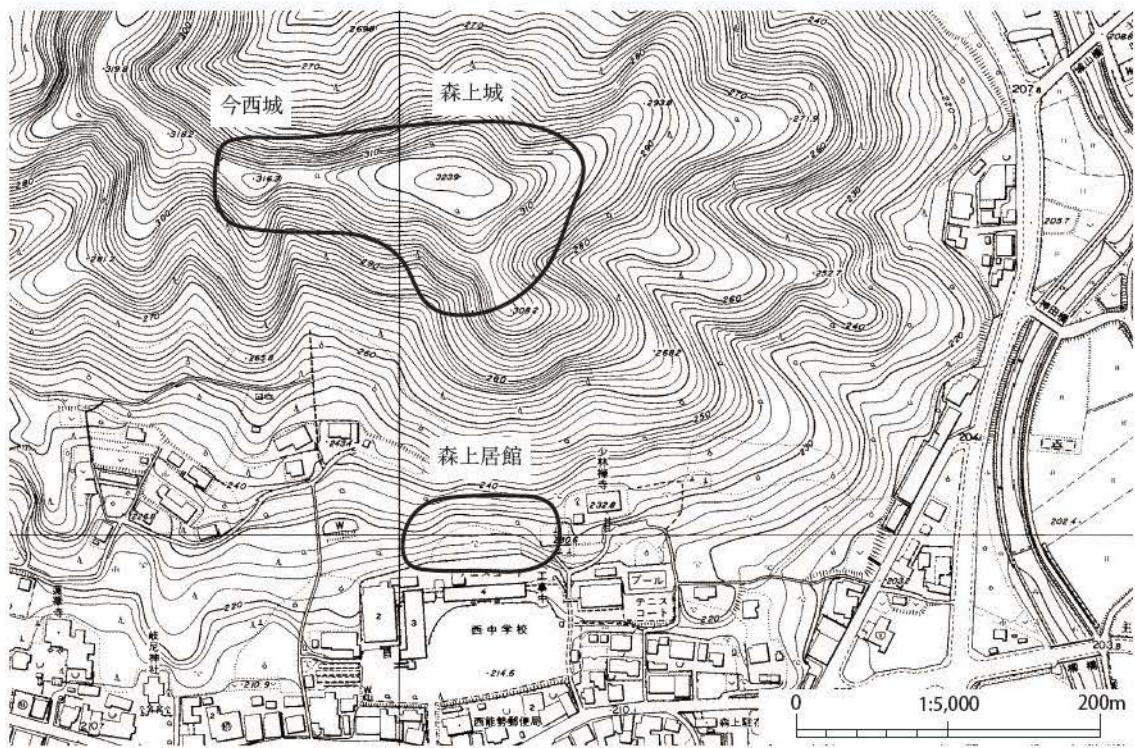


図 328 森上城・今西城・森上館 位置図 (S=1/5,000)

とする伝承もある。

遺構は、土段・堀切・土塁が確認されている。同じ尾根上には森上城があり、今西城の土塁は森上城とは反対の位置にのみ構築され、西側の守りを固めている。

#### 【主な調査歴】

なし

#### 【主な出土遺物】

なし

#### 【関連地名】

城山

#### 【史料】

『摂陽群談』、『摂津志』

#### 【参考文献】

田代・渡辺・石田（編）1981、中井（監）  
2015、中西 2015



図 329 森上城・今西城・森上館 縄張図

(田代・渡辺・石田（編）1981 より転載)

#### [No.123] 森上館

所在地 能勢町森上

位置 東経 135.395401 北緯 34.969788

立地 山裾部

標高 320m

比高 100m

城域 24.3m × 25m 時期 戦国

#### 【城館の概要】

森上館は、能勢町森上に所在する居館。森上城・今西城の存する尾根の南裾にあたり、これらの城郭と対になる居館であると考えられる。

遺構は、土壘・堀切が確認されている。土壘は東西 60m を測り、約半町の方形の敷地を復元しうるが、南側は中学校造成等により改変が著しく、明らかでない。また、当地の西側には式内社・岐尼神社が所在することから、神宮寺の僧房等の寺院遺構であった可能性についても指摘されている（中西 2015）。

【主な調査歴】

なし

【主な出土遺物】

なし

【関連地名】

なし

【史料】

なし

【参考文献】

田代・渡辺・石田（編）1981、中西 2015

〔No.124〕吉村城

所在地 能勢町来栖 位置 東経 135.401312 北緯 34.971083  
立地 尾根先端 標高 320m 比高 100m 城域 24.3m × 25m 時期 戦国

【城館の概要】

吉村城は、能勢町来栖に所在する山城。天文年間（1532～55）に、吉村備後守盛光の居城とされたと伝わる。山辺川を挟んで森上城に相対する位置にあたる。

遺構は堀切・土壘が確認されている。曲輪は傾斜や段を有しており、平坦地の造成が十分になされていない。

【主な調査歴】

なし

【主な出土遺物】

なし

【関連地名】

なし

【史料】

『摂陽群談』

【参考文献】

田代・渡辺・石田（編）1981、中井（監）2017、中西 2015

〔No.126〕片山城（塩山城）

所在地 能勢町片山 位置 東経 135.402374 北緯 34.959763  
立地 山頂部 標高 314m 比高 100m 城域 100m × 30m 時期 戦国

【城館の概要】

片山城は、能勢町片山に所在する山城。『摂陽群談』では、塩山肥前守景信が在城し、応仁の乱頃の築城とされる。いっぽう、『摂津志』では片山備後守が居城としたものと伝わる。

遺構は、帯曲輪・土壘・堀切・虎口が確認されている。山頂に低い土壘を巡らせた主郭を配し、東側の土壘の開口部にくい違い虎口が認められる。北半には帯曲輪が附属し、さらに北側に平坦地が2段程度認められる。南側は土壘と堀切を挟んで平坦地があり、さらに堀切によって空間を分けている。

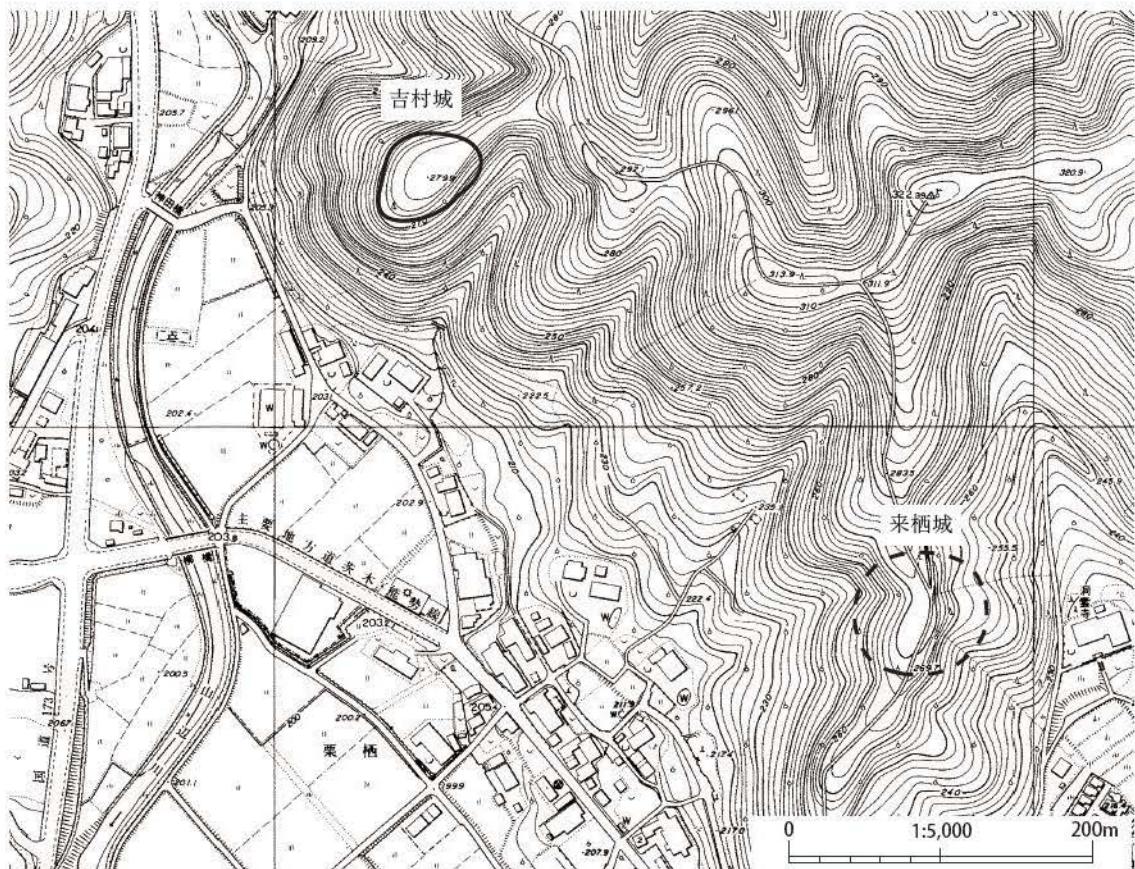


図 330 吉村城 位置図 (S=1/5,000)

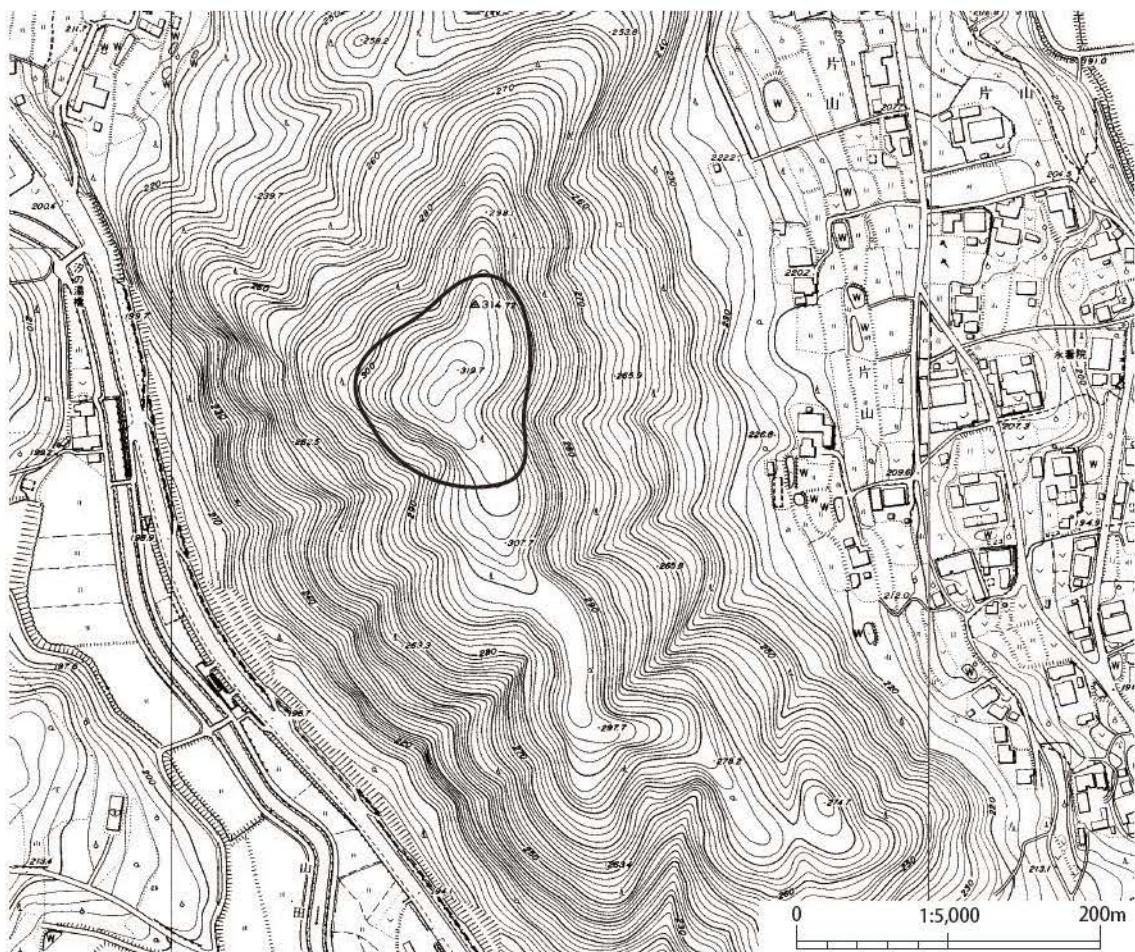


図 331 片山城 位置図 (S=1/5,000)

**【主な調査歴】**

なし

**【主な出土遺物】**

なし

**【関連地名】**

なし

**【史料】**

『摂陽群談』、『摂津志』

**【参考文献】**

田代・渡辺・石田（編）1981、中井（監）  
2016、中西 2015

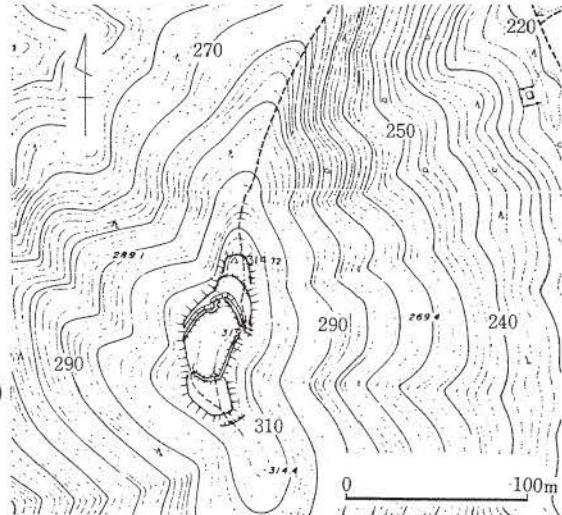


図 332 片山城 繩張図

（田代・渡辺・石田（編）1981 より転載）

**(No.127) 山田城（亀ノ屋城）**

所在地 能勢町垂水・山田

位置 東経 135.379500 北緯 34.974199

立地 山頂部 標高 370m

比高 120m 城域 155m × 30m 時期 平安～戦国

**【城館の概要】**

山田城は、能勢町山田・垂水に所在する山城。『多田社記』では、治安2年（1022）から山田城の城主が多田出羽守満政の五男・山田刑部大輔源忠国となり、兄・忠重も在城するという記載があり、築城はこれ以前に遡るものとみられる。天正年間、山田清左衛門景明の際に落城したと伝わるが、『大阪府全志』では三田三之丞景明の居城で、文明9年（1477）に没落したとしている。

遺構は、土壘・堀切・竪堀・畝状空堀群・虎口が確認されている。土壘に囲まれた二つの曲輪が連接するような構造をもち、その両端および中間は堀切によって区別される。東側の曲輪では北東部に、西側の曲輪では南東部に、それぞれくい違い虎口を設けている。東側曲輪は西に向けて徐々に高くなる数段の段があり、平坦面の造成が顕著でない。南西隅には井戸を設けている。西側曲輪も高低差をもち、西南辺の谷部に小規模な畝状空堀群を構築している。

**【主な調査歴】**

なし

**【主な出土遺物】**

なし

**【関連地名】**

城山

**【史料】**

『多田社記』、『摂陽群談』、『摂津志』

**【参考文献】**

井上 1922、田代・渡辺・石田（編）1981、中井（監）2017、中西 2015

**(No.128) 平通城（岡崎城）**

所在地 能勢町平通

位置 東経 135.410936 北緯 34.948876

立地 尾根先端 標高 307m

比高 100m 城域 85m × 20m 時期 戦国

**【城館の概要】**

平通城は、能勢町平通に所在する山城。『大阪府全志』では、岡崎左衛門尉宗盛が在城し、

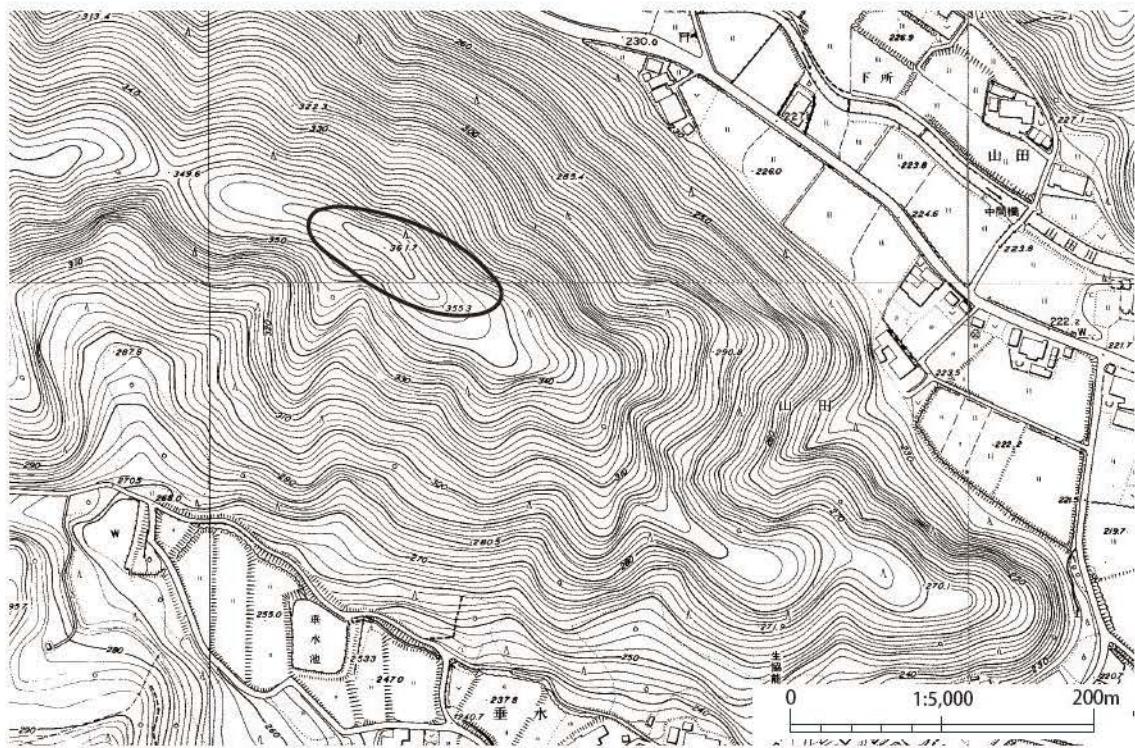


図 333 山田城 位置図 (S=1/5,000)

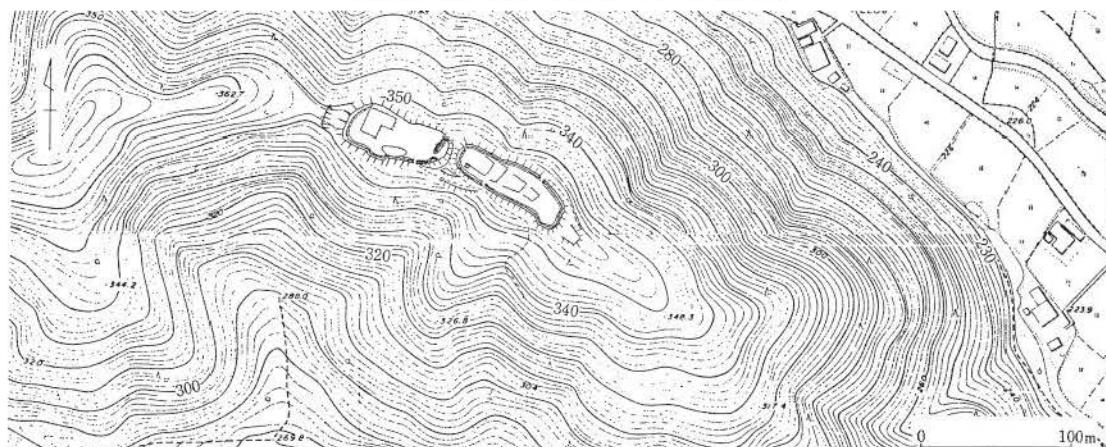


図 334 山田城 繩張図 (田代・渡辺・石田(編) 1981 より転載)

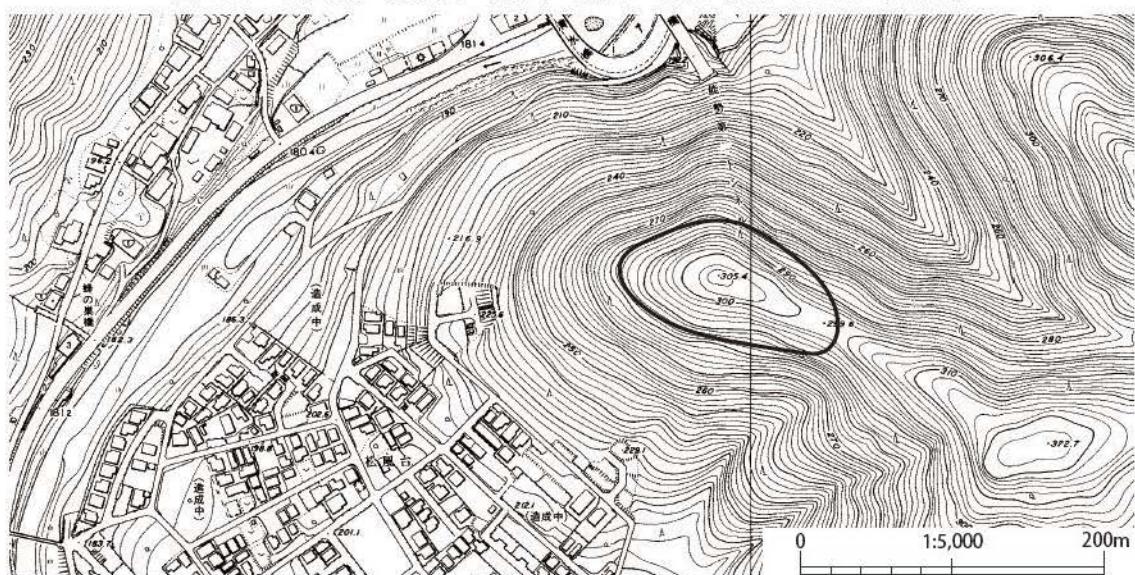


図 335 平通城 位置図 (S=1/5,000)

天正7年（1579）に織田信澄の進攻にあい廃城となったものとしている。

遺構は堀切が確認されているほか、石垣とも評価しうる石列がある。大路次川と山田川の合流点を望む尾根の先端を利用したもので、東側に堀切を設けて平坦地が続き、さらに堀切を設けて主郭に至る。いずれの曲輪内も平坦地の造成は明瞭ではなく、高低差が残される。

#### 【主な調査歴】

なし

#### 【主な出土遺物】

なし

#### 【関連地名】

なし

#### 【史料】

なし

#### 【参考文献】

井上1922、田代・渡辺・石田（編）1981、中井（監）2018、中西2015

### 〔No.129〕上杉城（櫛並城）

所在地 能勢町上杉 位置 東経 135.392225 北緯 34.955102  
立地 尾根先端 標高 200m 比高 40m 城域 50m × 50m 時期 戦国

#### 【城館の概要】

上杉城は、能勢町上杉に所在する山城。『摂陽群談』では城主を小塩氏とするが、『大阪府全志』では向井氏の居城としている。

遺構は、土塁・堀切・豊堀・横堀・虎口が確認されている。山頂部に40m × 23mの主郭を設け、北側は堀切を設けて尾根を遮断している。この堀切は、曲輪の東側を画する横堀と接続し、西側では豊堀となる。南側には一段下がってやや広い曲輪が設けられ、さらに尾根筋に沿って小規模な曲輪が連なり、東側に豊堀を配する。

#### 【主な調査歴】

なし



図336 上杉城 位置図 (S=1/5,000)

**【主な出土遺物】**

なし（南面で鉄刀が露出していたとされる）

**【関連地名】**

なし

**【史料】**

『摂陽群談』、『東摂城址図誌』

**【参考文献】**

井上 1922、田代・渡辺・石田（編）1981、  
中井（監）2015、中西 2015

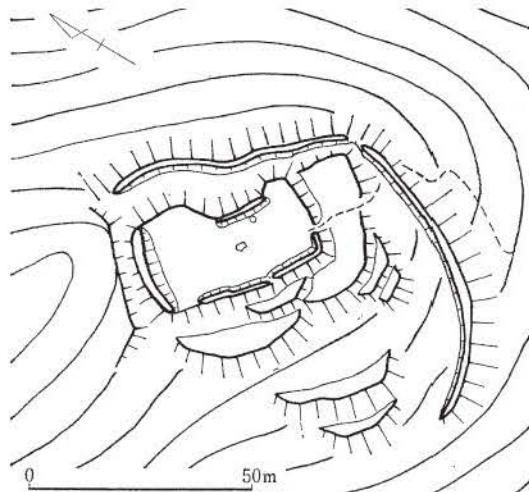


図 337 上杉城 縄張図

**(No.130) 長谷屋敷 (殿屋敷、長谷居館)**

(田代・渡辺・石田（編）1981 より転載)

所在地 能勢町長谷字土井所 位置 東経 135.378020 北緯 34.963108

立地 山裾部 標高 284m 比高 20m 城域 90m × 80m 時期 戦国

**【城館の概要】**

長谷屋敷は、能勢町長谷字土井所に所在する居館。能勢小十郎の家氏・長谷景綱の居所とされる。「大阪府全志」ではこの場所を「殿屋敷」と呼ぶとの記述がある。

遺構は平坦地・土壘・堀切で、石垣も確認されている。三草山の北麓にあたり、南側に力線的な堀切と土壘を設けて山地斜面から分離し、北側に平坦地を数段設けている。規模は約半町(50m)四方で、居館としては小規模な部類にあたる。機能としては、在地の土豪や侍層の居宅のほか、莊園政所の可能性も指摘されている。

**【主な調査歴】**

なし

**【主な出土遺物】**

なし

**【関連地名】**

殿屋敷、土居所、土居田、殿様道（西側道路）

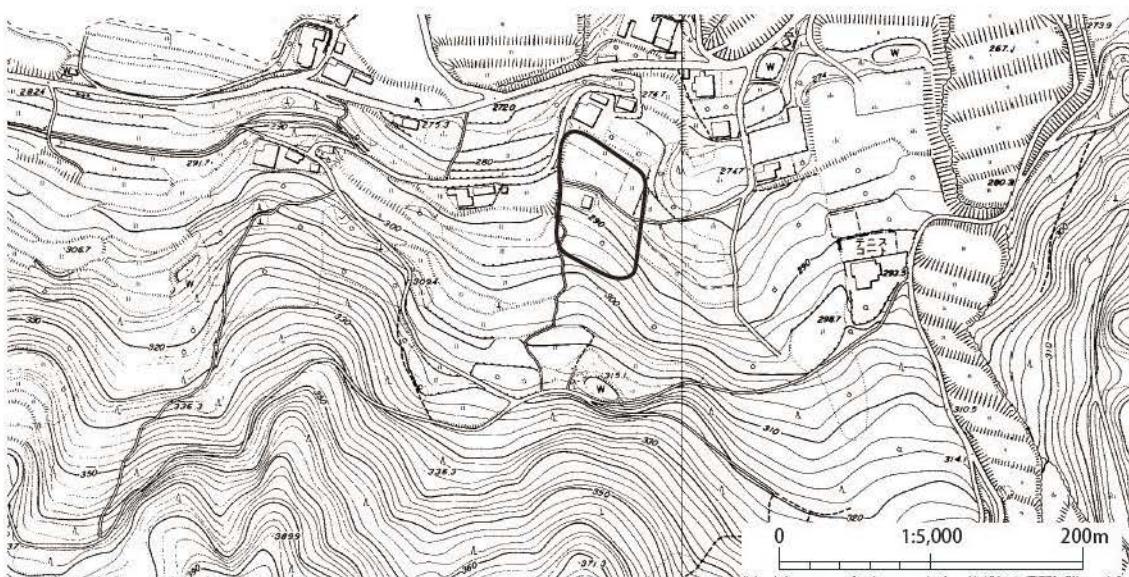


図 338 長谷館 位置図 (S=1/5,000)

【史料】

『摂陽群談』、『東摂城址図誌』

【参考文献】

井上 1922、田代・渡辺・石田（編）1981、中西 1997・2015

〔No.131〕宿野城（七星城、撰見之館）

所在地 能勢町宿野 位置 東経 135.435601 北緯 34.984304  
立地 尾根先端 標高 244.6m 比高 34m 城域 18m × 42m 時期 平安～戦国

【城館の概要】

宿野城は、能勢町宿野に所在する丘城。『摂陽群談』では井内孫之進景忠の居城とされる。いっぽう『大阪府全志』では、本城は永延元年（987）に多田満仲の弟・満快の息子である満国が当地に撰見之館を築いて居城とし、建久元年（1190）には田口判官頼基が修築して代々の居城としていたが、天正7年（1579）に織田信澄の進攻により落城したと伝える。

遺構は、土壘・堀切が確認されている。南に突き出した尾根の先端に構築された、単廊の単純な構造の城郭である。北西に宝林寺が接するが、曲輪の北側を土壘と堀切によって遮断している。



図 339 宿野城 位置図 (S=1/5,000)

【主な調査歴】

なし

【主な出土遺物】

なし

【関連地名】

なし

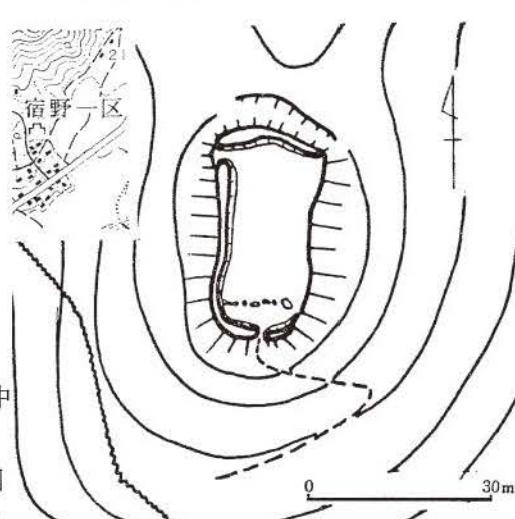
【史料】

『摂陽群談』、『東摂城址図誌』

【参考文献】

井上 1922、田代・渡辺・石田（編）1981、中西 2015

図 340 宿野城 繩張図  
(田代・渡辺・石田（編）1981 より転載)



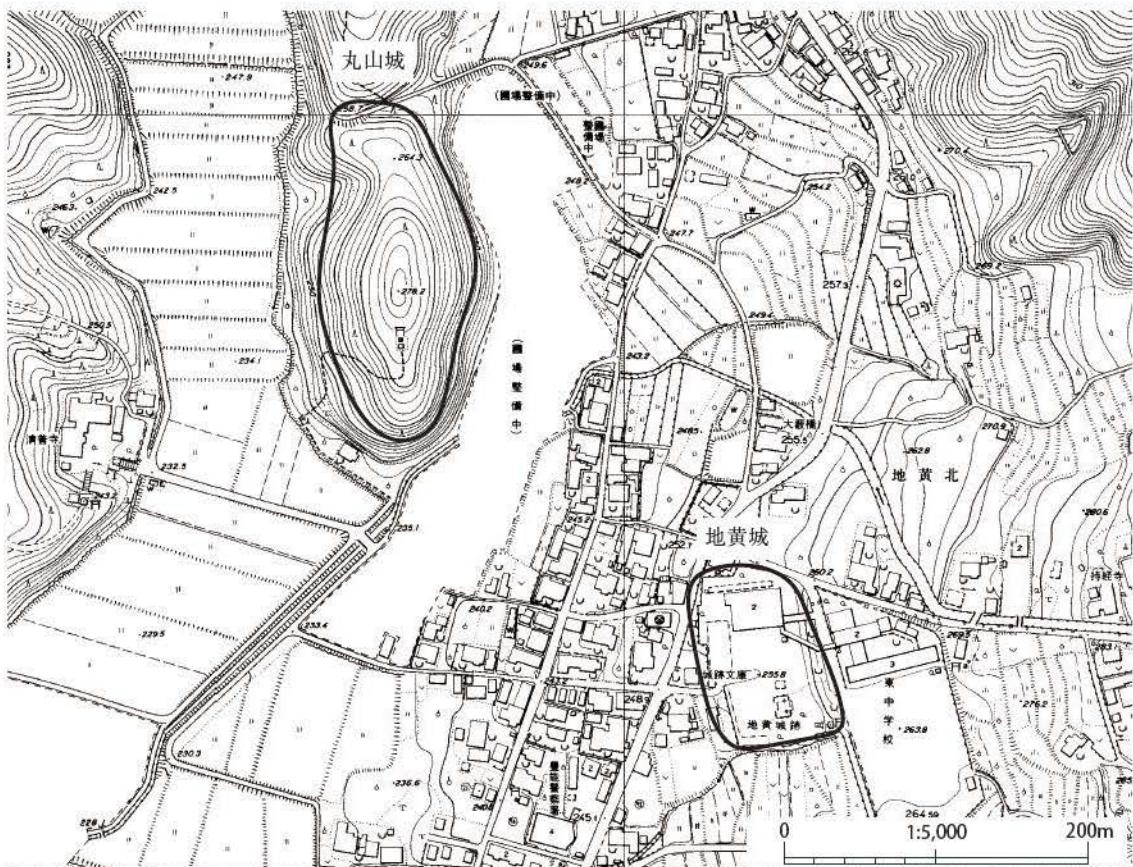


図 341 丸山城 位置図 (S=1/5,000)

(No.132) 丸山城（地黄古城、天王丸）

所在地 能勢町地黄 位置 東経 135.458958 北緯 34.95971  
立地 尾根先端 標高 278m 比高 40m 城域 30m × 155m 時期 平安～戦国

【城館の概要】

丸山城は、能勢町地黄に所在する丘城。『摂陽群談』では、城主を能勢小十郎と伝える。長元年間（1028～1037）に、源頼光の子・頼国がこの地に入府し、能勢氏を称して本城を築いたとされる。以後、能勢氏の本拠地として機能した。なお、能勢街道を挟んで南東側に位置する地黄陣屋（地黄城）は、近世能勢氏中興の祖といわれる能勢頼次が慶長7年（1602）から築城を始めた近世城館であるが、この築城時には丸山城から石材・木材を移したとされる。

遺構は、帶曲輪・土塁・堀切・豊堀・横堀・虎口が良好に遺存する。南北に曲輪が並び、細長い形態をとる。尾根の頂上に主郭を設けて、全周に帶曲輪を巡らせる。尾根が続く北側には堀切が設けられ、さらに豊堀や小規模な曲輪によって防御性を高めている。また、曲輪の西側には豊土塁が、東側には豊堀・横堀がみられ、三方の防御が意識された構造となっている。一方で南側には比較的広い平坦地を設けており、南麓斜面下の平坦地では弘安年間（1278～1288）の石造九重塔や、南北朝期の宝篋印塔が

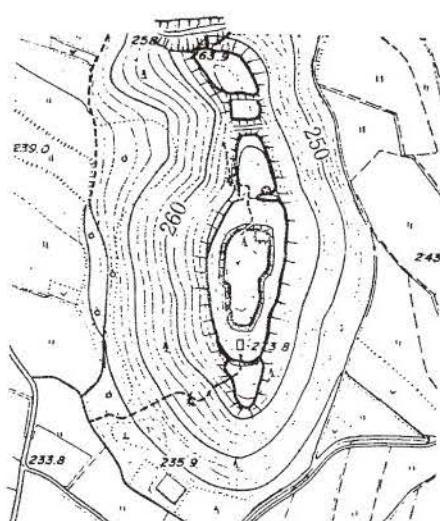


図 342 丸山城 繩張図

（田代・渡辺・石田（編）1981 より転載）



図 343 「東摶城址図誌」より「上杉城跡」「長谷城跡」「宿野城跡」「地黄古城跡」「片山城址」  
(大阪府立中之島図書館 所蔵)

存するとされ、この付近に居館が存在した可能性も指摘されている。

【主な調査歴】

なし

【主な出土遺物】

なし

【関連地名】

なし

【史料】

『摂陽群談』、『東摂城址図誌』

【参考文献】

田代・渡辺・石田（編）1981、中西 2015、能勢町史編纂委員会（編）1975、森本 1978

〔No.133〕野間城

所在地 能勢町野間中 位置 東経 135.455064 北緯 34.939822

立地 尾根先端 標高 352.8m 比高 100m 城域 100m × 50m 時期 平安～織豊期

【城館の概要】

野間城は、能勢町野間に所在する山城。麓に野間氏居館が所在し、城郭と居館がセットになった事例の一つである。さらに低地部には野間屋敷がある。多田源氏の祖・源満仲の後裔高頼が仁安3年（1168）に築城したものと伝わり、天正年間（1573～92）には高頼十七代末裔の野間豊後守資持が在城したが、天正8年（1580）に川辺郡国人・塩川長満の攻撃により落城したとされる。

遺構は、土壘・堀切・畝状空堀群・虎口が確認されている。尾根の頂上から北麓に向けて多段の曲輪を配し、比較的広い平坦面が形成されている。南側の尾根へは多重の堀切や畝状空堀群が配され、主郭の櫓台とともに防御性を高めている。

【主な調査歴】

なし

【主な出土遺物】

なし

【関連地名】

なし

【史料】

『摂陽群談』、『東摂城址図誌』

【参考文献】

田代・渡辺・石田（編）1981、中井（監）2014、中西 2015

〔No.134〕野間氏居館（野間館）

所在地 能勢町野間中 位置 東経 135.459108 北緯 34.942984

立地 山裾部 標高 270m 比高 100m 城域 62m × 50m 時期 平安～織豊期

【城館の概要】

野間氏居館は、能勢町野間に所在する居館。野間城の存する尾根の北裾にあたり、これと対になる居館であると考えられる。

遺構は、土壘・堀切・虎口が確認されているほか、窪地と石組から庭園の存在も想定される。南側の尾根筋とは直線的な土壘・堀切で区切られ、ほぼ半町（50m）四方の方形区画となる。居館内での調査ではないものの、北西に隣接する立縄手遺跡の発掘調査において、14～16世

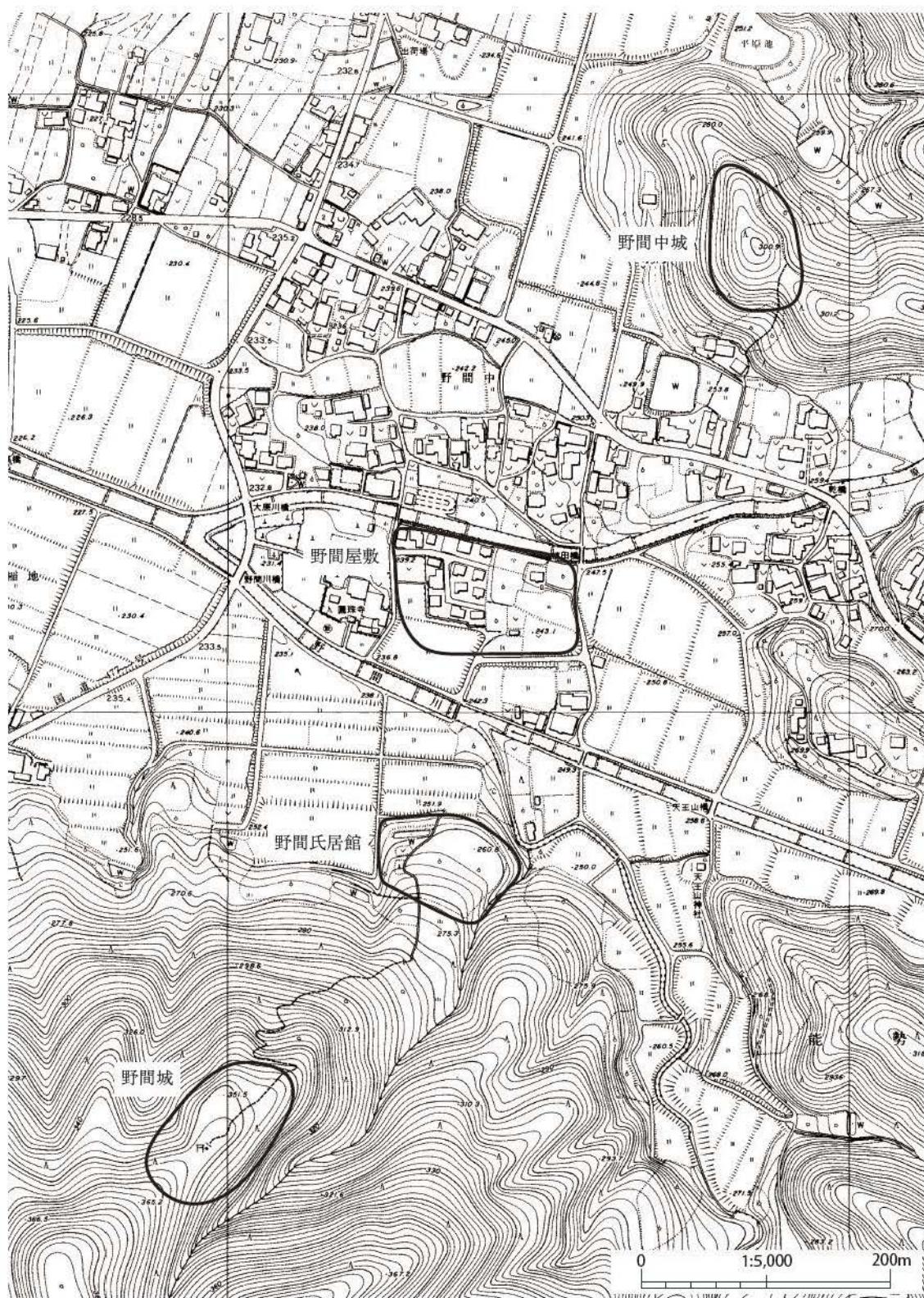


図 344 野間城・野間氏居館・野間屋敷・野間中城 位置図 (S=1/5,000)  
紀の掘立柱建物跡や遺物が検出されている。

**【主な調査歴】**

1988年 大阪府教育委員会（大阪府教育委員会 1989）

**【主な出土遺物】**

土師器皿、瓦器、瓦室土器、滑石製羽釜、青磁・白磁

**【関連地名】**

なし

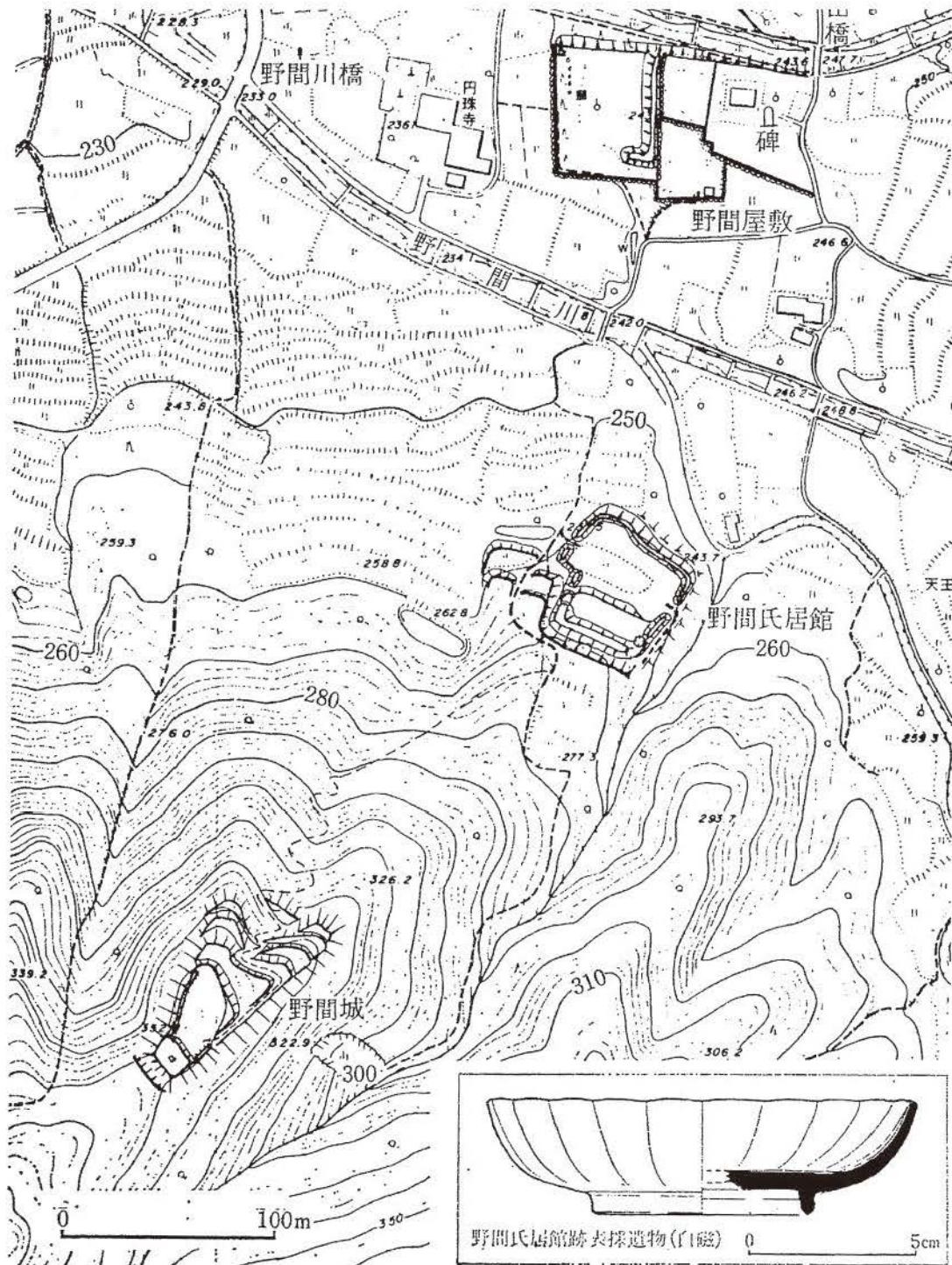


図 345 野間城・野間氏居館・野間屋敷 繩張図、野間氏居館 表採遺物  
(田代・渡辺・石田(編) 1981 より転載)

#### 【史料】

『摂陽群談』、『東摂城址図誌』

#### 【参考文献】

大阪府教育委員会 1989、田代・渡辺・石田(編) 1981、中井(監) 2014、中西 2015

#### 〔No.135〕 野間屋敷

所在地 能勢町野間中	位置 東経 135.459108	北緯 34.942984
立地 扇状地	標高 243m	比高 0m
		城域 50m × 60m
		時期 戦国?

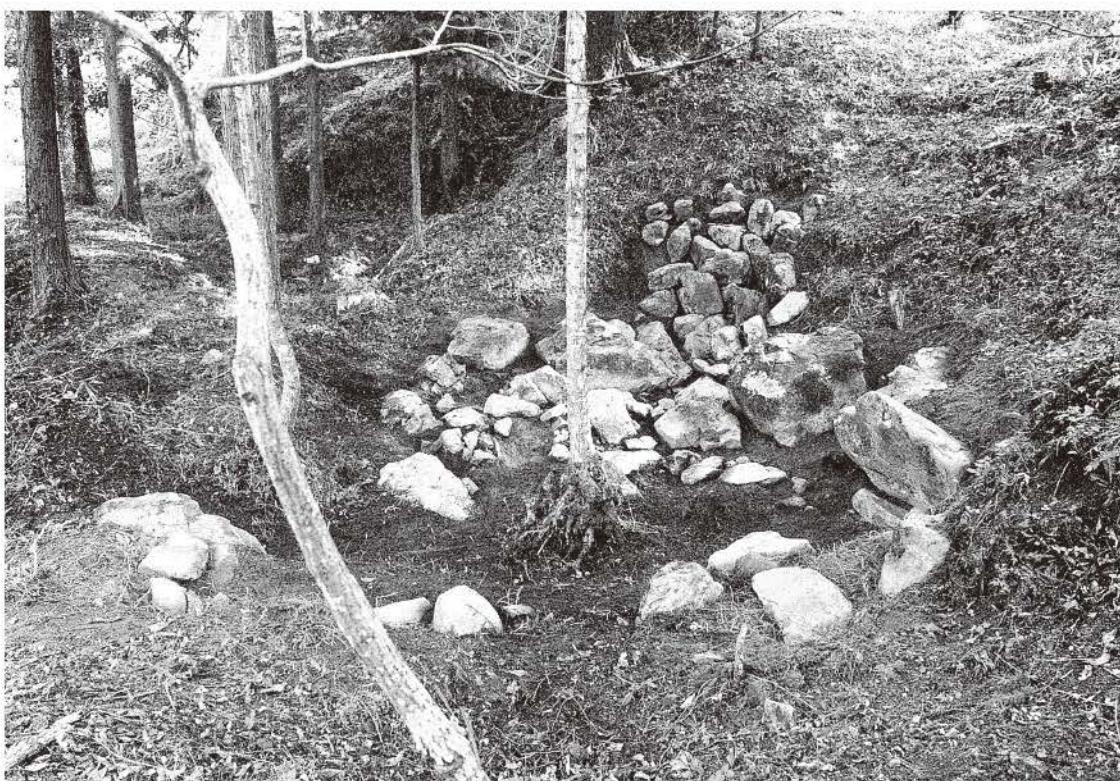


図 346 野間氏居館の石組遺構全景（北西から）（大阪府教育委員会 1989 より転載）  
【城館の概要】

野間屋敷は、能勢町野間に所在する居館。野間城・野間氏居館の所在する尾根の北麓から、野間川を挟んだ平地部に立地する。野間城、野間氏居館と同時期の、平地部の屋敷である可能性があるが、近世以降に野間氏あるいはその被官の屋敷として整備されたものである可能性も想定される。

遺構は、土壘・石垣・井戸跡や飛び石状の置き石などがあったとされるが、現況では確認できない。周辺の平坦地の一角には「野間家発祥地」とする記念碑が1941年に建立されている。

【主な調査歴】

なし

【主な出土遺物】

なし

【関連地名】

なし

【史料】

なし

【参考文献】

田代・渡辺・石田（編）1981、中井（監）2014、中西 2015

〔No.136〕野間中城（小倉山城）

所在地	能勢町野間に	位置	東経 135.459731	北緯 34.946225
立地	山裾部	標高	300m	比高 50m 城域 75m × 40m 時期 戦国

【城館の概要】

野間中城は、能勢町野間に所在する山城。野間城・野間氏居館の所在する尾根から野間川を挟んで対岸の位置にあたる。野間氏の系図に「新城を南山に築くも中止す」とあり、この新城が野間中城にあたると考えられている。

遺構は、土壘・堀切が確認されている。頂上部の主郭には、西側を除く三方に土壘を設け、その西側には腰曲輪とみられる平坦地が取り付く。北側にも曲輪が配され、北から東にかけて土壘がめぐる。いっぽう南東側の尾根筋は明瞭な区切り施設がみられない。こうした点から、築城途中に放棄された城郭として評価されている。

【主な調査歴】

なし

【主な出土遺物】

なし

【関連地名】

南山

【史料】

(野間氏系図)

【参考文献】

中西 2015

〔No.137〕吉野城（蔵王砦）

所在地 能勢町森上 位置 東経 135.395401 北緯 34.969788  
立地 尾根先端 標高 340m 比高 60m 城域 55m × 40m 時期 戦国

【城館の概要】

吉野城は、能勢町吉野に所在する山城。摂津国と丹波国の国境にあたる。丹波八上の波多野秀治幕下の横川備後守正広が在城したとされる。尾根筋を下った山麓部には吉野居館が所在し、城郭と居館がセットになる事例である。

遺構は堀切、土壘が確認されている。背後にあたる東側の尾根筋とは堀切と土壘によって遮断され、地形に沿って曲輪が多段に配される。

【主な調査歴】

なし

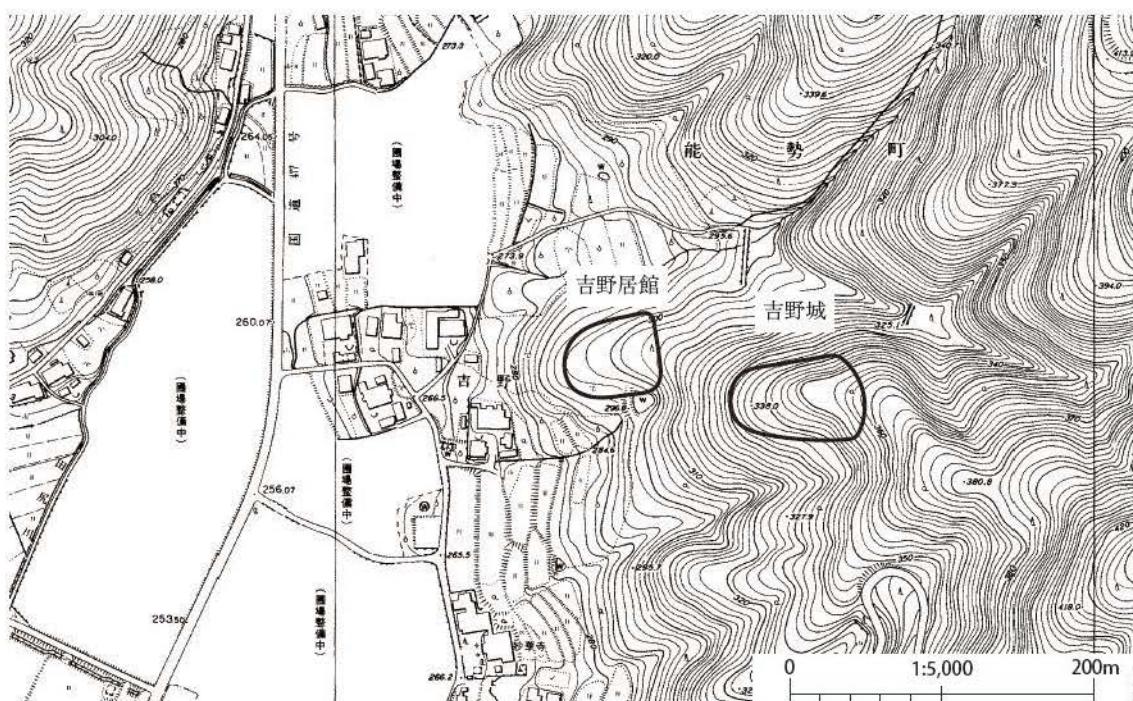


図 347 吉野城・吉野居館 位置図 (S=1/5,000)

**【主な出土遺物】**

なし

**【関連地名】**

なし

**【史料】**

『大阪府全志』

**【参考文献】**

田代・渡辺・石田（編）1981、中井（監）2018、中西2015

**(No.138) 吉野居館**

所在地 能勢町吉野

位置 東経 135.479043 北緯 34.989983

立地 山裾部 標高 300m

比高 20m 城域 80m × 40m 時期 戦国

**【城館の概要】**

吉野居館は、能勢町吉野に所在する居館。吉野城に対応する居館と考えられる。

遺構は、土壘・堀切が確認されている。吉野城に続く東側の尾根筋には、大規模な堀切と土壘が設けられ、平坦地はおおむね半町四方を意識した方形を呈するとみられる。土壘上には平坦地が認められ、櫓台であった可能性もある。

**【主な調査歴】**

なし

**【主な出土遺物】**

なし

**【関連地名】**

なし

**【史料】**

『大阪府全志』

**【参考文献】**

田代・渡辺・石田（編）1981、中井（監）2018、中西2015

**(No.139) 田尻城**

所在地 能勢町下田尻

位置 東経 135.428896 北緯 34.96029

立地 尾根先端 標高 283m

比高 60m 城域 85m × 50m 時期 戦国

**【城館の概要】**

田尻城は、能勢町下田尻に所在する山城。田尻荘は鎌倉期以降、国人・能勢氏の根本所領として相伝されていることから、田尻城の築城に際しても能勢氏が関与したものと考えられている。

遺構は、土壘・堀切が確認されている。南側の竜王山山頂へ続く尾根筋には堀切が設けられ、自然地形の谷と相まって城郭の独立性が高い。頂部の主郭は広めの平坦地を呈し、西側を除く三面に帯曲輪が多段にめぐる。ただし、平坦地の造成は不十分で、旧来の傾斜を残している。東側は地形の傾斜が比較的緩やかであるが、ここにも堀切が設けられて防御性を高めている。

**【主な調査歴】**

なし

**【主な出土遺物】**

なし

【関連地名】

なし

【史料】

なし

【参考文献】

井上 1922、中井（監）2016、中西 1997・2015

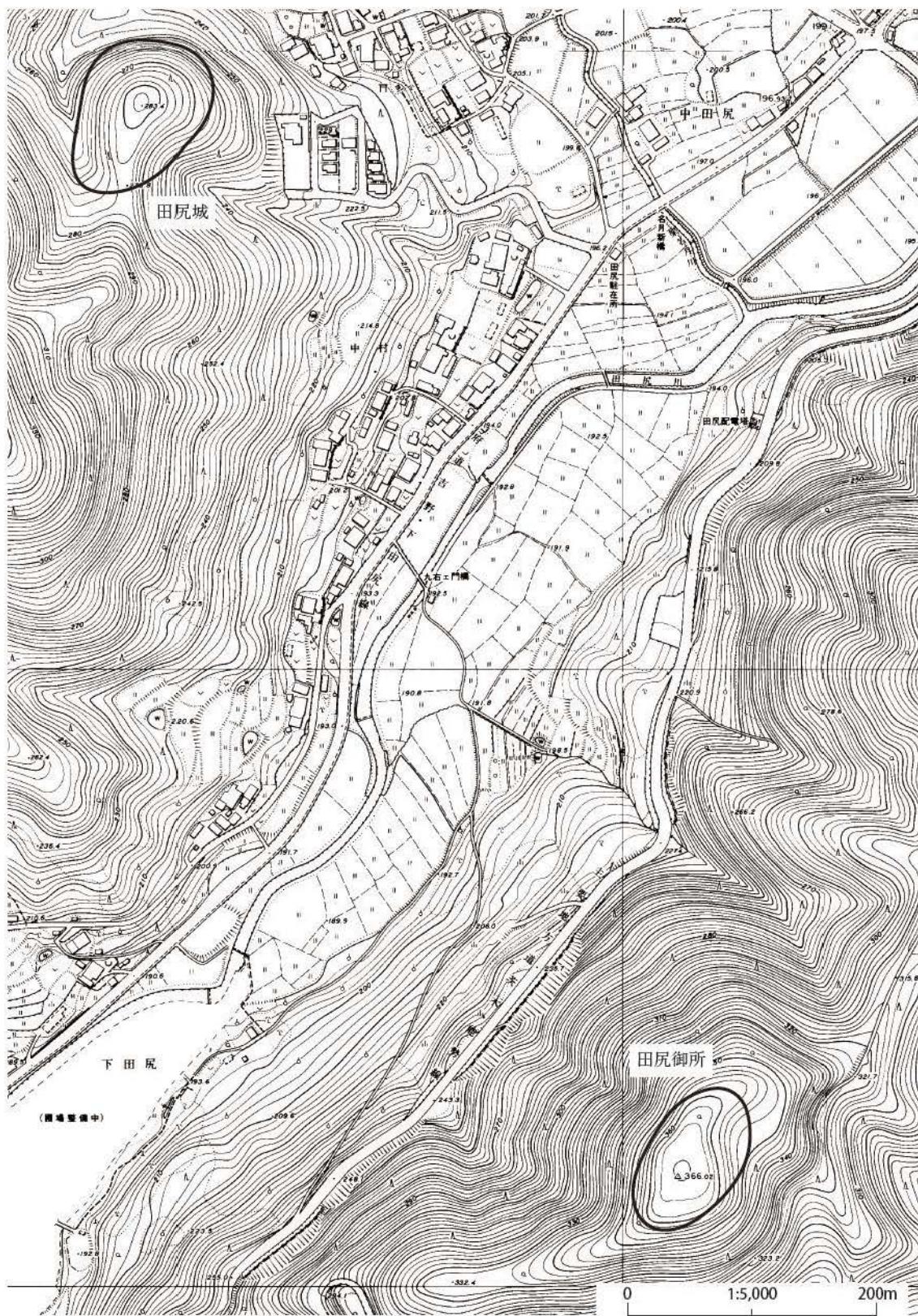


図 348 田尻城 位置図 (S=1/5,000)

### (No.140) 田尻御所（田尻東山城）

所在地 能勢町野間出野・下田尻 位置 東経 135.433724 北緯 34.952376  
立地 山裾部 標高 366m 比高 170m 城域 100m × 30m 時期 平安～戦国？

#### 【城館の概要】

田尻御所は、能勢町野間出野・下田尻に所在する居館。永承年間（1046～53）に仁和寺により建営されたものと伝わり、他の城郭とは様相を異にする。

遺構は、堀切が確認されている。山頂部を中心に南北に長い地形を利用して構築されており、南北端に堀切を設けて城域を区切っている。ただし、内部の平坦面は造成が不十分で、自然地形の傾斜を残す。また、比高も170mと高く、周辺の城郭等とは異なった特徴を有している。

#### 【主な調査歴】

なし

#### 【主な出土遺物】

なし

#### 【関連地名】

なし

#### 【史料】

なし

#### 【参考文献】

井上1922、田代・渡辺・石田（編）1981、中井（監）2017、中西1997・2015

### (No.141) 杉原城

所在地 能勢町杉原 位置 東経 135.484375 北緯 34.968313  
立地 尾根先端 標高 370m 比高 40m 城域 170m × 35m 時期 戦国

#### 【城館の概要】

杉原城は、能勢町杉原に所在する山城。丹波国の国境と接する位置にあたる。なお、当地はもと丹波国桑田郡（西別院犬甘野村、現在の京都府亀岡市）に属していたが、慶長7年（1602）に能勢頼次による領地交換の願い出により摂津国に編入されたとされる。杉原城に関する伝承等は明らかでないものの、西別院一体に勢力を有していた長沢氏が関与した可能性が指摘されている。

遺構は、土塁・堀切が確認されている。南北に細長い尾根先端部に構築されており、南西に続く尾根筋にはそれぞれ堀切を設けて城域を区切っている。堀切の曲輪側には小規模な土塁が認められ、背面への防御性を高めている。前面には比較的広い平坦面をもつ主郭に帯曲輪を備



図349 杉原城 位置図 (S=1/5,000)

え、前面には多段の曲輪が地形に沿って配される。集落から城郭への距離が近く、集落住民との密接な関係があった城として理解されている。

### 【主な調査歴】

なし

### 【主な出土遺物】

なし

### 【関連地名】

なし

【史料】

なし

## 【参考文献】

井上 1922、田代・渡辺・石田（編）1981、中井（監）2017、中西 1997・2015

〔No.142〕 為樂山城（大空寺城）

所在地 能勢町野間中 位置 東経 135.467348 北緯 34.928890

立地 山頂部 標高 660m 比高 260m 城域 20m × 60m 時期 戦国

## 【城館の概要】

為楽山城は、能勢町野間に所在する山城。現在の能勢妙見山の寺域に位置する。天正9年（1581）に、能勢頼次が為楽山大空寺を出城としたとされ、山崎合戦後に秀吉軍の進攻により天正10年（1582）に廃城したと伝わる。

遺構は、曲輪とみられる平坦地や土壘状の高まりが確認されているが、後世の改変も大きく城郭としての全体像は不詳である。

#### 【主な調査歴】

なし

### 【主な出土遺物】

なし

### 【関連地名】

なし

【史料】

なし

## 【参考文献】

井上 1922、田代・渡辺・石田（編）1981

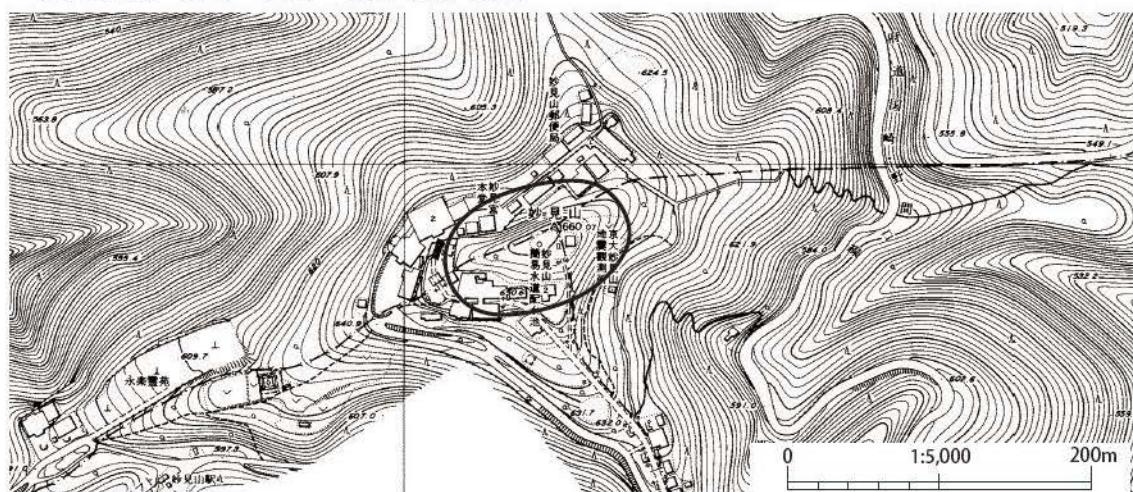


図 350 為楽山城 位置図 (S=1/5,000)

## 第4章 摂津における中世城館の様相

### 1 豊能郡能勢町・豊能町域における中世城館の分布・測量調査報告

#### (1) 調査の経緯

大阪府北部に位置する豊能郡能勢町・豊能町は、旧国では摂津国と丹波国の境界地域にあたり、特に戦国期には小規模な城館が密集して構築されたことが知られている。各城館は主として在地の支配層によって構築され、支配拠点や有事の拠点として使用されたものと伝わる。これらの城館跡は、戦乱の状況のみならず、旧国境における中世の土地利用や地域支配のあり方、交通・交流の様相を知るうえでも重要な歴史的資料の一つと言えよう。

能勢町・豊能町域は都市部・市街地から距離があり、都会の喧噪からかけ離れた山林風景が広がっている。大規模な圃場整備事業が行われた水田地帯を除き、開発圧力が相対的に低い水準であったことから、特に山間部では遺跡が大きな改変を受けることなく現在に至っている。しかしながら中世城館跡の中には、これまでの城郭研究において知られている城館にあっても、周知の埋蔵文化財包蔵地として周知されていないものが複数あり、その把握と周知が課題となっていた。

また、当該地域は大阪府下でも特に人口減少・少子高齢化が進んでいる地域の一つである。城館跡の所在するような山林は、かつては入会地や植林地として管理・利用されていたが、現在では森林資源の利用量の大幅な減少と土地所有者の高齢化等のため、十分な管理が難しくなっている。また近年その脅威を増している豪雨等の自然災害による被災状況を鑑みると、ほとんどが露出遺構によって評価される城館関係遺構についても、損壊や滅失の危険性が憂慮される。

以上のような課題に対し、大阪府教育府文化財保護課では令和元年度から令和2年度にかけて、中世城館跡の分布状況および保存状況を明らかにすることを目的として能勢町・豊能町域における中世城館の分布調査・測量調査をおこなった。

#### (2) 調査の概要

##### i. 調査体制

本調査は、大阪府教育府文化財保護課の考古学技師が行い、当地域の中世城館に造詣の深い中西裕樹氏（高槻市まちにぎわい部文化財課長）に調査協力を依頼し、現地で指導・助言を得た。現地測量等の一部の作業は、株式会社イビソクと委託契約を締結して実施した。なお、調査地のほとんどが民有地であることから、能勢町教育委員会および豊能町教育委員会の協力を得て、地権者に対し事前に調査の了承を得た上で行った。なお調査費の一部は国庫補助金（埋蔵文化財緊急調査費）による。

令和元年度および令和2年度の分布・測量調査体制は以下の通りである。

##### 【令和元年度】

調査主体 大阪府教育委員会 教育長 酒井 隆行

教育府文化財保護課 課長 大野 広

文化財企画グループ 課長補佐 小浜 成

総括主査 中西 裕見子

副主査 原田 昌浩

技師 久永 雅宏・小泉 翔太

調査協力 高槻市街にぎわい部文化財課 課長 中西 裕樹

業務委託 株式会社イビソク

## 【令和2年度】

調査主体 大阪府教育委員会 教育長 酒井 隆行  
教育庁文化財保護課 課長 大野 広  
文化財企画グループ グループ長 岡田 賢  
総括主査 中西 裕見子  
技師 小泉 翔太  
調査協力 高槻市街にぎわい部文化財課 課長 中西 裕樹

### ii. 調査の目的と方法

本調査は、能勢町・豊能町域の中世城館を対象としたが、能勢町域については埋蔵文化財包蔵地として周知されていない城館を主たる対象として選定した（図351）。調査にあたっては、各町史（豊能町史編纂委員会 1987・能勢町史編纂委員会（編）2001）や集成・研究書（田代・渡辺・石田（編）1981、中井（監）2014～2018、中西 2016）を参照した。なお、城館の名称は本書第3章と統一することとした。

分布調査では、踏査によって遺構の分布や現況を確認し、中西裕樹氏が作成した縄張図（中西 2016）との照合および写真撮影によって記録を作成した。また、GNSS 機器で座標を取得し、調査位置を記録した。使用した GNSS 機器および測定方法は二種ある。第一は、丸山城、地黄陣屋、山辺城にて実施したもので、GPSMAP64SJ（GARMIN 社製）を使用した。委託事業者が同機器を使用し、本課の技師が指示した場所で座標取得を行った（表17）。座標取得の精度は基本的に半径 3 m 以内におさまるようにした。この精度であれば二千五百分の一の都市計画図上でも 3 mm 以内に点を落とし込むことができるため、範囲を示すには十分である。第二は、その他の城館跡の踏査で実施したもので、GNSS 機能を搭載したサイクルコンピュータまたはトレッキングナビゲーター（いずれも GARMIN 社製）で踏査軌跡を記録した。この方法では GNSS 機器の精度管理ができないため、前述の方法と比較すると精度に劣るが、傾斜変換か所を歩けば軌跡として GIS 上で表示でき、遺構の分布範囲のデジタルデータ化が可能である。

測量調査では、能勢町山辺に所在する山辺城跡を対象とし、レーザー計測器を搭載した無人航空機（UAV:Unmanned Aerial Vehicle）によって対象地の現況地形の詳細な計測をおこなった。計測に係る精度等については、国土地理院が公開する「UAV 搭載型レーザスキャナを用いた公共測量マニュアル（案）」（平成 28 年 3 月 30 日公表、平成 29 年 3 月 31 日改正）に準拠した。計測によって得られたデータをもとに、現況等高線図、立体地図を作成した。UAV 測量は Vx-20（YellowScan 社製、レーザー計測器）を搭載した Matrice 600 Pro（DJI 社製、無人航空機）を用いて本課職員の指示のもと委託事業者が実施した。地形解析および取得したデータの解析も同様におこなった。この方法で取得できるのはあくまで現状の地形データであり、遺構であるかの判断は現地を踏査して判断する必要がある。とはいっても等高線を頼りに現地を踏査する従前のことよりは、はるかに効率的に現地確認が行えるという利点がある。

### iii. 調査の経過

#### 【令和元年度】

令和2年（2020）2月25日（火）

調査者：原田、久永、中西（高槻市）、（株）イビソク

内 容：能勢町域の城館跡の分布調査

対 象：丸山城、地黄陣屋、山辺城

令和2年（2020）2月26日（水）

調査者：原田、小泉、中西（高槻市）

内 容：能勢町域の城館跡の分布調査

対 象：吉村城、森上城、今西城、森上館、長谷屋敷、平通城

令和2年（2020）3月13日（金）

調査者：原田、小泉、中西（高槻市）、（株）イビソク

内 容：能勢町域の城館跡の分布調査、山辺城の測量調査

対 象：山辺城、杉原城、野間中城

令和2年（2020）3月23日（月）

調査者：原田、久永、小泉

内 容：能勢町域の城館跡の分布調査

対 象：田尻城、田尻御所

#### 【令和2年度】

令和3年（2021）2月24日

調査者：小泉、中西（高槻市）

内 容：豊能町域の城館跡の分布調査

対 象：水牢古城、野間口鳥坂城、余野本城、城之越城（城ノ越城）、大平土居、高山城、高山向山城

令和3年（2021）2月25日

調査者：小泉、中西（高槻市）

内 容：豊能町域の城館跡の分布調査、能勢町域の城館跡の分布調査

対 象：為楽山城、吉川城、吉川井戸城、吉野城・吉野居館（3）調査の成果

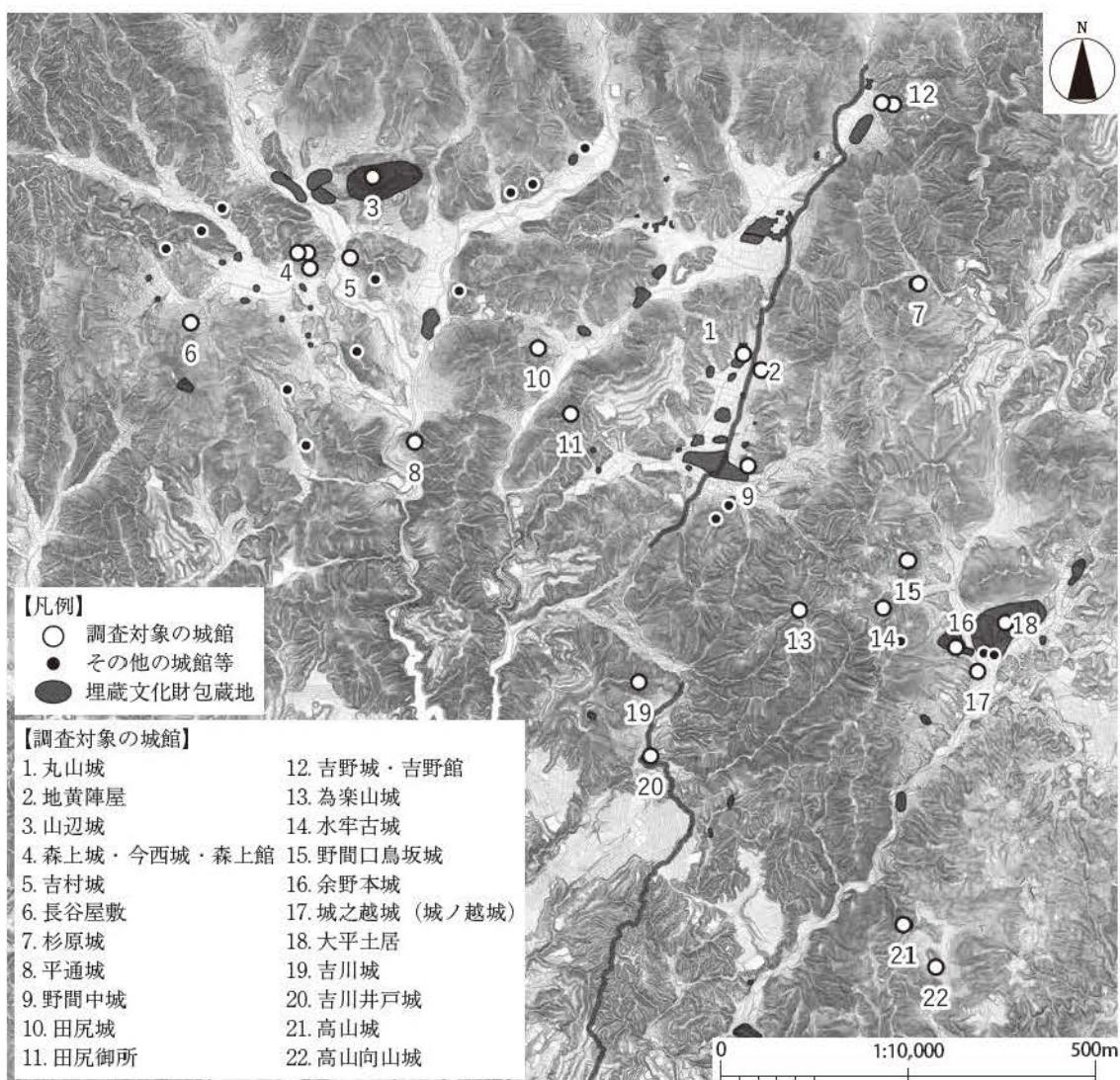


図 351 分布調査対象の位置 (S=1/10,000) (地理院タイル（傾斜量図）を用いて作成)

## i. 分布調査（令和元年度）

### ① 丸山城（図 352）

丸山城は、能勢町東郷地区の小盆地北側に張り出した丸山と呼ばれる丘陵上に位置する。曲輪、堀切、土塁等の遺構が良好に遺存しており、石仏等も確認された。遺物の散布は認められなかった。城跡のふもとには市民団体により、麓に説明板等が設置されているほか、城域内部にも遺構名の表示がなされている。

GNSS 機器による測量では、標高の最高点付近に平坦面があり、その四隅が丸 Q ~ 丸 V である。その平坦面から下りた位置に標高に沿って平坦面が廻っており、丸 S · T · W · X · Y · Z がその外周にあたる。その北端は尾根に直交する丸 O · 丸 P を軸とする谷地形があり、その北に丸 I · J · M を端とする平坦面がある。その北に尾根に直交する丸 F · 丸 L を軸とする谷地形があり、その北に丸 B · C · D · K を外周とする平坦面がある。最高点付近平坦面の外周平坦面の南側には丸 AA 一丸 AB を端とする平坦面が広がる。

### ② 地黄陣屋（図 353）

地黄陣屋は、東郷地区の小盆地の北東寄りに位置する。近世城郭であるが、丸山城に関連するものとして調査対象とした。石垣が良好に遺存しており、能勢街道に面した西側正面には端正な内襤形虎口がみられる。

今回は石垣の隅角（出隅・入隅）で座標取得を行った。陣 1 ~ 12、13 ~ 21 が一連の石垣で、陣 10 ~ 陣 14 は虎口である。また、現在は社が建てられた中島があり、石垣で護岸されていたことから座標取得を行い、陣 22 ~ 29 が中島の、陣 30 ~ 38 が外周護岸の石垣の角部分にあたる。

虎口部分には能勢町教育委員会により解説板が設置されている。部分的に埋蔵文化財包蔵地として周知されているが、残存する石垣遺構等の範囲と齟齬がある。

### ③ 山辺城（図 354）

山辺城は、能勢町域西郷地区の小盆地群の北側の城山（鷹爪山・能勢富士）の山頂尾根一帯に位置する。城郭の規模および構造は能勢・豊能町域でも傑出し、曲輪・土塁・石垣・堀切等の遺構が良好に観察された。

GNSS 機器による測量では、最高所を占める一帯の尾根に複数の平坦面があり、その主要なものの中付近で落とした座標が山辺 3 ~ 5 である。その平坦面が展開する尾根の西側斜面には石垣が残存しており、その最下端が山辺 6 である。最高所一帯の尾根から東北東側に向かって痩せ尾根がのびており、平坦面とそれを取り囲む土手状の高まりを持つ一帯の中心が山辺 2、さらに北東に延びる尾根に直交する谷地形のあたりが山辺 1 となる。当初は丸山城跡の調査と同様に傾斜変換か所で座標をとることを考えていたが、台風等によると思われる倒木が多数発生しており、また一部で土砂が流出して立ち入りが危険な状態であったため、後述する UAV によるレーザー測量に切り替えた。

### ④ 森上城・今西城・森上館（図 355）

能勢町西郷地区の大明山一帯の尾根上に森上城及び今西城が所在し、その南麓に森上館が所在する。森上城及び今西城は周知の埋蔵文化財包蔵地であるが、今回踏査したところ森上城とされる包蔵地の西側に一連と考えられる平坦面が存在した。また、森上城と今西城の間の尾根上は、人間による地形改変かどうかは判然としないが、平坦な地形が続いており、両城が一連であった可能性は捨てきれない。

また、南側の麓に位置する旧能勢西中学校敷地の北側には等高線に平行する直線的な谷地形とその北の土手状の高まりに区切られた雛壇状の地形が残存していた。この地形が館跡かどうかは発掘調査を行っていないので不明であるが、人工的な地形改変であることは否定できない。

### ⑤ 吉村城

能勢町西郷地区の来栖山の尾根上に所在する。尾根上には平坦面があり、その東側には尾根に直交する谷地形が刻まれており、規模は小さいものの城郭とみて問題ない。

表 17 GNSS 機器観測点一覧 (北緯・東経は 10 進法表記)

点名	観測日	北緯	東経	標高
丸 A	2/25/2020	34.961	135.459	271.959
丸 B	2/25/2020	34.961	135.459	277.451
丸 C	2/25/2020	34.961	135.459	275.540
丸 D	2/25/2020	34.960	135.459	274.392
丸 E	2/25/2020	34.960	135.459	274.347
丸 F	2/25/2020	34.960	135.459	274.497
丸 G	2/25/2020	34.960	135.459	273.768
丸 H	2/25/2020	34.960	135.459	274.127
丸 I	2/25/2020	34.960	135.459	275.594
丸 J	2/25/2020	34.960	135.459	278.463
丸 K	2/25/2020	34.960	135.459	279.076
丸 L	2/25/2020	34.960	135.459	280.407
丸 M	2/25/2020	34.960	135.459	280.169
丸 N	2/25/2020	34.960	135.459	277.817
丸 O	2/25/2020	34.960	135.459	281.028
丸 BD	2/25/2020	34.960	135.459	281.216
丸 P	2/25/2020	34.960	135.459	277.139
丸 Q	2/25/2020	34.960	135.459	282.454
丸 R	2/25/2020	34.960	135.459	283.796
丸 S	2/25/2020	34.960	135.459	286.268
丸 T	2/25/2020	34.960	135.459	286.975
丸 U	2/25/2020	34.960	135.459	283.319
丸 V	2/25/2020	34.960	135.459	284.932
丸 W	2/25/2020	34.960	135.459	275.967
丸 X	2/25/2020	34.960	135.459	278.814
丸 Y	2/25/2020	34.959	135.459	281.855
丸 Z	2/25/2020	34.959	135.459	278.111
丸 AA	2/25/2020	34.959	135.459	275.821
丸 AB	2/25/2020	34.959	135.459	276.852
陣 1	2/25/2020	34.958	135.462	261.367
陣 2	2/25/2020	34.958	135.461	259.539
陣 3	2/25/2020	34.958	135.461	259.819
陣 4	2/25/2020	34.958	135.461	261.704
陣 5	2/25/2020	34.958	135.461	260.978
陣 6	2/25/2020	34.958	135.461	262.163
陣 7	2/25/2020	34.958	135.461	261.480
陣 8	2/25/2020	34.958	135.461	260.955
陣 9	2/25/2020	34.957	135.461	261.627
陣 10	2/25/2020	34.957	135.461	258.374
陣 11	2/25/2020	34.957	135.461	261.357
陣 12	2/25/2020	34.957	135.461	258.249
陣 13	2/25/2020	34.957	135.461	260.841
陣 14	2/25/2020	34.957	135.461	260.856
陣 15	2/25/2020	34.957	135.461	260.230
陣 16	2/25/2020	34.957	135.462	266.827
陣 17	2/25/2020	34.957	135.462	263.311
陣 18	2/25/2020	34.957	135.462	265.377
陣 19	2/25/2020	34.957	135.462	264.324
陣 20	2/25/2020	34.957	135.462	264.270
陣 21	2/25/2020	34.957	135.462	269.862
陣 22	2/25/2020	34.957	135.462	263.699
陣 23	2/25/2020	34.957	135.462	263.005
陣 24	2/25/2020	34.957	135.462	263.125
陣 25	2/25/2020	34.957	135.462	264.614
陣 26	2/25/2020	34.957	135.462	262.952
陣 27	2/25/2020	34.957	135.462	264.858
陣 28	2/25/2020	34.957	135.462	261.523
陣 29	2/25/2020	34.957	135.462	263.115
陣 30	2/25/2020	34.957	135.462	264.153
陣 31	2/25/2020	34.957	135.462	263.808
陣 32	2/25/2020	34.957	135.462	259.852
陣 33	2/25/2020	34.957	135.462	264.048
陣 34	2/25/2020	34.957	135.462	264.016
陣 35	2/25/2020	34.957	135.462	260.271
陣 36	2/25/2020	34.957	135.462	261.115
陣 37	2/25/2020	34.957	135.462	260.927
陣 38	2/25/2020	34.957	135.462	263.315
山辺 1	2/25/2020	34.981	135.407	397.081
山辺 2	2/25/2020	34.981	135.407	399.522
山辺 3	2/25/2020	34.980	135.405	437.544
山辺 4	2/25/2020	34.981	135.405	435.933
山辺 5	2/25/2020	34.981	135.405	437.540
山辺 6	2/25/2020	34.981	135.405	427.430
山辺 7	2/25/2020	34.979	135.407	309.965

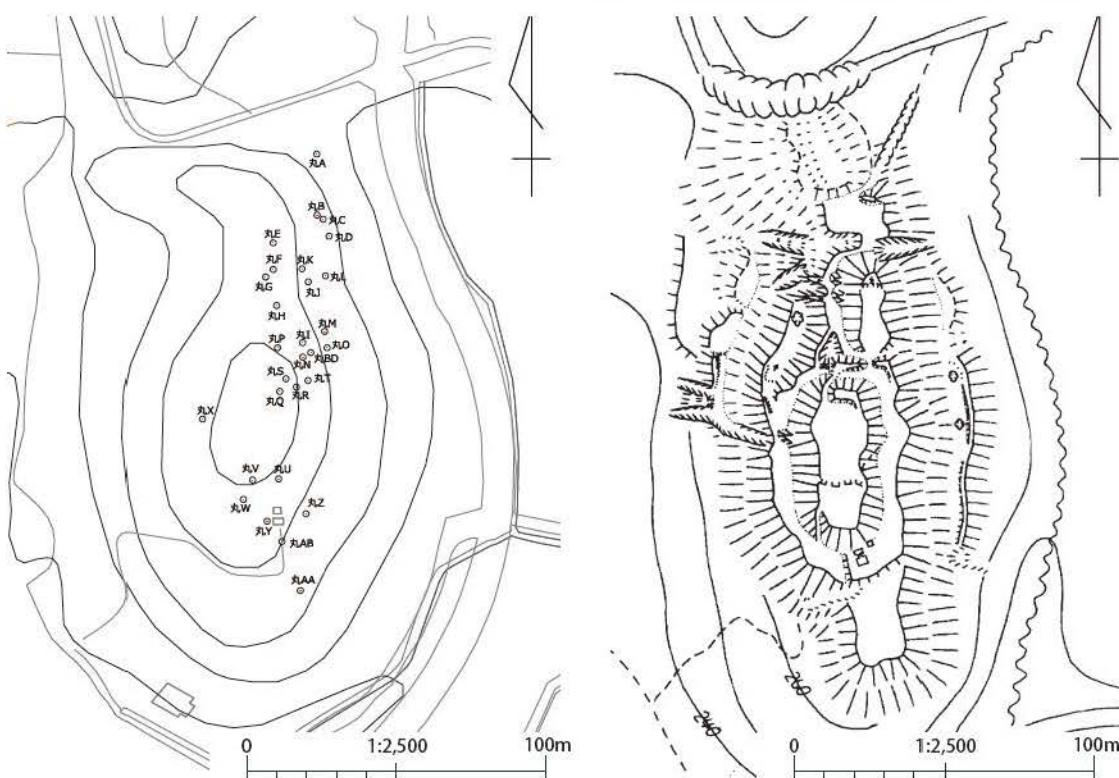


図 352 丸山城の測点位置図（左）と縄張図（右）(S=1/2,500)

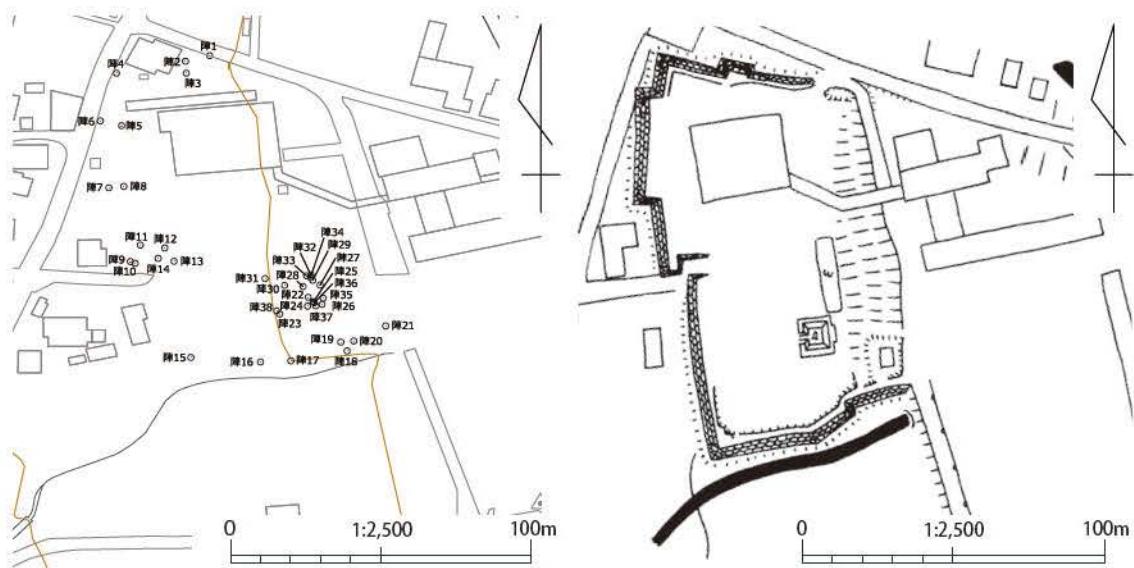


図 353 地黄陣屋の測点位置図（左）と縄張図（右）（S=1/2,500）

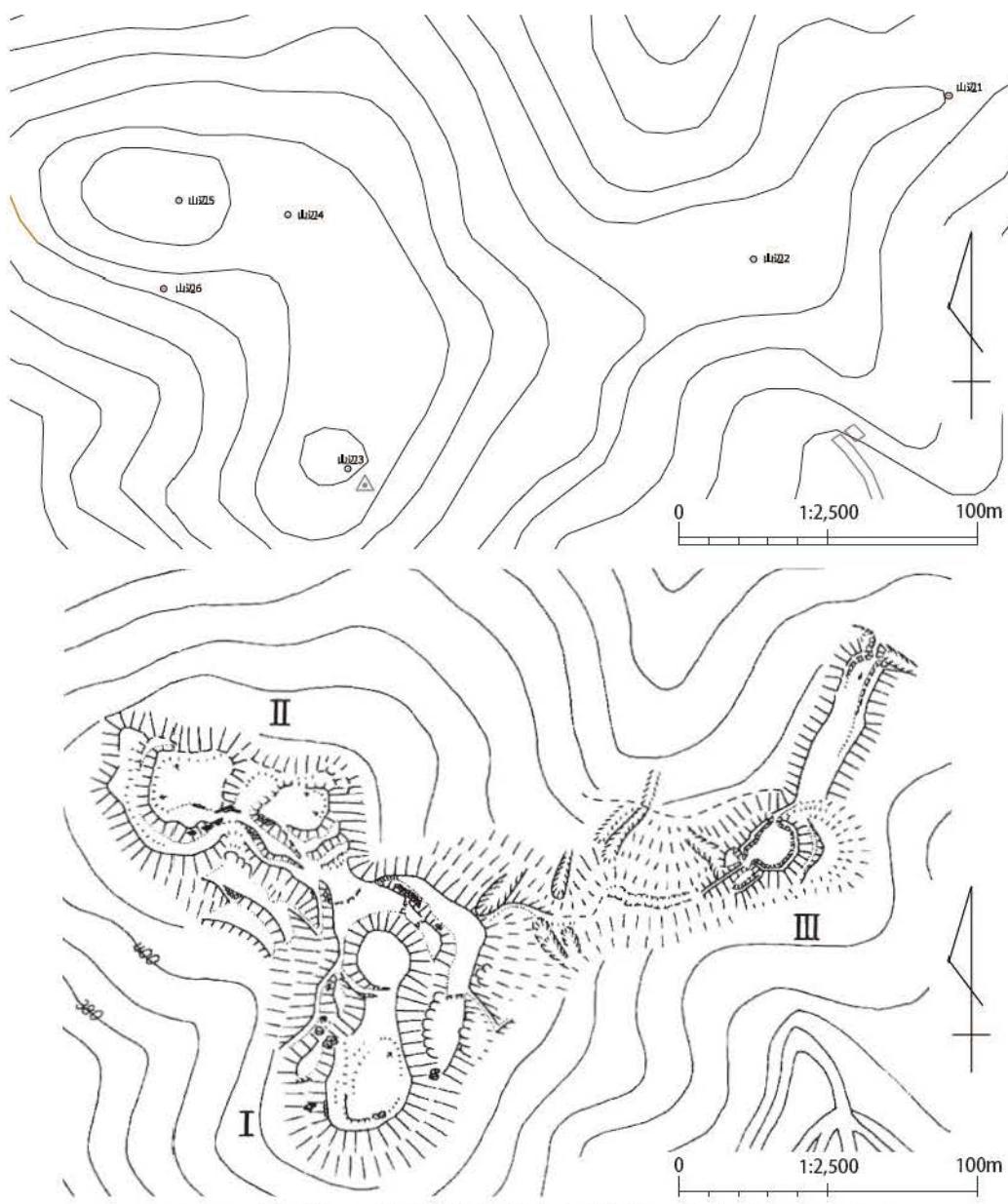


図 354 山辺城の測点位置図（上）と縄張図（下）（S=1/2,500）

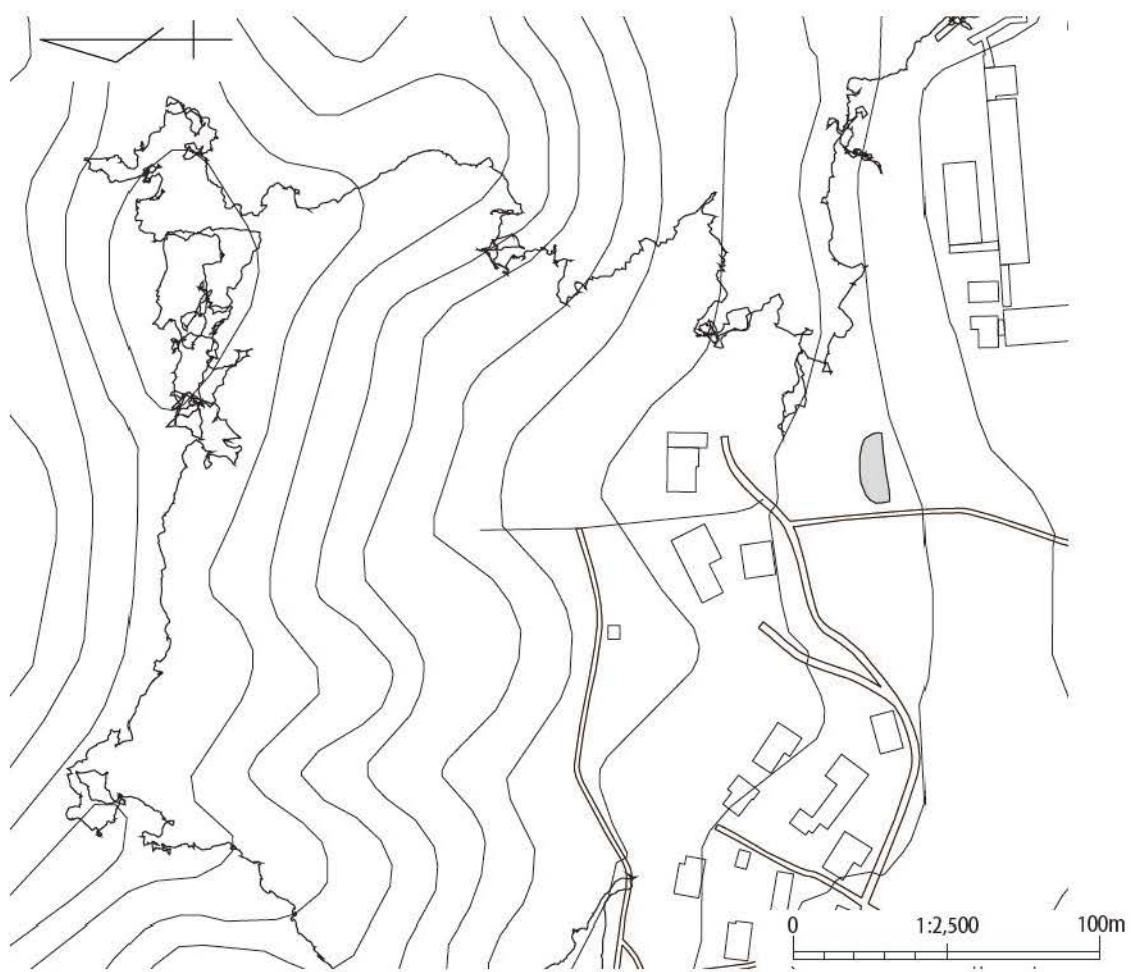


図 355 森上城・今西城・森上館の踏査軌跡図（上）と縄張図（下）（S=1/2,500）

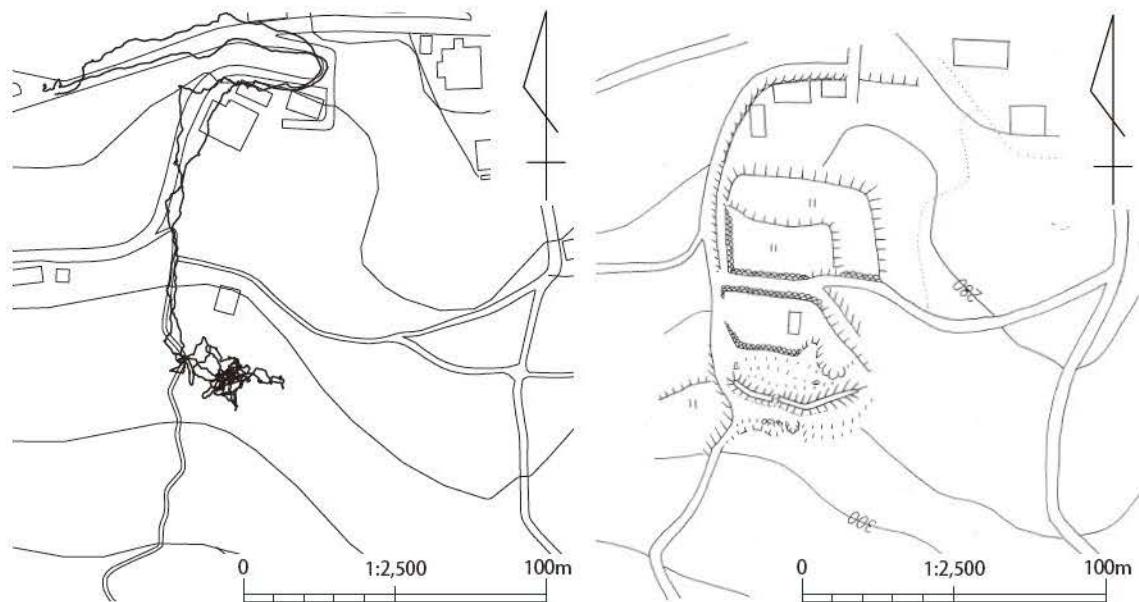


図 356 長谷屋敷の踏査軌跡図（左）と縄張図（右）(S=1/2,500)

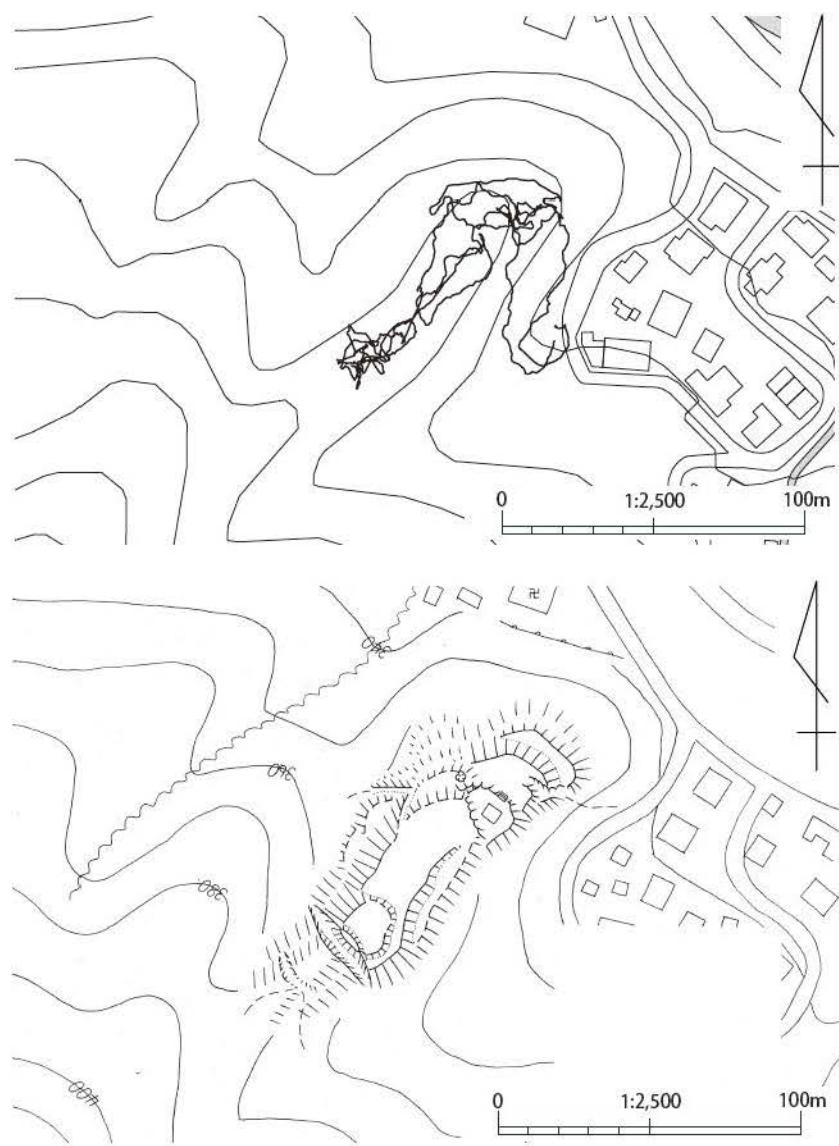


図 357 杉原城の踏査軌跡図（上）と縄張図（下）(S=1/2,500)

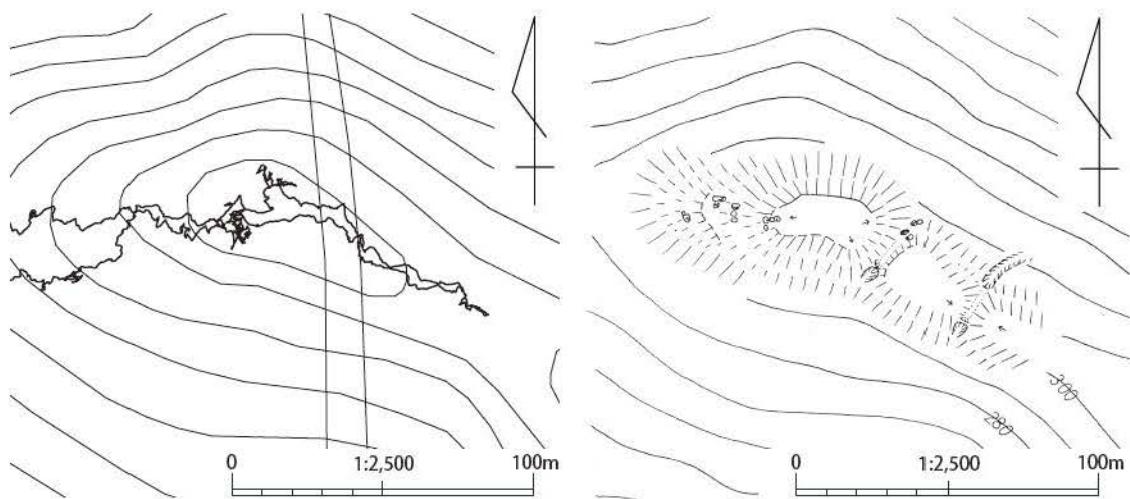


図 358 平通城の踏査軌跡図（左）と縄張図（右）(S=1/2,500)

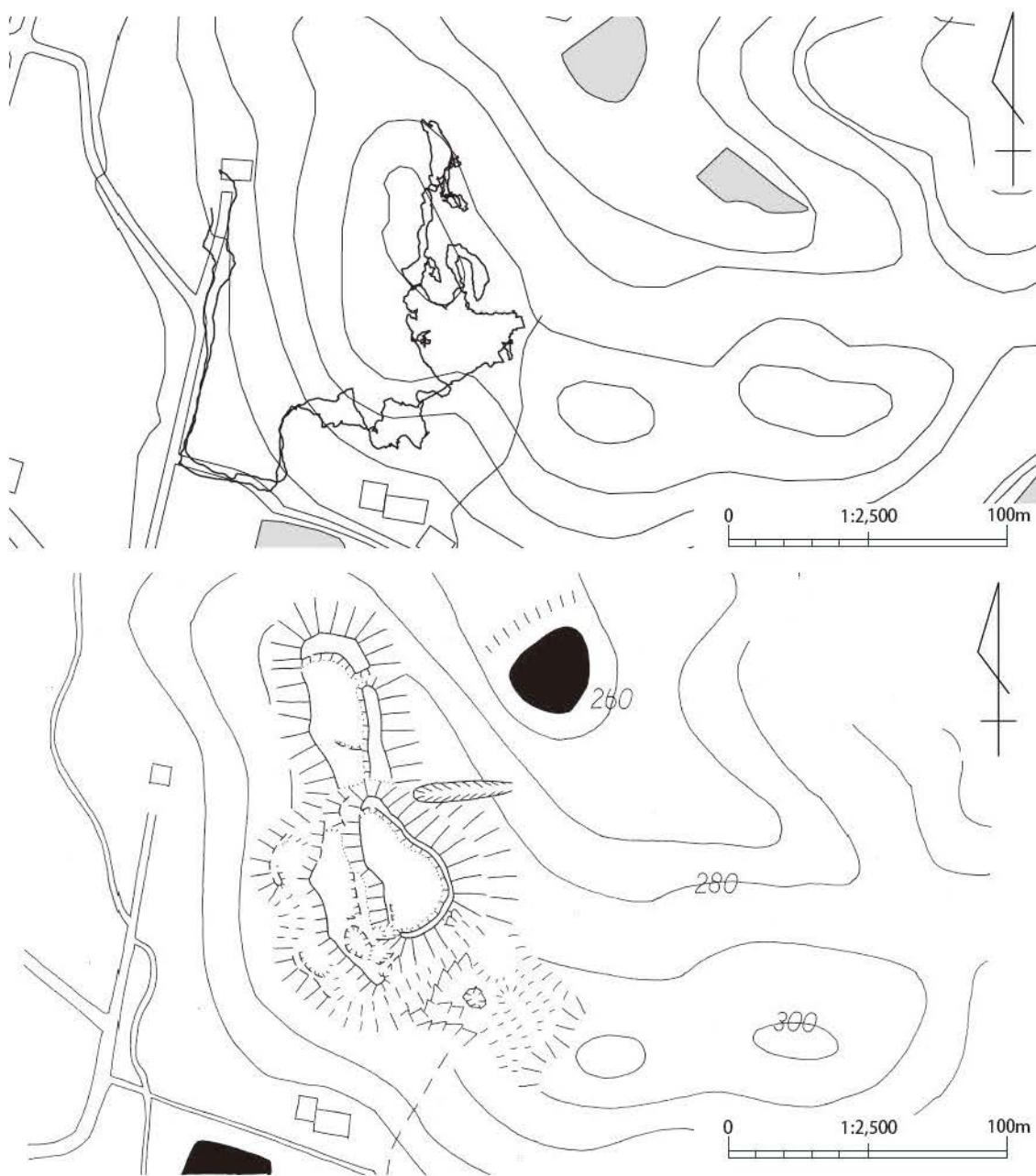


図 359 野間中城の踏査軌跡図（上）と縄張図（下）(S=1/2,500)

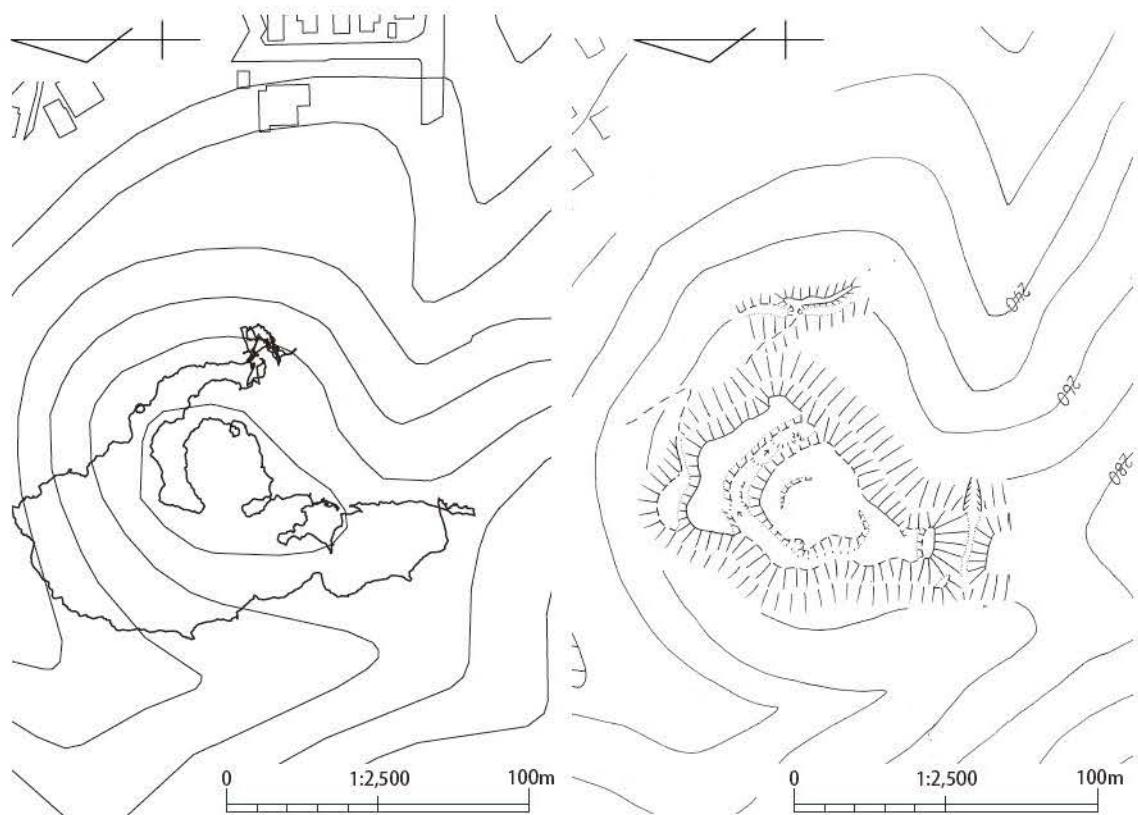


図 360 田尻城の踏査軌跡図（左）と縄張図（右）(S=1/2,500)

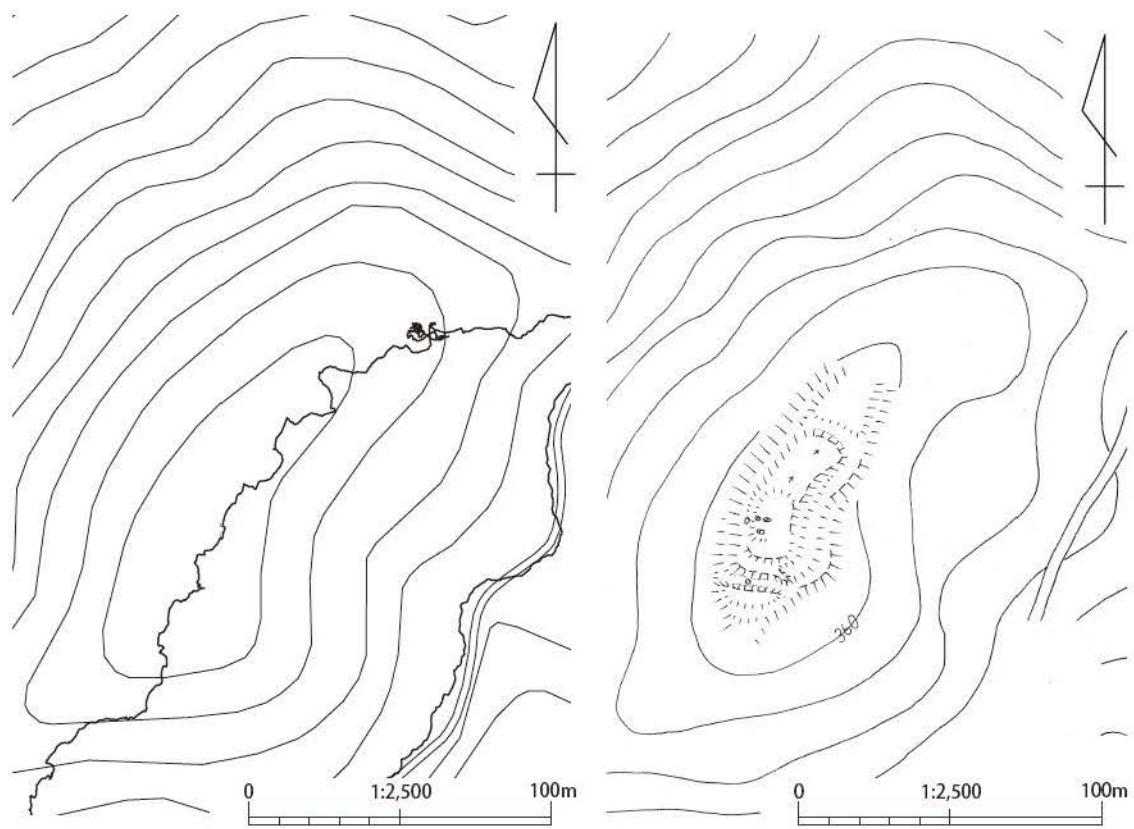


図 361 田尻御所の踏査軌跡図（左）と縄張図（右）(S=1/2,500)

⑥ 長谷屋敷（図 356）

能勢町西郷地区西端の山辺地区の小盆地の南に所在する。等高線に平行する直線的な谷地形と土手状の高まりに区画された平坦地形が存在した。

⑦ 杉原城（図 357）

能勢町東郷地区の北東にそびえる歌垣山の南を通り亀岡盆地に抜ける堀越峠を越えた杉原集落の所在する小盆地の南側の尾根上に所在する。現在神社が所在する平坦面の前後に雑壇状の平坦面があり、その一番最高所にやや広めの平坦面があり、南側には尾根に直交する谷地形がある。人工的な地形改変であるが、山城であるかは判然としない。

⑧ 平通城（図 358）

能勢町西郷地区の南端の南山の山頂尾根一帯に所在する。やせ尾根のため広くはないが平坦面があり、その周囲には自然石の露出を取り込むような石組みが見られる。また平坦面の東端には尾根に直交する谷地形がある。観察できた石組みが石垣かどうかは判然としないが、大阪湾を望み、山辺城等も視認できることから、同時期に存在した山城の可能性がある。

⑨ 野間中城（図 359）

能勢町東郷地区の南東に位置する南山山頂一帯に位置する。最高所一帯に平坦面があり、その東側には土手状の高まりがある。北に延びる尾根上にも平坦面があり、これも北・東側に土手状の高まりがある。西側の平野側にもいくつかの平坦面がある。これらの地形は山城であると考えられる。

⑩ 田尻城（図 360）

能勢町東郷地区の西側を流れる田尻川によって形成された小盆地の西側にある城山の山頂尾根一帯に所在する。山頂最高所一帯に平坦面があり、その周囲の一段下がった場所にも帶状に平坦面がある。田尻川側にのびる尾根と北側に延びる尾根にそれぞれ直交する谷地形が存在している。これらの地形は山城に関わる人工改変とみて差し支えない。

⑪ 田尻御所（図 361）

田尻城跡とは田尻川を挟んだ東側の東山山頂一帯に所在する。山頂一帯の尾根上に平坦面があり、南側にのびる尾根に直交する谷地形がある。北側にも同様の谷地形があり、その北側にも平坦面が広がる。人工的な地形改変とみて問題ない。

## ii. UAV レーザー測量調査（令和元年度）

先述の通り山辺城は城山山頂及びその尾根上に展開する山城で、摂津地域でも屈指の規模を誇る。研究蓄積も豊富で、縄張り図によって構造的解釈がなされており、一部に石垣を用い、土塁や堀切を多用していることが確認されている（岡寺 1999、中西 2015）。ところが、踏査の結果、近年の台風被害によると思われる倒木や土砂流出が各所で起こっていることを確認した。このままでは現地表から観察できる情報が滅失してしまうことが懸念されたことから、広範囲を迅速かつ精確に記録することが必要であった。その方法として選択したのが、UAV に搭載したレーザー機器を用いた測量である。

レーザー機器を地表に向けて照射し、反射して得られた樹冠等のノイズを含む点群を、解析ソフトで地表面データのみに処理して得られたのが図 362 および図 372～374 である。図 362 は従来から地形の表現として利用される等高線図で、標高 1 m 間隔で等高線をまわしている。この手法では等高線の粗密により地形の傾斜等を読み解くことができるが、等高線の引かれない微少な凹凸などの細部については表現しきれない。これに対し、地形の傾斜具合を濃淡で示した図（陰影起伏図）が図 372 である。傾斜が緩ければ淡く、傾斜が強ければ濃く表示される。また、作成された 3 次元モデルを回転させ、鳥瞰することもでき、平坦面の比高を確認することもできる（図 373・374）。

このデータの観察により、最高所一帯の尾根上には、大きく 3 つの平坦な高まりがあり、北西の高まり周りや、高まりの間にいくつか平坦面が存在することが読み取れる。東北東に延

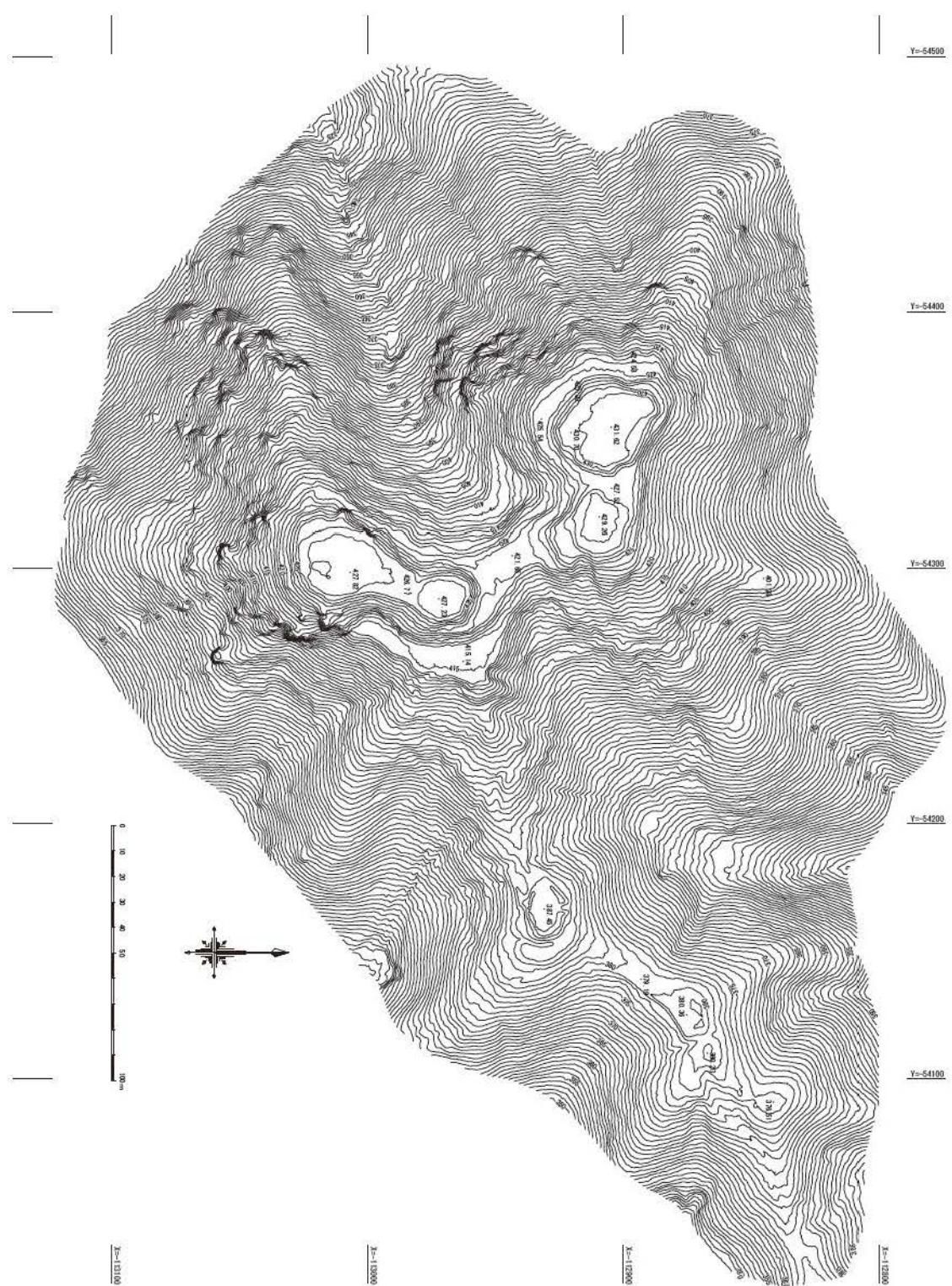


図 362 山辺城 地形測量図 ( $S=1/2,500$ )

びる尾根の先には周囲に土手を巡らせた平坦面があり、その周囲にも土手や谷地形がある。そしてその北東に延びる尾根の南側には土手状の高まりがあり、北東端でほぼ直角に折れていることも読み取れる。

データで読み取れた地形の凹凸はすべて現地で確認しているが、これらはすべて人工的に地形改変された可能性が高い。先述の通り、最高所一帯の尾根に所在する平坦面の西側には石垣が残存しており、その先には麓まで続く小支谷があり、林道用に使われたと見られるジクザグとした道状の平坦面が見て取れるが、築城当時の道を踏襲している可能性もある。

全体的に当時に城として改変された地形がよく遺っているが、台風による倒木を起点としてU字形にえぐれたか所も散見される。今回はこのデータから読み取れた地形について、城郭の構造研究に即した解釈を行わないが、山城としての規模は摂津地域内でも有数であり、遺構の状態も比較的良好であることを強調しておきたい。

### iii. 分布調査（令和2年度）

#### ⑫ 吉野城・吉野居館（図363）

城郭と館がセットになる良好な事例の一つである。城郭は多段の平坦面を有し、さらに南北に犬走状の平坦面が附属するようであるが、明確に曲輪を取り巻くものではないため帶曲輪とは評価しがたい。遺物の散布は認められなかった。

#### ⑬ 為楽山城（図364）

土壘状の高まりが頂上の稜線上に確認できるが、その他の遺構は明確ではない。能勢町地黄の無漏山眞如寺の飛び地境内である能勢妙見山の境内に所在し、近世以降の改変が著しい。遺物の散布は認められなかった。

#### ⑭ 水牢古城（図365）

土壘と平坦地のみで構成される狭小な城郭である。長軸の前後の平坦地には堀切などみられず、なだらかに斜面につながる。遺物の散布は認められなかった。

#### ⑮ 野間口鳥坂城

現況の平坦地は自然地形である可能性があり、地表面では明確な遺構は確認できない。したがって、利用があったとしても臨時的なものと考えられる。遺物の散布は認められなかった。

#### ⑯ 余野本城（図366）

小規模な城郭ながらも、豎堀・横堀・土壘・虎口等の遺構が非常に良好に遺存している。摂津地域のみならず大阪府下でも突出して防御的施設が顕著な城跡と評価できる。南東部の尾根にも平坦地が認められるが、自然地形との区別が難しく、その他の遺構も地表面からは確認できない。遺物の散布は認められなかった。

#### ⑰ 城之越城（城ノ越城）

平坦地や堀切の可能性がある地形が認められるが、近代以降の改変によるものの可能性があり、地表面では明確な遺構は確認できない。遺物の散布は認められなかった。

#### ⑱ 大平土居（図367）

低い尾根頂上の平坦地に、略方形にめぐる低い土壘の区画が南北に並ぶものである。平坦地は土壘よりも広い範囲に認められることから、土壘は地形に沿ったものではなく、区画を意識した配置で構築されたものと判断できる。隣接地には墓地があり、里道が通っている。遺物の散布は認められなかった。

#### ⑲ 吉川城（図368）

略円形に土壘と堀がめぐる小規模な城郭で、高代寺へ連なる西側の尾根筋には堀切と土橋が認められる。観光協会により、登山道やベンチ、案内板が整備されている。遺物の散布は認められなかった。

#### ⑳ 吉川井戸城

尾根の端部を利用した城郭で、平坦地や帶曲輪が確認できる。堀切とみられる切通しがある

が、地形に比して大規模のため、近代以降の所産である可能性がある。東側は府道により大規模に改変されており、城域の推定が難しい。遺物の散布は認められなかった。北側の崖面防護工事の際に、豊能町教育委員会が発掘調査をおこなっている（豊能町教育委員会 2002）。

## ② 高山城（図 369）

明確な遺構は堀切と平坦地のみの狭小な城跡である。現在の高山集落の外側にあたる北西側に視点場が開けた状態で構築されている。地元自治会により登山道、看板、ベンチ、石碑、解説板が設置され、ハイキング道として整備されている。遺物の散布は認められなかった。

## ② 高山向山城（図 370）

堀切が尾根をめぐって帯曲輪となる。明確な遺構は尾根上の先端部のみの範囲にとどまり、北側に続く尾根部分にも平坦地が続くものの地表面では明確な遺構は確認できない。高山城と同じく、現在の高山集落の外側にあたる南東側に視点場が開けた状態で構築されている。遺物の散布は認められなかった。

### （4）調査のまとめ

本調査では、豊能郡能勢町・豊能町域に所在する中世城館のうち、25か所について調査を行った。大阪市内などの都市部と比較して開発が及んでいないこともあり、想定以上に城館遺構が良好に残存しており、大阪府下でも有数の城館密集地域であることがあらためて明らかとなつた。

今回の分布調査では、GNSS 機器を用いたことにより、埋蔵文化財包蔵地の正確な把握と周知につながる成果を得たものと言える。ただし、遺構としての認識や各遺構の時期決定に関しては、地表面観察のみでは限界がある。特に伝承地や地名・字名に痕跡が残るのみの城跡については、試掘・確認調査を実施するなどの手段を講じる必要がある。

いっぽう、自然災害等で部分的に損壊してしまった城館等も一部存在し、記録がされないままに自然に消滅してしまう危険性も強く認識された。そういう状況にあって、山辺城において UAV によるレーザー測量を実施できたことは大きな成果であろう。測量調査の結果、大阪府域の摂津地域において、芥川山城（高槻市）に次ぐ規模を有し、大阪府下でも有数の規模を誇る山城の詳細な地形が明らかにできた。今後、本調査成果を下地に城郭の構造や機能について検討が進んでいくことを望む。また、UAV レーザー測量は記録作成の手段として有効性が高いだけでなく、その成果を三次元で表示すること可能であるため、俯瞰図など城郭の立体的な構造を視覚的に表現する上でも有用である。こうした点は、調査研究のみならず、その成果の公開・活用にも資するものと言える。

本文は、内容については調査担当者である原田・久永・小泉と調査協力者である中西の四者で協議のうえ、令和元年度の分布調査・測量調査についてを原田が、令和2年度の分布調査についてを小泉が、その他の部分については原田と小泉が作成した。

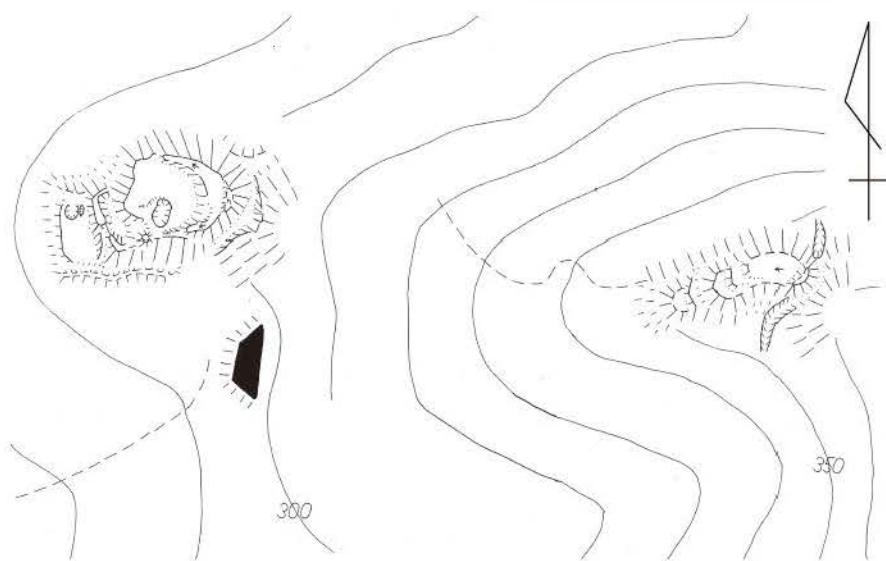
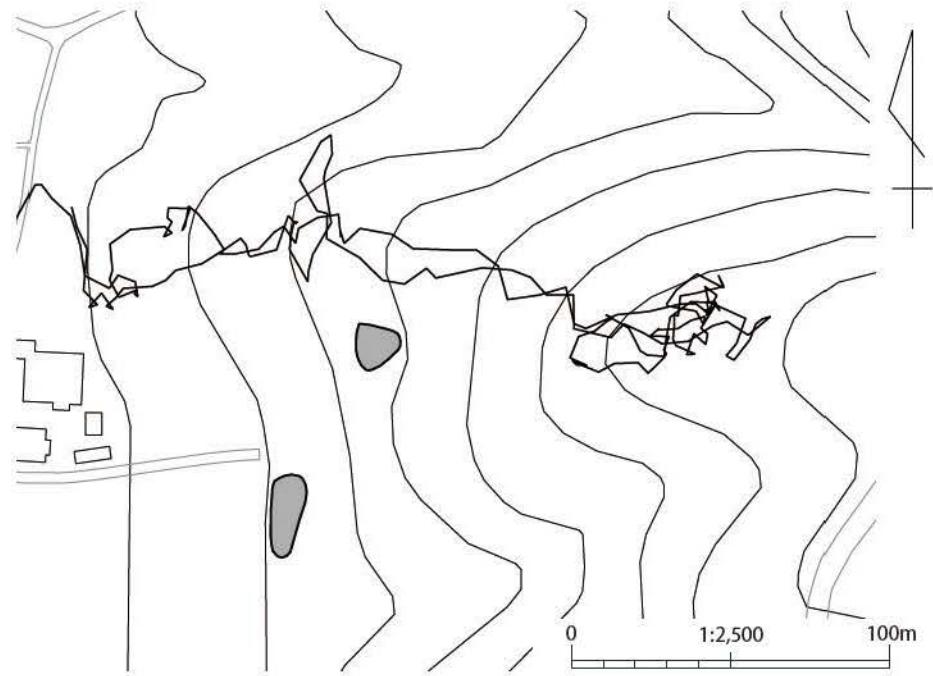


図 363 吉野城・吉野居館の踏査軌跡図（上）と縄張図（下）（S=1/2,500）



図 364 為楽山城の踏査軌跡図（S=1/2,500）

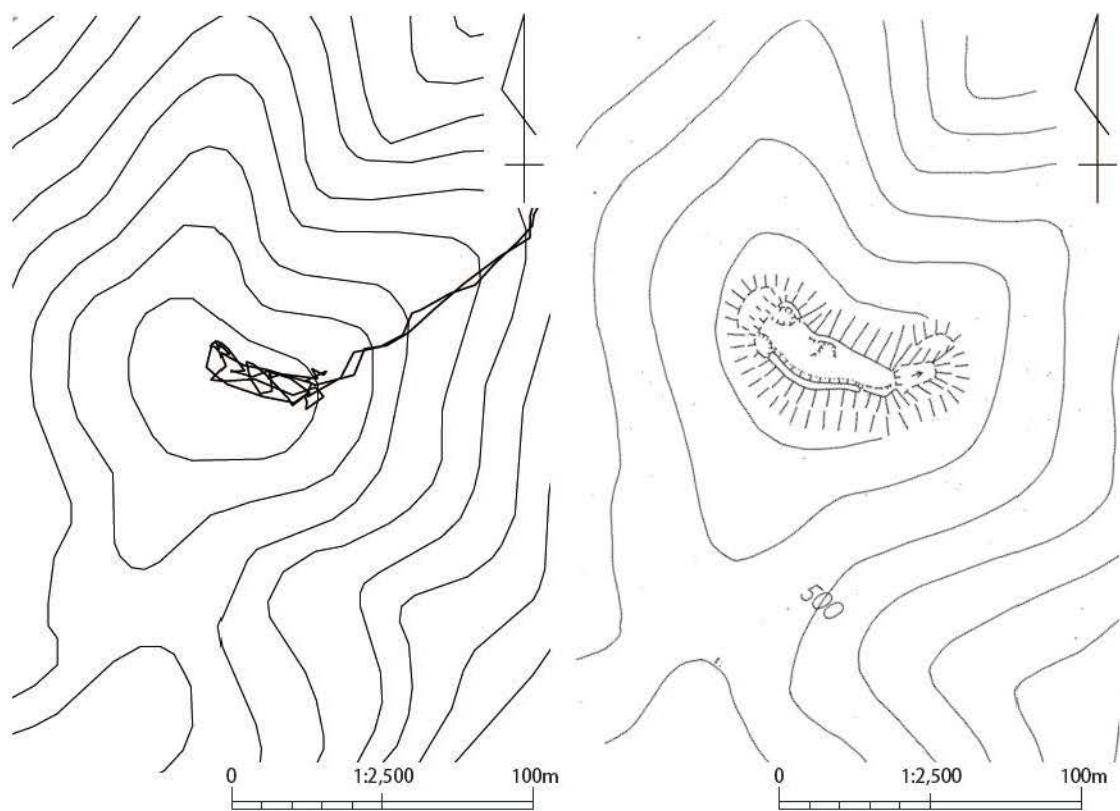


図 365 水牢古城の踏査軌跡図（左）と縄張図（右）（S=1/2,500）

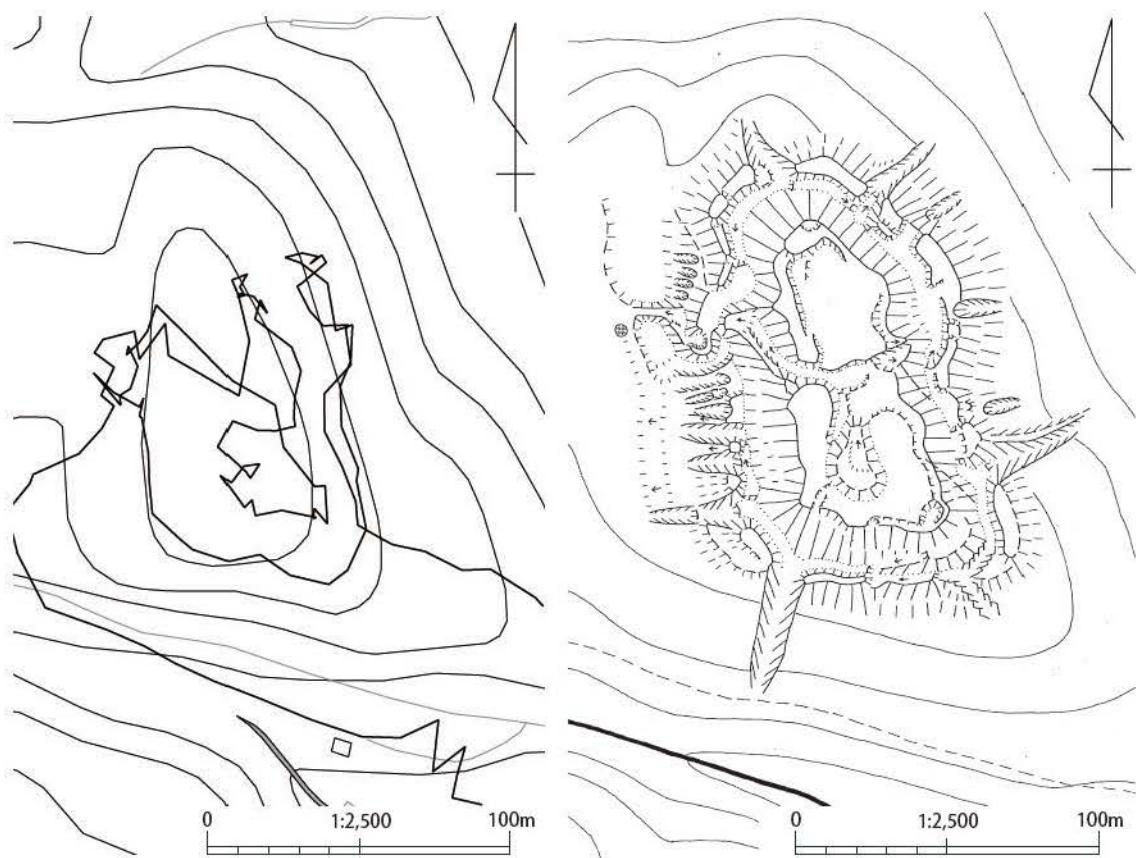


図 366 余野本城の踏査軌跡図（左）と縄張図（右）（S=1/2,500）



図 367 大平土居の踏査軌跡図 (S=1/2,500)

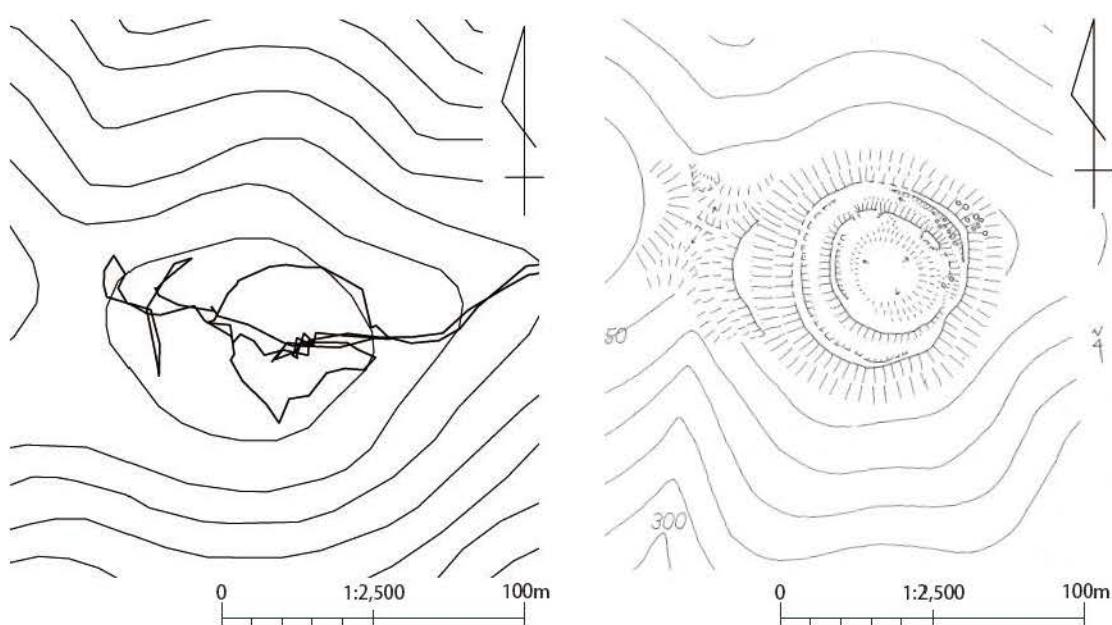


図 368 吉川城の踏査軌跡図（左）と縄張図（右）(S=1/2,500)

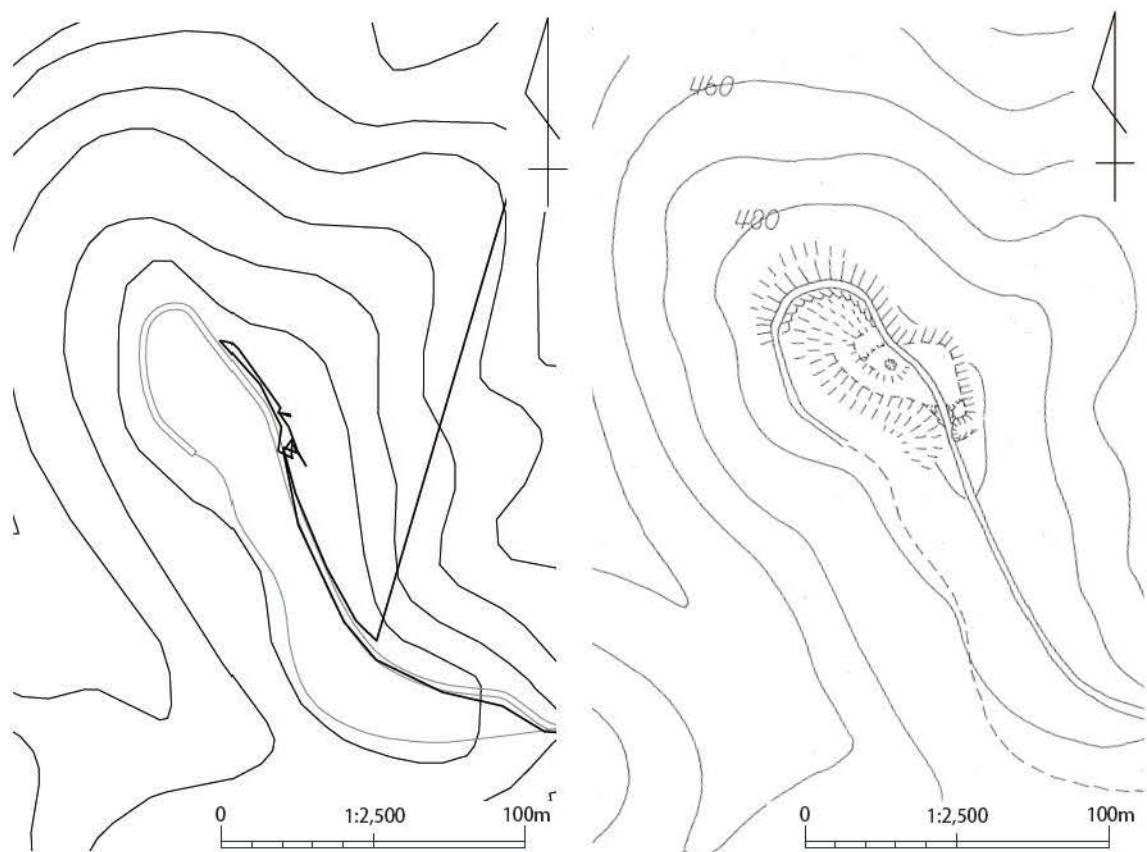


図 369 高山城の踏査軌跡図（左）と縄張図（右）(S=1/2,500)

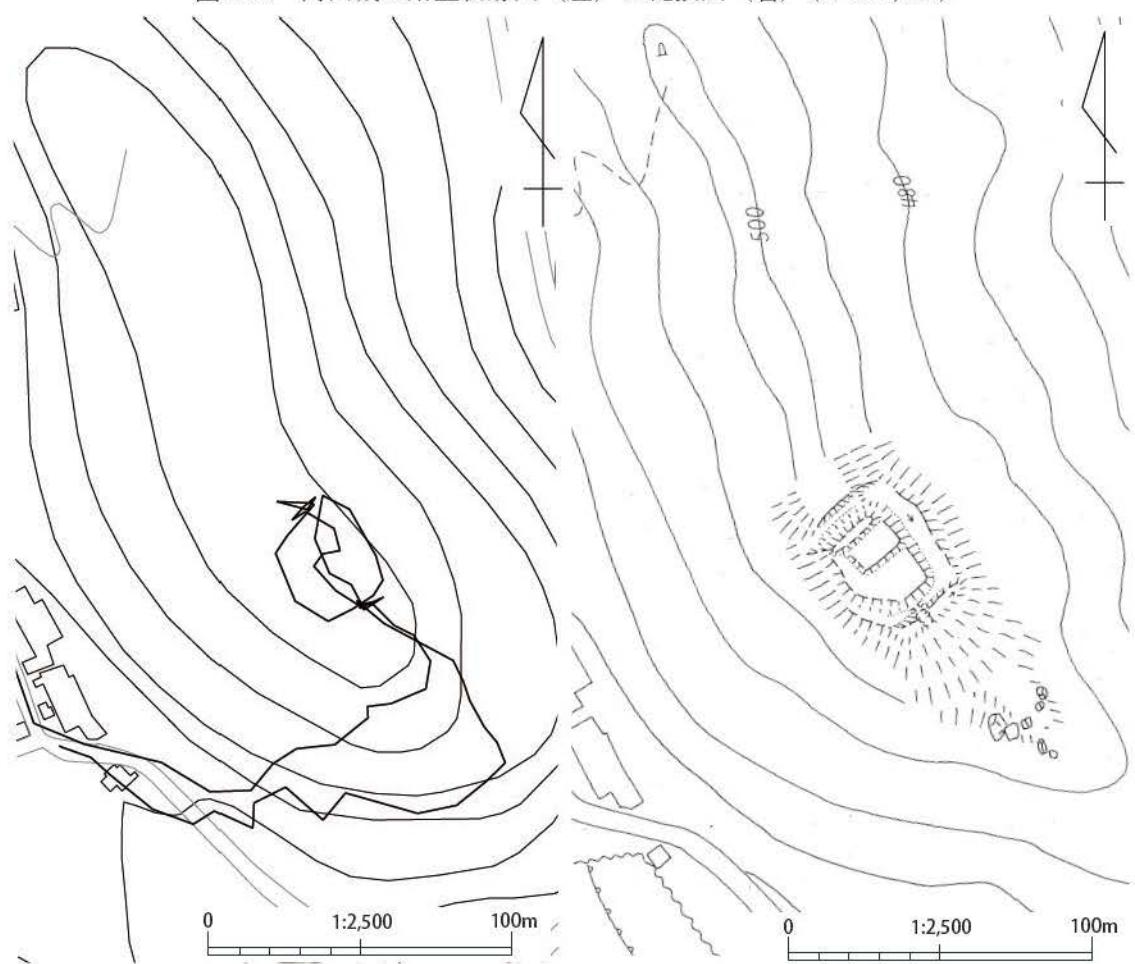


図 370 高山向山城の踏査軌跡図（左）と縄張図（右）(S=1/2,500)

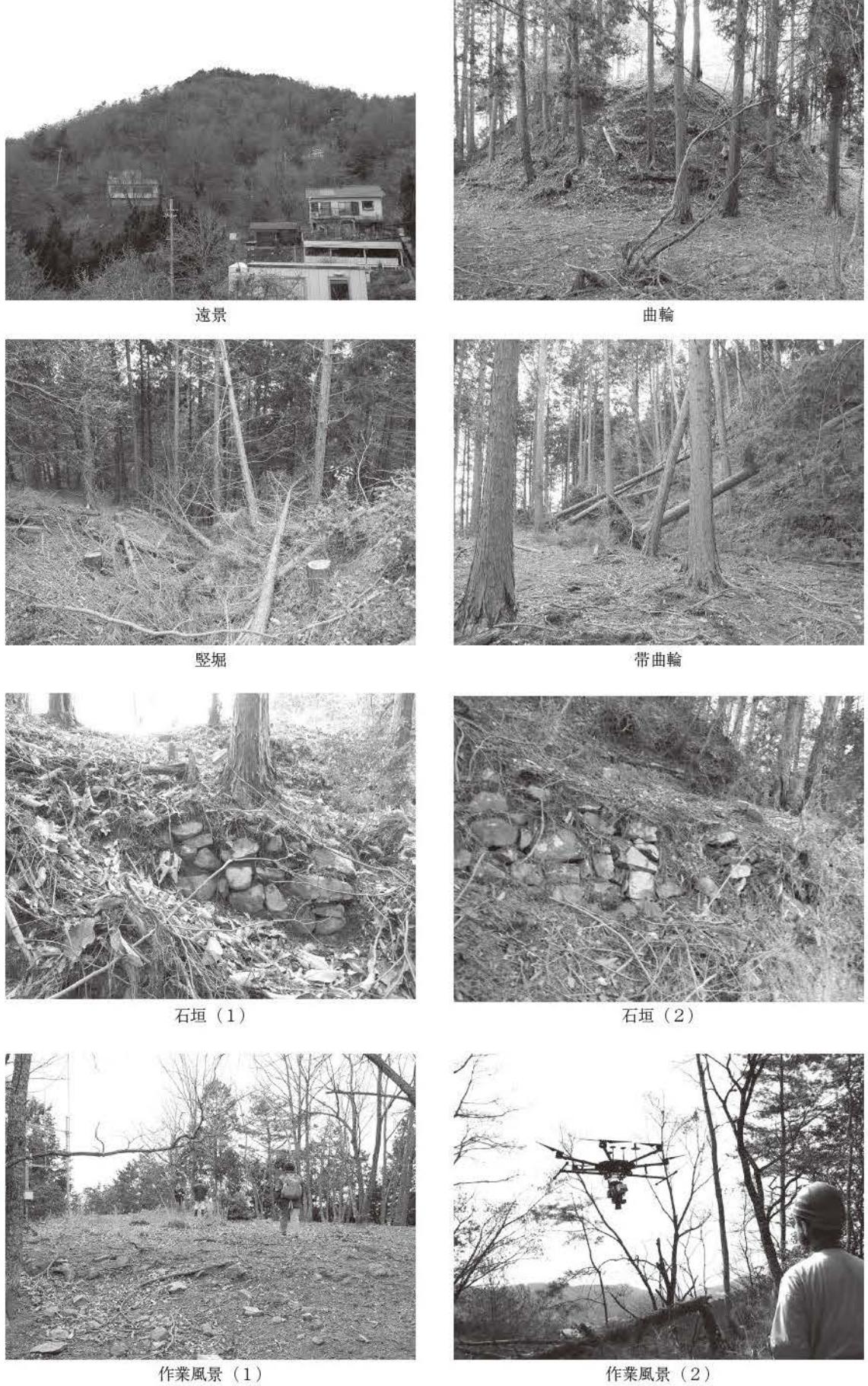


図 371 山辺城の現況及び作業風景

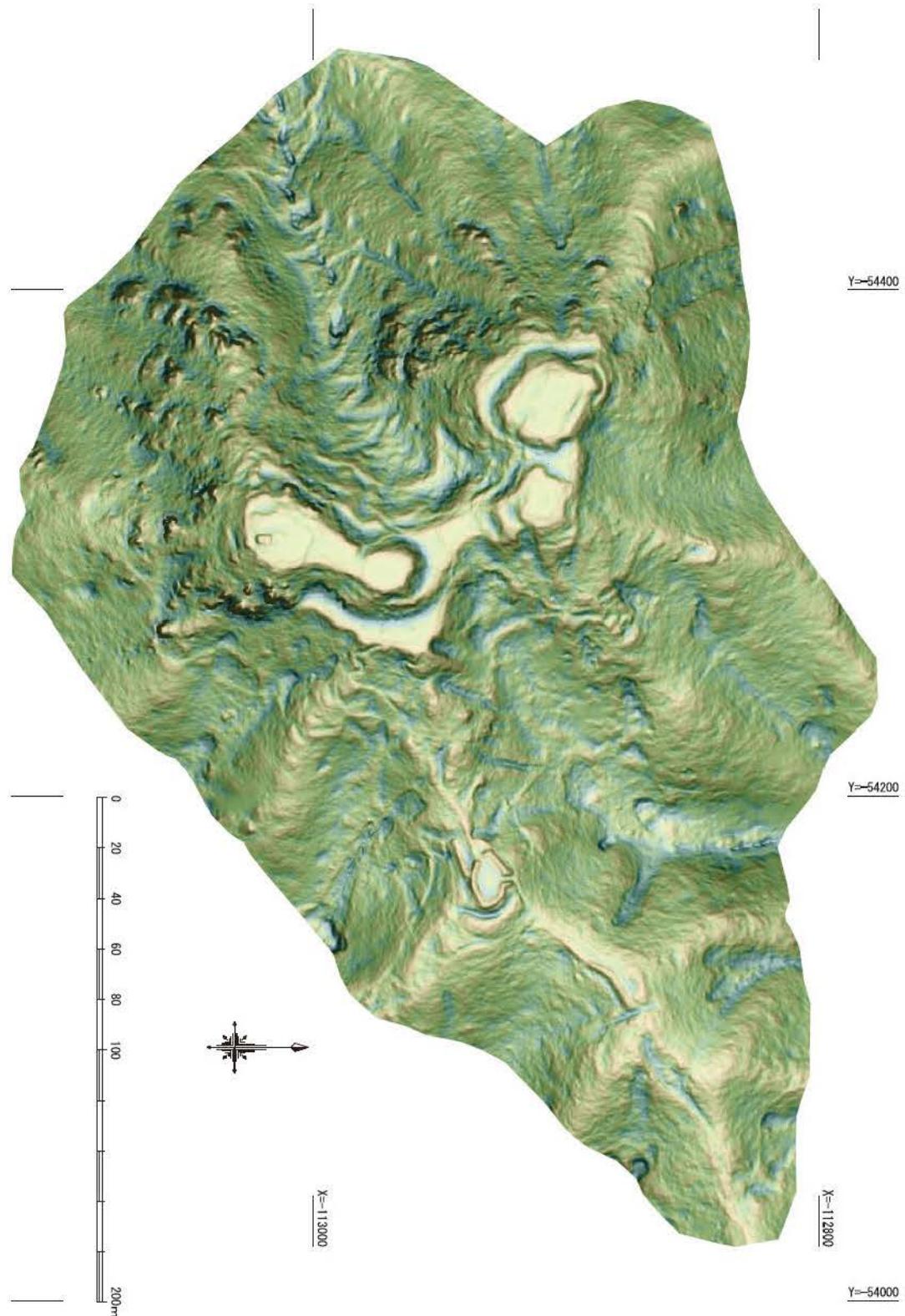


図 372 山辺城 立体地形図 ( $S=1/2,500$ )



図 373 山辺城 俯瞰図（南西から）

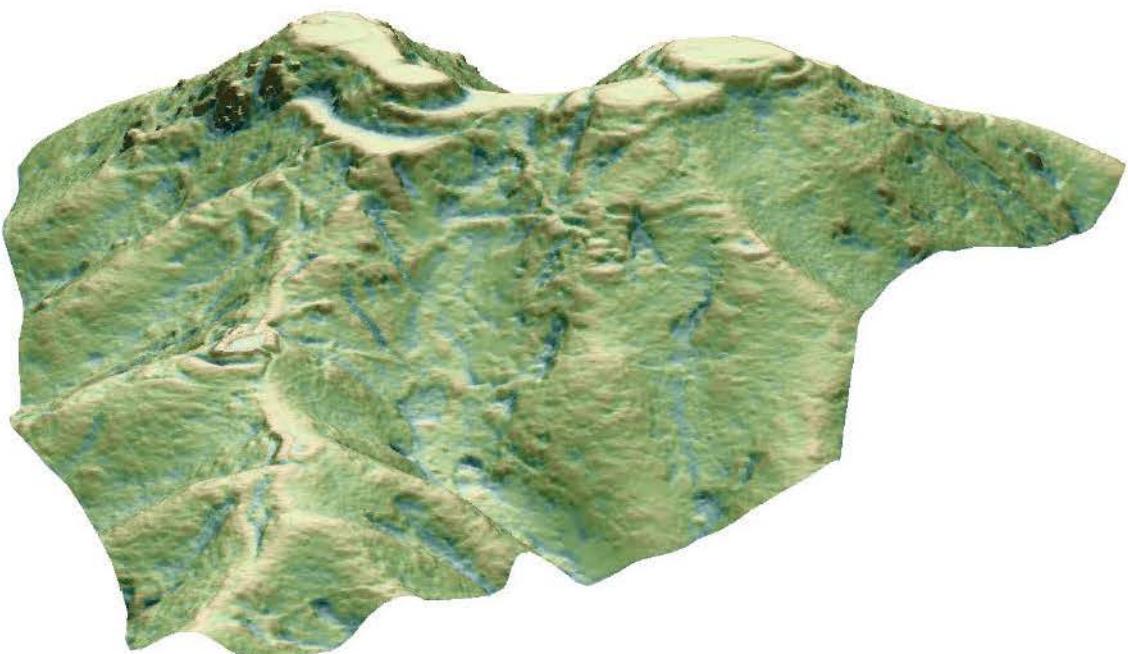


図 374 山辺城 俯瞰図（東から）

## 2 芥川山城（芥川城）について

芥川山城は北摂山地から大阪平野へ流れる芥川が、山間部から平野へ出る直前に大きく蛇行する摂津峡の峡谷に囲まれた標高182mの三好山に位置する。急峻な地形に囲まれた山全体に、山頂の主郭をはじめ、無数の曲輪・堀切・土塁・石垣・虎口等が築かれた摂津国では最大級の規模を誇る山城である。

### 史料からみえる芥川城

築城は室町幕府管領を務めた細川京兆家の細川高国による。摂津・丹波守護でもある高国は、在京しながらも両国の支配や西国への備えとして軍事拠点を必要とした。

史料からは永正12年（1515）に築城が開始されたと考えられ、「昼夜朝暮五百人三百人之人夫ニテ普請要害止時ナシ」（『不問物語』）とその様子が記され、翌年正月には連歌師宗長が高国の家臣能勢頼則が城代を務める芥川城を訪れている。その後、細川京兆家の家督争いで高国を滅ぼした細川晴元は、天文2年（1533）に入城した後、在京と芥川入城を繰り返したが、城には重臣や側近が在城し奉行人が山城・摂津・丹波へ奉書を発給するなどの政務を行なっている。この細川京兆家の高国・晴元段階には山城で連歌会が催され、在城した晴元の下へ京都の公家山科言継や大坂本願寺などの使者が訪れている。

天文22年には東隣の帶仕山に陣を置いて城を攻め落とした三好長慶が入城する。細川晴元と將軍足利義輝を京都から追った長慶は、畿内近国を実力によって支配するとともに、在京せずに、河内の飯盛城（大東市・四條畷市）へ移るまで芥川城を居城として政務を執った。晴元時代に続いて山科言継が使者を遣わして書状や礼物を届けるなど、將軍の権威が弱まった京都周辺の公家や寺社が諸権益の裁定を求めて登城している。また長慶は摂津・山城などの村落間の水利権の裁定もこの城で行っていた。長慶段階の芥川城は寺社権門から村落まで幅広い人々が登城する、京都に代わる「畿内の政庁」として機能した。

一方、城は学問の講義や連歌会など文化的な空間としても機能した。弘治3年（1557）年に松永久秀が儒学者清原枝賢を招いて儒学の講義が行われ、連歌師里村紹巴らが参加した連歌会が開かれている。さらに城内には長慶だけでなく嫡男義興や家臣の松永久秀や三好長逸らがその家族とともに居住していたことがわかっている。弘治2年に火災が生じて義興や久秀の屋敷が焼失し、その翌年に北野社は城内の松永久秀の妻や長慶の弟安宅冬康に贈物を行っている。

その後、長慶自身は永禄3年（1560）に飯盛城へ移るが、芥川城は三好家の家督とともに嫡男義興に譲られ、三好家の本拠として意識され、「畿内の政庁」として位置づけられ続けた。

このような由緒を誇る芥川城に、永禄11年に上洛途上の織田信長・足利義昭は、約二週間滞在し、畿内の新しい支配者としての武威を示すとともに、天皇の勅使をはじめ要人と面会、各種の連絡・調整を済ませた後に入京・上洛を果たしている。その後は信長・義昭から摂津支配を任せられた和田惟政や高山飛驒守らが入城するが、間もなく平地の交通の要衝・高槻城に移り、芥川城はその機能を徐々に停止したと考えられる。

### 遺構・遺物からみた芥川山城

平成5年度～令和2年度にかけて行われた芥川山城の発掘調査によって、山頂の主郭周辺からは焼土層の上に設けられた大型の礎石建物や埠列建物が検出されるとともに、16世紀前半から中葉を中心とする供膳・調理・貯蔵の食器類が出土した。これらは山上における居住や居城化を示す。また、食器類に加えて硯などの文具や天目茶碗・茶臼などの茶道具、青磁花瓶などを確認しており、城内における文書発給や連歌会などの活動を裏付ける。また遺物の分布状況から主郭周辺だけでなく城内各所に貯蔵を用途とする埠列建物の存在が想定され、家臣屋敷の存在が想定される。また、主要な通路沿いや山麓からの視覚を意識した地点に大型の石材を

用いた石垣が設けられていることも明らかになった。このような軍事機能に偏らない多様な遺構・遺物の状況は、前述の「畿内の政府」として機能した芥川城についての史料の記述とよく一致する。今後も続く調査・研究から具体的な姿がさらに明らかになると考えられる。

現在、山頂の主郭に立つと南側に大きく眺望が広がり、高槻市街地は言うまでもなく、正面には淀川をはさんで飯盛山やその背後の生駒山、その右にははるか金剛山や大阪市街のビル群まで望むことができる。高槻市街の手前には西国街道と芥川宿がみえ、城からは約4km離れているが、往時はその間の道を、在城する細川晴元や三好長慶、織田信長に面会や裁定を求めて書状や贈物を手に登城する様々な人々が行き交い、城からはその様子が眼下にみてとることができたことは想像に難くない。

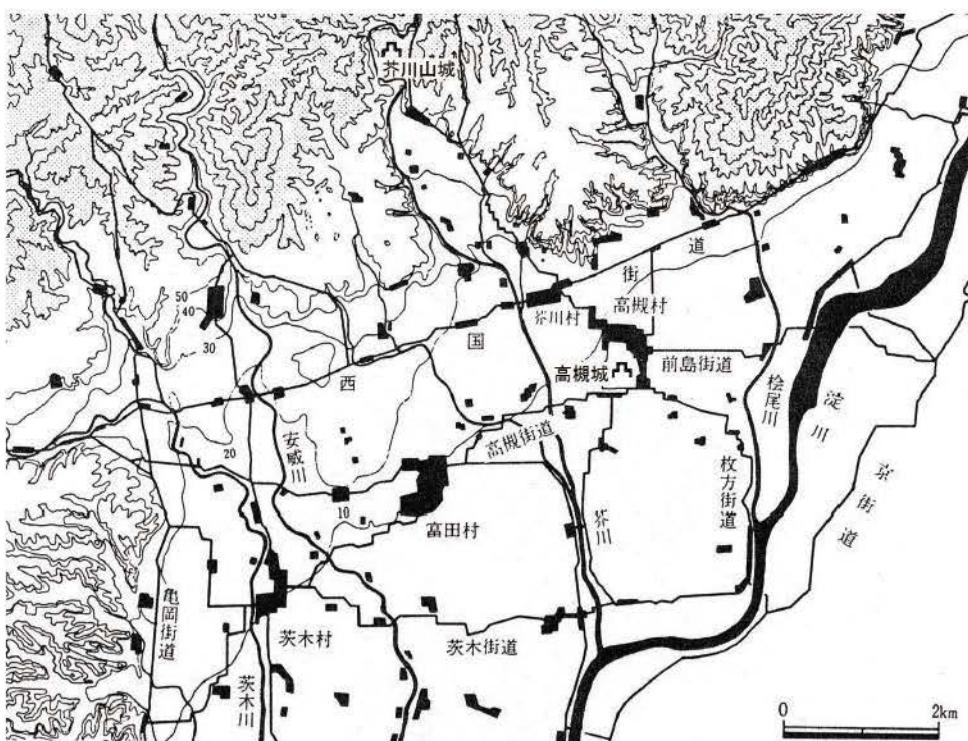


図375 芥川山城（芥川城）と西国街道・高槻城の位置



図376 芥川山城（芥川城）主郭からの南側の眺望と検出された埠列建物  
(遠景は左から飯盛山・生駒山・金剛山・大阪市街ビル群)



## 第5章 総括

### 1 摂津における中世城館の分布の概要

第3章で示したように、本地域全体において中世城館等として把握できたものは151か所を数えるが、その内訳としては城館135か所(89.4%)、寺院1か所(0.6%)、寺内町・環濠集落9か所(6.0%)、遺跡6か所(4.0%)である。なお、遺跡はその内容により屋敷・居館と推定されるもの6か所であり、すべて城館に含まれるものである。

城館として把握した135か所のうち、A) 遺構等の残存により位置(おおよその位置も含む)が分かるものは63か所(46.7%)、B) 遺構等が確認できないものの伝承や地名、地割等から位置を推定したもの37か所(27.4%)、C) 根拠がかなり乏しく位置を示すことができなかつたもの(番号の先頭にFを冠したもの)35か所(25.9%)である。したがって、城館として位置を特定できた上記A)は城館全体の半数弱に限られる。

地域ごとに分布状況をみると、位置が特定・推定できる城館(上記のA)・B)および遺跡)では北摂山地に所在するものが55か所を数え、なかでも豊能郡能勢町・豊能町域では43か所と密集して分布する。第4章第1節でみたように、豊能郡能勢町・豊能町域の城館は小規模な山城が主体的であり、本地域においても特徴的な分布状況を示す地区と位置づけられる。いっぽう平野部においては街道沿いを中心として城館が49か所に点在するほか、寺院や寺内町・環濠集落の9か所全てが分布することが特徴として挙げられよう。寺内町・環濠集落は近世以降も継続して発展したものが多く、その後の都市形成において大きな影響を与えたものと想定される。

### 2 時期別の特徴

今回の調査において把握された城館等について、第3章に示した年代をもとに時期別に区分すると、13世紀以前は24か所、14世紀は31か所、15～16世紀は78か所、時期不詳は13か所となる。なお、長期にわたって継続する城館等については重複して計上した。年代比定においては文献上にあらわれる年代や、近世以降の記録や伝承等による類推、発掘調査による遺構・遺物の評価からの比定など、確度や基準が一定しないため必ずしも実態を表すものではないものの、それを差し引いても15～16世紀代に属するものが過半を示すことは一定の傾向を示していると考えられる。なお、各城館において詳説したように、築城時期が14世紀以前に比定されるものであっても、その多くは15～16世紀に存続・機能したものであることがわかる。個別に検証が必要ではあるものの、実態としては戦国期に築城された城館の城主が、その正統性を補強するためにより古い伝承等を利用したものもあったと想定される。いずれにせよ、本地域の城館等は、戦国期に構築され、利用されたものが多数を占めることが特徴といえる。

これを既刊の南河内、北・中河内地域と比較すると、南河内地域では、城館122か所(うち所在不詳は16か所)のうち、13世紀以前は6か所、14世紀は89か所、15～16世紀は14か所、時期不詳は13か所であった(大阪府教育委員会2008)。北・中河内地域では、城館75か所(うち所在不詳)のうち、13世紀以前は5か所、14世紀は31か所、15～16世紀は42か所、時期不詳は9か所である(大阪府教育委員会2017)。いずれの地域も13世紀以前のものが少ない点は共通するが、南河内では明らかに14世紀代に比定される城館が多数を占めているのに対し、北・中河内は摂津と南河内の中間的な様相を示すことがうかがえる。

このように、大阪府下においても中世城館の構築・利用の動向は一様ではなく、それぞれの地域が有する歴史的背景の差異を反映したものと考えられる。

### 3 摂津における中世城館の様相

以上にまとめた分布および時期別の特徴を踏まえ本調査で得られた成果をもとに、本地域の中世城館の様相を概観しておきたい。

13世紀以前に比定される城館等のうち、山城・丘城・平城といった城郭は、32. 原田城（北城）、33. 原田城（南城）、79. 太田城、120. 山辺城、133. 野間城など12か所がある。しかしこれらは、南北朝期の利用の伝承があるF47. 八幡城を除いて、15世紀後半（戦国期）以降を主たる機能時期とするものである。13世紀以前にこれらが城郭として実際に機能していた可能性は低く見積もられ、むしろ、発掘調査により確認された33. 原田城（南城）の前身となる方形区画溝を伴う屋敷や、居館・屋敷にあたる34. 今西氏屋敷、S63. 上田部遺跡、S98. 郡遺跡・倍賀遺跡、S109. 余野城（平地遺構）などにみられるような、方形区画溝を伴う屋敷が当該期の「城館」の基本的な姿であったと考えられる。特に34. 今西氏屋敷は、こうした方形区画溝を伴う屋敷の典型として位置づけられよう。今西氏は南郷春日大社の所領を治めた被官であり、周辺の莊園の管理等を担った。その他の屋敷についても、防御拠点というよりは莊園政所のような政務施設としての機能が想定されよう。

14世紀に比定される城館では、13世紀以前から継続するものもあるが、10. 三津屋城、F24. 天王寺城、42. 池田城、F50. 山田城、78. 茨木城、F104. 新家城のように、山城・平城があらたに出現する。河内地域ほど顕著ではないものの、本地域においても南北朝の動乱が築城の契機となったことが想定されよう。特に、42. 池田城や78. 茨木城は、戦国期の有力国人・池田氏や茨木氏が拠点とした城郭の前身として重要である。ただし、これら南北朝期に築城されたと伝わる城館は所在不詳のものが多く、今回の調査でも城郭遺構や全体構造の判明するものは見られなかった。これに対して、S99. 西福井遺跡において方形区画溝を伴う屋敷跡が見つかっており、34. 今西氏屋敷とあわせて、前段階の特徴を引き継いでいることがうかがえる。

15世紀には21. 正覚寺城、18. 吹田城推定地・19. 吹田城、82. 三宅城など城館が増加し始めるが、ほとんどが15世紀後半の戦国期に入つてからのものである。また、K29. 大坂本願寺の建立や、K8. 我孫子環濠、K59. 富田寺内町といった都市の形成が始まるのもこの頃である。さらに16世紀代には、55. 芥川山城、77. 安威城、108. 幣ノ木城など多数の城館があらわれ、16世紀末葉には織豊系城郭の典型である1. 大坂城（豊臣氏）の築城に至る。

当地域で主体となる戦国期の城郭の構造に着目すると、32. 原田城（北城）、82. 三宅城のように平野部に立地し、主郭・外郭が堀に囲われるもの、55. 芥川山城、84. 佐保栗栖山砦、120. 山辺城のように山頂部を中心として一定の広さをもつ曲輪が連接し、全体は大規模な城域を有するもの、58. 田能城、80. 佐保城、116. 吉川城のように単郭の小規模な山城などが確認できた。また、能勢・豊能町域に特徴的にみられる、121. 森上城・122. 今西城・123. 森上館や133. 野間城・134. 野間氏居館などの居館と城郭がセットになった事例も特筆すべきものである。

以上の通り、大阪府下における摂津地域の中世城館は、14世紀以前は屋敷・居館として認識されるものが主体であり、15世紀後半から16世紀にかけての戦国期には多様な構造をもつた城郭が展開することが読み取られた。なかでも、55. 芥川山城は本地域において最も大規模な城郭であり、代表的な城郭といえる。芥川山城は細川氏の守護所、そして三好長慶による畿内支配の拠点として利用されたものであり、土塁や堅堀といった防御的な機能にとどまらず、政府としての政治的な中心ともなった城郭と評価されている（第4章2節）。現在も各種遺構が良好に残存しているだけでなく、建物配置や構造、遺物の分布や内容といった考古学的な調査成果、史資料による城郭の利用実態の追及も進んでいる。こうした代表的な城館遺跡について確実な保護の措置を進めることで、史資料に詳しくあらわれてこない城館の調査・研究とその学術的評価を深化させてゆくことが期待できる。さらに、本書では寺院や集落はごく一部のみ取り扱うに留まってしまったが、今後はこれらと城館とのかかわりについても検討を深めてゆくことで、本地域の中世社会の特質をより総合的に理解する一助となるものと考えられる。

## 引用・参考文献

### 【報告書・市町村史等】

- (a) 池田市教育委員会 1992『池田城跡 遺跡発掘事前総合調査概要報告』(池田市文化財調査報告 第15集)  
池田市教育委員会 1994『池田城跡 主郭の調査』(池田市文化財調査報告 第18集)  
池田市史編纂委員会(編) 1997『新修池田市史 第1巻』池田市  
井上正雄 1922『大阪府全志』巻之二・巻之三 大阪府全志発行所  
茨木市・茨木市教育委員会(編) 1987『わがまち茨木』城郭編  
茨木市教育委員会 2007『平成18年発掘調査概報』  
茨木市教育委員会・公益財団法人大阪府文化財センター(編) 2018『郡遺跡・倍賀遺跡1』茨木市文化財資料集第71集、公益財団法人大阪府文化財センター調査報告書第295集  
茨木市史編さん委員会(編) 2004『新修茨木市史』第8巻、史料編地理  
茨木市史編さん委員会(編) 2008『新修茨木市史』第9巻、史料編美術工芸  
茨木市史編さん委員会(編) 2016『新修茨木市史』第2巻、通史2  
茨木市史編さん室(編) 2000『村誌：茨木市域』  
茨木福井の歴史編纂委員会(編) 1997『茨木・福井の歴史』  
大阪市教育委員会・大阪市文化財協会 2001『平成11年度 大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書』  
大阪市教育委員会・大阪市文化財協会 2008『平成19年度 大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書』  
大阪市教育委員会・大阪市文化財協会 2009『大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書(2007)』  
大阪市教育委員会・大阪市文化財協会 2010『大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書(2008)』  
大阪市教育委員会・大阪市文化財協会 2022『大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書(2020)』  
大阪市教育委員会・大阪文化財研究所 2011『大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書(2009)』  
大阪市教育委員会・大阪文化財研究所 2013『大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書(2011)』  
大阪市教育委員会・大阪文化財研究所 2014a『平成24年度 大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書』  
大阪市教育委員会・大阪文化財研究所 2014b『大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書(2012)』  
大阪市教育委員会・大阪文化財研究所 2017『大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書(2015)』  
大阪市文化財協会 1981『難波宮跡研究調査年報1975～1979.6』  
大阪市文化財協会 1988『大坂城跡Ⅲ』  
大阪市文化財協会(編) 1997『大阪市の文化財』大阪市教育委員会  
大阪市文化財協会 2002『大坂城跡VI』  
大阪市文化財協会 2003『大坂城跡VII』  
大阪市文化財協会 2004『難波宮址の研究 第十二』  
大阪市立大学豊臣期大坂研究会 2017『特別史跡大坂城跡サウンディング試験報告書』  
大阪府 1903『大阪府誌』  
大阪府学務部(編) 1928『大阪府史蹟名勝天然記念物』第2冊  
大阪府学務部(編) 1931『大阪府史蹟名勝天然記念物』第5冊  
大阪府教育委員会 1985『余野城跡周辺地区発掘調査現地説明会資料』  
大阪府教育委員会 1989『府営圃場整備工事に伴う東郷地区遺跡群発掘調査概要』  
大阪府教育委員会 2008『南河内における中世城館の調査』  
大阪府教育委員会 2017『北・中河内における中世城館の調査』  
大阪府教育委員会 2020『福井城跡B地点』大阪府埋蔵文化財調査報告2019-1  
大阪府西成郡役所(編) 1915『西成郡史』第五編  
大阪府東成郡役所(編) 1922『東成郡誌』  
大阪府文化財調査研究センター(編) 1999『彩都(国際文化公園都市)周辺地域の歴史・文化総合調査報告書』  
大阪府文化財調査研究センター(編) 2000『佐保栗栖山砦跡：国際文化公園都市特定土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』大阪府文化財調査研究センター調査報告書 第56集  
大阪府文化財センター 2006『大坂城跡Ⅲ』  
大阪府文化財センター 2014『止々呂美城跡』  
大阪文化財研究所 2011『瓜破遺跡発掘調査報告書VII』  
大阪文化財研究所 2012『平野環濠都市遺跡発掘調査報告』  
大阪文化財研究所 2013『大坂城跡X VI』  
大阪文化財研究所・大阪市教育委員会 2018『大坂城跡X VIII』

- 大山崎町歴史資料館 2019『国衆からみた光秀・藤孝一丹波・乙訓と織田権力』(企画展図録)
- 岡田溪志 1701『摂陽群談』(日本歴史地理学会(校訂) 1916『大日本地誌大系第九冊 摂陽群談』 大日本地誌  
大系刊行会 所収)
- 小上齋諱 1931『止々呂美村誌』
- (か) 角川日本地名大辞典編纂委員会 1983『角川日本地名大辞典』27 大阪府
- 近藤瓶城(編) 1893『史籍集覽』第13冊
- 近藤瓶城(編) 1901『史籍集覽』第19冊
- (さ) 鶯洲町史編纂委員会(編) 1925『鶯洲町史』 鶯洲町
- 参考本部陸軍部測量局 1885~1887「仮製二万分一地形図」(清水靖夫(編) 1995『明治前期・昭和前期 大阪  
都市地図』 柏書房 所収)
- 新修大阪市史編纂委員会(編) 1988『新修大阪市史』第二巻 大阪市
- 吹田市史編さん委員会(編) 1974『吹田市史』第2巻
- 吹田市史編さん委員会(編) 1974『吹田市史』第4巻(史料編1)
- 吹田市教育委員会 1997『平成8年度埋蔵文化財緊急発掘調査概報』
- 吹田市教育委員会 1999『平成10年度埋蔵文化財緊急発掘調査概報』
- 吹田市教育委員会 2012『平成23(2011)年度埋蔵文化財緊急発掘調査概報』
- 摂津市史編さん委員会(編) 1977『摂津市史 本編』
- (た) 高槻市 1973『高槻市史 第3巻 史料編1』
- 高槻市 1977『高槻市史 第1巻 本編1』
- 高槻市 2019『山上遺跡群43』
- 高槻市 2021a『山上遺跡群45』
- 高槻市 2021b『芥川城跡総合調査報告書』
- 高槻市教育委員会 1984『摂津高槻城本丸跡調査報告書』
- 高槻市教育委員会 1991『高槻市文化財年報 昭和63・平成元年度』
- 高槻市教育委員会 1993『上田部遺跡の調査』『高槻市文化財年報 平成3年度』
- 高槻市教育委員会 1994a『山上遺跡群18』
- 高槻市教育委員会 1994b『高槻市文化財年報 平成4年度』
- 高槻市教育委員会 1995『山上遺跡群19』
- 高槻市教育委員会 1996『高槻市文化財年報 平成6年度』
- 高槻市教育委員会 1997『高槻市文化財年報 平成7年度』
- 高槻市教育委員会 1998『高槻市文化財年報 平成8年度』
- 高槻市教育委員会 2000『高槻市文化財年報 平成10年度』
- 高槻市教育委員会 2001a『高槻市文化財年報 平成11年度』
- 高槻市教育委員会 2001b『高槻城キリシタン墓地』
- 高槻市教育委員会 2002『高槻市文化財年報 平成12年度』
- 高槻市教育委員会 2003『高槻市文化財年報 平成13・14年度』
- 高槻市教育委員会 2011『山上遺跡群35』
- 高槻市教育委員会 2017『山上遺跡群41』
- 高槻市教育委員会 2018『山上遺跡群42』
- 高槻城跡調査会 1987『高槻城三ノ丸跡発掘調査概要報告書』
- 高山地区文化財調査団 2001『高山地区文化財調査報告書 豊能町高山地区』
- 通信協会大阪支部 1919『大阪市内及ビ接続町村番地入地図』 通信協会大阪支部
- 東京帝国大学文学部史料編纂掛(編) 1938『大日本史料』第10編之6
- 豊中市 1961『豊中市史』第1巻
- 豊中市 2005『新修 豊中市史 考古』第4巻
- 豊中市教育委員会 1996『豊中市埋蔵文化財発掘調査概要 平成7年度(1995年度)』
- 豊中市教育委員会 1999『豊中市埋蔵文化財発掘調査概要 平成10年度(1998年度)』
- 豊中市教育委員会 2000『豊中市埋蔵文化財発掘調査概要 平成11年度(1999年度)』
- 豊中市教育委員会 2001『豊中市埋蔵文化財発掘調査概要 平成12年度(2000年度)』
- 豊中市教育委員会 2005『大阪府指定史跡 春日大社南郷目代今西氏屋敷—現存する莊官屋敷にかかる第1~7次  
発掘調査成果の報告—』
- 豊中市教育委員会 2007『豊中市埋蔵文化財発掘調査概要 平成18年度(2006年度)』
- 豊中市教育委員会 2008『大阪府指定史跡 春日大社南郷目代今西氏屋敷総合調査報告書』

- 豊能町史編纂委員会 1987『豊能町史 本文編』 豊能町  
 豊能町教育委員会 2003『吉川井戸城発掘調査概要報告書』
- (な) 内務省地理局測量課 1890『大阪実測図』(清水靖夫(編) 1995『明治前期・昭和前期 大阪都市地図』柏書房 所収)  
 並河 永(編) 1735『摂津志』(正宗敦夫(編) 1930『日本古典全集 第三期 五畿内志 下巻』日本古典全集刊行会 所収)  
 能勢町史編纂委員会(編) 1975『能勢町史』第3巻 能勢町  
 能勢町史編纂委員会(編) 2001『能勢町史』第1巻 能勢町
- (は) 平野区誌編集委員会(編) 2005『平野区誌』創元社  
 平野区誌拾遺集編集委員会(編) 2011『平野区誌拾遺集』平野区誌刊行委員会  
 平野郷公益会(編) 1931『平野郷町誌』
- (ま) 三島村誌編纂委員会(編) 1990『三島村誌』  
 箕面市史編集委員会(編) 1964『箕面市史』第1巻  
 森 純一 1919『東能勢村誌』 東能勢村
- (や) 矢部朴斎 1984『新編桑下漫録』 南郷書房出版部(原著は1804年)  
 山田文造 1990『吉川村誌』(復刻版) 豊能町教育委員会
- (わ) 早稲田大学編輯部 1913『通俗日本全史』第7巻

#### 【論考等】

- (あ) 跡部 信 2014『豊臣秀吉と大坂城』 吉川弘文館  
 天野太郎 1996「大坂石山本願寺寺内町プランの復原に関する研究－位置比定と内部構成をめぐって」『人文地理』48巻2号  
 石川美咲 2015『柴島城』『図解近畿の城郭II』 戎光祥出版  
 石川美咲 2016『天王寺城』『図解近畿の城郭III』 戎光祥出版  
 伊藤 毅 1987『近世大坂成立史論』 生活史研究所  
 茨木市立文化財資料館(編) 2016『絵図で楽しむ茨木：江戸時代の村を巡る』展示図録  
 内田九州男 1989「秀吉の大坂建設」「よみがる中世2」 平凡社  
 大阪市立大学豊臣期大坂研究会(編) 2015『秀吉と大坂 城と城下町』 和泉書院  
 大阪府立近つ飛鳥博物館(編) 2016『歴史発掘おおさか2015：大阪府発掘調査最新情報』大阪府立近つ飛鳥博物館平成27年度冬季特別展  
 大阪歴史博物館・大阪文化財研究所(編) 2015『大坂 豊臣と徳川の時代－近世都市の考古学－』 高志書院  
 大澤研一 2019『大坂の都市史的研究』 思文閣出版  
 岡田 賢 2018「西福井遺跡の発掘調査についてー府立福井高等学校建設に伴う発掘調査の概要ー」『茨木市立文化財資料館館報』第3号  
 岡田保造 1977「摂津国人三宅氏の動向」『大阪成蹊女子短期大学研究紀要』第14号  
 岡寺 良 1999「摂津能勢郡の戦国期城館にみる築城・改修の画期」『国家形成期の考古学』大阪大学考古学研究室  
 岡本良一(編) 1985『日本名城集成 大坂城』 小学館
- (か) 笠谷和比古・黒田慶一 2015『豊臣大坂城 秀吉の築城・秀頼の平和・家康の攻略』 新潮社  
 金井 年 2006「摂津国吹田寺内町の復原的研究」「大乘院寺社雜事記研究論集」第3巻  
 川内眷三 2005「17世紀末：我孫子村絵図に見る依網池の水利特性について」『四天王寺国際仏教大学紀要』第40号  
 小林健太郎 1984「在町富田の形成と商工業」『高槻市史 第1巻・本編2』 高槻市  
 (さ) 佐藤 隆 2008「大坂本願寺推定に関する考古学資料－特別史跡大坂城跡における発掘調査成果から－」『大阪歴史博物館研究紀要』第7号  
 吹田市教育委員会(編) 2012『すいた歴史散歩増補版』  
 吹田市立博物館(編) 2008『わかりやすい吹田の歴史本文編』
- (た) 高田 徹(編) 2004『図説近畿中世城郭事典』城郭談話会  
 高槻市立しろあと歴史館(編) 2013『高山右近の生涯：発掘戦国武将伝』高槻市市制施行70周年・中核市移行10周年・しろあと歴史館開館10周年記念特別展、文化庁「発掘された日本列島2013展」地域展  
 高槻市立しろあと歴史館(編) 2014『大阪のお城がわかる本：戦国大阪の城：動乱の時代と天下統一図録』高槻市立しろあと歴史館平成26年秋季特別展  
 高橋成計 1989『豊能町の中世城郭』  
 田代克己・渡辺 武・石田善人(編) 1981『日本城郭大系』第12巻 新人物往来社

- 田村昌弘 1989 「満久城の館の位置について」『満久谷遺跡』奈良大学考古学研究室調査報告書 13
- 田沼 睦 1966 「莊園制の解体(一) - 垂水西牧における社家・国人・村落 - 」『日本中世村落史の研究』吉川弘文館
- 趙 哲済 1986 「茶臼山古墳の発掘調査」『葦火』4号 大阪市文化財協会
- (な) 内務省地理局測量課 1890『大阪実測図』(清水靖夫(編) 1995『明治前期・昭和前期 大阪都市地図』柏書房 所収)
- 中井 均(監修)・城郭談話会(編) 2014『図解近畿の城郭Ⅰ』戎光祥出版
- 中井 均(監修)・城郭談話会(編) 2015『図解近畿の城郭Ⅱ』戎光祥出版
- 中井 均(監修)・城郭談話会(編) 2016『図解近畿の城郭Ⅲ』戎光祥出版
- 中井 均(監修)・城郭談話会(編) 2017『図解近畿の城郭Ⅳ』戎光祥出版
- 中井 均(監修)・城郭談話会(編) 2018『図解近畿の城郭Ⅴ』戎光祥出版
- 永島福太郎 1953 「中世阪神地方の発達 - 奈良寺領を中心として - 」『関西学院史学Ⅱ』関西学院大学史学会
- 中谷一正 1967 「多田源氏大町氏の研究」私家版
- 中西顯三(編) 2012『「高代寺日記」 - 清和源氏と塩川氏の謎に迫る』
- 中西裕樹 1997 「摂津国能勢郡西郷・東郷における中世城館構成 - 築城主体の性格と「小規模城館」 - 」『中世城郭研究』11、中世城郭研究会
- 中西裕樹 2012 「松永久秀の出自と高槻」『しろあとだより5』高槻市立しろあと歴史館
- 中西裕樹 2014 「明治時代の『東摂城図誌』と西天川の高槻城」『しろあとだより9』高槻市立しろあと歴史館
- 中西裕樹 2015『大阪府中世城郭事典』図説日本の城郭シリーズ② 戻光祥出版
- 中西裕樹 2020 「芥川山城と芥川城 - 初出の典拠と築城年代について - 」『しろあとだより21』高槻市立しろあと歴史館
- 中村博司(編) 2007『よみがえる茨木城』清文堂出版
- 中村博司 2008『天下統一の城 大坂城』新泉社
- 仁木宏 1994a 「大坂石山寺内町の復元的考察」「大坂と周辺諸都市の研究」清文堂
- 仁木宏 1994b 「大坂石山寺内町の空間構造」「古代・中世の政治と文化」思文閣出版
- 仁木宏・福島克彦(編) 2015『近畿の名城を歩く 大阪・兵庫・和歌山編』吉川弘文館
- 西垣晴次 1966 「中世村落における在地寺社」『日本中世村落史の研究』吉川弘文館
- (は) 平凡社地方資料センター(編) 1986『日本歴史地名大系 第28巻 大阪府の地名Ⅰ・Ⅱ』平凡社
- 福島克彦 2000 「戦国織豊期富田集落と「寺内」」「寺内町研究5」貝塚寺内町歴史研究会
- 福留照尚 1998 「十三・十四世紀の垂水西牧梗坂郷」「島根大学法文学部紀要社会システム学科編」第2号 島根大学
- 藤岡通夫・桜井成広(編) 1960『日本城郭全集 第6巻 近畿編』日本城郭協会
- 藤田 実 1983 「明治期地籍図にみる桑津環濠集落址」『大阪の歴史』9
- 藤田 実 1996 「大坂石山本願寺寺内の町割」『大阪の歴史』47号
- (ま) 前田豊邦 1989 「地籍図からみた大阪市域北部の城郭址について」『大阪市文化財年報 昭和62年度』大阪市教育委員会文化財保護課
- 松岡 進 2015『図解 近畿の城郭Ⅱ』城郭談話会編
- 豆谷浩之 1999 「平野環濠都市遺跡における地割の転換をめぐって」『大阪市文化財協会研究紀要』第2号
- 豆谷浩之・南 秀雄 2015 「豊臣時代の大坂城下町」「秀吉と大坂城と城下町」和泉書院
- 宮上茂隆 1967 「豊臣秀吉築造大坂城の復元的考察」『建築史研究』37
- 三善貞司 1986 「大阪史蹟辞典」清文堂出版
- 村田修三 2002 「天下統一と城」
- 村田修三(編) 1987『図説中世城郭事典』第3巻 新人物往来社
- 村山朔郎 1984 「大坂城の地盤調査と地下石垣の発見」『大阪城天守閣紀要』12
- 森 毅 2005 「平野環濠都市遺跡の成立」『平野区誌』創元社
- 森本 弐 1978 「摂津 地黄城」城と陣屋シリーズ124号 日本古城友の会
- (や) 八上城研究会 2000 「戦国・織豊期城郭論 丹波国八上城遺跡群に関する総合研究」和泉書院
- (わ) 渡辺 武 1983 「図説 再見大阪城」大阪都市協会
- 亘 節 1976 「吹田志稿」



摂津における中世城館の調査

発 行 大阪府教育委員会  
〒 540-8571 大阪市中央区大手前二丁目  
TEL 06-6941-0351 (代表)  
発行日 令和4年3月31日  
印 刷 株式会社しんこう